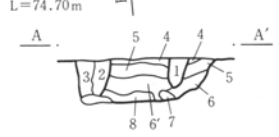
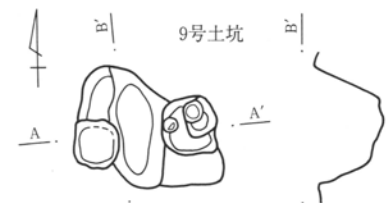
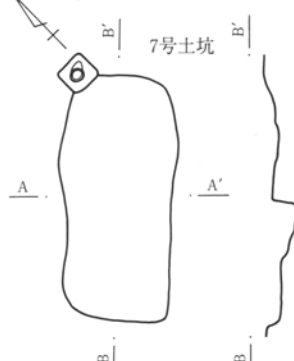
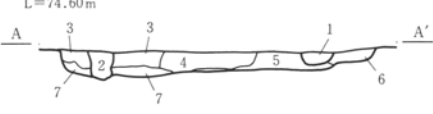
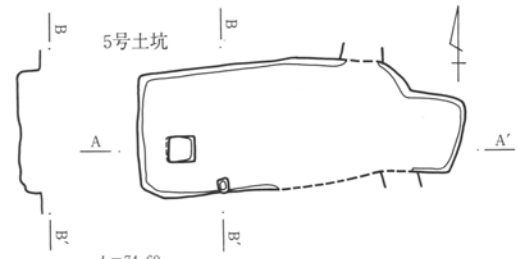


- (972号ピット覆土)
 1: 褐灰色粘質土: 橙色粘質土と黄灰色砂質土入る
 (969号ピット覆土)
 2: As-Bに酸化鉄混褐灰色粘質土と橙色粘質土入る
 3: 橙色・褐灰色粘質土の混土: 灰黄色粘質土混入
 (9号土坑覆土)
 4: 褐灰色砂質土と橙色粘質土の混土
 5: 褐灰色・橙色粘質土とAs-B混灰色砂質土の混土
 6: 灰黄褐色・褐灰色粘質土の混土
 6': 6層土に灰色砂質土入る
 7: 暗灰色砂質土に6層土混入
 8: 灰黄褐色砂質土に暗灰色砂質土混入

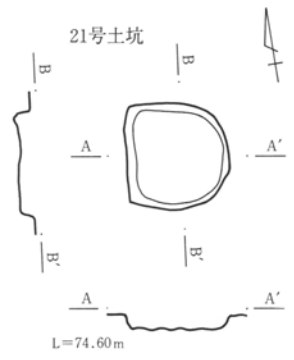
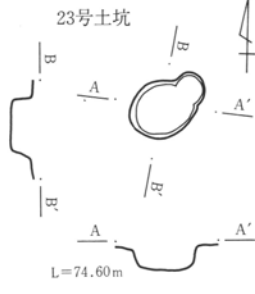


- (10号土坑覆土)
 1: As-B混褐灰色砂質土:
 明黄褐色粘質土若干混入
 2: 黒褐色土: 明黄褐色粘
 質土含む
 3: 黄灰色砂質土

- (16号溝覆土)
 1: 灰白色砂質土: 5層土混入しAs-A含む
 (664号ピット覆土)
 2: 黄灰色砂質土: 軽石と3・4層土混入
 (5号土坑覆土)
 3: 暗灰色砂質土: 暗灰色・橙色粘質土等混入
 4: 褐灰砂質土と明褐色砂質土の混土
 5: 黄灰色砂質土: におい黄橙色・明褐色粘質土
 と若干の炭化物混入
 6: 灰色砂質土: 5層土と明褐色砂質土混入
 7: 組成は3層に似るが暗灰色砂質土主体

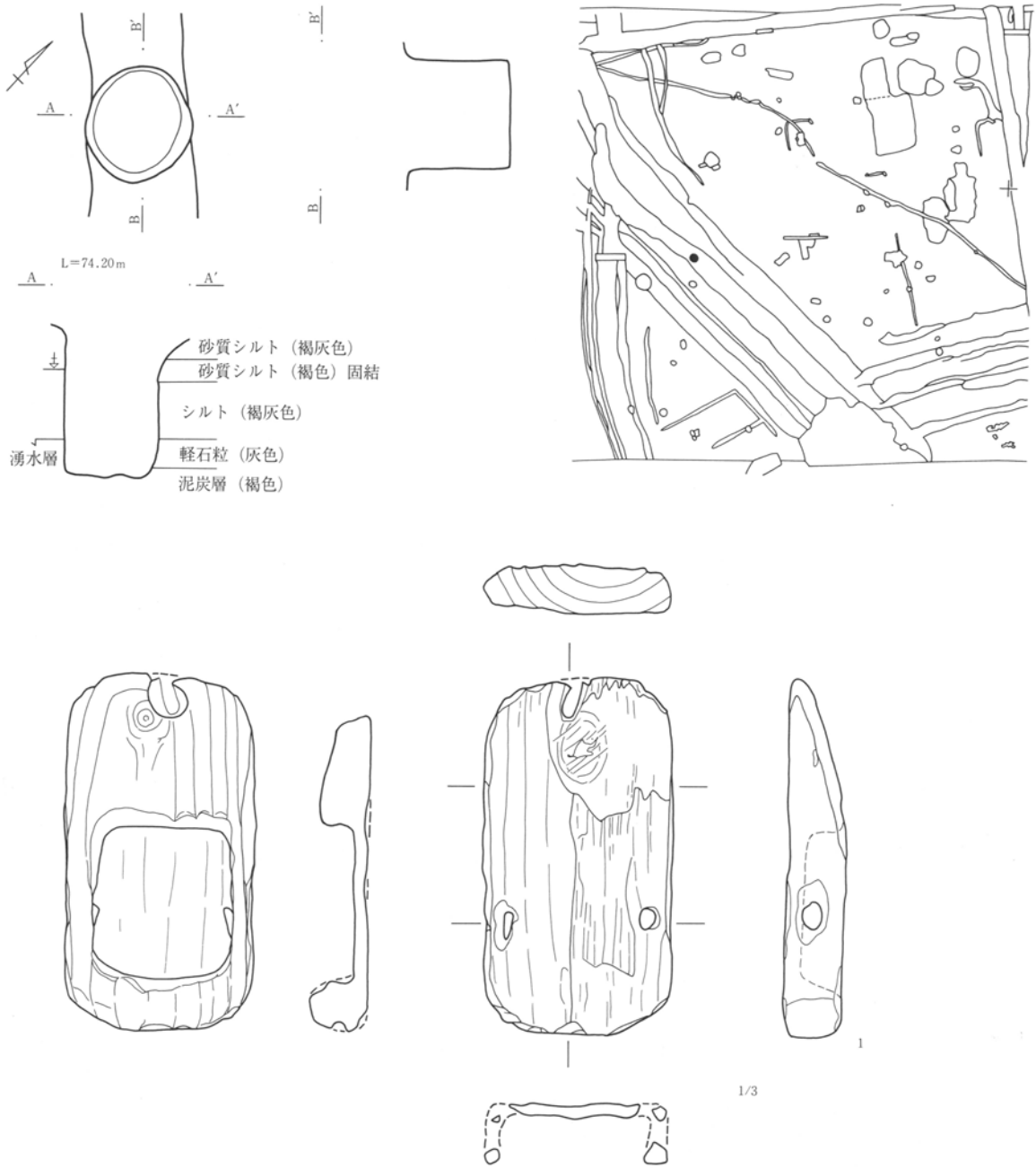


- (7号土坑覆土)
 1: 褐灰色砂質土: 多量のAs-Bと層上位に橙色
 土、層中・下位に酸化鉄・灰らしきもの入る
 2: 酸化鉄混灰色粘質土: 地山と1層土の混土



第169図 3区1面屋敷遺構中南部の土坑群

第3章 発見された遺構と遺物



第170図 3-1-1号井戸及び出土遺物

(14) 3-1-1号井戸 (第170図, 図版71・94)

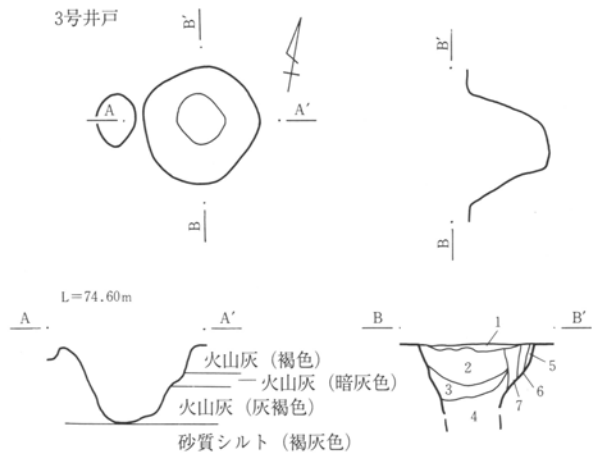
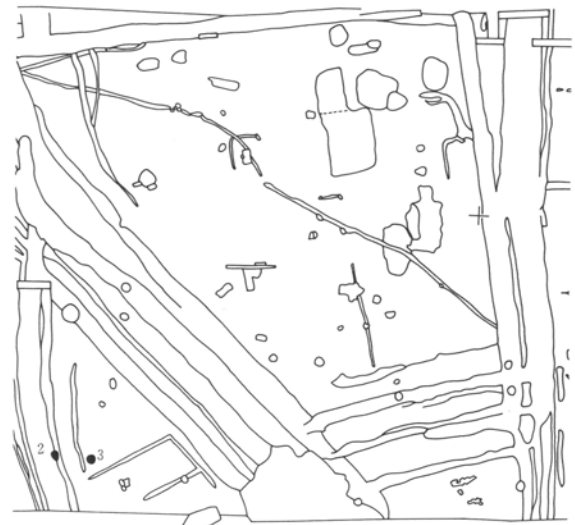
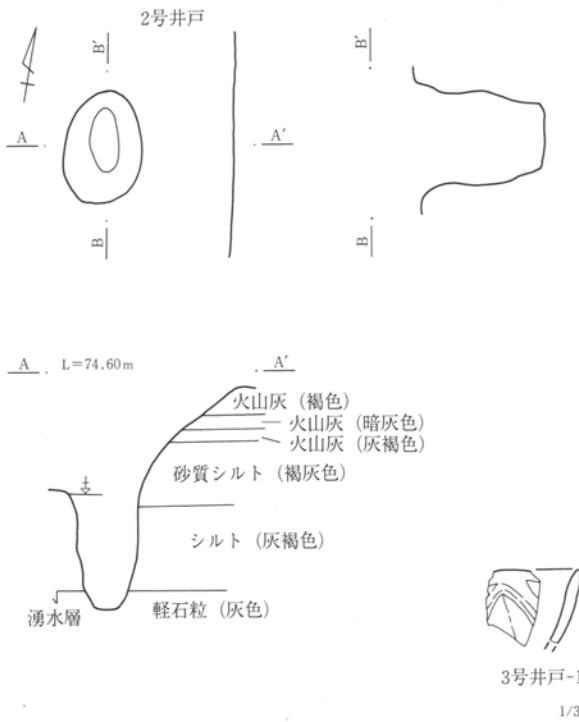
概要 本井戸は3区西部中程に在って3-1-1号溝の調査に伴って発見、調査された。

本井戸からは下駄(1)が出土している。覆土の記録も残せなかったので時期は特定できなかったが、古く中世～近世の所産として把握している。

本井戸にはアグリは見られず、にじみ出る程度の湧水が確認された。貯水量は約600ℓである。

規模 径102×94cm 深さ(残存深さ)130cm

構造 本井戸は上位を1号溝に切られて全体の状態はつまびらかではないが、概ね円形のプランを呈している。掘削形態はきれいな筒形を呈している。



第171図 3-1-2・3号井戸及び出土遺物

(15) 3-1-2号井戸 (第171図. 図版71)

概要 南北に向いて掘ったと判断される本井戸は、3-1-4号溝の調査中に同溝東壁に調査された。

本井戸からの出土遺物は無く、4号溝との新旧も確認できず時期特定はできなかったが、覆土から中世以降の所産と判断している。

アグリはなく、にじみ出る程度の湧水で貯水したようで、貯水量は300ℓ程になる。

規模 径90×60cm 深さ104cm

構造 本井戸は上位西半が失われているが、全体の状況はつまびらかでないが、全体の形状は朝顔形になるものと判断される。

プランは概ね南北を主軸とする楕円形を呈する。壁面下位でやや膨らみを持つが、底面は平底である。

(3号井戸覆土)

- 1: As-B 含む暗灰色砂質土: 2層土の小ブロック混入
- 2: 黄灰色粘質土・灰白色・黒褐色砂質土、褐灰色・明黄褐色土ブロックの混土
- 3: 黄灰色粘質土: 酸化鉄混入黒褐色土若干混入。崩れやすい
- 4: 暗灰色粘質土: 酸化鉄及び褐灰色土入る
- 5: 黒褐色砂質土: 褐灰色土入る。やや締まりに欠ける
- 6: 2層土に似るがブロックの径小さい
- 7: 3層土と4層土の混土

(16) 3-1-3号井戸 (第171図. 図版71・94)

概要 本井戸は3区南西部、3-1-9号溝の東側に調査された浅い井戸であるが、底面が湧水層に達しておらず土坑の可能性も残される。

本井戸からは龍泉窯系の青磁碗片(1)が出土し、覆土の状況と併せて中世の所産と判断される。

規模 径92×90cm 深さ64cm

構造 本井戸は隅丸方形プランを呈し、丸底の掘削形態を呈する。

第3章 発見された遺構と遺物

(17) 3-1-4号井戸 (第172図, 図版71・94)

概要 本井戸は3区西部中程、3-1-3・4号溝交点南近くに位置する。

本井戸からはヒノキを木地とする漆碗(1)が出土しているが、覆土の状況等から概ね中世の所産と判断している。

確認面下1.2~1.5mにアグリを有し、1.5~1.8mの軽石層(As-YP)が湧水層である。湧水量はにじみ出す程度だったが、貯水量は約1tにもなる。

規模 径202×188cm 深さ195cm

構造 本井戸は円形に近いプランを有する。

掘削形態は緩やかな朝顔形を呈するが、壁面下位はアグリで窪み、底面は平底である。

(18) 3-1-5号井戸 (第172図, 図版71)

概要 本井戸は3区西部中程、3-1-3号溝の調査に伴って確認、調査された。

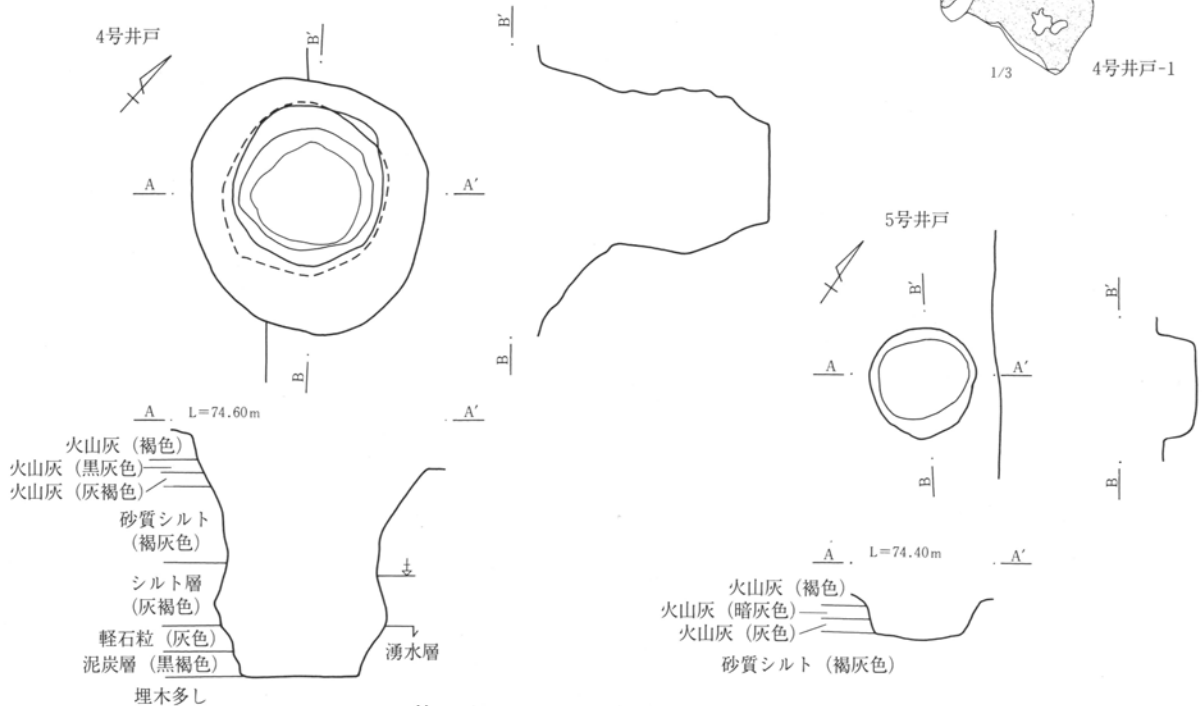
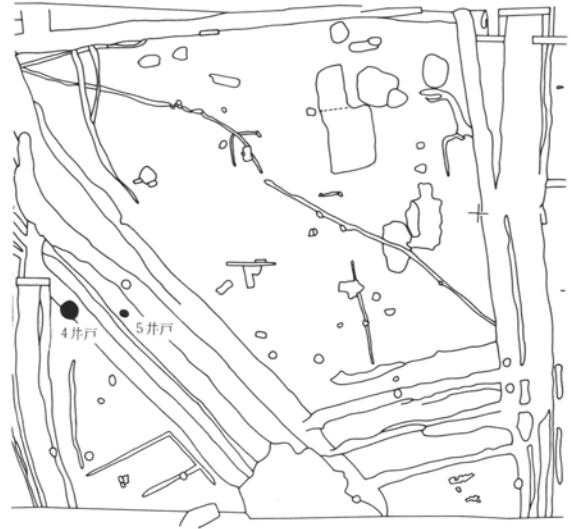
出土遺物は無く時期特定には至らなかったが、概ね中世以降の所産と判断している。

また、本井戸は3-1-3号井戸同様浅く、土坑であった可能性を有する。

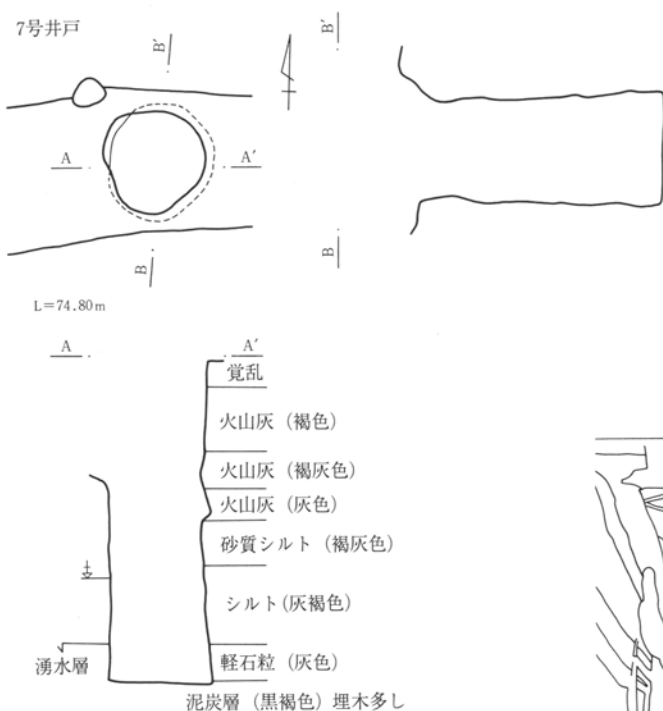
規模 径86×84cm 深さ30cm

構造 本井戸は円形プランを呈する。

上位を失っていたので全体の状況は不明であるが、筒状の掘削形態を見せ、底面は平底である。



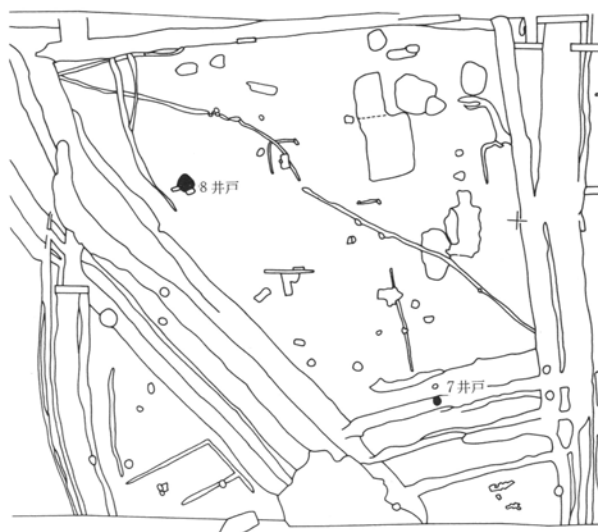
第172図 3-1-4・5号井戸及び出土遺物



規模 径172×165cm 深さ165cm

構造 本井戸は概ね円形のプランを呈している。

比較的大きな形態を有する井戸であったが、掘削形態は全体として朝顔形を呈している。下位は径78×77cmの桶状のもので、掘削位置は上場に対し北西に偏っている。



(19) 3-1-7号井戸 (第173図. 図版72)

概要 本井戸は3区南東部に在り、3-1-14号溝の調査に伴って発見、調査された。

出土遺物はなく14号溝との新旧も特定できなかったが、覆土及び以降確認の状況等から概ね中世の所産と判断されるものである。

本井戸の底面近くは自然堆積土で覆われていたが、上位は人為的に埋め戻されている。確認面下1.7~2.0mに湧水層がある。湧水はにじみ出る程度の水量であったが、貯水量は450~500ℓ程になる。

規模 径80×80cm 深さ210cm

構造 本井戸は上位を失っているため全体の形状はつまびらかでないが、概ね円形のプランを呈する。

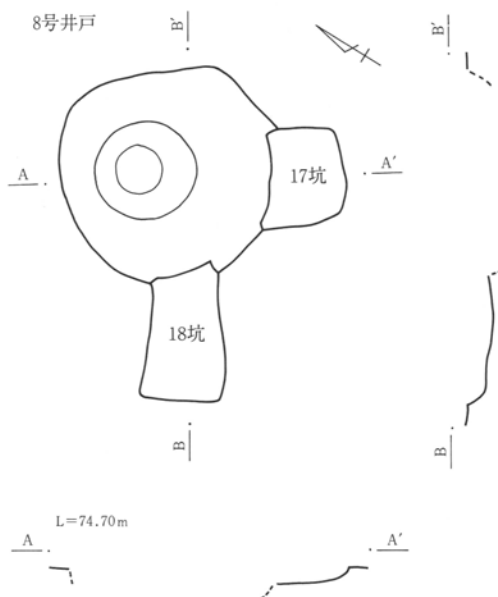
掘削形態は筒形で、ややフラスコ状を呈している。

(20) 3-1-8号井戸 (第173図. 図版72)

概要 本井戸は3区北西部に所在し、17・18号土坑と重複するが新旧は特定できなかった。

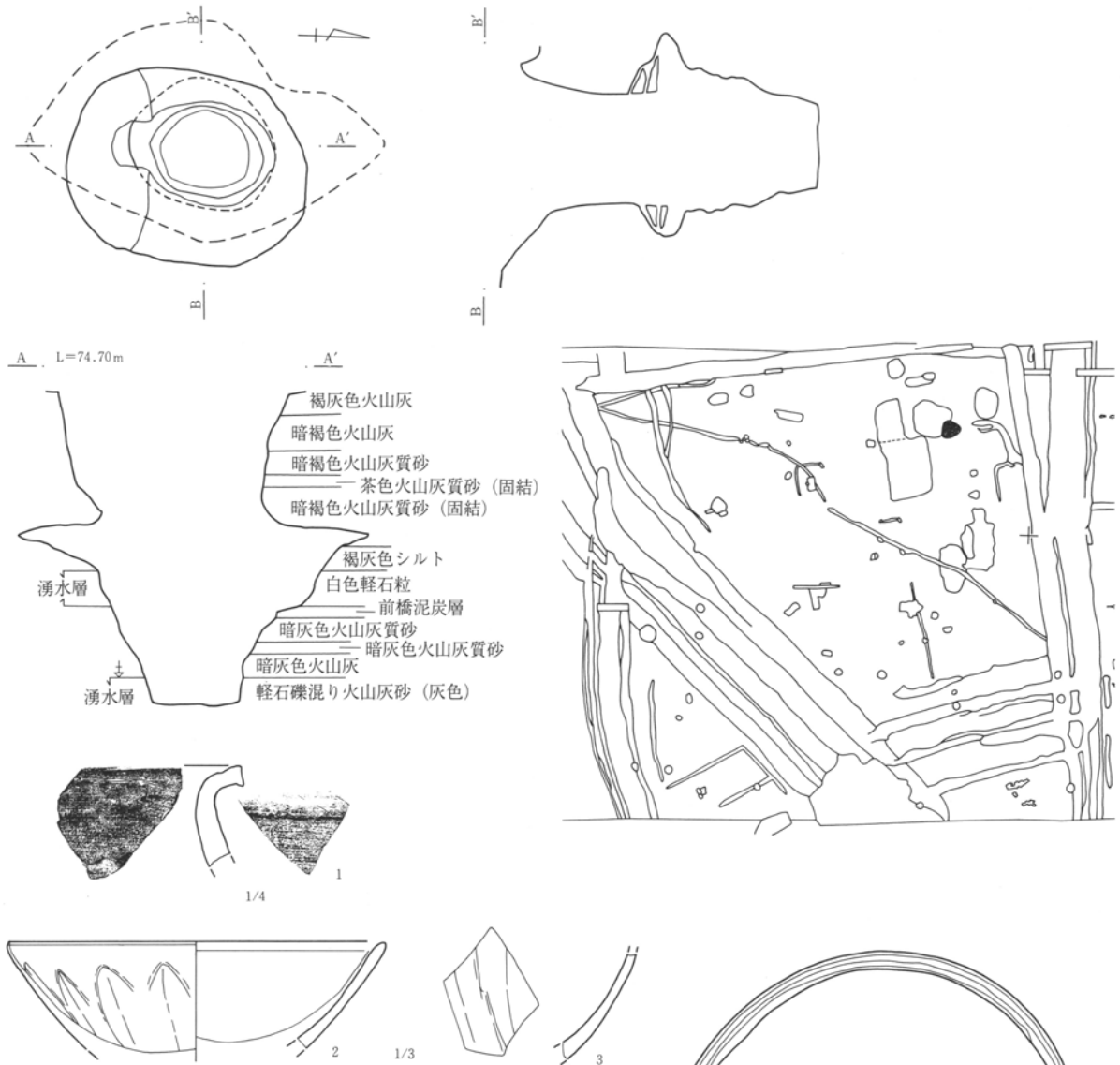
出土遺物はなく時期特定には至らなかったが、覆土の状況等から概ね中世の所産と判断している。

湧水層の所見については記録できていない。



第173図 3-1-7・8号井戸

第3章 発見された遺構と遺物



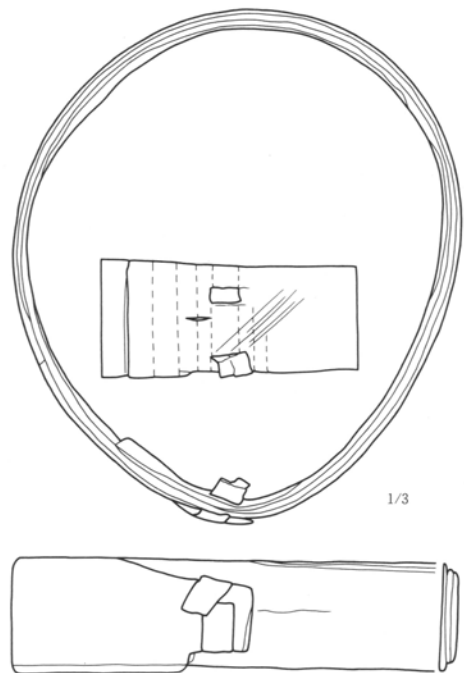
第174図 3-1-9号井戸及び出土遺物

(21) 3-1-9号井戸 (第174図, 図版72・94・95)

概要 本井戸は屋敷遺構北東部に位置する。

下位層から遺物の出土があり、産地不明の焼締陶器甕片(1)や龍泉窯系青磁碗片(2,3)、曲物の側(4)が見られた。また南側で馬の頭蓋骨が出土したが、北頭位西向で横倒しの状態にあること、1体分の頭蓋骨のみの出土であることから意図的に置かれたものと思慮される。また底部付近では藁を編んだ土留め様のものの出土も見られた。これらと覆土の状況から本井戸は中世の所産と判断される。

本井戸は中位にアグリを有し、アグリの上面では



タナ落ちもあって大きく抉れている。また確認面下1.5~1.8mの軽石層(As-YP)と2.4m以下の軽石混じりの火山灰砂層が湧水層となっている。調査時点での湧水量はさして多くなかったが、アグリの形成から貯水量はかなりあったことが窺われる。

また、本井戸は後述する掘削形態からハネツルベを伴う構造であった可能性が考慮されるが、該当する杭の打設等の痕跡は確認できなかった。

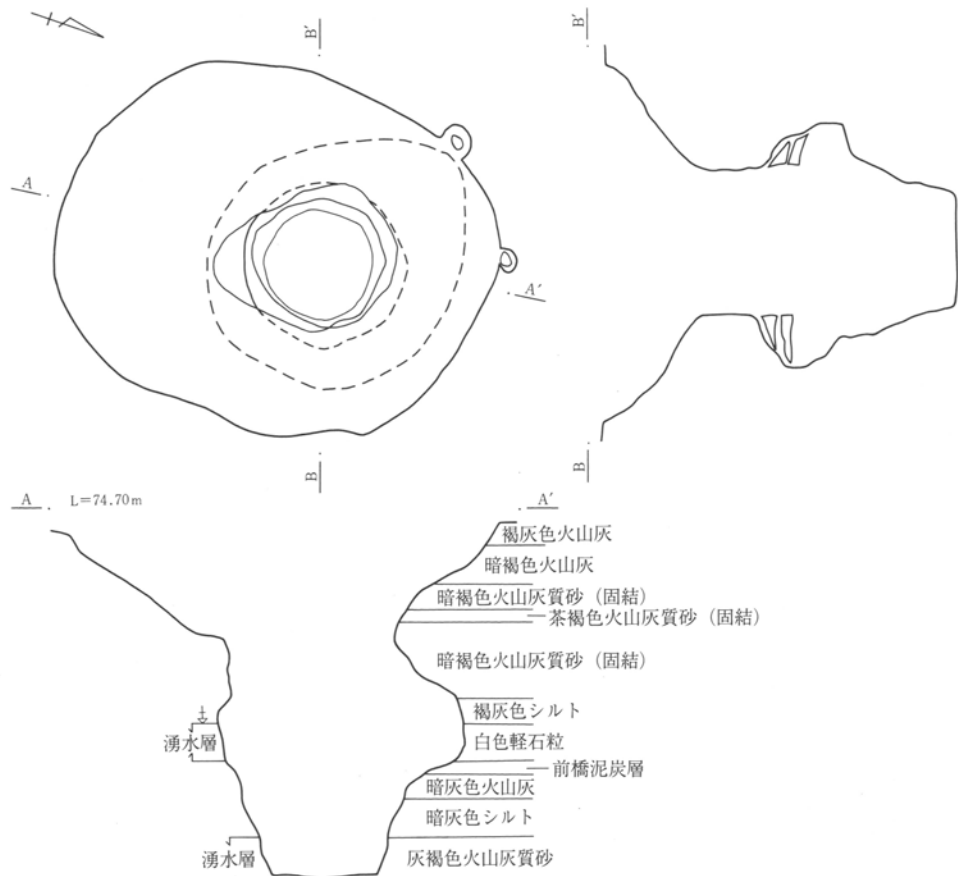
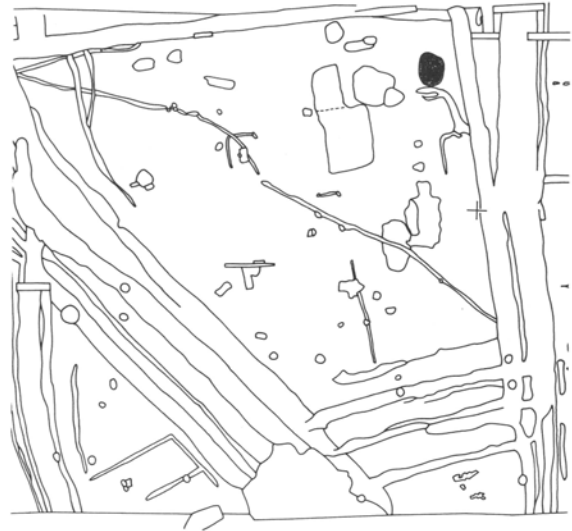
尚、確認面下2m以下は自然堆積層であったが、それより上は人為的に埋め戻されている。

規模 径203×160cm 深さ270cm

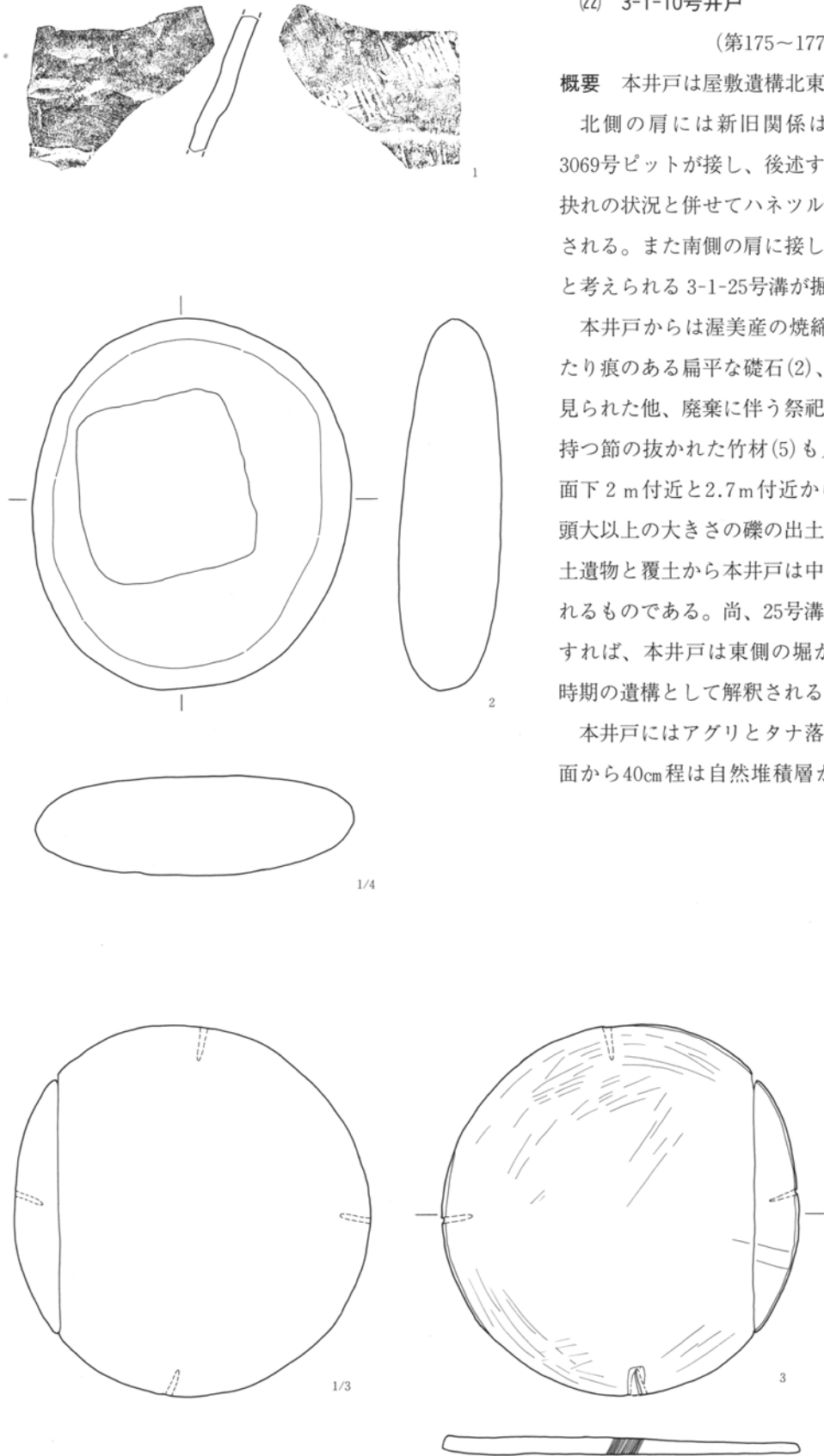
構造 本井戸は南北に主軸を持つ楕円形のプランを呈する。

掘削形態は基本的には筒形だが、上位は開き、中位はアグリとタナ落ちで大きく広がる箇所があり、下位はその影響で桶形の形状を見せている。

また南側壁面には幅40cm奥行き33cm高さ100cm程を測る人為的に施された抉れが見られる。



第175図 3-1-10号井戸



第176図 3-1-10号井戸出土遺物（その1）

(2) 3-1-10号井戸

(第175～177図. 図版72・94～96)

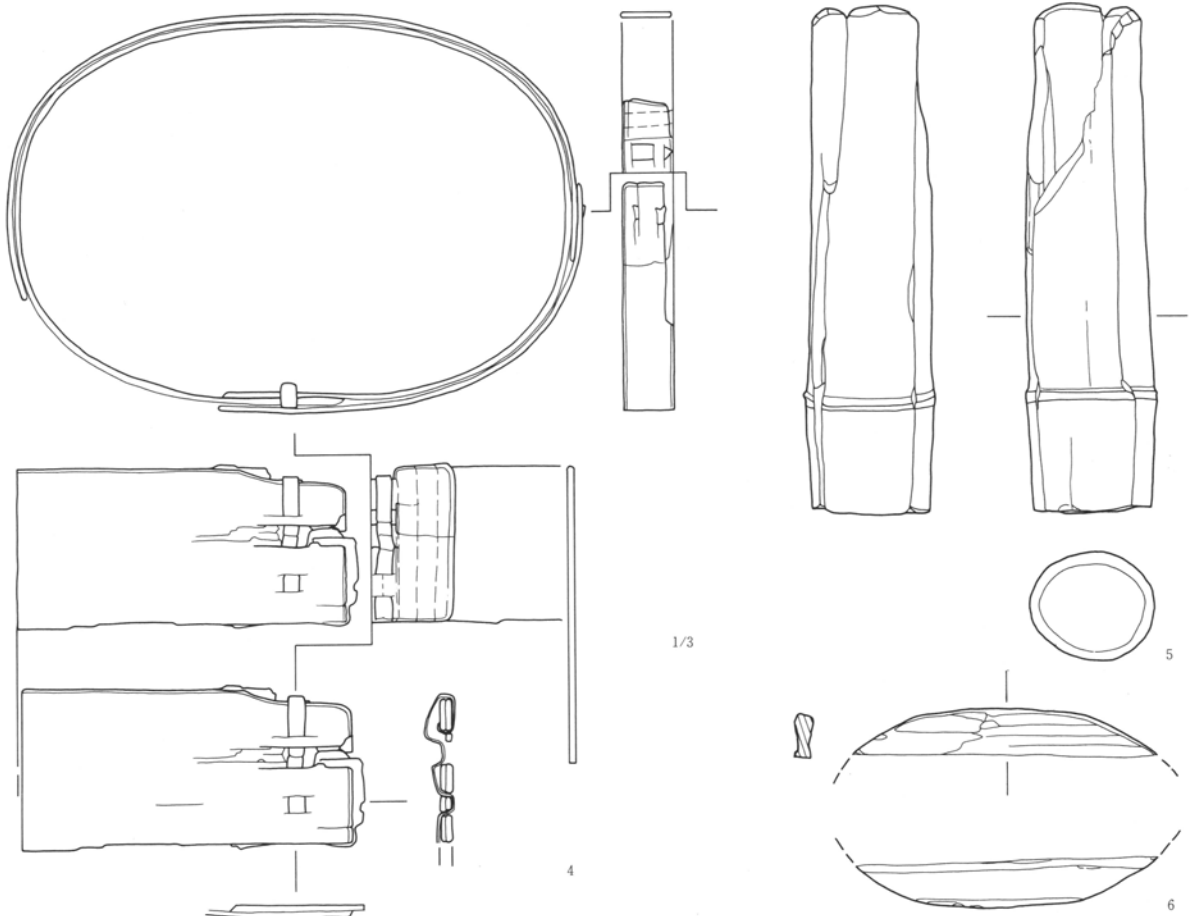
概要 本井戸は屋敷遺構北東隅部に所在する。

北側の肩には新旧関係は不特定の3-1-3068・3069号ピットが接し、後述する南南東壁に見られる抉れの状況と併せてハネツルベ設置の可能性が考慮される。また南側の肩に接して本井戸に伴う排水溝と考えられる3-1-25号溝が掘削されている。

本井戸からは渥美産の焼締陶器甕片(1)や柱の当たり痕のある扁平な礎石(2)、曲物(3,4,6)の出土が見られた他、廃棄に伴う祭祀に使用された可能性を持つ節の抜かれた竹材(5)も見られた。また、確認面下2m付近と2.7m付近から土器片や50個程の人頭大以上の大きさの礫の出土があった。こうした出土遺物と覆土から本井戸は中世の所産として把握されるものである。尚、25号溝が本井戸に伴うものとするれば、本井戸は東側の堀が3-1-27号溝であった時期の遺構として解釈される。

本井戸にはアグリとタナ落ちが見られた。また底面から40cm程は自然堆積層があるが、全体的には人為的に埋め戻されている。

湧水層は確認面から1.6～1.9mの軽石層(As-YP)と2.5m以下に在る細砂層の2層で、何れもにじみ出る程度の湧水量であったが、アグリのあることから水量はある程度確保されていたことが窺われる。尚、貯溜水量は1.8t程にもなる。



第177図 3-1-10号井戸出土遺物（その2）

規模 径340×280cm 深さ265cm

構造 本井戸は南北を主軸とする楕円形プランを呈するが、下位では径122×110cm程の円形プランを呈する。

掘削形態は上位は朝顔形、下位は筒形を呈する地山井筒朝顔型の井戸と推定される。中位やや下寄りにアグリとタナ落ちがあり厚み1m、奥行き60cm程に大きく抉れている。また南南東の壁面には、3-1-9号井戸程ではないが、幅75cm、奥行き24cm程の抉れが見られる。

(2) 3-1-11号井戸（第178図、図版73・95）

概要 本井戸は屋敷遺構東堀である3-1-26号溝掘削時に確認、調査された。

出土遺物も無く時期特定には至らなかったが、覆土の状況と、時期は異なるが後述する3-1-12・13

号井戸と併せて屋敷遺構東側の堀・溝のラインに沿うことから屋敷遺構に伴う時期の所産と判断している。尚、井戸の掘削所見から、本井戸は26号溝灰絶後暫く経ってから掘削されたものと判断される。

埋土は底面より80cm程は自然堆積であるが、その上は人為的に埋め戻されている。

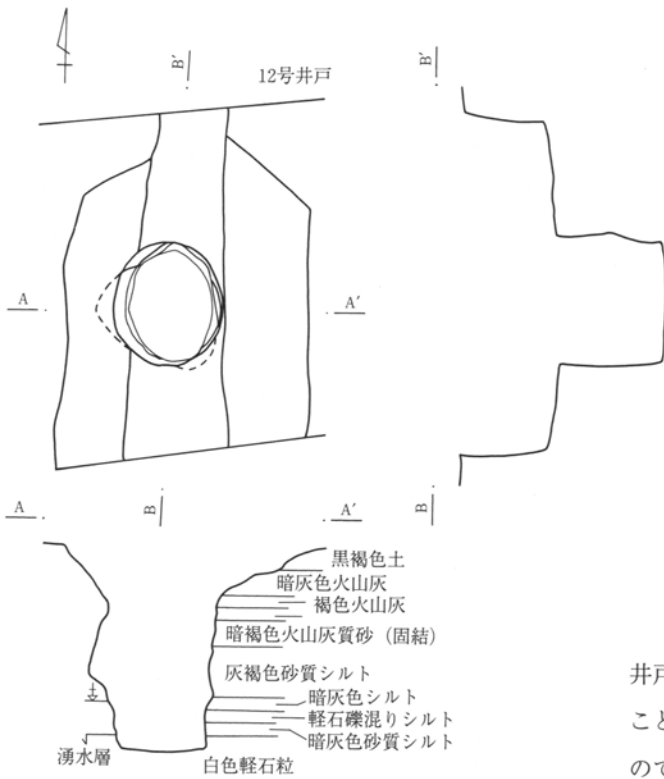
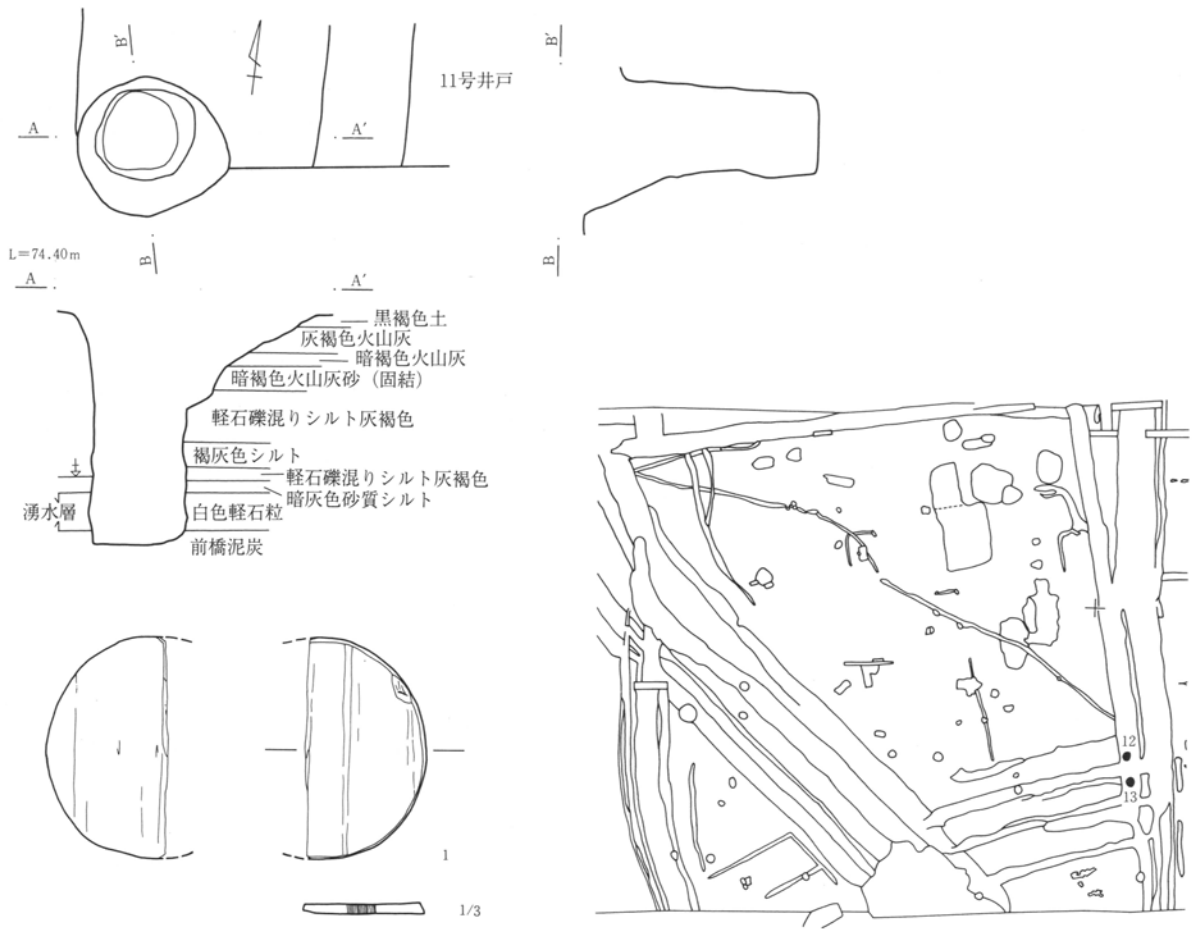
確認面下1.4～1.7mの軽石層（As-YP）湧水層である。水量はにじみ出す程度だったが、貯水量は約250ℓである。

規模 径120×110cm 深さ180cm

構造 本井戸は横断面形としては隅丸方形を呈するが、確認面付近に対し下位は45°程傾くき軸の違がある。

掘削形態は上位で開き、中位以下は下位で若干膨らみを有するが、全体としては筒状を呈する地山井筒朝顔形である。

第3章 発見された遺構と遺物



第178図 3-1-11・12号井戸及び出土遺物

(24) 3-1-12号井戸

(第178図、図版73)

概要 本井戸も3-1-11号井戸同様3-1-26号溝掘削時に確認されている。

出土遺物も無く時期特定には至らなかったが、井戸の掘削所見によると埋土のうち確認面下1.1~1.3mに在った腐食した根を多く含む灰緑色泥質土が堀底の自然堆積層の沈下したものと判断されるため、本井戸の方が26号堀より古いものと判断している。尚、時期は異なるものもあるが、3-1-11・13号

井戸と共に東側を画する溝に沿って掘削されていることから屋敷遺構に伴う時期の所産と判断されるものである。

埋土は底面より30cm程は本井戸の自然堆積層、



その上20cmは上述の26号溝の自然堆積層で、その上は人為的に埋め戻されている。

確認面下1.5の軽石層(As-YP)が湧水層である。やはり水量はにじみ出す程度だったが、アグリが見られることから安定した水量はあったものと思慮される。貯水量は200ℓ程であった。

規模 径120×110cm 深さ180cm

構造 本井戸は上位が壊されていて全体の形状はつまびらかでないが、残存する下部についてみるとプランは南北に主軸を取る楕円形を呈する。

掘削形態は筒形を呈するが、残存部中位で奥行き12cm程のアグリがある。

(25) 3-1-13号井戸 (第179図. 図版73)

概要 本井戸は屋敷遺構南東、南側郭内に位置する。

3-1-29号溝の西肩に重複する。掘削所見から埋土は底面より20cm程は自然堆積層、その上に1m程の人為的埋土があり、20cmの自然埋土が乗ることを確認しているが、中者が29号溝の覆土と解釈されるため、本井戸の方が29号溝より古いものと判断される。

出土遺物も無く時期特定には至らなかったが、上述の所見と掘削位置から屋敷遺構に伴う時期の所産と判断される。

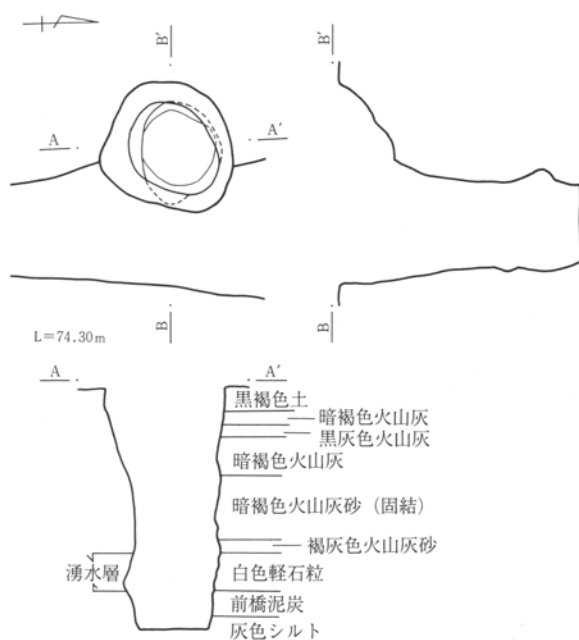
確認面下1.3~1.6mの軽石層(As-YP)が湧水層である。湧水量はにじみ出す程度だったが、アグリ

が見られることからある程度の水量はあったものと思慮される。貯水量は170ℓ程であった。

規模 径100×97cm 深さ190cm

構造 本井戸は北東-南西方向に主軸を取る楕円形プランを呈する。

掘削形態は上位が開き中・下位が筒状を呈する井筒朝顔型である。湧水層部分で奥行き10cm程のアグリが見られる。



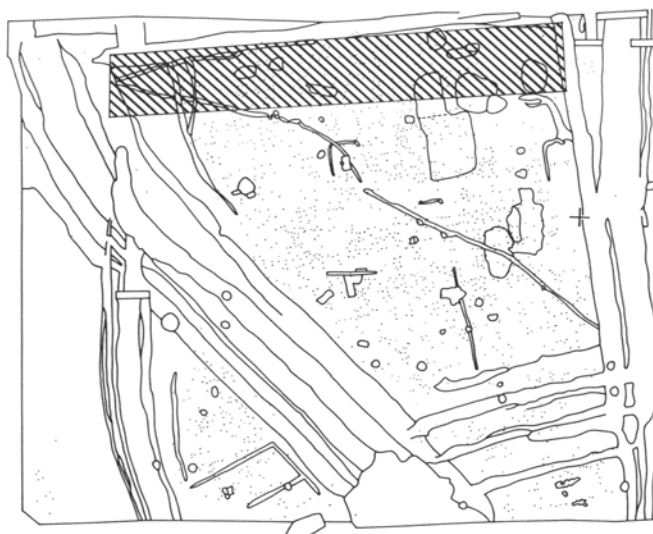
第179図 3-1-13号井戸

6. 屋敷遺構内部の柱穴群

(第180～192図、図版74～76・95～99)

概要 屋敷遺構の内部、凡そ40m四方の範囲には集中的に分布する2,726基のピットを確認した。これらのピットにはその規模から推して小型土坑や杭の打設痕も含まれるものと判断されるが、大半は柱穴として把握しうるものであった。ピット群に対しては詳細な調査を行いたかったのではあるが、調査期間等との関連から殆どのピットは丸掘りせざるを得ず、今日的水準に照らせば十分な記録化を行うことができていない。

また当然行うべきピット群からの建物の抽出作業



第180図の(1) 3区1面屋敷遺構北部北側の柱穴群

についても、若干の作業を試みてはみたものの最高12基のピットが重複するなど切り合い関係がかなり

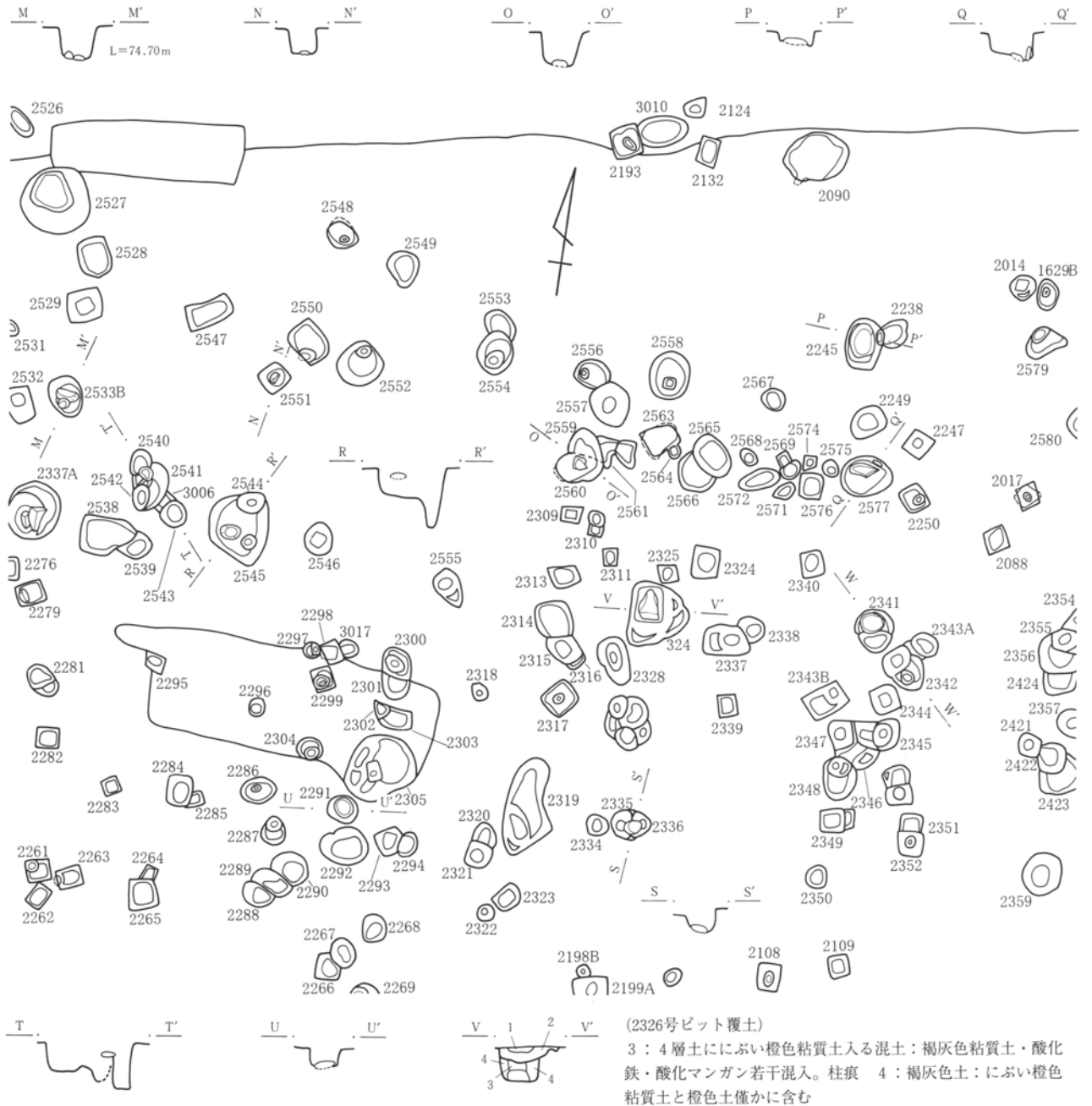
複雑な状態であった上に、筆者の能力不足と時間的制約もあり、想定した建物の正確さに確信が持てな

第3章 発見された遺構と遺物

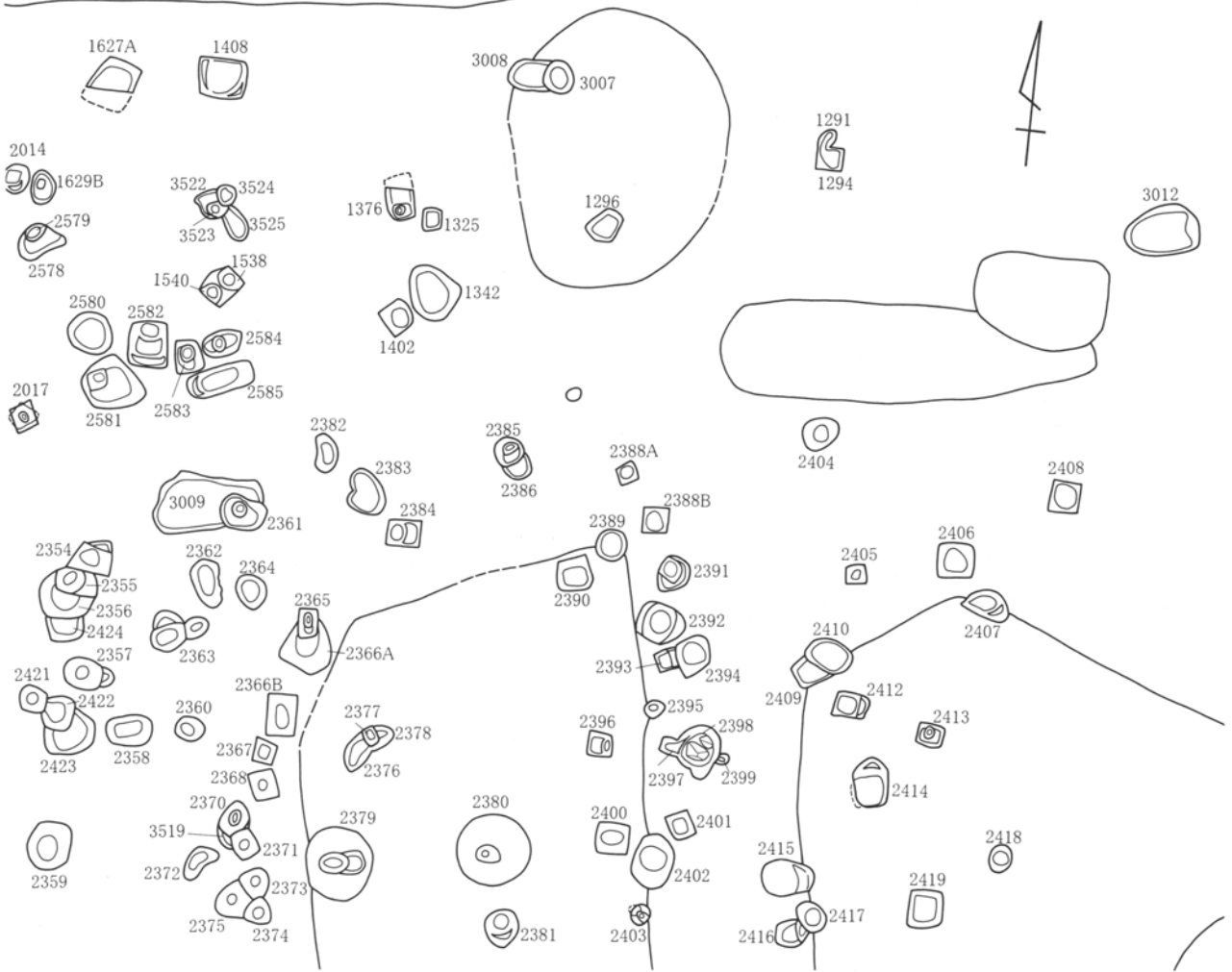
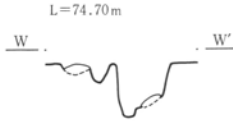
かったため、現場での抽出作業を断念したのである。尚、ピットからの建物抽出については、後日、宮本長二郎先生のお手を煩わせて72棟の建物及び15の柱穴列を取り出して載くことができた。取り出して載いたこれらの建物等については第5章(319頁)に述べることとするが、本項ではピットそのものの状況についてのみ記載することとしたい。

尚、遺構確認段階で確認することのできたピットの新旧関係及び重複箇所におけるピットの形状につ

いては、破線等を以って平面図に書き加えている。また方形プランのピットについては円形プランのピットとの識別をしやすいように、平面図上若干その形状を強調して記載している。その他、現在一部資料の所在確認できなくなっているため、Y軸300~310ライン付近の柱穴の調査時点での番号が特定できなくなっており、調査段階で登録漏れとなっていたピットの番号と併せて3000番代の番号で付け



第180図の(3) 3区1面屋敷遺構北部北側の柱穴群



(2327号ピット覆土)

1：褐色土と2層の混土 2：As-B混褐灰色砂質土：
にぶい橙色・褐灰色粘質土と橙色土含む

第180図の(4) 3区1面屋敷遺構北部北側の柱穴群及び出土遺物

直したため、一部出土遺物の出土ピットの特定が
できなくなっている。

第3章 発見された遺構と遺物

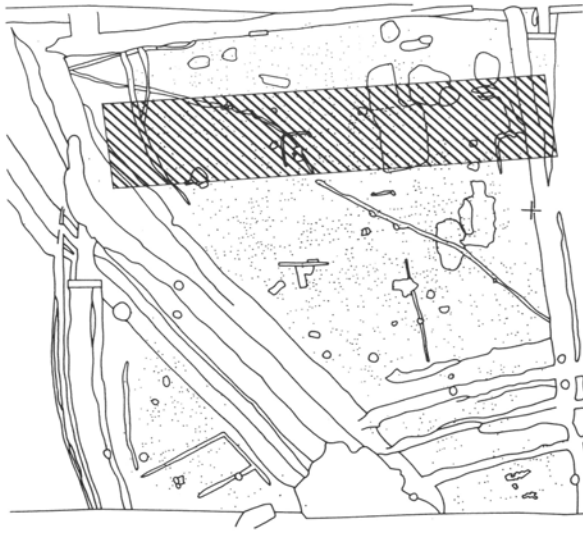
ピットの形状及び規模 個々のピットの規模等については403～418頁の第53～68表に記した。以下には全体的な傾向について述べることとする。

屋敷遺構内に発見されたピットのうち、そのプランを確認することのできたものは2,675基を数えた。これらのピットのプランを観察すると、大きくは円形のものゝ方形のものに大別でき、このうち1,415基が円形、1,260基が方形を呈するものとして認識することができた。パーセンテージでみると前者が52.9%、後者が47.1%で、若干円形のものが多いがその数量はほぼ均衡している。

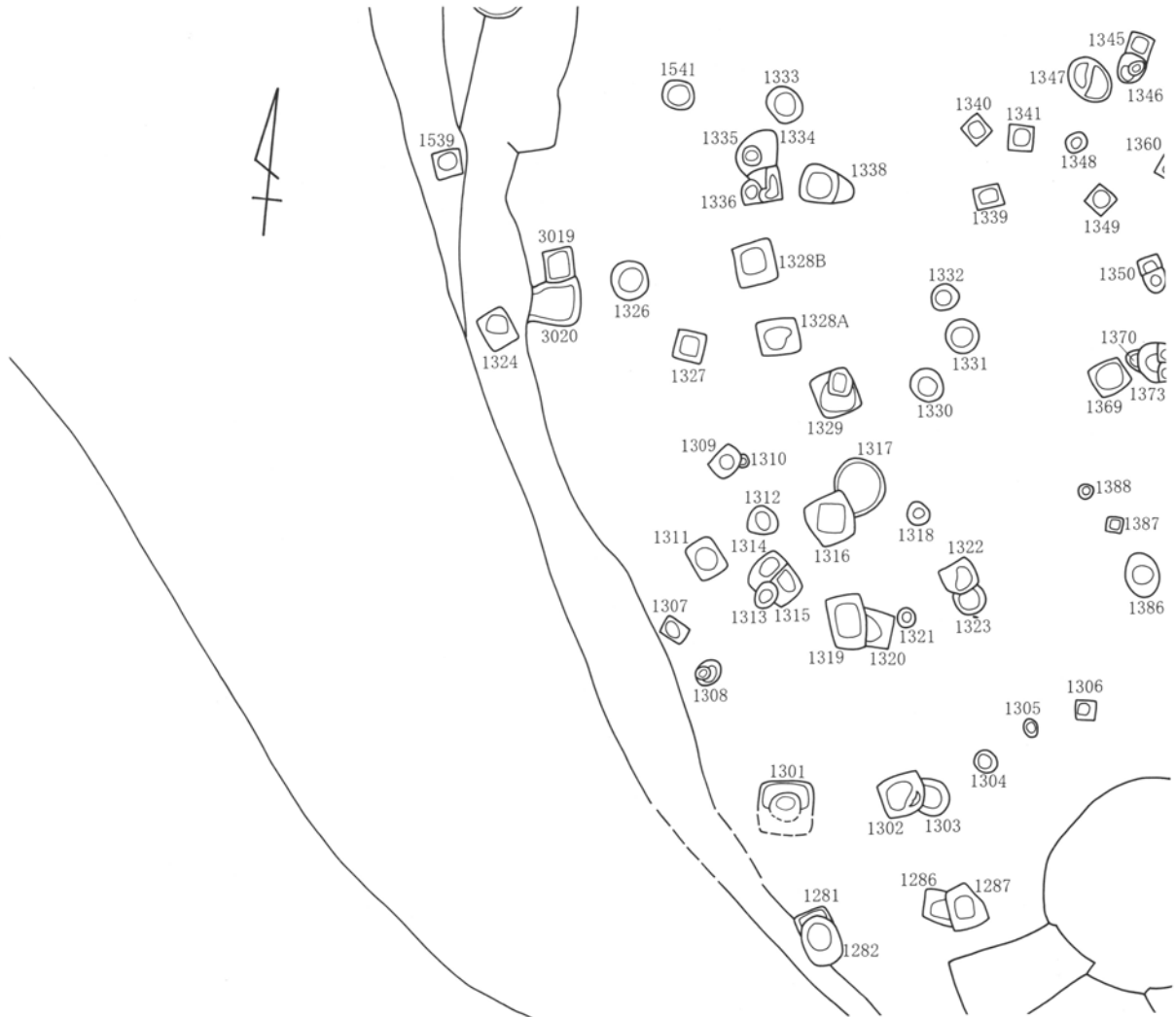
また、その径は77cm以下を測り、平均で25.64cm、深さは124cm以下を測り、平均で25.29cmであった。このうち径について、概ね東西方向を向く軸の長さゝ南北方向を向く軸の長さを比較すると、前者は平均で25.30cm、後者は平均で26.42cmを測り、南北方向を向く軸の方が東西方向を向く軸の長さより若干長いことが分かる。一方、主軸とこれに直交する軸の長さを共に測定できたピットの径は平均で25.64cmを測ったが、このうち円形プランのピットの径は平均25.56cm、方形プランのピットの径は平均で25.76cmであり、その規模に於いて円形及び(ㄨ)



第180図の(5) 3区1面屋敷遺構北部北側の柱穴群



さて、主軸とこれに直交する軸の長さを共に測定することのできたピット2,002基について、これらのピットの軸の長さの平均を寸に換算(端数切捨て)すると1寸から21寸までのものがあり、その平均は7.97寸であった。ピットの数量は7寸径の316基をピークに5～9寸径で200基以上、4～12寸径で100基以上を数え、15寸径以下のピット数量はほぼΛ状の分布状況を示し、16寸径以上は2～16基という数量で不規則な分布を見せている。尚、径の小さいものは杭の打設痕或いはピット底面のみ確認されたものと認識され、仮に径5寸(約15cm)以下のものがこうしたピットであると定義すると、柱穴と認識さ



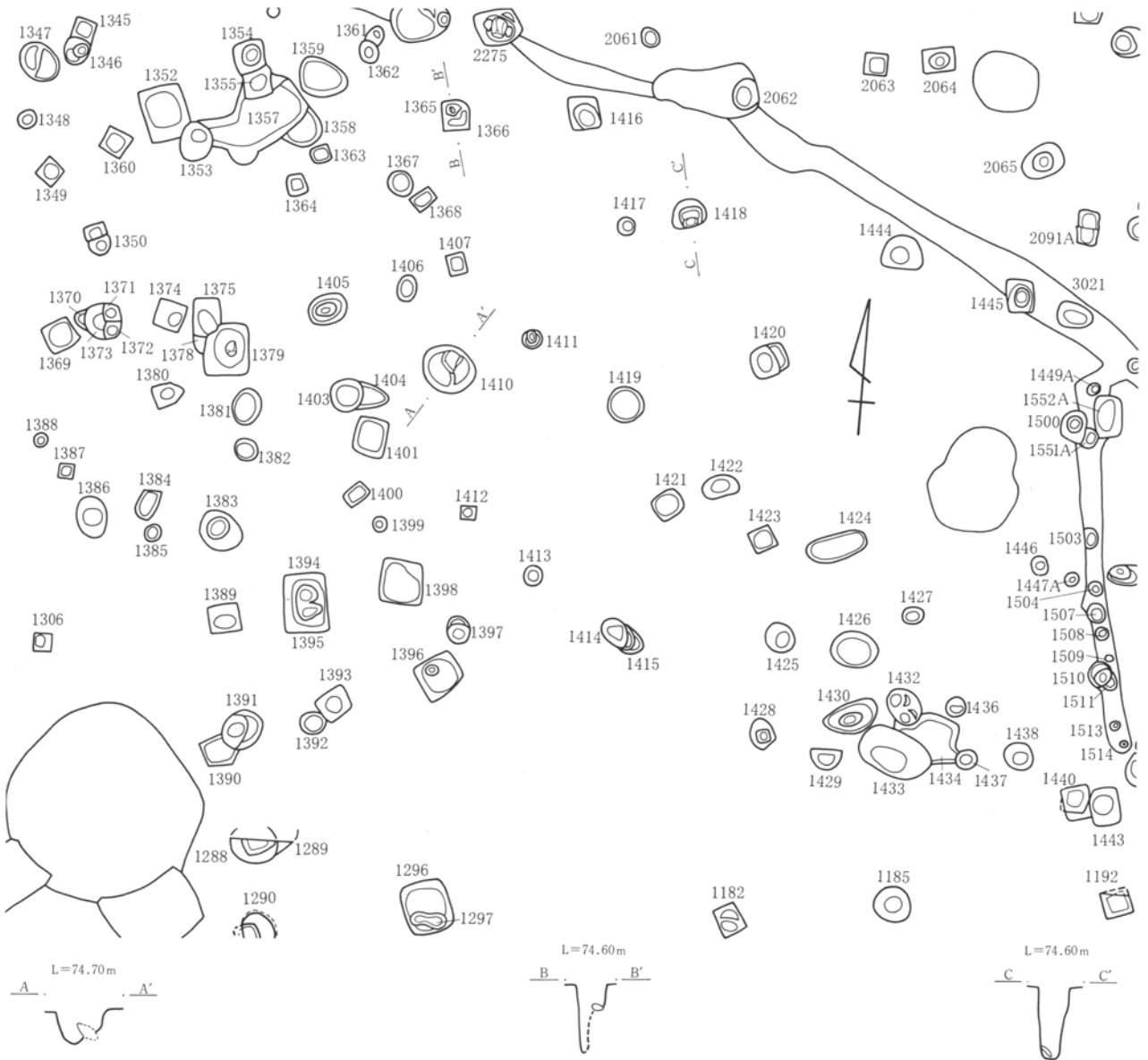
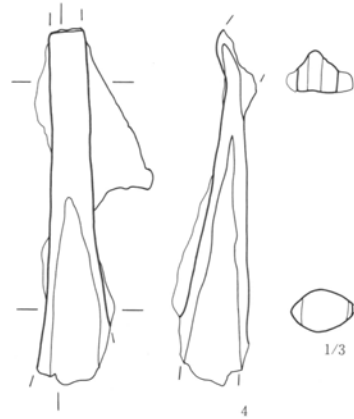
第181図の(1) 3区1面屋敷遺構北部南側の柱穴群

方形プランのピットの平面規模に於ける差異は殆ど認められなかった。

れるものは1,595基(79.7%)を数え、径の平均は8.9寸(約27cm)となる。

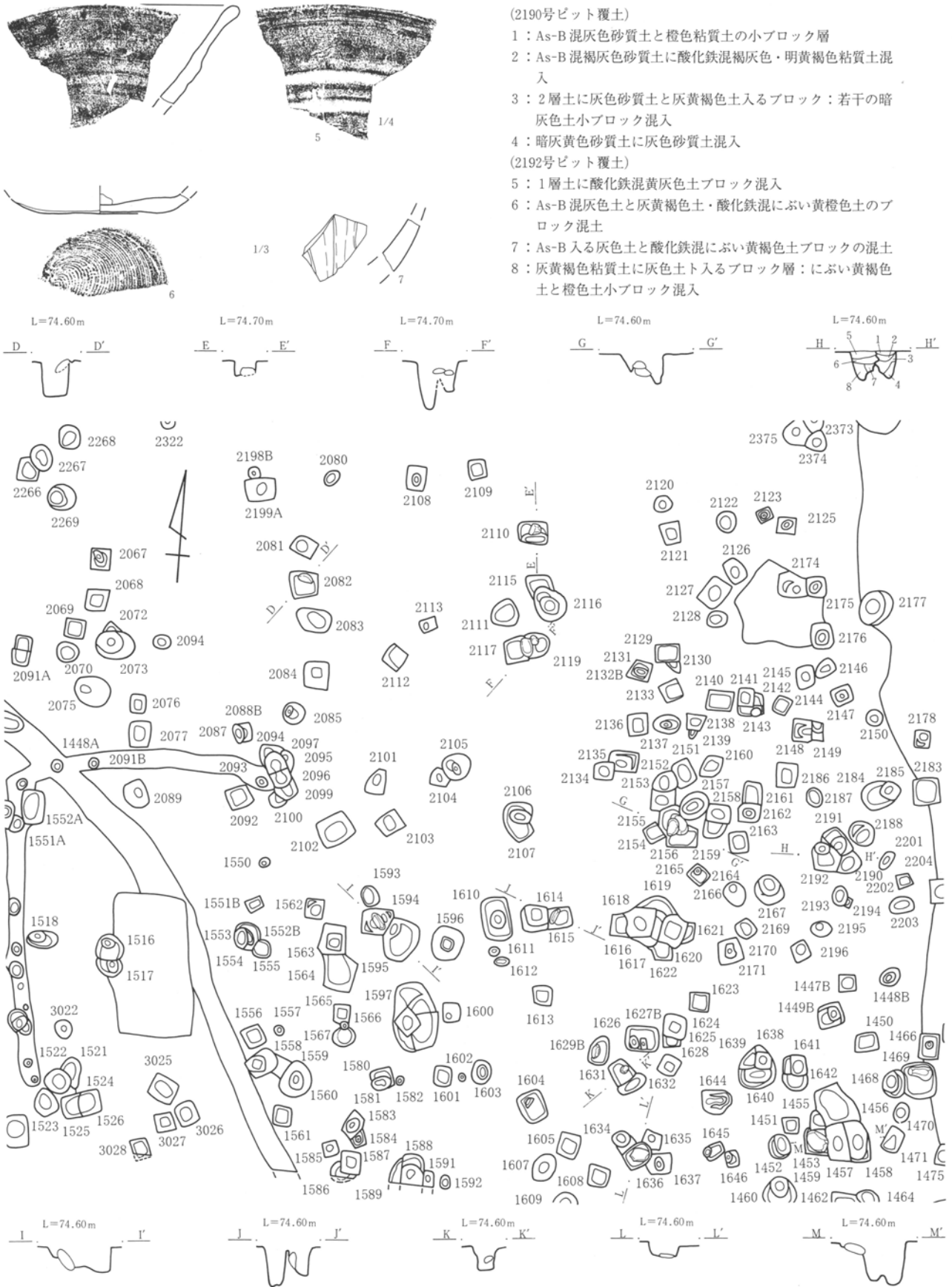
第3章 発見された遺構と遺物

主軸とこれに直交する軸の長さが共に測定できたピットのうち、平面形が円形のもの1,074基、方形のものは928基であった。径の平均は前者が7.97寸、後者は8.00寸で大きな違いはなかったが、径の大きさに対するピット量の分布を見ると、円形のもの7寸の156基をピークに4寸と12寸を変換点とする釣鐘状の分布を示し、方形のものは6寸の157基、7寸の160基をピークに4寸と11寸を変換点とする富士山様の分布状況を示していた。尚、円形プランのものでは5～9寸径ものが、後者では6～9寸径のもので100基以上の数量を数えた。



第181図の(2) 3区1面屋敷遺構北部南側の柱穴群及び出土遺物

第3節 3区の遺構と遺物

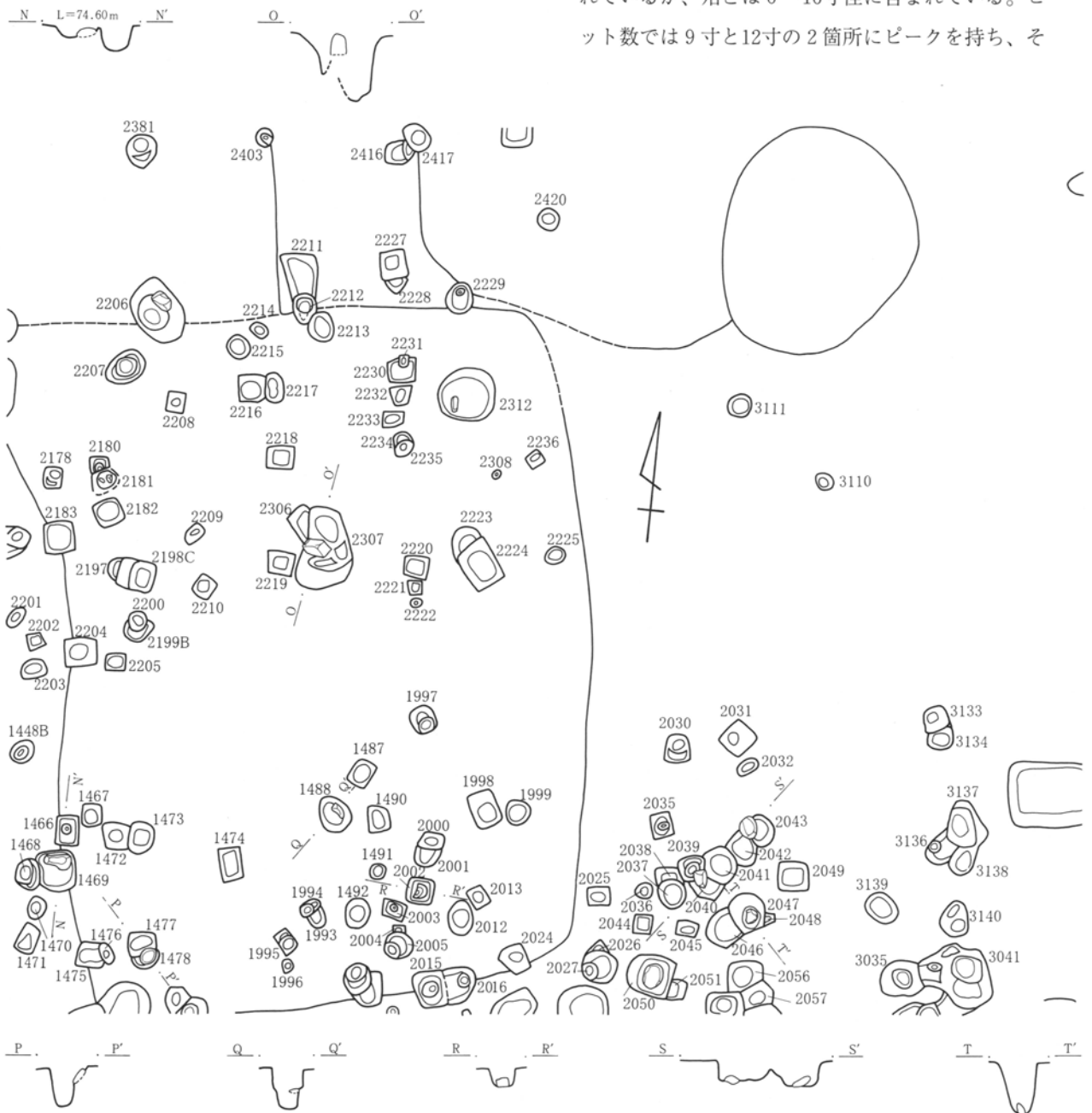


第181図の(3) 3区1面屋敷遺構北部南側の柱穴群及び出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物

礎石 本項に報告している屋敷遺構内所在ピットの中には、礎石が据えられていたものが幾つか認められた。その数は193基を数えたが、ピット全体に対する比率は7.3%と全体としては決して多く見られるものではなかった。しかしながら、溝に投棄されたものの中にも礎石と認識されるものがあったことから推して、1割程度のピットには礎石が据えられていたのではないかと推定される。

礎石の据えられているピットの中で径のはっきりしているものは129基で、このうち円形プランのピットは66基、方形プランのピットは63基を数えたのであるが、礎石の有無と平面形態との間に相関関係は認められなかった。その径は16~64cmと開きがあったが、平均で34.01cmを測った。その規模の平均は円形プランのピットが34.98cm、後者が32.99cmと円形プランピットの方が若干大きい。これを寸単位で見ると、5~21寸径のピットに礎石が確認されているが、殆どは6~16寸径に含まれている。ピット数では9寸と12寸の2箇所にピークを持ち、そ



第181図の(4) 3区1面屋敷遺構北部南側の柱穴群及び出土遺物

それぞれ17基、18基を数えたが、8・9寸及び11～13寸径のものはそれぞれ10基以上を数えた。礎石の据えられているピットは、ピット全体に対してやや径の大きなものが多かった。

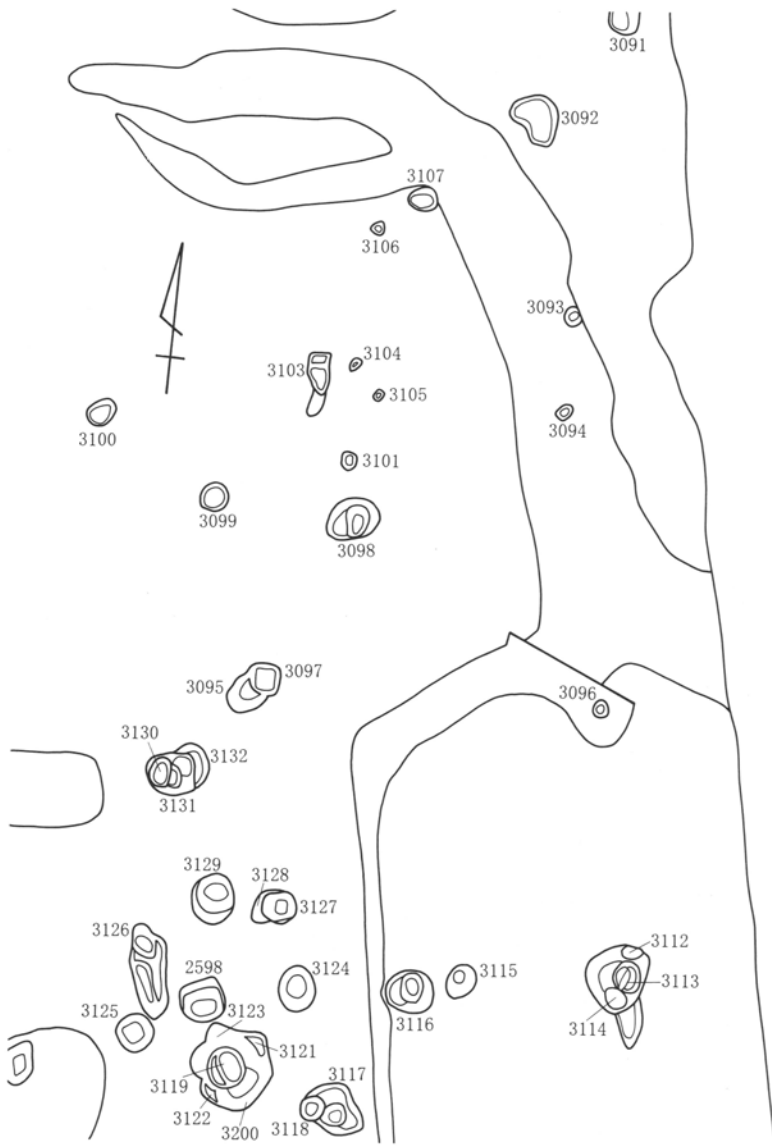
ピットに据えられた礎石は殆ど扁平な川床礫で、径は10～26cm程で、厚みは15～16cm程のものを中心としている。また、これらの礎石には柱材の当たり痕（摩擦痕）が残るものも認められたが、残された摩擦痕の形状は方形のものが殆どで、径7cmから9cm（2.5～3寸）程度のを多く測ることができている。

柱痕 先に述べたように柱穴の調査では殆どのピットを丸堀してしまっているため、平面図以外の記録を残せたピットは極めて少なかったのであるが、このうち僅か3基ではあるが土層断面の観察に於いて柱痕を確認している。確認された柱痕の径は10～15cm程であった。これは礎石に残る柱の当たり痕に比べ1.5倍程の太さとなるが、その境となる3寸という柱材の太さが礎石使用の目安となっていた可能性が考えられる。

また、調査した柱穴群のうち350基のピットからは、底面に柱の荷重によるものと判断される塑性変

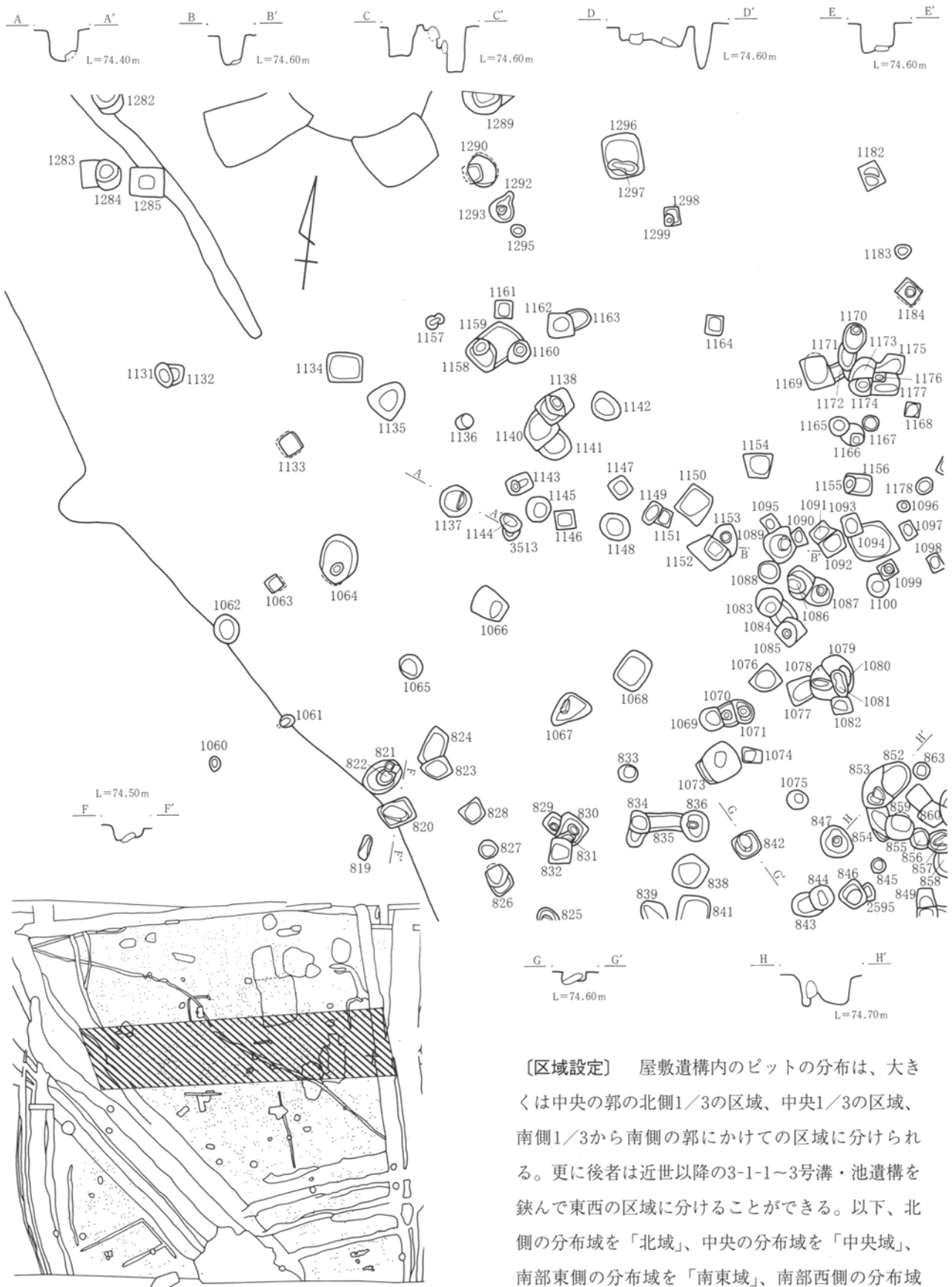
形らしい窪みが確認されている。その平面形態には柱穴と同様円形のものと同様方形のものがあり、前者では177基、後者では172基を数えた。その規模は円形のもので平均16.77cm、方形のもので平均12.78cmの径を測り、断面観察に見られた柱痕の径に近似した値を示している。

柱穴底面の窪み部分の面積は平均で192.0cm²を測った。このうち円形プランのピットの径では平均220.9cm²、方形プランのピットの径では平均で163.4cm²を測った。鳥羽遺跡での貫入試験成果（石守 1986）を援用するならば、1本の柱の支えた荷重は円形プランのもので平均146kg程度、方形プランのものでは平均108kg程度であったと推定される。



第181図の(5) 3区1面屋敷遺構北部南側の柱穴群

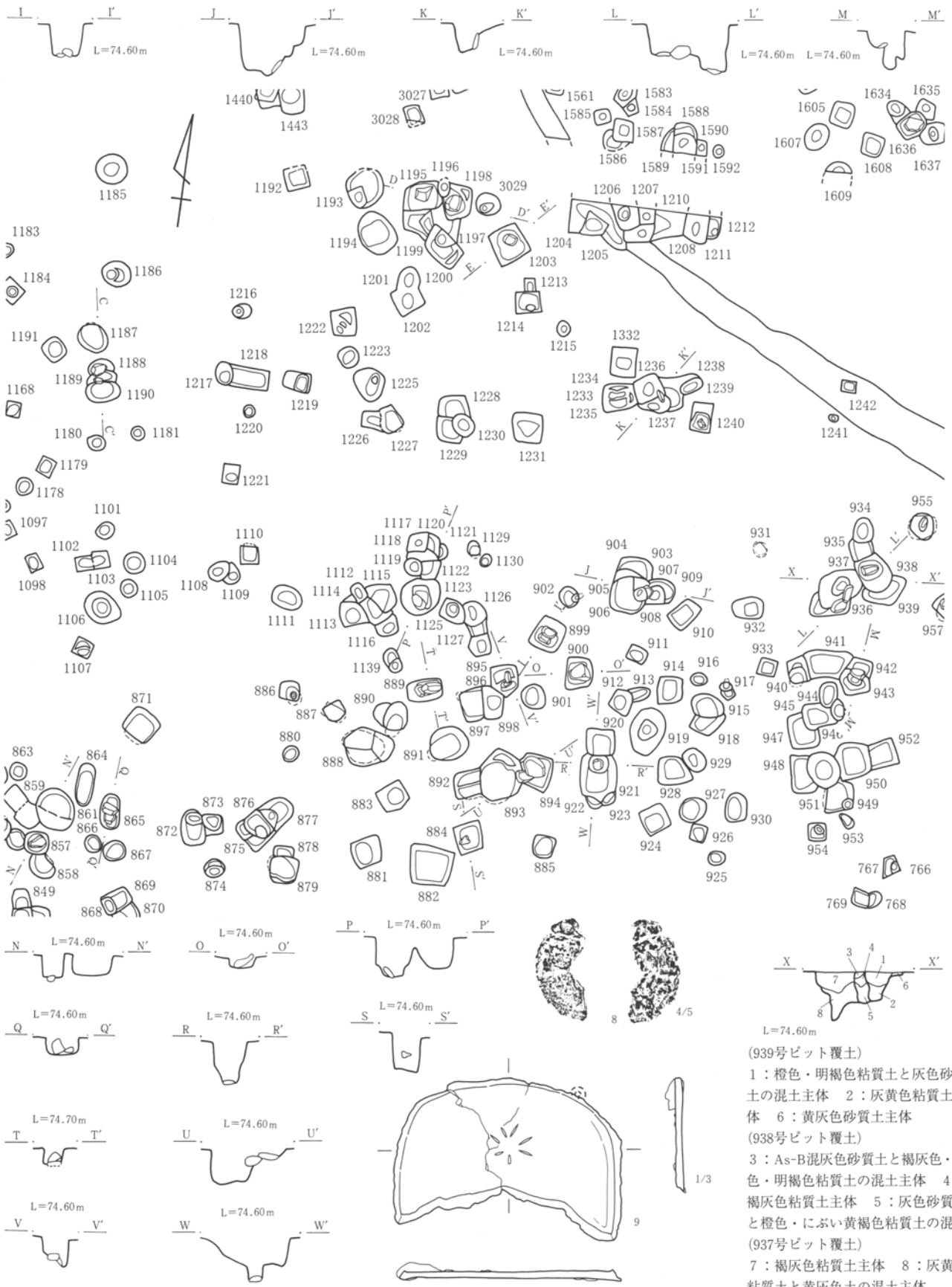
第3章 発見された遺構と遺物



第182図の(1) 3区1面屋敷遺構中部北側の柱穴群

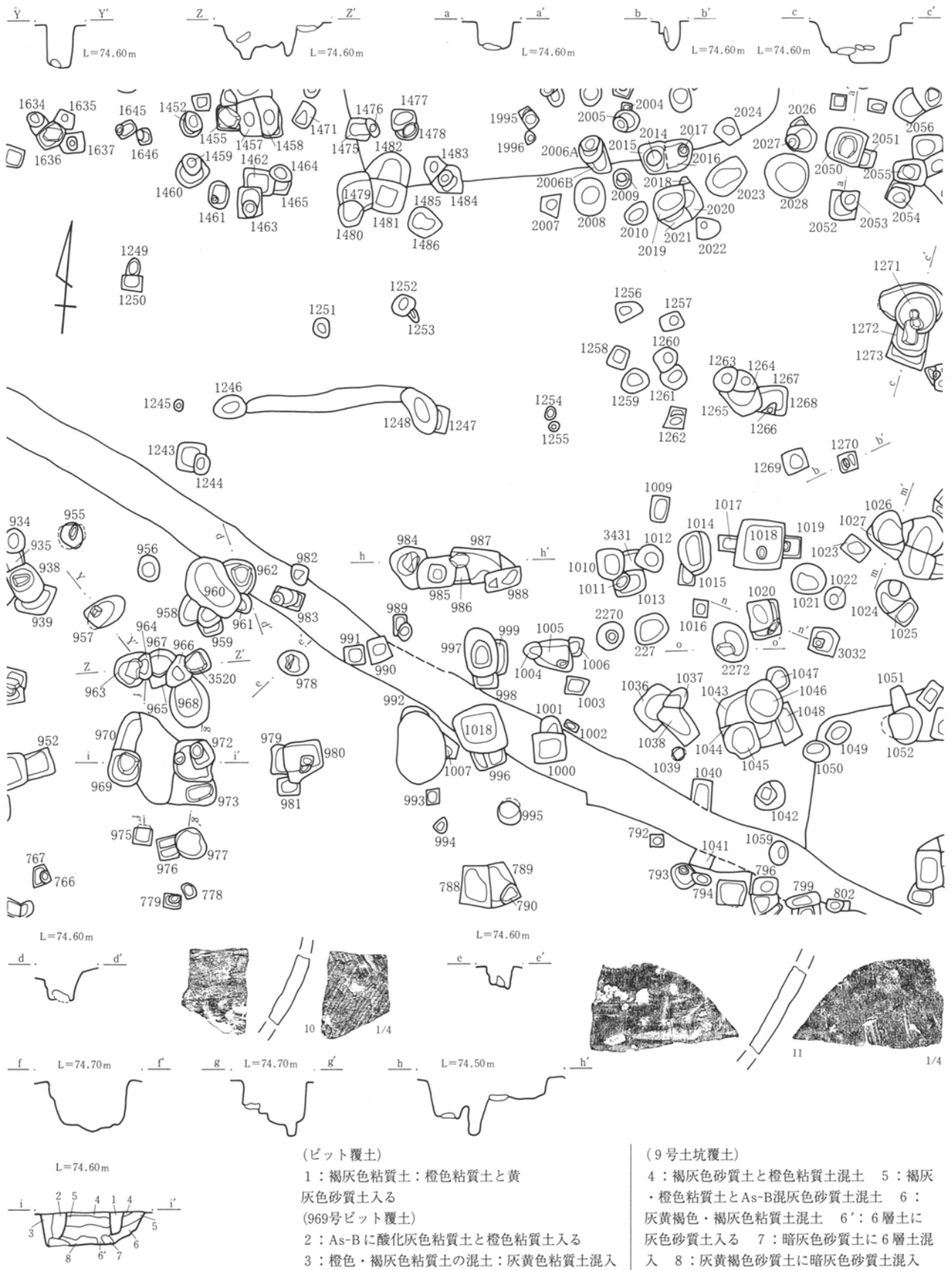
〔区域設定〕 屋敷遺構内のピットの分布は、大きくは中央の郭の北側1/3の区域、中央1/3の区域、南側1/3から南側の郭にかけての区域に分けられる。更に後者は近世以降の3-1-1~3号溝・池遺構を銜んで東西の区域に分けることができる。以下、北側の分布域を「北域」、中央の分布域を「中央域」、南部東側の分布域を「南東域」、南部西側の分布域を「南西域」と呼称することとする。

第3節 3区の遺構と遺物

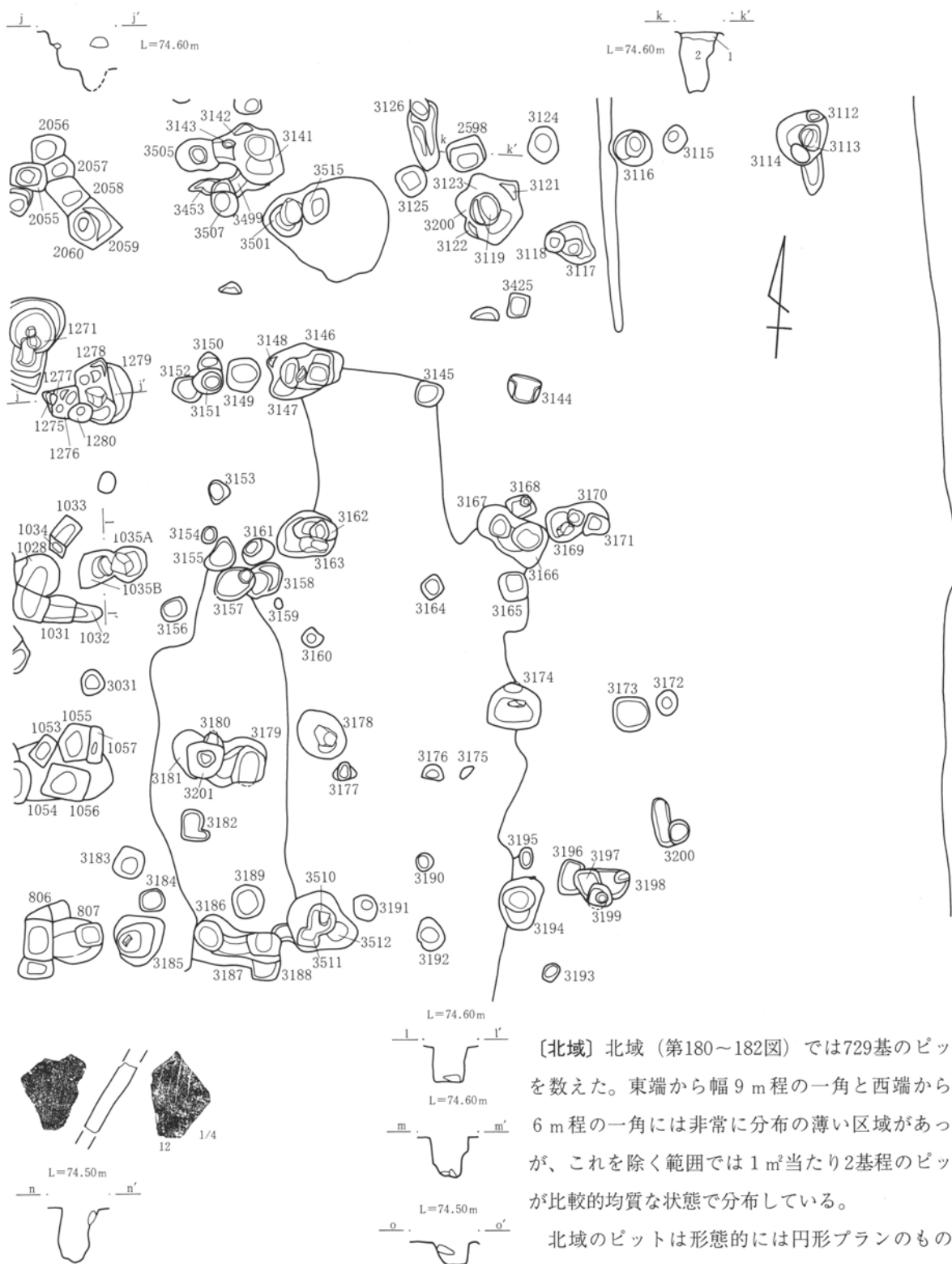


第182図の(2) 3区1面屋敷遺構中部北側の柱穴群及び出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物



第182図の(3) 3区1面屋敷遺構中部北側の柱穴群及び出土遺物



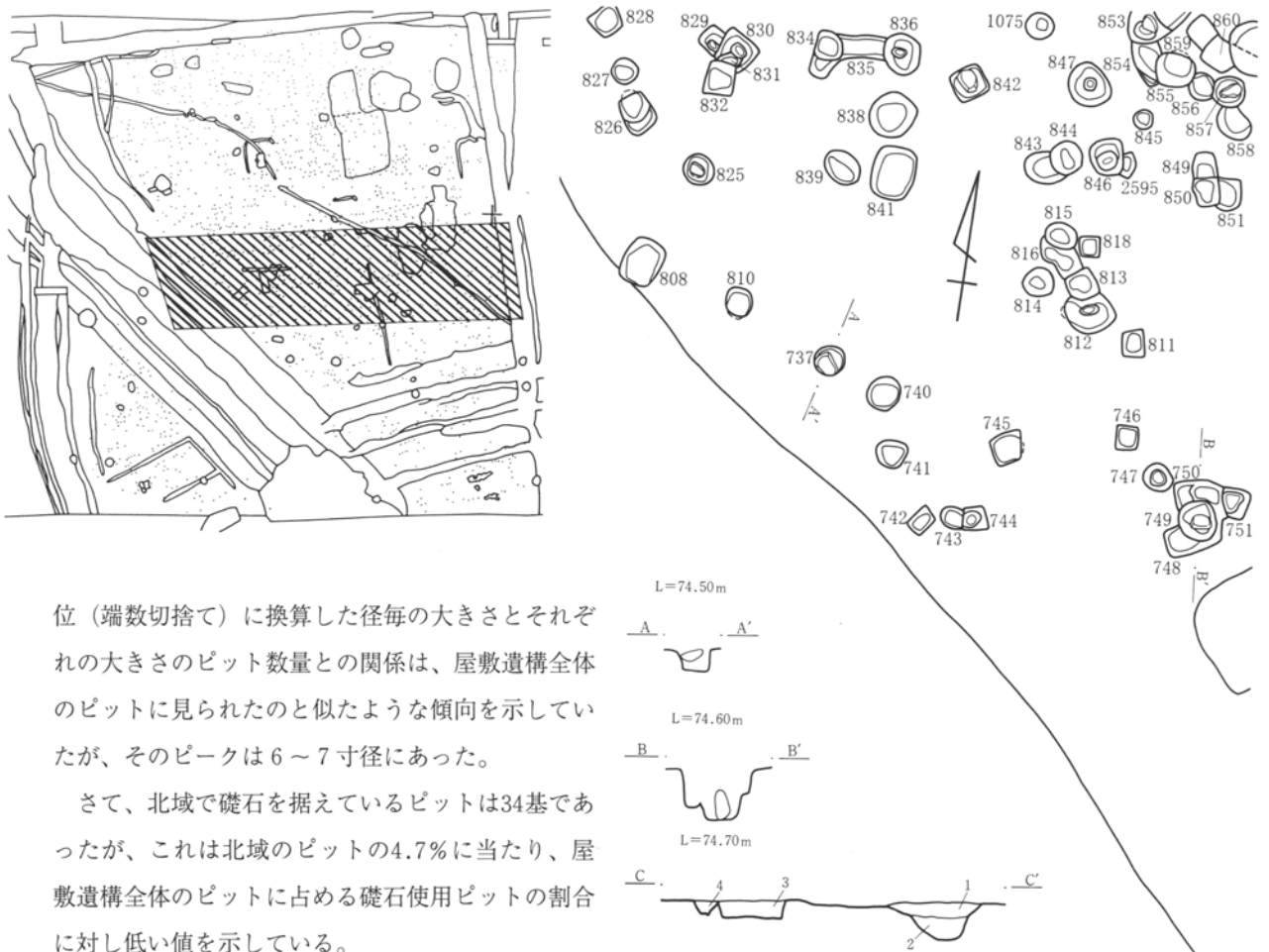
第182図の(4)

3区1面屋敷遺構中部北側の柱穴群及び出土遺物

ピットの分布と特徴 次に上記区域毎の特徴等について述べることにする。

〔北域〕北域(第180~182図)では729基のピットを数えた。東端から幅9m程の一角と西端から幅6m程の一角には非常に分布の薄い区域があったが、これを除く範囲では1㎡当たり2基程のピットが比較的均質な状態で分布している。

北域のピットは形態的には円形プランのものが56%を占め、やや方形プランのものより多い。その径は平均26.35cmと全体の平均値より僅かに大きい。円形プランのものでは平均26.51cmと全体の平均値より大きいもの、方形プランのものは25.38cmと全体の平均値よりは小さい。また、ピットの寸単



位（端数切捨て）に換算した径毎の大きさとそれぞれの大きさのピット数量との関係は、屋敷遺構全体のピットに見られたのと似たような傾向を示していたが、そのピークは6～7寸径にあった。

さて、北域で礎石を据えているピットは34基であったが、これは北域のピットの4.7%に当たり、屋敷遺構全体のピットに占める礎石使用ピットの割合に対し低い値を示している。

尚、北域では7×4 m程の規模のものを中心とする建物が19棟抽出されている。しかし、中央部では一時期奥殿となるような規模を持つ建物も建てられていた。

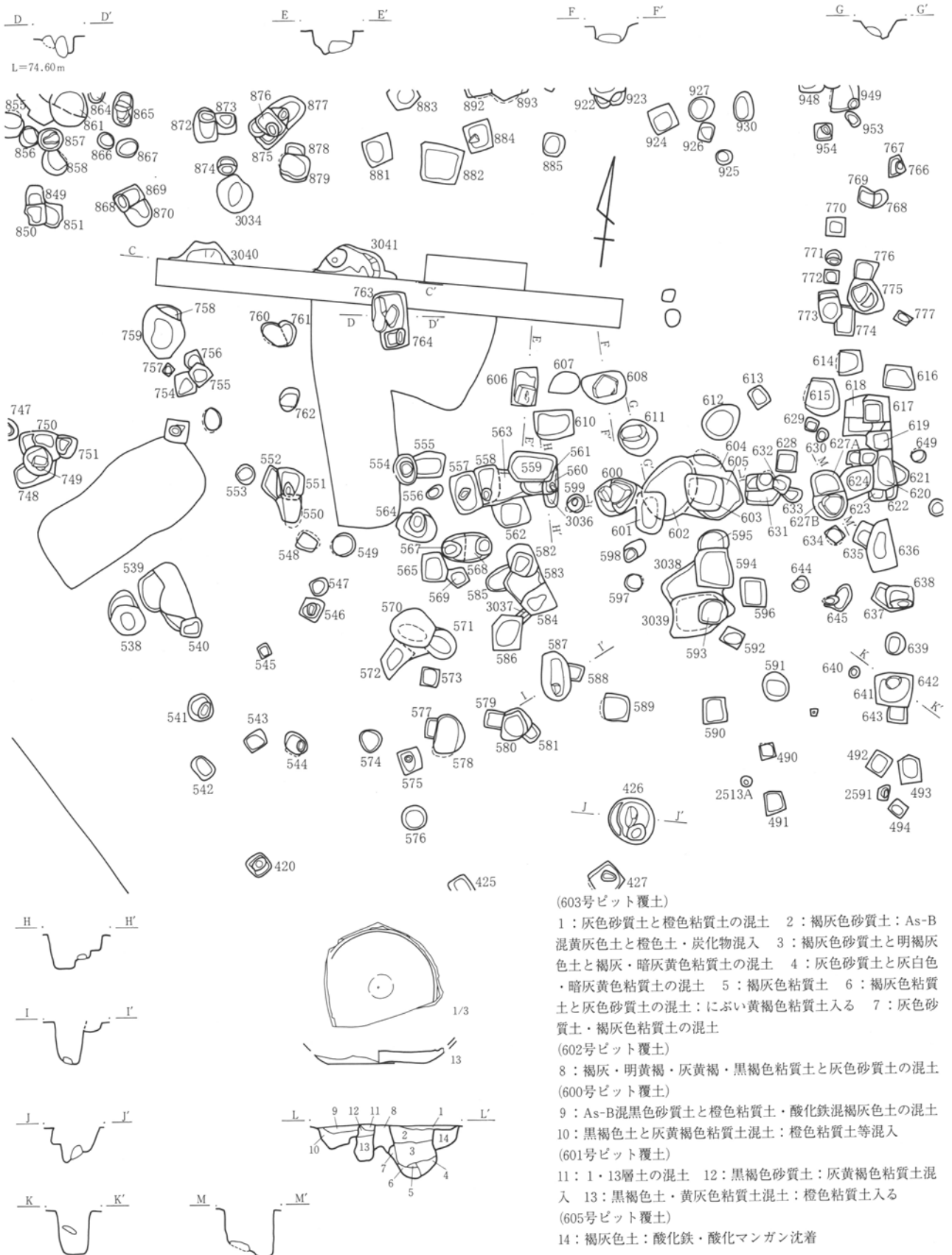
【中央域】中央域（第183図）では1,199基のピットを数えている。このうち中央域西部では259基のピットがあり、この区域では北域中部と似たようなピットの分布状況を見せていた。一方、中・東部では郭東側の堀沿いに3 m幅程のやや分布の薄い区域が見られたが、これを除く箇所では東西に延びる帯状の集中的なピットの分布が3筋（南から「第1集中域」「第2集中域」「第3集中域」と呼称）確認されている。第1・2集中域は幅2 m程、第3集中域は幅1.5 m程にピットの集中的な分布が見られ、それぞれの集中域は中心ラインで約5.5 m程の間隔を以って並列している。各集中域の中間地域の分布状況は疎であるが、各集中域の中間地域に所在するピット

- (3041号ピット覆土)
 1：As-B 混褐灰色砂質土と橙色土の混土
 2：1層と灰黄褐色・褐色粘質土の混土
 (3040号ピット覆土)
 3：橙色土・褐灰色粘質土・黒褐色土・小礫等の混土
 (植物痕等)
 4：にぶい黄褐色土：灰色・橙色土・小礫混入

第183図の(1) 3区1面屋敷遺構中部南側の柱穴群

トは南北に連なるようにかたまって分布する傾向が見られるものが多かった。また、第1集中域付近で307基、第2集中域付近で317基、第3集中域付近で316基のピットを確認したのであるが、第1集中域中部西寄りの617号ピット等12基のピットの重複、第2集中域中部の948号ピット等5基の重複、第3集中域では東部で2034号ピットなど8基のピットの重複があったように、多くのピットが重複する箇所が多数見られた。

第3節 3区の遺構と遺物



第183図の(2) 3区1面屋敷遺構中部南側の柱穴群及び出土遺物

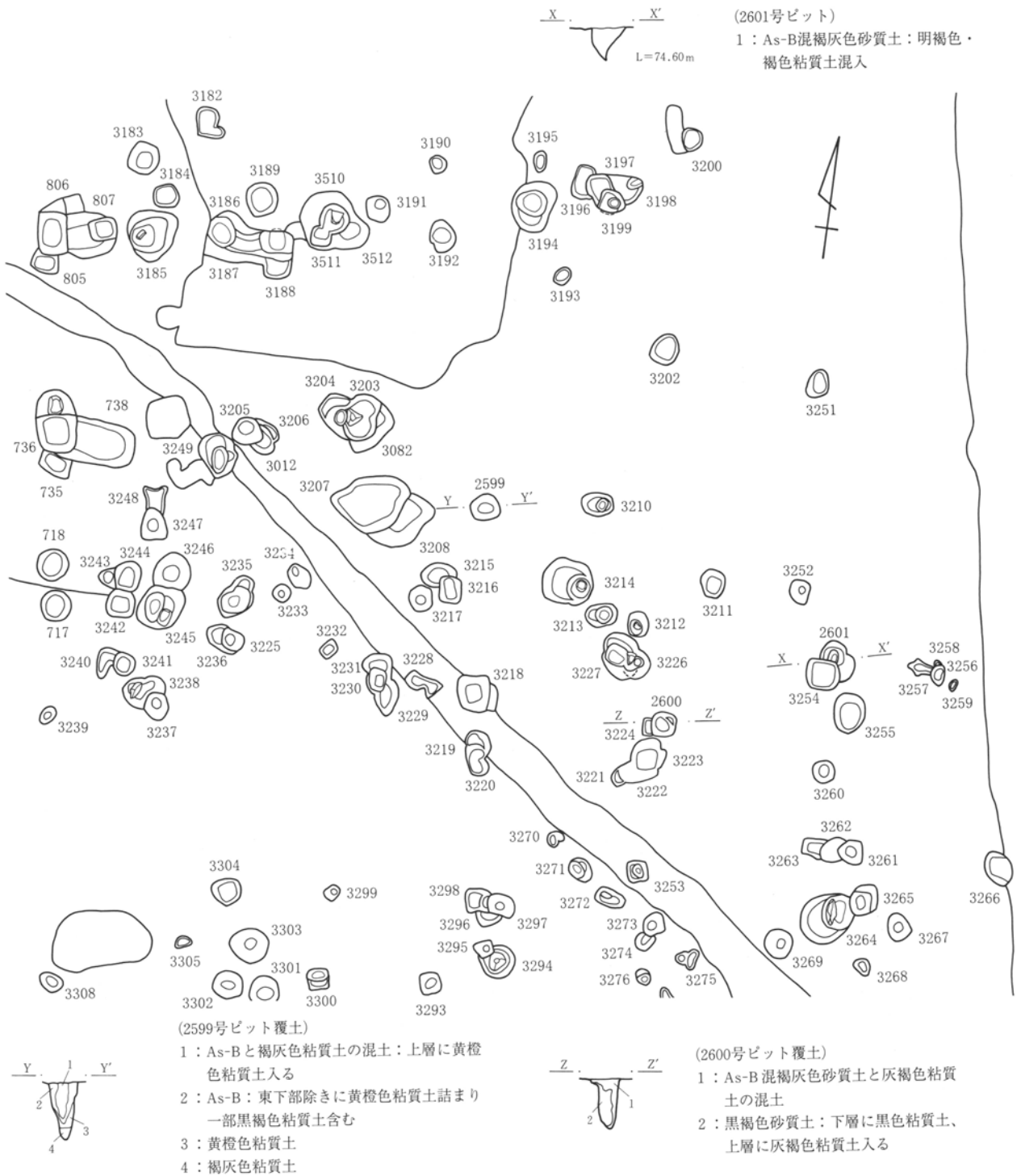
第3章 発見された遺構と遺物



第183図の(3) 3区1面屋敷遺構中部南側の柱穴群及び出土遺物

中央域のピットのうち西部のものは形態的には円形プランのものが52%を占め、北域同様やや方形プランのものより多い。しかし中・東部（各集中域）に於いては方形プランのものが52%を占め、方形プランのものの方が若干多い。その径は西部

第3節 3区の遺構と遺物

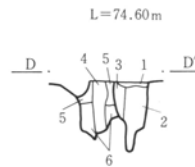
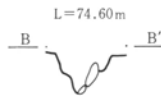
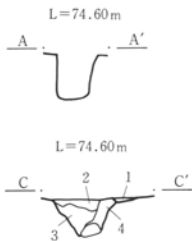
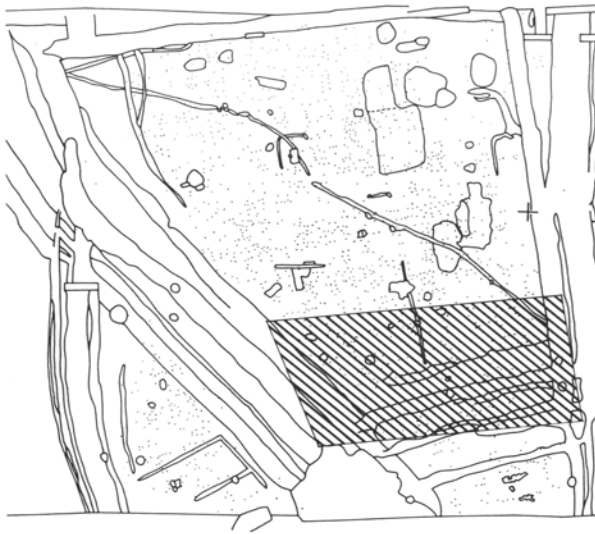


第183図の(4) 3区1面屋敷遺構中部南側の柱穴群

では平均25.37cmと全体の平均値を僅かに下回るが、中・東部に於いては27.10cmと全体の平均値を1.5cm上回っている。中・東部の中でも第3集中域は平均23.37cmと全体の平均を2.3cmも下回っているが、第1集中域では28.28cm、第2集中域では27.21cmと全

体の平均を上回っている。こうした傾向は円形・方形何れのプランのピットにあっても同様で、円形プランでは西部では平均25.44cm、中東部では平均25.51cm（第1集中域：27.71cm、第2集中域：26.50cm、第3集中域：22.36cm）を測り、方形形プ

第3章 発見された遺構と遺物



(438ピット覆土)19

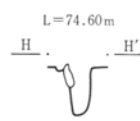
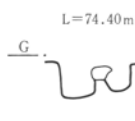
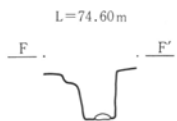
1: 灰色砂質土土: As-C 多く混入

(437ピット覆土)

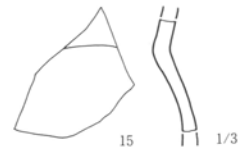
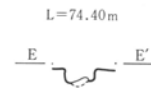
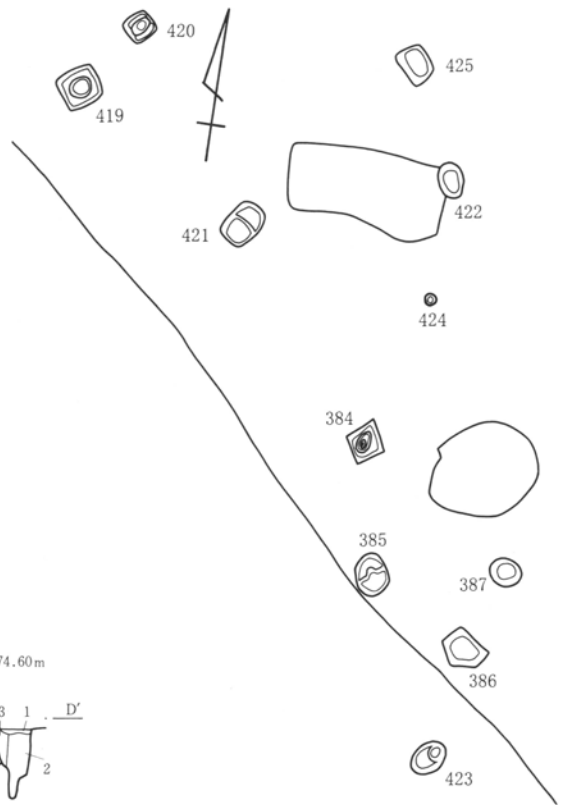
- 2: 灰黄褐色土と3層土のブロック混土:
橙色砂質土ブロック混入
- 3: 暗灰色砂質土: As-B・As-C・酸化鉄入り、
酸化マンガン混濁灰色粘質土と灰色粘質土混入
- 4: 黒褐色・暗灰色・灰色・橙色砂質土入る
暗灰色土のブロック混土

(447号ピット覆土)

- 1: 灰色砂質土: 橙色粘質土小ブロックと
As-B 混入
 - 2: 灰色砂質土: 若干の橙色粘質土入る
 - 3: 暗灰色粘質土に濁灰色粘質土・暗灰色土入る
ブロックの混土
- (446号ピット覆土)
- 4: 灰色砂質土: 橙色粘質土・黒褐色土若干混入
 - 5: にぶい黄褐色粘質土に4層土と橙色粘質土入る
ブロック層
 - 6: 暗灰黄色粘質土: 灰色砂質土ブロック入る



ランでは西部では平均25.29cm、中東部では平均27.09cm (第1集中域: 29.02cm、第2集中域: 27.93cm、第3集中域: 24.32cm)であった。特に第1・2集中域に於ける方形プランピットの径の平均値は全体の平均値をそれぞれ3.3cm、2.2cm上回るものであった。尚、中央域のピットの径と数量との関係は屋敷遺構全体のものと同様の傾向を見せていたが、中・東部にあっては円形のものでは第1集中区



第184図の(1)

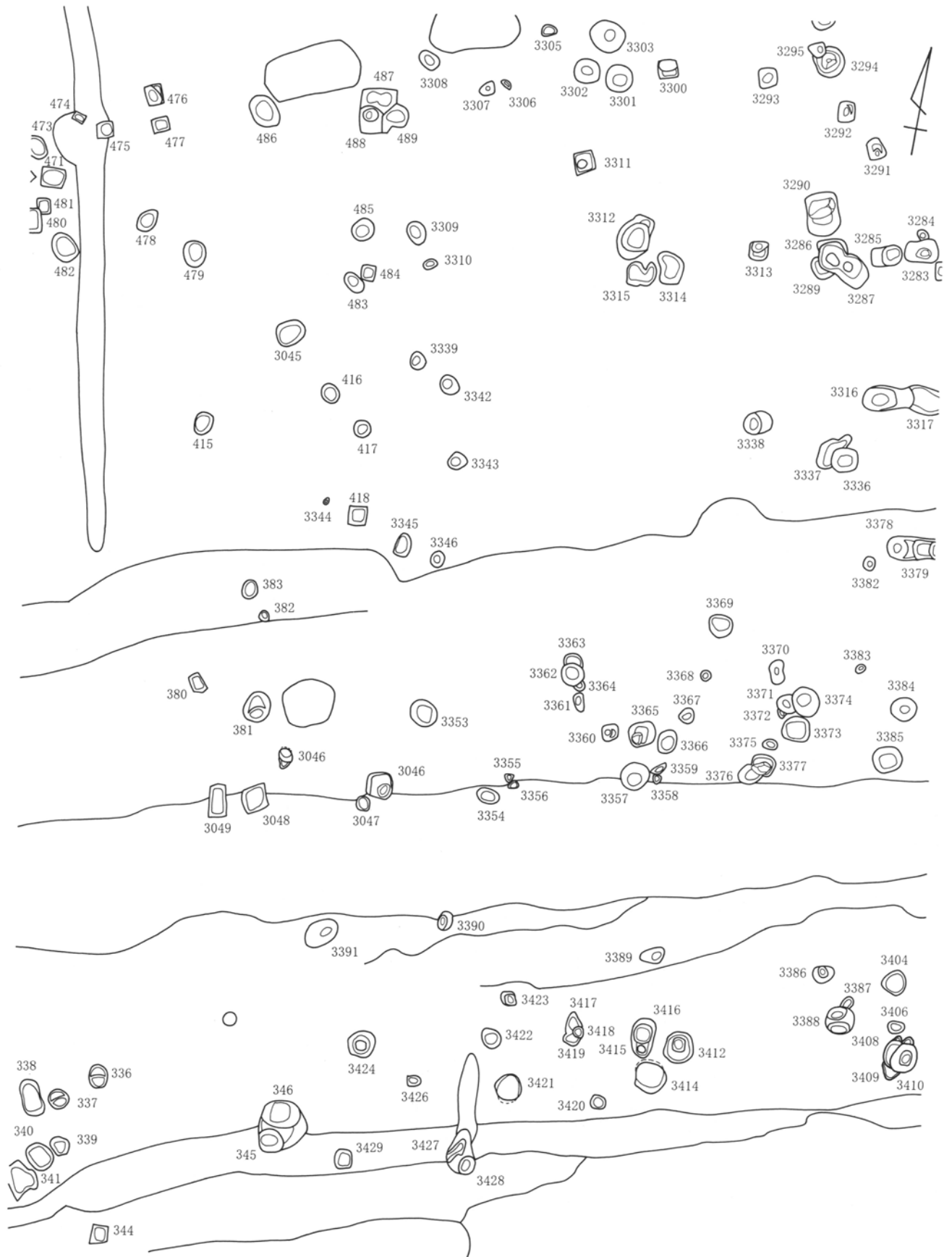
3区1面屋敷遺構南東部北側の柱穴群及び出土遺物

では9寸、第2集中域では6寸、方形のものでは第1集中区では9寸、第3集中区では6寸にピークがあるなど、ややその大きさに対するピット数の分布状況には分散傾向が見られた。

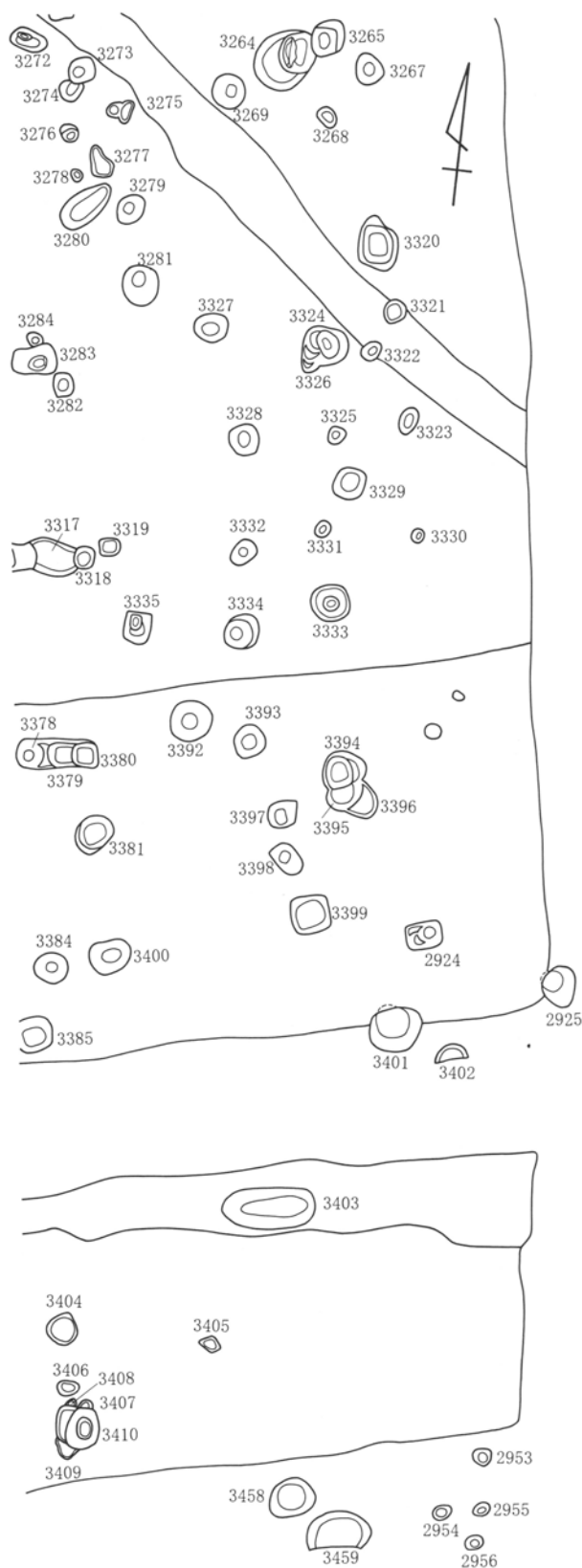


第184図の(2) 3区1面屋敷遺構南東部北側の柱穴群

第3章 発見された遺構と遺物



第184図の(3) 3区1面屋敷遺構南東部北側の柱穴群



第184図の(4) 3区1面屋敷遺構南東部北側の柱穴群

また礎石使用のピットは106基であったが、これは中央域のピットの8.8%に当たり、と全体のピットに占める礎石使用ピットの割合に対し1.6ポイント多い。特に中東部に於ける礎石使用ピット数は93基（第1集中域：25基、第2集中域：45基、第3集中域：23基）、9.9%であり、特に第2集中域に占める礎石使用ピットの割合は14.2%とピット全体に占める割合の2倍の数値を示している。

中央域西部では北域と似たような規模の建物が8棟抽出されているが、中・東部に於ける各集中域を辺とした4面庇を持つものなど主殿様の大型建物が何時期か建てられていたようで、これらを含む13棟の掘立柱建物が見出されている。

〔南東域〕南東域（第184図）に於けるピットの分布は全体に散漫な傾向にあったが、北東部では南東域の中にあつては比較的集中する分布が見られ、西部では近世・近代の溝である3-1-2号溝にの東肩から6m程の位置には、同溝に沿うように帯状の集中的な分布が見られた。尚、南東部に於ける450基のピットを確認することができている。

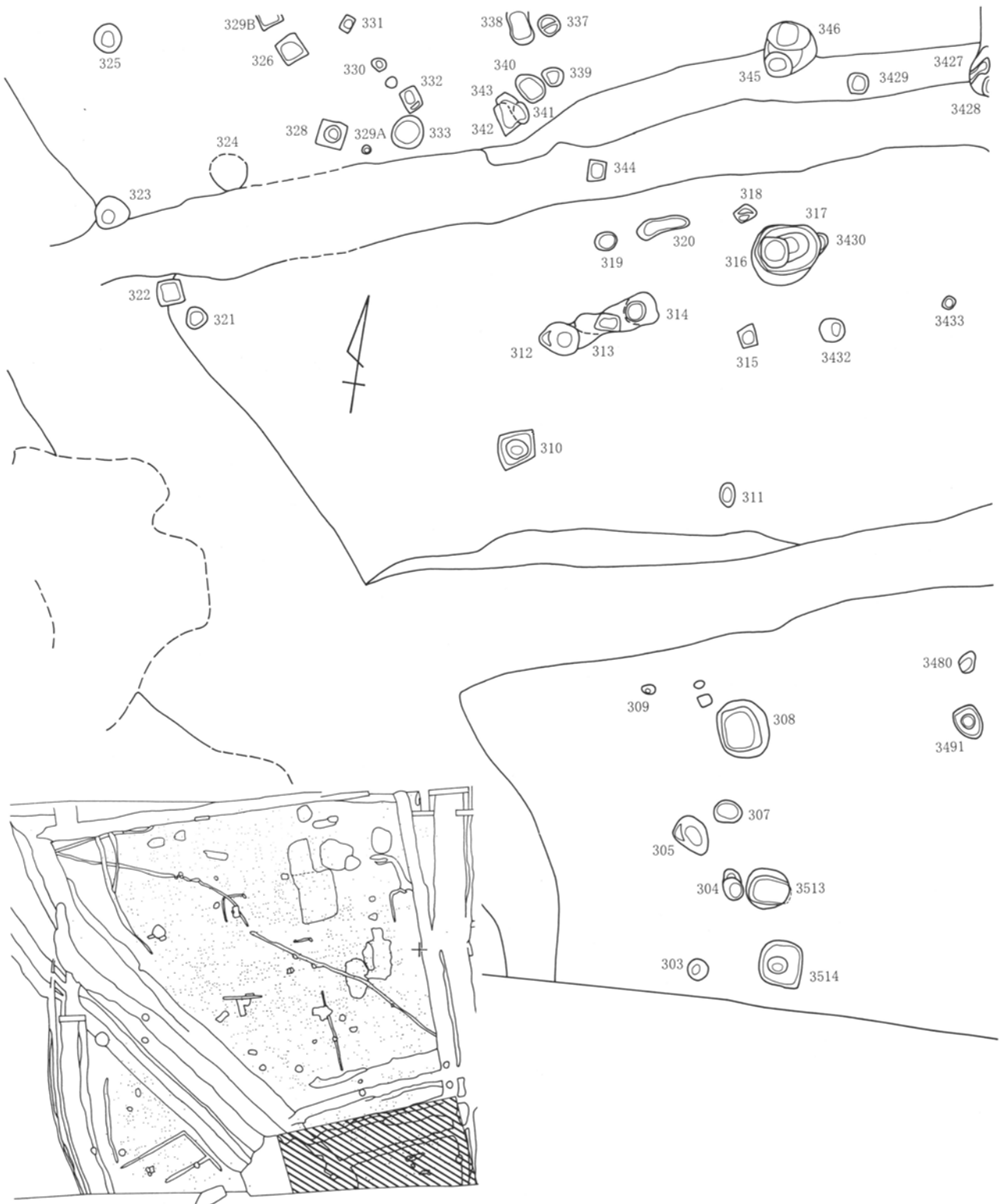
南東域のピットは形態的には円形プランのものが多く62.9%を占めている。その径は平均23.85cmと全体の平均値より2cm余り小さい。このうち円形プランのものは平均23.84cm、方形プランのものは平均23.87cmであった。南東域のピットの径に対する数量の多少についてみると、6～7寸径クラスのものにピークがあり、15寸径クラス以上のものは少なかった。

礎石使用のピットは14基と少なく、南東域のピットに占める割合は3.1%に過ぎなかった。

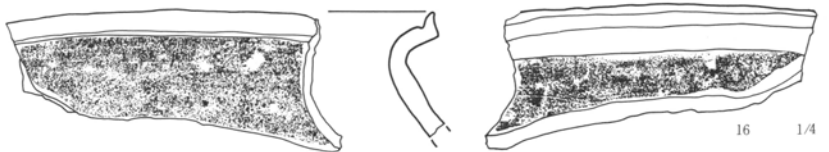
尚、南東域では北部を中心に6×3m程の比較的小型のものを中心とする掘立柱建物が22棟抽出されている。

〔南西域〕南西域（第185図）では屋敷遺構の西側を区切る3-1-4号溝と、その存在が想定される土塁の内郭側に沿って掘削されている3-1-9号溝との間及びその周辺、約8m幅の区域でのピット分布は薄かったが、（3-1-3号溝に切られた範囲を除く）こ

第3章 発見された遺構と遺物

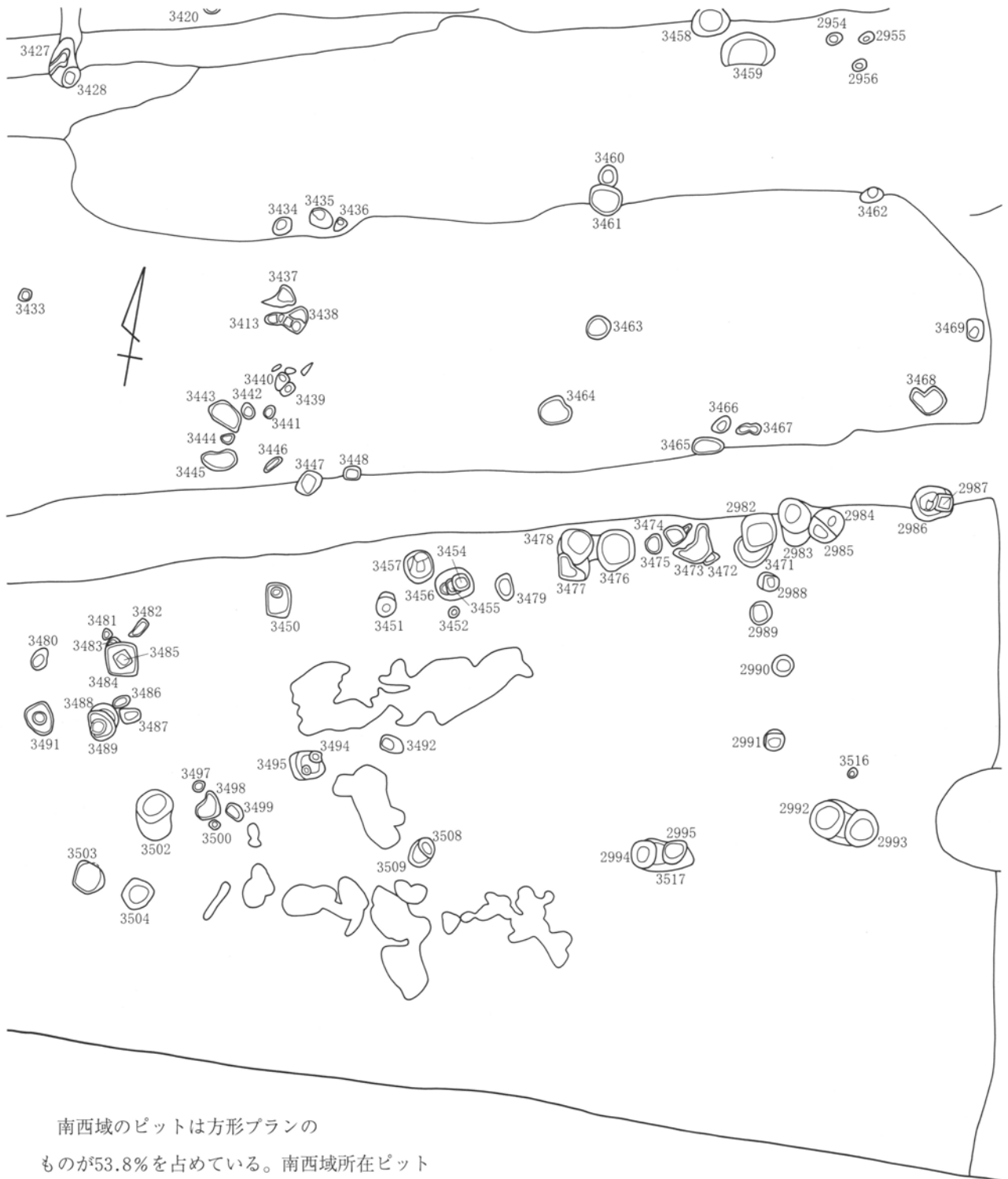


れ以外の区域では中域西部と同等以上のピット分布状態を示し、狭い範囲ながらも301基のピットを確認している。



第185図の(1) 3区1面屋敷遺構南東部南側の柱穴群及び出土遺物

第3節 3区の遺構と遺物



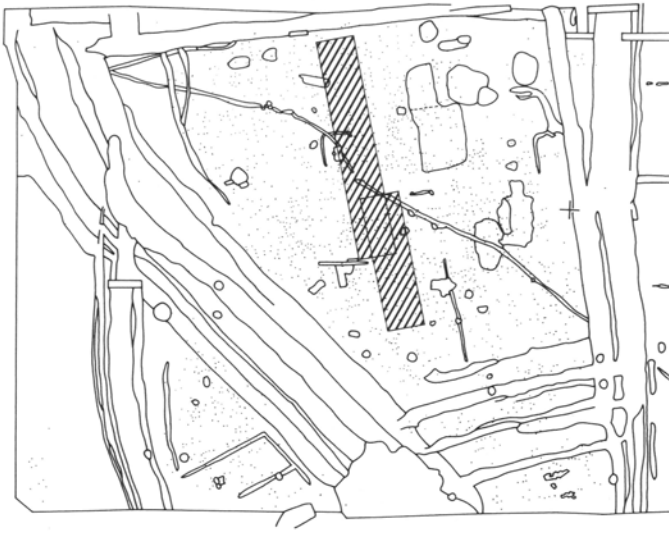
南西域のピットは方形プランのものが53.8%を占めている。南西域所在ピットの径は平均25.79cmと屋敷遺構全体のピットの径の平均値を僅かに上回る。このうち円形プランのものは平均25.96cm、方形プランのものは平均25.62cmで、径に対するピット数量は寸換算（端数切捨て）で7寸径がピークとなり、屋敷遺構全体の傾向に似たものであった。

第185図の(2) 3区1面屋敷遺構南東部南側の柱穴群

礎石使用のピットは30基と多くなかったが、南東域のピットに占める割合は9.97%で、第1～3集中域を含む中央域と近似した数値を示している。

尚、南西域では8×5m前後の規模のものを中心

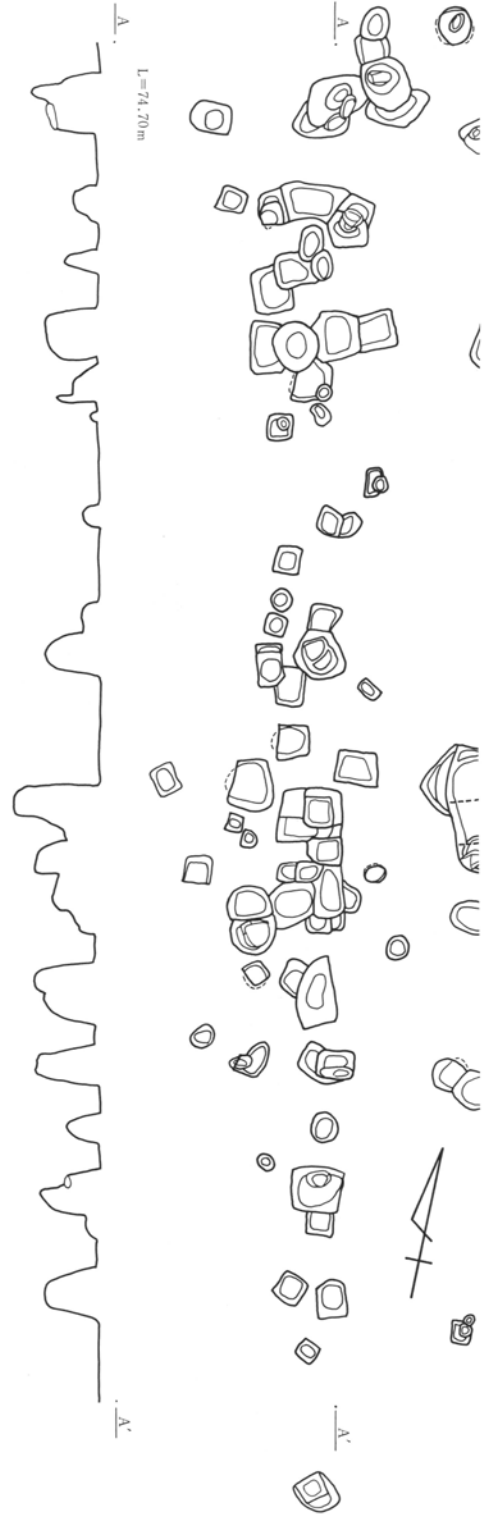
第3章 発見された遺構と遺物



とする掘立柱建物が9棟抽出されている。

出土遺物 屋敷遺構内所在ピットでは23基のピットで土器・陶磁器・鉄製品の出土を見たが、その数量は極めて少なかった。このうち中世と思われる時期の遺物は出土地点で見ると北域5点、中域9点、南東域2点、南西域1点であった。この他、193基のピットで礎石の出土を見、1基で馬歯、12基で炭化材の出土を見ている。(ア)

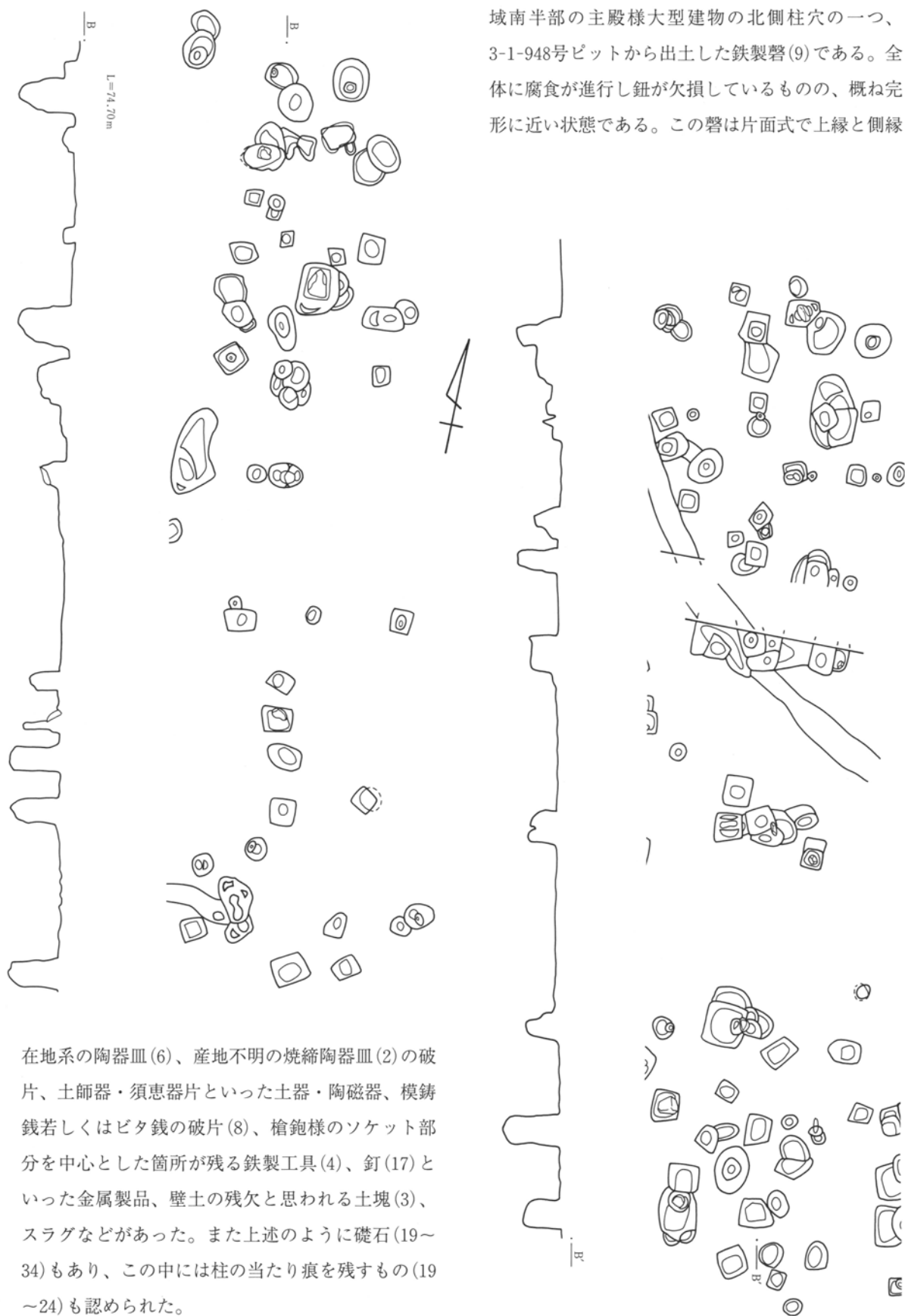
出土遺物には龍泉窯系の青磁碗(7,14,15)、白磁(13)、知多半島産の焼締陶器の播鉢(1,5)と甕(16)、渥美半島産の焼締陶器の播鉢(10,11,12)と甕(18)、



第186図の(1) 屋敷遺構柱穴群集中域南北列

第3節 3区の遺構と遺物

域南半部の主殿様大型建物の北側柱穴の一つ、3-1-948号ピットから出土した鉄製磬(9)である。全体に腐食が進行し鈕が欠損しているものの、概ね完形に近い状態である。この磬は片面式で上縁と側縁



在地系の陶器皿(6)、産地不明の焼締陶器皿(2)の破片、土師器・須恵器片といった土器・陶磁器、模铸銭若しくはビタ銭の破片(8)、槍鉋様のソケット部分を中心とした箇所が残る鉄製工具(4)、釘(17)といった金属製品、壁土の残欠と思われる土塊(3)、スラグなどがあった。また上述のように礎石(19~34)もあり、この中には柱の当たり痕を残すもの(19~24)も認められた。

こうした出土遺物の中で注目されたのは、中(ア)

第186図の(2) 屋敷遺構柱穴群集中域南北列

第3章 発見された遺構と遺物

が緩やかな弧を描いており、下縁は蝶形髭を意識した造りとなっている。表背面の縁辺は折り返されて縁取りがなされ、表面の鐘座は一見放射状に見える枝紋と思われる紋様で、中心は損耗しているようにも見える。細かい出土状況は不明であるが、大型建物の南側庇の柱穴である3-1-582号ピットから出土した馬歯と共に、地鎮、或いは建物廃棄に伴う祭祀行為に伴って埋設された可能性が考えられる。

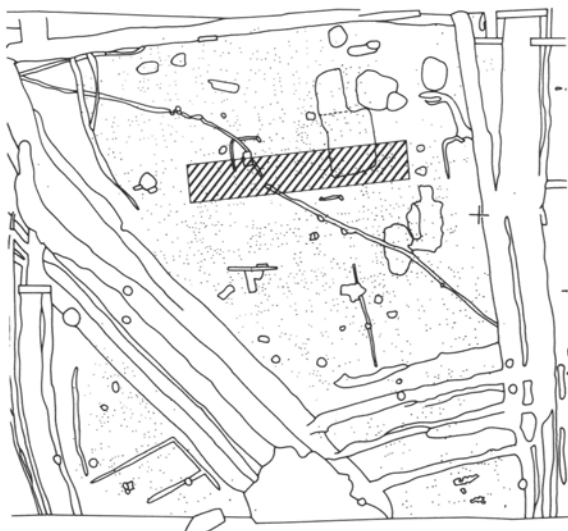
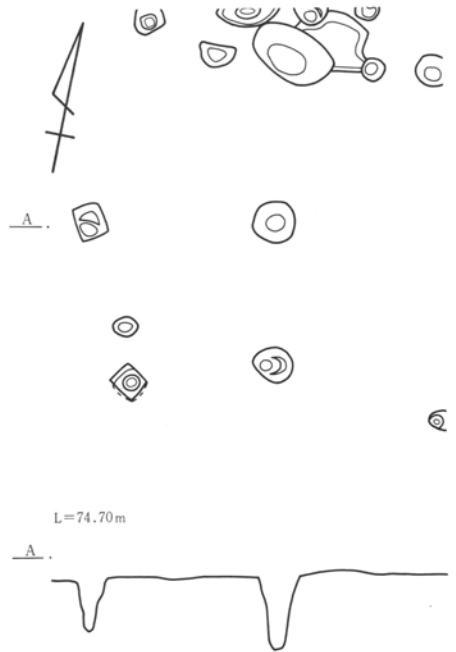
出土炭化材 屋敷遺構内所在ピットには覆土中に炭化物を含むものが幾つかあったが、3-1-246・251・258・446・600・615・924・952・1378・2025・2590号ピットとY軸300～310ライン間所在ピット（調査時点2716号ピット）で炭化木片の採取を行った。このうち8点の炭化材については樹種同定を行い、更に4点についてAMS法によるC¹⁴年代測定を施した。（第4章に報告書掲載）

〔樹種同定〕 樹種同定は246・446・600・615・924・952・2025・2716号ピット出土炭化材に対して実施した。鑑定の結果、446号ピット出土炭化材はケヤキ、600号ピットのはコナラ節、924号ピットのはヒノキ科と樹皮付きのクヌギ節、2025号ピットのはクリ、2716号ピットのはカツラ及びトネリコ属で、246・615・952号ピットのはタケ亜科と同定された。このように11の樹種が同定され、うち3点がタケ類と判定された。尚、タケ

類は、例えば孟宗竹のような太いタケで、建築材への転用も可能と判断されるものであった。タケ類を出土したピットのうち246号ピットは南西域に在って南北軸の柱穴列を構成するピットの一つである。

615号ピットは中央域南半の四面庇付大型建物の南側柱穴の一

つであり、952号ピットは今回建物抽出の対象とはならなかったものであるが、同建物の北側ピット列に連なる位置にあるものである。出土し



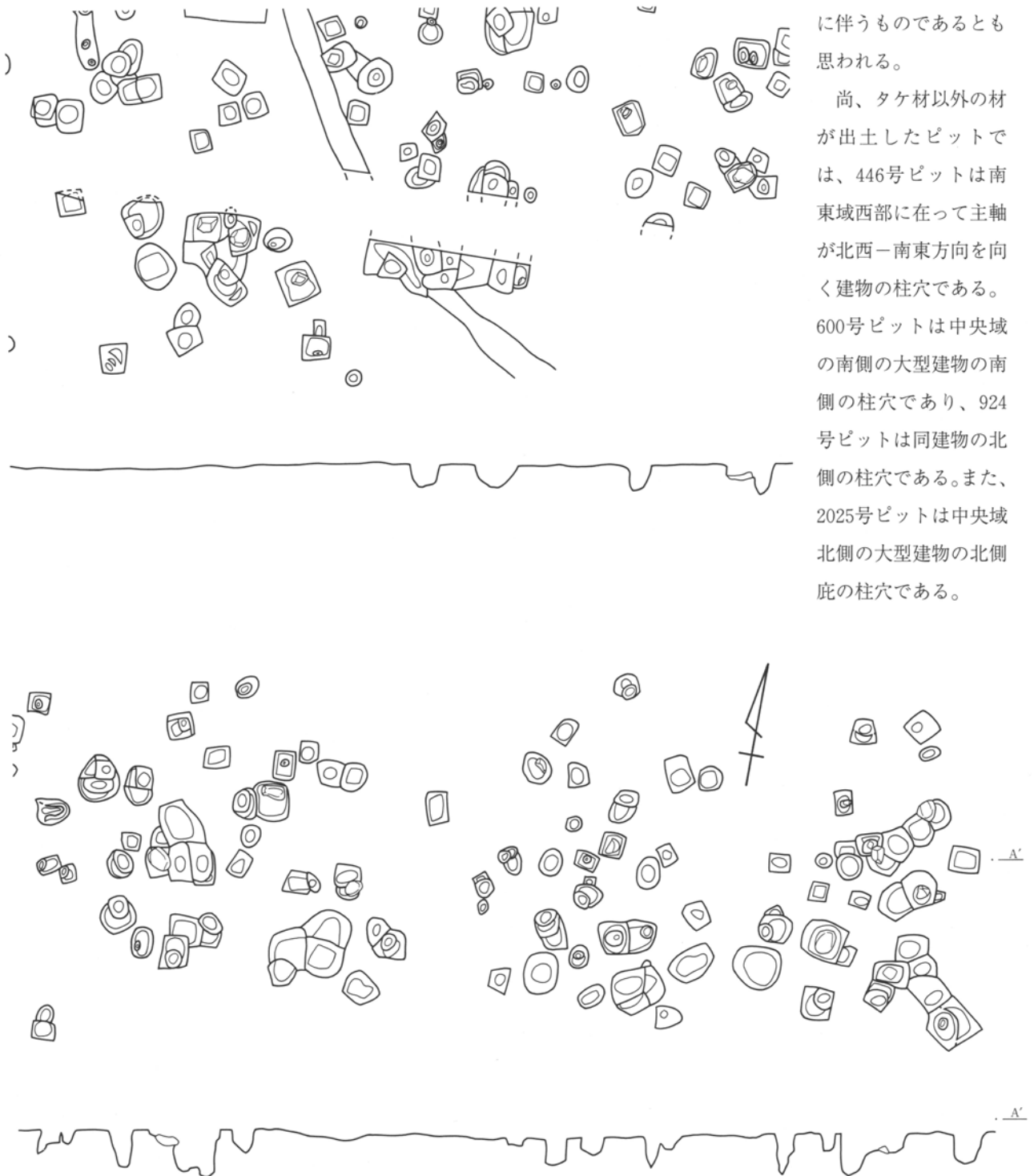
第187図の(1) 3区1面屋敷遺構柱穴群第3集中域東西列

た炭化材が全て柱材であったとは言えないが、タケ材が柱材として使用されたとなると極めて珍しい。タケ材を柱に使用した建物は絵巻物にも見られるが、多くは井戸、厠等簡便な建物である。しかし観応2年(1352)に完成を見た幕帛絵詞第八巻に描かれ

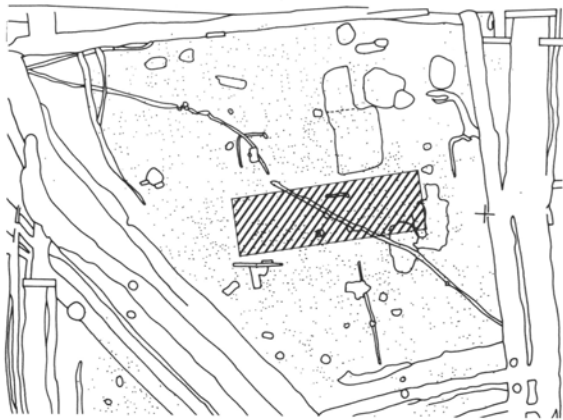
た竹丈庵はしっかりとした建物である。竹丈庵は寺院境内に建てられた特異な例ではあるが、竹材が建材として使用し得ることを示す例であり、タケ材であることを以って建材の使用を否定されるものではない。しかしタケという素材から地鎮、或いは建物

廃棄に伴う祭祀的行為に伴うものであるとも思われる。

尚、タケ材以外の材が出土したピットでは、446号ピットは南東域西部に在って主軸が北西-南東方向を向く建物の柱穴である。600号ピットは中央域の南側の大型建物の南側の柱穴であり、924号ピットは同建物の北側の柱穴である。また、2025号ピットは中央域北側の大型建物の北側庇の柱穴である。

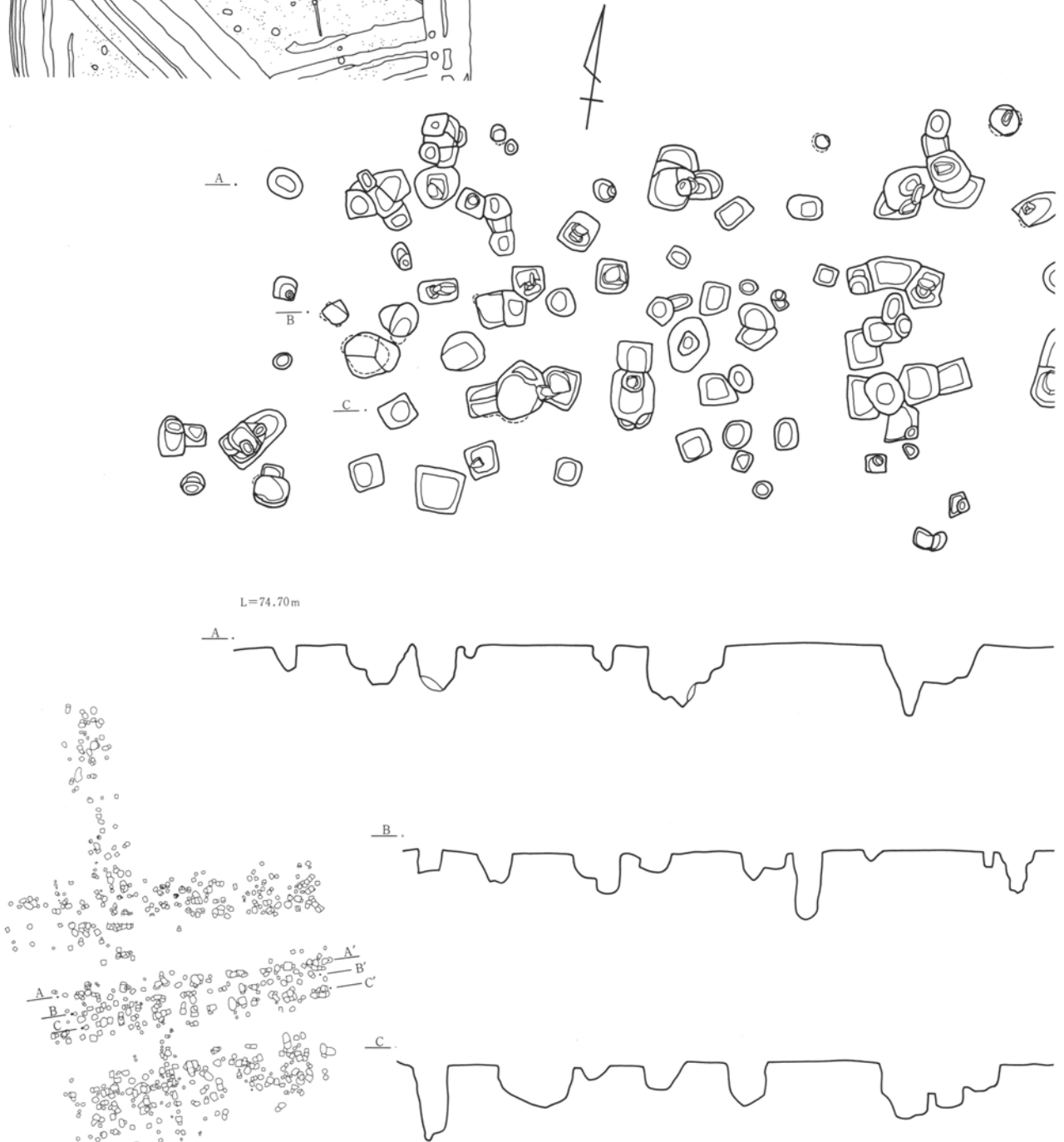


第187図の(2) 3区1面屋敷遺構柱穴群第3集中域東西列



〔年代測定〕年代測定を行った炭化材は、615・952号ピット出土のタケ垂科材、924号ピット出土のヒノキ材、2025号ピット出土のクリ材を用いた。

測定の結果、真の年代が入る確率が95%の場合、615号ピット資料でA.D.1185～1275年、924号ピット資料でA.D.860～980年、952号ピット資料で



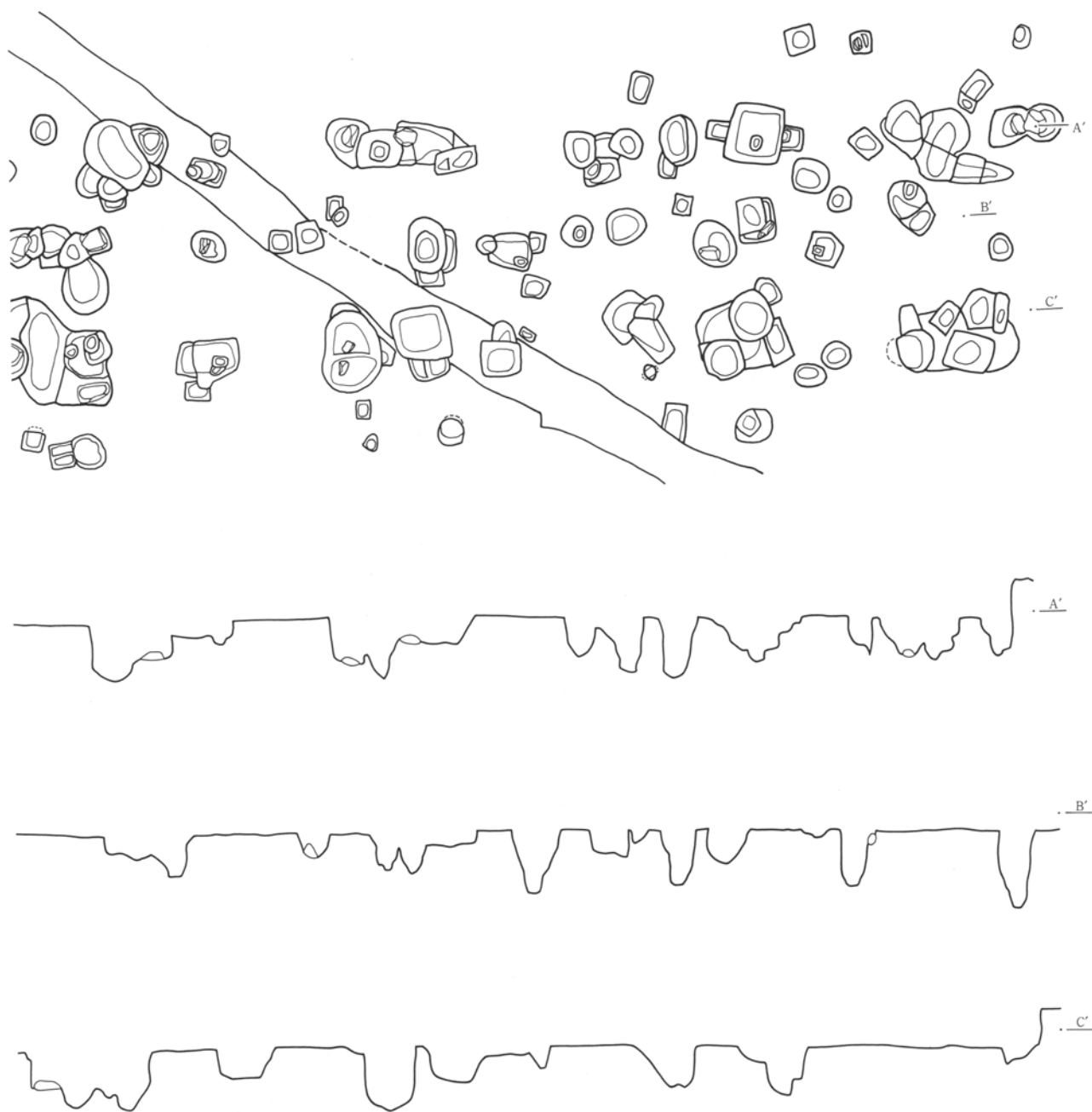
第188図の(1) 3区1面屋敷遺構柱穴群第3集中域東西列

第3節 3区の遺構と遺物

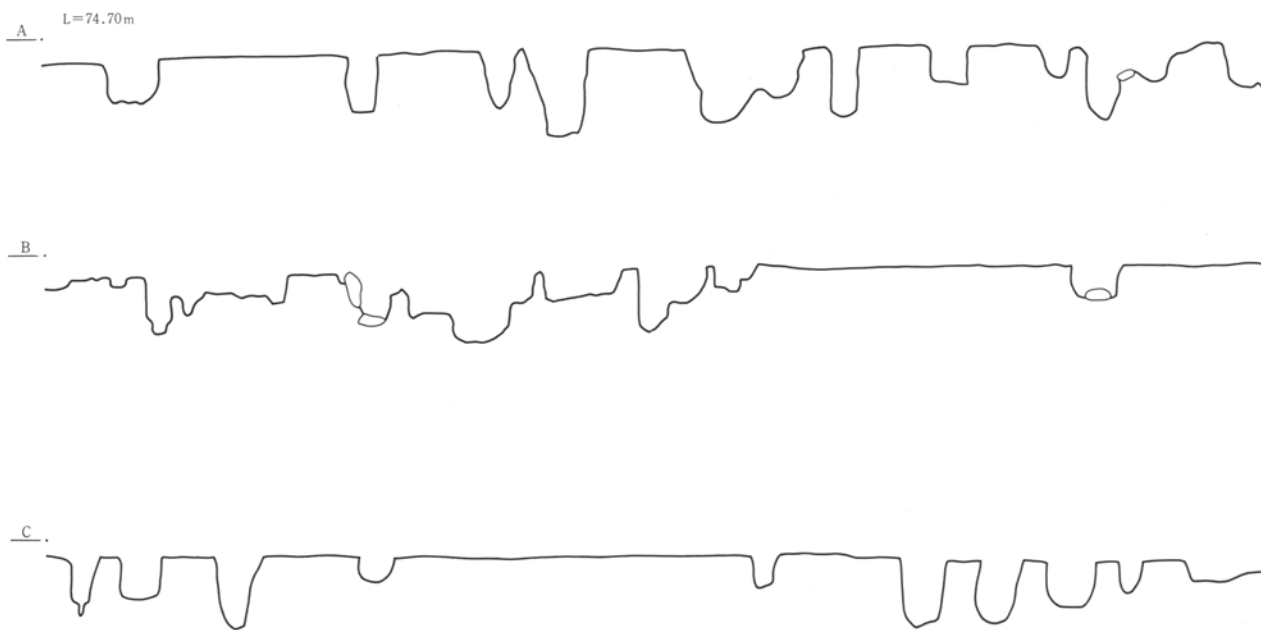
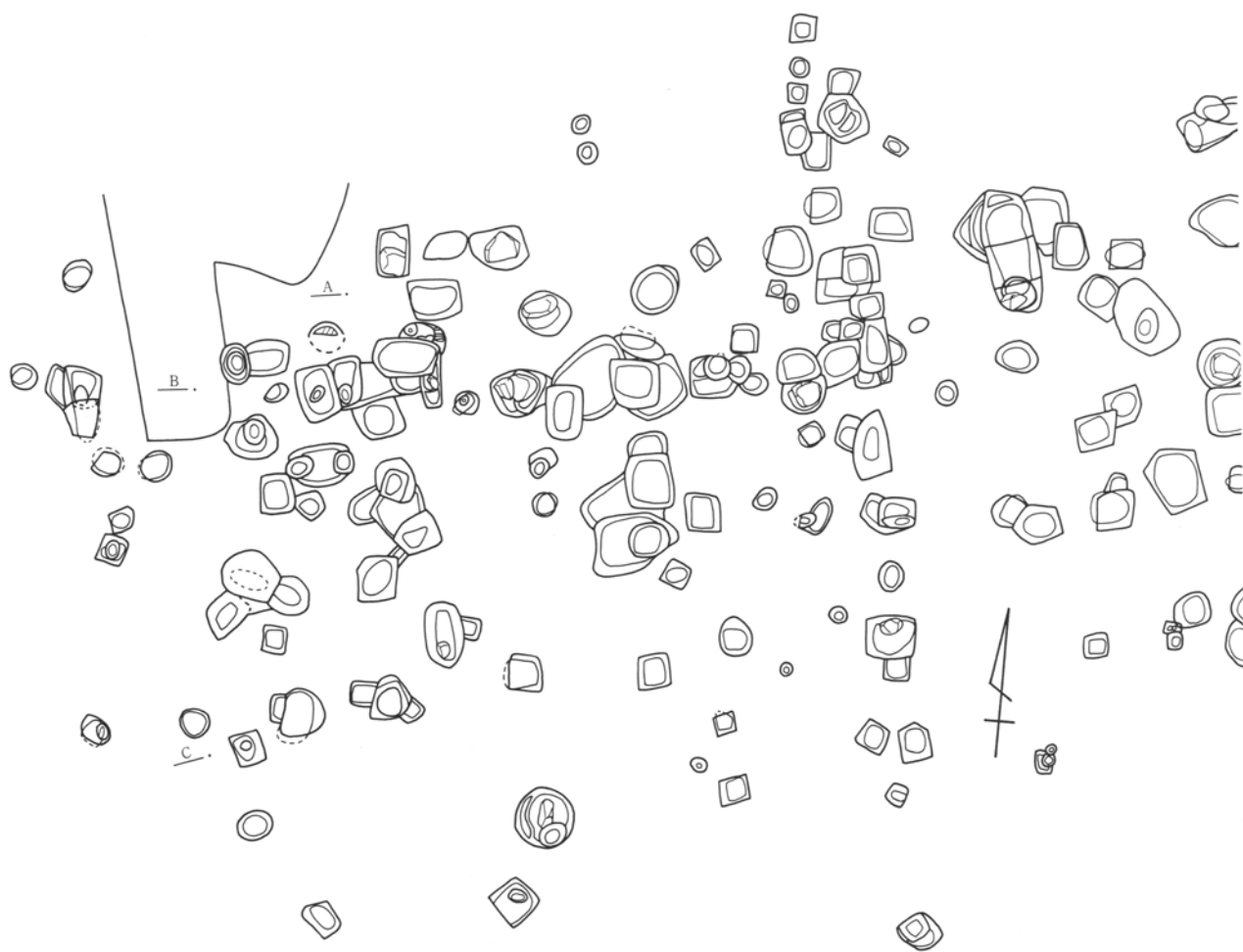
A.D. 1190～1280年、2025号ピット資料でA.D. 1155～1265年、真の年代が入る確率が68%の場合、615号ピット資料でA.D. 1210～1260年、924号ピット資料でA.D. 885～905年、952号ピット資料でA.D. 1220～1260年、2025号ピット資料でA.D. 1165～1225年という値が出された。

924号ピット資料は他の資料より百数十年古い年

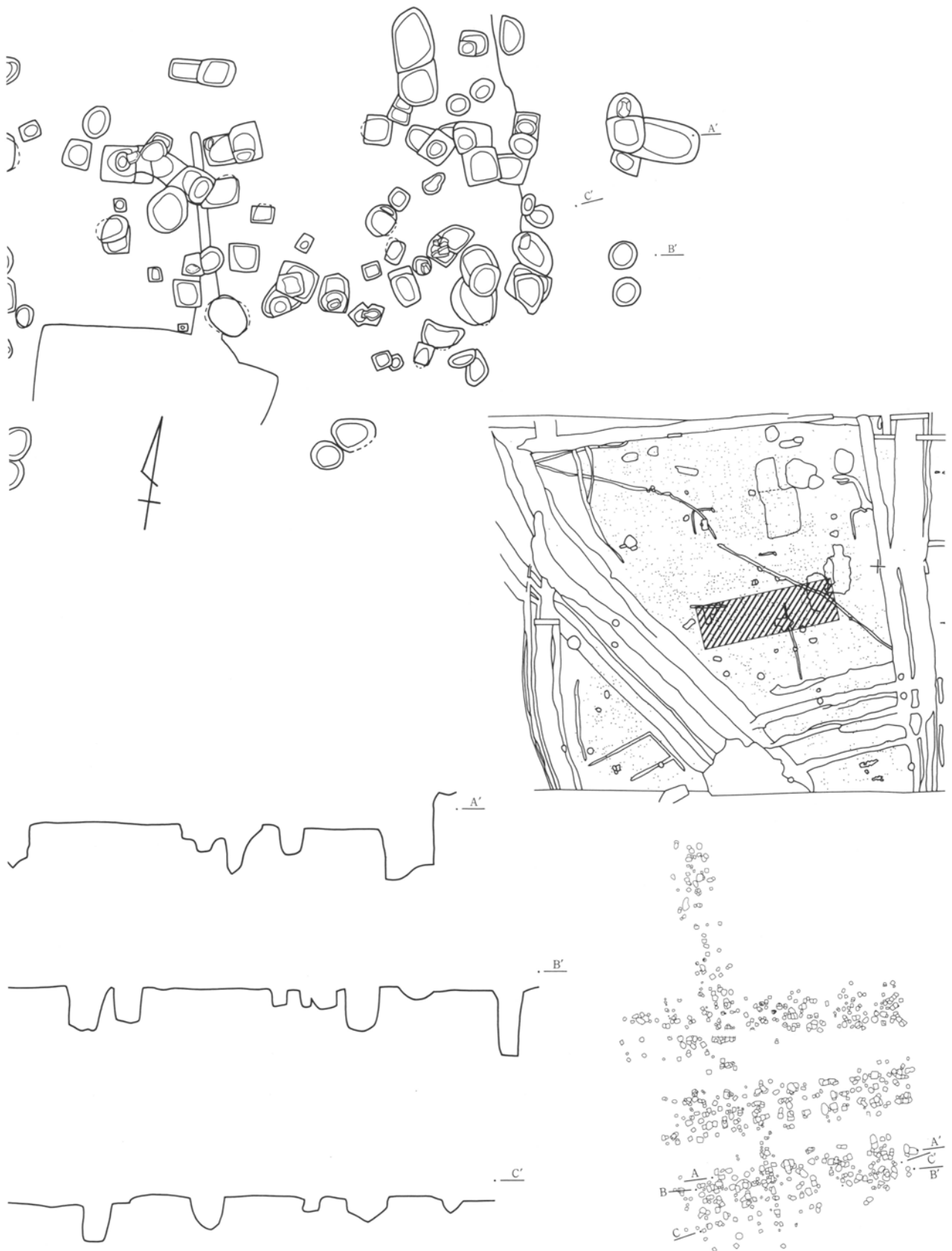
代を示しているため検討を要するが、他の3資料は12世紀後葉～13世紀中葉という年代を示している。これらの炭化材が建材であったとすると、本屋敷遺構の一部建物の年代は鎌倉時代の所産ということになるが、カーボンデイトイングで得られた年代は陶磁器の観察で示された年代（13世紀中世以降）の古い段階に重なるものである。



第188図の(2) 3区1面屋敷遺構柱穴群第3集中域東西列

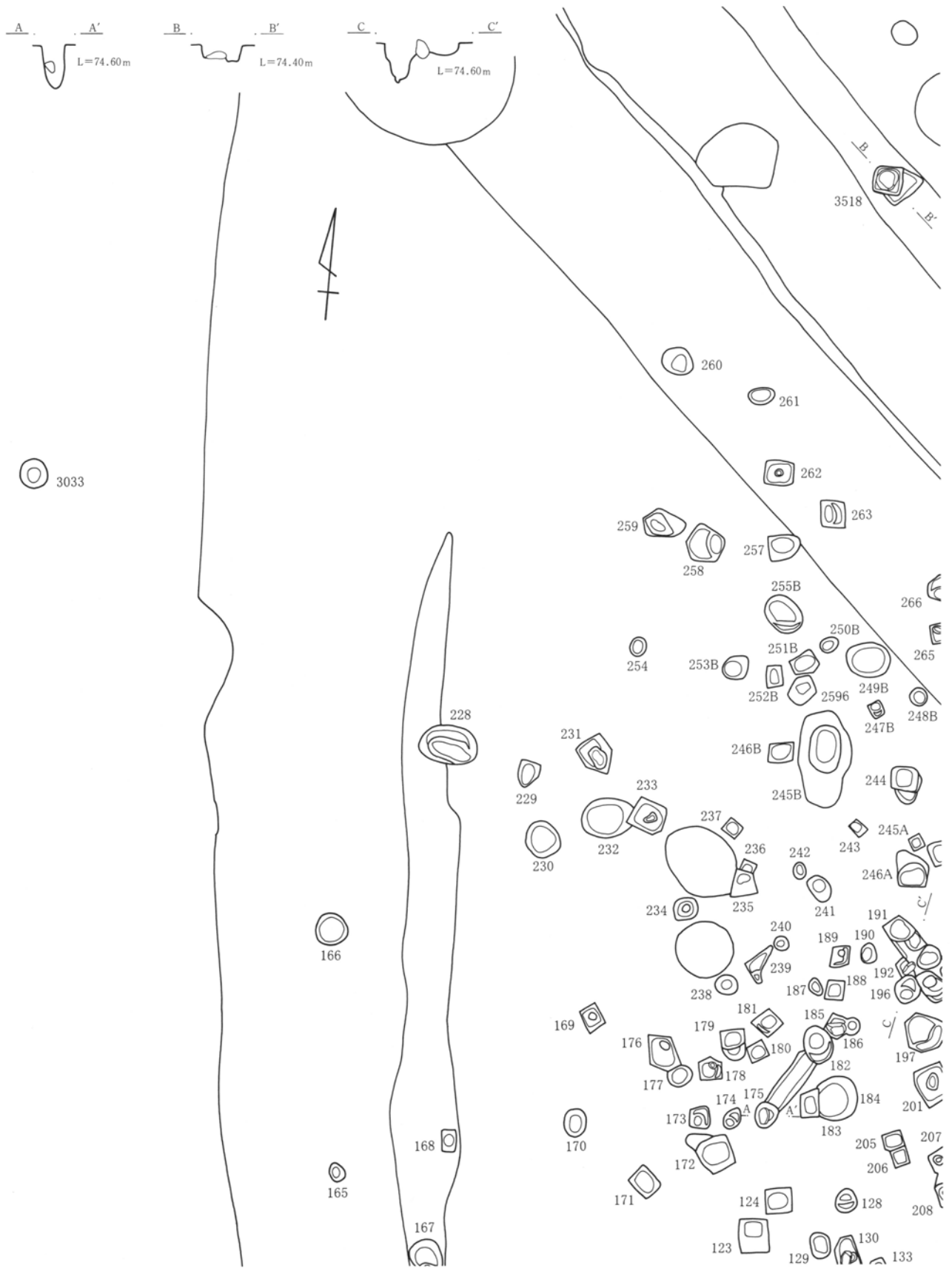


第189図の(1) 3区1面屋敷遺構柱穴群第3集中域東西列

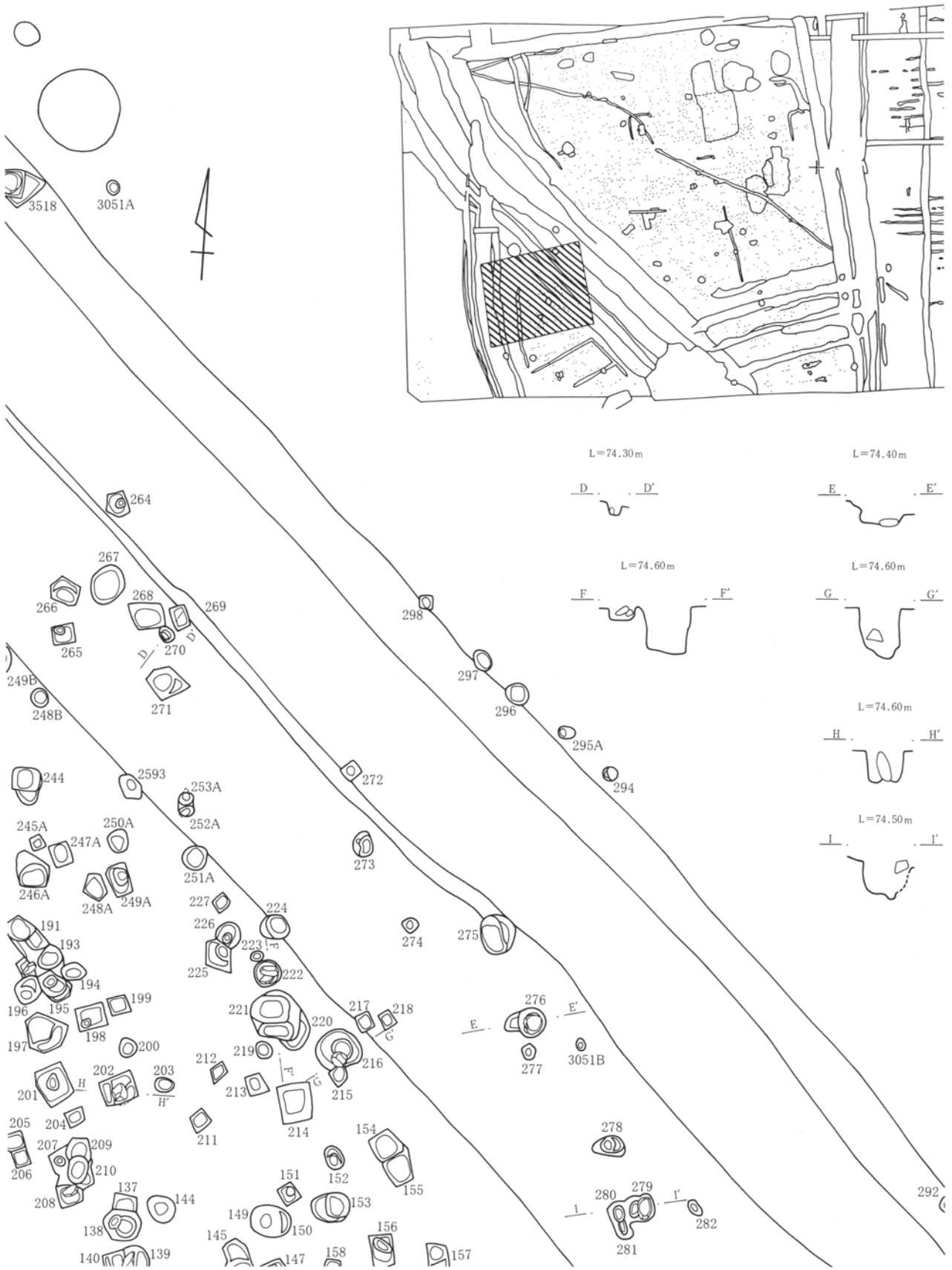


第189図の(2) 3区1面屋敷遺構柱穴群第3集中域東西列

第3章 発見された遺構と遺物

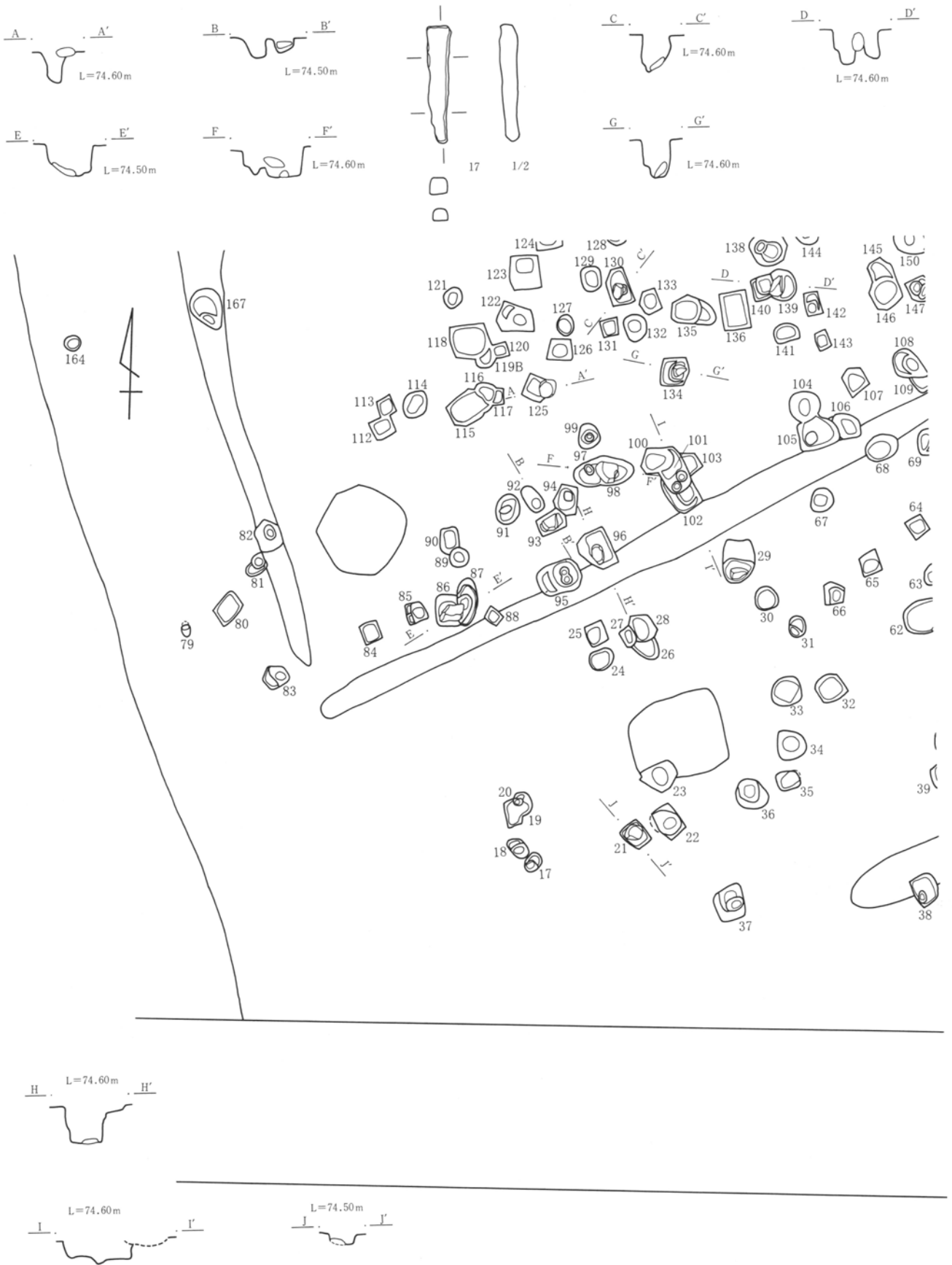


第190図の(1) 3区1面屋敷遺構南西部北側の柱穴群



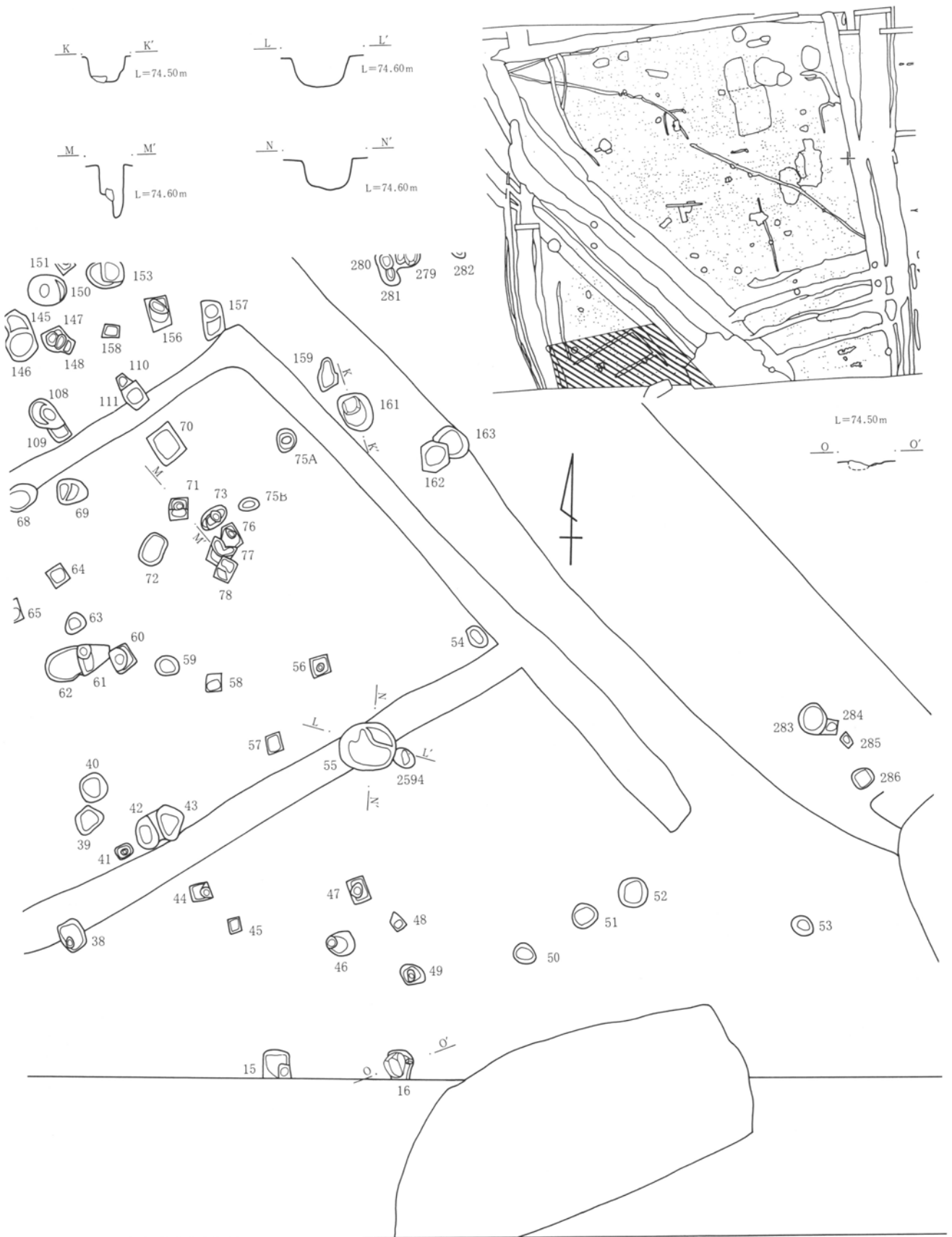
第190図の(2) 3区1面屋敷遺構南西部北側の柱穴群

第3章 発見された遺構と遺物



第191図の(1) 3区1面屋敷遺構南西部南側の柱穴群266・267

第3節 3区の遺構と遺物



第191図の(2) 3区1面屋敷遺構南西部南側の柱穴群



第192図 3区1面屋敷遺構東部柱穴群出土遺物

7. 3区南西部の遺構

(1) ピット群 (第193図、図版74)

概要 屋敷遺構の外側となる3区南西部に於いては13基のピットが在った。これらのピットはそれぞれ単独で立地し、切り合い等は認められなかった。

出土遺物もなく時期特定には至らなかったが、覆土の様子から、概ね屋敷遺構内ピットと同様の時期

のものであろうと判断される。

これのピットのうち3-1-2~5号ピット、3-1-6~10号ピット、3-1-11・12号ピットは近接して位置しているが、3-1-1・13号溝は単独で位置している。このうちピットは7・8号ピットと11・13号ピットがピットの主軸方向と形態が近似することから規則的配置に基づくものである可能性を有するものの、全体として建物配置等を見出すことはできなかったが、小型のものは杭の打設痕と判断され、それ以外は柱穴であった可能性を有する。

規模 [1号ピット] 径24×27cm 深さ35cm

[2号ピット] 径27×27cm 深さ29cm

[3号ピット] 径30×41cm 深さ15cm

[4号ピット] 径36×35cm 深さ15cm

- [5号ピット] 径20×28cm 深さ23cm
- [6号ピット] 径22×22cm 深さ22cm
- [7号ピット] 径12×14cm 深さ9cm
- [8号ピット] 径16×18cm 深さ10cm
- [9号ピット] 径22×17cm 深さ8cm
- [10号ピット] 径43×50cm 深さ15cm
- [11号ピット] 径13×17cm 深さ6cm
- [12号ピット] 径33×42cm 深さ9cm
- [13号ピット] 径12×14cm 深さ13cm

構造 13基のピットのプランは屋敷遺構内所在ピット同様、円形と方形に大別され、前者には2・3・5

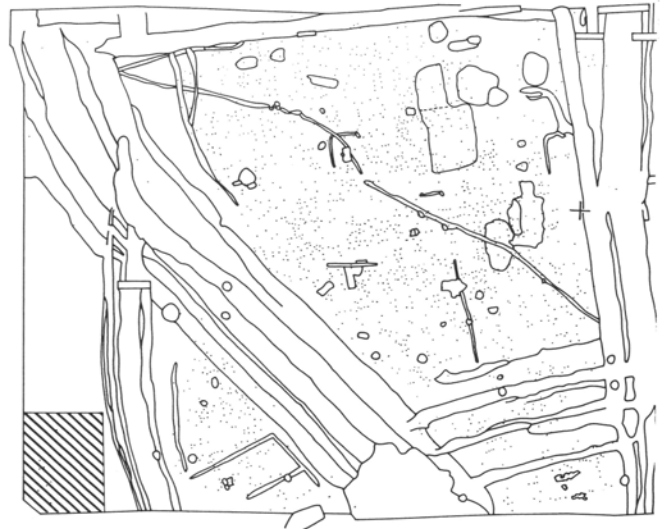
・6・10・12号ピットが該当する。

規模はバラツキがあり、概ね3・4・10・12号ピットは比較的大型で、他は小型に分類されるが、後者のうち特に方形プランの7・8・11・13号ピットはより小型であった。径の平均は25.46cmを測り、深さは平均16.08cmと浅いものであった。尚、円形プランの

ピットの径の平均は

32.08cm、方形プランピッ

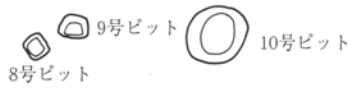
トでは平均19.79cmを測った。



11号ピット



12号ピット



8号ピット

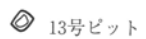
9号ピット

10号ピット



6号ピット

7号ピット



13号ピット



2号ピット

3号ピット

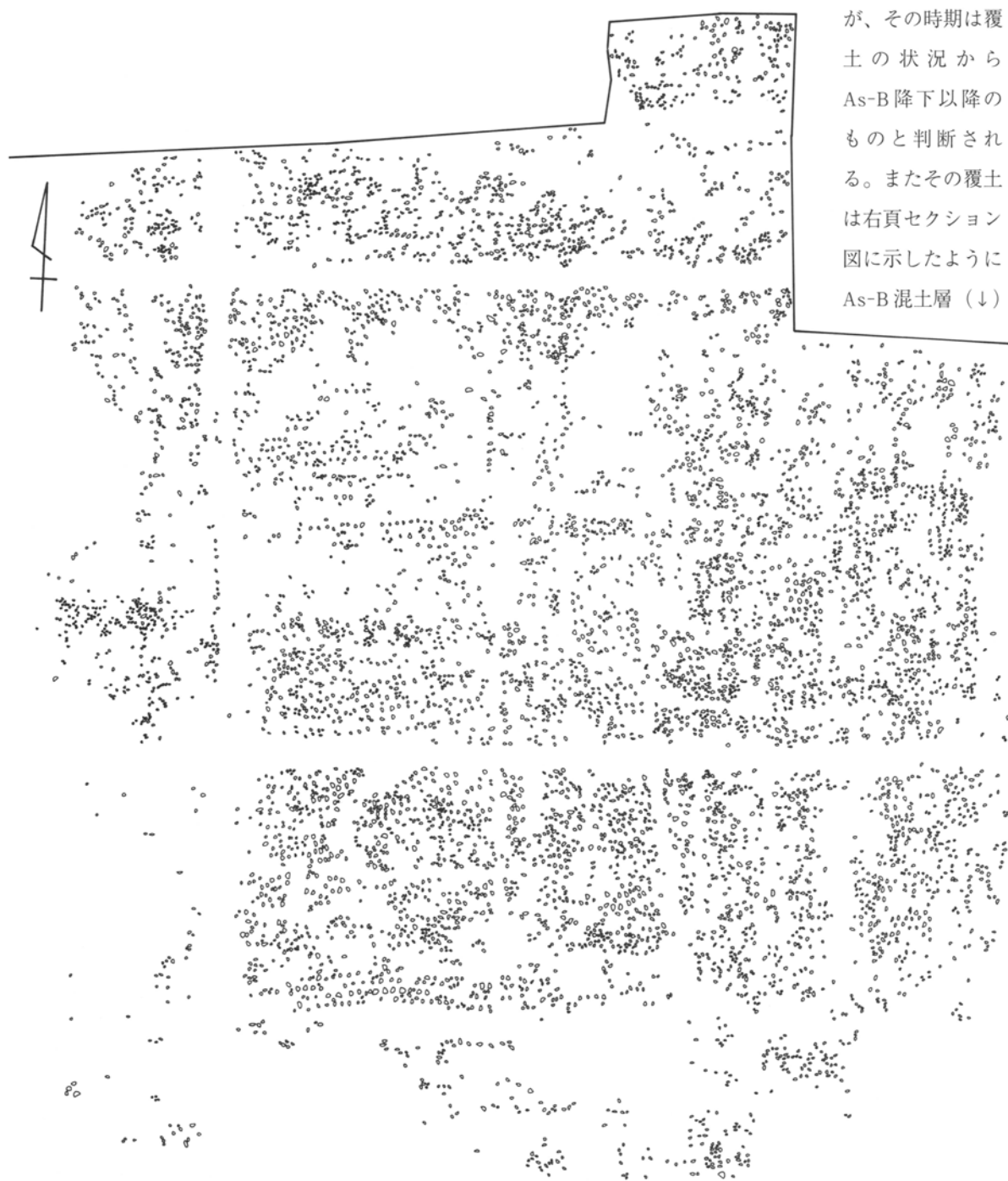
5号ピット

4号ピット



1号ピット

第193図 3区1面屋南西部ピット群



第194図の(1) 3区1面東部鋤跡群

8. 3区東部の遺構群

(1) 鋤跡群 (第194図. 図版77)

概要 屋敷遺構の東方、3区東半部の近代以降の耕作遺構の下面に於いて、多数の鋤跡が広範囲に亘って確認された。

この鋤跡からの遺物の出土はみられなかった(ア)

群の下位層であり、多量のAs-Bを含むため、中世のそう遅くならない段階で掘削された鋤跡群と判断される。

尚、本鋤跡群は後述する4区の鋤跡群との関係から中世の水田開削に伴う耕作痕として把握されるものであるが、後世の耕作溝等による攪乱もあって、

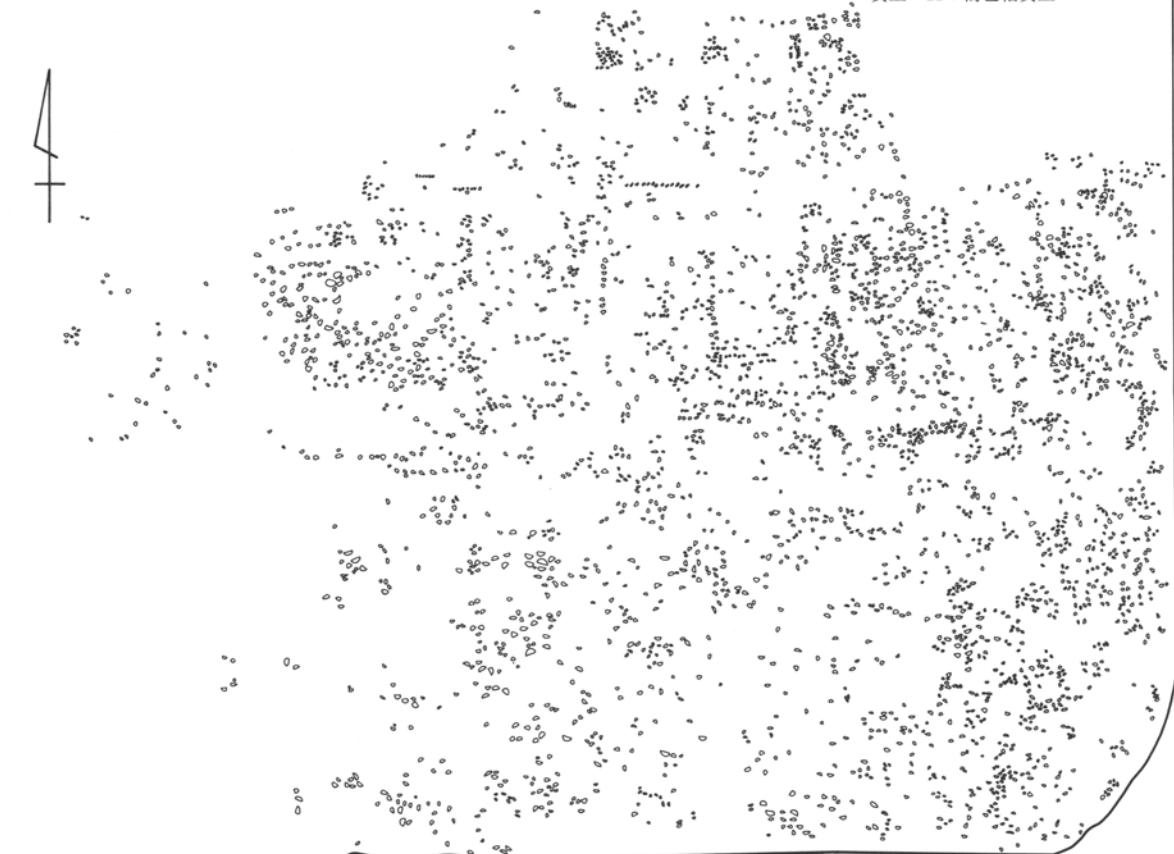
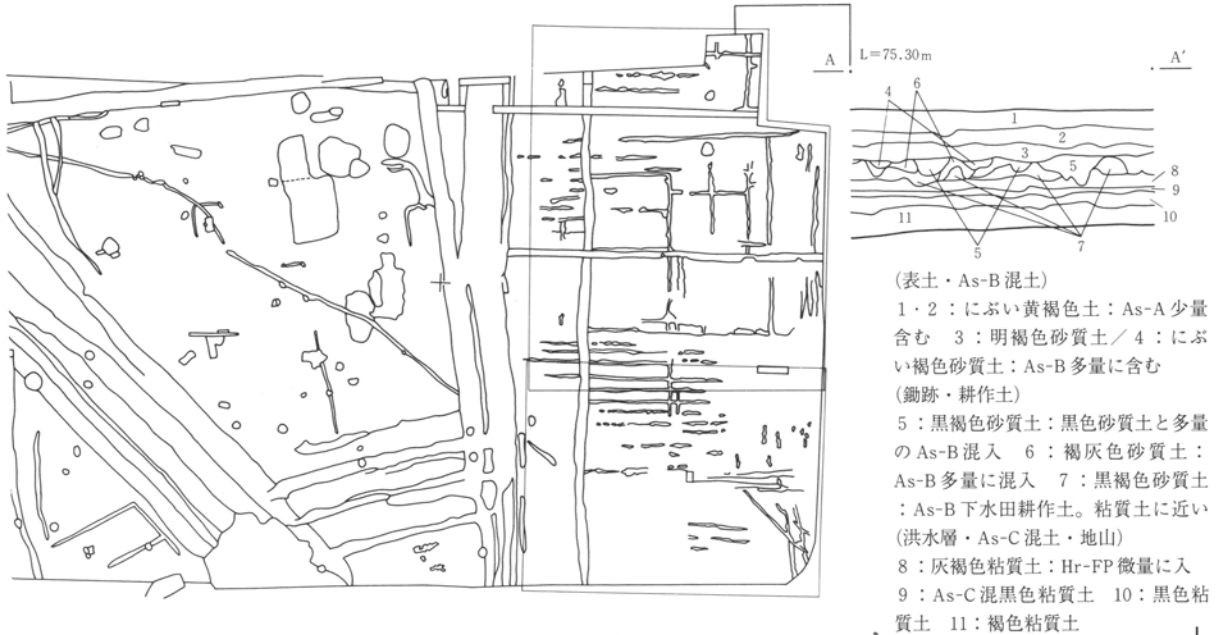
4区のように明瞭な状態で畦等の位置を想定することはできなかった。

規模 確認範囲 東西31.5m 南北58.1m

鋤痕跡 幅10~15cm前後 奥行き4~6cm前後
深さ8cm程度

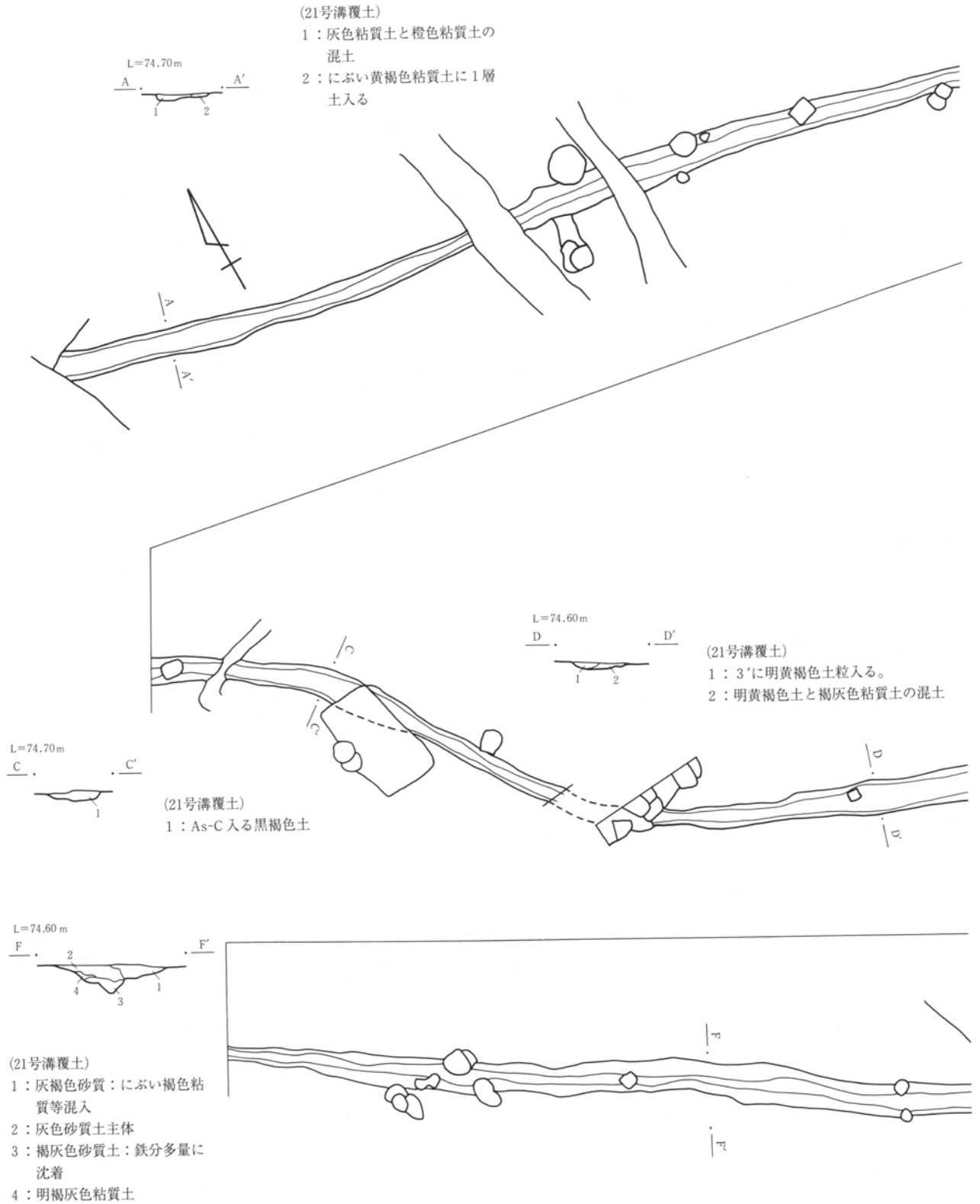
構造 畦は上述のように抽出できなかったので、一面一面の水田の形状・規模は確認できなかった。

個々の鋤跡については後述する4区の中世水田面に見られたものと形態的には近似している。

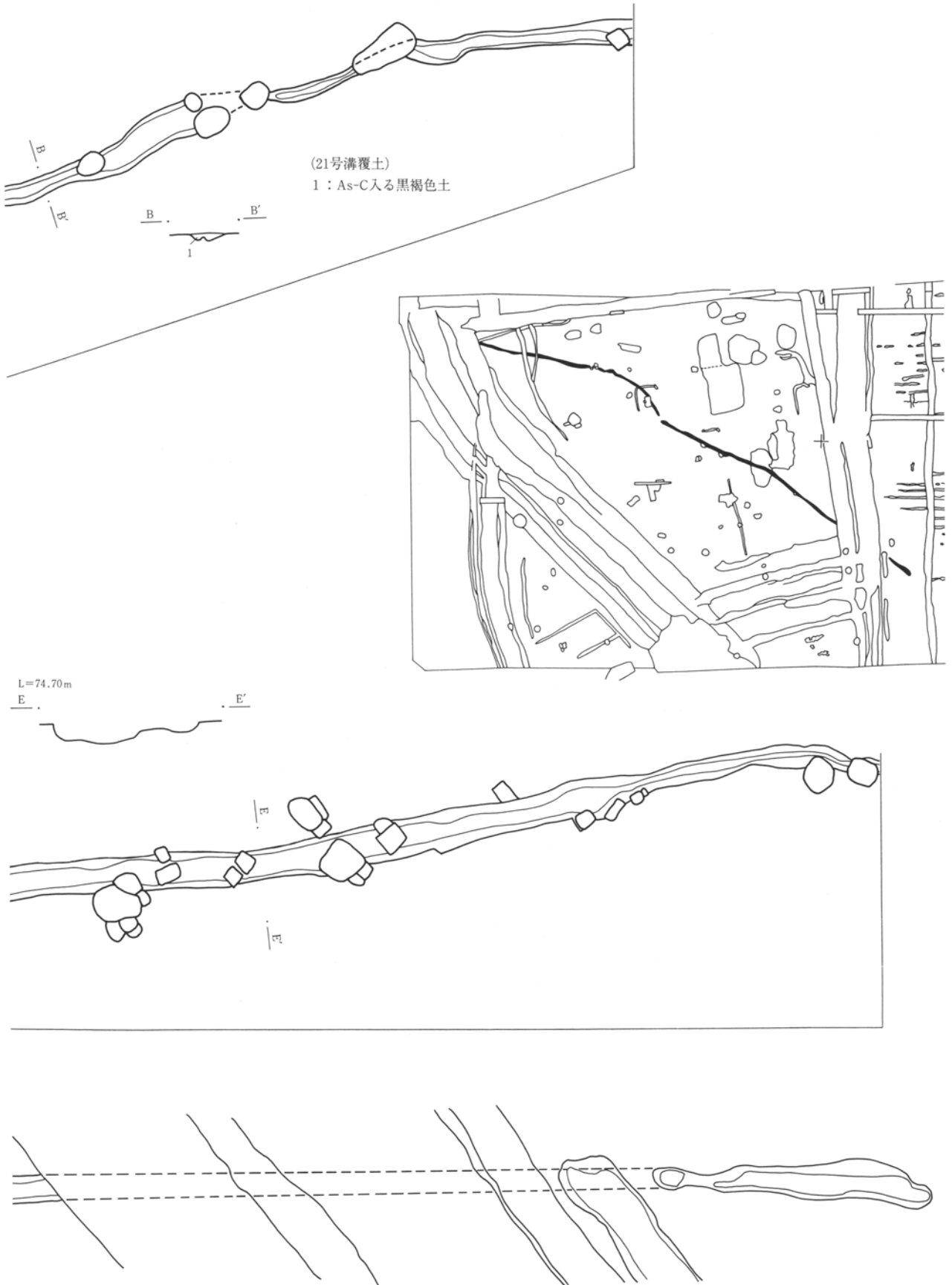


第194図の(2) 3区1面東部鋤跡群

1-4 3区1面の遺構と遺物Ⅲ (古代)



第195図の(1) 3-1-21号溝



第195図の(2) 3-1-21号溝

第3章 発見された遺構と遺物

(1) 3-1-21号溝 (第195図. 図版65・66)

概要 3-1-21号溝は屋敷遺構北西隅部3-1-2号溝と3-1-20号溝との交点付近から、屋敷遺構の北寄り2/3の区域を概ね西北西-東南東方向に横切り、屋敷遺構東側の溝群を越えて3-1-39号溝手前まで達している。

本溝は屋敷遺構の溝・土坑・ピット等多くの遺構と重複関係にあり、何れの遺構にも本溝は切られているが、調査段階ではこうした新旧関係に拘らず、一括して掘削している。また、本溝からの出土遺物は認められず時期特定には至らなかったが、覆土の状態からAs-B降下以前の所産と判断される。また覆土の一部にAs-Cを含むもののHr-FA・Hr-FPが確認されなかったため、4～5世紀段階まで遡る可能性も有する。

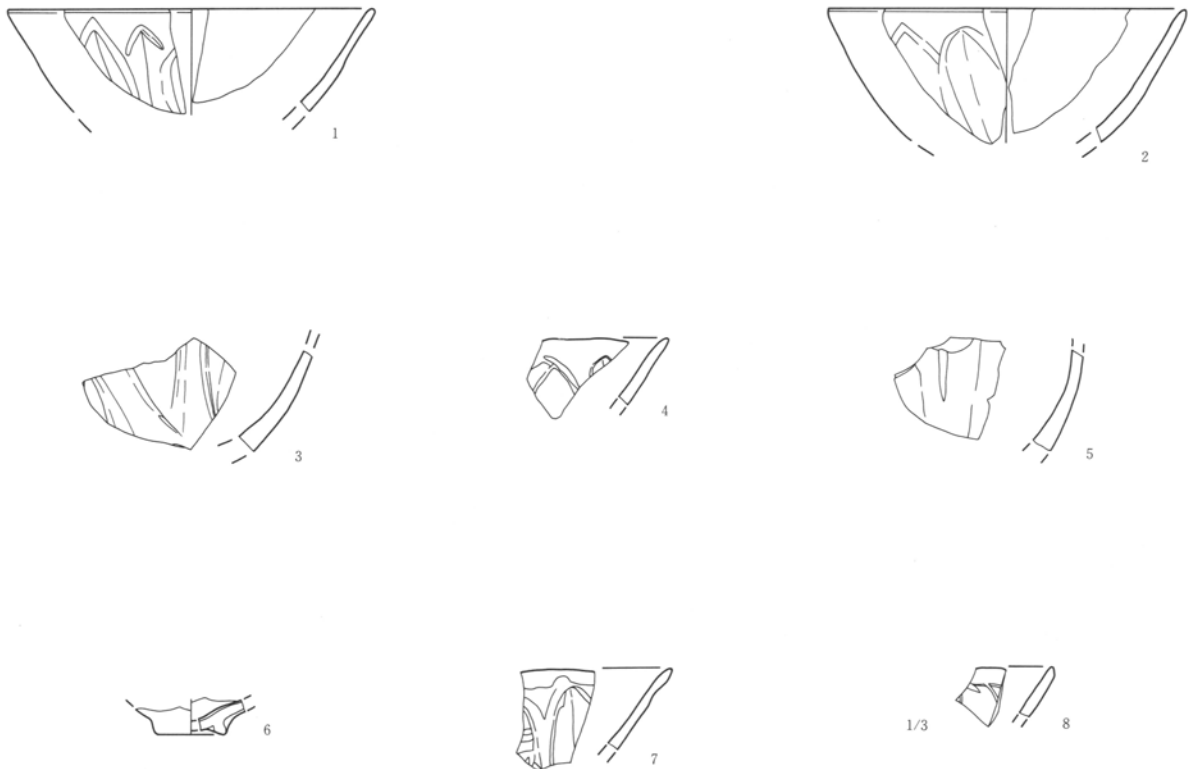
本溝は若干蛇行するものの比較的直線的で長い距離を掘削しているため水路としての使用を検討したが、流水の痕跡等は確認されなかった。また、明確な掘削意図も特定することはできなかった。

規模 長さ61.9m 幅55cm 深さ17cm

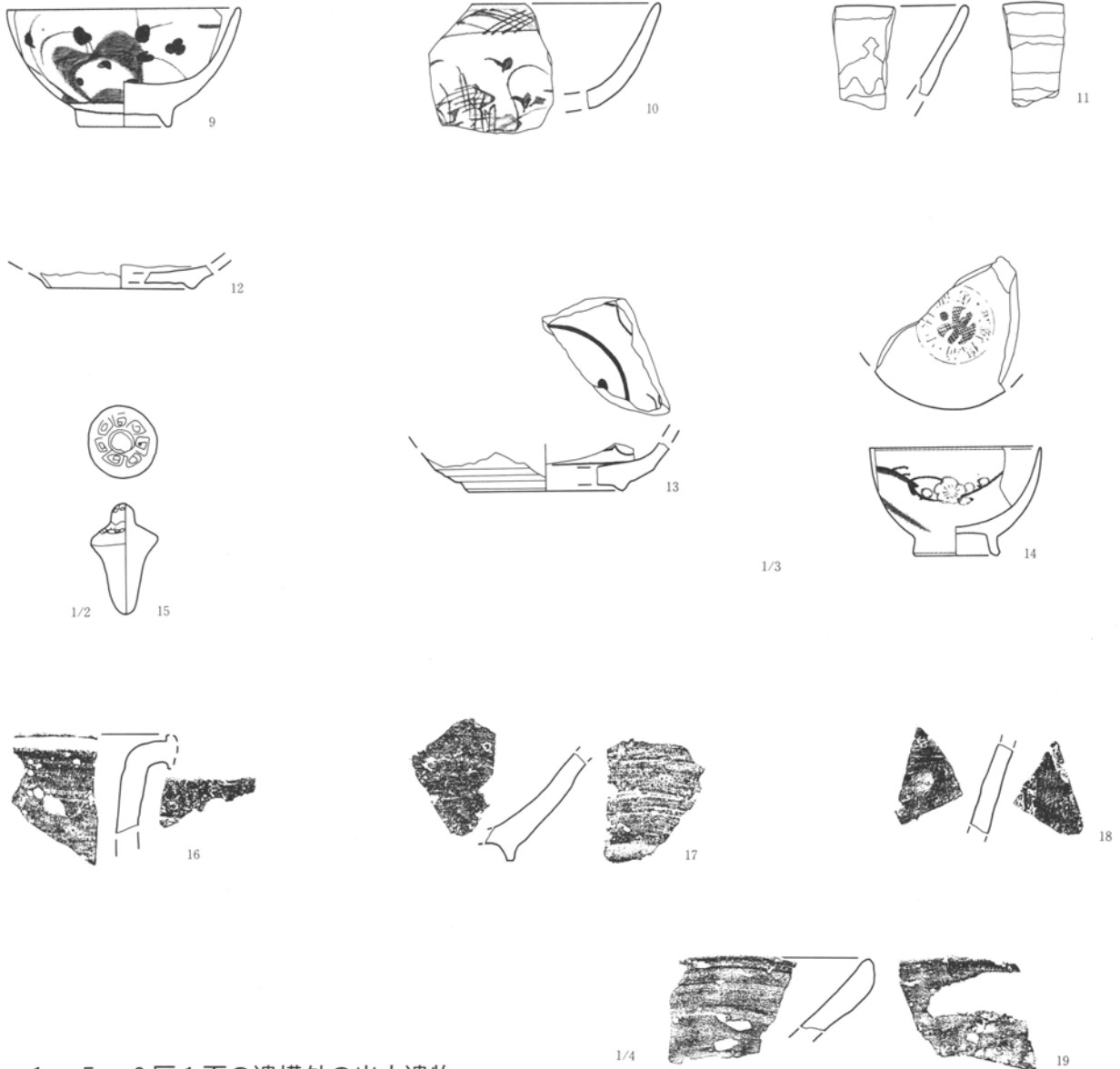
構造 本溝は中央西寄りで大きく蛇行する以外は比較的直線的な走行を呈しているが、そのプランは大きくは西側2/3の区域と東側1/3の区域とに分けることができる。前者は西北西-東南東の走行を基本としているが、西寄り2/3の範囲で北側に大きく張り出ししている。最も大きく張り出ししているのは西側から3/4程の地点で、4m程張り出ししている。この地点から西の張り出し部分は直線的に西端から2m程の地点まで、東側は弧を描きながらやや急な状態でそれぞれ本来のラインに接続している。

さて、溝の西端底部の高さは標高74.56mを測り、張り出し頂部では標高74.47m、東端部では標高74.39mを測った。溝全体の高低差は僅か17cmしかなく、溝の長さに鑑みると殆ど高低差なく掘削した様子が窺われる。

本溝の掘削底面は平底気味であり、壁面はやや開いている。尚、溝の幅員は一定ではなく、24～55cm幅で不規則な増減が見られる。



第196図 3区1面遺構外出土遺物 (その1)



1-5 3区1面の遺構外の出土遺物

(1) 3区1面に於ける遺構外の出土遺物

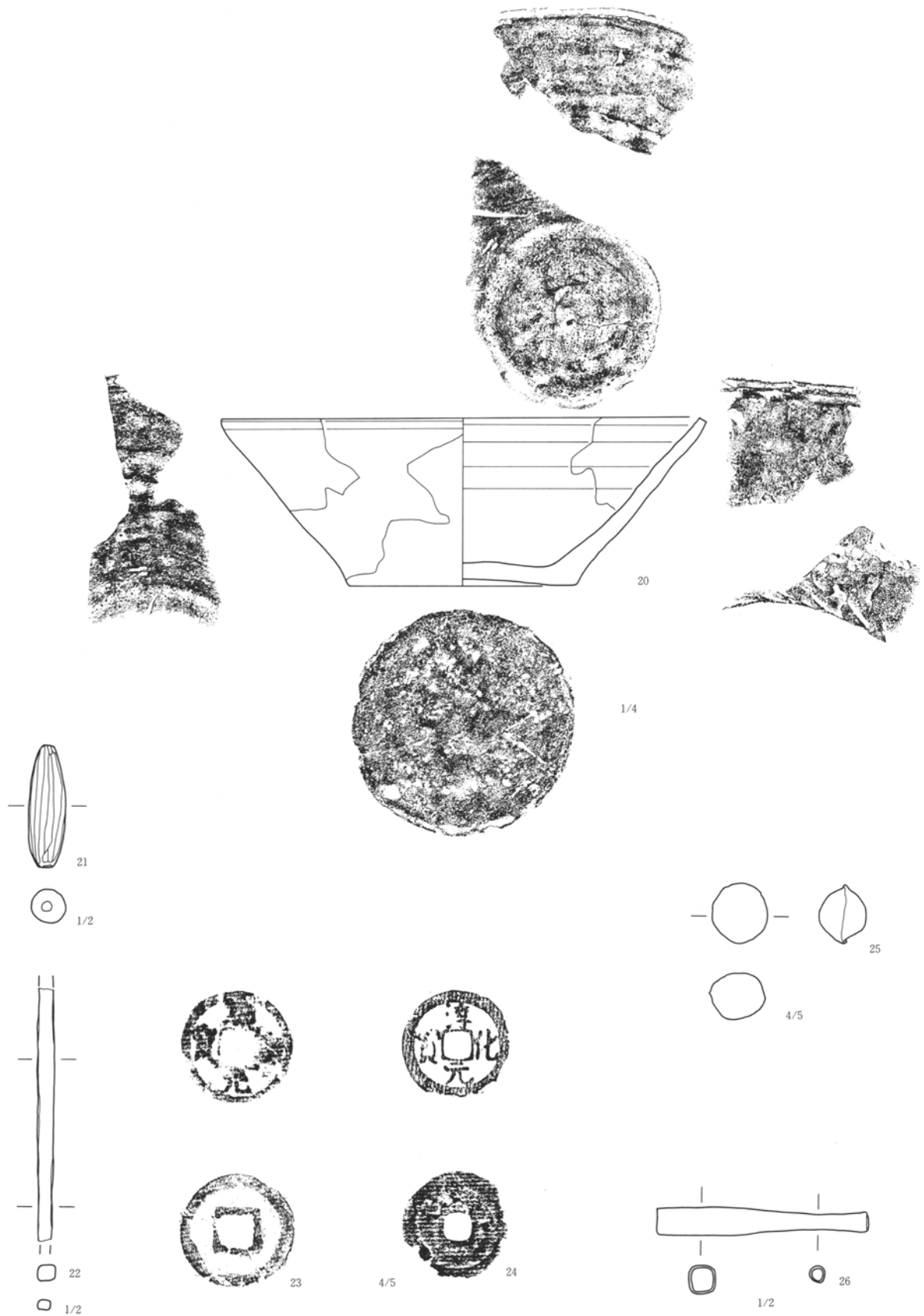
(第196~199図. 図版99・100)

概要 3区1面に於いても遺構に伴わない遺物が出土したが、これらは3区1面で確認・調査された各遺構と同様の時期、即ち中・近世を中心とする古代以降の時期のものであった。出土した遺物には龍泉窯系の青磁碗(1~8)、肥前産の磁器碗(9,10)、大窯の施釉陶器碗(11)、古瀬戸の施釉陶器碗(12)、瀬戸美濃系の陶器碗(13,14)、陶器蓋(15)、知多産の焼締陶器甕(16)と軟質陶器播鉢(17)、産地不明の焼締陶器甕(18)と軟質陶器播鉢(19・20)の他、土師器の

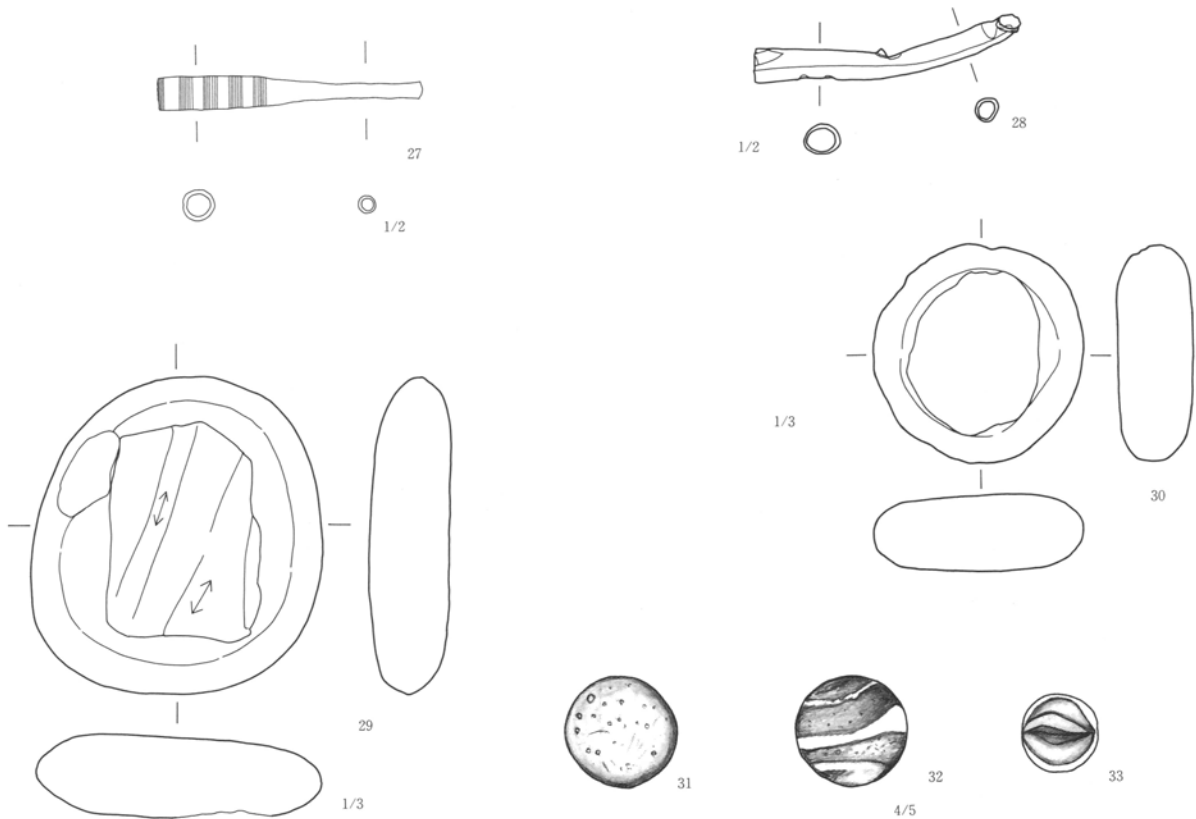
第197図 3区1面遺構外出土遺物(その2)

坏・甕、須恵器の碗・甕・瓶・蓋、灰釉陶器碗、軟質陶器などの土器、陶磁器の破片が見られた。

この他、土錘(21)といった土製品や、土製箸(22)や、磨耗痕の残る台石(29・30)といった石製品、銭種不特定(□□元寶)の銅銭(23)や淳化元宝(24)も見られたが、銭は模鑄銭であった。また火縄銃の鉄砲玉(25)や、18世紀以降のキセルの吸い口(26~28)などの金属器。おはじき(31・32)、ビー玉(33)といったガラス製玩具などの出土も見られた。



第198図 3区1面遺構外出土遺物（その3）



第199図 3区1面遺構外出土遺物（その4）

2-1 3区2面の遺構と遺物

(1) 3区2面の試掘調査(第200図, 図版78・100)
概要 3区2面の調査はAs-C混黒色粘質土上面を確認面とする試掘調査として実施した。試掘調査は2箇所の大グリッドを設定して施した。設定した試掘グリッドは230-239-270-279グリッドと250-259-270-279グリッドで、前者(南側のもの)を「試掘グリッド1」、後者(北側のもの)を「試掘グリッド2」と称した。

試掘調査の結果、試掘グリッド1に於いては確認面(As-C混黒色粘質土上面)はほぼ平坦で、遺構・遺物は確認されなかった。試掘グリッド2に於ける確認面もほぼ平坦であったが、北東部で浅い小規模の溝と小ピットが確認された。また土師器・須恵器の甕や碗など律令期のものを中心とする遺物の出土があり、砥石(1)の出土も見られた。

尚、第2面はこのように遺構が殆ど確認されず、その遺存状況も悪かったため、調査期間との兼ね合いに鑑みて拡張等は行わず、試掘調査を以って調査を終了した。

(2) 溝遺構(第200図)

概要 溝遺構は試掘グリッド2の北東部で3条が確認された。調査時点で遺構名称は付されていないが南側から3-2-1~3号溝と呼称することとする。尚1~3号溝の遺存状況は極めて悪く、残穴が残るに過ぎない。尚、3溝ともに試掘グリッド内で完結している。

1~3号条の溝からの出土遺物はなく時期特定もできなかったが、何れもAs-B下水田の耕作土下に在ったAs-FP混灰褐色粘質土で被覆されていたた

第3章 発見された遺構と遺物

め、6世紀後半から11世紀の間の所産として把握されるものである。

また掘削意図については本溝群はその遺構配置から（畠の）耕作溝である可能性が考えられる。

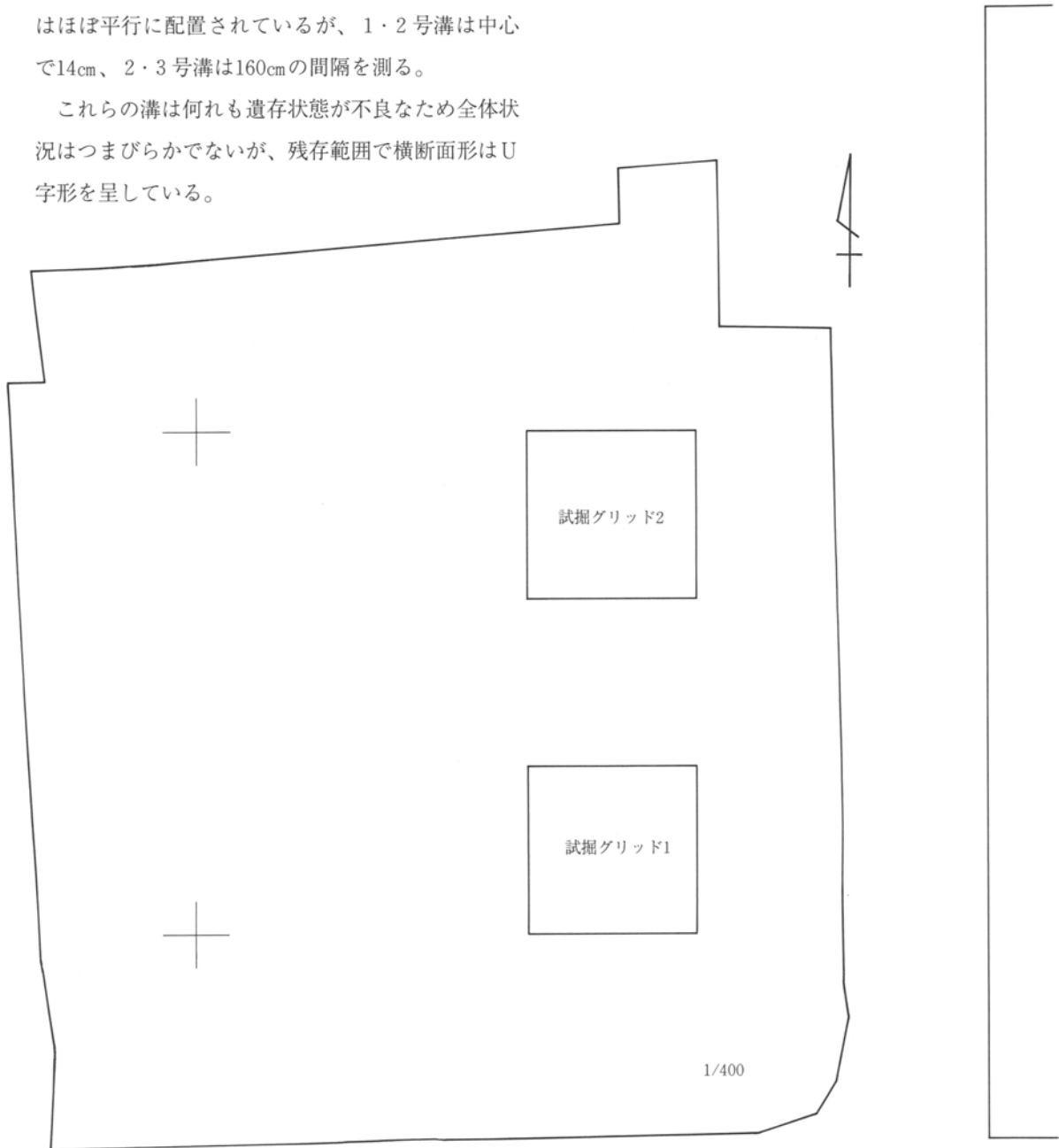
規模 （1号溝）長さ52cm 幅7cm 深さ1cm

（2号溝）長さ128cm 幅7cm 深さ2cm

（3号溝）長さ100cm 幅10cm 深さ2cm

構造 1～3号溝は何れも東北東－西南西の走行を取り、そのプランは直線的である。尚、1～3号溝はほぼ平行に配置されているが、1・2号溝は中心で14cm、2・3号溝は160cmの間隔を測る。

これらの溝は何れも遺存状態が不良なため全体状況はつまびらかでないが、残存範囲で横断面形はU字形を呈している。



第200図の(1) 3区2面の試掘調査

(2) 小ピット群 (第200図. 図版78・100)

概要 試掘グリッド2に於いては7基の小ピットが確認された。

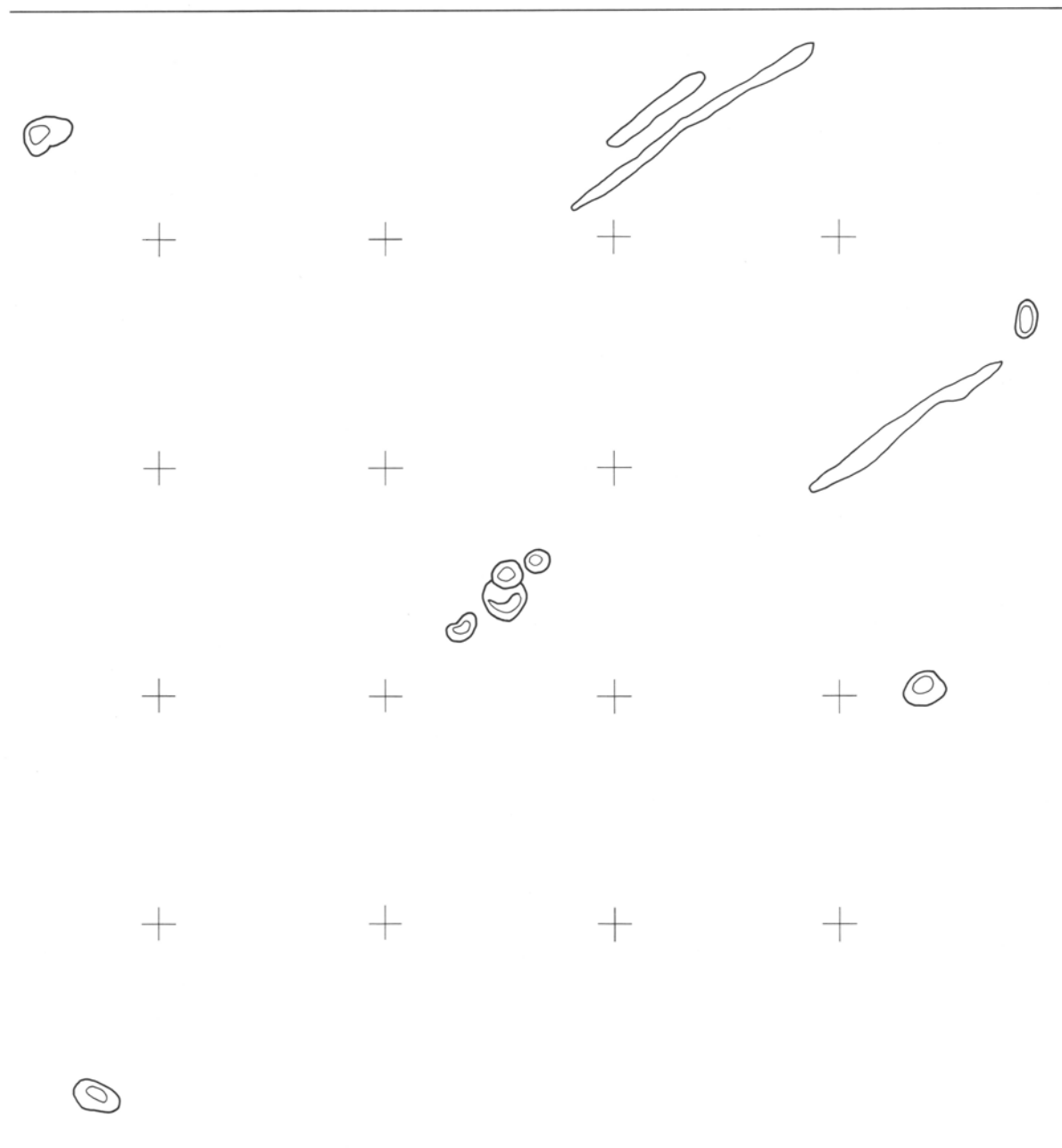
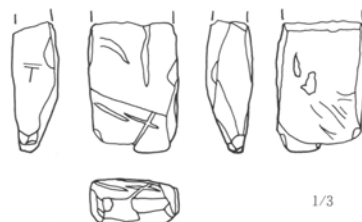
小ピットの時期は特定できなかったが、上述の3-2-1~3号溝と同じAs-FP混灰褐色粘質土を覆土としているため、溝群と同時期と解釈される。

人為的かどうかも含め掘削意図は不明であるが、少なくとも位置関係から建物に伴うものではなく作物の痕跡という解釈が考えられる。

規模 径8~13cm 深さ8cm以下

構造 何れのピットも円形プランを呈する。

形態は丸い窪み状を呈する。



第200図の(2) 3区2面の試掘調査(グリッド2)と出土遺物

3-1 3区3面の試掘調査と遺物

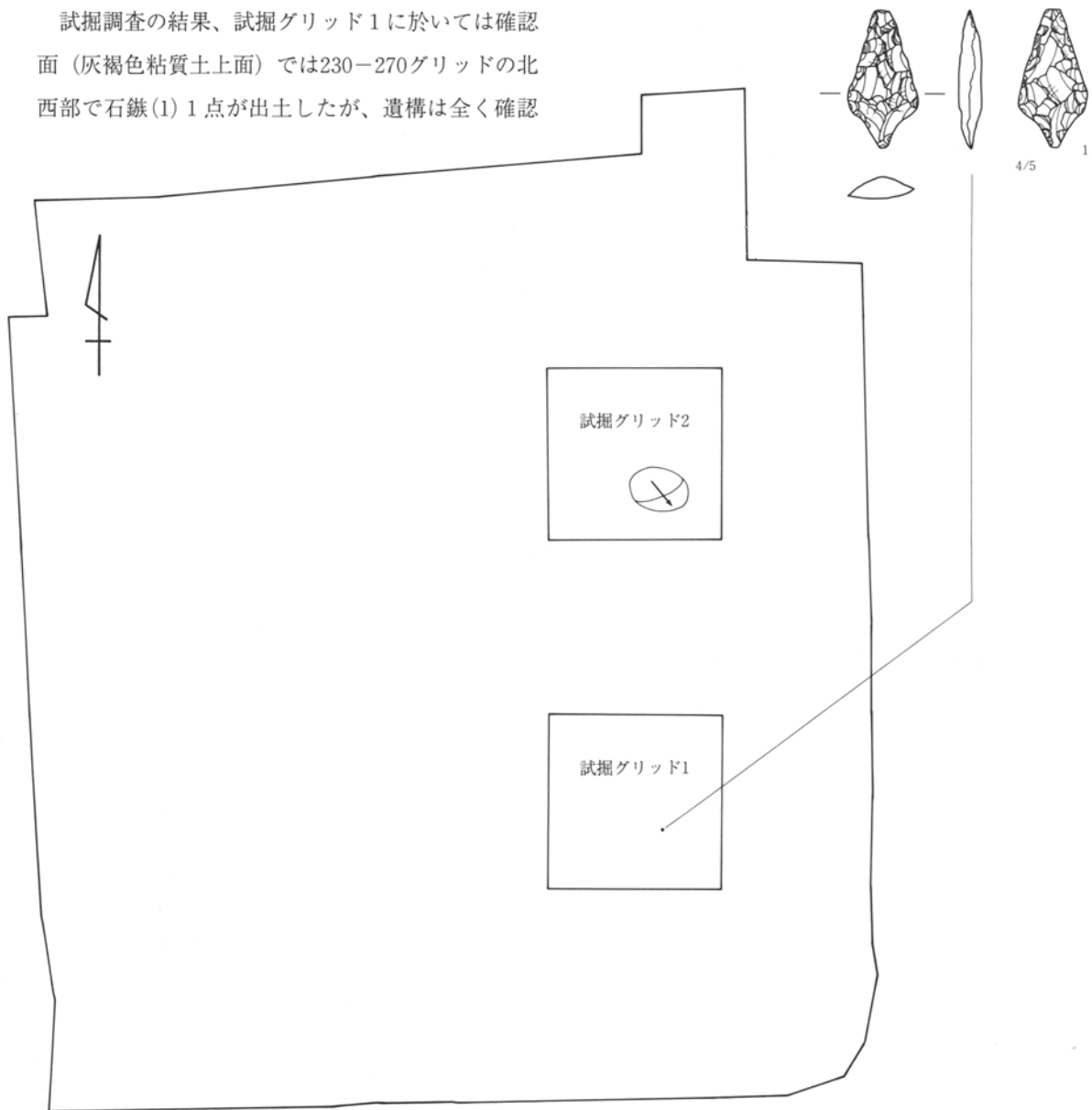
(1) 3区3面の試掘調査(第201図, 図版78・100)
概要 3区3面の試掘調査は2面の調査終了後、直ちに実施された。

3面の調査に於いてはAs-C混黒色粘質土及び黒色粘質土を除去した地山洪積層(灰褐色粘質土)上面を遺構確認面とした。試掘グリッドは2面に於ける試掘調査と同じ230-239-270-279グリッド(試掘グリッド1)と250-259-270-279グリッド(試掘グリッド2)を使用した。

試掘調査の結果、試掘グリッド1に於いては確認面(灰褐色粘質土上面)では230-270グリッドの北西部で石鏃(1)1点が出土したが、遺構は全く確認

されなかった。試掘グリッド2に於いては250-270グリッドと250-271グリッド境の北寄りで風倒木痕1箇所を確認した。覆土は北西側が灰黄褐色粘質土で南東側が黒色土であり、倒木方向は南東方向である。

以上のように3区3面の調査では試掘調査によって遺物1点を出土したものの遺構は確認されなかったため、試掘調査を以って調査を終了した。



第201図 3区3面の試掘調査と出土遺物

第4節 4区の遺構と遺物

4-1 4区の調査概要

4区は区全体が3区東半部から5区に続く谷地形である。4区も3区同様に主に1面の調査であり、

後述するように下位面に対しては試掘調査のみ実施している。

1面ではAs-B(1108)降下以降の遺構群を確認調査した。しかし、それらは平安時代末期、中世、中・近世、近世以降の4時期に大別される。

このうち近世以降、近・現代に続く遺構としては広瀬川用水に連なる用水路1条が区東部に在った。また焼夷弾の爆裂坑も1基確認している。

中世～近世に遺構としては溝8条、小ピット14基を調査した。溝群は耕作に伴うものと判断される。

中世の遺構としては区南西部に3区から続く水田耕作の鋤先痕が確認された。これらの鋤先痕は覆土の状態から中世でも遅くならない時期の所産と判断されるものであったが、個々の鋤先痕は比較的明瞭に残されており、その分布の濃淡から畦を復元することができている。

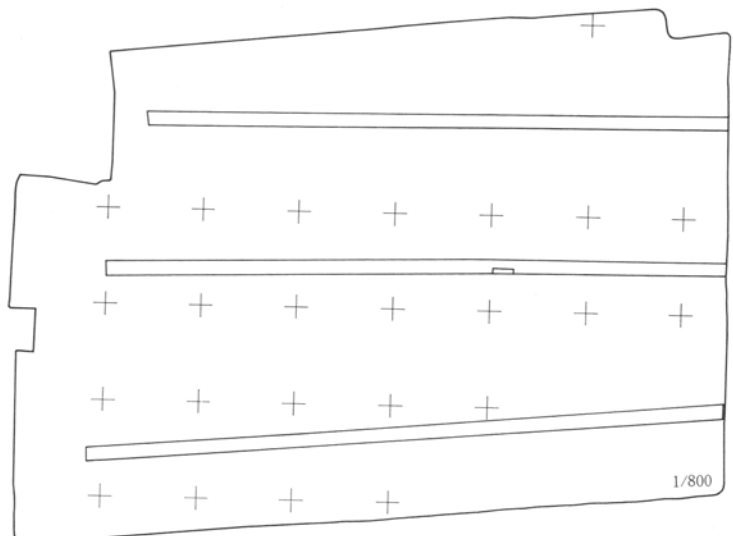
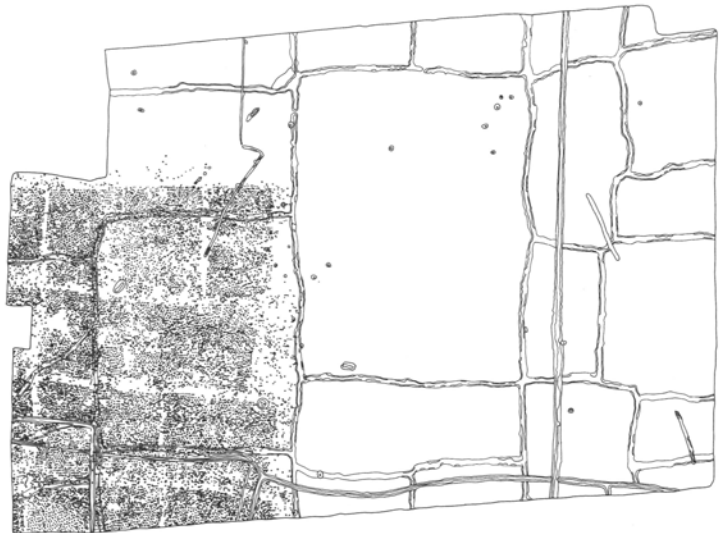
2面ではAs-C(4世紀初頭)を混入する黒色土層上面を確認面とした試掘調査を実施した。

その結果、Hr-FA(6世紀初頭)らしきテフラで充填した窪みが確認されたものの、遺構らしいものは確認されなかったため、2面の調査は試掘調査に留め、面的調査は行わなかった。

3面では、洪積層上面に確認面を設定した試掘調査を実施した。

その結果As-C層下で2箇所窪みを確認し、古い風倒木痕1基を確認したが、明瞭な遺構を見出す

平安末期の遺構としてはAs-B下水田がある。この水田址は畦の方向から条里方眼を意識しているものと認識されるものであるが、一面一面の水田面は全体としては大区画畦畔に属するものであるが、その規模には大小があり、地形に制約されて形作られていることが分かる。



ことができなかつた。このため、3面に於いても試掘調査に留め調査を打ち切っている。

4-2 4区1面の遺構と遺物 I (近世以降)

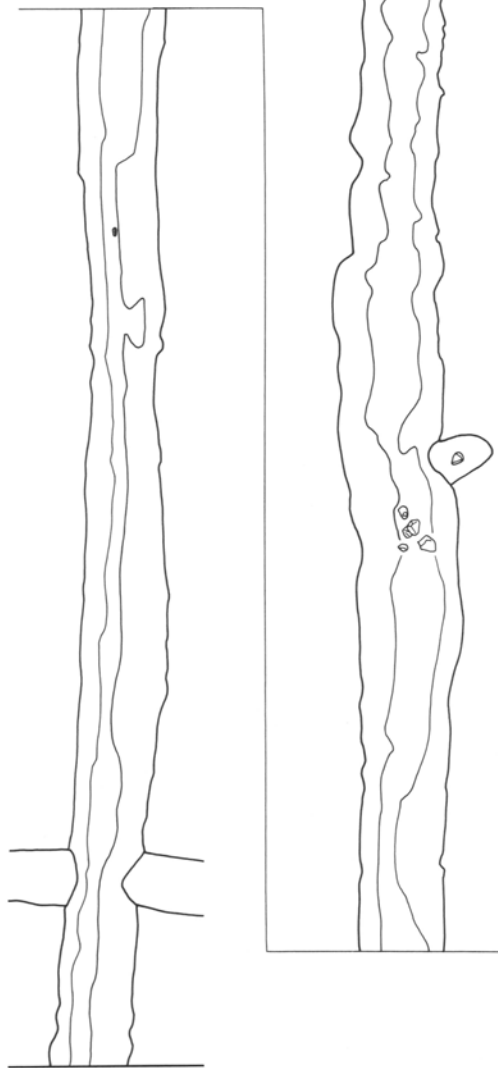
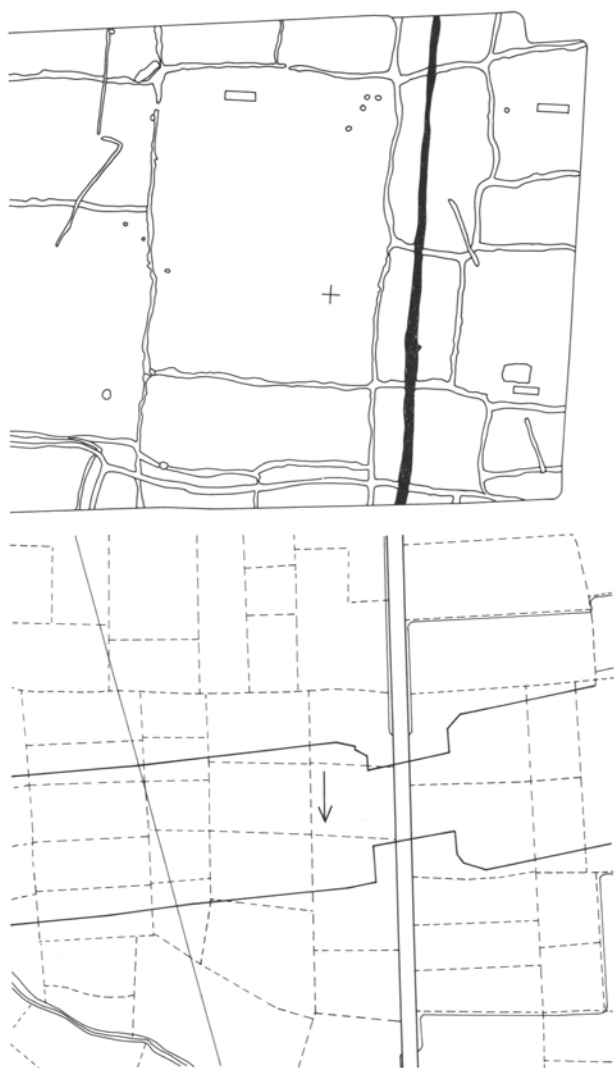
(1) 3号溝 (第202図. 図版102・106)

概要 4-1-3号溝は4区東部に所在する。4区にあって最も大きい溝以降で、調査区を南北に横切る。

本溝は頁左下に示した圃場整備前の地形図に照らしてみると、地目が水田となっている区域の地境に重なる。前述した3区1面の3-1-1・2号溝程の規模はないものの、昭和16年の地籍図には水路であったことが記され、広桃用水の分水路の一つとして使用されたものと判断される。

本溝からは砥石(1)と共に「萬泉堂」の印のあるガラス小ビン(2)が出土している。この小ビンと左

に記した近代の耕地図の記載から、本溝は近代若しくは現代まで使用されたことが確認される。しかし当初の掘削時期は特定できず、一方埋没時期も近現代と想定されるに過ぎないが、近代の土地区画に一致することから江戸時代後期以降の掘削の可能性が高く、また水路でありながらビニール等が見られなかったことから近代に埋められた可能性も想定される。

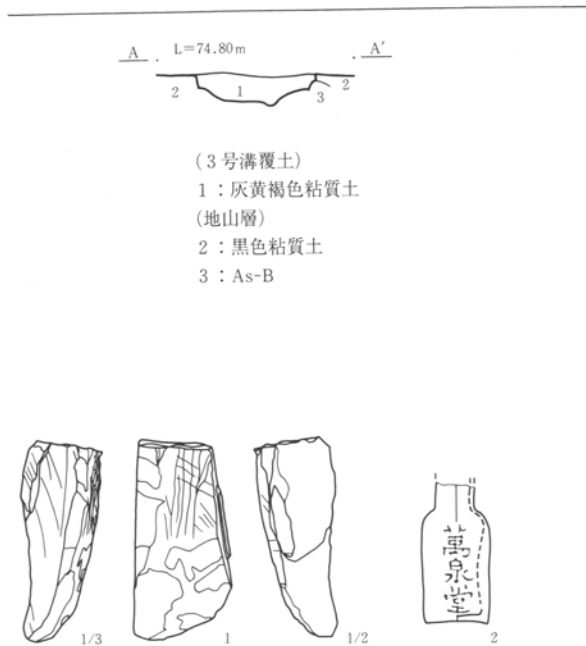


第202図の(1) 4-1-3号溝及び出土遺物

規模 長さ51.3m 幅110cm 深さ22cm

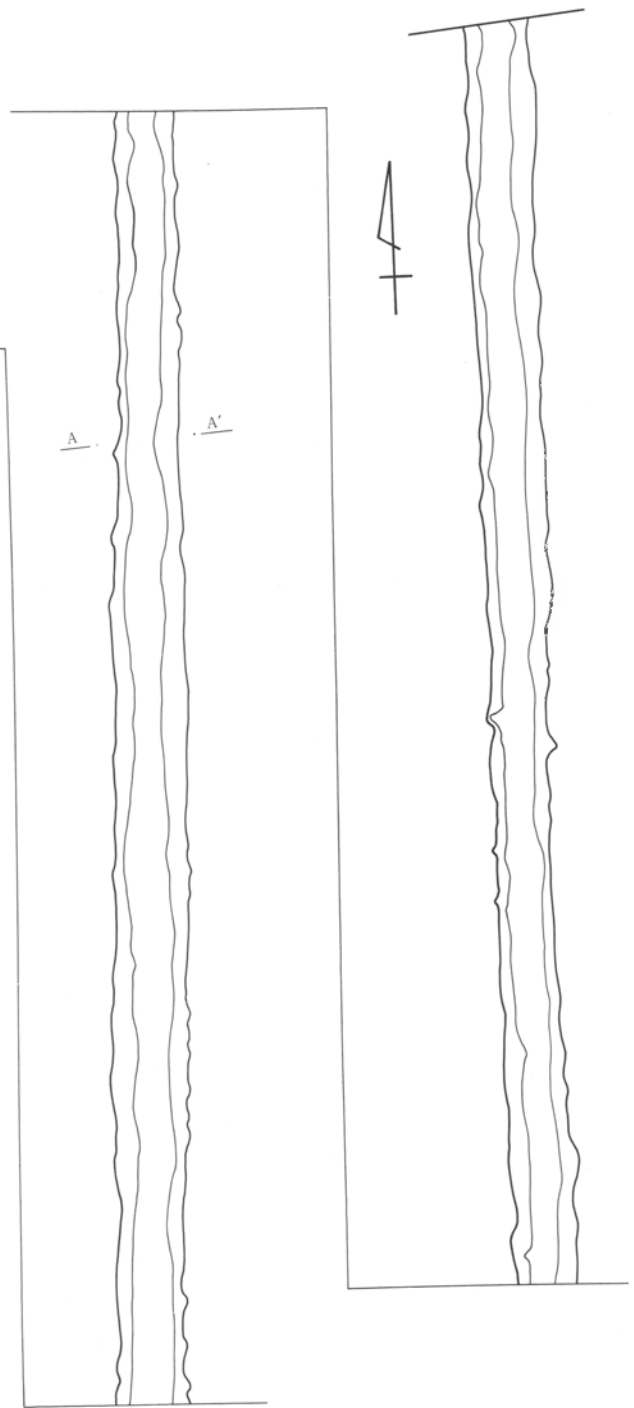
(地形図による全長106.25m)

構造 本溝はその走行を概ね南北に取っている。南北両側共に調査区外に延びていて調査できなかったため全体の状況を把握できた訳ではないが、上述の地形図と地籍図の記載状況からは、直線的な溝であったことが認識されるのである。調査区内に於いて



確認された溝は壁・底面の東西両側のラインに多少の揺れが見られたものの、そのプランはやはり直線的ではあった。また地籍図等から本溝の上流側となる北側では調査区を出て18m程で本溝に分水していた東西走行の溝に突き当たっており、下流側となる南側ではやはり調査区を出て40m程で西北西から来て東方に抜ける水路に突き当たっていたことが確認された。

本溝は全体としては底面は概ね平底状を呈し、壁面は開き気味の掘削形態を呈するものである。しかしながら部分的に見ると流水による影響か細かい凹凸も見られた。

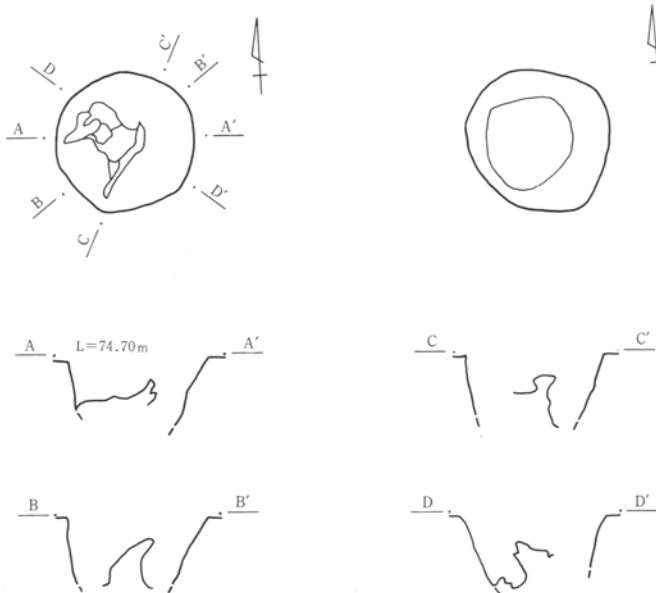
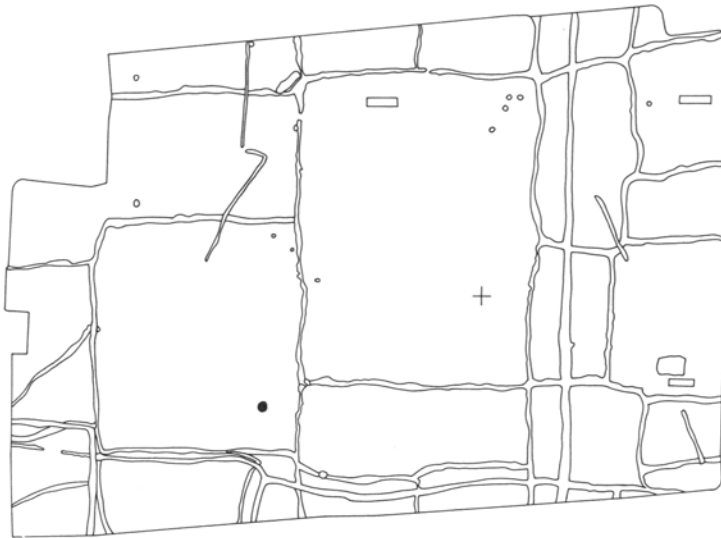


第202図の(2) 4-1-3号溝及び出土遺物

(2) 1号土坑 (第203図. 図版103・106)

概要 本土坑は4区南西に在って、As-B下水田の表出に伴って確認、調査された。

当初井戸遺構として調査を進めたが、出土した鉄片が焼夷弾と確認され、覆土中に油脂分が認められた



第203図 4-1-1号土坑

こと、また本遺跡の発掘作業員から伊勢崎空襲の際に水田で燃焼が目撃されたという証言が得られたことから、当遺跡周辺に空襲のあった昭和20年8月15日かその直後の土坑と断定された。

伊勢崎空襲（米空軍の作戦番号330）は、終戦当日の昭和20年8月15日未明に米空軍第73及び第314爆撃隊によって実施されたもので、本遺跡を含む旧上陽村では負傷者1名、家屋被害4棟、罹災者20名が出ている。しかしTarget information sheetを見る限り主たる攻撃目標は市街地周辺の中島飛行機関

連の工場及びこれとの関連が認定された小規模な工場を含む伊勢崎市街地であって、本遺跡を含む市街地周辺地域は攻撃対象にはなっていたものの特段の目標は設定されていなかった。

編隊は東から進入するよう命令されていたが、本遺跡への攻撃は距離的に主目標たる伊勢崎市街地周辺地への投下に関連した誤爆とは考えにくく、前橋空襲の際も搭載爆弾を全て投下した訳ではないことから良く言われるように「捨てていった」とも考えにくい。寧ろ水田地帯であることと爆撃機の進路を勘案すると米軍による空襲の常套手段として伊勢崎市街地からの退路を断つために投下されたか、遺跡北側の中内或いは南接する西善町の横堀集落を目標に投下されたものと想定される。

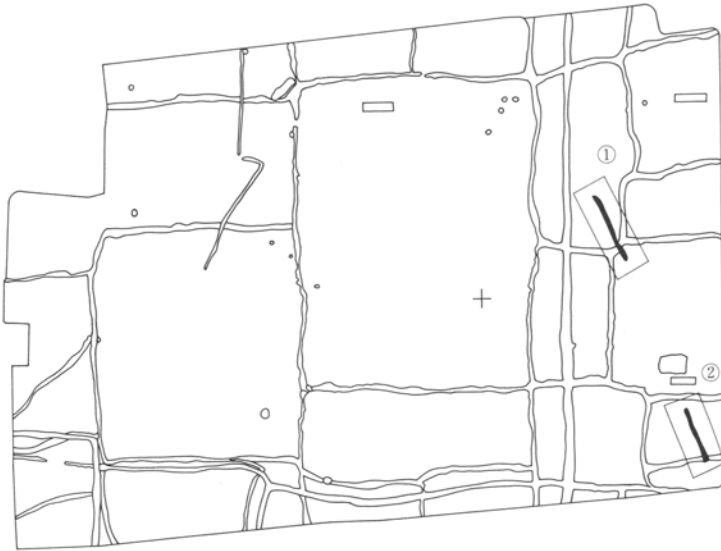
出土した焼夷弾は頭部、筒部カバー、尾部が一括して、概ね逆位となる位置関係で出土したが、弾筒部を識別することはできなかった。尚、この焼夷弾はMission ResumeによればM19型か信管付のM47型弾である。

一方本土坑は焼夷弾片の廃棄坑の可能性も考えられるが、出土状況と空襲当時本土坑付近が水田で水が入って土壌が緩くなっていたことから、寧ろ焼夷弾落下の衝撃による穴である可能性の方が高い。更に焼夷弾の出土状況や覆土に油脂分が確認されたことから上空での散布に失敗し、着地後燃焼した可能性も考慮される。

規模 径110×108cm 深さ60cm

構造 本土坑は円形なプランを呈し、丸底状、筒形の形態を呈している。

4-3 4区1面の遺構と遺物Ⅱ (中世を中心とする時期)



(1) 1号溝 (第204図, 図版102)

概要 本溝は4区東部に位置する。遺存状況は余り良好ではなく、19.2mを隔てて南北2条に分かれる。

出土遺物もなく時期特定には至らなかったが、覆土にAs-Aを含まずAs-Bを含むため、中世～江戸時代中期の所産として把握される。

掘削意図も特定できなかったが、その掘削距離と覆土の観察から水路としての可能性が考えられる。

規模 全長30.7m 長さ(北側)7.8m

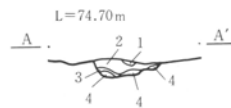
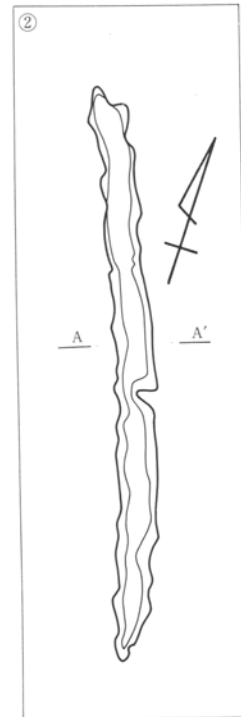
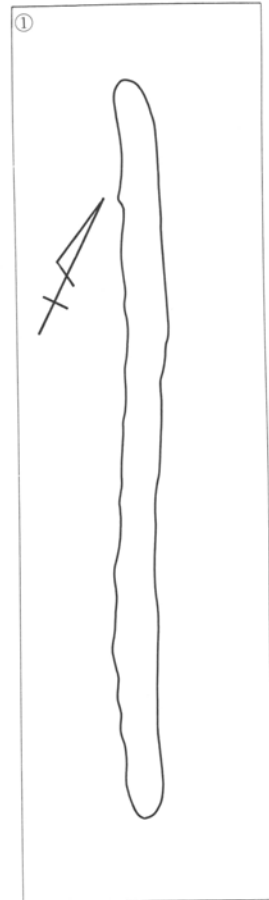
(南側)6.1m 幅50cm 深さ9cm

構造 本溝は北西-南東方向に走行を取り、直線的なプランを呈する。

遺存状況が良好でないのでつまびらかでないが、底面は平底気味で、壁面は比較的しっかり立つようである。尚、底面、壁面とも凹凸が見られる。

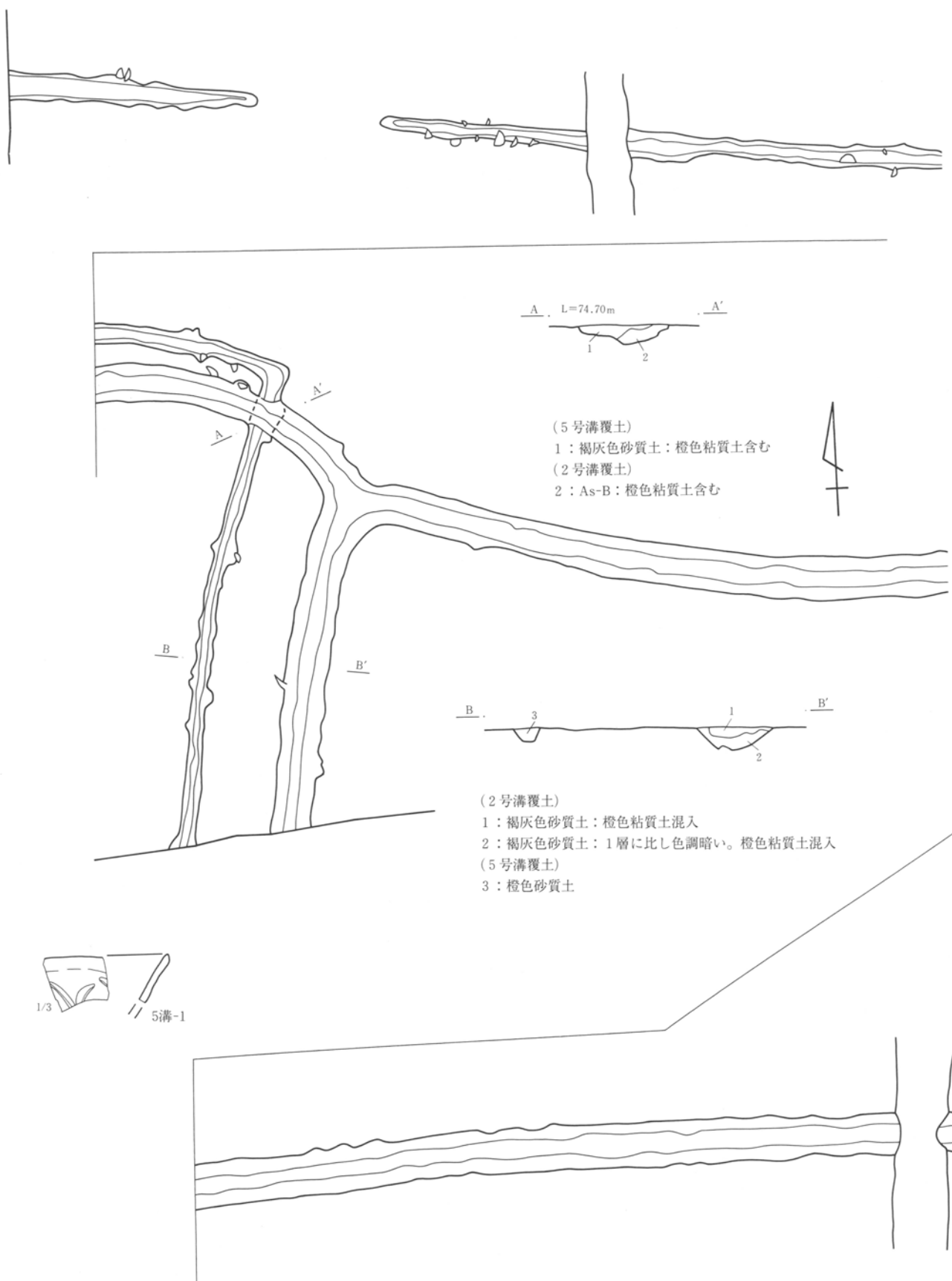
(2) 2・5・4号溝 (第205・206図, 図版102・106)

概要 4-1-2・4・5号溝は共に4区南部に位置する。2号溝は西部で1.8m程途切れるが、調査区を東西にはほぼ縦断し、東部(2b溝)と中西部(2c溝)で南に分岐する溝を伴う。5号溝は2bと、4号溝は西部で2号溝と絡む。2・5号溝と2・4号溝の方向が近似しることなどから同質の溝と解釈さ

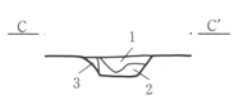
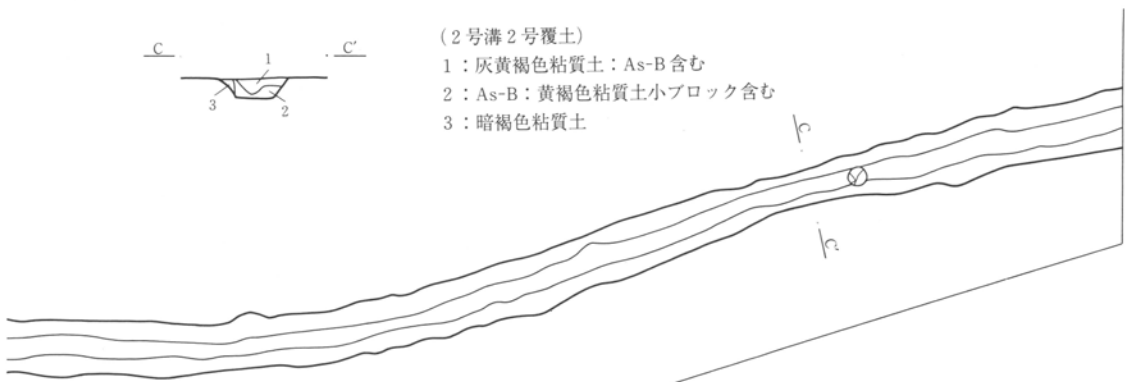
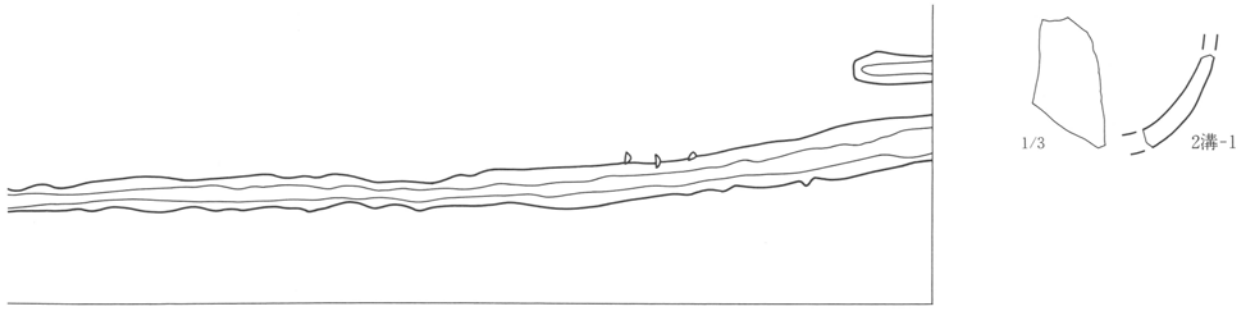


- (1号溝覆土)
- 1: 黒褐色砂質土
 - 2: にぶい黄橙色砂質土: 細粒、酸化鉄含み下位から層状に堆積。締まりなし
 - 3: 赤色砂質土: 粗粒、締まりなく酸化鉄沈着
 - 4: 灰黄褐色粘質土
 - 5: 黄橙色砂質土: 粒子微細でAs-B・2層土含む

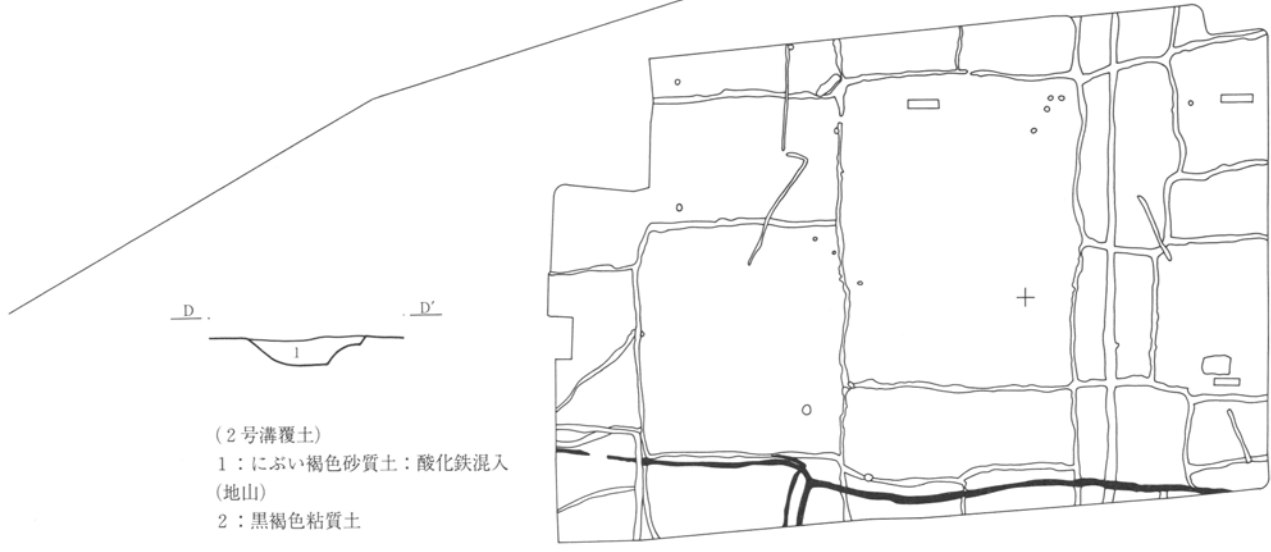
第204図 4-1-1号溝



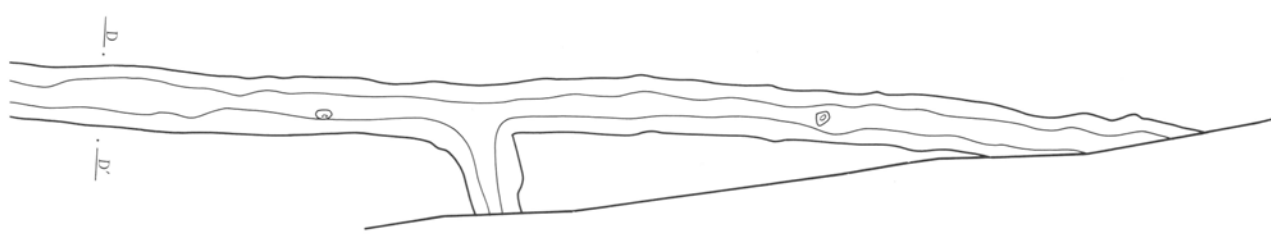
第205図の(1) 4-1-2・5号溝



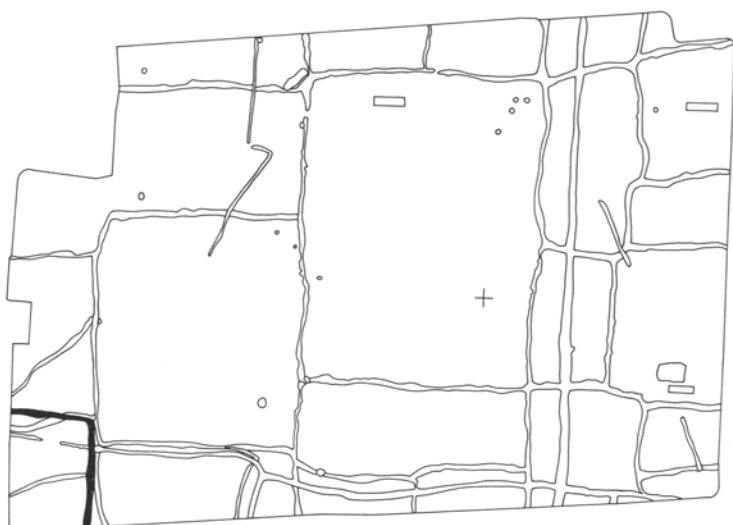
- (2号溝2号覆土)
- 1: 灰黄褐色粘質土: As-B 含む
 - 2: As-B: 黄褐色粘質土小ブロック含む
 - 3: 暗褐色粘質土



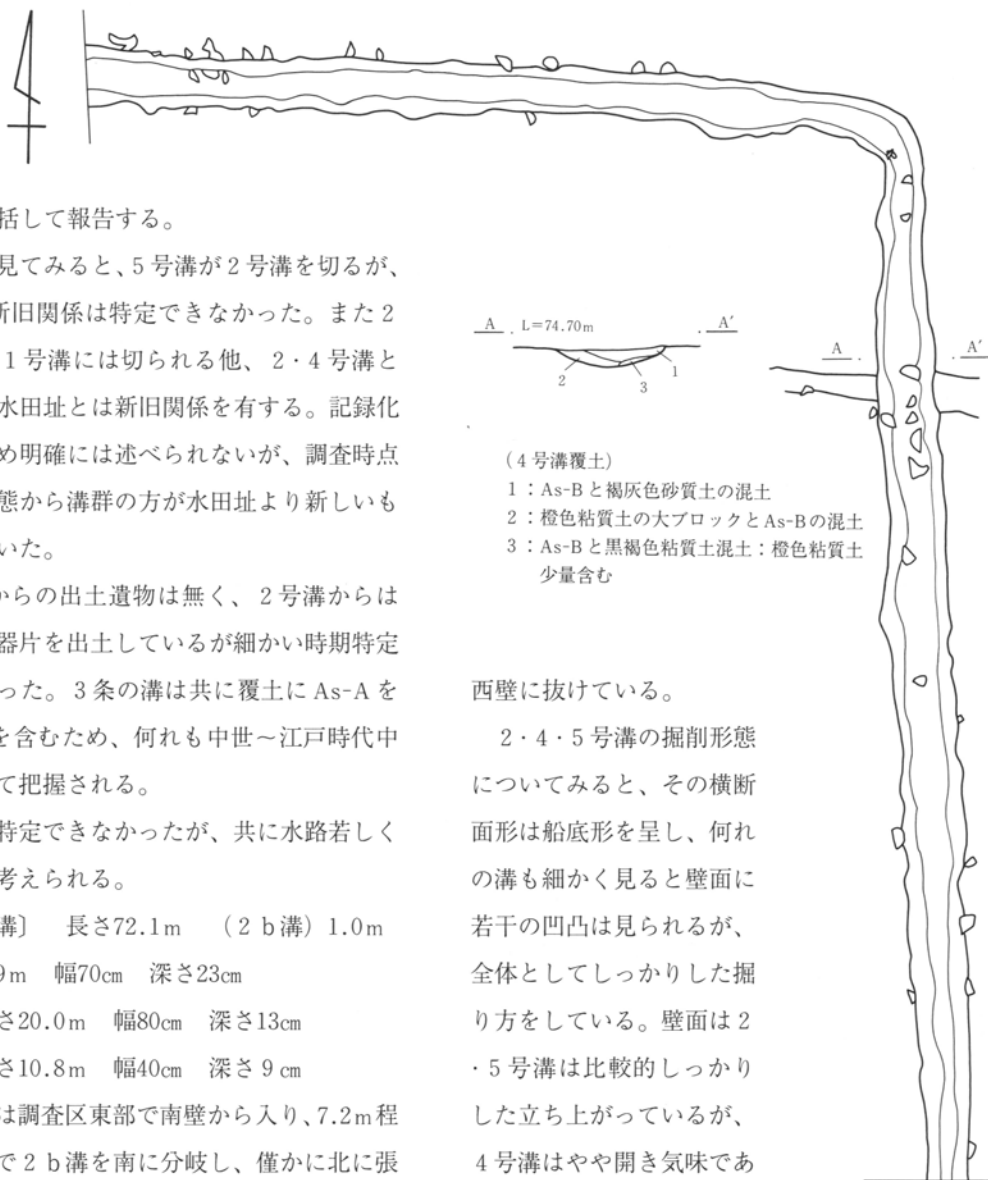
- (2号溝覆土)
- 1: にぶい褐色砂質土: 酸化鉄混入 (地山)
 - 2: 黒褐色粘質土



第205図の(2) 4-1-2号溝及び出土遺物



走行を北西に傾けて直ぐに西、更に西北西と変じて西壁から調査区外に抜けている。5号溝は区中西部で南壁より入り、2c溝の西に1.5mの間隔で平行に北、更に緩やかな弧を描きながら北北東に走行し、2号溝を横断して直ぐに西北西に走行を転じ、3.5m程で途絶えている。4号溝は調査区西部でやはり南壁より調査区内に入って北に走り、8.2m程で2号溝と交差し、更に2.8m北上して直角に西に走行を変じて(↓)



れるため、一括して報告する。

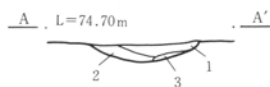
重複関係を見てみると、5号溝が2号溝を切るが、2・4号溝の新旧関係は特定できなかった。また2号溝が前述の1号溝には切られる他、2・4号溝と後述の中世の水田址とは新旧関係を有する。記録化に失敗したため明確には述べられないが、調査時点では覆土の状態から溝群の方が水田址より新しいものと認識していた。

4・5号溝からの出土遺物は無く、2号溝からは土師器・須恵器片を出土しているが細かい時期特定には至らなかった。3条の溝は共に覆土にAs-Aを含まずAs-Bを含むため、何れも中世～江戸時代中期の所産として把握される。

掘削意図は特定できなかったが、共に水路若しくは地境の溝と考えられる。

規模 [2号溝] 長さ72.1m (2b溝) 1.0m
 (2c溝) 4.9m 幅70cm 深さ23cm
 [4号溝] 長さ20.0m 幅80cm 深さ13cm
 [5号溝] 長さ10.8m 幅40cm 深さ9cm

構造 2号溝は調査区東部で南壁から入り、7.2m程西北西に進んで2b溝を南に分岐し、僅かに北に張り出しながら36.8m程西行して2c溝を分岐、(↖)



(4号溝覆土)

- 1 : As-Bと褐灰色砂質土の混土
- 2 : 橙色粘質土の大ブロックとAs-Bの混土
- 3 : As-Bと黒褐色粘質土混土：橙色粘質土少量含む

西壁に抜けている。

2・4・5号溝の掘削形態についてみると、その横断面形は船底形を呈し、何れの溝も細かく見ると壁面に若干の凹凸は見られるが、全体としてしっかりした掘り方をしている。壁面は2・5号溝は比較的しっかりした立ち上がっているが、4号溝はやや開き気味である。

第206図 4-1-4号溝

(3) 6号溝 (第207図. 図版102)

概要 本溝は4区西南部に位置する。その走行の方向や、プランから4区1面の他の溝遺構とは異なる性格を有する可能性がある。

本溝からの出土遺物はなかったため時期特定には至らなかった。しかし覆土がAs-B軽石を多く含むため、As-B降下後比較的早い段階の所産である可能性を有する。

掘削意図は特定できなかったが、覆土がAs-Bと地山の黒色粘質土との混土であるため、人為的に掘削されたものと解釈される。また後述する中世の水田址とは走行が異なっている。

規模 長さ13.4m 幅110cm 深さ10cm

構造 本溝は全体的には北東-南西方向の走行を取るが、そのプランには緩やかな蛇行が見られる。

掘削底面は平底気味であるが、壁面はやや開く。

(3) 7・8号溝 (第208図. 図版102)

概要 4-1-7・8号溝は4区中北部西寄りに位置する。両溝は位置・規模的に連続する溝である可能性を有するため一括して報告するが、走行の違いから別遺構の可能性も有する。

8号溝からの出土遺物は無く、
7号溝からは須恵器甕片を出土したが
時期特定(ア)

には至らず、覆土にAs-Bを含むため中世以降の所産とできるに過ぎない。但し7号溝は覆土がAs-B主体であるので、As-B降下後早い段階の所産で、前述の4-1-6号溝と接続する可能性も有する。

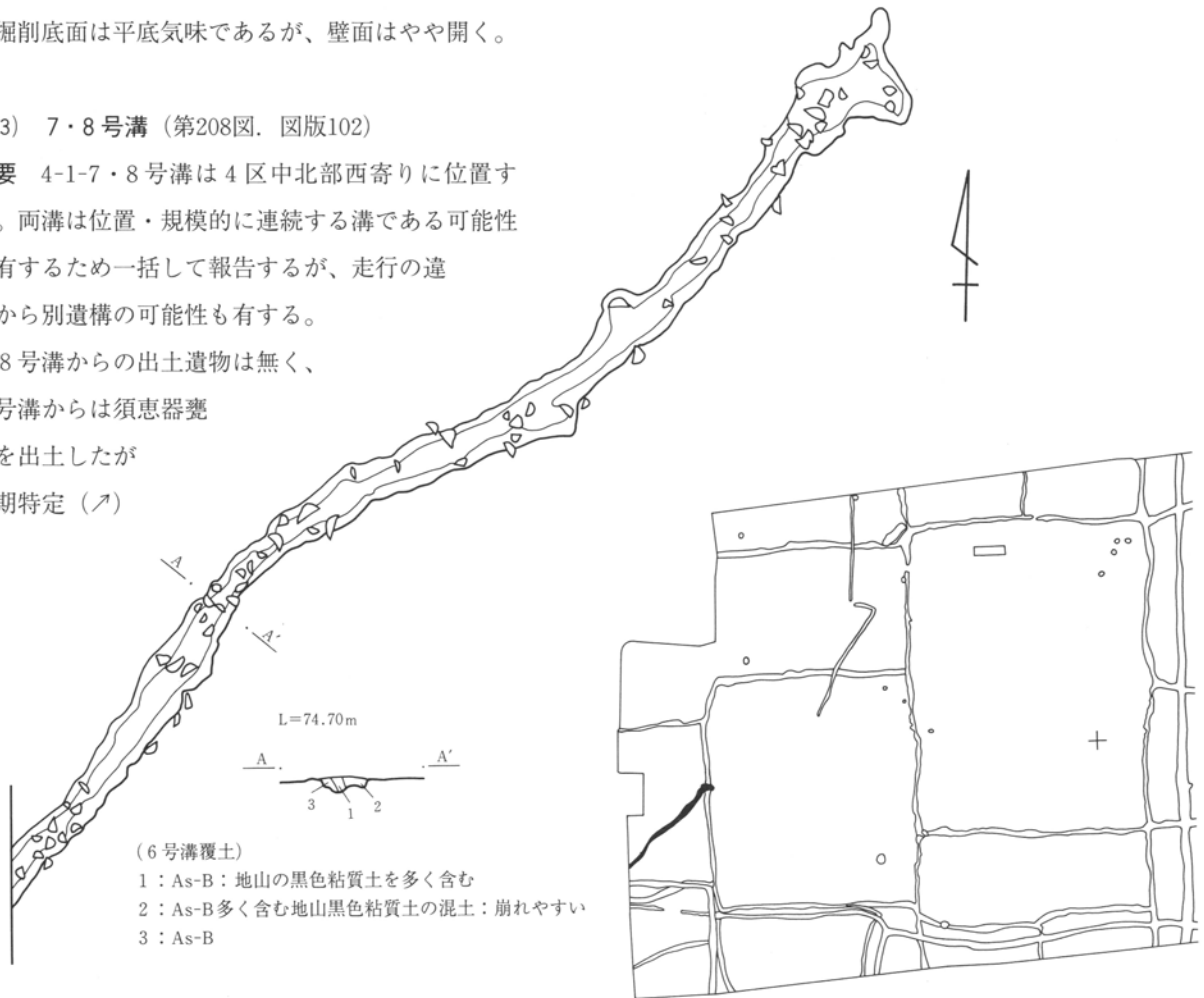
掘削意図も特定できなかったが、走行が7号溝が2・2c・5号溝と、8号溝が4号溝と近似するので、2・4・5号溝と同様であった可能性を有する。

規模 [7号溝] 長さ14.8m 幅30cm 深さ11cm

[8号溝] 長さ11.2m 幅40cm 深さ14cm

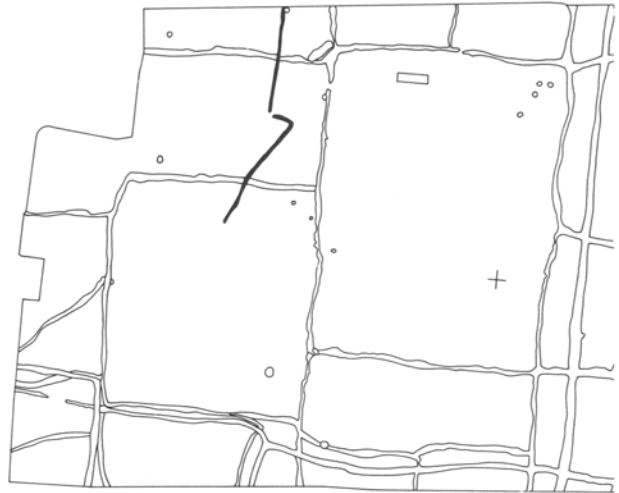
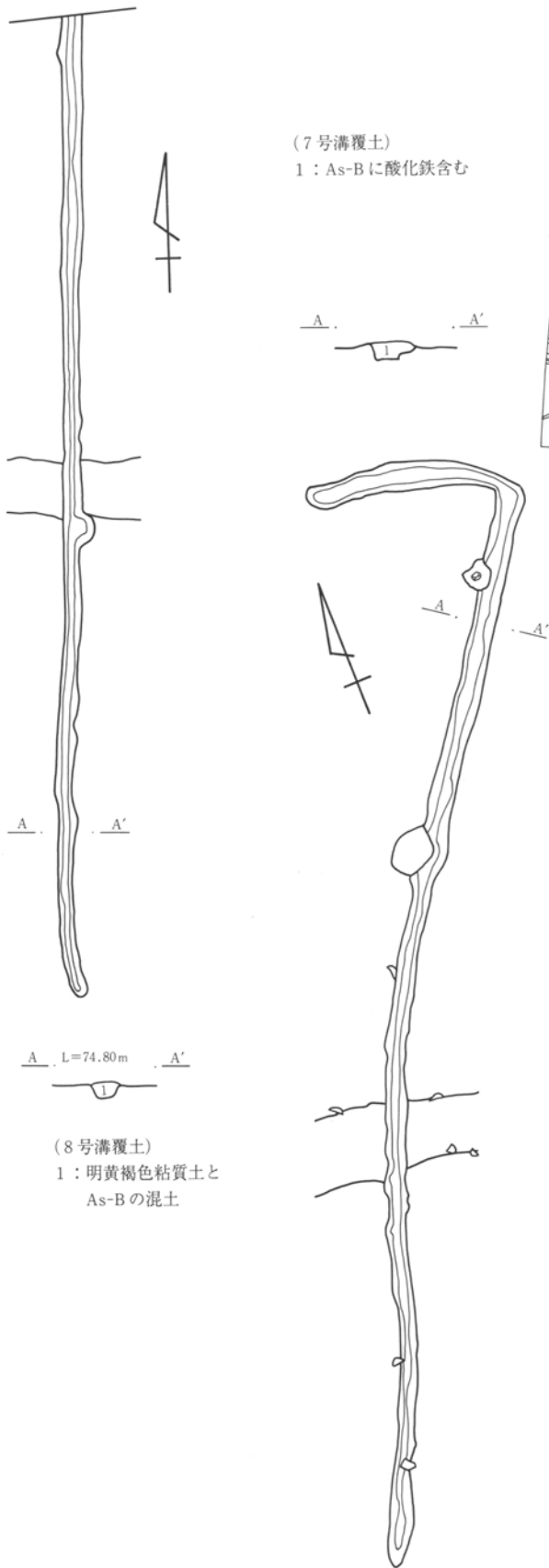
構造 7号溝は北東-南西方向に揺るかに弧を描く走行を取り、北端で鋭角に西に走行を転じて8号溝南端近くに至る。8号溝は概ね南北に直線的な走行を見せる。

掘削形態は横断面形は丸底形で、壁面は比較的しっかり立っている。



- (6号溝覆土)
- 1 : As-B : 地山の黒色粘質土を多く含む
 - 2 : As-B多く含む地山黒色粘質土の混土 : 崩れやすい
 - 3 : As-B

第207図 4-1-6号溝



(5) ピット群 (第209図. 図版103)

概要 4区1面に於いては4-1-1~14号の14基のピットを調査した。ピットは北東部に2~5号ピットがまとまり、その東に1号ピットが単独で位置し、中部に6~11・14号ピットが南北に散布し、北西部に12・13号ピットが散布している。

これらのピットからの出土遺物はなく時期特定には至らなかったが、4・6~14号ピットは覆土にAs-Bを含み、1~3・5号ピットもAs-B層を切り、近世後期以降の覆土ではないため、何れも中世~近世中期の所産として把握される。

掘削意図も特定できなかったが、形態的に2~5・8・10・13号ピットは杭跡の可能性はある。

規模 [1号ピット] 径31×30cm 深さ14cm

[2号ピット] 径32×38cm 深さ12cm

[3号ピット] 径31×37cm 深さ13cm

[4号ピット] 径61×68cm 深さ25cm

[5号ピット] 径58×44cm 深さ17cm

[6号ピット] 径46×66cm 深さ9cm

[7号ピット] 径34×60cm 深さ15cm

[8号ピット] 径43×40cm 深さ14cm

[9号ピット] 径26×28cm 深さ14cm

[10号ピット] 径26×28cm 深さ13cm

[11号ピット] 径36×30cm 深さ7cm

[12号ピット] 径56×54cm 深さ12cm

[13号ピット] 径84×65cm 深さ40cm

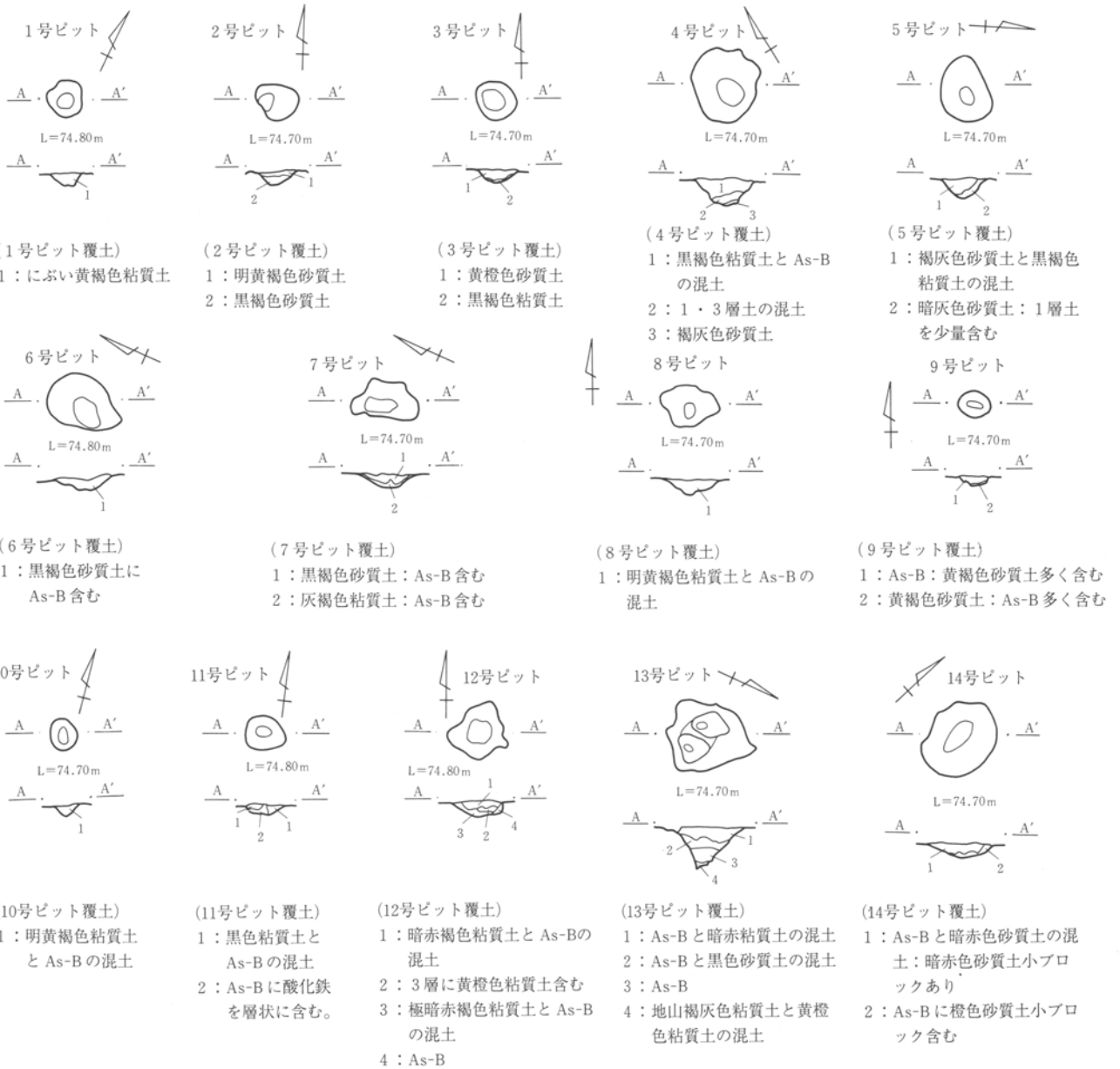
[14号ピット] 径59×71cm 深さ11cm

第208図 4-1-7・8号溝

第4節 4区の遺構と遺物

構造 ピットのプランは3・7・8・11～13号ピットが隅丸方形状、1・2・4～6・9・10・14号ピットが楕円形状を呈している。

掘削形態は1・9・12号ピットは筒形、2～5・8・10・13号ピットは逆円錐形を呈し、6・7・11・14号ピットは丸底気味で壁面が開き気味である。



第209図 4区1面の小ピット



第210図の(1) 4区1面鋤痕 (中世水田址)

(6) 鋤痕 (中世水田址) (第210図. 図版104)

概要 4区南西部には多数の鋤痕が確認された。これらの鋤痕は覆土の状態、及び前述の溝群と3区1面の鋤痕等との関係から中世の遅くならない段階の所産として把握される。

鋤痕の分布には濃淡があり、特に带状に分布の薄いところが認められ、水田の畦と判断された。鋤痕はこれに伴うものと認識される。

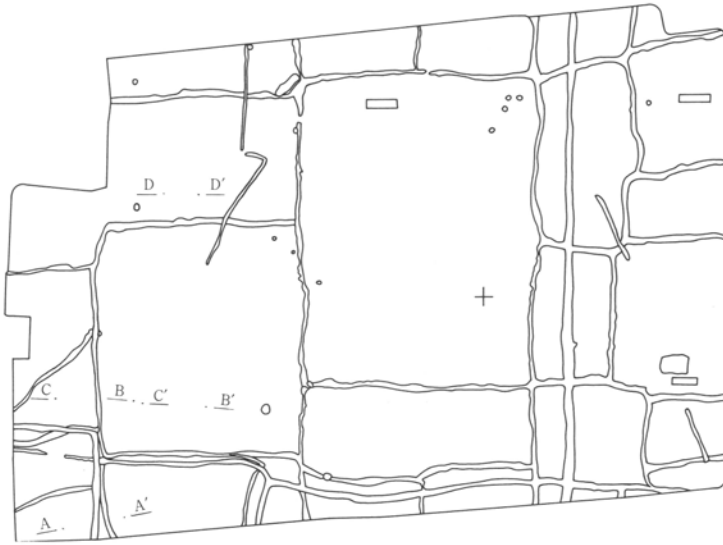
抽出された水田面は12面であったが、形態的にAs-B下水田の名残を留めている可能性がある。また、これらは3区1面東半部の鋤跡群に連続するものと判断され、屋敷遺構東に展開した耕作地の一部として認識される。

規模 分布域 31×30m

- [水田面①] 11.2×(3.8) m
- [水田面②] 9.1×(3.6) m
- [水田面③] (16.0)×(2.1) m以上
- [水田面④] 16.4×11.1 m
- [水田面⑤] 7.4×11.7 m
- [水田面⑥] 8.8×9.1 m
- [水田面⑦] 13.2×8.4 m
- [水田面⑧] 13.3×(15.8) m
- [水田面⑨] 12.1×(14.0) m
- [水田面⑩] (2.7)×10.8 m
- [水田面⑪] (4.4)×10.8 m
- [水田面⑫] (1.6)×(12.3) m

構造 鋤痕の形態に大小があるが、平均的には三角形若しくは台形のプランを呈し、幅20cm前後、奥行き10cm前後、深さ5cm前後のものを標準とする。

水田面の規模にはばらつきがあり、地形に合わせて形作られたものと思われる。尚、そのプランは方形を基本としている。



第210図の(2) 4区1面鋤痕 (中世水田址)

4-4 4区1面の遺構と遺物Ⅲ（古代）

(1) As-B下水田址（第211図、図版104・105）

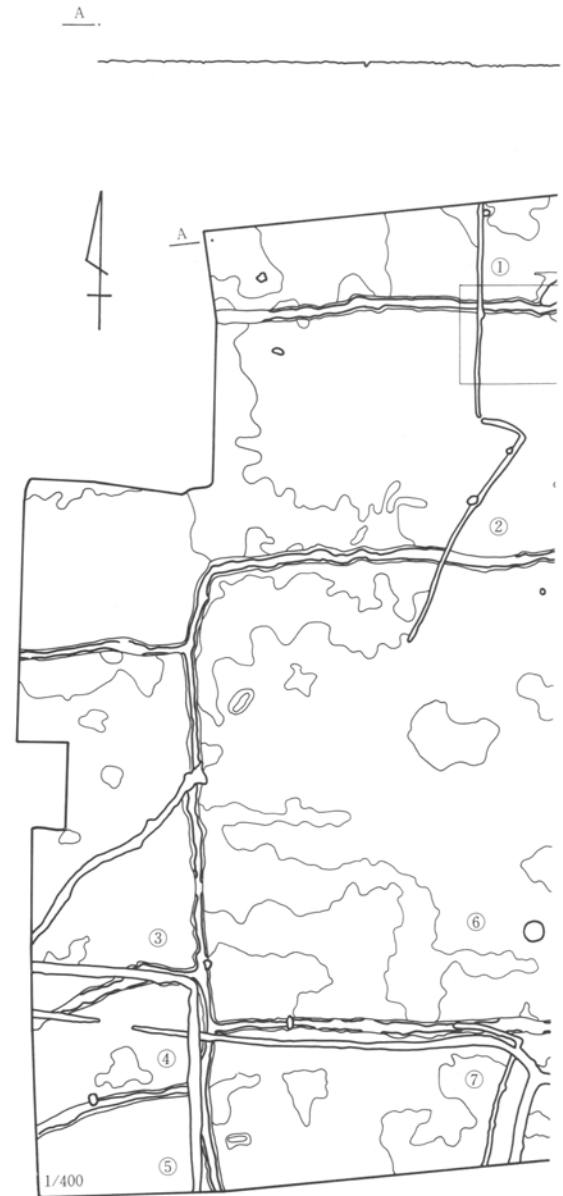
概要 4区1面のほぼ全域でAs-B層が確認され、その除去作業によってAs-B下水田が表出された。

水田面からは若干の土師器片等も出土したが、水田址としては天仁元年（1108）浅間山噴出テフラの降下時に埋没したものである。

本水田は大区画水田に属するが、北北東方向から南南東方向に極く緩やか傾斜する微地形に合わせて畦畔が設定されているためか、個々の水田面に規格性は認められなかった。また、土圧により水田面が若干の凹凸が生じていた。

規模 分布域 75.9×51.2m

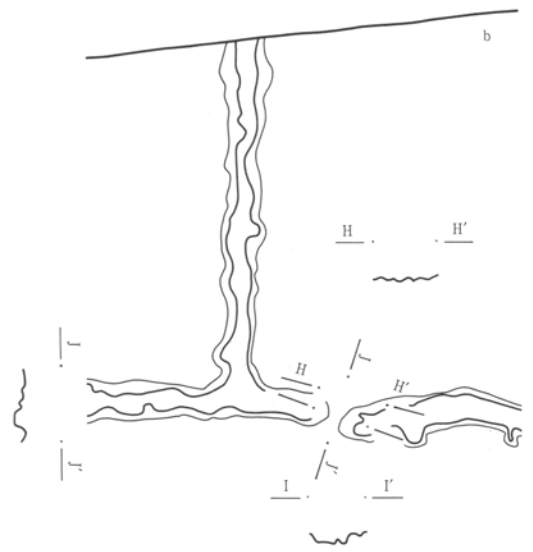
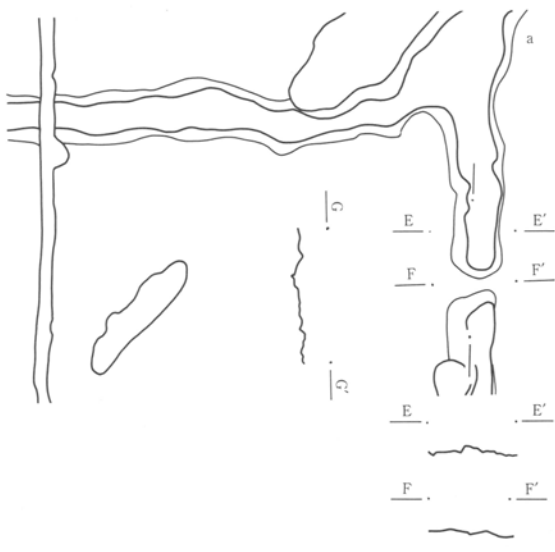
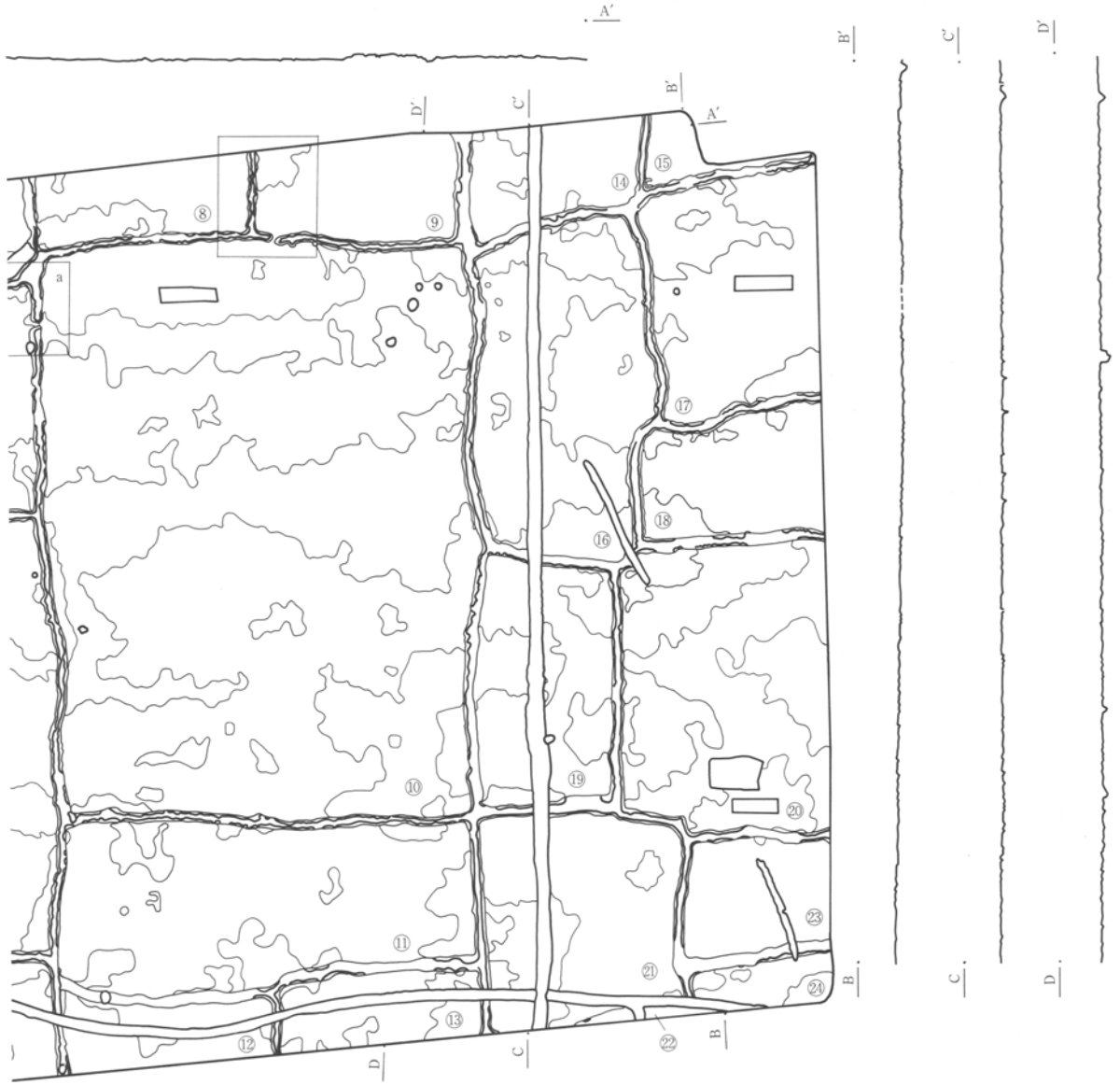
- [水田面①] (20.0)×(5.8) m
- [水田面②] (30.3)×(17.0) m
- [水田面③] (9.4)×(11.4) m
- [水田面④] (9.9)×(5.8) m
- [水田面⑤] (9.2)×(5.4) m
- [水田面⑥] 21.8×24.2 m
- [水田面⑦] 20.8×(8.4) m
- [水田面⑧] 12.5×(4.6) m
- [水田面⑨] 11.8×(6.2) m
- [水田面⑩] 25.6×32.9 m
- [水田面⑪] 24.4×9.8 m
- [水田面⑫] 12.3×(5.0) m
- [水田面⑬] 11.7×(4.5) m
- [水田面⑭] 9.8×(6.4) m
- [水田面⑮] (10.0)×(4.3) m
- [水田面⑯] 10.9×19.6 m
- [水田面⑰] (10.3)×13.2 m
- [水田面⑱] (10.4)×7.5 m
- [水田面⑲] 8.2×14.2 m
- [水田面⑳] (11.8)×16.3 m
- [水田面㉑] 11.6×12.3 m
- [水田面㉒] (7.0)×(1.3) m
- [水田面㉓] (8.5)×6.5 m
- [水田面㉔] (8.3)×(2.6) m



第211図の(1) 4区1面As-B混土水田

構造 水田面は23面を確認したが、そのプランは長方形を基調としながらもやや靴形に変形したものや、やや湾曲したものなど様々であった。その規模も大小があった。水田面は4区中央に大きな区画のものがあり、その西側と南側には中規模の水田面が、東側と北側には小規模なものが多かった。

畦は土圧によって全体に圧縮されていて部分的に不明瞭な箇所もあった。そのため水口は殆ど特定することはできなかったが、水田面②と水田面⑨からそれぞれ水田面⑩に入るものの2ヶ所を確認した。確認された水口は上幅で水田面②・⑩間は45cm、水田面⑨・⑩間は50cmを測った。



第211図の(2) 4区1面As-B混土水田

4-5 4区2・3面の試掘調査

試掘調査 4区に於いては1面調査終了後、下位面の遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。最終的に設定した面は先づ4区2面として4世紀初頭浅間山噴出のAs-Cを混入する黒色土層上面を設定。遺構確認等を行ったのち下位面への試掘調査を施し、洪積層上面に4区3面を設定した。また2面はAs-B下水田面から平均で8～9cm程下位に在り、2面から3乃至8cm（平均6.3cm）下位に位置するものであった。

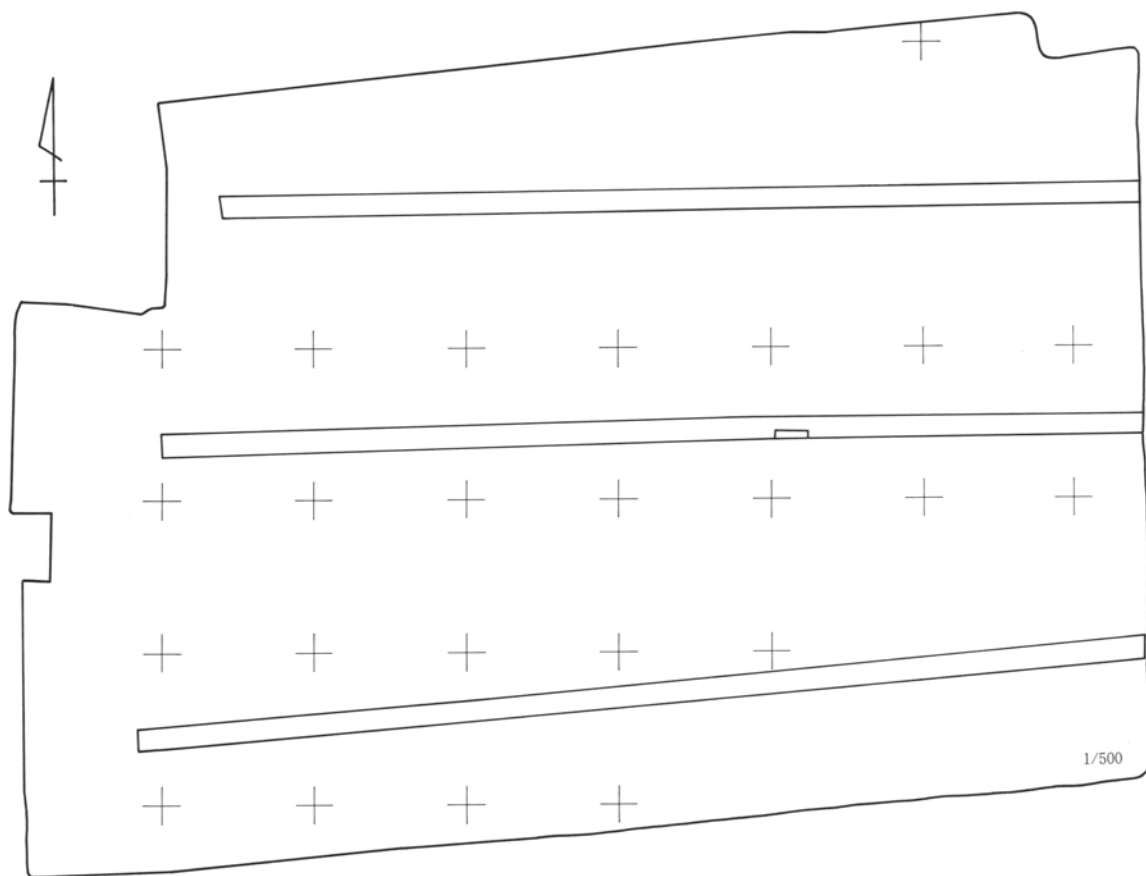
試掘調査は4区の北・中・南部にそれぞれ任意のトレンチを設定することで実施した。トレンチは東西方向に設定し、南から順に1・2・3号トレンチと呼称した。尚、As-B下水田面の各層は削られていて薄く、全体として遺存状況はあまり良好ではなく結局遺構を確認することはできなかった。

2面の概要 2面では2号トレンチで6世紀初頭噴出のHr-FAと思われるテフラが充填した窪み（第212図-①付近）が確認されたが、遺構としては認識されず、他に遺構も確認されなかった。

また若干の土師器坏・甕や須恵器碗の破片の出土が見られたが、遺物包含層として把握されるような出土状態ではなかったため、遺構確認の所見と併せて2面は面的調査の対象外とすることとした。

3面の概要 3面では2・3号トレンチでAs-C層下に窪み（第212図-②付近）が、また3号トレンチで古い時代の風倒木痕（第212図-③付近）が確認されたが、調査対象とすべき遺構を確認することはできなかった。

また出土遺物もなかったため、3面も面的調査の対象外となった。



第212図 4区2・3面試掘調査トレンチは位置図

第4章 科学分析

第1節 樹種同定

松葉礼子（パレオ・ラボ）

I はじめに

前橋市中内町にある中内村前遺跡から出土した木材の樹種を同定する。同定した遺物は4～5世紀の旧河道、中世の井戸、近世・近代の溝から出土した木製品・木材である。

今まで行われた群馬県内の樹種同定の結果では4～5世紀にはコナラ属クヌギ節やコナラ節、アカガシ亜属などの樹種が道具を中心に利用されていたことが分かっている（鈴木・能城, 1986ほか）。花粉分析でも高崎市の日高遺跡や館林の茂林寺沼などでコナラ亜属（クヌギ節とコナラ節を含む）が優占する結果が得られており、これらの樹種は植生としても多く確認されている（徳永, 1982；辻ほか, 1986）。これらのことから周辺に多いこれらの樹種を積極的に利用していたことが分かる。中世ではまとまった樹種同定の事例は少ない。浜川高田遺跡や下植木壺町遺跡でクリが多い結果が得られているが、局地的なものではないかと考えられる（藤根・松葉, 1998他）。中世では他に曲物などの針葉樹が適した製品の出土が増加することから、針葉樹の割合が増える傾向がある（鈴木・能城, 1997）。近世・近代は県内ではまとまった調査はされていないため良く分かっていない。これらの従来得られている結果と今回の試料にどのような違いがあるのかを明らかにすることを目的として樹種を同定した。

II 試料と方法

同定した試料は合計50点である（表1）。それらのうち4～5世紀に相当する試料は2-3-旧河道を中心に30点、中世の井戸内出土試料が10点、近世・近代の溝出土試料が10点である。これらの試料は4～5世紀の9点のサンプル試料をのぞいていずれも木

製品である。

同定には、木製品から直接片刃剃刀を用いて、木材組織切片を横断面、接線断面、放射断面の3方向作成した。これらの切片はガムクロラルにて封入し、永久標本とした。樹種の同定はこれらの標本を光学顕微鏡下で観察し、現生標本との比較して行った。主要な分類群を代表する標本については写真図版に示し、同定根拠は後述する。

なお、同定に用いられた標本はプレパラート番号を付し財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

1. スギ *Cryptomeria japonica* (L.Fil.) D.Don Taxodiaceae 写真図版 1a~1c: A3-44

軸方向・放射方向両細胞間道をもたない針葉樹材。早材から晩材にかけての移行は急で、成長輪界は明瞭。樹脂細胞は早材から晩材部にかけて接線方向に散在する。放射組織は放射柔組織からなり単列。分野壁孔は大型のスギ型で1分野に1～2個ある。

2. ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endl. Cupressaceae 写真図版 2a~2c: A3-28

軸方向・放射方向両細胞間道を持たない針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、成長輪界は明瞭。晩材部の量が少ない。樹脂細胞は散在している。放射組織は放射柔組織のみからなり単列である。分野壁孔は中型のトウヒ～ヒノキ型で1分野に2個程度ある。

3. カヤ *Torreya nucifera* (L.) Sieb. et Zucc. Taxaceae 写真図版 3a~3c: A3-1

軸方向・放射方向両細胞間道をもたない針葉樹材。早材から晩材にかけての移行は緩やかであるが、成長輪界は明瞭である。樹脂細胞を持たない。

第4章 科学分析

No.	資料番号	プレパラート番号	出土遺構	時期	製品名	樹種
1	A3-01	実測1	2-3-旧河道	4~5世紀	杭	カヤ
2	A3-02	実測2	2-3-旧河道	4~5世紀	着柄平鋏	ハンノキ属ヤシャブシ節
3	A3-03	実測3	2-3-旧河道	4~5世紀	杭(板材)	コナラ属クヌギ節
4	A3-04	実測4	2-3-旧河道	4~5世紀	杭	コナラ属クヌギ節
5	A3-05	実測5	2-3-旧河道	4~5世紀	有頭柄	コナラ属クヌギ節
6	A3-06	実測6	2-3-旧河道	4~5世紀	薄板材	コナラ属
7	A3-07	実測7	2-3-旧河道	4~5世紀	杭	コナラ属クヌギ節
8	A3-08	実測8	2-3-旧河道	4~5世紀	割材	コナラ属クヌギ節
9	A3-09	実測9	2-3-旧河道	4~5世紀	杭(割材)	コナラ属クヌギ節
10	A3-11	実測11	2-3-旧河道	4~5世紀	杭	コナラ属クヌギ節
11	A3-12	実測12	2-3-旧河道	4~5世紀	横槌	コナラ属クヌギ節
12	A3-13	実測13	2-3-旧河道	4~5世紀	薄板材	アカガシ亜属
13	A3-14	実測14	2-3-旧河道	4~5世紀	着柄平鋏	アカガシ亜属
14	A3-15	実測15	2-3-旧河道	4~5世紀	割材	コナラ属クヌギ節
15	A3-16	実測16	2-3-旧河道	4~5世紀	角材	コナラ属クヌギ節
16	A3-17	実測17	2-3-旧河道	4~5世紀	えぶり	コナラ属クヌギ節
17	A3-18	実測18	2-3-旧河道	4~5世紀	厚板材	コナラ属クヌギ節
18	A3-19	実測19	2-3-旧河道	4~5世紀	角材	コナラ属クヌギ節
19	A3-20	実測20	2-3-旧河道	4~5世紀	杭	コナラ属クヌギ節
20	A3-21	実測21	2-3-旧河道	4~5世紀	杭	コクサギ
21	A3-22	実測22	2-3-旧河道	4~5世紀	杭	コナラ属クヌギ節
22	A3-23	実測23	2-1-1井戸	中世	杭	モモ
23	A3-24	実測24	2-1-1井戸	中世	杭(割材)	ブナ属
24	A3-25	実測25	2-1-1井戸	中世	板材	ブナ属
25	A3-26	実測26	2-1-2井戸	中世	杭	コナラ属コナラ節
26	A3-27	実測27	3-1-4井戸	中世	漆椀	ケヤキ
27	A3-28	実測28	3-1-9井戸	中世	曲物側板	ヒノキ
28	A3-29	実測29	3-1-10井戸	中世	曲物底板	ヒノキ
29	A3-30	実測30	3-1-10井戸	中世	曲物側板	ヒノキ属
30	A3-32	実測32	3-1-10井戸	中世	曲物底板	ヒノキ属
31	A3-33	実測33	3-1-11井戸	中世	曲物底板	ヒノキ
32	A3-35	実測35	3-1-1溝	近世・近代	漆椀	ブナ属?
33	A3-36	実測36	3-1-1溝	近世・近代	漆椀	ブナ属
34	A3-39	実測39	3-1-1溝	近世・近代	漆椀	ブナ属
35	A3-40	実測40	3-1-1溝	近世・近代	漆椀	ブナ属?
36	A3-42	実測42	3-1-1溝	近世・近代	曲物底板	マツ属か?
37	A3-44	実測44	3-1-1溝	近世・近代	桶蓋	スギ
38	A3-45	実測45	3-1-1井戸	近世・近代	下駄	針葉樹
39	A3-46	実測46	3-1-1溝	近世・近代	用途不明木製品	ヒノキ
40	A3-47	実測47	3-1-1溝	近世・近代	杭	ハンノキ属ハンノキ節
41	A3-48	実測48	3-1-1溝	近世・近代	杭	コナラ属コナラ節
42	A53-14	サンプルNo.14	2-3-旧河道	4~5世紀	サンプル	トネリコ属
43	A53-76	サンプルNo.76	2-3-旧河道	4~5世紀	サンプル	ヤマグワ
44	A53-159	サンプルNo.159	2-3-旧河道	4~5世紀	サンプル	コナラ属クヌギ節
45	A53-182	サンプルNo.182	2-3-旧河道	4~5世紀	サンプル	コナラ属クヌギ節
46	A53-183	サンプルNo.183	2-3-旧河道	4~5世紀	サンプル	コナラ属クヌギ節
47	A53-187	サンプルNo.187	2-3-旧河道	4~5世紀	サンプル	コナラ属クヌギ節
48	A53-212	サンプルNo.212	2-3-旧河道	4~5世紀	サンプル	コナラ属クヌギ節
49	A53-232	サンプルNo.232	2-3-旧河道	4~5世紀	サンプル	コナラ属クヌギ節
50	A53-240	サンプルNo.240	2-3-旧河道	4~5世紀	サンプル	コクサギ

第2表 中内村前遺跡出土木材の樹種同定資料と結果

樹種	4~5世紀	中世	近世・近代	総計
スギ			1	1
ヒノキ		3	1	4
ヒノキ属		2		2
カヤ	1			1
針葉樹			2	1
ハンノキ属ハンノキ節			1	1
ハンノキ属ヤシャブシ節	1			1
ブナ属		2	4	6
コナラ属クヌギ節	21			21
コナラ属コナラ節		1	1	2
コナラ属	1			1
アカガシ亜属	2			2
ケヤキ		1		1
ヤマグワ	1			1
モモ		1		1
コクサギ	2			2
トネリコ属	1			1
総計	30	10	10	50

表3 時期別樹種同定結果

仮道管内壁に顕著な螺旋肥厚がある。放射組織はすべて放射柔細胞からなり、単列である。分野壁孔はヒノキ型が1分野あたり2個前後あるが本標本では確認できない。

4. ハンノキ属ハンノキ亜属 *Alnus* Subgen. *Alnus* Butulaceae 写真図版 4a~4c: A3-47

小型の道管が単独あるいは放射方向に複合して散在する散孔材。道管の直径は成長輪界付近でわずかに減少する程度であるが、道管の密度は晩材部において低くなる。道管は20本前後の横棒からなる階段状穿孔板を持つ。放射組織は単列と集合放射組織があり、いずれも平伏細胞のみから構成されている。

5. ハンノキ属ヤシャブシ亜属 *Alnus* Subgen. *Alnaster* Betulaceae 写真図版 5a~5c: A3-2

小型の道管が単独あるいは放射方向に複合して散在する散孔材。道管の直径は成長輪界付近でわずかに減少し、密度も低くなる。道管は20~30本程度の横棒からなる階段状穿孔板を持つ。放射組織は単列で平伏細胞のみから構成されている。

6. ブナ属 *Fagus* Fagaceae 写真図版 6a~6c: A3-24

小型の丸い道管が密に均一に散在する散孔材。道管の直径は成長輪界付近で減少する。道管は単穿

孔板と横棒が10本以下の階段状穿孔板を持つが階段状穿孔板は腐朽のため確認できなかった。放射組織はすべて平伏細胞のみから構成されているが幅は1~10列まで幅がある。

7. コナラ属クヌギ節 *Quercus* Sect. *Aegilops* Fagaceae 写真図版 7a~7c: A3-11

成長輪の始めに大型で丸い道管が1列に並ぶ環孔材。晩材部では径を減じた厚壁の道管が放射方向に配列する。道管は単穿孔板を持つ。放射組織は平伏細胞のみから構成され、大きさには明らかに2階級あり単列と10細胞幅前後に達する背の高い大型のものからなる。軸方向柔組織は晩材部で3細胞幅以下の帯状に分布する。

8. コナラ属コナラ *Quercus* Sect. *Prinus* Fagaceae 写真図版 8a~8c: A3-48

成長輪の始めに大型で丸い道管が1列に並ぶ環孔材。晩材部では急激に径を減じた多角で薄壁の道管が火炎状に散在する。放射組織はすべて平伏細胞であるが、大きさは明らかに2階級あり単列と10列前後に達する大型のものから構成される。道管放射組織間壁孔は楕円形の対列状~柵状。軸方向柔組織は晩材部で3細胞幅以下の帯状に分布する。

9. アカガシ亜属 *Quercus* Subgen. *Cyclobalanopsis* Fagaceae 写真図版 9a~9c: A3-13

中型で厚壁の丸い道管が単独で放射方向に配列する放射孔材。道管径は晩材部にむかって多少減少する。道管は単穿孔板をもつ。放射組織は平伏細胞のみから構成され、大きさには明らかに2階級あり、単列と8細胞幅前後に達する大型のものからなる。道管放射組織間壁孔は柵状。軸方向柔組織は晩材部

樹種	平鋸	えぶり	横槌	杭	その他	サンプル	計
カヤ				1			1
ハンノキ属ヤシャブシ節	1						1
コナラ属クヌギ節	1	1		8	5	6	21
コナラ属					1		1
アカガシ亜属			1		1		2
ヤマグワ						1	1
コクサギ				1		1	2
トネリコ属						1	1
総計	2	1	1	10	7	9	30

表4 4~5世紀の製品別樹種同定結果

第4章 科学分析

樹種	曲物	漆椀	杭	その他	計
ヒノキ	3				3
ヒノキ属	2				2
ブナ属			1	1	2
コナラ属コナラ節				1	1
ケヤキ		1			1
モモ			1		1
総計	5	1	2	2	10

表5 中世の製品別樹種同定結果

で3細胞幅以下の帯状に分布する。

10. ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino
Ulmaceae 写真図版 10a~10c: A3-27

成長輪の始めに大型で丸い道管が1列に並ぶ環孔材。晩材部では急激に径を減じた薄壁の多角形の道管が多数集合して接線方向に配列する。道管は単穿孔板を持ち、小道管内部には螺旋肥厚がある。放射組織は1~6列程度で平伏細胞と1細胞高の方形細胞からなる縁辺部から構成されている。時に縁辺部の方形細胞に結晶が含まれていることがある。

11. ヤマグワ *Morus australis* Poir. Moraceae 写真図版 11a~11c: A53-76

成長輪の始めに大型で丸い道管が1列並ぶ環孔材である。晩材部では急激に直径を減じた道管が放射方向、接線方向に複合する。道管は単穿孔板を持つ。小道管内壁には螺旋肥厚がある。放射組織は1~4列幅程度で、平伏細胞と2~4細胞高程度の直立もしくは方形細胞の縁辺部がある。道管放射組織間壁孔は大きくレンズ状を呈している。

12. モモ *Prunus persica* Batsch Rosaceae 写真図版 12a~12c: A3-23

成長輪の始めに中型で丸い道管が独立して2~4列程度並び、そこからやや径を減じた道管が数個放射方向に複合して散在する半環孔材である。障害細胞間道が接線方向に並んでいる。道管は単穿孔板をもち、内壁には螺旋肥厚がある。道管内部に茶褐色の物質が見えることが多い。放射組織は1~5細胞幅程度で平伏細胞と縁辺部に方形、直立細胞がある。

13. コクサギ *Orixa japonica* Thunb. Rutaceae 写真図版 13a~13c: A3-21

極めて小型で薄壁の角張った道管が、斜めに集合して雲紋状を呈する散孔材。道管は単穿孔板を持ち、道管内壁に螺旋肥厚がある。放射組織は単列で平伏細胞と1細胞高の直立細胞の縁辺部から構成される。

14. トネリコ属 *Fraxinus* Oleaceae 写真図版 14a~14c: A53-14

大型の道管が成長輪の始めに並ぶ環孔材。晩材部では厚壁の小型の道管が放射方向に複合もしくは単独で散在する。道管は単穿孔板を持つ。放射組織は2列で平伏細胞のみから構成されている。

III 結果

同定した結果針葉樹3樹種、広葉樹11樹種の合計14樹種が確認された(表1, 2)。4~5世紀ではコナラ属クヌギ節が最も多く30点中21点を占めている。コナラ属クヌギ節が多い結果は伊勢崎市や高崎市周辺の傾向と一致している。ほかにアカガシ亜属、ヤマグワ、コクサギ、トネリコ属など広葉樹材が中心に同定された。中世ではヒノキ(ヒノキ属)が最も多く、針葉樹材が増加している。近世・近代では利用している針葉樹材の種類が増加し、ブナ属、コナラ属コナラ節などもあわせて確認されている。

引用文献

- 藤根 久. 1993. 佐助ヶ谷遺跡出土木製品の樹種同定. 「佐助ヶ谷遺跡(鎌倉税務署用地)発掘調査報告書 第2分冊」(佐助ヶ谷遺跡調査団編). 佐助ヶ谷遺跡調査団, 389-396.
藤根 久・松葉礼子. 1998. 浜川遺跡群出土木材の樹種同定. 「浜川遺跡群」(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編). 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団, 336-360.

樹種	曲物	漆椀	椀	下駄	杭	板材	計
スギ			1				1
ヒノキ						1	1
針葉樹				1			2
ハンノキ属ハンノキ節					1		1
ブナ属		4					4
コナラ属コナラ節					1		1
針葉樹	1						1
総計	1	4	1	1	2	1	10

表6 近世・近代の製品別樹種同定結果

第2節 屋敷遺構柱穴出土炭化材の樹種同定

松葉礼子. 2000. 北条小町邸跡で出土した土留め用材・木製品破片の樹種同定. 「北条小町邸跡(泰時・時頼邸)発掘調査報告書」(北条小町邸発掘調査団 宮田事務所編). 北条小町邸発掘調査団, 137-149.

鈴木三男・能城修一. 1986. 新保遺跡出土加工木の樹種. 「新保遺跡I 弥生・古墳時代大溝編 本文編」(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編). 群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団, 71-94.

鈴木三男・能城修一. 1982. 日高遺跡出土木材の樹種. 「日高遺跡一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第5集一」(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編). 群馬県考古資料普及会, 372-388.

鈴木三男・能城修一. 1997. 井戸から出土した木製品の樹種. 「早稲田大学安部球場跡地埋蔵文化財調査報告書 下戸塚遺跡の調査 第4部 中近世編 一中世一」(早稲田大学校地埋蔵文化財調査室編). 早稲田大学, 239-250.

徳永重元. 1982. 日高遺跡の花粉分析. 「日高遺跡一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第5集一」(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編). 群馬県考古資料普及会, 349-356.

辻誠一郎・南木睦彦・小杉正人. 1986. 「茂林寺沼及び低地湿原調査報告書 第2集 館林の池沼群と環境の変遷史」. 館林市教育委員会, 110pp.

第2節 屋敷遺構柱穴出土炭化材の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

ここでは、当遺跡3区から出土した炭化材8試料の樹種同定結果を報告する。これらは、中世のピットから出土した柱材と推定されるものである。なお4試料については、同一試料の一部を処理して、放射性炭素年代測定が実施されている(別報)。

2. 炭化材樹種同定の方法

まず、炭化材の横断面(木口)を手で割り、その断面を実体顕微鏡で観察し分類群のおおよその目安をつける。アカガシ亜属・コナラ節・クヌギ節・クリ・シイノキ属などは、横断面の管孔配列が特徴的であり実体顕微鏡下の観察で同定可能であるが、それ以外の分類群については3方向の断面(横断面・接線断面・放射断面)を走査電子顕微鏡で拡大し組織の特徴をもとに、同定を決定した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子(株)製 JSM-T100型)で観察と写真撮影を行った。

3. 結果とまとめ

表1に同定結果をまとめた。

検出された分類群は、針葉樹のヒノキ科、落葉広

葉樹のコナラ節・クヌギ節・クリ・ケヤキ・カツラ・トネリコ属、そしてタケ亜科である。検出された分類群樹は、いずれも高木となり建築材に適した有用材が取れる樹種で、遺跡からの出土事例も多い樹種であった。

3試料から検出されたタケ亜科は、厚みが2mmほどの厚く硬い破片であり、明瞭な節部があるものもあった。このようなことから、かなり太い程であったと推測され、ササ類ではなくタケ類と思われる。

2716 Pitからはカツラとトネリコ属が、924 Pitからはクヌギ節とヒノキ科の異なる分類群の破片が検出された。しかし、どちらか一方の樹種が混入したと断定できるような差異は無かった。また、Pit 600のコナラ節は直径1.2cmの丸木が半分に分かれた状態の細い材で分枝部位もあった。Pit 924のクヌギ節は、直径1.5cmの丸木で樹皮がついたやはり細い材であった。これらは柱材にしては細すぎるようではあるが、枝はらいを十分にしない状態で用いていた可能性もあり、単に混入とは否定できないと思われる。

以上のように中世の柱穴からは複数の樹種が検出され、特に落葉広葉樹材が多く使われていた。そして、タケ亜科(おそらくタケ類)は3ヶ所のピットから検出された事から、柱材として加わっていたようである。

第4章 科学分析

No.	資料番号	状態	出土遺構	木製品	樹種	備考(形状・ ¹⁴ C試料)
101	A5-08	炭化材	3-1-0246 Pit	柱材	タケ亜科	破片厚み2mm
102	A5-11	炭化材	3-1-2716 Pit	柱材	カツラ トネリコ属	
103	A5-12	炭化材	3-1-0446 Pit	柱材	ケヤキ	
104	A5-13	炭化材	3-1-0600 Pit	柱材	コナラ節	直径1.2cm 半割れ材 約10年輪あり
105	A5-14	炭化材	3-1-0615 Pit	柱材	タケ亜科	節あり PLD-1049
106	A5-15	炭化材	3-1-0924 Pit	柱材	ヒノキ科 クヌギ節	直径3cm 丸木 24年輪あり PLD-1050 外側 7年輪を使用 直径1.5cm 丸木 樹皮付き 12年輪あり
107	A5-16	炭化材	3-1-0952 Pit	柱材	タケ亜科	厚み2mm PLD-1051
108	A5-17	炭化材	3-1-2025 Pit	柱材	クリ	3破片 PLD-1052 1破片の外側 6年輪を使用

表7 中内村前遺跡3区出土炭化柱材の樹種結果

以下に各分類群の同定根拠とした、材組織の観察結果を記載する。

ヒノキ科 Cupressaceae 図版1 1a-1c (資料番号 A5-15)

仮道管・放射組織・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は極めて少ない。分野壁孔は1分野に1～3個、小型のスギ型やヒノキ型である。放射組織の壁は平滑で、仮道管にらせん肥厚はなく、樹脂道もない。放射組織の細胞高は全般に低く、5細胞高前後が多い。このような形質からヒノキ科の材と思われる、特にアスナロに類似するが分野壁孔の数は少ないので分類群は特定でき無かった。

コナラ属コナラ亜属コナラ節 *Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版1 2a-2c (資料番号 A5-13)

年輪の始めに中型の管孔が配列し、その後は孔口が薄壁で多角形の非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一、内腔にチロースが発達する。放射組織は単列のものと広放射組織がある。

コナラ属コナラ亜属クヌギ節 *Q.* subgen. *Quercus* sect. *Cerris* ブナ科 図版1 3a-3c (資料 A5-15)

年輪の始めに大型の管孔が1～3層配列し、その後は孔口が厚壁で円形の小型の管孔が単独で火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一、チロースがある。放射組織は同性、単列のものと広放射組織があり、道管との壁孔は大型、大型の結晶細胞が多い。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版2 4a-4c (資料番号 A5-17)

年輪の始めに多数の大型の管孔が配列し、晩材部は非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一、チロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は大型である。

ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図版2 5a-5c (資料番号 A5-12)

年輪の始めに中型の管孔が1～2層配列し、その後は小型から非常に小型の管孔が集合して塊状や接線状・斜状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、5～8細胞幅の紡錘形、上下端や縁に結晶細胞があり、道管との壁孔は交互状である。

カツラ *Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc. カツラ科 図版2 6a-6c (資料番号 A5-11)

小型で多角形の管孔が年輪内に密在し、年輪界ではやや径を減じ、管孔の占有面積が非常に多い散孔材。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は横棒数が非常に多い階段穿孔である。放射組織は異性、1～3細胞幅、多列部の上下端に方形細胞や直立細胞からなる単列部が1～3細胞層ある。

トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科 図版3 7a-7c (資料番号 A5-11)

中型の管孔が2～3層配列し、その後は小型の管孔が単独または2～3個が複合して分布する環孔材。周囲状柔組織が顕著である。道管の壁孔は小型

で交互状、穿孔は単一である。放射組織は同性、1～2細胞幅である。

タケ亜科 Gramineae 図版 3 8a (資料番号 A5-6)

2 mm前後の厚みがある硬質の稈で、明瞭な節を持

つ。横断面の維管束は、散在する不整中心柱で、維管束鞘が非常に発達している。このような形質から、タケ亜科と同定され、特に太く高く成長するタケ類と考えられる。

第3節 放射性炭素年代測定

山形秀樹 (パレオ・ラボ)

中内村前遺跡から出土した炭化材試料4点の放射性炭素年代をAMS法にて測定した。測定結果と暦年代較正して得られた結果は表1に記載した。

た。したがって、表1に記載した¹⁴C年代は同位体分別効果による測定誤差を補正した年代である。

放射性炭素年代測定について

試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨(グラファイト)に調整した後、加速器質量分析計(AMS)にて測定した。測定された¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、補正した¹⁴C濃度を用いて¹⁴C年代を算出した。

なお、¹⁴C年代値(yrBP)の算出には¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差(±1σ)は、計数値の標準偏差σに基づいて算出し、標準偏差(One sigma)に相当する年代である。これは、試料の¹⁴C年代が、その¹⁴C年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。試料の¹⁴C計数率と現在の標準炭素(Modern standard carbon)の¹⁴C計数率の比が $^{14}\text{C}_{\text{Sample}} / ^{14}\text{C}_{\text{Modern}} \geq 1$ の時はModernと表記する。

同位体分別効果の補正について

表1に記載した $\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ 値は、PDB標準試料の¹³C/¹²C比($(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{PDB}} = 0.0112372$)を標準値として、その標準値からのずれを千分率で示し、試料炭素の¹³C/¹²C比($(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{sample}}$)を質量分析計で測定して、 $\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}} = [\{ (^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{sample}} - (^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{PDB}} \} / (^{13}\text{C}/^{12}\text{C})_{\text{PDB}}] \times 1000$ の計算式によって算出した。試料の $\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ 値を-25.0‰に規格化することにより、測定された試料の $\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ 値を用いて¹⁴C濃度を補正し、これを用いて¹⁴C年代を算出し

暦年代較正について

暦年代較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い(¹⁴Cの半減期 $5,730 \pm 40$ 年)を較正し、より正確に真の年代を求めるために、¹⁴C年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の¹⁴C年代の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と¹⁴C年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて¹⁴C年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて較正暦年代を算出する。較正暦年代の算出にRadiocarbon Calibration Program* CALIB rev. 4.3 [Reference for datasets used: Stuiver, M., Reimer, P.J., Bard, E., Beck, J.W., Burr, G.S., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, F.G., v.d. Plicht, J., and Spurk, M. (INTCAL98: Stuiver et al., 1998a). Radiocarbon 40, p.1041-1083]を使用した。なお、暦年代較正值は¹⁴C年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、真の年代である可能性が最も高いことを示す。また、1σ暦年代範囲および2σ暦年代範囲は確率分布を用いて算出した暦年代範囲であり、その範囲内に真の年代が入る可能性が高いことを示す。1σ暦年代範囲は¹⁴C年代誤差に相当する較正曲線上の暦年代範囲であり、真の年代が入る確率が68%であることを示す。1σ暦年代範囲のProbabilityは、68%のうちで、さらに特定の

第4章 科学分析

1σ 暦年代範囲に入る確率を示す。同様に、2σ 暦年代範囲は¹⁴C年代誤差の2倍(±2σ)に相当する較正曲線上の暦年代範囲であり、真の年代が入る確率が95%であることを示す。2σ 暦年代範囲のProbabilityは、95%のうちで、さらに特定の2σ 暦年代範囲に入る確率を示す。

較正曲線は¹⁴C濃度の変動のためデコボコしており、そのため¹⁴C年代値に対応する暦年代較正值、または¹⁴C年代誤差に相当する暦年代範囲が複数存在する場合があるが、暦年代較正值はいずれも等しく真の年代である可能性があり、1σ 暦年代範囲はいずれも68%、2σ 暦年代範囲はいずれも95%の確率で、さらにProbabilityに示された確率で真の年代が入る。

暦年代較正は約二万年前からAD1950年までが有効であり、該当しないものについては暦年代較正值を……またはModernと表記し、1σ 暦年代範囲および2σ 暦年代範囲を……と表記する。また、cal

AD1955*は核実験後の年代を指し、Modernを意味する。ただし、一万年以前のデータはまだ不完全であるため注意する必要がある

備考

ModernはAD1950年以降の新しい年代を指す。yrBPはAD1950年から過去へ遡った年代を意味する。calは較正した暦年代を意味し、実年代との混同を防ぐためにつけられる。また、Probabilityが10%未満の1σ 年代範囲および2σ 年代範囲については記載を省略した。

引用文献

中村俊夫(2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代, p.3-20.
 Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended ¹⁴C Database and Revised CALIB3.0 ¹⁴C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

測定番号 (測定方法)	試料データ	δ13CPDB (%)	14C年代 (yrBP±1σ)	14C年代を暦年代に較正した年代		
				暦年代較正值	1σ 暦年代範囲(Probability)	2σ 暦年代範囲(Probability)
PLD-1049 (AMS)	炭化材(タケ亜科) A5-143-1-0615Pit 柱材	-27.1	820±25	cal AD1220	cal AD1210-1260(98.7%)	cal AD1185-1275(97.4%)
PLD-1050 (AMS)	炭化材(ヒノキ科) A5-153-1-0924Pit 柱材	-23.5	1140±25	cal AD895 cal AD925 cal AD935	cal AD885-905(23.2%) cal AD915-965(71.8%)	cal AD860-980(90.9%)
PLD-1051 (AMS)	炭化材(タケ亜科) A5-163-1-0952Pit 柱材	-27.7	810±25	cal AD1225 cal AD1230 cal AD1240	cal AD1220-1260(100%)	cal AD1190-1280(100%)
PLD-1052 (AMS)	炭化材(クリ) A5-173-1-2025Pit 柱材	-25.9	850±25	cal AD1215	cal AD1165-1225(97.7%)	cal AD1155-1265(95.3%)

第8表 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

第5章 まとめ(小結)

以上述べてきたように中内村前遺跡の1～4区に於いては多数の遺構を調査し、遺物を取り上げることができた。その概要については第3章の各節冒頭に述べたので繰り返さないが、1～4区全域にAs-A降下(1783)後の耕作遺構や水路が見られた。そして1区西部には古代の集落、2区東半部には古墳時代前・中期の旧河道や古墳時代後期と平安時代末期の水田址、3区西半部には鎌倉時代以降の屋敷遺構、3区東半～4区西部にかけては中世の水田址、4区全域には平安時代末期の水田址を調査した。

その成果は少なくなかったが、本書に於いては特に3区に確認、調査した(鎌倉時代頃を中心として使用されたと想定される)屋敷遺構の溝及び掘立柱建物群(ピット群)、及び3-1-26号溝出土の墨書礎石について触れてまとめたい。

第1節 屋敷遺構の堀と溝

1 はじめに

3-1-屋敷遺構(以下「屋敷」とする)に於いては、その周囲を画する溝遺構が20条、屋敷内の区画溝等7条が確認、調査されている。以下、屋敷遺構の溝遺構について若干の検討を行いたい。

尚、以下本項に於いては各遺構番号の表記を簡略にするため、遺構番号のうち3区1面の遺構であることを示す「3-1-」表記を省略することとする。

2 溝遺構の掘り直し回数

屋敷周囲を画する溝の新旧関係は殆ど特定できなかったがあるが、このうち屋敷の東側を画する溝群(26～29・32・36～38号溝)では、26号溝使用の時期→北半は27号溝、南半は26号溝を使用した時期→27号溝使用の時期の3時期が想定される。更に26号溝と33号溝の覆土の堆積状況から、26号溝が33号溝に繋がっていた時期→26号溝から南側の35号溝に直線的に繋がっていた時期の2時期が想定されてい

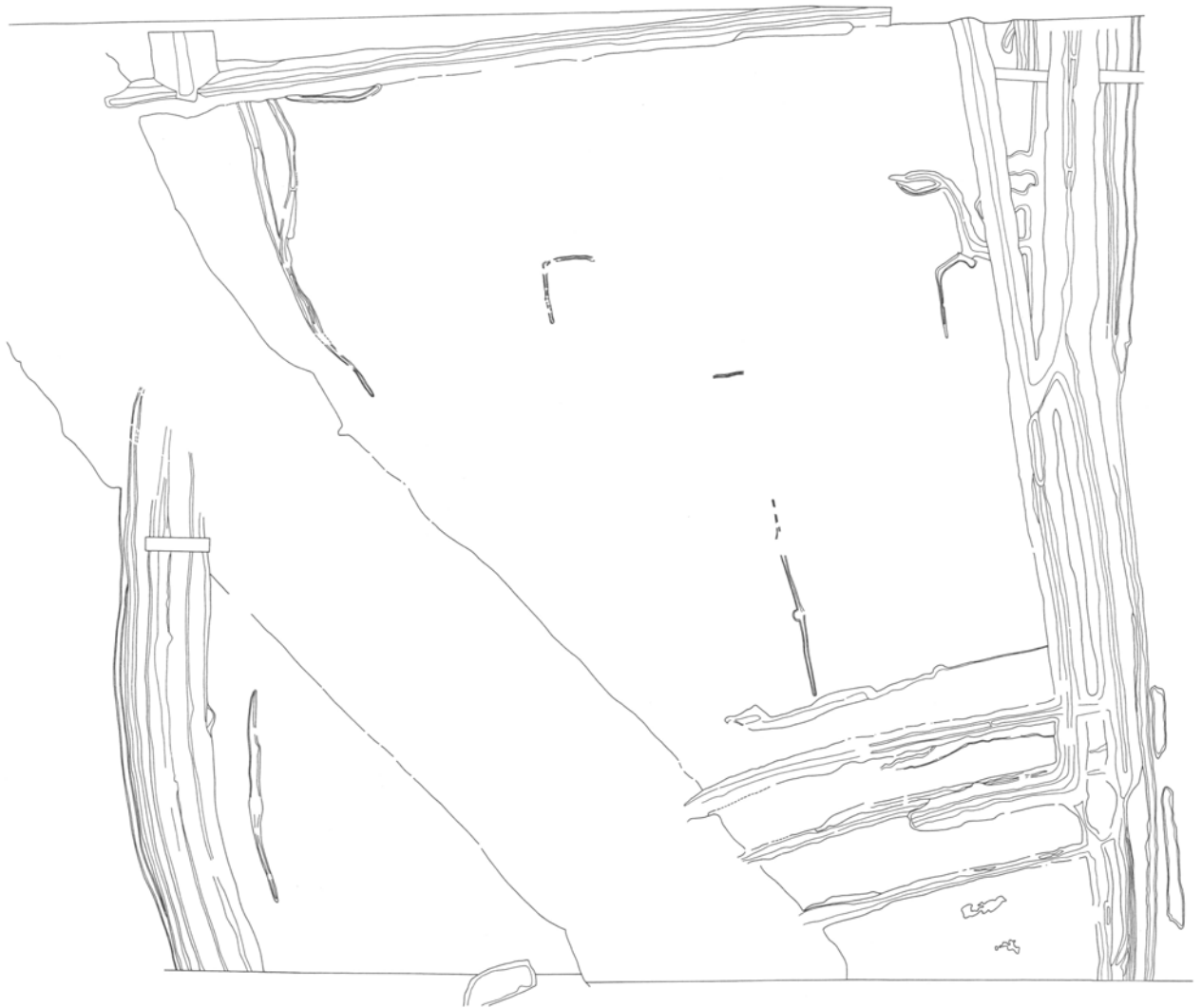
第3章でも述べたように、3区1面の屋敷遺構で確認した2,726基のピットの分析に当たっては東北芸術工科大学の宮本長二郎先生のお手を煩わせた。先生にはお忙しい中、ピット群から72棟の建物を抽出して戴いた。抽出された個々の建物については建物の軸方向に関する若干の考察と併せて失礼な筆者が第2節で述べさせて戴くこととした。先生には建物の総括についての玉稿を賜った。この玉稿については第3節に掲載させて戴くこととする。

また、3区1面の屋敷遺構東堀である3-1-26号溝からは非常に珍しい墨書礎石が出土した。ここに書かれた経文については神奈川県立金沢文庫の西岡芳文先生のお手を煩わせ、ご鑑定をお願いした。先生にはお忙しい中ご丁寧なご検討を戴き玉稿を賜った。この玉稿については第4節に掲載させて戴いた。

る。これに他の溝の新旧を勘案すると、東側の溝だけで合わせて8時期以上の時期のあったことが確認されている。

また、南側を画する溝群(8・12～15・35溝)では5時期以上が想定され、西側を画する溝群(4・5・6号溝)では6号溝→5号溝→4号溝へ移行した3時期が設定される。北側を画する溝群(7・11・20号溝)ではその遺構のあり方から20号溝或いは7号溝で完結した時期と、北側に新たに郭を配置したこと考えられる時期の3時期を想定することができた。更に11号溝では覆土の状態から2回の掘り直しが確認された。

このように溝遺構からは部分によって想定される時期の数は異なるが、一辺3時期以上、全体としては8時期以上の造り替えのあったことを想定することができるのである。このことは後述する建物の重複の状況と併せて、屋敷遺構が長期的に使用されていたことを示している。



第213図 屋敷遺構と溝の配置

3 一つの時期に於ける溝・堀の配置

さてこれら屋敷遺構の四囲を廻る溝群について、一時期にどの溝とどの溝が対応したかは特定できなかったのであるが、以下のような規模に関する状況が認められる。

屋敷遺構の郭を包むと想定される溝のうち東側の26・27号溝、西側の4号溝、南側の8・33号溝、北側の7・11号溝は堀と呼べるような規模を有するものであった。これらの溝は近世の溝に壊されていたり、調査区外に出る部分もあるため全体の状況はつまびらかではないのであるが、位置関係から中央郭の西側を画する4号溝と北側を画する7号溝は接続する可能性を有し、北側郭の西側を画する11号溝と

中央・北側郭の東を画する26・27号溝が調査区外に存在が推定できる北側郭の北を画する堀を介して連続する可能性が考慮されるのである。しかしながら、例えば東側の27号溝は南側で途切れて10m以内にこれに接続或いは対応する堀は確認されていない。また、東側から入って南側に回り込む26号溝と33号溝も、33号溝の西端が途切れていて延長方向にある8号溝とは21.5mと、かなりの距離で隔たっている。従って33号溝と8号溝が対応するものとは考えられない。このように調査区外に出ている不明箇所を考慮に入れ、或いは虎口の存在を想定しても“堀”だけで屋敷遺構の四囲を囲むことはできないのである。

一方“堀”に比べて小規模な“溝”では、中央郭の西を画する5・6号溝と北を画する20号溝が接続する可能性を有し、南を画する溝のうち14号溝が27号溝の位置まで達しているため南から来る28号溝と接続していた可能性がある。しかし近世の溝や上述の“堀”に切れ、或いは南側の15号溝に見られるようにその掘削が浅いためどこまで延びていたか特定できないものも見られたため、全体の状況は不明である。小規模な“溝”だけ、屋敷遺構の四囲を囲めた可能性はあるのであるが、実際に囲んでいたか否かを特定することはできなかったのである。

上述のように、溝の規模で分けた場合、大きな規模の溝(=堀)だけでは屋敷遺構を囲む溝としては完結しないことが確認された。従って、郭の四囲を囲むためには堀と小規模な溝とを組み合わせる必要があると思慮されるが、規模の違う溝を同格のものとして繋いで良いものか否か判断に迷っていた。そんな折り、松田直則氏から高知県南国市の田村館址群についてご教示賜る機会を得たのであるが、その際、氏は田村館址群の館では溝→堀→溝という推移が認められるが、平時には溝を使用し、戦乱期には堀を使用していたと判断され、堀と溝の違いは周辺地域の安定に左右されるものであるといった見解を示された。一つの時期に堀と溝の両者が並存する本遺跡の屋敷遺構にこうした見解を当て嵌めるのが適当か否かという問題はありますが、一方で両者を用いなければ屋敷遺構を囲むことができないのであり、堀と溝が掘削時点での周辺地域の安定に左右されるものであるとすれば、両者が並存し、同格のものとして許容されていたものと思われるのである。

尚、本屋敷は前述したように出土炭化材の年代測定から平安時代末期から鎌倉時代前半期の年代が与えられ、また出土遺物からも鎌倉時代を中心とする時期の所産として解釈されている。本遺跡周辺では、鎌倉時代は比較的安定した世情であったと思われるが、その当初の源平合戦の時期、中期の上野守護安達氏失脚の霜月の乱の時、及びその終焉から南北朝期に至る時期は不安定となる。しかし、堀の掘削が、

こうした不安定要因だけに拠るものであるか否かを特定することはできなかった。

4 屋敷遺構内部の溝群

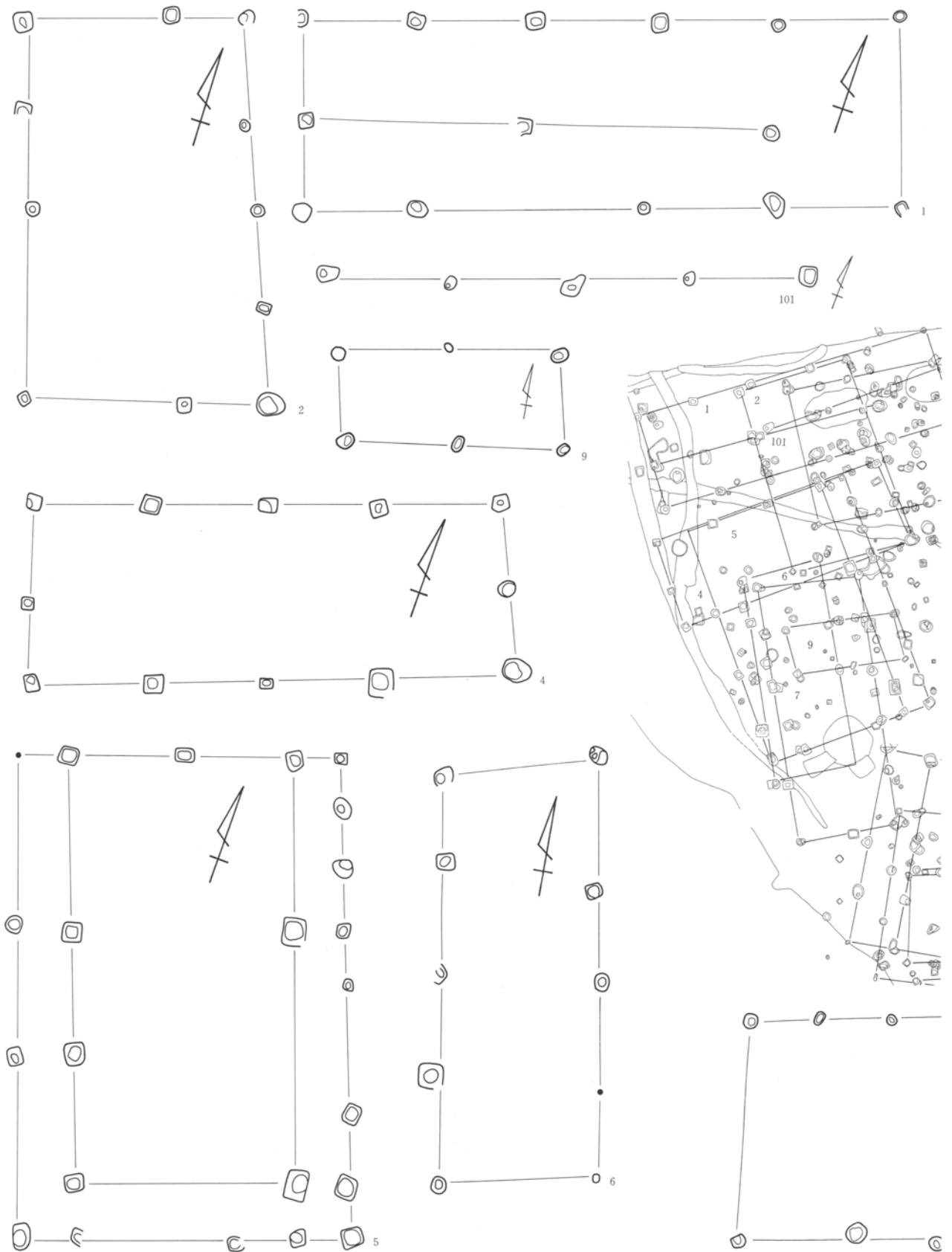
屋敷遺構内部の溝としては8条が確認されている。何れも郭全体に広がるものではなかったが、このうち南西部の4号溝の内側に並走する9号溝は位置的に土塁の内側を画する溝と解釈した。しかし、或いは屋敷遺構の西を画する溝であった可能性も残されている。

一方、屋敷遺構中央南部に在る南北走行の16号溝は屋敷遺構中央郭、特に南東域北部を東西に画する溝と解釈した。建物との関係で言うと、16号溝は走行=方位が近似する後述のSB46号建物とSB52号建物の間に位置しているため、両建物に伴うもので、これを画する溝である可能性を考えたい。

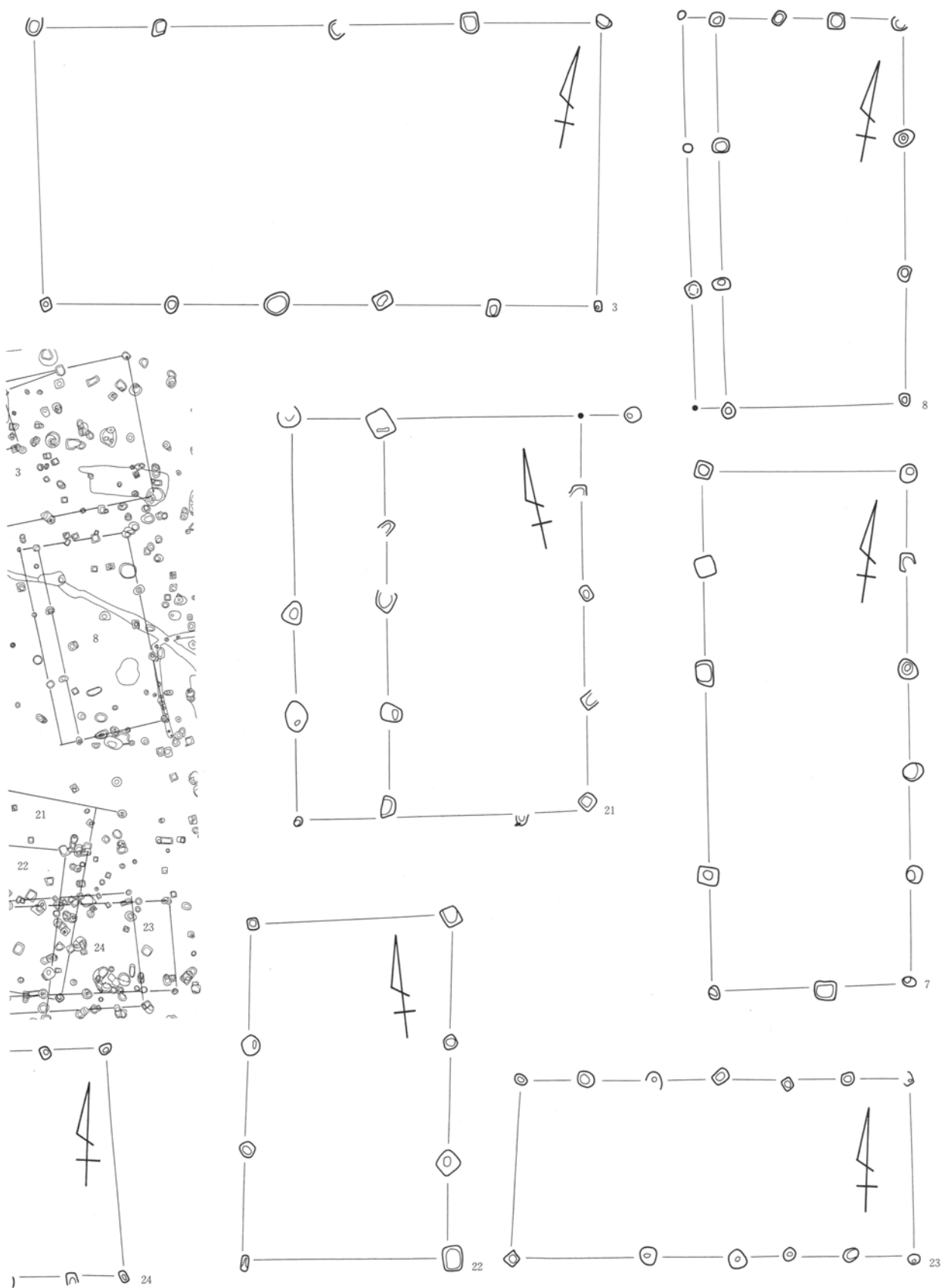
中央郭中北に在る22・23号溝は直線的或いはL字形のプランを呈するもので、建物に伴うものと解釈しているが、共に抽出された掘立柱建物でこれに適合する配置のものは認められなかった。走行の方向は両溝共に最も多く建物の建っていた時期のものとして一致している。

北東部の24・25号溝は掘立柱建物の分布が希薄で、井戸の多く確認された区域に在って井戸に近い位置に在り、26号溝に続くため、排水のための溝と解釈した。プランは鉤の手を呈しており、26号溝を使っていた時期、或いは北半を26号溝、南半を27号溝を使っていた時期に伴うものと解釈される。

北西部の17・18号溝はその走行が屋敷遺構四囲の堀等と一致していない。即ち、その北部に於いては7号溝に直行する傾向を示しているが、中・南部は近世以降の用水路である1～3号溝に並行する位置を走行している。こうしたことから17・18号溝は近世の水路である3号溝掘削へと続く時期のものではないかと考えられる。即ち、17・18号溝は屋敷遺構内に洪水等による流路の形成されつつあった状態を示しているのではないかと考えられるのである。



第214図の(1) 屋敷遺構内の掘立柱建物（北域西部）



第214図の(2) 屋敷遺構内の掘立柱建物（北域西部）

第2節 屋敷遺構内の建物

1 はじめに

第3章第3節に述べたように、3区屋敷遺構には2,726基のピットを確認、調査したのであるが、筆者の能力不足や調査期間との兼ね合いから十分な調査も、また建物の想定も行えずに発掘調査を終了した。その後整理段階に至っても建物の想定に苦慮していたのであるが、幸いにも宮本長二郎先生のご尽力によって72棟の建物と15基の柱穴列を想定して戴くことができた。

本来であるならば先生にご説明賜るべきところではあろうが、本報告書に於いては、私なりの理解に於いて抽出して戴いた建物についてその概要を述べさせて戴くこととしたい。

2 北域の建物と柱穴列

(1) 1号建物 (SB1, 第214図)

概要 北域北西位置し、郭北側を画する3-1-7号溝に沿うように在る。2×5間の建物で、一部の柱が確認されていないが、総柱建物に分類される。

間尺 東西 2.0~2.4m 平均 2.10m

南北 1.6~1.8m 平均 1.70m

主軸方位 N70°

(2) 2号建物 (SB2, 第214図)

概要 1号建物に直交して重複しており、3-1-7号溝の南に北側柱穴列に沿うように在る。2×4間の建物であるが、中央の柱穴列が東にやや片寄っている。

間尺 東西(西側) 2.7~2.8m 平均 2.75m

(東側) 1.3~1.5m 平均 1.40m

南北 1.5~1.9m 平均 1.69m

主軸方位 N340°

(3) 3号建物 (SB3, 第214図)

概要 北域北西位置し、1号建物の南東に重なって位置する。1×5間の建物であるが設計規格は2×5間であったと想定される。

間尺 東西 1.8~2.4m 平均 1.97

南北 4.8~5.0m 平均 4.95m

主軸方位 N80°

(4) 4号建物 (SB4, 第214図)

概要 1号建物の南に位置する。2×4間の建物であるが、東西の間尺に比し南北の間尺が短い。

間尺 東西 2.0~2.2m 平均 2.19m

南北 1.4~1.8m 平均 1.53m

主軸方位 N70°

(5) 5号建物 (SB5, 第214図)

概要 北側が4号建物中程に重なるように位置する。2×3間の建物で、南北列の中位の柱はそれぞれやや南に偏る。本体から80~90cm離れた東・南・西面に下屋を有するがピット配置はやや複雑である。

間尺 本体 東西 2.0~2.0m 平均 2.00m

南北 2.1~3.1m 平均 2.50m

下屋 東西 0.8~1.1m 平均 0.94m

南北 0.9~1.3m 平均 1.08m

主軸方位 N340°

(6) 6号建物 (SB6, 第214図)

概要 北域南西、5号建物中~南西部に重なるように位置する。1×4間の建物である。

間尺 東西 2.8m 平均 2.80m

南北 1.5~2.4m 平均 1.83m

主軸方位 N352°

(7) 7号建物 (SB7, 第214図)

概要 6号建物に対して南東にスライドしたような位置に重なって位置している。2×5間の掘立建物である。

間尺 東西 1.4~1.9m 平均 1.73m

南北 1.6~2.1m 平均 1.79m

主軸方位 N359°

(8) 8号建物 (SB8, 第214図)

概要 北側が10号建物の南西に一部重なって位置する。3×3間の建物であるが、東西の柱間は狭い。建物本体から西側50～60cmの位置に下屋を有する。下屋の柱間は本体のそれに準ずる。

間尺 本体 東西 1.0～1.1m 平均 1.05m
 南北 2.0～2.4m 平均 2.25m
 下屋 南北 2.1～2.5m 平均 2.30m

主軸方位 N350°

(9) 9号建物 (SB9, 第214図)

概要 北域西部に在り、5・6・7号建物に重複する。1×2間の小型の建物で、プランはやや菱形を呈する。

間尺 東西 1.9～2.0m 平均 1.98m
 南北 1.5～1.7m 平均 1.6m

主軸方位 N81°

(10) 10号建物 (SB10, 第215図)

概要 北域中北部に在る東西に棟を持つ庇付の大型建物で、1・8・11・18号建物と重複する。建物本体から西側60cmに下屋が付く。柱配置はやや不規則であるが、建物本体は2×8間の総柱の建物である。

間尺 本体 東西 1.2～2.3m 平均 1.77m
 南北 0.7～2.3m 平均 1.39m
 下屋 南北 1.4m 平均 1.18m

主軸方位 N78°

(11) 11号建物 (SB11, 第215図)

概要 10号建物の東に重複して位置する。3×2間の規格を持つ1×3間の建物と想定されるが、棟持柱は持たない。建物本体から80cm程の東西の位置に下屋を有する。

間尺 本体 東西 3.8～3.9m 平均 3.85m
 南北 2.1～2.2m 平均 2.12m
 下屋 南北 1.8～2.4m 平均 2.24m

主軸方位 N0°

(12) 12号建物 (SB12, 第215図)

概要 北域東部に在って11・13号建物などと重複する。1×4間の細長い建物である。廐の可能性も考えられる。

間尺 東西 1.9～2.6m 平均 2.29m
 南北 2.2～2.3m 平均 2.25m

主軸方位 N98°

(13) 13号建物 (SB13, 第216図)

概要 北域の大型建物の一つで、東南部に位置する。建物全体は正方形に近いプランを呈しているが、南東部に3×5間の南北に長い本体建物がある。その北東に2×3間の建物部分が付随し、北側0.7mと付随部分の東0.9mのラインに下屋が付く。東側の下屋のラインは南に延び、本体建物の南の列が東に延びたものと直角に交わる。付随部分南側列の延長線上の柱列が本体建物南寄りに並んでいる。

間尺 本体 東西 1.8～2.4m 平均 2.00m
 南北 1.3～2.3m 平均 1.85m
 付随部分 東西 1.2～1.7m 平均 1.41m
 南北 2.0～2.1m 平均 2.07m
 東側下屋 南北 0.5～0.9m 平均 1.33m

主軸方位 N350°

(14) 14号建物 (SB14, 第215図)

概要 北域東部で13号建物東部に重なる。棟持柱を持たない4×2間の建物であるが、規模はやや大きい。

間尺 東西 3.3～3.4m 平均 3.35m
 南北 1.9～2.7m 平均 2.3m

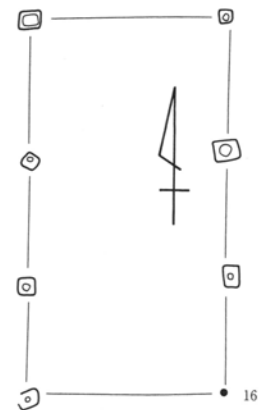
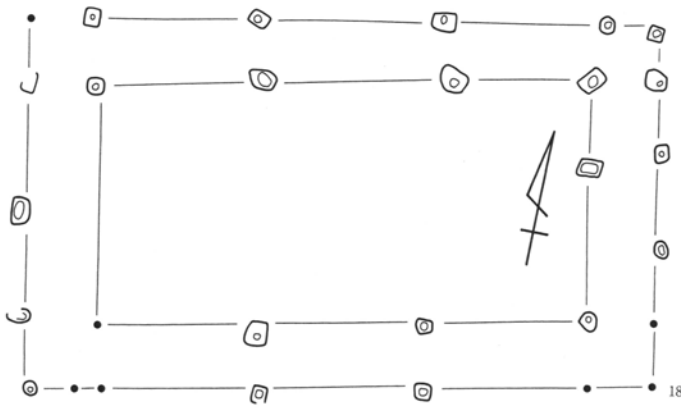
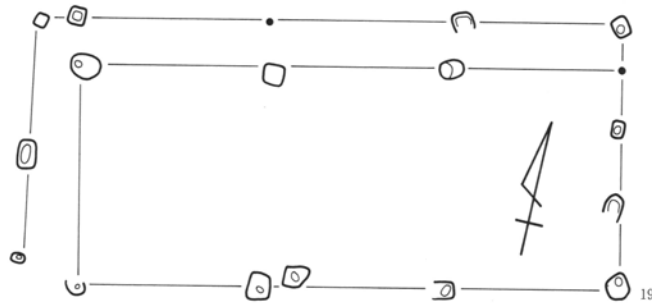
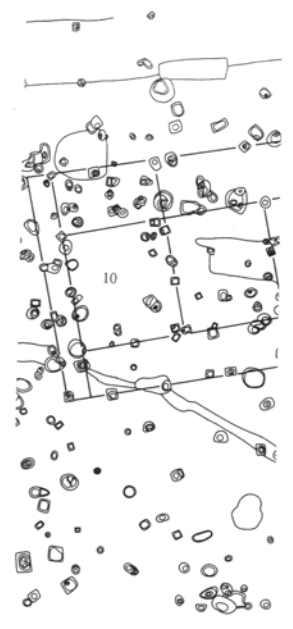
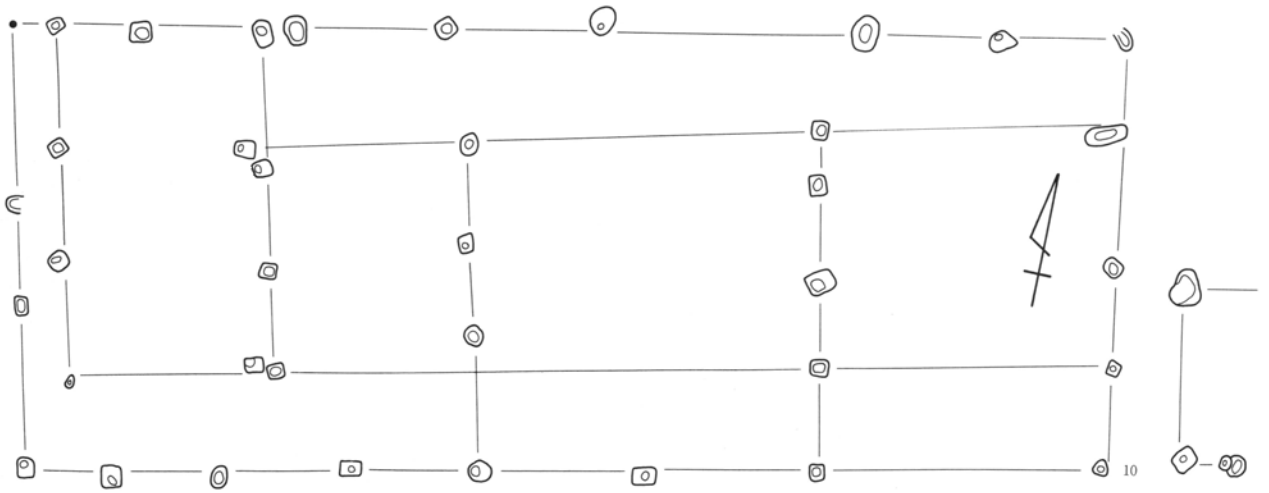
主軸方位 N348°

(15) 15号建物 (SB15, 第215図)

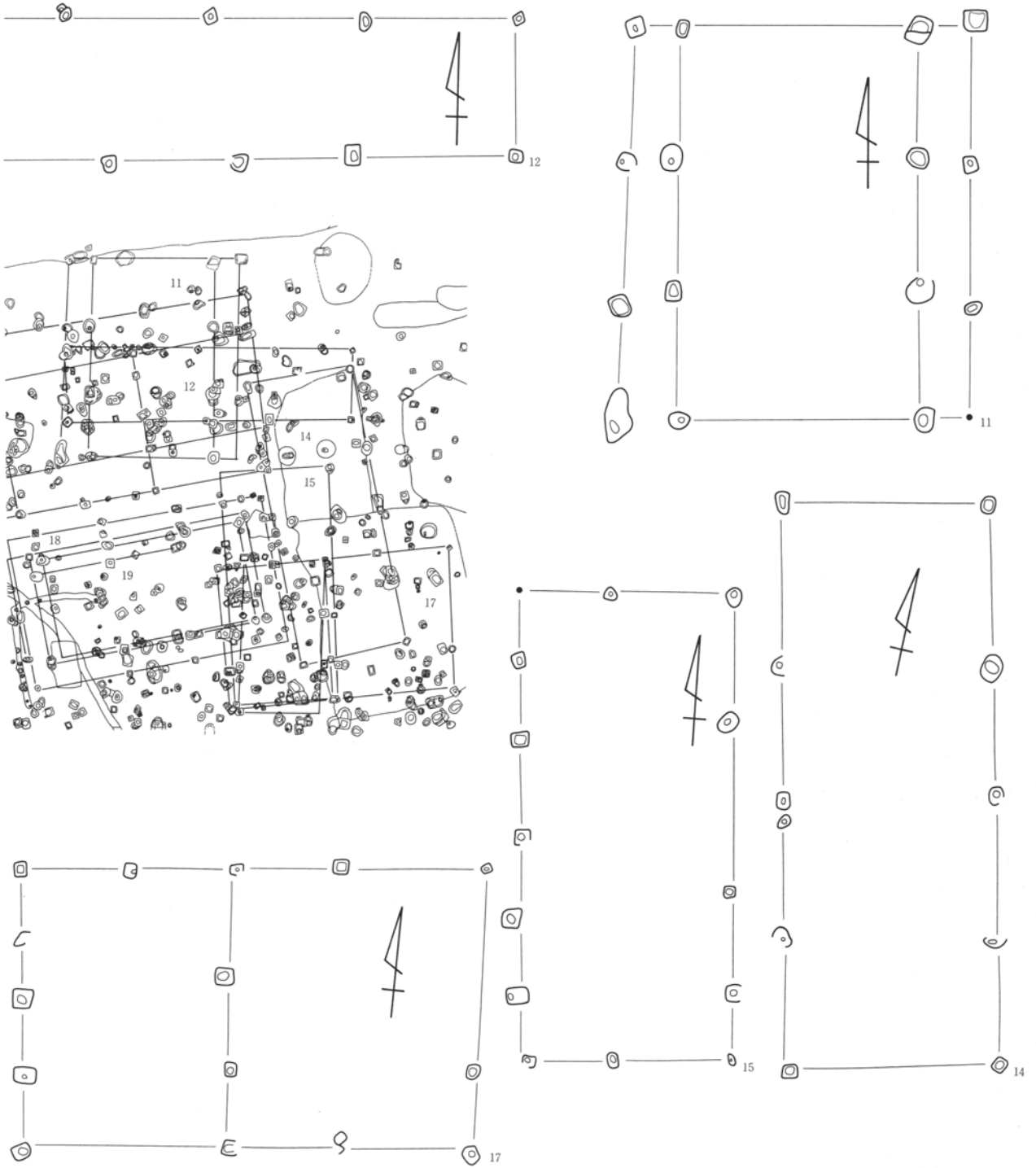
概要 北部東部で14・19号建物に跨って位置する。2×6間の建物で、棟持柱がやや西に偏る。

間尺 東西 1.4～2.0m 平均 1.70m
 南北 1.1～1.6m 平均 1.21m

主軸方位 N358°

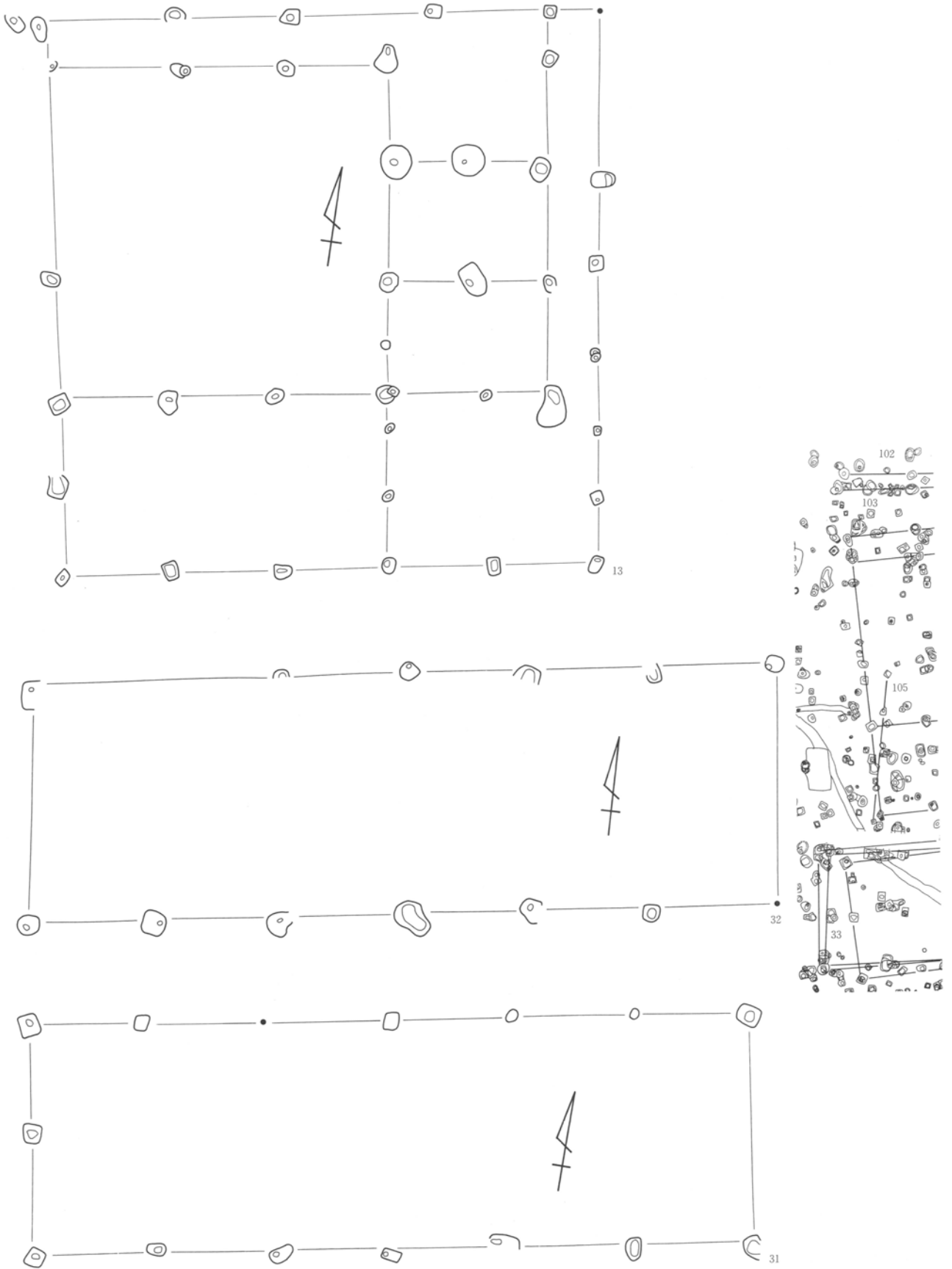


第215図の(1) 屋敷遺構内の掘立柱建物 (北域中部)

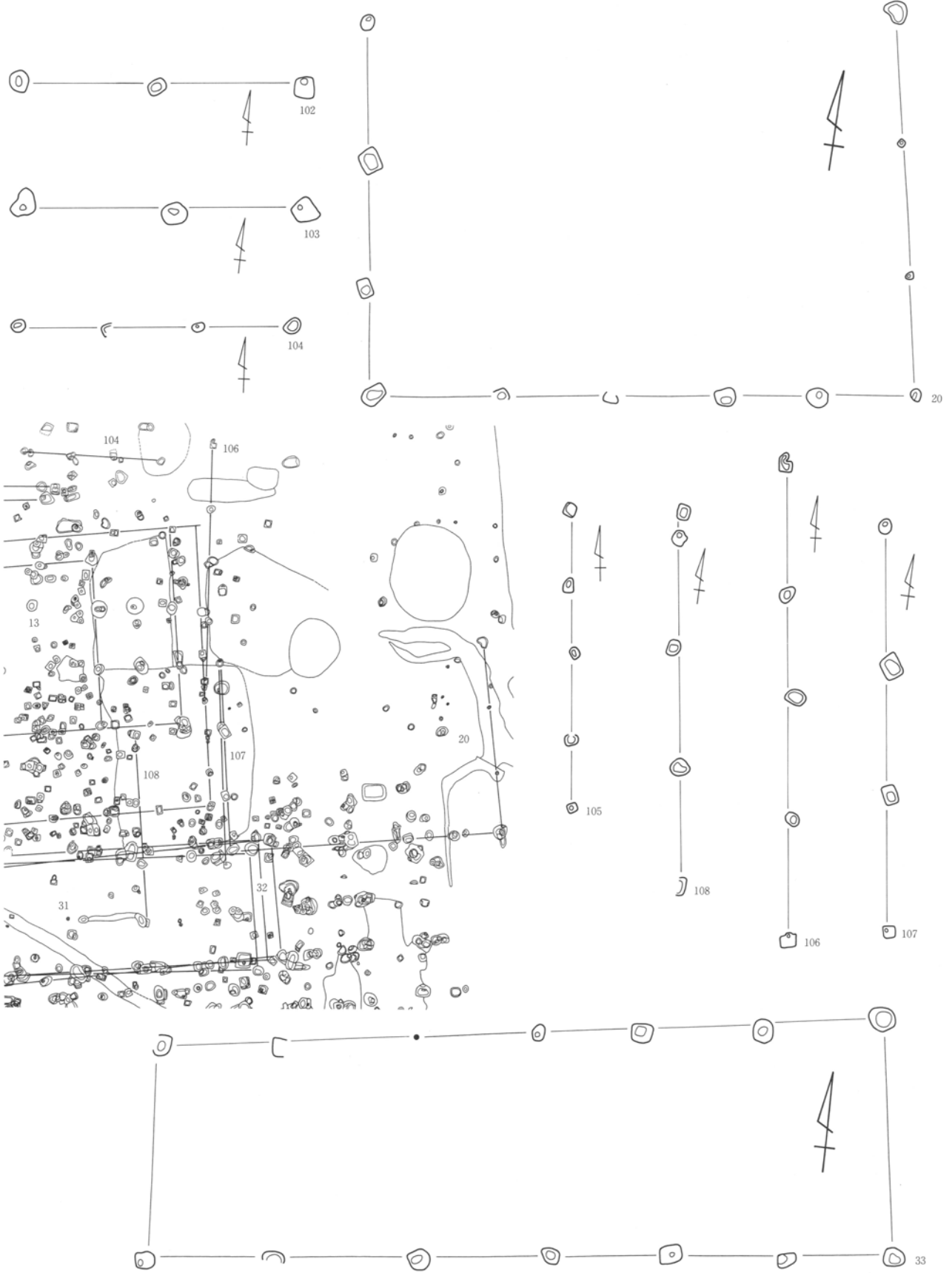


第215図の(2) 屋敷遺構内の掘立柱建物（北域中部）

第5章 まとめ (小結)



第216図の(1) 屋敷遺構内の掘立柱建物 (北域東部)



第216図の(2) 屋敷遺構内の掘立柱建物（北域東部）

第5章 まとめ(小結)

(16) 16号建物 (SB16, 第215図)

概要 15号建物の南よりに重なる。1×3間の小型の建物である。

間尺 東西 2.6m 平均 2.6m

南北 1.7~2.7m 平均 1.65m

主軸方位 N350°

(17) 17号建物 (SB17, 第215図)

概要 北域東部の13号建物の南東に重複する4×4間の東西に長い建物である。中央やや西寄りに柱穴列が並ぶ。南北列の中位の柱はやや南に偏る。

間尺 東西 1.7~2.3m 平均 1.85m

南北 1.0~1.3m 平均 1.16m

主軸方位 N80°

(18) 18号建物 (SB18, 第215図)

概要 北域中部南寄りに位置する、3×3間の東西に長い4面庇の建物である。下屋が建物本体から60cm~1m離れた位置に廻っている。南北方向の柱の掘削位置はやや不定である。

間尺 東西 1.8~2.5m 平均 2.18m

南北 0.9~1.3m 平均 0.93m

主軸方位 N79°

(19) 19号建物 (SB19, 第215図)

概要 18号建物の中に位置する。18号建物同様3×3間の東西に長い建物である。北側と西側の建物本体より50cm離れ位置に下屋が設けられている。

間尺 本体 東西 2.0~2.6m 平均 2.33m

南北 0.8~1.0m 平均 0.98m

下屋 南北 1.3~1.8m 平均 1.55m

主軸方位 N77°

(20) 20号建物 (SB20, 第216図)

概要 北域東南隅部に位置する。北側が欠失するが、残存部は3×5間の大型の建物である。プランは東西に若干長い。

間尺 東西 1.7~2.3m 平均 1.94

南北 1.9~2.5m 平均 2.25

主軸方位 N80°

(21) 101号柱穴列 (第214図)

概要 北域北西隅部に位置する。5基のピットからなる4間の柱穴列である。東西を向く。

間尺 東西 2.1~2.2m 平均 2.18m

主軸方位 N75°

(22) 102号柱穴列 (第216図)

概要 北域北東に位置する、3基のピットからなる東西方向の柱穴列である。

間尺 東西 2.5~2.6m 平均 2.55m

主軸方位 N80°

(23) 103号柱穴列 (第216図)

概要 102号柱穴列の南に近接する、3基のピットからなる東西方向の柱穴列。

間尺 東西 2.3~2.7m 平均 2.50m

主軸方位 N80°

(24) 104号柱穴列 (第216図)

概要 102号柱穴列の北東に近接する、4基のピットからなる東西方向の柱穴列。

間尺 東西 1.6~1.7m 平均 1.63m

主軸方位 N88°

(25) 105号柱穴列 (第216図)

概要 北域中部に位置する、5基のピットからなる南北方向の柱穴列である。

間尺 南北 1.2~1.5m 平均 1.30m

主軸方位 N2°

(26) 106号柱穴列 (第216図)

概要 北域北東北寄りに位置する、5基のピットからなる南北列の柱穴列である。

間尺 南北 1.8~2.3m 平均 2.10m

主軸方位 N357°

(27) 107号柱穴列 (第216図)

概要 108号柱穴列の東に位置する南北列の柱穴列で、4基のピットからなる。

間尺 南北 2.3~2.5m 平均 2.40m

主軸方位 N350°

(28) 108号柱穴列 (第216図)

概要 北域北東南寄りに位置する南北方向の柱穴列で、4乃至5基のピットからなる。

間尺 南北 2.0~2.4m 平均 2.13m

主軸方位 N355

3 中域の建物と柱穴列

(29) 21号建物 (SB21, 第214図)

概要 中域西部に在る。一部柱穴が確認されていないが、3×4間の庇付の建物である。西半分が総柱の建物となる。建物本体から東側80cmの位置に下屋を有する可能性を持つ。

間尺 東西 1.2~1.7m 平均 1.29m

南北 1.3~2.0m 平均 1.70m

主軸方位 N14°

(30) 22号建物 (SB22, 第214図)

概要 21号建物の中にやや南にスライドするような位置に重複して位置する。2×3間の規格に基づく建物と想定されるが、棟持柱は持たない。

間尺 東西 3.5~3.7m 平均 3.60m

南北 1.7~2.3m 平均 1.98m

主軸方位 N18°

(31) 23号建物 (SB23, 第214図)

概要 西半が21・22号建物に重複する。1×6間の建物であるが、間尺は東西が狭く、南北が広がっている。

間尺 東西 1.1~1.6m 平均 1.17m

南北 3.1m 平均 3.1m

主軸方位 N92°

(32) 24号建物 (SB24, 第214図)

概要 21~23・27号建物に重複して位置する。1×4間の建物であるが、南北列は広がっている。プランは台形を呈する。

間尺 東西 1.0~2.1m 平均 1.31m

南北 3.9~4.0m 平均 3.95m

主軸方位 N80°

(33) 25号建物 (SB25, 第217図)

概要 中域西部に東寄りに位置する。中位の規模の1×4間の建物であるが、棟持柱は持たない。

間尺 東西 3.2~3.5m 平均 3.35m

南北 2.2~2.6m 平均 2.31m

主軸方位 N350°

(34) 26号建物 (SB26, 第217図)

概要 中域中・西部境の北寄りに、中域北半の大型建物と重複して位置する小型の建物である。東西列は5間。南北列は東側が2間、西側が3間のプランである。

間尺 東西 0.9~1.6m 平均 1.31m

南北(東側) 1.8m 平均 1.80m

南北(西側) 1.0~1.3m 平均 1.13m

主軸方位 N85°

(35) 27号建物 (SB27, 第217図)

概要 中域西部に位置し、21・23号建物から南東にスライドするように重なって位置する。南北列は3間、東西列は北側で3間、南側では2間の庇付の建物である。

間尺 東西(北側) 1.1~1.6m 平均 1.30m

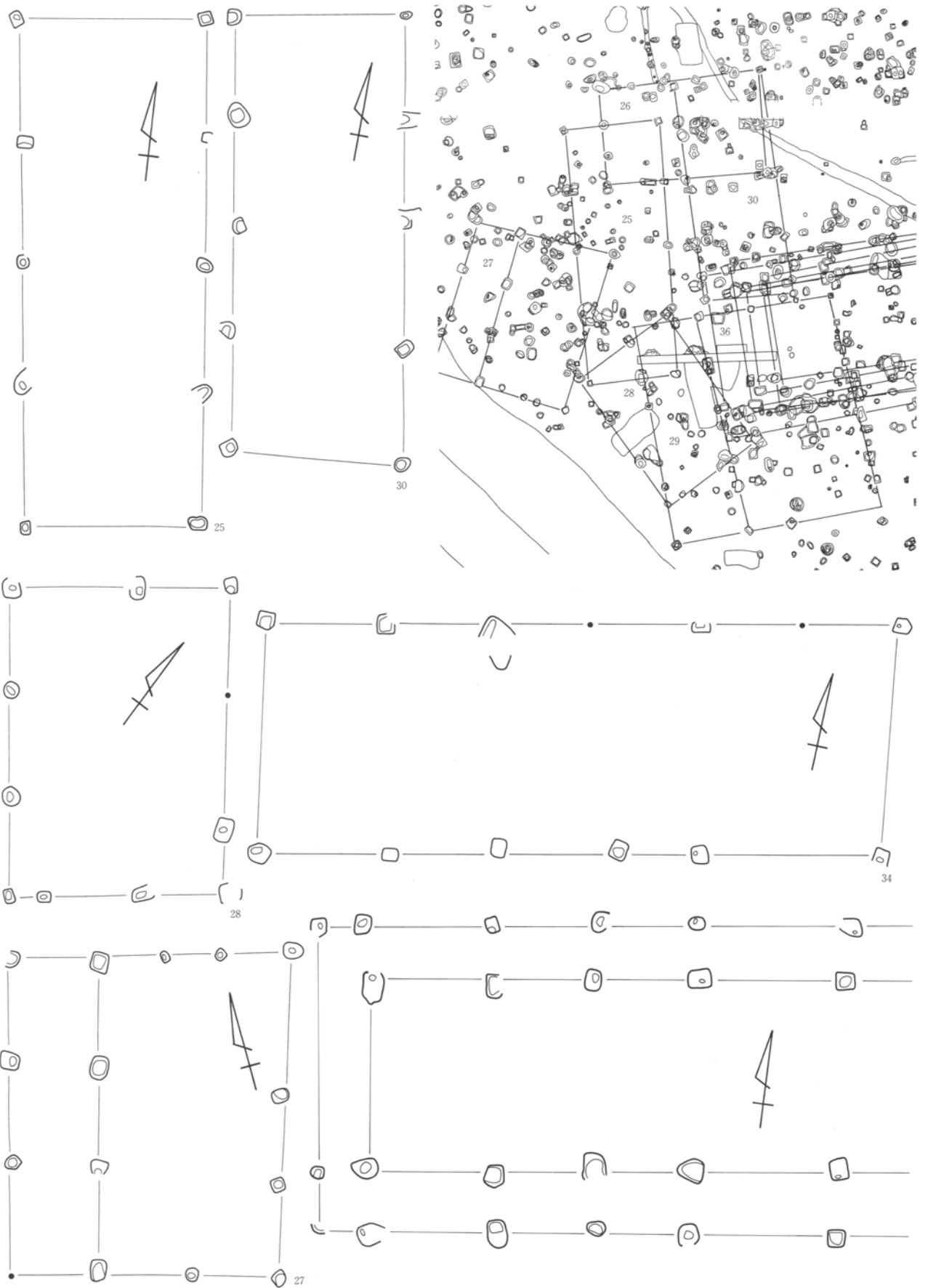
東西(南側) 1.6~1.7m 平均 1.63m

南北 1.6~2.0m 平均 1.72m

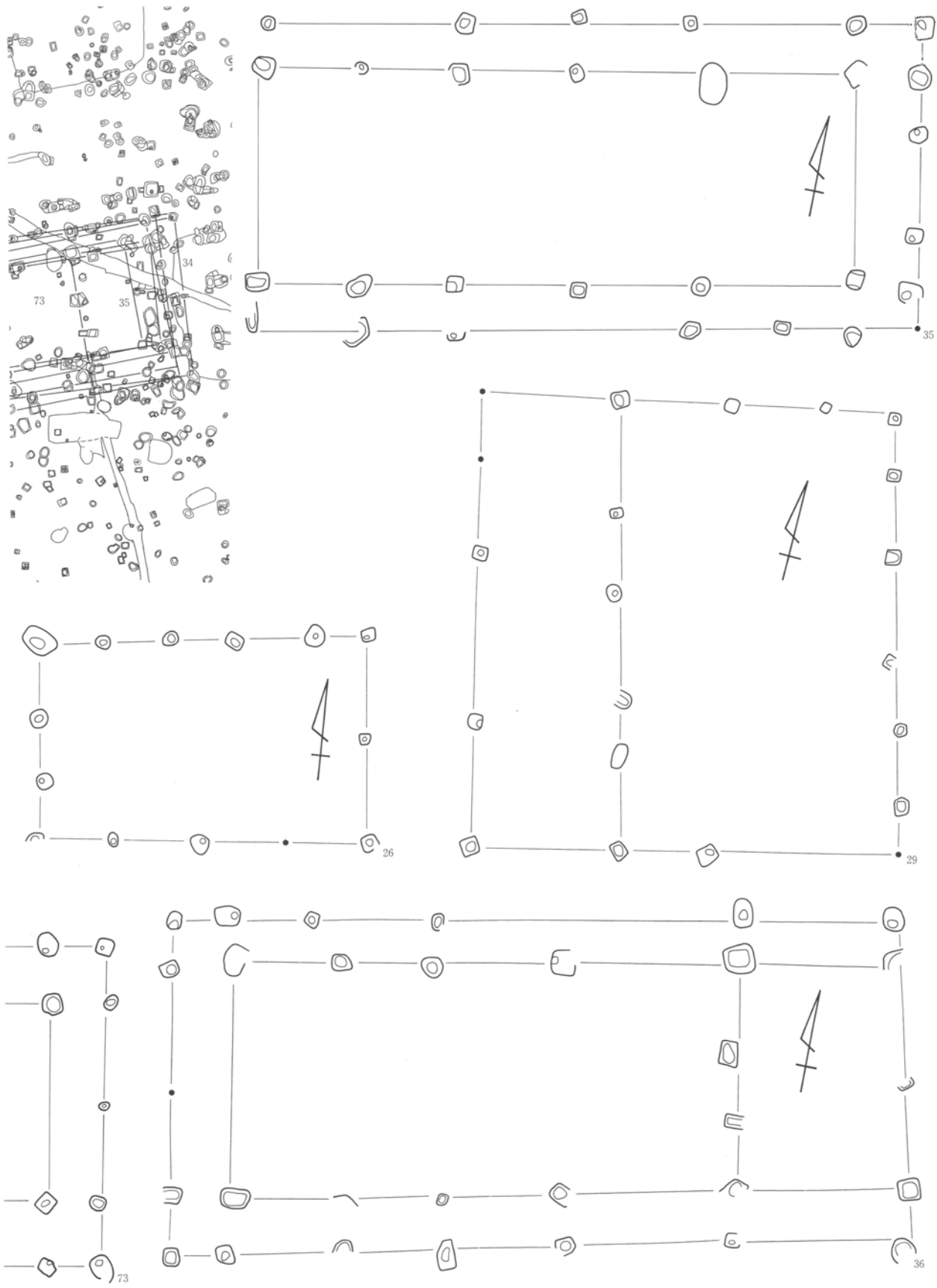
主軸方位 N347°

(36) 28号建物 (SB28, 第217図)

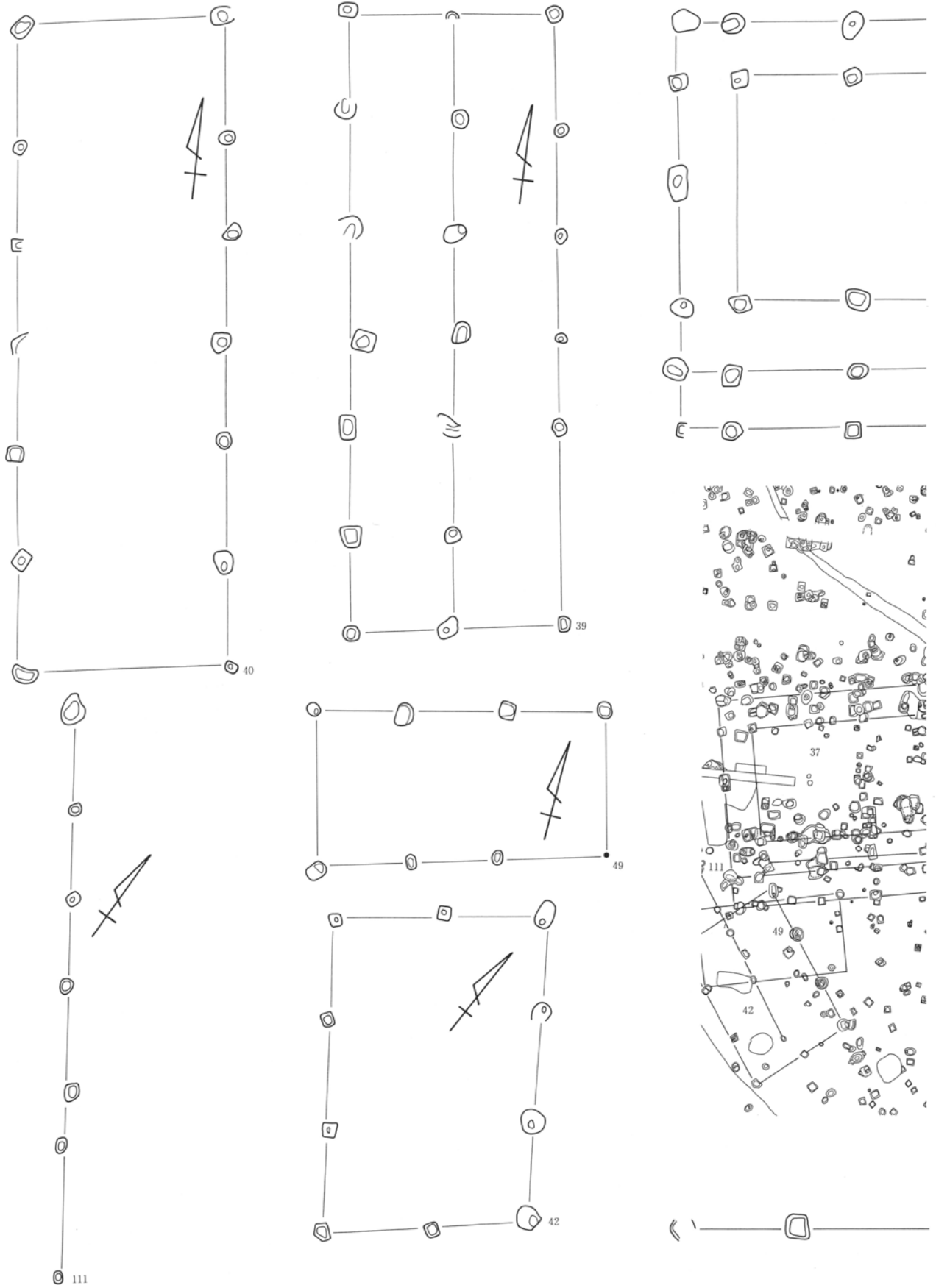
概要 中域南西に位置し、42号建物の北側に重なって位置する。北側が4号建物中部に重なるように位



第217図の(1) 屋敷遺構内の掘立柱建物（中域中・西部）

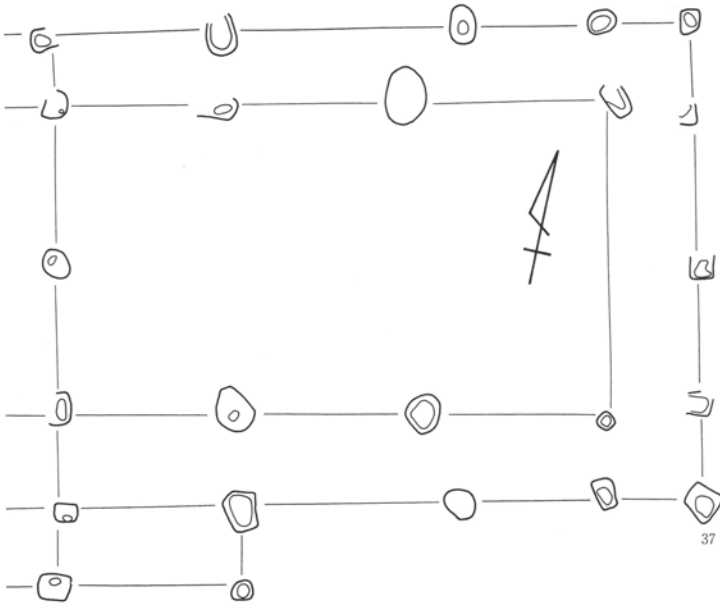


第217図の(2) 屋敷遺構内の掘立柱建物（中域中・西部）

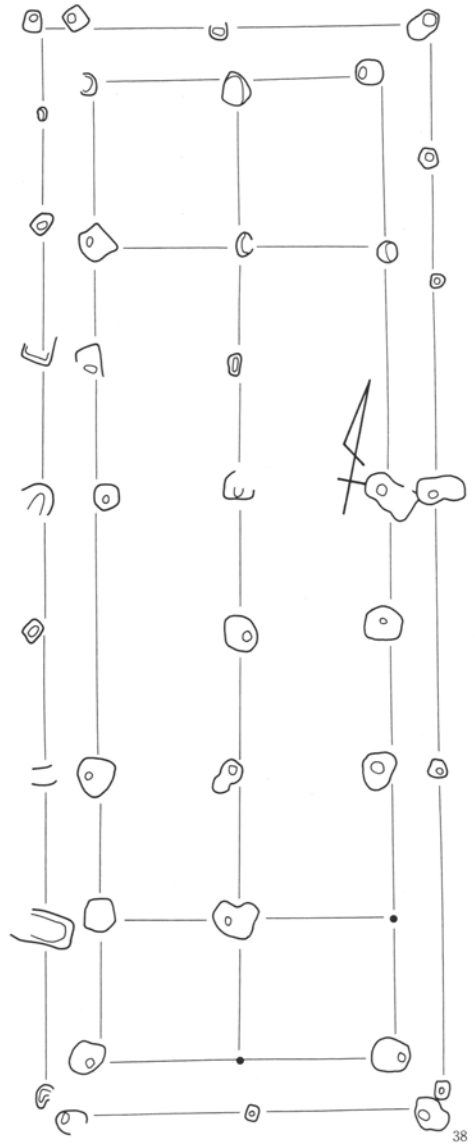


第218図の(1) 屋敷遺構内の掘立柱建物 (中域中・東部)

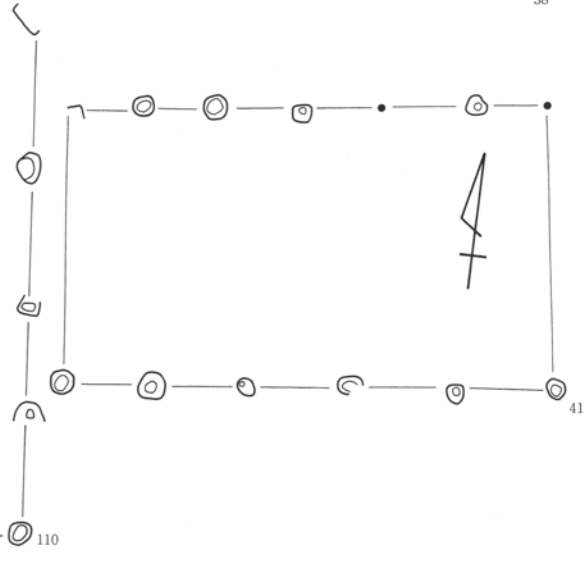
第2節 屋敷遺構内の建物



37



38



41

第218図の(2) 屋敷遺構内の掘立柱建物 (中域中・東部)

第5章 まとめ (小結)

置する。2×3間の建物であるが、棟持柱は東に偏って位置している。

間尺 東西 1.7~2.4m 平均 2.03m

南北 1.2~1.9m 平均 1.85m

主軸方位 N324°

(37) 29号建物 (SB29, 第217図)

概要 中域中部南側から南域中部北側にかけて位置し、中域中・東部の大型建物群等と重複する。5~6×3間のプランであるが、西側2.5m程の位置に庇がつき、本体東西列の間尺は平均1.63mを測ることができる。

間尺 東西 1.2~2.6m 平均 1.85m

南北 1.0~1.9m 平均 1.55m

主軸方位 N350°

(38) 30号建物 (SB30, 第217図)

概要 29号建物の北端、中域中・東部の大型建物の西端部に重複する。1×6間の中規模の長方形建物であるが、棟持柱は持たない。

間尺 東西 3.2m 平均 3.20m

南北 1.8~2.3m 平均 1.99m

主軸方位 N347°

(39) 31号建物 (SB31, 第216図)

概要 中域中・東部北半の大型建物の一つである。東側の棟持柱は確認されていないが、2×6間の東西に長い建物である。

間尺 東西 2.0~2.5m 平均 2.25m

南北 2.0~2.2m 平均 2.10m

主軸方位 N340°

(40) 32号建物 (SB32, 第216図)

概要 31号建物に重なる。棟持柱は見られないが、形態的には棟持柱を持つ31号建物に似る、1×6間の東西に長い大型建物である。

間尺 東西 2.1~2.5m 平均 2.25m

南北 4.20m 平均 4.20m

主軸方位 N83°

(41) 33号建物 (SB33, 第216図)

概要 32号建物とほぼ重なる大型建物である。32号建物同様、1×6間の建物で棟持柱は持たず、形態的にも32号建物に似るがやや傾きが異なる。

間尺 東西 1.8~2.6m 平均 2.40m

南北 3.9~4.2m 平均 4.05m

主軸方位 N72°

(42) 34号建物 (SB34, 第217図)

概要 中域中・東部南半部に所在する。確認できなかった柱穴もあるが、1×6間の建物と判断される大型建物であるが、棟持柱認められない。

間尺 東西 1.8~2.4m 平均 1.89m

南北 4.1~4.2m 平均 4.15m

主軸方位 N80°

(43) 35号建物 (SB35, 第217図)

概要 中域中・東部南半部に所在する庇付きの大型建物の一つである。現況で東側と南北の本体から60cm~1.2mの位置に下屋が付く。下屋の柱間は本体のそれに準拠するが東辺は間に2基のピットが入る。

間尺 本体 東西 1.7~2.9m 平均 2.11m

南北 3.7~3.9m 平均 3.80m

下屋 南北 1.0~1.8m 平均 1.27m

主軸方位 N80°

(44) 36号建物 (SB36, 第217図)

概要 中域中・東部南半部所在の下屋の大型建物の一つである。北・西・南に下屋を有する。建物本体は1×5間の長方形の建物で、東の柱穴列に棟持柱を有する。間に柱穴2箇所入る南北の柱穴列が東から2列目にある。下屋は本体から80cm~1.2mの位置にあり、掘削位置、間尺は本体に準じている。

間尺 東西 1.4~3.3m 平均 2.38m

南北 (外周) 2.0~2.2m 平均 2.04m

南北（内側） 1.2～1.7m 平均 1.37m
 主軸方位 N78°

(45) 37号建物（SB37, 第218図）

概要 中域中・東部南半部所在の大型建物群の中で最も規模の大きい建物の一つである。所謂4面庇の建物で、南西に更に下屋が付く。建物本体は東西両側とも棟持柱を伴わないが、西から2列目の南北列の柱列と東西両側の庇柱穴列の棟の位置に柱穴確認されることから2×5間とした。下屋は本体から1.0～1.4mの位置に在り、南西部の張出部の柱列も90cm～1.1mの幅を有し、その間尺は本体部分に準じている。

間尺 東西 1.9～3.2m 平均 2.28m
 南北 1.9～2.3m 平均 1.90m
 （本体）南北 4.0～4.3m 平均 4.15m

主軸方位 N80°

(46) 38号建物（SB38, 第218図）

概要 中域東部の主軸を南北方向に取る大型建物で最も大きなものである。四面庇の総柱の建物で、本体は2×7間の建物で、本体から50cm～1.6mの位置に下屋が付く。下屋の柱穴の配置は棟部分は合致するが、他は本体とは異なる規格となっていて、南側の配置は特徴的である。

間尺 本体 東西 1.8～2.1m 平均 1.91m
 南北 1.7～2.4m 平均 1.85m
 下屋 東西 2.3～2.8m 平均 1.67m
 南北 1.2～2.2m 平均 1.76m

主軸方位 N347°

(47) 39号建物（SB39, 第218図）

概要 中域東部に所在する南北軸の大型建物の一つで、38・40号建物と重複する。2×6間の総柱の建物である。

間尺 東西 1.7～2.1m 平均 1.91m
 南北 1.6～2.3m 平均 1.85m

主軸方位 N353°

(48) 40号建物（SB40, 第218図）

概要 中域東部の大型建物群の一つで、38・39号建物より軸が西にずれて、中部の中央の32・34号建物の東端に掛かる。1×6間の建物で、周囲の形態や規模は39号建物に似るが、棟持柱は持たない。

間尺 東西 3.6～3.7m 平均 3.65m
 南北 1.7～2.2m 平均 1.93m

主軸方位 N353°

(49) 41号建物（SB41, 第218図）

概要 中域東部の南北軸大型建物の南部に重複する。1×5間の小型の建物であるが、棟持柱はなく、東西の柱間は狭く、南北列で異なっている。

間尺 東西（北側） 0.9～1.2m 平均 1.03m
 東西（南側） 1.2～1.7m 平均 1.30m
 南北 3.5～3.8m 平均 3.65m

主軸方位 N82°

(50) 73号建物（SB73, 第217図）

概要 中域中・東部南半部所在の大型建物の一つである。この地域に特徴的な4面庇の建物である。建物本体は1×5間の細長い建物であるが、棟持柱は持たない。下屋は本体から0.8～1.0mの位置にあり、その柱穴の掘削位置、間尺は本体に準ずるが東側列の中位、棟通りには柱穴が掘削されている。

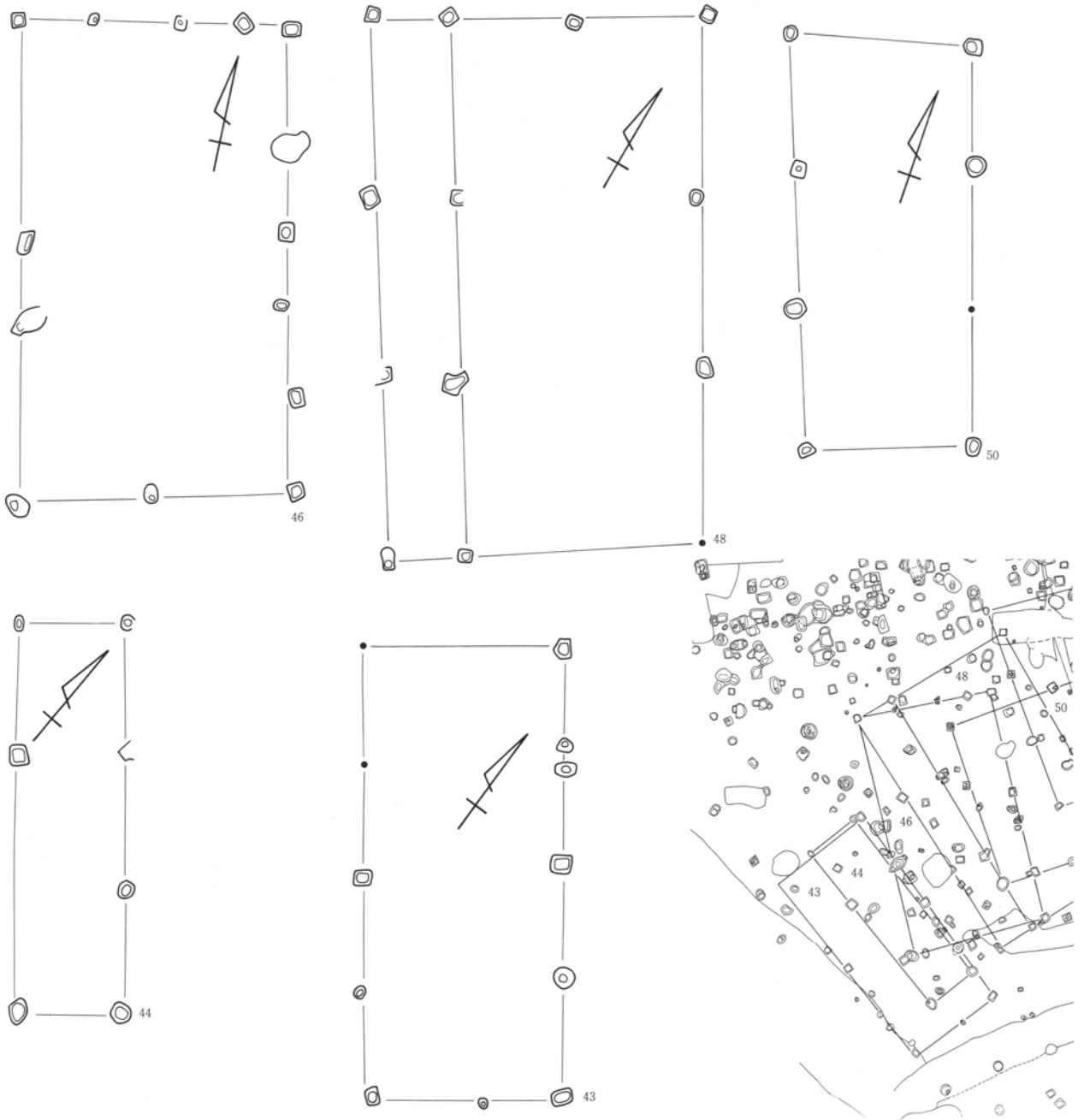
間尺 本体 東西 1.9～2.9m 平均 2.14m
 南北 3.5～3.5m 平均 3.50m
 下屋 南北 1.7～1.8m 平均 1.75m

主軸方位 N80°

(51) 110号柱穴列（第218図）

概要 中域中部に位置する。中域中・東部南半部の庇付大型建物群の東側と南側を囲むように、ピットが鉤字形に配列する。大型建物か、中域中部を区画する堀に伴う柱列であると判断される。南北は3間であるが、東西は本来8間の構造物であったものと想定される。

間尺 東西 1.5～2.0m 平均 1.68m



第219図の(1) 屋敷遺構内の掘立柱建物(南東域北部)

南北 1.4~2.0m 平均 1.68m
 主軸方位 N77°

4 南東域の建物と柱穴

(52) 42号建物 (SB42, 第218図)

概要 東南域北西部に在り、北は中域の28号建物、南は東南域の43~45号建物に連なる北西-南東に主軸を取る建物群の一つである。2×3間の建物で、

棟持柱はやや東に偏る。

間尺 東西 1.8~2.0m 平均 1.90m
 南北 1.6~2.1m 平均 1.85m

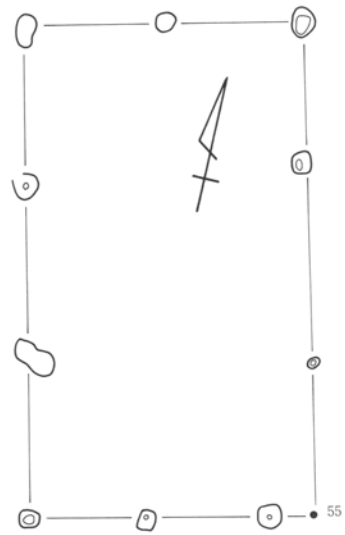
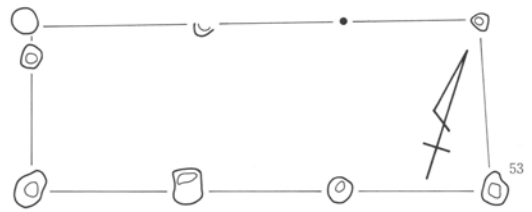
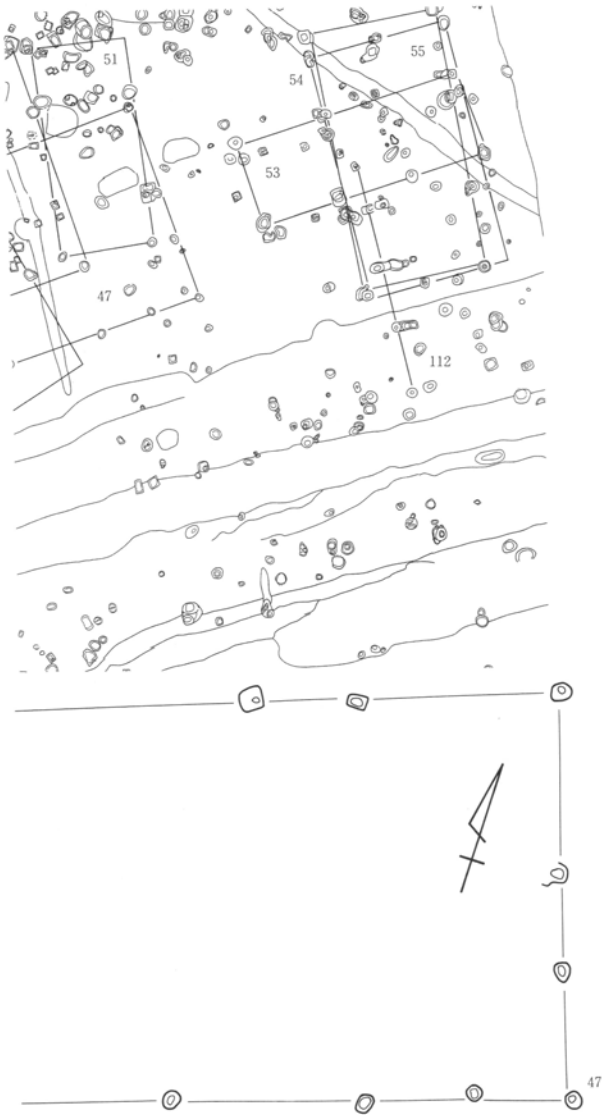
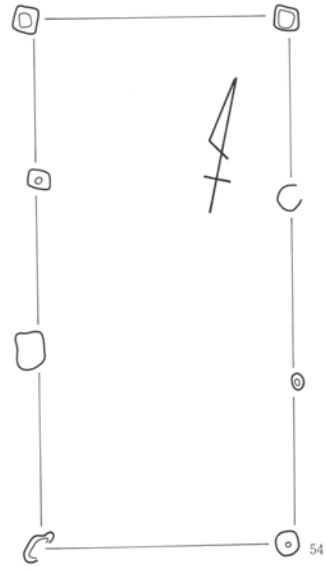
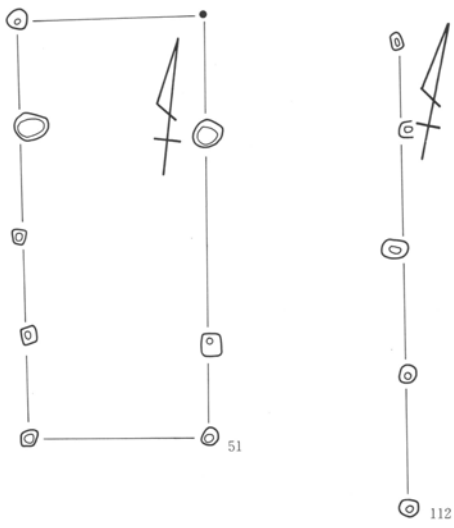
主軸方位 N324°

(53) 43号建物 (SB43, 第219図)

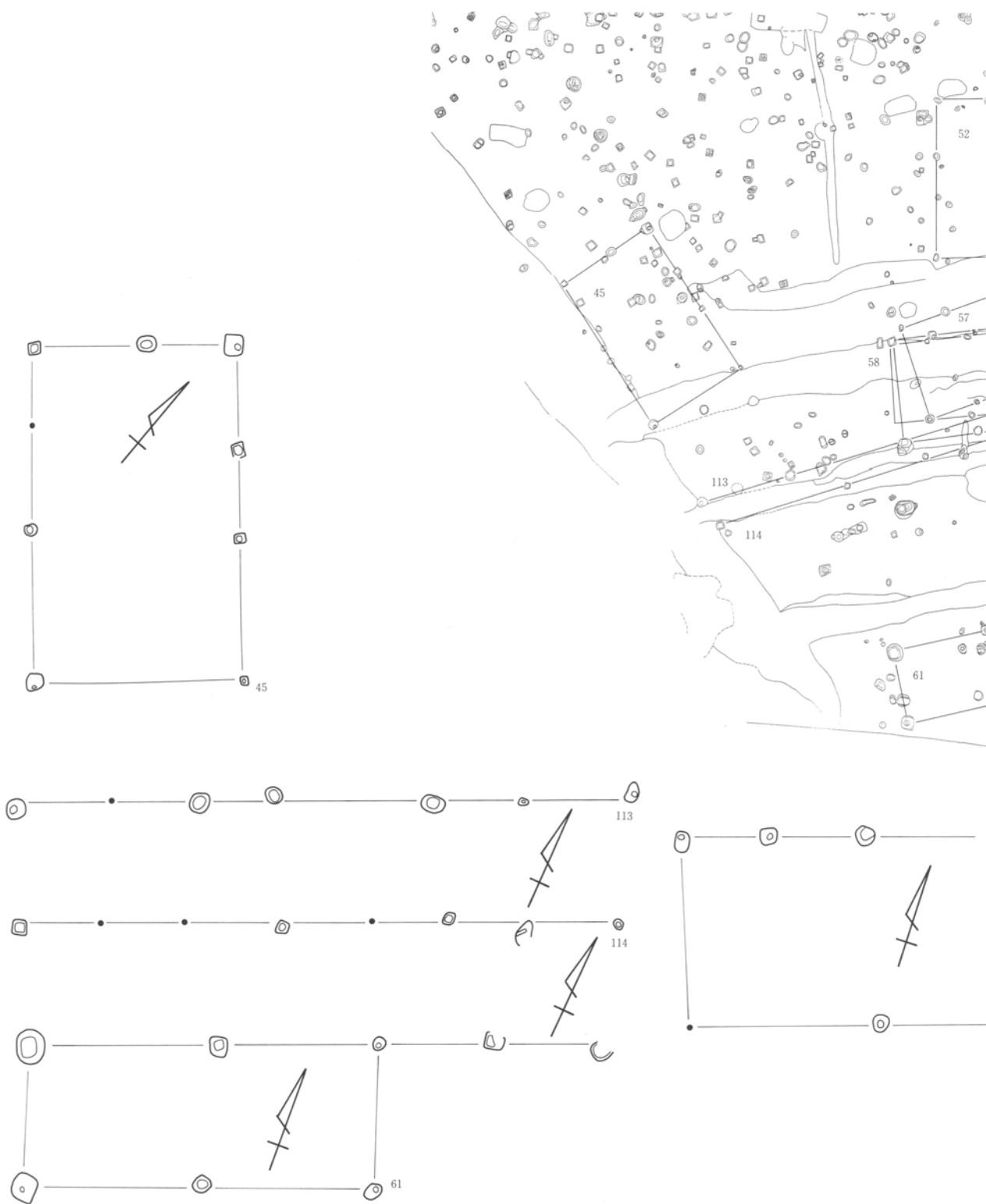
概要 南東域北西部の北西-南東軸建物群の一つ。南辺には棟持柱が見られる1×4間の長方形建物。



第2節 屋敷遺構内の建物



第219図の(2) 屋敷遺構内の掘立柱建物（南東域北部）



第220図の(1) 屋敷遺構内の掘立柱建物 (南東域南部)

間尺 東西 1.3~1.7m 平均 1.50m

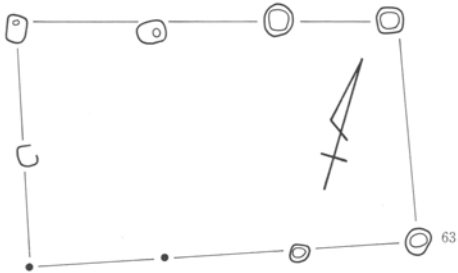
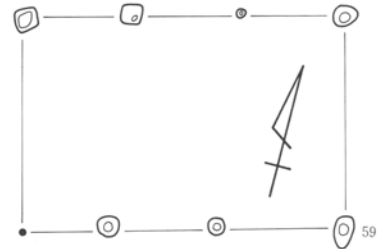
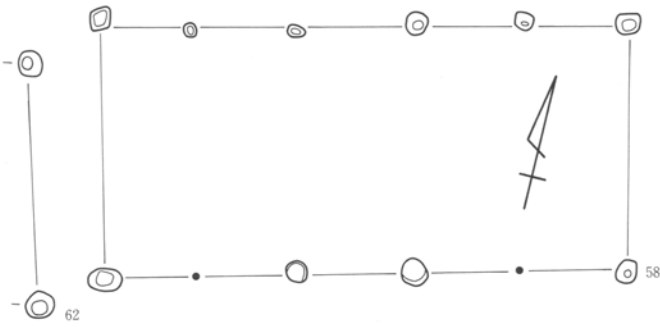
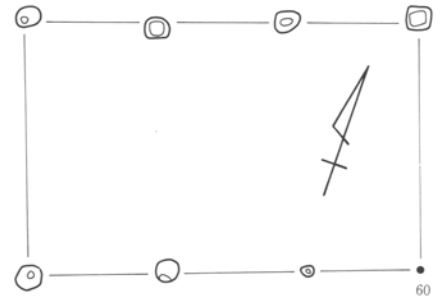
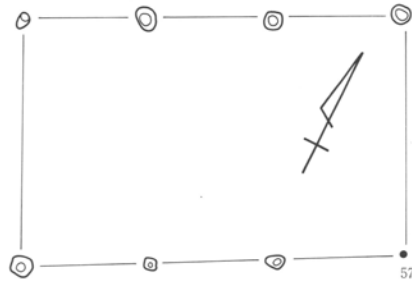
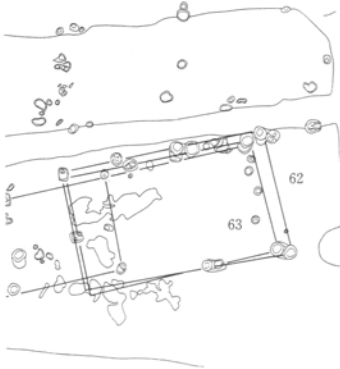
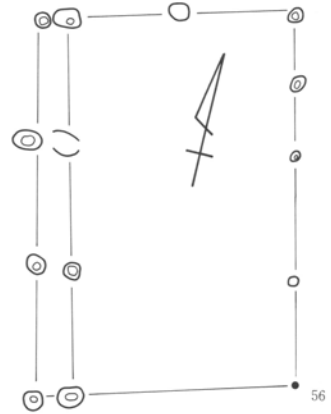
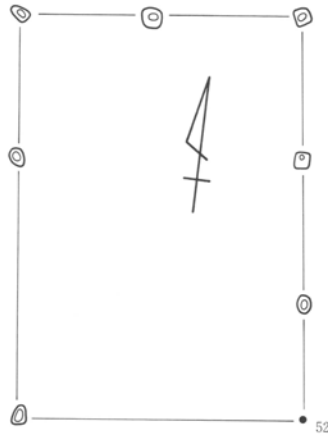
南北 1.5~1.9m 平均 1.75m

主軸方位 N324°

(54) 44号建物 (SB44, 第219図)

概要 43号建物の北東にはまり込む。1×3間の小型の建物である。

第2節 屋敷遺構内の建物



間尺 東西 1.6~1.7m 平均 1.65m
 南北 1.9~2.1m 平均 1.98m
 主軸方位 N322°

第220図の(2) 屋敷遺構内の掘立柱建物（南東域南部）

(55) 45号建物 (SB45, 第220図)

概要 中域の28号建物から続く一連の北西-南東軸建物群のうちの最南端に在る建物である。2×3間の建物であるが、南半は間尺が広い。北縁に棟持柱が建つ。

間尺 東西 1.6~1.9m 平均 1.75m
 南北 (北半) 1.5~1.8m 平均 1.60m

第5章 まとめ(小結)

南北(南半) 2.4~2.7m 平均 2.55m
主軸方位 N320°

(56) 46号建物(SB46, 第219図)

概要 南東域北西部に位置する。南北に棟持柱を有し、4×5間規格の建物であったと想定される。東西の柱間にはばらつきがある。

間尺 東西 0.7~1.3m 平均 1.08m
南北 1.1~1.8m 平均 1.47m

主軸方位 N347°

(57) 47号建物(SB47, 第219図)

概要 南東域中北部に在る2×3間と思われる大型建物である。間尺にはややばらつきがある。

間尺 東西 1.4~3.4m 平均 1.90m
南北 0.7~2.5m 平均 1.75m

主軸方位 N72°

(58) 48号建物(SB48, 第219図)

概要 46・47号建物と重複する2×3間のやや大型の建物である。本体の西1.2mに下屋が付く。

間尺 東西 1.9~2.1m 平均 1.93m
南北 2.3~2.8m 平均 2.67m

主軸方位 N331°

(59) 49号建物(SB49, 第218図)

概要 東南域北西部に位置する。1×3間の小型の建物であるが、棟持柱はない。

間尺 東西 1.5~2.0m 平均 1.72m
南北 2.6~2.8m 平均 1.68m

主軸方位 N72°

(60) 50号建物(SB50, 第219図)

概要 南東域中部北端に在る。1×3間の小型の建物で、棟持柱は持たない。

間尺 東西 2.6~2.8m 平均 2.70m
南北 1.8~2.2m 平均 2.08m

主軸方位 N340°

(61) 51号建物

概要 西は端が50号建物と重複する。1×4間の小型の建物で、棟持柱は持たない。

間尺 東西 2.4~2.5m 平均 2.45m
南北 1.2~1.4m 平均 1.36m

主軸方位 N352°

(62) 52号建物(SB52, 第220図)

概要 南東域中北部やや東寄りに位置する、2×3間と推定される小型建物。北辺に棟持柱が建つ。

間尺 東西 1.8~2.0m 平均 1.90m
南北 1.5~1.9m 平均 1.05m

主軸方位 N353°

(63) 53号建物(SB53, 第219図)

概要 南東域北側東部に位置する東西軸の小型の建物で、1×3間を呈し、棟持柱は持たない。

間尺 東西 1.8~2.3m 平均 2.00m
南北 2.2~2.3m 平均 2.25m

主軸方位 N108°

(64) 54号建物(SB54, 第219図)

概要 中位で53号建物と重複する南北軸の1×3間の中規模の建物である。棟持柱は持たない。

間尺 東西 3.2~3.4m 平均 3.30m
南北 1.8~2.3m 平均 2.28m

主軸方位 N350°

(65) 55号建物(SB55, 第219図)

概要 54号建物にほぼ重なる。2×3間の建物で棟持柱が南北辺に建つ。

間尺 東西 1.5~1.8m 平均 1.68m
南北 1.8~2.6m 平均 2.16m

主軸方位 N347°

(66) 56号建物(SB56, 第220図)

概要 南東域北東部南端近くに在る。2×3間の建物で、西側0.5mの位置に下屋がある。下屋の間尺

は本体に準ずる。

間尺 東西 1.4~1.5m 平均 1.48m

南北 1.3~1.8m 平均 1.63m

主軸方位 N347°

(67) 57号建物 (SB57, 第220図)

概要 南東域南半部中央北端近くに位置する。小型の建物で1×3間を呈するが、棟持柱は持たない。

間尺 東西 1.6~1.7m 平均 1.68m

南北 3.1~3.2m 平均 3.15m

主軸方位 75N°

(68) 58号建物 (SB58, 第220図)

概要 南東域に在って、57号建物に重複する。1×5間の建物である。

間尺 東西 1.2~1.6m 平均 1.38m

南北 3.3~3.4m 平均 3.35m

主軸方位 85N°

(69) 59号建物 (SB59, 第220図)

概要 南東域に在って57・58号建物に重複する。1×3間の小型の建物である。

間尺 東西 1.4~1.7m 平均 1.40m

南北 2.7~2.8m 平均 2.75m

主軸方位 N78°

(70) 60号建物 (SB60, 第220図)

概要 西部が58号建物と重複する。1×3間の建物と想定される。

間尺 東西 1.5~1.9m 平均 1.73m

南北 3.3~3.4m 平均 3.35m

主軸方位 N70°

(71) 61号建物 (SB61, 第220図)

概要 南東域南半部西寄りに位置する。1×2間の建物であるが、北側列の東側延長線上に柱穴から2基乗って列を作っている。この延長箇所の柱間は1.9mである。

間尺 東西 3.0~3.2m 平均 3.13m

南北 2.4m 平均 2.4m

主軸方位 N70°

(72) 62号建物 (SB62, 第220図)

概要 南東域南半部東寄り、西部が61号建物に重複する。1×3間の建物であるが、東西の間尺が西半部と東半部で異なる。

間尺 東西 (西半) 1.5~1.6m 平均 1.58m

東西 (東半) 2.1~2.2m 平均 2.15m

南北 3.2m 平均 3.20m

主軸方位 N72°

(73) 111号柱穴列 (第218図)

概要 南東域西部に在り、28・42号建物等北西-南東軸の一連の建物群中央を串刺しにするように位置している。7基の柱穴からなるが、南端は2間分であると想定される。

間尺 南北 1.0~1.9m 平均 1.47m

主軸方位 N336°

(74) 112号柱穴列 (第219図)

概要 南東域北半東部に位置し、56号建物の西に平行に在る。4基のピットからなる。

間尺 南北 1.1~1.7m 平均 1.53m

主軸方位 N335°

(75) 113号柱穴列 (第220図)

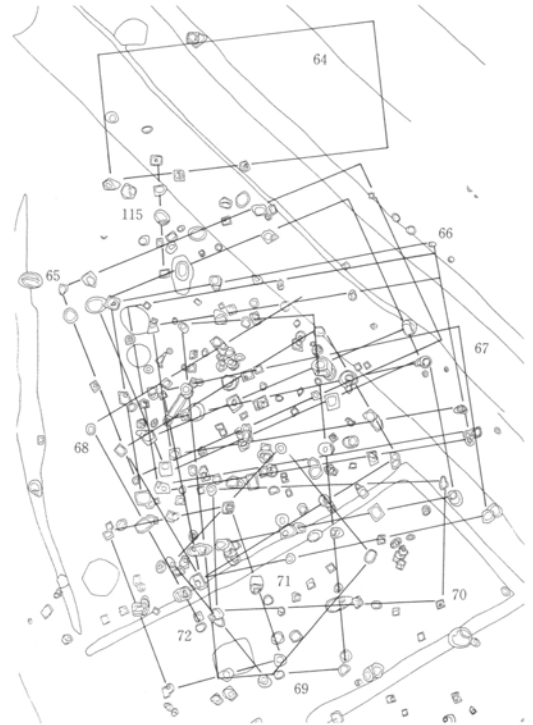
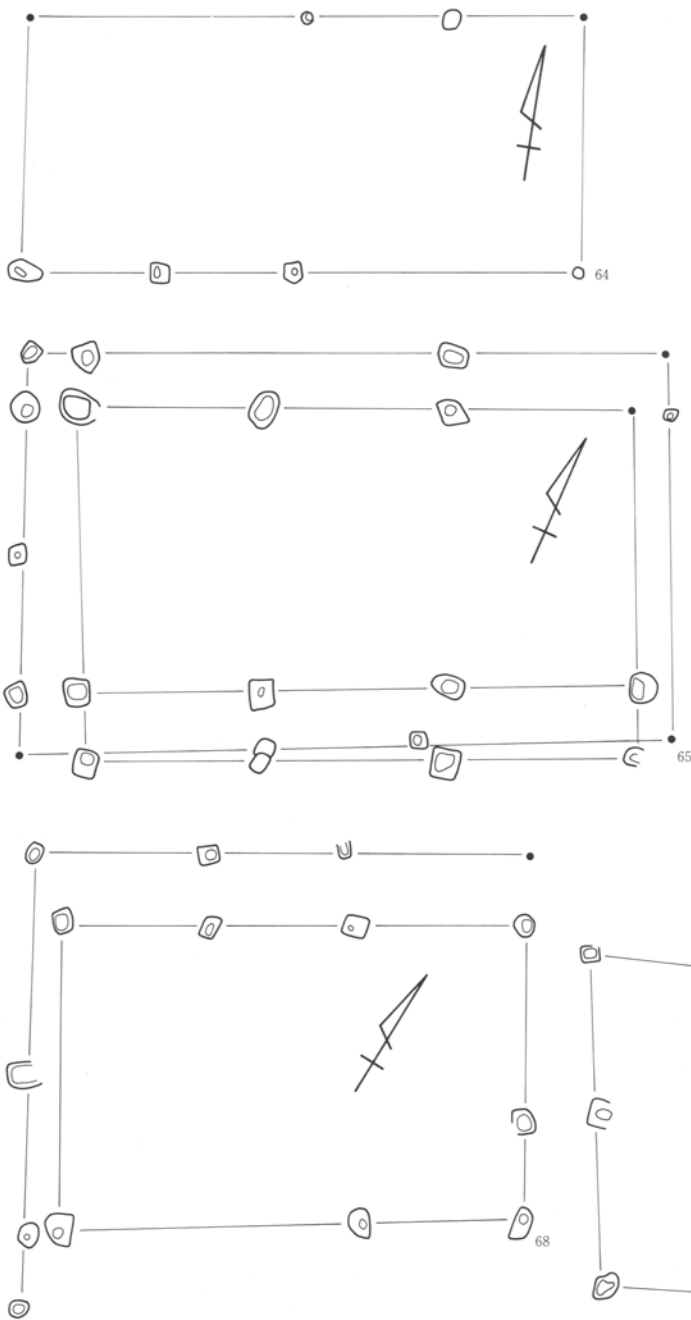
概要 南東域に在り、西部は13号溝の走行と平行に位置し、東部は58号建物等が重複している。途中確認できない箇所もあるが、7間分の柱穴列として把握される。

間尺 東西 1.3~1.9m 平均 1.51m

主軸方位 N80°

(76) 114号柱穴列 (第220図)

概要 113号柱穴列の南0.9mの位置に並列に位置している。柱穴の確認されない箇所もあるが、7間の



第221図の(1) 屋敷遺構内の掘立柱建物 (南西域)

柱穴列として把握している。

間尺 東西 1.3~1.6m 平均 1.46m

主軸方位 N88°

5 南西域の建物と柱穴列

(7) 63号建物 (SB63, 第220図)

概要 南東城南半

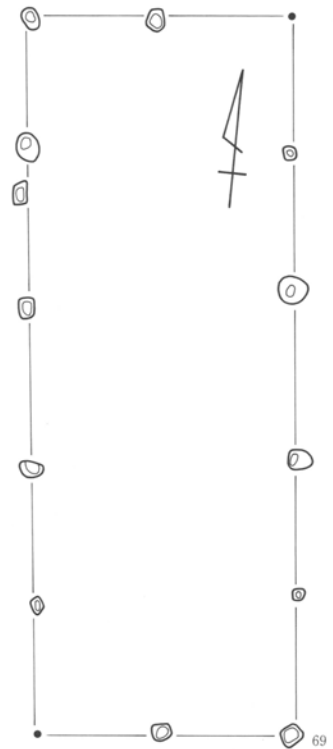
部の62号建物と重

複する。2×3間の小型建物と想定される。

間尺 東西 1.5~1.8m 平均 1.63m

南北 1.7m以下 平均 1.53m

主軸方位 N71°



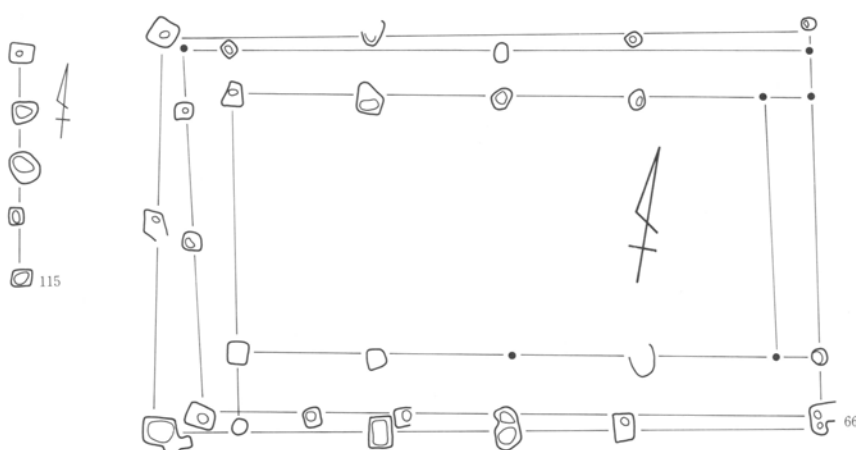
第2節 屋敷遺構内の建物

(78) 64号建物

(SB64, 第221図)

概要 南西域北端に在る。3号溝に切られて不明な箇所もあったが、1×4間のプランをもつ建物と解釈される。

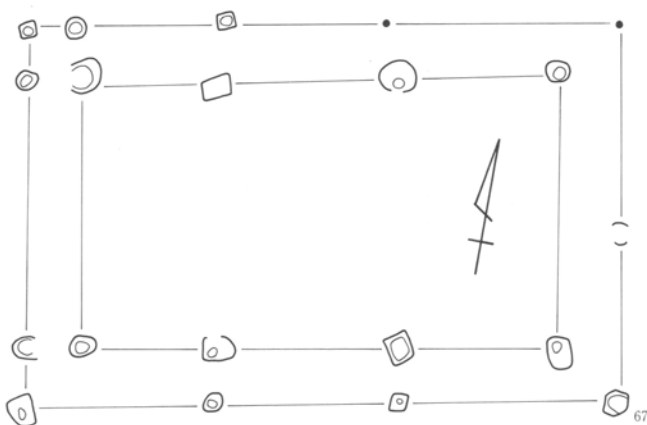
間尺 東西 1.8~1.9m
 平均 1.80m
 南北 推定3.3~3.4m
主軸方位 N82°



(79) 65号建物 (SB65, 第221図)

概要 南西域北寄りに在り、一部が3-1-3号溝に切られて失われている。1×3間の建物で、4面庇の時期と南面のみに下屋を持った時期がある。下屋は建物本体から80cm程にあり、その間尺は本体のそれに準ずる。西面の下屋の棟部分には柱穴がある。

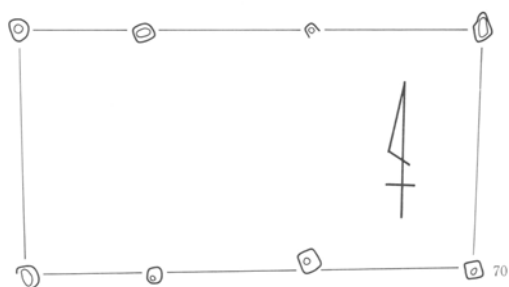
間尺 東西 2.4~2.5m 平均 2.48m
 南北 3.6~3.8m 平均 3.70m
主軸方位 N68°



(80) 66号建物 (SB66, 第221図)

概要 南西域中程にあつて65・67号建物等多数の建物と重複する1×4間の4面庇の建物である。庇は作り替えが想定され、本体から60~80cm離れる内側の下屋と、1.0m程離れる外側の下屋とがあるが、後者は南側がやや西に開いている。

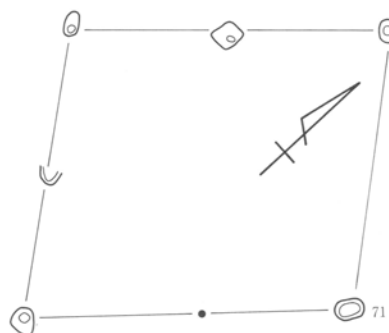
間尺 東西 1.7~1.8m 平均 1.78m
 南北 3.4~3.5m 平均 3.45m
主軸方位 N80°



(81) 67号建物 (SB67, 第221図)

概要 北側の過半が66号建物と重複する。1×3間の4面庇の建物で、下屋は本体から60cm~1mの位置に設置され、東側の下屋の棟位置にも柱穴がある。

間尺 東西 1.8~2.5m 平均 2.12m



第221図の(2) 屋敷遺構内の掘立柱建物 (南西域)

第5章 まとめ(小結)

南北 3.5~3.6m 平均 3.55m

主軸方位 N79°

(82) 68号建物 (SB68, 第221図)

概要 南西域で66・67号建物と重複し、3×3間の建物と想定される。下屋は北・西側にあり、南側にも想定される。下屋の柱間は本体のそれに準じ、本体から北側1m、西側は50cm程離れて設置される。

間尺 東西 1.9~2.3m 平均 2.07m

南北 1.3m程度 平均 1.26m

主軸方位 N60°

(83) 69号建物 (SB69, 第221図)

概要 南西域中南部に位置し、70号建物などと重複している。2×5間の棟持柱を有する建物である。

間尺 東西 1.7~1.8m 平均 1.73m

南北 1.4~2.1m 平均 1.42m

主軸方位 N355°

(84) 70号建物 (SB70, 第221図)

概要 69号建物などと重複する。1×3間の建物であるが、棟持柱は有さない。

間尺 東西 1.6~2.3m 平均 2.20m

南北 3.2~3.3m 平均 3.25m

主軸方位 N89°

(85) 71号建物 (SB71, 第221図)

概要 南西域南部に在り、69・70号建物等多くの建物と重複する。一部柱穴を確認できないが、2×2間の建物と想定される。プランは菱形を呈する。

間尺 東西 2.1m程度 平均 2.13m

南北 1.9m程度 平均 1.83m

主軸方位 N43°

(86) 72号建物 (SB72, 第221図)

概要 南西域南西に在り、69・71号建物等と重複。土塁内側の溝と想定した3-1-9号溝に沿って建てられるため、同溝と同じ時期の可能性を有する。本建

物は2×2間の建物で主軸は南北方向を向く。

間尺 東西 1.4~1.9m 平均 1.60m

南北 1.9~2.3m 平均 2.18m

主軸方位 N342°

(87) 115号柱穴列 (第221図)

概要 南西域北部に所在し、64・65号建物と重複する。柱間の狭い柱穴列で、5基のピットからなる。

間尺 南北 0.7~0.8m 平均 0.73m

主軸方位 N355°

6 建物の主軸方向

屋敷遺構の建物は、ピットの重複から何回もの改築が想定されるが、繰り返すように諸般の事由から荒い調査となったため、その新旧は僅かに中・南東域西寄りの北西-南東軸の建物群の44・45号建物が43号建物を切ることを確認できたに過ぎず、殆どの建物の推移は明確できなかったのである。その年代傾向については後述の第3項で宮本長二郎先生に述べて戴くこととして、ここでは建物の軸方向を手掛かりに建物の推移を若干検討したいと思う。

建物の軸方向を見ると、概ね南北を向く建物ではN10°前後以上、N0°前後、N350°前後、N340°前後、N330°前後以下の5グループに大別できる。一方概ね東西を向く建物ではこれらに直交するN100°前後以上、N90°前後、N80°前後、N70°前後、N60°前後以下にやはり分けられた。以下、主軸がN10°またはN100°前後以上の建物群を「N10°軸」、N0°とN90°前後のものを「N0°軸」、N350°とN80°前後のものを「N-10°軸」、N340°とN70°前後のものを「N-20°軸」、N330°とN70°前後以下のものを「N-30°軸」の建物群と呼称して、若干の検討を試みたいと思う。

(1) N10°の建物群 (第222図の1-下)

N10°軸の建物群は、屋敷遺構中西部に固まって位置する、住居或いは倉庫と想定される中規模の3棟の掘立柱建物である。

第2節 屋敷遺構内の建物

北東隅部、北域西寄りを除き屋敷全体に分布する。

N⁰軸の建物群には庇・下屋付きのものが少なく、後述するN⁻¹⁰軸の建物群に比して若干幅狭で細長い印象を持つ中～大型のものが主体の掘立柱建物22棟と柱穴列4列がある。このうち大型建物は屋敷中央から東寄りに在り、鉤形に配置して広場様の空白部に面している。これらは屋敷の中心的建物と判断され、その北側のやや幅広でやや大型の建物がある区域は居住空間としての可能性が考えられる。その東側是水場の区域であったと想定される。また、屋敷の西側は倉庫等が想定される建物の設置区域と思われる。

尚、N⁰軸の建物群の重複は、全体的としては3棟以下と想定される。

(3) N⁻¹⁰軸の建物群

(第222図の2-下)

N⁻¹⁰軸の建物群は、掘立柱建物34棟、柱穴列3列と最も充実している。掘立柱建物はN⁰軸の建物群より大型で、庇を持つ建物も少なくない。

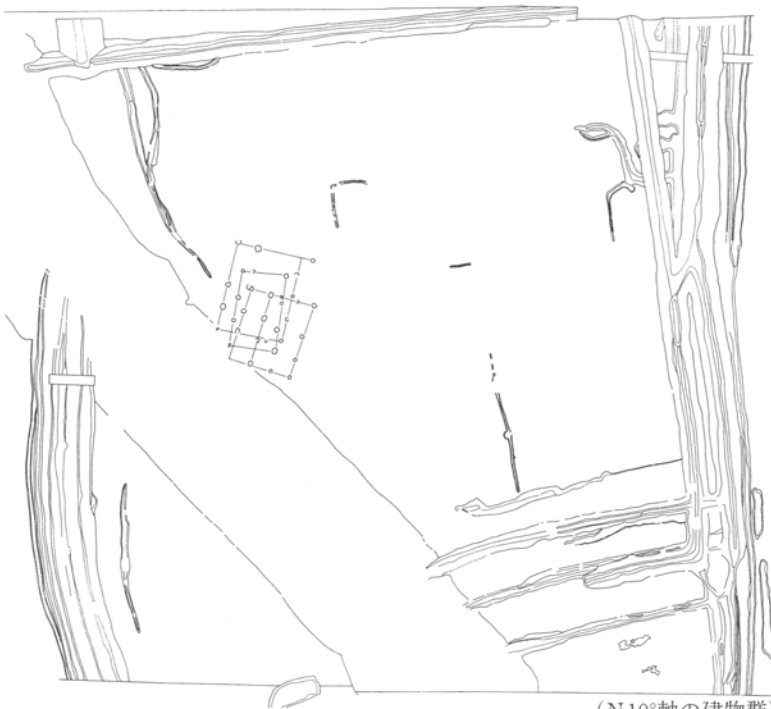
N⁻¹⁰軸の建物群の配置を見ると、屋敷遺構中央部に4面庇の大型建物が配され、その北側にはN⁰軸建物群の大型建物と同規模の

建物が同位置に設置され、N⁰軸の建物との連続性が認められる。これらの大型建物の東には更に南北軸の大型建物が建つため、この一角の建物が正殿としての機能を持っていたものと思われる。

中心建物群の北側は比較的複雑な柱配置を示す大



(抽出建物群)



(N⁻¹⁰軸の建物群)

第222図の(1) 方位別掘立柱建物配置図

これらの建物は全て重複するが、その位置等から後述のN⁻³⁰軸の建物群との関連が考えられる。

(2) N⁰の建物群 (第222図の2-上)

N⁰軸の建物群は屋敷の中南部から南部中・東部、

第5章 まとめ (小結)

型建物を含む建物が配置されるため、この区域には正殿に対する奥殿の機能が想定される。その両側は建物分布の空白域で、東側はN⁰軸のときと同様、水場としての使用が想定される。また西側の空白域は中心建物群の西側まで続く。中心建物群の南東及び南西には倉庫、或いは居住としての使用が想定される中型のものを中心とする建物群が建つが、両者の間は分布の空白域となっている。

N-10°軸の建物群の重複は2～3時期が多く、中心建物群では4時期を数え、比較的長時間の使用が窺われる。



(N⁰軸の建物群)

(4) N-20°軸の建物群

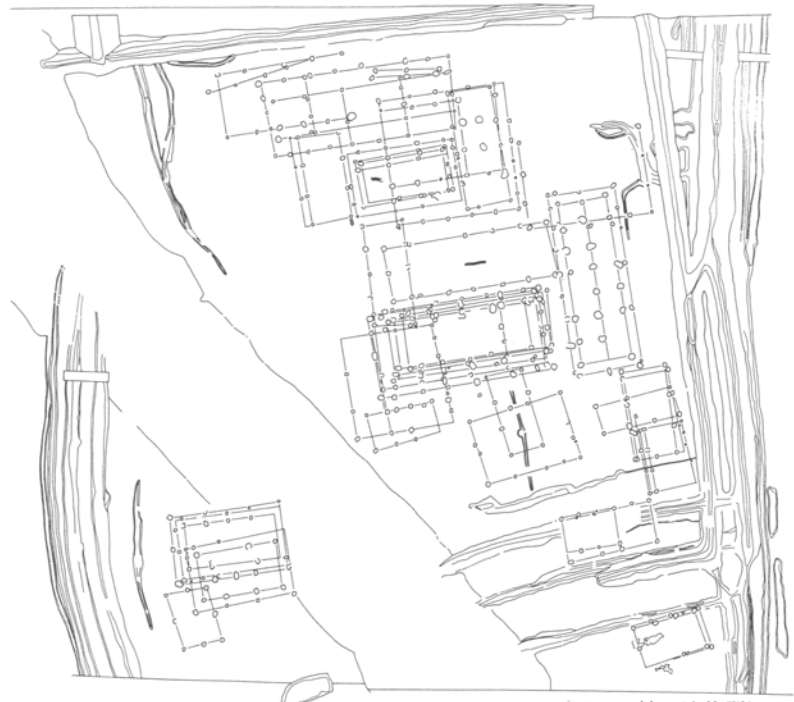
(222図の3-上)

N-20°軸の建物群は8棟の掘立柱建物からなるが、その分布は屋敷遺構北西部と南部に限定されて、北東側の広い範囲が分布の空白域となっている。また、屋敷の北西隅から中南部に流れる近世以降の溝群の位置も分布の空白域のあった可能性が窺われる。

N-20°軸の建物群では中型で庇付きの建物が多いが、南東部では小型で庇や下屋の付かない建物が分布する。中規模の建物には住居の可能性、小型のものは倉庫、廐等での使用が考えられる。

N-20°軸の建物群の重複は最大3時期である。

このうち中央近くの48号建物は、N-10°軸の建物群の中で西に傾く47号建物と軸方向の近い重複しており、連続性が思慮される。



(N-10°軸の建物群)

第222図の(2) 方位別掘立柱建物配置図

(5) N-30°軸の建物群 (222図の3-上)

N-30°軸の建物群は掘立柱建物5棟と柱穴列2列からなり、近世以降の水路群の南寄りの東西両側にこれに沿って分布している。

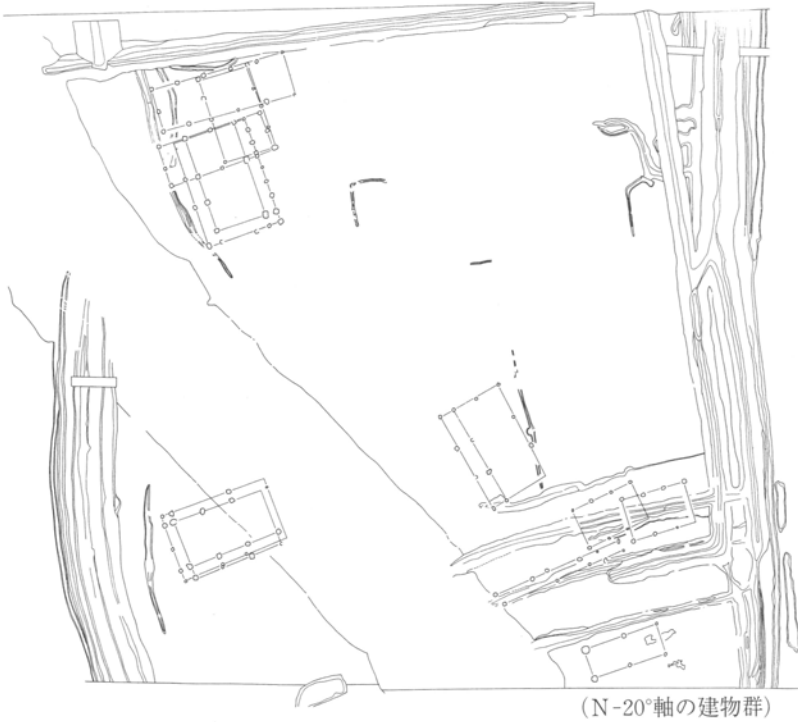
建物の規模はN-20°軸の建物群に比して小さく、

第2節 屋敷遺構内の建物

の建物構造は比較的単純で、建物配置にもやや余裕があるのに対し、N-10°軸の建物群の建物構造はN0°軸のそれに比べ複雑で、配置も膨張する傾向が窺われるため、前者から後者への移行が考えられる。

また、N10°・-20°・-30°軸の建物群はその分布域が近世以降の水路群に沿う位置に限定されている。これに対しては後世の水路群掘削の基となる流水の発生等の影響を考慮したい。従ってこれらの建物群はN0°・-10°軸の建物群の時期より後代のものとして捕らえるものと思われる。尚、これらの中では建物の規模、分布の状態からN-20°軸建物群からN10°・-30°軸建物群への変遷を想定したい。

こうした状況から、3区1面の屋敷遺構の建物はN0°軸建物群を始めとし、N-10°軸の時期に発展し、洪水の発生や居住者の衰退といった理由からN-20°軸建物群の時期に建物が減少し、やがて（常時ではないにせよ）流水路が固定化したためN10°・-30°軸の時期の建物群へと変化していったものと考えたい。



(N-20°軸の建物群)



(N-30°軸の建物群)

第222図の(3) 方位別掘立柱建物配置図

住居或いは倉庫と考えられる。

重複は2～3時期である。

以上のように、建物の軸方向を五つのまとまりとして見てきたのであるが、このうちN0°軸の建物群

第3節 中内村前遺跡の建築

1. はじめに

中内村前遺跡第3区の中世屋敷跡から検出された73棟の掘立柱建物遺構について、その平面形式の分類を行ない、鎌倉時代を中心として室町時代後期にわたる当遺跡の住居建築上の特徴と変遷を明らかにしたい。

筆者は、当屋敷跡に群集して不規則にみえる2,726個の掘立柱穴をまとめるに当たって、関東地方の中世掘立柱住居の平面形式を想定して取り掛かった。つまり、「日本中世住居の形成と発展」(『建築史の空間』中央公論美術出版、平成11年)において、11~14世紀の全国100遺跡余りの掘立柱住居遺構を分析し、その平面類型と分布等について明らかにした。採用した関東地方の中世遺跡例は少ないが、神奈川県下を除く関東地方は梁間1間型が主流であるとの仮説を立て、この想定のもとに当屋敷跡の遺構をまとめることができたのである。但し、室町時代については遺跡例が少なく、鎌倉時代に確立した中世住居建築が、室町時代にどのように展開し、近世民家につながるのか、これも一応の仮説を立てたが、当屋敷跡の成果に期待するところ大である。

2. 中世住居建築の分類

中世住居には、平安時代後期に発生した新様式の総柱型、律令時代の都城、官衙を中心に普及した律令型、弥生時代以来の伝統を受け継ぐ梁間1間型・多梁間型の4形式の掘立柱住居と竪穴住居、平地住居がある。地方・地域によって各形式の分布は異なり、異なる形式が複合するなど、多様な地方色、地域色を示すが、中世住居の主流は総柱型と梁間1間型である。

総柱型は柱を方眼状に配置し、柱径が細く、側柱と屋内柱は柱径と柱高を等しくして、柱上1門毎に梁を架け渡し、梁上に小屋を組む草葺屋根形式と、柱を側桁・母屋桁・棟木まで立ちあげて勾配の緩い

宮本長二郎

板葺屋根とする形式が想定される。柱間寸法は2mを基準とする例と、柱間を7~8尺とする例がある。鎌倉時代には一部の側面に狭い下屋を設ける例が大型住居にあり、南北期以後に4面下屋付きが総柱型主屋に出現する。

梁間1間型は桁行2列の柱配置を基本形とし、住居の機能に応じて下屋のないものと、下屋を2面、3面、4面に設ける。妻側に、下屋を設ける場合には妻側中央に柱を立てないが、下屋のない場合には棟持柱(近接または壁心)を設けて切妻屋根とする例が多い。柱間寸法は総柱型と同じ傾向を示し、下屋の出は0.7~1.1mと狭いことも共通するが、4面下屋は主屋として鎌倉時代から存在する。

律令型は規模の大小に関わらず、身舎梁行2間とし、妻側中央の柱高は桁行と同じ柱高とする中国の随・唐の建築に倣った形式である。寺院・都城の礎石建物から、宮殿・官衙の掘立柱建物に普及した形式である分、律令時代の一般集落には普及せず、律令制崩壊後は社寺建築と一部の貴族住宅に継承されるほか、一般集落に影響を及ぼしたものと思われ梁行2間の側が増えるが、壁心棟持柱付き梁間1間型か律令型かの判断が難しい。

多梁間型は身舎梁行3間以上の建物で、桁行と梁行の柱間寸法が等しく、大型建築には屋内棟持柱を設けて入母屋、寄棟屋根の棟木を支持する。この形式は弥生時代に成立し、奈良時代以後に衰退したものと思われたが、少数ながら室町時代の例があり、付属屋・作業小屋として存続したようである。

3. 中内村前遺跡の住居形式

表1は身舎の桁行柱間数と梁行柱間数の関係で示した規模・形式別棟数で、括弧内は下屋・庇付きの棟数内訳である。梁行1間には一方の妻側を2~3間とする例を含めたが、その理由は後記する。

73棟のうち梁行1間は54棟で、全体の約74%を占

め、梁行2間12棟16.4%、梁行3間6棟8.2%、梁行5間1棟である。梁行1間の型に下屋付きが多いことは梁間1間型の特徴を示し、当屋敷跡は梁間1間型が主流であるといえる。

梁行2間12棟のうち2棟(SB38・39)は総柱型である。他の10棟は両妻側を2間に分ける形式であるが、その中柱が側柱と等高の律令型か、壁心棟持柱の梁間1間型の系統かは、平面形式からは判別できない。このような形式は鎌倉時代には少なく、室町時代に入って一般集落の小型雑舎に増えたものと考えられる。

梁行3間の6棟は多梁間型であるが、SB2・10・17・29の4棟は梁行柱間が1.4~1.6mで、桁行柱間より狭く、これも室町時代に多梁間型の影響が梁間1間型に及んだものと考えられる。

梁間5間はSB13の1例のみで、総柱型である。屋内柱の省略が多い形式は室町時代後期の特徴を示し、前記のSB38・39が梁間1間型に総柱型を取り込んだ形式であるのに対して、当屋敷跡では唯一、総柱型のオリジナルな系統を引く遺構である。

4. 下屋と庇

鎌倉時代の下屋は、身舎柱筋からの出を0.7~1.1mと狭いのが特徴で、南北朝以後に律令型の影響を受けて1.5m以上の庇が出現するが、梁間1間型は中世を通して狭い下屋とするのが一般的である。すなわち、梁間1間型の身舎を上屋として、上屋と下屋を一体にして屋根を葺き降す形式のため、下屋は狭くなる。いっぽう、庇は上屋とは別に垂木を架けて広庇を造ることができ、律令型に普及した形式である。

当屋敷跡では、表1の括弧内総計25棟のうち、下屋は21棟、庇は4棟である。庇付きの4棟(SB10・21・27・29)は、いずれも桁行側面の1面庇で、SB10のみ一方の妻側に下屋が付く。下屋付き21棟のうち1面下屋は3棟(SB8・48・56)、桁行2面は1棟(SB11)、妻側と平側の2面は2棟(SB13・19)、3面は3棟(SB5・36・68)、4面12棟(SB18

・25・31・32・33・35・37・38・65・66・67・73)である。なお、4面下屋のうちSB25・31・32・33の4棟の遺構解説は下屋付きでないとするが、下屋柱穴が4面の過半数に認められ、またSB65の3面下屋も4面下屋とすべき柱穴が認められる。

3面下屋付きの3棟は、いずれも下屋付きの身舎妻側は1間で、下屋の付かない身舎妻側は2~3間に分ける柱を設ける。

4面下屋の12棟は、総柱型のSB38を除いて、SB31のみ一方の身舎梁間を2間とするほか、全て梁間1間である。つまり、身舎妻側に下屋を設ける場合には身舎梁間には柱を立てないで、身舎柱を独立柱として屋内に取り込み、下屋を設けない場合には身舎妻側面に棟持柱または間柱を立てる中世梁間1間型の特徴が当屋敷跡においても認められる。

梁間1間型54棟のうち34棟は下屋を設けないが、そのうちSB1・7・45・52・63の5棟は一方の妻側を2間とする。他方の妻柱が未検出の律令型の可能性もあるが、梁間が4m以下で狭いことから、寄棟屋根でなく切妻屋根としていたとすれば、一方の妻側だけでも棟持柱を立てることにより、切妻屋根の遺構的安定を保つことが可能である。弥生時代の梁間1間型には、一方の妻側に近接・壁心棟持柱を浅く掘立てる例が多く、その伝統を中世に引継いでいるものと考えられる。

5. 柱間寸法

平安時代後期から鎌倉時代にかけての100余の遺跡例では、梁間1間型・総柱型ともに平均柱間寸法が1.8m以下の値を示す遺跡は数例に過ぎない。当屋敷跡の73棟の平均桁行柱間は、1.2~1.4mが9棟、1.5~1.8mが17棟、1.9~2.1mが32棟、2.2~2.7mが15棟である。2m前後の柱間が最も多く、2.2m以上の例を含めると、全体の64%が鎌倉時代と同じ傾向を示すのに対して、1.8m以下の狭柱間とする例が36%存在するのは新たな傾向である。また、当屋敷跡では主流である1.9~2.1mの柱間寸法は、2.0mの基準寸法に則ったものと思われるが、鎌倉

第5章 まとめ(小結)

時代には同一遺跡には共存しない2.4m前後の広柱間基準の例が存在することも、新たな傾向である。

柱間寸法が1.4m以下の9棟のうち、桁行5～6間の6棟の柱間寸法は1.2～1.3mで、その2間分が広柱間の1間に相当することから、これら6棟の規模は広柱間基準の桁行2間半～3間に相当する。他の3棟は桁行3～4間で、柱間寸法は約1.4mである。

柱間寸法1.5～1.8mの17棟うち、桁行8間(SB10)、桁行5間(SB7・29・46)のほか、桁行4間4棟、3間9棟である。

すなわち、桁行柱間寸法が1.8m以下の狭柱間を示す26棟のうち、桁行5間以上の4棟以外は桁行4間以下の小規模であり、狭柱間寸法は室町時代の小規模雑屋に主として採用されたものといえる。

6. 屋敷構え

屋敷跡の住居構成と配置形式の変遷については、遺構の重複による前後関係、建物方位、土器形式による時期の特定などを総合して決定しなければならないが、以上に記した建築上の時代差が認められると仮定し、とくに4面下屋付き大型住居を主屋とみなして、ごく大まかな屋敷構えの変遷の見通しを立てることにしたい。

屋敷跡中央に重複するSB35～37・73の4棟と、その北側に接して重複するSB31～33の3棟はいずれも4面下屋付きで、前者は桁行5間、後者は桁行6間の梁間1間型の東西棟大型住居である。南と北の2群に分かれてその前後関係は分からないが、7期に亘り連続して建替えられた主屋である。

この2群の東西棟主屋の東側に近接して重複するSB38・39・40は、桁行6～7間の南北棟大型住居建物で、SB38・39は梁間2間の総柱型、SB40は梁間1間型である。SB38のみ4面下屋付きであるが、他の2棟もSB38との重複状況や規模からみた、4面下屋付きの主屋であった可能性がある。

この3棟の南北棟建物の共通点は、柱間寸法が1.9mで、西側の東西棟主屋の2.1～2.4mより狭いことと、総柱型と梁間1間型の相異、重複関係から

みて、南北棟建物群は東西棟主屋群と同時期であり得ず、時期の降る3期の主屋群と想定される。

屋敷跡北方の主屋級建物はSB5・10・13・18の4棟であるが、SB5・18は桁行3間の梁間1間型で、SB5は3面下屋、SB18は4面下屋付きで主屋級の格式を示すが、桁行規模が小さいことや配置形式、柱間寸法からみて、中央の東西棟主屋または東の南北棟主屋に伴う副屋の可能性が強い。

SB10は中央主屋群と同規模の大型であるが、狭柱間の多梁間型、庇付きの形式は明らかに室町時代に降る。SB13は当屋敷跡では唯一の方5間の総柱型建物で、鎌倉時代総柱型集落の主屋級規模を示す。また屋内柱の省略が進んだ室町時代の平面形式を示し、当屋敷跡では平面形式上最も新しい時期の主屋であると考えられる。

屋敷跡西南区に重複するSB65・66・67は、4面下屋付き、桁行3～4間の梁間1間型である。北区のSB5・18と同規模・同形式であることから、副屋である可能性が強いが、SB5・65の2棟の方位は主屋群の方位と異なることから、副屋ではなく、時期を異にする主屋の可能性がある。

以上のように、桁行5～7間の大型住居を主屋とすれば12期の変遷、桁行3～4間の4面下屋付きを含めると17期の変遷が考えられる。当屋敷跡の盛期は鎌倉時代を中心として、住居の軸線を正方位に保つものが中心である。平面形式上は室町時代後半に比定されるSB13はやや方位が若干東で北に振れる程度であることから、軸線が北で西に大きく振れる遺構の時期は、4面下屋付き主屋を構えない終末期とみなすことができよう。

7. おわりに

以上のように、中内村前遺跡第3区の中世屋敷跡は関東地方の中世住居の主流である梁間1間型を中心に展開していること、他の地方の主流である総柱型の影響を受けて、梁間1間型に総柱型を採り入れた主屋(SB38・39)が発生していること、在来形式の律令型や多梁間型を付属屋として存続している

第3節 中内村前遺跡の建築

こと、屋敷跡の末期には総柱型（SB13）が成立していること、1.9m以下の狭柱間が発生していることなどが明らかになった。

総柱型主屋のSB13の桁行5間規模は、鎌倉時代

の総柱型集落では一般集落の主屋規模として定着しているが、当屋敷跡は、梁間1間型主屋の桁行5～7間規模や、方形区割の濠をめぐらせた屋敷構えからみて、中世名主層であった可能性が考えられる。

梁 桁	1 間	2 間	3 間	4 間	5 間	合 計
2 間	2	2	—	—	—	4
3 間	22(10)	3(1)	—	—	—	25(11)
4 間	11(3)	—	2	—	—	13(3)
5 間	10(4)	4	2(1)	—	1(1)	17(6)
6 間	9(3)	2	1	—	—	12(3)
7 間	—	1(1)	—	—	—	1(1)
8 間	—	—	1(1)	—	—	1(1)
合 計	54	12	6	0	1(1)	73(25)

(注) 括弧内の数値は下屋・庇付き住居の棟数内訳を示す

第9表 屋敷跡住居規模・形式別棟数表

第4節 前橋市中内村前遺跡出土礎石墨書銘について(考察)

西岡芳文

中内村前遺跡出土の礎石墨書銘は、当遺跡の性格を知る上で重要な情報を提供する文字資料であると考えられる。しかしこの銘文は、全面に文字が書かれていることは確認されるものの、明確に解読できる文字は少なく、単語として文脈を取れる部分もないため、残念ながら現在の段階ではほとんど何も読み取ることができない。こうした状況下で当銘文について考察を公表することは、本来は時期尚早であり、忸怩たる思いであるが、いくつかの可能性について指摘し、広く識者の御検討を仰ぐことによって、やがては解明への糸口がつかめるのではないかと考え、ここに簡単な考察を加えることにする。

【銘文の性格についての予察】

発掘調査情報によれば、当銘文を記した扁平な石材は、天台宗寺院があったと伝承される地域の橋脚と思われる柱痕の下から発見されたという。遺構調査によって15～16世紀の土層と判断されていることから、室町時代の何らかの信仰に基づく文字が記載され、信仰上の目的によって埋納されたものと推定される。

小石あるいは円形の石に文字を記して土中に埋納する行為は、平安時代後期、末法思想の流布によって行われた経塚造成にともなう事例が多い。ただしその場合、一字一石経の形態をとることが一般的であり、ある程度の書記面をもつ石材に写経される事例の方がむしろ少ない。扁平な石に経文が写された事例としては、文永二年から弘安八年(1265～85)に造立された、高野山町石の基部から出土した『金光明最勝王経』の経石がある。これは蒙古襲来の前後に、安達泰盛の主導によって、密教による国家鎮護を目的として行われた事業であり、書写された経文もその目的に合致している。

中内村前遺跡の墨書遺物の内容を研究しようとするならば、遺跡の性格や出土状況からさまざまな可

能性を探ってみなければならぬであろう。

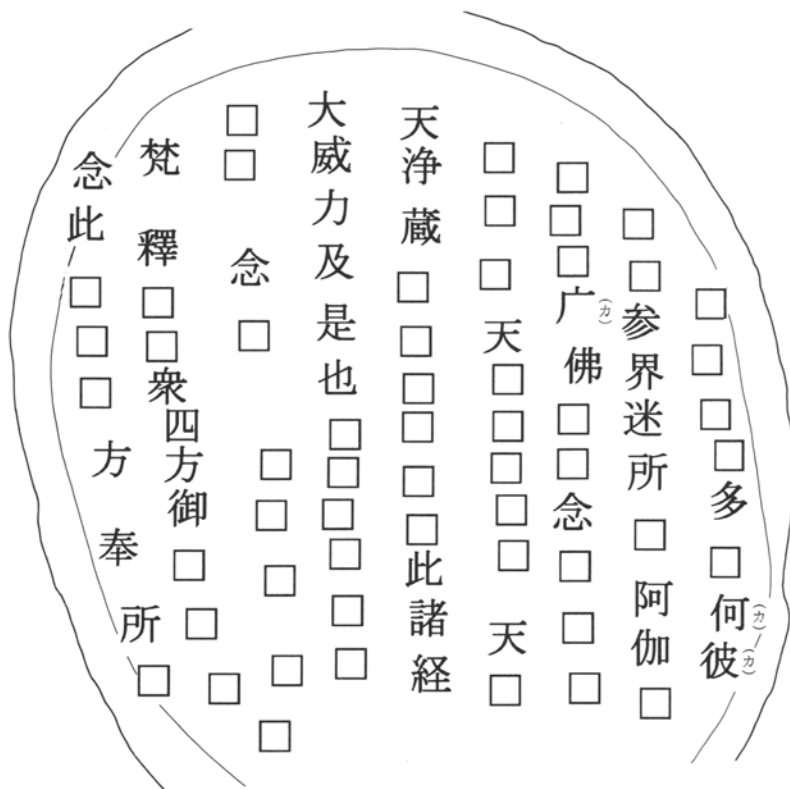
【願文か経文か】

当遺跡の発掘担当者は、この墨書石について、橋供養の願文ではないかと推測されていたようである。出土地点の状況を考えると、橋にかかわる何らかの銘文が記された可能性は高いであろう。そこで、架橋にまつわる何らかの宗教的・呪術的行為によってこの墨書石が埋納されたという前提で、解明の糸口を求めてみよう。

まず願文の可能性について。中世の橋供養の願文は、総量は少ないものの、代表的な事例をいくつか挙げることができる。天台宗系の安居院の唱導資料『転法輪鈔』には平安末期、後白河法皇時代の比叡山山王社の「大宮橋殿供養願文」や「祇園橋供養表白」などが収録されている。(『安居院唱導集』)。熊本県大慈寺には、道元門下の寒巖義尹が弘安元年(1278)に緑川河口の川尻津にかけた大渡橋の供養文が残され、金沢文庫には、文和二年(1353)の「六浦瀬戸橋供養文」が残る。室町時代の資料としては、東京・深大寺の僧・長弁が、多摩・世田谷地域の仏事で用いた文章を集めた『長弁私案抄』に、いくつかの橋供養文が収録されている。

これらの橋供養関係の願文・表白文は、概して架橋事業の経緯と施主(発起人)への称賛、さらに架橋の宗教的功德をのべたものが多い。すなわち、橋供養の願文は、開通に際して、会場に集まった関係者・地域住民に対して読み上げられる性格のテキストであり、ひそかに地中に埋蔵されるような性格の文章ではないのである。こうした点から考えると、当遺跡の出土墨書を橋供養の願文に比定することはやや難しいように思われる。

そこで、土木事業に際して埋蔵された墨書という前提で考えた場合、地鎮・鎮壇儀式にかかわる遺物である可能性を考慮すべきであろう。



中世において、土木事業を行うとき、大地の神の祟りが恐れられたことはよく知られている。大地の神（地神・土公神）が遊行すると信じられた年四回の「土用」の期間には、耕作さえも遠慮し、土をいじる作業の前には、手厚く地神を祭る儀式をとりおこなうのが原則であった。地鎮に関する遺物は、寺院遺跡の発掘によって得られた事例が圧倒的に多いが、道路や架橋事業においても、類似した祭祀が行われた可能性が高い（元興寺文化財研究所『古代研究』18、特集「地鎮」1979年などを参照）。

ことに架橋の場合、技術的に困難な地形のところで工事が行われる場合が多かったため、神仏に対して盛大に祈願をこめる必要があり、人柱や橋姫など、怪異な伝説が巷間にささやかれる例も古今を通じて著聞するところである。

ただし地鎮祭祀においては、純然たる仏教的な儀式だけでなく、陰陽道的な祭祀形態をとることもあったので、そこで使用される呪文や経典などを、現存する仏教経典の中に求めることが困難な場合も多いのである。

架橋にかかわる墨書遺物の出土例は、今までほとんど知られていないので、当遺跡の墨書を比較検討する材料は乏しいが、おそらく架橋にかかわる地鎮祭祀にともなう経文である可能性が高いのではなかろうか。

第223図 墨書文字及び積文（高島秀之氏積文を西岡芳文氏修正）

【墨書の内容についての検討】

墨書の内容について解読できる部分は少ない。前半の5行に「天」が頻出し、あるいは「天河」と読みうる部分があるようにも思える。5行目から6行目にかけて「此諸経大威力及是也」と読めそうである。このほか7行目に「念」らしき字が見える程度である。このほかにも3行目に「□□佛」と見える部分もあり、基本的に仏典にもとづく墨書であることは動かないであろう。

『大正新修大藏経』や『国訳秘密儀軌』の類を通覧しても、これらの断片的な字を含む箇条は見出せなかった。あるいは経文を断片的に引用した独自の文章であるかも知れないが、今のところ全く手がかりはない。当遺物が架橋の基礎に埋納されたと考えられるならば、祈願の目的は、地神の慰撫、あるいは水神・龍神への表白を目的にしたと想像されるが、こ

第5節 おわりに

上述のように3区1面の屋敷の存続期間は堀や建物の検討から8~10時期以上の長期に亘り、出土遺物の識別や出土炭化材の年代測定、宮本先生による建物の解析、西岡先生による墨書礎石の鑑定所見を総合すると鎌倉時代を中心に平安時代末期以降室町時代に使用されたと判断されるものであった。これまで幾つかの検討を行ってきたが、最後にこの屋敷の居住者について検討して考察を終えたいと思う。

明治初めの郡村誌は本遺跡周辺の山王・東善養寺・西善養寺・(矢田)・両家・横堀の各村がかつて善要治村と称した一村で、長寛2年(1164)に東西の善養寺村に分村し、更に上述の村々に分かれたと伝えられている。分村の年代は兎も角、少なくとも現在の前橋市山王・東善・西善町の一帯が「善養寺」と呼ばれる地域であったようである。郡村誌は善要治の名は開村した3人の頭文字を合わせたとも伝えているが、貞観2年(860)または嘉応元年(1169)建立とされる山王町所在の禅養寺の寺領から来る名称と解釈される。尚、本遺跡3区の屋敷からは竈などが出土

れにふさわしい文言をもつ經典には行き当たらなかった。

地神や、仏教的な水神の代表的存在である弁才天にかかわる教典としては、『金光明最勝王経』にこれらの神の功德や信仰を説いた部分があり、こうした祭祀にはふさわしいと考えられる。近年まで九州に存在した盲僧琵琶の作法のなかにも、地鎮祭に際してこの經典の「地神品。」を読む儀式が伝承されており、この經典を記した高野山町石の事例とも符合する。おそらく、こうした教典を取り込んで独自の解釈が取り込まれた文章が墨書され、架橋の安泰を祈念するために埋納されたと考えるのが、当面の推理としては成り立つのではないであろうか。

今後、長期的な検討を加えて、この墨書石の真実に迫りたいものである。

したため、寺院である可能性も検討したが、善養寺は前述の禅養寺と判断されるため、少なくとも3区の屋敷が善養寺である可能性は無いものと判断した。

鎌倉時代当時の本遺跡周辺の様子はつまびらかでないが、鎌倉時代末期から南北朝時代の文書が長楽寺文書に残されている。その一つは元徳3年(1331)の関東下知状案の「上野国那波郡善養寺内田肆町参段半、在家弍字」、一つは元徳4年(1332)の由良孫三郎景長妻紀氏寄進状案の「上野国那波郡内善養寺高山弥四郎重朝領地内在家二字・田四町三段半」、一つは観応3年(1352)の足利尊氏安堵状の「那波郡善養寺庄内在家二字・田四町三段半」である。これらの文書から「善養寺」表記が少なくとも鎌倉時代末期には使われていたことが確認され、善(禅)養寺の寺領であったと推定される「善養寺」の一部が時期ははっきりしないが高山氏の所領となり、鎌倉時代末期に紀氏(大谷氏)に買収され、南北朝に長楽寺に寄進されたという土地所有の経緯が確認される。この記事から本屋敷の居住者が善養寺や長楽寺、

或いは高山氏や紀氏の支配下にあった可能性も考慮されるのであるが、屋敷の規模は方半町程で方1～2町とされる所謂武士の館に比してかなり小さい。従って居住者は被支配層であり、その中では上位にあった者ではないかと想定される。

また上述の文書の関連文書として紀氏寄進後の年代不詳の長楽寺文書に「十三貫文人六郎二郎入と分、十五貫文人弥藤三」の記載がある。「四町三段半」の田圃の所在地はが特定できていないのであるが、「二字」が文字通り二棟の建物を指すならば本屋敷の建物数に照らして六郎二郎や弥藤三が本屋敷の居住者がであった可能性薄いことになり、本屋敷の住人は“作人”より上位の人物ということになる。

ところで仮に本屋敷の最盛期が出土炭化材の年代測定成果よる時期に収まるとするならば、その終焉は上野守護安達泰盛が滅ぼされる弘安8年(1285)の霜月騒動が契機なる。その場合、本屋敷に安達氏関連の人物の居住が考えられるのであるが、本屋敷は室町時代まで存続するため、安達氏に直結しない人物の居住や、屋敷地が支配者の居住地として認識されていた可能性も考えられる。

以上のように、本屋敷の居住者を特定することはできなかったのであるが、現時点では在地の被支配層中の上位者、宮本先生が述べられたような中世名

主層の居住の可能性を考えておきたいと思う。

〔参考文献〕

群馬県史編さん委員会「群馬県史資料編5 中世1」1978
前橋市史編さん委員会「前橋市史 第一巻」1971
群馬県文化振興事業会「上野国郡村誌 14 佐和郡」1986

本書では平成9～10年にかけて実施した中内村前遺跡の発掘調査のうち、1～4区の調査成果を報告した。特に3区1面の屋敷遺構は本県に於ける該期の屋敷遺構の希少例として注目されるものである。本書が前橋市南部の歴史研究に資され、更なる成果の出されることを期待するものである。

さて、振り返るにこうした多くの調査成果を得られたのは、猛暑や寒風の中で黙々と作業をこなし、冠水する調査現場でポンプと格闘してくれた発掘作業員諸氏の奮闘があったればこそであり、発掘調査報告書として上梓できることになったのは、多くの図面と遺物、特に尋常でない数のピットの処理に没頭してくれた整理補助員諸氏の努力があったればこそである。第1分冊の巻末に彼らと撮ったスナップを掲載し、彼らの尽力に対する謝意としたいと思う。

最後になるが、発掘調査や整理作業に多くのご支援を賜った日本道路公団、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、そして発掘調査に当たって多大なご協力賜った地元の皆様に感謝して稿を閉じたいと思う。



第5章 まとめ(小結)

[参考文献]本文中記載のものを除く

香取忠彦『梵音具』「新版仏教考古学講座 五 仏具」1976

石守晃『掘立柱建物の重量に関する一試験』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団「研究紀要3」1986

坂口一・三浦京子『奈良・平安時代の土器の編年』

群馬県史編さん委員会「群馬県史研究24」1986

群馬県史編さん委員会「群馬県史通史編3 中世」1989

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団「荒砥荒子遺跡」(中沢悟編)2000

遺物一覽

3区ピット一覽

遺物一覧

1区の出土遺物

1-1 1区1面の出土遺物

1-1-3号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-00023	土師器甕口縁部	1	7	奈良・平安時代中心
2	11-00024	土師器甕体部	2	20	奈良・平安時代中心
3	11-00025	土師器坏口縁部	3	22	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-00026	土師器体～底部	2	6	奈良・平安時代中心
5	11-001288	須恵器甕体部	2	212	

1-1-4号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000631	土師器壺体部	1	10	古墳時代前・中期

1-1-11号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000037	土師器甕体部	1	6	奈良・平安時代中心

1-1-5号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000027	土師器甕口縁部	1	10	奈良・平安時代中心
2	11-000028	土師器甕体部	2	8	奈良・平安時代中心
3	11-000029	土師器甕底部	1	25	奈良・平安時代中心
4	11-000030	土師器坏口縁部	1	8	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-000031	土師器坏体～底部	9	31	奈良・平安時代中心
6	11-001289	須恵器口縁部	1	13	
7	11-001290	須恵器体部	1	32	

1-1-8号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000032	土師器甕口縁部	1	3	奈良・平安時代中心
2	11-000033	土師器甕体部	1	24	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000034	須恵器高台付碗体～底部	1	8	平安時代

1-1-10号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000035	土師器甕体部	1	5	奈良・平安時代中心
2	11-000036	土師器坏体～底部	4	9	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000632	土師器壺体部	1	15	古墳時代前・中期

1-1-13号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000038	土師器甕体部	5	72	奈良・平安時代中心
2	11-000039	土師器甕底部	1	47	奈良・平安時代中心
3	11-000040	土師器甕体部	1	49	古墳時代後期

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000633	土師器壺口縁部	1	14	古墳時代前・中期
5	11-000634	土師器壺体部	1	11	古墳時代前・中期
6	11-000635	土師器甕体部	4	51	古墳時代前・中期

1-1-16号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000001	磁器碗	底径 8.3 残高 4.6	1/3。口縁部欠損。外面に施釉、底面丸底で高台付き、体部直立。香炉の火入れ	肥前磁器、江戸時代	第16図	PL16
2	20-000001	多孔石	残存 13.2×13.1×11.3	上・側面に孔が穿たれる	榛名山二つ岳軽石	第16図	PL16

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000046	土師器甕口縁部	1	53	古墳時代後期
4	11-000047	土師器甕体部	7	101	古墳時代後期
5	11-000048	土師器甕体部	1	4	奈良・平安時代頃
6	11-000049	土師器坏体～底部	3	8	奈良・平安時代中心
7	11-000050	須恵器甕口縁部	1	51	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-000051	須恵器甕体部	1	20	奈良・平安時代頃
9	11-000052	須恵器高台付碗体～底部	1	14	平安時代
10	11-001359	磁器碗	1	27	肥前産
11	11-001360	磁器碗	1	5	産地不明、近現代
12	11-000636	土師器壺体部	3	30	古墳時代前・中期

1-1-17号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000002	台石	径 20.7×19.5 厚 5.4	扁平な河床礫を用いる。上面に磨耗痕残る	粗粒輝石安山岩	第17図	PL16

第10表 1区1面の出土遺物一覧（その1）

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000053	土師器甕体部	5	10	奈良・平安時代中心
3	11-000054	土師器坏口縁部	1	3	奈良・平安時代中心

1-1-19号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000057	土師器甕体部	4	61	古墳時代後期
2	11-000058	土師器坏口縁部	1	3	奈良・平安時代中心

1-1-21号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000060	土師器坏体~底部	2	21	奈良・平安時代中心
2	11-000061	土師器碗口縁部	1	15	奈良・平安時代中心

1-1-22号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000063	須恵器甕体部	1	25	奈良・平安時代頃

1-1-12号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000003	砥石	残存 8.8×6.1×8.0	上面に研磨痕、側面に敲打痕多く残る		第25図	PL16

1-1-16号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000147	土師器甕体部	1	19	奈良・平安時代頃
2	11-000148	土師器坏口縁部	1	8	奈良・平安時代頃

1-1-17号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000002	土師器坏	推定径 12.6	破片。口縁横撫で。体~底部外面鋭削り、内面鋭撫で	7世紀後半	第21図	PL16

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000151	土師器甕体部	2	37	奈良・平安時代中心
3	11-000152	土師器坏体部	5	21	奈良・平安時代中心

1-1-18号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000154	土師器甕体部	1	4	奈良・平安時代頃
2	11-000155	土師器坏口縁部	5	27	真間期

1-1-19号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000639	土師器甕口縁部	1	10	古墳時代前・中期
2	11-000157	土師器坏体~底部	1	10	奈良・平安時代頃

1-1-20号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000158	土師器甕体部	2	6	奈良・平安時代中心

1-1-21号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000160	土師器甕体部	1	3	奈良・平安時代頃
2	11-000161	土師器坏口縁部	1	4	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000055	土師器坏体~底部	3	7	奈良・平安時代中心
5	11-000056	須恵器高台付碗体~底部	1	4	平安時代

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000059	土師器坏体~底部	2	6	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000062	須恵器高台付碗底部	1	24	平安時代

1-1-13号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001271	須恵器甕体部	1	21	

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000149	土師器坏体~底部	1	6	奈良・平安時代頃
4	11-000150	須恵器高台付碗口縁部	1	6	平安時代

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000153	須恵器甕体部	2	6	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000156	土師器坏体~底部	2	8	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000693	須恵器甕体部	1	13	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000159	土師器坏体~底部	1	4	平安時代

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000162	土師器坏体~底部	1	4	奈良・平安時代中心

第11表 1区1面の出土遺物一覧(その2)

遺物一覧

1-1-22・24号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000163	土師器甕口縁部	1	6	奈良・平安時代頃
2	11-000164	土師器甕体部	1	5	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000165	土師器坏口縁部	1	5	奈良・平安時代頃
4	11-000166	土師器坏体～底部	2	10	奈良・平安時代中心

1-1-25号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000167	土師器甕体部	3	17	奈良・平安時代中心
2	11-000168	土師器坏口縁部	1	4	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000169	土師器坏体～底部	1	4	奈良・平安時代頃
4	11-000170	須恵器甕口縁部	1	9	奈良・平安時代頃

1-1-34号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000171	土師器甕口縁部	1	11	奈良・平安時代頃

1-1-15号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000146	土師器甕口縁部	1	5	奈良・平安時代頃
2	11-001272	土師器甕体部	3	10	

1-1-35号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000172	土師器甕体部	17	40	奈良・平安時代中心
2	11-000173	土師器甕底部	1	30	奈良・平安時代頃
3	11-000174	土師器坏体～底部	2	6	奈良・平安時代中心
4	11-000175	須恵器碗口縁部	1	8	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-000176	須恵器高台付碗体～底部	1	16	平安時代
6	11-000640	土師器甕体部	1	27	古墳時代前・中期
7	11-001273	土師器甕口縁	1	10	

1-1-36号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000003	土師器坏	径 14.5 器高 3.7	体部丸く、口縁外反。体～底部、内面篋撫で、外面篋削り	8世紀前半	第22図	PL16

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000177	土師器坏底部	1	4	奈良・平安時代頃

1-1-37号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000004	須恵器坏	底径 8.8 残存高 4.2	腰～底部の破片。左回転轆轤整形	8世紀後半	第22図	PL16

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000178	土師器甕体部	2	21	奈良・平安時代中心
3	11-000179	土師器碗口縁部	2	7	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000180	土師器坏体～底部	2	5	奈良・平安時代中心
5	11-000181	須恵器高台付碗体～底部	3	20	奈良・平安時代中心

1-1-39号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000182	土師器甕口縁部	1	6	奈良・平安時代頃
2	11-000183	土師器甕体部	1	5	奈良・平安時代頃
3	11-000184	土師器坏口縁部	1	4	奈良・平安時代頃
4	11-000185	土師器碗体～底部	6	26	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-000186	須恵器碗体～底部	1	19	奈良・平安時代頃
6	11-000641	土師器甕体部	2	29	古墳時代前・中期
7	11-000675	土師器碗体部	1	16	奈良・平安時代頃

1-1-46号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000676	土師器甕口縁部	1	9	奈良・平安時代頃

1-1-54号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000645	土師器甕口縁部	1	16	古墳時代前・中期

1-1-49号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000642	土師器壺口縁部	2	16	古墳時代前・中期
2	11-000643	土師器壺体部	7	108	古墳時代前・中期

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000644	土師器甕体部	5	88	古墳時代前・中期

1-1-57号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000201	土師器甕口縁部	5	21	奈良・平安時代中心
2	11-000202	土師器甕体部	28	76	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000203	土師器坏口縁部	7	24	奈良・平安時代中心
4	11-000204	土師器坏体～底部	22	89	奈良・平安時代中心

第12表 1区1面の出土遺物一覧 (その3)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-000205	土師器碗口縁部	2	22	奈良・平安時代中心
6	11-000206	須恵器甕体部	2	58	奈良・平安時代中心
7	11-000207	須恵器高台付碗体~底部	2	12	奈良・平安時代中心

1-1-58号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000208	土師器甕口縁部	1	5	奈良・平安時代頃
2	11-000209	土師器甕体部	7	29	奈良・平安時代中心

1-1-59号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000212	土師器甕口縁部	10	54	奈良・平安時代中心
2	11-000213	土師器甕体部	53	148	奈良・平安時代中心
3	11-000214	土師器甕底部	2	9	奈良・平安時代中心
4	11-000215	土師器坏口縁部	17	50	奈良・平安時代中心
5	11-000216	土師器坏体~底部	61	181	奈良・平安時代中心
6	11-000217	須恵器甕体部	1	75	奈良・平安時代頃

1-1-60号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000005	須恵器坏	口径 13.8 器高 3.1	左回転轆轤整形。底面広く、体部やや丸みを持つ	8世紀前半	第20図	PL16

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000221	土師器甕口縁部	8	37	奈良・平安時代中心
3	11-000222	土師器甕体部	23	78	奈良・平安時代中心
4	11-000223	土師器坏口縁部	19	58	平安時代
5	11-000224	須恵器甕体部	1	12	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-000225	須恵器高台付碗体~底部	4	50	平安時代
7	11-000649	土師器甕体部	1	7	古墳時代前・中期
8	11-000650	土師器甕底部	1	13	古墳時代前・中期

1-1-61号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000226	土師器甕口縁部	22	124	奈良・平安時代中心
2	11-000227	土師器甕体部	61	226	奈良・平安時代中心
3	11-000228	土師器甕底部	1	5	奈良・平安時代頃
4	11-000229	土師器坏口縁部	17	100	奈良・平安時代中心
5	11-000230	土師器坏体~底部	60	154	奈良・平安時代中心
6	11-000231	須恵器甕口縁部	1	22	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-000232	須恵器甕体部	3	31	奈良・平安時代中心
8	11-000233	須恵器碗体~底部	6	20	奈良・平安時代中心
9	11-000234	須恵器高台付碗口縁部	1	22	奈良・平安時代中心
10	11-000235	須恵器長頸壺頸部	1	24	古墳時代頃
11	11-000651	土師器甕体部	2	23	古墳時代前・中期
12	11-000685	須恵器甕体部	1	14	奈良・平安時代頃

1-1-62号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000236	土師器甕口縁部	3	18	奈良・平安時代中心
2	11-000237	土師器甕体部	13	24	奈良・平安時代中心
3	11-000238	土師器甕底部	1	11	奈良・平安時代頃
4	11-000239	土師器坏口縁部	3	16	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-000240	土師器坏体~底部	21	42	奈良・平安時代中心
6	11-000652	土師器甕口縁部	2	14	古墳時代前・中期
7	11-000653	土師器甕体部	2	7	古墳時代前・中期

1-1-63号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	40-000001	刀子柄	残存 4.2×1.1×0.6	刀子柄の破片、両端とも欠損		第21図	PL16

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000241	土師器甕口縁部	6	55	奈良・平安時代中心
3	11-000242	土師器甕体部	59	156	奈良・平安時代中心
4	11-000243	土師器甕底部	1	8	奈良・平安時代頃
5	11-000244	土師器坏口縁部	11	29	奈良・平安時代中心
6	11-000245	土師器坏体~底部	42	83	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-000246	須恵器甕体部	1	26	奈良・平安時代頃
8	11-000247	須恵器甕底部	1	7	奈良・平安時代頃
9	11-000248	須恵器高台付碗口縁部	1	4	平安時代
10	11-000654	土師器甕体部	1	7	古墳時代前・中期

第13表 1区1面の出土遺物一覧(その4)

遺物一覧

1-1-65号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000249	土師器甕口縁部	14	60	奈良・平安時代中心
2	11-000250	土師器甕体部	65	185	奈良・平安時代中心
3	11-000251	土師器甕底部	2	27	奈良・平安時代中心
4	11-000252	土師器坏口縁部	17	60	奈良・平安時代中心
5	11-000253	土師器坏体～底部	77	192	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-000254	須恵器高台付碗口縁部	2	10	平安時代
7	11-000255	須恵器高台付碗体～底部	5	15	平安時代
8	11-000655	土師器甕口縁部	2	11	古墳時代前・中期
9	11-000678	土師器甕体部	2	7	奈良・平安時代中心

1-1-70号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000262	土師器甕口縁部	5	19	奈良・平安時代中心
2	11-000263	土師器甕体部	12	42	奈良・平安時代中心
3	11-000264	土師器甕底部	2	44	奈良・平安時代中心
4	11-000265	土師器坏口縁部	6	39	奈良・平安時代中心
5	11-000266	土師器坏体～底部	14	53	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-000267	須恵器甕体部	2	25	奈良・平安時代中心
7	11-000268	須恵器高台付碗口縁部	1	4	平安時代
8	11-000686	須恵器甕体部	1	23	奈良・平安時代頃
9	11-000657	土師器甕体部	2	12	古墳時代前・中期

1-1-71号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000006	土師器坏	口径 12.4 器高 3.2	破片、低部丸く、口縁直立し口端外反。口縁横撫で、体～底部内面磨撫で、外面磨削り	8世紀前半	第21図	PL16
2	10-000007	土師器坏	口径 13.2 器高 3.3	破片、低部平底気味で体部湾曲。口縁外反し内面に稜を持つ。横撫で、体～底部内面磨撫で、外面磨削り	8世紀前半	第21図	PL16

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000269	土師器甕口縁部	24	187	奈良・平安時代中心
4	11-000270	土師器甕体部	96	351	奈良・平安時代中心
5	11-000271	土師器甕体部	6	56	古墳時代後期以前
6	11-000272	土師器甕底部	2	13	奈良・平安時代中心
7	11-000273	土師器坏口縁部	36	160	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-000274	土師器坏体～底部	97	371	奈良・平安時代中心
9	11-000275	須恵器碗口縁部	5	18	奈良・平安時代中心
10	11-000276	須恵器碗体～底部	3	19	奈良・平安時代中心
11	11-000277	須恵器甕底部	1	23	奈良・平安時代頃、軟質
12	11-000687	須恵器甕体部	1	20	奈良・平安時代頃

1-1-84・85号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000290	土師器甕体部	9	31	奈良・平安時代中心
2	11-000291	土師器坏口縁部	6	12	奈良・平安時代中心
3	11-000292	土師器坏体～底部	20	55	奈良・平安時代中心
4	11-000293	須恵器甕体部	4	37	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-000679	土師器甕口縁部(鬼高)	1	7	奈良・平安時代頃
6	11-000690	土師器坏底部	1	6	奈良・平安時代頃
7	11-001278	須恵器碗口縁部	1	6	

1-1-94号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000304	土師器甕口縁部	2	7	奈良・平安時代中心
2	11-000305	土師器甕体部	12	32	奈良・平安時代中心
3	11-000306	土師器坏口縁部	4	9	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000307	土師器坏体～底部	14	31	奈良・平安時代中心
5	11-000308	須恵器甕体部	3	23	奈良・平安時代中心
6	11-000309	須恵器高台付碗口縁部	2	4	平安時代

1-1-95号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000310	土師器甕口縁部	4	34	奈良・平安時代中心
2	11-000311	土師器甕体部	20	54	奈良・平安時代中心
3	11-000312	土師器甕底部	1	5	奈良・平安時代頃
4	11-000313	土師器坏口縁部	3	6	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-000314	土師器坏体～底部	22	60	
6	11-000315	須恵器蓋裾部	1	5	奈良・平安時代頃
7	11-000316	須恵器高台付碗体～底部	1	3	平安時代

1-1-96号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000317	土師器甕口縁部	1	4	奈良・平安時代頃
2	11-000318	土師器甕体部	9	16	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000319	土師器坏体～底部	12	28	奈良・平安時代中心
4	11-000320	須恵器碗口縁部	2	7	奈良・平安時代頃

第14表 1区1面の出土遺物一覧(その5)

遺物一覧

1-1-102号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000321	土師器坏体～底部	1	6	奈良・平安時代頃

1-1-132号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000386	土師器坏口縁部	1	5	奈良・平安時代頃
2	11-001287	土師器坏体～底部	1	6	
3	11-001303	土師器坏口～底部	1	53	

1-1-114号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000004	台石	径 12.2×10.5 厚 5.5	扁平な河床礫を用いる。上面に磨耗痕残る	粗粒輝石安山岩	第25図	PL16

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000332	土師器甕口縁部	1	10	奈良・平安時代頃
3	11-000333	土師器甕体部	5	35	奈良・平安時代中心
4	11-000334	土師器坏口縁部	1	5	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-000335	土師器坏体～底部	1	4	奈良・平安時代頃
6	11-000336	土師器高坏	1	8	奈良・平安時代頃

1-1-125号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000661	土師器甕体部	1	17	古墳時代前・中期

1-1-126号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000662	土師器甕口縁部	1	18	古墳時代前・中期

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000663	土師器高坏体～底部	1	76	古墳時代前・中期

1-1-1号井戸

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000005	礎石	残存 14.9×13.9 厚 5.3	扁平な河床礫を用いる。上面に柱の当たり痕残る	粗粒輝石安山岩	第26図	PL16
2	20-000006	台石	残存 19.2×19.0× 6.1	扁平な河床礫を用いる。上面に磨耗痕残る	粗粒輝石安山岩	第26図	PL17
3	20-000007	板碑	残存 23.8×12.4× 2.4	扁平な河床礫を用いる。上面に磨耗痕残る	黒色片岩	第26図	PL16

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000391	須恵器甕体部	2	75	奈良・平安時代頃

1-1-3号井戸

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000392	土師器甕体部	1	8	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000393	土師器坏体～底部	2	8	奈良・平安時代頃

1-2 1区2面の出土遺物

1-2-14号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000041	土師器甕口縁部(鬼高)	1	12	奈良・平安時代中心
2	11-000042	土師器甕体部	2	6	奈良・平安時代中心
3	11-000043	須恵器甕体部	1	140	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000044	須恵器高台付碗口縁部	1	3	平安時代
5	11-000045	須恵器高台付碗体～底部	1	2	平安時代

1-3 1区3面の出土遺物

1-3-1号住居

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000008	土師器坏	口径 12.2 残高 3.2	破片。体～口縁部内湾。口縁横撫で、体～底部内面撫で、外面鋭削り	9世紀後半	第32図	PL17
2	10-000009	土師器坏	口径 11.8 残高 2.8	破片。体部内湾、口縁内湾気味に外反。口縁横撫で、体～底部内面撫撫で、外面鋭削り	9世紀後半	第32図	PL17
3	10-000010	土師器坏	口径 12.0 残高 2.9	破片。体部屈曲し、口縁外反。口縁横撫で、体～底部内面撫撫で、外面鋭削り後体部指撫で	9世紀後半	第32図	PL17
4	10-000011	土師器坏	口径 13.0 器高 3.2	破片。低部平底、体～口縁外反。口縁横撫で、体～底部内面撫撫で、外面鋭削り後体部指撫で	9世紀後半	第32図	PL17
5	10-000012	土師器坏	口径 13.4 残高 3.1	破片。表裏面風化。低部平底、体部外反、口縁内湾。口縁横撫で、体～底部内面撫撫で、外面鋭削り後体部指撫で	9世紀後半	第32図	PL17
6	20-000008	砥石	長 11.9 幅 2.5 厚 1.6	上面欠損。表裏・左右・下面に研磨痕、裏面下位には削痕残る。160g	砥沢石、掘り方出土	第33図	PL17

第15表 1区1面の出土遺物一覧(その6)
1区2面の出土遺物一覧
1区3面の出土遺物一覧(その1)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
7	20-00009	スクレーパー	長厚 10.2 幅 7.5 1.7	扁平な河床礫を用い、表裏より剝離調整	頁岩、掘り方出土	第33図	PL17
8	20-00010	フレーク	長厚 10.2 幅 7.5 1.7	剝片を用い、片面より刃部調整	黒色頁岩、掘り方出土	第33図	PL17

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-00001	土師器甕口縁部	79	482	奈良・平安時代中心
10	11-00002	土師器甕体部	660	1861	奈良・平安時代中心
11	11-00003	土師器甕底部	7	52	奈良・平安時代中心
12	11-00004	土師器甕口縁部	15	165	古墳時代後期
13	11-00005	土師器甕体部	23	214	古墳時代後期
14	11-00006	土師器坏口縁部	160	694	奈良・平安時代中心
15	11-00007	土師器坏体～底部	534	1544	奈良・平安時代中心
16	11-00008	土師器坏口縁部	16	47	奈良・平安中心、黒漆塗布
17	11-00009	土師器坏体～底部	10	42	奈良・平安中心、黒漆塗布
18	11-00010	土師器坏体～底部	2	7	奈良・平安中心、線刻あり
19	11-00011	土師器碗口縁部	7	20	奈良・平安時代中心
20	11-00012	土師器高坏口縁部	2	18	古墳時代後期
21	11-00013	土師器甕口縁部	1	4	奈良・平安時代頃、掘り方

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
22	11-00014	土師器甕体部	5	11	奈良・平安時代中心、掘り方
23	11-00015	土師器坏口縁部	1	5	奈良・平安時代頃、掘り方
24	11-00016	土師器坏体～底部	4	20	奈良・平安時代中心、掘り方
25	11-00017	須恵器甕体部	8	170	奈良・平安時代中心
26	11-00018	須恵器碗口縁部	15	57	平安時代
27	11-00019	須恵器碗体～底部	23	91	平安時代
28	11-00020	須恵器蓋	1	6	奈良・平安時代頃
29	11-00021	須恵器壺	1	23	奈良・平安時代頃
30	11-00022	須恵器長頸壺頸部	1	16	平安時代頃
31	11-00030	土師器甕口縁部	1	9	古墳時代前・中期
32	11-000674	土師器甕体部	1	6	奈良・平安時代頃
33	21-00002	磨石	1	123	破片

1-3-3号掘立柱建物

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000132	土師器甕体部	2	6	奈良・平安時代中心
2	11-000133	土師器坏口縁部	1	6	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000134	土師器坏体～底部	2	12	奈良・平安時代中心

1-3-8号掘立柱建物

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000135	土師器甕体部	2	24	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000136	土師器坏口縁部	1	9	奈良・平安時代頃

1-3-13号掘立柱建物

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000137	土師器甕体部	3	13	奈良・平安時代中心
2	11-000138	土師器坏口縁部	1	3	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000139	土師器坏体～底部	5	21	奈良・平安時代中心

1-3-17号ピット

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000398	須恵器蓋	2	30	奈良・平安時代中心
2	11-001295	土師器坏体～底部	1	6	

1-3-9号ピット

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001305	土師器台付甕体部	4	9	
2	11-001306	土師器甕体部	1	25	

1-3-19号ピット

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000013	土師器坏	口径 13.2 器高 3.5	底面やや丸底。体部湾曲し、口縁若干外反。口縁横撫で、体～底部内面宛撫で、外面宛削り後、体部指撫で	9世紀前半	第48図	PL17
No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考		
2	11-000399	土師器坏体～底部	1	12	奈良・平安時代頃		

1-3-21号ピット

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000400	土師器甕口縁部	1	9	奈良・平安時代頃

1-3-22号ピット

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000401	土師器甕体部	1	8	奈良・平安時代頃

1-3-23号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000014	土師器坏	口径 12.3 器高 3.3	ほぼ完形。底～体部丸みを持ち、口縁直立。口縁横撫で、体～底部内面宛撫で、外面宛削り。内外面黒漆塗布	8世紀後半	第49図	PL17
2	10-000015	土師器坏	口径 13.4 器高 3.6	底～体部丸みを持ち、口縁内湾。口縁横撫で、体～底部内面宛撫で、外面宛削り	8世紀後半	第49図	PL17
3	10-000016	土師器甕	口径 27.8 残高 16.0	破片。砲弾形を呈する。体部丸みを持ち、口縁若干外反。口縁横撫で、体～底部内面宛撫で、外面宛削り	6世紀後半	第49図	PL18

第16表 1区3面の出土遺物一覧 (その2)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000064	土師器甕口縁部	6	48	奈良・平安時代中心
5	11-000065	土師器甕体部	28	161	奈良・平安時代中心
6	11-000066	土師器甕口縁部	5	88	古墳時代後期
7	11-000067	土師器甕体部	1	22	古墳時代後期
8	11-000068	土師器坏口縁部	14	113	平安時代
9	11-000069	土師器坏口縁部	22	162	奈良期
10	11-000070	土師器坏体～底部	48	198	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
11	11-000071	土師器かたまり	1	11	
12	11-000072	須恵器甕体部	14	1625	奈良・平安時代中心
13	11-000073	須恵器高台付碗体～底部	2	19	平安時代
14	11-000074	須恵器長頸壺頸部	1	14	平安時代中心
15	11-000075	須恵器長頸壺口縁部	1	14	平安時代中心
16	11-000690	須恵器甕口縁部	1	28	奈良・平安時代中心
17	11-001311	須恵器甕体部	3	1210	古墳時代

1-3-24号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000017	土師器坏	口径 12.6 残高 3.2	破片。底～口縁部丸みを持つ。口縁横撫で、体～底部内面 横撫で、外面磨削り	8世紀後半	第50図	PL18
2	10-000018	土師器坏	口径 12.4 残高 3.3	1/3。底～体部丸みを持ち、口縁内湾。口縁横撫で、体～ 底部内面横撫で、外面磨削り	8世紀後半	第50図	PL18
3	10-000019	土師器坏	口径 12.5 残高 3.3	1/3。底～体部丸みを持ち、口縁僅頃に開く。口縁横撫で、 体～底部内面横撫で、外面磨削り	8世紀後半	第50図	PL18
4	10-000020	土師器坏	口径 14.0 器高 2.7	平底。体部狭く、口縁部若干開く。口縁横撫で、体～底部 内面横撫で、外面磨削り後体部撫で	8世紀後半	第50図	PL18
5	10-000021	土師器坏	口径 14.0 器高 3.4	平底。体部丸みを帯び、口縁部若干内湾。口縁横撫で、体～ 底部内面横撫で、外面磨削り後体部撫で	8世紀後半	第50図	PL18
6	10-000022	土師器坏	口径 14.0 器高 3.4	底面平底気味。体部丸みを帯び、口縁部僅頃に内湾。口縁 横撫で、体～底部内面横撫で、外面磨削り後体部撫で。内 面黒漆塗布	8世紀後半	第50図	PL18
7	10-000023	土師器坏	口径 13.5 器高 3.3	完全形に近い。底部平底。体部丸みを持ち、口縁部若干内 湾。口縁横撫で、体～底部内面横撫で、外面磨削り後体部 指撫で	8世紀後半	第50図	PL18
8	10-000024	土師器坏	口径 13.7 残高 3.8	僅頃に欠損。底部平底。体部丸みを持ち、口縁立つ。口縁 横撫で、体～底部内面横撫で、外面磨削り後体部指撫で	8世紀後半	第50図	PL18
9	10-000025	土師器坏	口径 15.8 残高 4.1	僅頃に欠損。底部平底。体部丸みを持ち、口縁若干外反。 口縁横撫で、体～底部内面横撫で、外面磨削り後体部指撫で	8世紀後半	第50図	PL18
10	10-000026	土師器坏	口径 12.9 残高 3.4	完形。底部平底気味。体部～口縁内湾。口縁横撫で、体～ 底部内面横撫で、外面磨削り後体部指撫で	8世紀後半	第50図	PL18
11	10-000027	土師器坏	口径 13.3 残高 3.7	完形。底部平底気味。体部丸みを持ち、口縁僅頃に内湾。 口縁横撫で、体～底部内面横撫で、外面磨削り後体部指撫で	8世紀後半	第50図	PL18
12	10-000028	土師器坏	口径 14.0 残高 3.4	2/3。器内やや厚め。底部やや丸みを持ち、口縁若干内湾。 口縁横撫で、体～底部内面横撫で、外面磨削り後体部指撫で	8世紀後半	第50図	PL18
13	10-000029	土師器高坏	口径 19.6 残高 4.6	坏部破片。体部直線の、口縁部開き、口端部内湾。口縁 横撫で、体部内面横撫で、外面磨削り	7世紀前半	第50図	PL18
14	10-000030	土師器高坏	口径 19.5 残高 3.2	坏部破片。体部直線の、口縁部開き、口端部内湾。口縁 横撫で、体部内面横撫で、外面磨削り	7世紀前半	第50図	PL18
15	10-000031	軟質陶器火鉢	口径 27.4 残高 5.9	破片。饅首整形。内外面吸炭、内面炭化物付着	在地産。近・現代	第50図	PL18
16	10-000083	須恵器坏	口径 13.4 底径 9.5 残高 4.2	左回転饅首整形。底面に2度の糸切りによる切り離し痕。 腰部外面に泥調整	8世紀中葉	第50図	PL18
17	20-000011	こもあみ石	長 9.8 幅 5.7 厚 4.6	河床石使用。過半欠損。下位に磨耗痕、両側面に研磨痕残る	石英閃緑岩、440g	第50図	PL20
18	20-000012	白石	径 19.5×16.5 厚 6.2	扁平な河床石使用。上面に研磨痕残る。2.860g	粗粒輝石安山岩	第50図	PL20
19	20-000013	敲石	長 12.9 幅 6.2 厚 3.8	河床石使用。表・上下・両側面、両側面に敲打痕、裏面に 研磨痕残る	石英閃緑岩、440g	第50図	PL19

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
20	11-000076	土師器甕口縁部	6	28	奈良・平安時代中心
21	11-000077	土師器甕体部	53	208	奈良・平安時代中心
22	11-000078	土師器甕底部	1	6	奈良・平安時代頃
23	11-000079	土師器甕体部(鬼高)	6	34	古墳時代後期
24	11-000080	土師器坏口縁部	48	271	奈良・平安時代中心
25	11-000081	土師器坏体～底部	123	515	奈良・平安時代中心
26	11-000082	土師器坏口縁部(鬼高)	4	28	古墳時代後期

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
27	11-000083	土師器高坏口縁部	3	19	古墳時代後期
28	11-000084	土師器碗口縁部	2	18	奈良・平安時代中心
29	11-000085	須恵器甕体部	6	968	奈良・平安時代中心
30	11-000086	須恵器碗口縁部	10	33	平安時代
31	11-000087	須恵器碗体～底部	7	49	平安時代
32	11-000088	須恵器蓋	1	6	奈良・平安時代中心

1-3-24・25号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000089	土師器甕口縁部	2	13	奈良・平安時代中心
2	11-000090	土師器甕体部	12	54	奈良・平安時代中心
3	11-000091	土師器甕体部	3	40	古墳時代後期
4	11-000092	土師器碗口縁部	2	13	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-000093	土師器坏体～底部	9	32	奈良・平安時代中心
6	11-000094	須恵器碗体～底部	1	7	平安時代
7	11-000693	須恵器甕体部	1	13	奈良・平安時代頃

1-3-25号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000032	土師器坏	口径 11.8 残高 3.9	1/2。表裏面風化。底～体部丸みを持ち、口縁部直立。口 縁横撫で、体～底部内面横撫で、外面磨削り	8世紀後半	第51図	PL19
2	10-000033	土師器坏	口径 10.7 残高 3.2	1/4。底部平底。体部屈曲し、口縁直立。口縁横撫で、体～ 底部内面横撫で、外面磨削り後体部撫で。内外面に吸炭 の痕跡	9世紀前半	第51図	PL19

第17表 1区3面の出土遺物一覧 (その3)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
3	10-000034	土師器杯	口径 10.4 残高 3.5	1/3. 底部平底。体部開き、口縁僅かに内湾。口縁横撫で、体～底部内面磨で、外面磨削り後体部撫で	9世紀前半	第51図	PL19
4	10-000035	須恵器長頸瓶	胴部径 22.6 残高 7.9	腰～高台部1/3。硬質でやや赤味を帯びる。回転轆轤整形。体部算盤玉形。削出し高台	奈良時代?	第51図	PL19
5	10-000036	須恵器杯	口径 12.3 器高 3.6	1/3. 右回転轆轤整形。底面に糸切り痕。腰部膨らみ、口縁外反	9世紀後半	第51図	PL19
6	10-000037	須恵器杯	口径 13.8 器高 3.5	1/2. 左回転轆轤整形。底面に糸切り痕。腰部膨らみ、口縁外反	9世紀後半	第51図	PL19
7	10-000038	土師器甕	口径 22.0 残高 14.4	破片。コ字状口縁。肩部やや張る。口縁横撫で。肩部外面磨削り、内面磨で	9世紀後半	第51図	PL19
8	10-000039	須恵器甕	頸部径 26.8 残高 8.0	頸部～肩部の破片。表裏面頃せる。	平安時代	第51図	PL19
9	10-000040	須恵器甕	口径 28.0 残高 5.6	口縁部の破片。外反し、口端部上下に揃む	平安時代	第51図	PL19
10	10-000041	土製紡錘車	径 5.8 高さ 1.9	1/2. 径約1cmの穿孔。上下面撫で調整。側面磨き		第51図	PL19
11	20-000014	こもあみ石(敲石)	長 13.9 幅 6.2 厚 5.3	河床石使用。中位に磨耗痕廻り、上下端部に敲打痕残る。	溶結凝灰岩	第51図	PL20
12	20-000015	こもあみ石	長 8.0 幅 4.4 厚 2.8	小型の河床石使用。中位に磨耗痕、裏面に弱い研磨痕残る。	粗粒輝石安山岩	第51図	PL20
13	20-000016	こもあみ石	長 12.3 幅 5.7 厚 3.0	湾曲した河床石使用。中位に磨耗痕廻る。380g	粗粒輝石安山岩	第51図	PL20
14	20-000017	こもあみ石(敲石)	長 13.7 幅 4.8 厚 3.2	河床石使用。中位に磨耗痕廻り、上下端部に敲打痕残る。	溶結凝灰岩	第51図	PL19
15	20-000018	こもあみ石(敲石)	長 8.0 幅 4.4 厚 2.8	小型の河床石使用。中位に磨耗痕廻り、上下端部に若干の敲打痕、表裏・左右面に研磨痕残る。裏面の研磨痕は顕著。340g	ひん岩	第51図	PL20
16	20-000019	台石	長 15.7 厚 4.0	扁平な河床石使用。1/2。表面に研磨痕残る。980g	石英閃緑岩	第51図	PL20
17	20-000020	敲石(磨石)	長 11.0 厚 3.5	河床石使用。上下端に敲打痕、表面に研磨痕残る。380g	粗粒輝石安山岩	第51図	PL19
18	20-000021	台石	残径 11.8×6.0 厚 3.1	扁平な河床石使用。表面に研磨痕と敲打痕残る。280g	粗粒輝石安山岩	第51図	PL20
19	20-000022	台石	残径 8.9×6.1 厚 9.3	扁平な河床石使用。表裏面に研磨痕、敲打痕残る。400g	二ツ岳軽石	第51図	PL20
20	20-000023	磨石	長 12.2 厚 6.0	河床石使用。表面に敲打痕、磨痕、擦痕残る。940g	粗粒輝石安山岩	第51図	PL19

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
21	11-000095	土師器甕口縁部	57	372	奈良・平安時代中心
22	11-000096	土師器甕体部	242	890	奈良・平安時代中心
23	11-000097	土師器甕底部	2	32	奈良・平安時代中心
24	11-000098	土師器甕体部(鬼高)	8	87	古墳時代後期
25	11-000099	土師器杯口縁部	179	915	奈良・平安時代中心
26	11-000100	土師器杯体～底部	385	1564	奈良・平安時代中心
27	11-000101	土師器碗口縁部	6	85	奈良・平安時代中心
28	11-000102	土師器杯口縁部	2	11	奈良・平安時代中心。暗文様線刻あり
29	11-000103	土師器杯体～底部	1	5	奈良・平安時代中心。暗文様線刻あり
30	11-000104	土師器台甕口縁部	3	57	古墳時代前期
31	11-000105	土師器台甕体～底部	1	98	古墳時代前期
32	11-001319	土師器杯口縁部	1	7	平安時代。墨書
33	11-000106	不明瓦	9	269	

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
34	11-000107	須恵器甕口縁部	3	342	奈良・平安時代中心
35	11-000108	須恵器甕体部	75	3663	奈良・平安時代中心
36	11-000109	須恵器甕体部	3	43	奈良・平安時代中心。薄手
37	11-000110	須恵器甕体部	6	207	奈良・平安時代中心。軟質
38	11-000111	須恵器甕底部	2	99	奈良・平安時代中心
39	11-000112	須恵器甕底部	3	315	奈良・平安時代中心。軟質
40	11-000113	須恵器碗口縁部	27	178	平安時代
41	11-000114	須恵器碗体～底部	31	348	平安時代
42	11-000115	須恵器高台付碗体～底部	2	30	平安時代
43	11-000116	須恵器長頸壺頸部	1	13	奈良・平安時代頃
44	11-000117	須恵器蓋	3	88	奈良・平安時代中心
45	11-000694	須恵器碗口縁部	1	30	奈良・平安時代頃
46	11-000696	須恵器瓶底部	1	21	奈良・平安時代頃

1-3-34号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000042	土師器甕	口径 23.1 残高 6.8	口縁～肩部破片。口縁横撫で。肩部外面磨削り、内面磨で。内面吸炭	8世紀後半	第53図	PL20
2	10-000043	土師器台甕脚部	底径 11.3 残高 5.2	底～脚部片。表裏面荒れる。底面表裏指撫で	8世紀後半	第53図	PL20

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000118	土師器甕口縁部	2	21	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000119	土師器甕体部	1	5	奈良・平安時代頃

1-3-35号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000044	土師器杯	口径 13.1 器高 3.0	1/4. 底面やや膨らみを持ち、口縁部弱く内湾。口縁横撫で。底部内面撫で、外面磨削り	8世紀後半	第54図	PL20
2	10-000045	土師器杯	口径 13.1 器高 3.1	1/3. 底面平底。腰部開き、口縁部内湾。口縁横撫で。底部内面撫で、外面磨削り	8世紀後半	第54図	PL20
3	10-000046	土師器杯	口径 11.8 器高 3.2	ほぼ完形。表裏面荒れる。底面平底気味。体～口縁部内湾。口縁横撫で。体～底部内面磨で、外面磨削り	8世紀後半	第54図	PL20
4	10-000047	土師器甕	胴部径 29.0 残高 11.3	胴部片。表裏面やや荒れる。内面磨で、外面磨削り。	8～9世紀か	第54図	PL20
5	10-000048	土師器甕	口径 21.0 残高 16.5	口縁～肩部破片。口縁横撫で。体部外面磨削り、内面磨で後一部磨き	6世紀後半	第54図	PL21
6	10-000049	須恵器甕	口径 24.6 残高 3.0	口縁部破片。口縁外反し、口端上下に引く	平安時代か	第54図	PL19
7	20-000024	こもあみ石	長 11.1 幅 4.8 厚 3.3	河床石使用。中位に磨耗痕廻り、裏面に磨耗痕残る。280g	粗粒輝石安山岩	第54図	PL20
8	20-000025	こもあみ石	長 15.9 幅 5.4 厚 3.4	河床石使用。中位に磨耗痕廻る。480g	粗粒輝石安山岩	第54図	PL20

第18表 1区3面の出土遺物一覧(その4)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-000120	土師器甕口縁部	5	97	奈良・平安時代中心
10	11-000121	土師器甕体部	77	756	奈良・平安時代中心
11	11-000122	土師器甕底部	2	96	奈良・平安時代中心
12	11-000123	土師器甕口縁部	9	324	古墳時代後期
13	11-000124	土師器体部	11	143	古墳時代後期
14	11-000125	土師器坏口縁部	32	242	奈良・平安時代中心
15	11-000126	土師器坏体～底部	53	268	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
16	11-000127	土師器高坏口縁部	2	27	奈良・平安時代中心
17	11-000128	須恵器甕口縁部	2	51	奈良・平安時代頃
18	11-000129	須恵器甕体部	2	69	奈良・平安時代中心
19	11-000130	須恵器碗体～底部	1	10	平安時代
20	11-000131	須恵器蓋	1	7	奈良・平安時代
21	11-000637	土師器壺体部	5	17	古墳時代前・中期
22	11-000698	須恵器甕体部	3	105	奈良・平安時代頃

1-3-8号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000050	土師器甕	口径 24.6 残高 3.0	胴部～底部片。焼成良好。小礫多く含む。胴部は球状に張り出し、底面若干膨らむ。胴部外面磨削り、内面磨撫で、底面も磨削り	6世紀か	第56図	PL21

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000140	土師器甕体部	9	35	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000638	土師器甕体部	4	57	古墳時代前・中期

1-3-49号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000187	土師器甕口縁部	7	101	奈良・平安時代中心
2	11-000188	土師器甕体部	18	134	奈良・平安時代中心
3	11-000189	土師器甕底部	1	12	奈良・平安時代中心
4	11-000190	土師器坏口縁部	2	11	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-000191	土師器坏体～底部	5	18	奈良・平安時代中心
6	11-000192	須恵器甕口縁部	1	29	平安時代頃
7	11-000193	須恵器高台付碗体～底部	1	7	平安時代
8	11-000194	灰釉陶器碗口縁部	1	4	平安時代

1-3-50号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000195	土師器甕体部	2	14	奈良・平安時代中心

1-3-53号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000200	土師器坏口縁部	1	8	奈良・平安時代中心

1-3-52号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000196	土師器甕口縁部	2	10	奈良・平安時代中心
2	11-000197	土師器甕体部	3	15	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000198	土師器坏口縁部	1	6	奈良・平安時代頃
4	11-000199	土師器坏体～底部	3	22	奈良・平安時代中心

1-3-55号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000051	土師器坏	口径 13.6 残高 3.2	破片。底～体部膨らみを持ち、口縁部外反。口縁横撫で。体～底部内面磨撫で、外面磨削り。	8世紀後半	第63図	PL22
2	20-000026	砥石	径 20.2×19.3 厚み 5.1	扁平な河床石使用。表面中央に径10.3×9.8cmを測る方形の柱の当たり痕が見られる。2.860g	粗粒輝石安山岩	第63図	PL22

1-3-68号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000027	砥石	長さ 8.2 幅 5.9 厚み 1.7	1/2. 平箱形の石材使用。表裏・右側面に研磨痕が見られ、表裏面に削痕が残る。また左側面と上端に整形に伴う削り痕が若干見られる	デイスایت	第62図	PL22

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000256	土師器坏口縁部	1	12	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000257	土師器坏体～底部	3	17	奈良・平安時代中心

1-3-69号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000052	土師器坏	口径 11.3 器高 2.6	破片。低部平底。腰部丸みを持ち、口縁弱く外反。口縁横撫で、体部頃ら底部内面撫で、外面磨削り後、体部撫で	8世紀後半	第62図	PL21

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000258	土師器甕口縁部	3	20	奈良・平安時代中心
3	11-000259	土師器坏口縁部	1	8	奈良・平安時代頃
4	11-000260	土師器坏体～底部	1	7	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-000261	須恵器坏体～底部	1	27	奈良・平安時代頃
6	11-000656	土師器坏口縁部	3	34	古墳時代前・中期

第19表 1区3面の出土遺物一覧 (その5)

遺物一覧

1-3-73号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00053	土師器坏	口径 12.0 残高 3.9	破片。底面丸みを帯び、口縁内湾。口縁横撫で、体～底部内面宛撫で、外面宛削り後体部撫で	9世紀前半	第59図	PL21
2	22-000105	こもあみ石	長 10.4 幅 5.5 厚 4.1	河床礫使用。中位に磨耗痕廻る。340g		第60図	PL21

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000278	土師器坏体～底部	2	18	奈良・平安時代中心	5	11-000658	土師器甕体部	1	25	古墳時代前・中期
4	11-000279	須恵器甕体部	1	37	奈良・平安時代頃						

1-3-74号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00054	土師器甕	底径 6.0 残高 6.3	腰～底部片。器内薄く、表裏面傾せる。底部丸みを持ち、腰部開く。外面宛削り、内面宛撫で等。	9世紀か	第60図	PL21

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000280	土師器甕口縁部	1	27	奈良・平安時代頃	3	11-000659	土師器甕体部	3	24	

1-3-75号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00055	土師器坏	口径 13.0 残高 3.7	ほぼ完形。底面丸底、体～口縁部内湾。口縁横撫で、体～底部内面宛撫で、外面宛削り後体部指撫で	8世紀後半	第59図	PL21
2	20-000028	多孔石	長 15.9 幅 10.7 厚 8.5	前面に敲打痕見られ、裏面に研磨面見られる。900g		第60図	PL21

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000281	土師器坏口縁部	1	4	奈良・平安時代頃	4	11-000282	土師器坏体～底部	2	5	奈良・平安時代中心

1-3-77号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00056	須恵器蓋	口径 14.4 残高 1.7	破片。上面頃から口縁端部に傾けて釉掛する。器高低く、口縁端部頃から1.5cmに返し。	8世紀	第60図	PL21

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000283	土師器甕口縁部	1	11	奈良・平安時代頃	3	11-000284	土師器甕体部	2	5	奈良・平安時代中心

1-3-79号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00057	須恵器坏	口径 12.7 器高 3.5	1/2。右回轉軸整形。表裏面に吸炭。底面回轉糸切り痕残る。	8世紀後半	第62図	PL22
2	10-00058	土師器坏	口径 12.5 器高 3.2	完形。表裏面風化。底面平底気味。腰部屈曲し、口縁やや内湾。口縁横撫で。体部頃から底部内面撫で、外面宛削り頃	8世紀後半	第62図	PL22
3	20-000029	礎石	径 19.4×19.0 厚み 5.8	扁平な河床礫を用いる。表面に径10.4×10.2cmを測る方形の柱の当たり痕残る。3,500g		第62図	—

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000285	土師器坏口縁部	3	21	奈良・平安時代中心	7	11-000288	須恵器甕底部	1	38	奈良・平安時代頃
5	11-000286	土師器坏体～底部	2	32	奈良・平安時代中心	8	11-000289	須恵器高台付碗体～底部	1	なし	平安時代
6	11-000287	須恵器甕体部	2	291	奈良・平安時代中心						

1-3-80号土坑(旧溜井遺構)

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000394	土師器甕体部	3	20	奈良・平安時代中心	3	11-000396	土師器坏口縁部	1	5	奈良・平安時代頃
2	11-000395	土師器甕底部	1	112	古墳時代後期	4	11-000397	土師器坏体～底部	7	33	奈良・平安時代中心

1-3-90号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00059	土師器坏	口径 13.6 器高 3.5	2/3。底面平底。内面傾せる。口縁部吸炭。腰部丸みを持ち、口縁やや開く。口縁横撫で、体～底部内面宛撫で、外面宛削り	7世紀後半	第63図	PL22

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000294	土師器甕体部	11	111	奈良・平安時代中心	4	11-000296	土師器坏体～底部	9	62	奈良・平安時代中心
3	11-000295	土師器坏口縁部	7	49	奈良・平安時代中心	5	11-000297	須恵器甕口縁部	1	127	平安時代頃

1-3-91号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000298	土師器坏体～底部	1	10	奈良・平安時代頃	1	11-000688	須恵器甕体部	1	13	奈良・平安時代頃

1-3-97号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000688	須恵器甕体部	1	13	奈良・平安時代頃

第20表 1区3面の出土遺物一覧(その6)

遺物一覧

1-3-92号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000299	土師器甕体部	1	3	奈良・平安時代頃
2	11-000300	土師器甕底部	1	10	奈良・平安時代頃
3	11-000301	土師器坏口縁部	2	16	奈良・平安時代中心

1-3-103号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000322	土師器甕口縁部	8	53	奈良・平安時代中心
2	11-000323	土師器甕体部	14	43	奈良・平安時代中心
3	11-000324	土師器坏口縁部	2	7	奈良・平安時代中心

1-3-105号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000327	土師器甕口縁部	1	11	奈良・平安時代頃
2	11-000328	土師器甕体部	2	19	奈良・平安時代中心

1-3-109号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000060	土師器坏	口径 11.5 残高 3.4	1/4. ない外面傾せる。底～体部丸く、口縁僅頃に内湾。口縁横撫で、体～底部内面磨削で、外面磨削り	7世紀後半	第57図	PL21
2	10-000061	土師器坏	口径 13.0 残高 2.5	破片。底面平底。腰部丸みを帯び、口縁外反。口縁横撫で。体～底部内面磨削で、外面磨削り後体部撫で頃	8世紀前半	第57図	PL21

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000331	土師器坏体～底部	3	11	奈良・平安時代中心

1-3-115号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000337	土師器甕口縁部	1	4	奈良・平安時代頃
2	11-000338	土師器坏口縁部	3	10	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000339	土師器坏体～底部	4	8	奈良・平安時代中心

1-3-116号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000062	土師器坏	口径 13.2 残高 2.9	破片。底部欠損。腰部屈曲し、口縁やや外反。口縁横撫で。体～底部内面磨削で、外面磨削り後体部撫で	8世紀後半	第65図	PL22
2	10-000063	土師器甕	口径 19.4 残高 5.4	ほぼ完形。内面吸炭による黒色処理の痕跡。底面やや丸みを帯び、口縁外反。口縁横撫で。体～底部内面磨削で、外面磨削り後体部撫で	8世紀前半	第65図	PL22

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000340	土師器甕口縁部	2	8	奈良・平安時代中心
4	11-000341	土師器坏口縁部	6	54	奈良・平安時代中心
5	11-000342	土師器坏体～底部	13	72	奈良・平安時代中心
6	11-000343	須恵器甕体部	2	286	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-000344	須恵器高台付碗口縁部	1	5	平安時代
8	11-000345	須恵器長頸壺口縁部	1	45	奈良・平安時代頃
9	11-000681	土師器甕体部	1	13	奈良・平安時代頃

1-3-117号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000346	土師器甕口縁部	2	5	奈良・平安時代中心
2	11-000347	土師器甕体部	2	9	奈良・平安時代中心
3	11-000348	土師器甕底部	1	151	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000349	土師器坏口縁部	1	7	奈良・平安時代頃
5	11-000350	土師器坏体～底部	2	46	奈良・平安時代中心

1-3-118号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000351	土師器甕口縁部	1	15	奈良・平安時代頃
2	11-000352	土師器甕体部	4	25	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000353	土師器坏体～底部	3	16	奈良・平安時代中心
4	11-000689	須恵器甕体部	2	5	奈良・平安時代中心

1-3-120号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000354	土師器甕体部	2	18	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000355	土師器坏口縁部	4	14	奈良・平安時代中心

第21表 1区3面の出土遺物一覧(その7)

遺物一覧

1-3-121号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000297	土師器坏	口径 15.2 残高 3.7	破片。底部欠損。腰部屈曲し、口縁やや外反。口縁横撫で。体～底部内面匏撫で、外面匏削り後体部撫で頃	7世紀後半	第58図	PL21

1-3-122号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000356	土師器甕口縁部	4	25	奈良・平安時代中心	5	11-000360	土師器甕口縁部	1	56	古墳時代後期
2	11-000357	土師器甕体部	27	116	奈良・平安時代中心	6	11-000361	土師器甕体部	2	21	古墳時代後期
3	11-000358	土師器甕脚部	1	10	奈良・平安時代頃	7	11-000362	土師器坏口縁部	5	26	奈良・平安時代中心
4	11-000359	土師器甕底部	1	38	奈良・平安時代頃	8	11-000363	土師器坏体～底部	13	35	奈良・平安時代中心

1-3-124号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000364	土師器甕体部	1	8	奈良・平安時代頃	2	11-000365	土師器坏口縁部	1	6	奈良・平安時代中心

1-3-126号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000298	土師器坏	口径 12.7 残高 3.1	1/4。表裏カセる。底面やや丸みを帯び、体～口縁部内湾。口縁横撫で、体～底部内面匏撫で、外面匏削り後体部撫で頃	8世紀後半	第66図	PL22
2	20-000030	こもあみ石	長 14.9 幅 6.7 厚 4.7	棒状の河床礫使用。左側中位に敲打による凹部でき、中位に磨耗痕通り、上下両端に敲打痕残る。780g	粗粒輝石安山岩	第66図	PL23

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000366	土師器甕口縁部	5	65	奈良・平安時代中心	7	11-000370	須恵器高台付碗口縁部	1	7	平安時代
4	11-000367	土師器甕体部	18	120	奈良・平安時代中心	8	11-000371	須恵器高台付碗体～底部	3	12	平安時代
5	11-000368	土師器坏口縁部	17	120	奈良・平安時代中心	9	11-001285	須恵器甕体部	5	139	
6	11-000369	土師器坏体～底部	16	55	奈良・平安時代中心						

1-3-127号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000064	土師器坏	口径 12.5 器高 3.4	3/4。やや器形歪み、表裏面カセる。底～体部丸みを持ち口縁部直立。口縁横撫で、体～底部内面匏撫で、外面匏削り	8世紀前半	第66図	PL22
2	10-000065	土師器坏	口径 13.6 残高 3.4	1/2。底面欠損。底面平底気味で、体部屈曲、口縁部外反。口縁横撫で、体～底部内面匏撫で、外面匏削り	8世紀前半	第66図	PL22
3	10-000066	土師器盤	口径 16.3 残高 5.2	3/5。表裏面ややカセる。底～体部丸みを帯び、口縁部直立。口縁横撫で、体～底部内面匏撫で、外面匏削り	8世紀前半	第66図	PL22

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000372	土師器甕口縁部	5	63	奈良・平安時代中心	6	11-000374	土師器坏口縁部	10	86	奈良・平安時代中心
5	11-000373	土師器甕体部	58	370	奈良・平安時代中心	7	11-000375	土師器坏体～底部	18	71	奈良・平安時代中心

1-3-130号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000067	土師器坏	口径 12.0 器高 3.5	1/4。表裏面ややカセる。底面平底、体部丸み持ち、口縁部僅かに外反。口縁横撫で、体～底部内面匏撫で、外面匏削り	8世紀後半	第67図	PL23
2	10-000068	須恵器坏	底径 12.0 残高 2.0	腰～底部1/2。左回回転輪整形。底面回転輪切り。焼成やや良好	8世紀後半	第67図	PL23

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000376	土師器甕口縁部	4	67	奈良・平安時代中心	6	11-000379	土師器坏体～底部	13	83	奈良・平安時代中心
4	11-000377	土師器甕体部	25	159	奈良・平安時代中心	7	11-000664	土師器壺体部	1	13	古墳時代前・中期
5	11-000378	土師器坏口縁部	15	112	奈良・平安時代中心	8	11-001312	須恵器甕頸部	1	150	

1-3-131号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000380	土師器甕口縁部	2	25	奈良・平安時代中心	4	11-000383	土師器坏口縁部	9	40	奈良・平安時代中心
2	11-000381	土師器甕体部	17	129	奈良・平安時代中心	5	11-000384	土師器坏体～底部	17	207	奈良・平安時代中心
3	11-000382	土師器甕底部	4	28	奈良・平安時代中心	6	11-000385	土師器甕体部	1	なし	奈良・平安時代頃

第22表 1区3面の出土遺物一覧(その8)

遺物一覧

1-3-焼土遺構(O-15グリッド)

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000414	土師器甕体部	6	30	奈良・平安時代中心
2	11-000415	土師器坏口縁部	2	6	奈良・平安時代中心
3	11-000416	土師器坏体～底部	5	25	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000417	須恵器甕体部	2	16	奈良・平安時代中心
5	11-000418	須恵器蓋	1	21	奈良・平安時代頃

1-3-遺物包含層

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000476	土師器甕口縁部	3	20	古墳時代後期
2	11-000477	土師器甕口縁部	27	178	奈良・平安時代中心
3	11-000478	土師器甕体部	26	150	古墳時代後期
4	11-000479	土師器甕体部	124	424	奈良・平安時代中心
5	11-000480	土師器甕底部	5	56	奈良・平安時代中心
6	11-000481	土師器坏口縁部	33	177	奈良・平安時代中心
7	11-000482	土師器坏口縁部	2	6	奈良・平安時代中心、黒漆塗布
8	11-000483	土師器坏体～底部	122	349	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-000484	土師器坏体～底部	4	19	奈良・平安時代中心、黒漆塗布
10	11-000485	土師器碗口縁部	1	16	奈良・平安時代頃
11	11-000486	須恵器甕口縁部	1	6	奈良・平安時代頃
12	11-000487	須恵器甕体部	4	173	奈良・平安時代中心
13	11-000488	須恵器甕底部	4	41	奈良・平安時代中心
14	11-000489	須恵器蓋	1	33	奈良・平安時代頃
15	11-001358	陶器	1	20	瀬戸・美濃産

1-3-旧河道

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000069	須恵器甕	径 5.7×5.4 厚み 1.6	破片。外面に縄目痕と平行叩き目痕、内面同心円叩き目痕残る	奈良・平安時代か	第70図	PL23
2	10-000070	瓦	径 8.5×7.7 厚み 1.7	破片。表裏面撫で整形。	近・現代	第70図	PL23
3	20-000031	台石	残存径 14.2×7.9 厚 3.5	扁平な河床礫を使用。表裏面に研磨痕、裏面に敲打痕残る	粗粒輝石安山岩	第70図	PL23

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000402	土師器甕底部	1	26	奈良・平安時代頃
5	11-000403	土師器坏口縁部	3	20	奈良・平安時代中心
6	11-000404	土師器坏体～底部	3	26	奈良・平安時代中心
7	11-000405	須恵器甕体部	4	317	奈良・平安時代中心
8	11-000406	須恵器高台付碗体～底部	2	30	平安時代

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-000407	須恵器壺腰部	1	212	奈良・平安時代頃
10	11-000408	須恵器壺肩部	1	77	奈良・平安時代頃
11	11-001350	陶器	1	22	瀬戸・美濃産
12	11-001351	磁器	1	23	産地不明、近現代
13	21-000003	フレーク	1	59	黒色頁岩

1-4-調査面に拘らない遺物

1-4-1-グリッドの特定できる遺物

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
Q-14グリッド							
1	10-000071	土師器高坏	口径 23.2 残高 4.1	口縁～体部の破片。体部直線的、口縁開く。口縁横撫で、体部内面磨撫で、外面磨削り	7世紀後半	第72図	PL23
O-15グリッド							
2	10-000072	土師器甕	口径 23.8 残高 10.7	口縁～体部の破片。体部上位に最大径、口縁開く。口縁横撫で、体部内面磨撫で、外面磨削り	9世紀前半	第72図	PL23
Q-17グリッド							
3	10-000073	須恵器坏	口径 11.3 器高 3.0	(右)回転轆轤整形。底面回転磨削り	8世紀後半	第72図	PL23

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
J-14グリッド					
13	11-000682	土師器坏底部	1	9	奈良・平安時代頃
N-13グリッド					
14	11-000141	土師器甕口縁部	4	25	奈良・平安時代中心
15	11-000142	土師器甕体部	3	なし	奈良・平安時代中心
16	11-000143	土師器坏口縁部	3	11	奈良・平安時代中心
17	11-000144	土師器坏体～底部	3	27	奈良・平安時代中心
18	11-000145	陶器現代	1	8	奈良・平安時代頃
N-14グリッド					
19	11-000409	土師器甕体部	8	49	奈良・平安時代中心
20	11-000410	土師器甕口縁部	1	23	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
N-14グリッド					
21	11-000411	土師器坏体～底部	1	21	奈良・平安時代頃
22	11-000665	土師器壺底部	1	10	古墳時代前・中期
O-17グリッド					
23	11-000412	土師器坏口縁部	1	3	奈良・平安時代頃
24	11-000413	土師器坏体～底部	3	9	奈良・平安時代中心
P-13グリッド					
25	11-000666	土師器甕体部	1	28	古墳時代前・中期
P-15グリッド					
26	11-000419	土師器甕口縁部	3	20	奈良・平安時代中心
27	11-000420	土師器甕体部	13	39	奈良・平安時代中心

第23表 1区3面の出土遺物一覧(その9)
1区の調査面に拘らない出土遺物(その1)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
P-15グリッド					
28	11-000421	土師器坏口縁部	1	18	奈良・平安時代頃
29	11-000422	土師器坏体～底部	8	27	奈良・平安時代中心
30	11-000423	須恵器碗口縁部	2	6	平安時代
Q-13グリッド					
31	11-000424	土師器坏体～底部	2	15	奈良・平安時代中心
Q-14グリッド					
32	11-000425	土師器坏口縁部	2	9	奈良・平安時代中心
33	11-000426	土師器坏体～底部	2	5	奈良・平安時代中心
Q-16グリッド					
34	11-000427	土師器坏体～底部	1	3	奈良・平安時代頃
Q-17グリッド					
35	11-000428	土師器甕体部	1	3	奈良・平安時代頃
36	11-000429	土師器坏体～底部	1	5	奈良・平安時代頃
37	11-000679	須恵器甕体部	1	33	奈良・平安時代頃
Q-18グリッド					
38	11-000430	土師器甕口縁部	7	28	奈良・平安時代中心
39	11-000431	土師器甕体部	27	72	奈良・平安時代中心
40	11-000432	土師器甕体部	1	20	古墳時代後期
41	11-000433	土師器坏口縁部	12	49	奈良・平安時代中心
42	11-000434	土師器坏体～底部	47	173	奈良・平安時代中心
43	11-000435	須恵器甕体部	1	18	奈良・平安時代頃
44	11-000436	須恵器碗口縁部	2	5	奈良・平安時代中心
45	11-000437	須恵器碗体～底部	6	26	奈良・平安時代中心
46	11-000438	須恵器蓋	3	21	奈良・平安時代中心
47	11-000439	陶器	1	10	奈良・平安時代頃
48	11-000440	磁器	1	3	江戸時代
49	11-001352	磁器	1	5	肥前産
50	11-001353	磁器	1	5	産地不明、近現代
51	11-000667	土師器甕体部	1	12	古墳時代前・中期
52	11-000668	土師器甕体部	2	14	古墳時代前・中期
53	11-000669	土師器甕体部	1	33	古墳時代前・中期
54	11-000700	須恵器甕体部	1	25	奈良・平安時代頃

1-4-2 試掘等による出土遺物

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
試掘							
4	10-000074	土師器坏	口径 12.4 器高 3.3	1/4. 底面平底。体～口縁部内湾。口縁横撫で、体～底部内面鋭撫で、外面鋭削り後体部撫で	8世紀前半	第72図	PL23

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
南壁トレンチ					
78	11-000463	土師器坏口縁部	1	5	奈良・平安時代頃
79	11-000464	土師器坏体～底部	1	5	奈良・平安時代頃
80	11-000465	須恵器甕体部	2	62	奈良・平安時代中心
試掘					
81	11-000466	土師器甕体部	16	94	奈良・平安時代中心
82	11-000467	土師器甕底部	1	5	奈良・平安時代頃
83	11-000468	土師器坏口縁部	7	23	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
Q-20グリッド					
55	11-000441	土師器甕体部	2	38	奈良・平安時代中心
56	11-000442	土師器坏体～底部	3	9	奈良・平安時代中心
R-13グリッド					
57	11-000443	土師器甕底部	1	9	奈良・平安時代頃
58	11-000444	土師器坏口縁部	1	6	奈良時代
59	11-000445	須恵器甕体部	1	20	奈良・平安時代頃
60	11-000446	須恵器碗体～底部	1	なし	奈良・平安時代頃
R-17グリッド					
61	11-000447	土師器坏口縁部	1	5	奈良・平安時代頃
R-18グリッド					
62	11-000448	土師器甕体部	2	20	奈良・平安時代中心
63	11-000449	土師器坏口縁部	2	14	平安時代
64	11-000450	土師器坏口縁部	1	8	奈良時代
65	11-000451	土師器坏口縁部	1	14	古墳時代後期
66	11-000452	土師器坏体～底部	1	4	奈良・平安時代中心
S-17グリッド					
67	11-000453	須恵器甕体部	1	238	奈良・平安時代頃
S-18グリッド					
68	11-000454	土師器甕体部	1	5	奈良・平安時代頃
69	11-000455	土師器坏口縁部	3	8	奈良・平安時代中心
70	11-000456	土師器坏体～底部	3	11	奈良・平安時代中心
S-19グリッド					
71	11-000457	土師器甕口縁部	1	10	奈良・平安時代頃
72	11-000458	土師器甕体部	1	14	奈良・平安時代頃
S-20グリッド					
73	11-000459	土師器甕口縁部	1	10	奈良・平安時代頃
74	11-000460	土師器坏口縁部	2	8	奈良・平安時代中心
T-18グリッド					
75	11-000461	土師器坏口縁部	2	12	奈良・平安時代中心
76	11-000462	土師器甕体部	1	4	奈良・平安時代頃
77	11-000670	土師器甕体部	1	12	古墳時代前・中期

第24表 1区の調査面に拘らない出土遺物(その2)

1-4-3 その他の出土遺物

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
表面採集							
5	10-000075	土師器坏	口径 13.0 残高 4.2	破片。底～体部湾曲。口縁部直立。口縁横撫で、体～低部内面寛撫で、外面鋭削り	7世紀後半	第72図	PL23
6	10-000076	須恵器碗	口径 16.1 残高 4.7	口縁～体部片。内面のみ施軸。体部膨らみを有し、口縁開く	10世紀前半	第72図	PL23
7	10-000077	須恵器碗	底径 7.8 残高 3.2	腰～底部片。内面のみ施軸葉。腰部膨らみを持つ。付高台	10世紀前半	第72図	PL23
8	10-000078	軟質陶器火鉢	口径 20.1 残高 3.3	口縁破片。口縁部屈曲して張り出す。表裏面吸炭	在地産、江戸～近代	第72図	PL24
9	10-000079	軟質陶器鉢	底径 23.8 残高 4.4	腰部片。腰部膨らみ、内外面吸炭。底面吸炭なく寛調整。	在地産、近・現代	第72図	PL24
10	10-000080	陶器火鉢	径 7.4×6.6 厚み 0.9	底部片。底面に「泉水 (鉤) 福 □」の押印	在地、小泉焼、近・現代	第72図	PL24
11	10-000081	磁器碗	底径 4.0 残高 2.7	腰部下位に染付により山並等描かれる	肥前産、18世紀後半～19世紀初頭	第72図	PL24
12	20-000032	フレーク	径 10.2×9.6 厚み 2.6	自然面残す	黒色頁岩	第72図	PL23

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
表面採集					
91	11-000490	土師器甕口縁部	33	183	奈良・平安時代中心
92	11-000491	土師器甕口縁部	12	204	古墳時代後期
93	11-000492	土師器甕体部	226	707	奈良・平安時代中心
94	11-000493	土師器甕体部	27	252	古墳時代後期
95	11-000494	土師器甕底部	6	49	奈良・平安時代中心
96	11-000495	土師器甕底部	1	217	古墳時代後期
97	11-000496	土師器坏口縁部	63	261	奈良・平安時代中心
98	11-000497	土師器坏体～底部	253	934	奈良・平安時代中心
99	11-000498	陶器	1	3	
100	11-000499	瓦	1	125	
101	11-000500	須恵器甕口縁部	2	25	奈良・平安時代中心
102	11-000501	須恵器甕体部	11	245	奈良・平安時代中心
103	11-000502	須恵器甕	2	63	奈良・平安時代中心、軟質
104	11-000503	須恵器甕体部	4	32	奈良・平安時代中心、薄手
105	11-000504	須恵器甕底部	4	63	奈良・平安時代中心
106	11-000505	須恵器甕口縁部	6	31	奈良・平安時代中心
1-86土坑					
107	11-001279	土師器甕体部	1	26	
1-87土坑					
108	11-001280	土師器甕体部	5	13	
109	11-001281	土師器碗体部	1	7	
110	11-001282	土師器坏口縁部	3	8	
111	11-001283	土師器坏体～底部	9	37	
112	11-001284	須恵器甕体部	1	112	
1区					
1	11-001301	土師器	29	30	
2	11-001302	土師器坏体～底部	42	53	
1区As-B混土					
1	11-001307	土師器	1	25	

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
表面採集					
113	11-000506	須恵器碗体～底部	18	86	奈良・平安時代中心
114	11-000507	須恵器蓋	2	19	奈良・平安時代中心
115	11-000508	須恵器鉢	1	118	奈良・平安時代中心、軟質
116	11-000509	陶器	7	75	
117	11-001354	陶器	4	18	瀬戸・美濃産
118	11-001355	磁器	1	12	肥前産
119	11-001356	土師器坏体～底部	1	7	産地不明、近・現代
120	11-000702	須恵器甕体部	5	127	奈良・平安時代中心
覆土等一括					
121	11-001357	陶器	5	47	瀬戸・美濃産
122	11-001358	磁器	1	20	肥前産
123	11-000671	土師器甕口縁部	1	12	古墳時代前・中期
124	11-000672	土師器甕体部	6	44	古墳時代前・中期
125	11-000673	土師器坏体部	2	5	古墳時代前・中期
126	11-000703	須恵器甕体部	1	30	奈良・平安時代中心
1区A土坑					
127	11-000387	土師器甕体部	1	7	
128	11-000388	土師器坏体～底部	3	9	
1-表採					
1	11-001291	土師器碗口縁部	9	69	
2	11-001292	土師器坏口縁部	5	26	
3	11-001293	土師器坏体部	9	52	
4	11-001294	灰釉碗口縁部	1	4	
5	11-001308	土師器	1	23	
6	11-001309	土師器壺体部	5	48	
1-Q-17グリッド					
1	11-000699	須恵器甕体部	1	14	
1-S-18グリッド					
2	11-000701	須恵器甕体部	2	39	

第24表 1区の調査面に拘らない出土遺物 (その3)

遺物一覧

2区の出土遺物

2-1 2区1面の出土遺物

2-1-1号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000510	土師器甕口縁部	1	5	奈良・平安時代頃
2	11-000511	土師器甕体部	3	107	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000512	土師器甕体部	3	19	奈良・平安中心、粗造化

2-1-2号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	51-000001	馬歯	1		破片

2-1-3号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000513	土師器坏体～底部	4	9	奈良・平安時代中心

2-1-4号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000082	土師器高坏	脚部径 5.0 残高 6.6	坏低部～脚部片。脚部外面篋削り、内面絞り後撫で	5世紀	第75図	PL46

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000514	土師器甕体部	5	18	奈良・平安中心、粗造化
3	11-000515	土師器坏体～底部	11	43	奈良・平安中心、粗造化
4	11-000516	須恵器甕体部	3	368	奈良・平安時代中心、軟質
5	11-000517	須恵器甕底部	1	85	奈良・平安時代頃、軟質

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-000518	須恵器高台付碗口縁部	4	16	奈良・平安時代中心
7	11-000519	須恵器高台付碗体底部	2	7	奈良・平安時代中心
8	11-000520	須恵器甕体部	1	87	奈良・平安時代頃
9	11-000704	土師器壺体部	2	29	古墳時代前・中期

2-1-7号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	31-000001	炭化物	少量		細片

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	51-000014	骨	少量		小片1点、細片2点以上

2-1-9号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000521	土師器坏口縁部	3	15	奈良・平安時代中心
2	11-000522	須恵器甕体部	1	95	奈良・平安時代頃、軟質

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000523	須恵器高台付碗体～底部	1	4	奈良・平安中心、粗造化する

2-1-10号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000524	土師器甕体部	2	14	奈良・平安時代頃
2	11-000525	土師器坏口縁部	2	10	奈良・平安時代頃
3	11-000526	土師器坏体～底部	4	21	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000527	須恵器甕体部	1	34	奈良・平安中心、粗造化
5	11-000528	須恵器高台付碗体～底部	4	28	奈良・平安中心、粗造化

2-1-23号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000033	敲石(こもあみ石)	長 14.0 幅 5.9 厚 4.6	三角錘状の河床礫使用。上下端部に敲打残り、中位に磨耗痕廻る	粗粒輝石安山岩	第82図	PL46

2-1-小ピット

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	31-000002	炭化物	少量		小3点、細片4点以上
2	31-000003	炭化物	少量		小1点、細片5点以上

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	51-000006	馬歯	少量		小片1点、細片5点以上

2-1-1号井戸

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	30-000001	杭	径 9.0×5.5 長さ 56.1	厚板状の割材使用。上位切断。下端部を尖端となす	ブナ属	第85図	PL46
2	30-000002	杭	径 9.2×5.5 長さ 47.6	割材を使用。節あり。下位を尖端とし、左側面上位に削り痕残す	ブナ属	第85図	PL46
3	30-000003	板材	長 16.8 幅 7.3 厚 5.4	みかん割材断片。左側に枝払いの細かい刃物傷の痕跡残る	コナラ属コナラ節	第85図	PL46

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000529	土師器坏体～底部	1	4	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-000530	須恵器高台付碗口縁部	1	9	平安時代

第26表 2区1面の出土遺物一覧 (その1)

遺物一覧

2-1-2号井戸

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	30-000004	杭	径 8.4×4.6 長さ 49.3	割材使用。下端欠落。左側面に刃物傷残り、上端は丸めて磨られる	ケヤキ	第86図	PL46

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000531	須恵器甕体部	1	9	奈良・平安時代頃

2-1-3号井戸

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000084	須恵器高台付碗	口径 12.2 底径 7.8 器高 5.0	左回転轆轤整形。表裏面カセて部分的に酸化鉄付着。腰部やや張るが、体～口径部直線的に開く。底面に回転糸切り痕。高台は付高台で高い	10世紀後半。やや酸化	第87図	PL46

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000532	土師器坏口径部	2	8	奈良・平安時代中心
3	11-000533	土師器坏体～底部	6	19	奈良・平安時代中心
4	11-000534	須恵器甕体部	2	175	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-000535	須恵器高台付碗口径部	2	7	平安時代
6	11-000705	土師器壺体部	1	57	古墳時代前・中期

2-1-遺構外の遺物

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000034	石鏃	長さ 1.7 幅 1.3 厚 0.4	無茎鏃。二等辺三角形を呈す	黒曜石	第94図	PL46
2	20-000035	打製石斧	残長さ 6.4 幅 4.2 厚 1.1	短冊型。下半欠損。表裏面より剝離調整	細粒輝石安山岩	第94図	PL46
3	10-000085	土師器坏	口径 12.2 器高 3.2	1/4。外面カセる。底面平底気味で、体～口径部湾曲。口径縁横撫で。体～底部内面篋撫で、外面篋削り	8世紀前半	第94図	PL46
4	10-000086	土師質土器坏	口径 10.5 底径 5.7 器高 3.3	右回転轆轤整形。内外面吸炭し、一部油煙付着。体部丸みをもち、口径部若干外反。底面に回転糸切り痕	10世紀後葉～11世紀前葉	第94図	PL46

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
東半部中心					
5	11-000536	土師器甕口径部	4	17	奈良・平安中心、粗造化
6	11-000537	土師器甕体部	31	112	奈良・平安中心、粗造化
7	11-000538	土師器甕口径部	1	6	古墳時代後期、粗造化
8	11-000539	土師器甕体部	8	160	古墳時代後期、粗造化
9	11-000540	土師器小型甕口径部	1	17	奈良・平安中心、粗造化
10	11-000541	縄文土器	1	18	中期
11	11-000542	土師器坏口径部	13	37	奈良・平安中心、粗造化
12	11-000543	土師器坏体～底部	99	230	奈良・平安中心、粗造化
13	11-000544	土師器高坏脚部	1	14	古墳時代、粗造化
14	11-000545	須恵器甕口径部	3	175	奈良・平安時代中心
15	11-000546	須恵器甕底部	1	11	奈良・平安時代頃
16	11-000547	須恵器甕体部	78	1974	奈良・平安時代中心
17	11-000548	須恵器甕底部	2	89	奈良・平安時代中心
18	11-000549	須恵器高台付碗口径部	6	13	平安時代
19	11-000550	須恵器高台付碗口径部	5	15	平安時代、粗造化
20	11-000551	須恵器高台付碗体～底部	16	121	平安時代、粗造化
21	11-000552	須恵器碗体部	28	125	平安時代
22	11-000553	須恵器碗底部	16	54	平安時代
23	11-000554	須恵器長頸壺頸部	1	83	奈良・平安時代中心
24	11-000555	須恵器蓋(粗造化)	1	4	奈良・平安時代、粗造化
25	11-000556	陶器か	2	35	酸化焰
26	11-000688	土師器壺体部	10	97	古墳時代前・中期

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
西半部					
27	11-000689	土師器碗体部	1	12	古墳時代前・中期
28	11-000690	土師器甕体部	2	10	古墳時代前・中期
29	31-000004	炭化物	少量		小片1点、細片4点以上
30	11-000557	土師器甕口径部	1	26	奈良・平安時代頃
31	11-000558	土師器甕体部	15	32	奈良・平安時代中心
32	11-000559	土師器坏口径部	4	10	奈良・平安時代中心
33	11-000560	土師器坏体～底部	41	111	奈良・平安時代中心
34	11-000561	土師器坏口径部(鬼高)	2	18	奈良・平安時代中心
35	11-000562	須恵器甕口径部	1	34	奈良・平安時代頃
36	11-000563	須恵器甕体部	8	196	奈良・平安時代中心
37	11-000564	須恵器甕体部(軟質)	1	9	平安時代か、軟質
38	11-000565	須恵器高台付碗口径部	2	15	平安時代
39	11-000566	須恵器高台付碗体～底部	12	56	平安時代
40	11-000567	灰釉陶器壺底部	1	12	平安時代
41	11-000568	灰釉陶器高台付碗	1	3	平安時代
42	11-000569	軟質陶器	1	11	中世
43	11-000570	陶器	7	48	
44	11-000571	磁器	3	34	
45	11-000686	土師器甕体部	6	33	古墳時代前・中期
46	11-000687	土師器壺体部	3	71	古墳時代前・中期
47	11-001295	土師器甕体部	2	95	

第27表 2区1面の出土遺物一覧(その2)

遺物一覧

2-2 2区2面の出土遺物

2-2-1号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000577	土師器坏口縁部	2	13	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000578	土師器坏体~底部	11	46	奈良・平安時代中心

2-2-2号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000579	土師器坏口縁部	2	8	奈良・平安時代中心
2	11-000580	土師器坏体~底部	1	3	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000711	土師器甕体部	10	78	古墳時代前・中期
4	11-000712	土師器壺体部	8	49	古墳時代前・中期

2-2-4号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000581	土師器坏体~底部	6	18	奈良・平安時代中心
1	11-000713	土師器甕口縁部	2	41	古墳時代前・中期
2	11-000714	土師器台付甕体部	4	17	古墳時代前・中期
3	11-000715	土師器台付甕脚部	2	11	古墳時代前・中期

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000716	土師器碗体部	2	6	古墳時代前・中期
5	11-000717	土師器台付甕口縁部	1	8	古墳時代前・中期
6	11-000718	土師器壺体部	3	17	古墳時代前・中期

2-2-5号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000719	土師器甕口縁部	2	22	古墳時代前・中期
2	11-000720	土師器甕体部	7	50	古墳時代前・中期
3	11-000721	土師器高坏脚部	2	13	古墳時代前・中期

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000722	土師器台付甕	3	18	古墳時代前・中期
5	11-000723	土師器甕体部	8	33	古墳時代前・中期

2-2-6号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000087	土師器坏	口径 12.2 器高 3.8	底面平底気味、体~口縁部湾曲。口縁横撫で、体~底部内面磨撫で、外面削り後体部撫で	8世紀前半	第99図	PL47

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000582	土師器坏口縁部	2	20	奈良・平安時代中心
3	11-000583	土師器坏体~底部	3	5	奈良・平安時代中心
4	11-000584	須恵器高台付碗体~底部	1	3	奈良・平安時代頃
5	11-000704	土師器台付甕口縁部	1	4	古墳時代前・中期
6	11-000705	土師器壺体部	8	78	古墳時代前・中期
7	11-000706	土師器台付甕脚部	1	7	古墳時代前・中期

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
8	11-000707	土師器坏口縁部	1	12	古墳時代前・中期
9	11-000708	土師器坏体部	3	15	古墳時代前・中期
10	11-000709	土師器埴口縁部	1	6	古墳時代前・中期
11	11-000710	土師器台付甕体部	3	22	古墳時代前・中期
12	11-000860	土師器坏口縁部	1	5	奈良・平安時代頃
13	11-000861	土師器坏底部	1	5	奈良・平安時代頃

2-2-7号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000088	土錘	径 1.6 長さ 3.9	中位が膨らみを持ち、中央縦位に4mm径の孔が穿たれる		第99図	PL47
2	20-000036	砥石	長 23.9 幅 13.2 厚 8.0	大型の自然礫を使用。表面2面、裏面2面、左側面1面、右側面1面以上の研磨面を有する。1.960g	二ツ岳軽石	第99図	PL47
3	20-000037	こもあみ石	長 12.9 幅 5.1 厚 5.1	河床礫を使用。中位に磨耗痕廻る。380g	ひん岩	第99図	PL47
4	20-000038	磨石	長 14.8 幅 5.2 厚 4.2	扁平な河床礫を使用。表面に研磨痕残る。660g	粗粒輝石安山岩	第99図	PL47
5	20-000039	敲石	長 14.8 幅 5.2 厚 4.2	棒状の河床礫使用。上下端部に敲打痕跡、表裏面に研磨痕残り、中位に磨耗痕廻る。580g	ひん岩	第99図	PL47

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-000585	土師器甕体部	12	52	奈良・平安時代中心
7	11-000586	土師器坏口縁部	3	10	奈良・平安時代中心
8	11-000587	土師器坏体~底部	19	32	奈良・平安時代中心
9	11-000588	須恵器甕体部	1	13	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
10	11-000589	須恵器高台付碗口縁部	12	74	平安時代
11	11-000590	須恵器高台付碗体~底部	18	156	平安時代
12	11-000731	土師器甕体部	6	26	古墳時代前・中期

第28表 2区2面の出土遺物一覧 (その1)

遺物一覧

2-2-10号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000591	土師器甕口縁部	1	8	奈良・平安時代頃
2	11-000592	土師器甕体部	3	54	奈良・平安時代中心
3	11-000732	土師器壺体部	2	22	古墳時代前・中期
4	11-000734	土師器埴口縁部	2	9	古墳時代前・中期

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-000735	土師器甕体部	5	45	古墳時代前・中期
6	11-000736	土師器壺体部	2	40	古墳時代前・中期
7	11-000737	土師器埴体部	1	9	古墳時代前・中期

2-2-11号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000733	土師器甕体部	1	5	古墳時代前・中期

2-2-15号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000718	土師器甕体部	2	17	古墳時代前・中期

2-2-12号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000089	須恵器高台付坏	口径 13.8 底径 10.6 器高 3.8	右回転轆轤整形。削出し高台。腰部丸みを帯び、口縁逆八字上に開く。甕起し後、底面左回りの回転調整し縁部撫で	8世紀前半	第101図	PL47

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000593	土師器甕口縁部	1	5	奈良・平安時代頃
3	11-000594	土師器坏体～底部	7	43	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000595	須恵器高台付碗口縁部	6	58	平安時代
5	11-000862	土師器坏口縁部	1	4	奈良・平安時代頃

2-2-16号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000596	土師器甕体部	1	4	奈良・平安時代頃
2	11-000597	須恵器高台付碗口縁部	1	5	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000863	土師器甕体部	2	16	奈良・平安時代中心

2-2-17号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000090	須恵器坏	口径 11.8 底径 6.0 器高 3.8	右回転轆轤整形。腰部屈曲し、口縁逆八字上に開く。底面に回転糸切り痕残る	9世紀前半	第99図	PL47

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000598	土師器甕体部	4	8	奈良・平安時代中心
3	11-000599	土師器坏体～底部	3	6	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000600	須恵器甕口縁部	2	33	奈良・平安時代中心
5	11-000601	須恵器高台付碗体～底部	96	424	平安時代

2-2-1号落ち込み

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000091	土師器高坏	最大径 17.7 残高 5.3	坏部2/3。表裏面カセる。器体開き、体・口縁間に稜を持つ。底部に凹形の脚の差込痕跡残る。口縁横撫で、体～底部内面磨撫で、外面磨削り。	5世紀後半	第103図	PL47
2	10-000092	土師器甕	口径 26.0 残高 16.3	口縁～胴部破片。口縁短く、体部やや張る。口縁横撫で。体部内面磨撫で、外面磨削り。	6世紀後半	第103図	PL47

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000719	土師器壺体部	1	17	古墳時代前・中期
4	11-000720	土師器壺底部	1	11	古墳時代前・中期

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-000741	土師器碗体部	1	9	古墳時代前・中期

2-2-C-03グリッド出土遺物

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000742	土師器台付甕体部	24	64	古墳時代前・中期

2-2-覆土

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001313	土師器高坏脚部	1	140	古墳時代中期
2	11-001314	土師器壺体部	9	150	古墳時代前・中期

第29表 2区2面の出土遺物一覧 (その2)

遺物一覧

2-2-遺構外の遺物

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-00040	打製石斧	長 8.4 幅 5.5 厚 0.9	分銅型。自然面を残す剥片を用いる。剥離調整は多くない。	黒色頁岩	第106図	PL48
2	20-00041	打製石斧	残存長 6.5 幅 6.4 厚 2.1	下半欠損。分銅型になるものと思われる。表裏両面共に剥離調整が施され、左右両側に裏面から細かい剥離調整を施している。	硬質泥岩	第106図	PL48
3	40-00002	耳環	径 2.2 厚 0.4	1/5欠損。銅製か。		第106図	PL48
4	10-00093	焜炉	最大径 28.4 残高 5.3	口縁部破片。珪藻土使用するが、あまり質は良くなく、粗造化進む。口縁部は開き、端部折り返す。	近世。上位面からの混り込みか	第106図	PL48
5	10-00094	土錘	長 3.7 径 1.3×1.3	中位膨らみ、縦位に径3×2.5mmの穿孔。外面磨き及び撫で調整		第106図	PL48

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
東半部中心					
6	11-000606	土師器甕口縁部	2	11	奈良・平安時代中心
7	11-000607	土師器甕体部	66	121	奈良・平安時代中心
8	11-000608	土師器甕口縁部	10	90	古墳時代後期
9	11-000609	土師器甕体部	13	228	古墳時代後期
10	11-000610	土師器甕底部	3	39	古墳時代後期
11	11-000611	土師器坏口縁部	51	226	奈良・平安時代中心
12	11-000612	土師器坏体～底部	174	573	奈良・平安時代中心
13	11-000613	土師器坏口縁部	5	36	古墳時代後期
14	11-000614	土師器高坏脚部	2	75	古墳時代後期
15	11-000615	土師器甌	2	29	古墳時代後期以降
16	11-000616	須恵器甕体部	2	なし	奈良・平安時代中心
17	11-000617	須恵器甕底部	7	97	奈良・平安時代中心
18	11-000618	須恵器甕体部	1	17	奈良・平安時代中心、軟質
19	11-000619	須恵器高台付碗口縁部	28	なし	奈良・平安時代中心
20	11-000620	須恵器蓋	3	37	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
西半部					
21	11-000602	土師器甕口縁部	1	18	奈良・平安時代頃
22	11-000603	土師器甕体部	9	14	奈良・平安時代中心
23	11-000604	土師器坏口縁部	5	15	奈良・平安時代中心
24	11-000605	土師器坏体～底部	5	11	奈良・平安時代中心
2面					
25	11-000745	土師器台付甕口縁部	11	44	古墳時代前・中期
26	11-000746	土師器甕体部	20	128	古墳時代前・中期
27	11-000747	土師器台付甕脚部	29	134	古墳時代前・中期
28	11-000748	土師器碗体部	10	79	古墳時代前・中期
29	11-000749	土師器甕口縁部	4	32	古墳時代前・中期
30	11-000740	土師器壺体部	61	620	古墳時代前・中期
31	11-000741	土師器高坏脚部	5	86	古墳時代前・中期
32	11-000742	土師器甕口縁部	6	113	古墳時代前・中期
33	11-000864	土師器甕体部	1	4	奈良・平安時代頃
34	11-001298	須恵器甕体部	1	14	
35	11-001299	須恵器碗口縁部	16	50	

2-3 2区3面の出土遺物

2-3-1号住居

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000095	土師器	口径 8.1 底径 2.6 器高 5.1	やや上げ底。体部楕円球形を成し、口縁短く外反。口縁横撫で、体～底部内面指撫で、外面刷毛目痕残る	5世紀前半	第109図	PL48
2	10-000096	土師器碗	口径 13.2 底径 4.4 器高 5.1	内外面赤色塗彩の痕跡。底面平底。体部丸く、口縁部内湾。口縁横撫で。体部内面磨撫で、外面刷毛目後撫で、底部内面撫で、外面磨調整	5世紀前半	第109図	PL48
3	10-000097	土師器甌	底径 9.2 残高 7.0	腰～底部片。腰部開き、平底の底面中央に径3.9cmの孔、その周囲に径1.2～1.5cmの孔が半周当たり5ヶ所穿たれる。内外面共に磨調整か	5世紀前半	第108図	PL48
4	10-000098	土師器甕	径 16.6 器高 17.4	口縁～胴部の1/2。体部丸みを帯び、口縁部外反。口縁横撫で、体部内面磨撫で、外面刷毛調整後撫で	5世紀前半	第108図	PL48

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2-3-1号住居に伴う遺物					
5	11-000795	土師器甕口縁部	9	121	古墳時代前・中期
6	11-000796	土師器甕体部	15	174	古墳時代前・中期
7	11-000797	土師器付口縁部	1	7	古墳時代前・中期
8	11-000798	土師器碗体部	5	13	古墳時代前・中期
9	11-000799	土師器壺体部	1	12	古墳時代前・中期
10	11-000800	土師器坏底部	3	12	古墳時代前・中期
11	11-000801	土師器高坏脚部	2	9	古墳時代前・中期
12	11-000802	土師器甕底部	1	25	古墳時代前・中期

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2-3-1号住居に伴う遺物					
13	11-000803	土師器壺底部	1	43	古墳時代前・中期
14	11-000804	土師器壺体部	18	426	古墳時代前・中期
西半部					
15	11-000572	土師器甕口縁部	1	27	奈良・平安時代頃
16	11-000573	土師器甕体部	2	6	奈良・平安時代中心
17	11-000574	土師器坏口縁部	2	14	奈良・平安時代中心
18	11-000575	土師器坏体～底部	1	16	奈良・平安時代頃
19	11-000576	土師器蓋	1	9	奈良・平安時代頃

第30表 2区2面の出土遺物一覧 (その3)
2区3面の出土遺物一覧 (その1)

2-3-旧河道

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00099	土師器器台	口径 8.6 裾部径 10.9 器高 8.3 孔径 1.0	表裏面カセる。裾部大きく開き、脚部やや膨らみを持ち、口縁部直線的に広がる。内面坏部撫で後磨き、脚部指撫で、外面撫で後磨き	4世紀後半	第118図	PL48
2	10-000100	土師器器台	口径 7.2 裾部径 11.6 器高 10.0 孔径 1.1	表裏面カセる。裾部開き、脚部やや膨らみ、坏部内湾。坏部内外面及び脚部外面撫で後磨き。脚部内面上位磨削り、中・下位指撫で	4世紀後半	第118図	PL49
3	10-000101	土師器高坏	裾部径 12.0 残高 10.5	脚部2/3。裾部外反し、脚部膨らみを持つ。内面上部部紋り、下半部横撫で、外面撫で後磨き	4世紀後半	第118図	PL49
4	10-000102	土師器高坏	口径 17.7 残高 6.1	坏部4/5。表裏面粗造化顕著。坏部部縁やかに屈曲し、口縁部直線的に開く。坏部下半に刷毛目痕残るが、他の箇所の整形痕は不明。	4世紀後半	第118図	PL49
5	10-000103	土師器高坏	口径 17.0 裾部径 12.8 器高 16.5~18.9	4/5。表裏面粗造化進み剥離も見られる。裾部屈曲して強く開き、脚部膨らむ。坏部部縁に屈曲し、口縁直線的に開く。脚部内面紋り、内面撫で	5世紀前半	第118図	PL49
6	10-000104	土師器高坏	口径 15.0 裾部径 11.2 器高 14.4	2/3。裾部屈曲して強く開き、脚部直線的、坏部直線的で屈曲に段を伴う。口縁・裾部横撫で、体部内外面撫で、脚部内面指撫で、外面磨き	5世紀前半	第118図	PL49
7	10-000105	土師器高坏	裾部径 11.4 残高 9.5	脚部。裾部屈曲して直線的に開き、脚部膨らみを持つ。裾部横撫で後外面磨き、規約部内面紋り後指撫で、外面磨き	5世紀前半	第118図	PL49
8	10-000106	土師器高坏	裾部径 12.6 残高 7.3	脚部の1/3。表裏面カセる。裾部屈曲して開き、脚部強く膨らむ。裾部表裏面撫で調整。脚部内面指撫で、外面撫で後磨き	5世紀後半	第118図	PL49
9	10-000107	土師器壺	口径 14.2 器高 6.7	1/3。表裏面粗造化顕著。底部欠損。体部丸く、口縁僅かに内湾。口縁横撫で、体部内面磨きで、外面撫で調整	5世紀後半	第118図	PL49
10	10-000108	土師器壺	口径 11.7 底径 4.3 器高 5.8	4/5。表裏面やや粗造化。内面吸炭による黒色処理。底面平底、体部丸く、口縁内湾。口縁内外面、内面撫で	5世紀後半	第118図	PL50
11	10-000109	土師器坏	口径 11.4 器高 4.0	1/4。内外面ややカセる。吸炭による黒色処理。内外面撫で調整	5世紀前半	第118図	PL49
12	10-000110	土師器埴	体部径 10.0 残高 3.8	口縁部欠損。半球状を呈する。外面粗造化進行。内面磨き	5世紀後半	第118図	PL50
13	10-000111	土師器埴	底径 2.4 残高 2.4	腰~底部1/2。底部平底、腰部湾曲する。内外面撫で調整	4世紀	第118図	PL50
14	10-000112	土師器小型甕	口径 14.0 底径 5.0 器高 9.4	一部欠損。内外面カセる。底面やや上げ底。体部球状を呈し、口縁部外反。体~底部内面磨きで、外面磨削り	5世紀前半	第118図	PL50
15	10-000113	土師器小型甕	口径 9.8 底径 3.7 器高 8.7	完形。外面及び内面口縁部カセる。底面平底、体部球形を成し、口縁部短く開く。口縁横撫で、体部外面磨きで、体~底部内面指撫で、底面磨削り	5世紀前半	第118図	PL50
16	10-000114	土師器小型甕	底径 2.8 残高 5.8	口縁~体部欠損。表裏面カセる。底部平底、体部球状を呈する。内面磨きで、外面撫で調整	5世紀前半	第118図	PL50
17	10-000115	土師器小型甕	口径 12.4 器高 7.4	2/3。体部表面と口縁部カセる。底~体部半球状をなし、体部で弱く屈曲し、口縁直線的に開く。体部内面磨きで、外面磨き	5世紀後半	第118図	PL50
18	10-000116	土師器埴	体部径 9.7 残高 2.7	口縁部過半欠損。内外面カセる。体~底部丸みを持ち、体部内面撫で、外面磨削り調整	4世紀後半	第119図	PL50
19	10-000117	土師器埴	体部径 9.7 底径 3.0 残高 6.8	口縁部欠損。表裏面カセる。楕円球形を呈する。体部内面指撫で、底面に紋り痕、体~底部外面磨削り後撫で調整	5世紀前半	第119図	PL50
20	10-000118	土師器小型甕	体部径 12.6 残高 7.1	体部片。楕円球形を呈する。内面輪積り痕残り指撫で、外面刷毛調整後撫で	4世紀後半	第119図	PL50
21	10-000119	土師器小型甕	口径 8.7 底径 3.0 器高 10.4	半完形。底面上げ底、体部球形を成し、口縁緩やかなS字状を呈する。口縁横撫で、体~底部内面磨きで、体部外面磨き、底面撫で調整	5世紀前半	第119図	PL50
22	10-000120	土師器小型甕	口径 11.0 残高 5.8	口縁~体部破片。表裏面粗造化進行。体部楕円球形を呈し、口縁短く外傾。外面磨きでか	5世紀後半	第119図	PL50
23	10-000121	土師器小型甕	体部径 13.3 底径 3.0 残高 7.6	体~底部1/2。ない外面カセる。底面上げ底、体部楕円球形をなす。体~底部内外面磨き	5世紀	第119図	PL50
24	10-000122	土師器小型甕	口径 13.0 底径 6.7 器高 11.3~12.5	ほぼ完形。表裏面カセる。底面平底、体部楕円球形をなし、口縁外反。口縁横撫で、体~底部内面磨きで、外面磨削り調整	5世紀前半	第119図	PL50
25	10-000123	土師器壺	口径 16.7 残高 4.6	口縁部破片。口縁外反し、口端部内傾、弱い窪みが廻る。横撫で	5世紀前半	第119図	PL50
26	10-000124	土師器壺	最大径 47.1 残高 11.6	表裏面カセる。楕円球形を呈する。内面磨きで、外面刷毛目痕残る	4~5世紀	第119図	PL51
27	10-000125	土師器台付甕	口径 13.6 胴部径 23.2 残高 15.3	口縁~体部1/3。体部球形、S字状口縁。口縁横撫で、体部内面磨きで、外面刷毛目	4世紀後半	第119図	PL51
28	10-000126	土師器台付甕	口径 13.6 最大径 23.2 残高 16.7	脚部欠損。残存部1/2。最大径上寄りにあり、口縁部S字状口縁。口縁横撫で、体部内面磨きで、外面刷毛目。底部内面指撫で	4世紀後半	第119図	PL51
29	10-000127	土師器台付甕	底径 10.2 残高 17.9	腰~脚部。腰部内面輪積り痕残り磨きで、底部内面掃る。腰部外面磨削り、脚部との接合部外面刷毛目。脚部内面指撫で、外面撫で	4世紀後半	第119図	PL51
30	10-000128	土師器台付甕	底径 9.6 残高 11.8	甕部腰~脚部。表裏面カセる。脚・甕腰部直線的。脚端部内面折り返し。甕内面磨きで、外面脚部上位にかけて刷毛目、内面天井部指撫で	4世紀後半	第119図	PL51
31	10-000129	土師器台付甕	口径 13.7 残高 4.1	甕口縁~肩部1/2。肩部開き、口縁部崩れたS字状口縁。口縁横撫で、肩部外面刷毛目、内面磨き	4世紀後半	第119図	PL51
32	10-000130	土師器台付甕	径 7.8 残高 7.2	甕底部付近~脚部片。脚部直線的で端部内面折り返し、甕腰部大きく開く。甕底部内面指撫で、外面脚・甕接合部に刷毛目、脚内面指撫で	4世紀(前半)	第119図	PL51
33	10-000131	土師器台付甕	底径 9.0 残高 5.6	甕底部付近~脚部片。脚部やや膨らみ、端部内面折り返し。甕底部内面指撫で、脚内面指撫で、外面上位に刷毛目、下位磨き様の撫で	4世紀(後半)	第119図	PL51
34	10-000132	土師器台付甕	底径 9.8 残高 6.6	脚部2/3。脚部やや含みを持ち、端部内面に折り返し。甕底部内面指撫で。脚部内面指撫で、外面上位に刷毛目、下位は丁寧な指撫で	4世紀(後半)	第119図	PL51
35	10-000133	土師器台付甕	口径 16.1 残高 5.2	甕口縁~肩部破片。肩部やや開き、口縁部やや崩れたS字状口縁。口縁横撫で、肩部内面指撫で、外面刷毛目	4世紀後半	第120図	PL51
36	10-000134	土師器台付甕	口径 12.0 残高 5.0	甕口縁~肩部1/2。肩部まで肩、崩れたS字状口縁。口縁横撫で、肩部内面磨きで、外面磨きでか	4世紀後半	第120図	PL52

第31表 2区3面の出土遺物一覧(その2)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
37	10-000135	土師器台付甕	底径 7.6 残高 8.8	甕腰部から脚部。表裏面カセる。腰部直線的、脚部影らみ端部内面折り返し。腰部外面磨き、脚部内面指撫で、外面磨き	4世紀後半	第120図	PL52
38	10-000136	土師器台付甕	底径 10.0 残高 14.4	甕腰-脚部。表裏面カセる。腰部直線的、脚部影らみ端部折り返し。甕部内面指撫でで底部刷毛目、外面磨き。脚部内面指撫で、外面磨き	4世紀後半	第120図	PL52
39	10-000137	土師器壺	底径 9.2 残高 10.0	腰部-底部。底面平底で高台状、体部球形をなす。腰部内面指撫で、外面磨き。底部外面指撫で、底面磨き	4世紀	第120図	PL52
40	10-000138	土師器甕	口径 19.3 底径 7.3 器高 32.4	部分的に欠損。底面やや上げ底、体部中位からやや上に最大径、口縁部外反。口縁部横撫で、体部内面輪積痕残り磨きで、外-底面磨き	5世紀後半	第120図	PL52
41	10-000139	土師器甕	口径 18.8 残高 6.8	口縁-肩部破片。表裏面カセる。なで肩で、口縁内湾気味に開く。口縁横撫で、肩部内面指撫で、外面磨き	5世紀後半	第120図	PL52
42	10-000140	土師器甕	口径 18.0 残高 13.9	口縁-肩部破片。体部内面下位カセる。体部最大径は中位にあると思われる。口縁部外傾。口縁横撫で、体部内外面磨き	5世紀前半	第120図	PL52
43	10-000141	土師器甕	口径 15.8 底径 7.9 器高 22.1	4/5。外面カセる。底面平底、体部中位に最大径、口縁部短く外反。口縁横撫で、口縁下位-腰部内外面刷毛目、底面磨き	4世紀後半	第120図	PL53
44	10-000142	土師器甕	口径 15.9 底径 7.7 器高 25.8	2/3。口縁部と体部外面カセる。底面平底。体部中位に最大径、口縁部外反。体-底部内面指撫で、体部外面磨き、底面磨き	5世紀前半	第120図	PL53
45	10-000143	土師器甕	口径 15.9 底径 7.7 器高 25.8	腰-底部片。内外面カセる。底面平底、腰部やや丸みを持つ。腰部内面指撫で、外面磨き、底面磨き	5世紀(後半)	第120図	PL53
46	10-000144	土師器甕	口径 21.7 底径 7.2 残高 14.0	上位4/5欠損。表裏面カセる。底面平底で径5.4cmの円形上の穿孔。体部内面指撫で、外面刷毛目、底面磨き	4世紀。壺・甕からの転用か	第121図	PL53
47	30-000005	着柄平鋏	長 59.0 幅 15.0 厚 2.3	先端-柄部1/2欠損。柁目材使用。9片に分かれる。ナスビ形を呈するが、ヘタ部分丸まる。刃先舌状を呈する。身の長さ51.4cm	ハンノキ属ヤシヤブシ節	第121図	PL55
48	30-000006	着柄平鋏	長 43.1 幅 9.7 厚 1.5	先端-左側縁欠損。柁目材使用。撥形を呈する。刃先舌状を呈する。身の長さ51.4cm、柄は長さ10.3cm、幅3.3cm	コナラ属クスギ節	第121図	PL53
49	30-000007	えぶり	長 117.0以上 幅 16.2 厚 2.0	上縁、左側縁部付近欠損。柁目材使用。上縁両端角削り落とす。背面中ほどに径4.6×2.6cm程の柄の装着痕が斜めに残る。	コナラ属クスギ節	第121図	PL54
50	30-000008	有頭柄	残長 8.7 幅 6.6 厚 1.5	先端片。板目材。頭部は径6.6×4.0cmの隅丸六角形。握り部幅4.2cm	コナラ属クスギ節	第121図	PL53
51	30-000009	横槌	長 52.2 幅 12.6 厚 12.0	槌部先端部等欠損。芯持材の削り出し。槌部蔽き痕残り、径12.8×11.6cm、長さ27.5cm以上。端部広がる柄部は径5.5cm以下、長さ26.1cm	アカガシ亜属	第121図	PL55
52	30-000010	杭	残長 43.3 径 3.8×1.8	1/2の割材使用。先端から長さ20.5cm、7.2cm、45.6cmの3片から残り、先端部も一部欠損。先端部両側から削り先端を作る	コナラ属クスギ節	第122図	PL56
53	30-000011	杭	残長 72.0 径 5.2×2.5	部分的に欠損。みかん割の割材使用。特段の加工痕なし	コナラ属クスギ節	第122図	PL56
54	30-000012	杭	残長 35.2 径 6.3×3.0	欠損品。割材使用。左縁側から削り先端を作る	コナラ属クスギ節	第122図	PL57
55	30-000013	杭	残長 30.4 径 3.4×3.3	両端欠損。割材使用。端部両側から削る	コナラ属クスギ節	第122図	PL58
56	30-000014	杭	残長 33.1 径 6.4×4.5	両端欠損。芯持材使用。両側から削り	コナラ属クスギ節	第122図	PL56
57	30-000015	杭	残長 47.8 径 4.0×3.9	上端側欠損。割材使用。下端を表面側から削り鬚状の先端を作る	コナラ属クスギ節	第123図	PL57
58	30-000016	杭	残長 17.4 径 4.4×1.3	両端欠損。割材使用。上端切られる。端部側縁から削る	コナラ属クスギ節	第123図	PL56
59	30-000017	杭	残長 99.3 径 6.9×5.1	完形に近い。柁目材使用。下端部一面で両側から削り先端を作る	カヤ	第123図	PL57
60	30-000018	杭	残長 88.5 径 8.5×4.4	上部欠損。柁目材使用。下端部を周囲から削り出して先端を作る	コナラ属クスギ節	第123図	PL59
61	30-000019	厚板材	長 16.7 径 10.0×5.0	柁目の端材。上位折れ、右上は崩れか。用途不明	コナラ属クスギ節	第123図	PL55
62	30-000020	角材	長 18.3 径 4.4×4.1	芯去材。左端切断され、右折れる。用途不明	コナラ属クスギ節	第123図	PL56
63	30-000021	厚板材	長 67.0 径 6.5×2.9	板目材。上位欠損。用途不明	コナラ属クスギ節	第124図	PL59
64	30-000022	薄板材	長 64.0 幅 11.2 厚 1.7	一部欠損。柁目材使用。一縁に幅2cm、奥行1.2cm程を標準とするほぞが4.5から13cm程の不定な間隔で掘り込まれている。用途不明	コナラ属	第124図	PL58
65	30-000023	薄板材	長 65.0 幅 8.5 厚 0.6	柁目材。欠損部多く小片分割し、粗造化進むが、均質な厚みを有する	アカガシ亜属	第124図	PL58
66	30-000024	割材	長 24.2 径 6.0×4.4	一部欠損。芯去材。断面三角を呈する端材	コナラ属クスギ節	第124図	PL58
67	30-000025	割材	長 55.2 径 10.2×4.5	節を有し不規則に割られている。断面三角を呈する	コナラ属クスギ節	第124図	PL58
68	20-000042	管玉	長 2.3 径 1.1	縦位に2分割された欠損品。幅2~3mmの孔が縦位に穿たれる	翡翠か	第124図	PL59
69	20-000043	管玉	長 1.9 径 0.5×0.5	完形品。縦位に径0.2mmの孔が穿たれる	翡翠か	第124図	PL59
70	20-000044	石鏃	長 6.0 幅 7.3 厚 1.1	完形品。軸の長い有茎鏃。表裏面より細かい剝離調整が施される	黒色頁岩か	第124図	PL59
71	20-000045	スクレーパー	長 3.5 幅 1.4 厚 0.5	剝片を用いる。刃部裏面より剝離調整	黒色頁岩	第124図	PL59
72	20-000106	磨石	長 18.0 幅 12.0 厚 7.1	河床礫使用。表面に研磨面残る	流紋岩	第125図	PL60
73	20-000107	こもあみ石	長 13.9 幅 5.5 厚 2.6	河床礫使用。中位に磨耗痕残り、表面に炭化物・灰様のもの付着	粗粒輝石安山岩	第125図	PL59
74	20-000108	台石	長 20.7 幅 14.1 厚 4.9	河床礫使用。表面の広い範囲に研磨面残る	粗粒輝石安山岩	第125図	PL60

第32表 2区3面の出土遺物一覧(その3)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
A-05グリッド出土遺物					
75	11-000835	土師器甕口縁部	1	15	古墳時代前・中期
76	11-000836	土師器甕体部	3	45	古墳時代前・中期
B-03グリッド出土遺物					
77	11-000837	土師器小型甕体部	1	5	古墳時代前・中期
B-04グリッド出土遺物					
78	11-000838	土師器甕体部	20	256	古墳時代前・中期
79	11-000839	土師器埴底部	1	11	古墳時代前・中期
C-03グリッド出土遺物					
80	11-000840	土師器甕口縁部	1	6	古墳時代前・中期
81	11-000841	土師器小型甕体部	1	7	古墳時代前・中期
82	11-000842	土師器台付甕	16	26	古墳前・中期、刷毛目無し
83	11-000843	土師器台付甕体部	33	80	古墳時代前期
84	11-000844	土師器台付甕脚部	2	21	古墳時代前期
85	11-000845	土師器埴口縁部	5	20	古墳時代前・中期
86	11-000846	土師器埴体部	3	8	古墳時代前・中期
C-05グリッド出土遺物					
87	11-000847	土師器甕口縁部	5	54	古墳時代前・中期
88	11-000848	土師器甕体部	29	69	古墳時代前・中期
89	11-000849	土師器埴口縁部	3	11	古墳時代前・中期
90	11-000850	土師器台付甕口縁部	6	17	古墳時代前期
91	11-000851	土師器台付甕体部	28	62	古墳時代前期
92	11-000852	土師器埴底部	2	7	古墳時代前・中期
93	11-000853	土師器台付甕脚部	1	7	古墳時代前期
94	11-000854	土師器碗口縁部	1	11	古墳時代前・中期
C-07グリッド出土遺物					
95	11-000855	土師器台付甕体部	2	5	古墳時代前期
D-01グリッド出土遺物					
96	11-000809	土師器甕口縁部	3	32	古墳時代前・中期
97	11-000810	土師器甕体部	21	57	古墳時代前・中期
98	11-000811	土師器台付甕体部	15	97	古墳時代前期
99	11-000812	土師器埴口縁部	4	30	古墳時代前・中期
100	11-000813	土師器埴体部	1	8	古墳時代前・中期
D-02グリッド出土遺物					
101	11-000856	土師器小型甕口縁部	1	8	古墳時代前・中期
102	11-000857	土師器小型甕体部	16	106	古墳時代前・中期
103	11-000858	土師器台付甕脚部	1	10	古墳時代前期
104	11-000859	土師器台付甕口縁部	1	12	古墳時代前期
D-05グリッド出土遺物					
105	11-000805	土師器台付甕口縁部	3	9	古墳時代前期
106	11-000806	土師器甕口縁部	1	27	古墳時代前・中期
107	11-000807	土師器台付甕体部	4	6	古墳時代前期、S字口縁
108	11-000808	土師器台付甕体部	3	11	古墳時代中期、刷毛目無し
F-02グリッド出土遺物					
109	11-000814	土師器甕底部	1	48	古墳時代前・中期

2-3-As-C層上位層出土遺物

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000776	土師器埴底部	3	17	古墳時代前・中期

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
F-03グリッド出土遺物					
110	11-000796	土師器台付甕体部	5	69	古墳時代前期
111	11-000797	土師器埴口縁部	1	13	古墳時代前・中期
112	11-000798	土師器甕体部	3	26	古墳時代前・中期
F-04グリッド出土遺物					
113	11-000799	土師器甕体部	15	33	古墳時代前・中期
114	11-000800	土師器埴底部	2	6	古墳時代前・中期
115	11-000801	土師器台付甕体部	7	16	古墳時代前期
F-06グリッド出土遺物					
116	11-000821	土師器台付甕口縁部	1	14	古墳時代前期、S字口縁
117	11-000822	土師器台付甕体部	13	35	古墳時代前期
118	11-000823	土師器埴体部	5	13	古墳時代前・中期
119	11-000824	土師器甕口縁部	5	85	古墳時代前・中期
120	11-000825	土師器台付甕	25	64	古墳前期、刷毛目無し
121	11-000826	土師器甕体部	16	86	古墳時代前・中期
122	11-000827	土師器台付甕底部	4	69	古墳時代前期
123	11-000828	土師器甕体部	1	175	古墳時代前・中期
F-07グリッド出土遺物					
124	11-000829	土師器台付甕口縁部	1	9	古墳時代前期、S字口縁
125	11-000830	土師器甕体部	22	170	古墳時代前・中期
126	11-000831	土師器埴底部	7	51	古墳時代前・中期
127	11-000832	土師器碗口縁部	2	26	古墳時代前・中期
128	11-000833	土師器甕底部	1	14	古墳時代前・中期
F-08グリッド出土遺物					
129	11-000834	土師器台付甕か	6	8	古墳時代前期か
F-10グリッド出土遺物					
130	11-000782	土師器甕体部	3	29	古墳時代前・中期
G-05グリッド出土遺物					
131	11-000783	土師器台付甕口縁部	2	28	古墳時代前期、S字口縁
132	11-000784	土師器小型甕体部	1	7	古墳時代前・中期
133	11-000785	土師器甕底部	1	34	古墳時代前・中期
134	11-000786	土師器埴底部	1	10	古墳時代前・中期
135	11-000787	土師器甕体部	1	5	古墳時代前・中期
136	11-000788	土師器高坏坏部	1	56	古墳時代前・中期
137	11-000789	土師器台付甕体部	4	14	古墳時代前・中期
138	11-000790	土師器台付甕体部	10	9	古墳時代前期、S字口縁
G-287グリッド出土遺物					
139	11-000791	土師器台付甕口縁部	1	13	古墳時代前期
H-08グリッド出土遺物					
141	11-000793	土師器甕体部	1	8	古墳時代前・中期
142	11-000794	土師器甕底部	1	54	古墳時代前・中期
C-03グリッド出土遺物					
143	11-001304	土師器甕体部	17	103	

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000628	土師器坏体～底部	1	5	古墳時代か

第33表 2区3面の出土遺物一覧(その4)

遺物一覧

2-3-3面遺構外の出土遺物

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000629	土師器埴底部	2	11	
2	11-000621	土師器甕底部	7	20	
3	11-000622	土師器甕底部	10	31	
4	11-000623	土師器甕体～底部	7	31	
5	11-000624	土師器坏体～底部	31	56	
6	11-000625	土師器高坏坏部	3	60	
7	11-000626	土師器高坏脚部	11	780	
8	11-000627	須恵器高台付碗口縁部	1	3	平安時代、流れ込みか
9	11-000753	土師器台付甕口縁部	48	334	古墳時代前期、S字口縁
10	11-000754	土師器台付甕体部	451	1612	古墳時代前期、S字口縁
11	11-000755	土師器台付甕脚部	24	501	古墳時代前期
12	11-000756	土師器甕口縁部	2	30	古墳時代前・中期
13	11-000757	土師器甕体部	9	51	古墳時代前・中期
14	11-000758	土師器小型壺口縁部	4	22	古墳時代前・中期
15	11-000759	土師器小型甕	2	24	古墳前・中期、黒漆塗布
16	11-000760	土師器小型甕体部	87	228	古墳時代前・中期
17	11-000761	土師器小型甕口縁部	15	49	古墳時代前・中期
18	11-000762	土師器甕体部	29	203	古墳前・中期、被熱痕有

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
19	11-000763	土師器碗口縁部	19	167	古墳時代前・中期
20	11-000764	土師器台付甕～脚部	1	66	古墳時代前期
21	11-000765	土師器台付甕口縁部	16	156	古墳時代前期
22	11-000766	土師器台付甕体部	466	846	古墳時代中期、刷毛目無
23	11-000767	土師器甕底部	11	267	古墳時代前・中期
24	11-000768	土師器埴口縁部	23	149	古墳時代前・中期
25	11-000769	土師器台付甕体部	108	304	古墳時代前期
26	11-000770	土師器坏体部	1	7	古墳時代前・中期
27	11-000771	土師器壺頸部	10	226	古墳時代前・中期
28	11-000772	土師器碗体部	21	156	古墳時代前・中期
29	11-000773	土師器壺体部	9	233	古墳時代前・中期
30	11-000774	土師器埴体部	7	120	古墳時代前・中期
31	11-000775	土師器壺底部	3	377	古墳時代前・中期
32	11-000779	土師器甕口縁部	13	271	古墳時代前・中期
33	11-000780	土師器甕体部	514	3612	古墳時代前・中期
34	11-000781	土師器壺体部	16	2126	古墳時代前・中期
35	11-000777	土師器甕体部	87	157	古墳前・中期、被熱痕有
36	11-000778	土師器甕体部	134	275	古墳時代前・中期

2-3面

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001315	土師器台付甕体部	2	420	古墳時代前期
2	11-001316	土師器台付甕体部	2	100	古墳時代前期

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001317	土師器壺体部	2	700	古墳時代前・中期
4	11-001318	土師器甕体部	1	235	古墳時代前・中期

2-4 調査面に拘らない遺物

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000743	土師器壺体部	3	32	古墳時代前・中期
2	11-000744	土師器碗体部	1	5	古墳時代前・中期

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000865	須恵器高台付碗	1	34	平安時代

第34表 2区3面の出土遺物一覧(その5)
2区の調査面に拘らない出土遺物

3 区の出土遺物

3-1 3 区 1 面の出土遺物

3-1-1号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000145	磁器碗	口径 1.0 器高 5.3	1/4. 底径3.9cm。印判の染付けで百人一首札面等描く	地不明、近代	第127図	PL79
2	10-000146	陶器碗	口径 10.8 残高 5.0	口縁1/3の破片。内外面鉄軸掛かる	地不明、近・現代	第127図	PL79
3	10-000147	陶器碗	底径 4.6 残高 3.7	腰部～高台片。内外面施軸。貫入あり	瀬戸美濃、時期不詳	第127図	PL79
4	10-000148	ひょうそく	口径 8.2 器高 5.1	ほぼ完形。右回転軸整形。脚を有し、底面回転系切痕残る。内側縁端部と底面除き灰軸で施軸	信楽?、19世紀	第127図	PL79
5	10-000149	芥子面	幅 3.0 高さ 4.7 厚 2.7	芥子面(指人形)。型起し。後頭部、頸下部欠損。焼の甘い素焼き。狐の芥子面で鼻欠け、背面の内側に指撫で、端部に後頭部の剝離痕残る	地不明、江戸～近代	第127図	PL79
6	10-000150	播鉢	底径 15.5 残高 9.6	体～底部片。底部内面磨耗。体部外面施軸。底面上底。体部内面全体に摺目	益子、近・現代	第127図	PL79
7	10-000151	焼締陶器甕	径 18.0×5.5 厚 1.0	口縁破片。端部口縁本体に付くが、上下に引き出される	知多、13世紀中葉～後葉	第127図	PL79
8	10-000152	焼締陶器甕	径 10.5×9.9 厚 1.4	体部破片。表面に叩き痕残る	渥美、12世紀	第127図	PL79
9	10-000153	焼締陶器甕	径 8.7×5.2 厚 1.3	体部破片。表面に自然軸掛かり、縄目痕、線刻残る	渥美、12世紀	第127図	PL79
10	10-000154	陶器甕	肩部径 34.0 残高 15.7	肩～体部片。表面に鉄軸。肩部表面に方形のトチン跡残る	知多、近・現代	第127図	PL79
11	10-000155	植木鉢	底径 9.6 残高 8.7	体～底部片。孔径1.8cm。焼悪く、体部撫で調整、底面脆削り	在地、近・現代	第127図	PL79
12	10-000156	ほうろく鍋	径 12.7×6.0 厚 1.0	丸底系統の焙烙、口縁から腰部片。口縁内湾し、底面平底。	在地、近・現代	第127図	PL79
13	10-000157	ほうろく鍋	径 13.3×5.4 厚 1.1	平底系統の焙烙、口縁～底部片。耳貼付け。口縁直立し、底面平底	在地、幕末～近代	第127図	PL79
14	10-000158	釜輪	幅 3.4 厚 3.5	破片。輪の中央に凹部廻り、両側の縁部1cmの段差を有し、裏面平ら	在地系土器、江戸～近・現代	第128図	PL79
15	10-000159	釜輪	幅 4.2 厚 2.7以上	破片。輪の中央に凹部廻り、両側の縁部段差を有する。裏面平ら	在地系土器、江戸～近・現代	第128図	PL79
16	90-000001	ガラス瓶	口径 1.7 器高 12.0	完形品。無色ガラス。本体径7.3×3.4cmの角形。器厚2～7.5mm。型跡残り、底面に「9」と「○」の刻印	近代	第128図	PL80
17	90-000002	ガラス瓶	口径 1.6 器高 11.5	完形品。無色ガラス。型跡残り円柱状容器。体側に隆帯の目盛7ヶ所。目盛りしたにと下に隆帯の刻印	近代	第128図	PL80
18	90-000003	ガラス瓶	口径 1.5 器高 6.3	一部欠損。無色ガラス。径2.4cmの角柱状。角部に型跡。表面に「岸田吟香製」、裏面に「東京銀座」、底面に「A」の刻印	近代、目薬容器	第128図	PL80
19	90-000004	ガラス瓶	口径 1.2 器高 7.2	完形品。青透過ガラス。上下口縁にネジ目。本体2.5×1.8cmの角形。点眼部径1.2mm。表面上位に「Toho」の刻印	近・現代、目薬容器	第128図	PL80
20	90-000005	ガラス瓶	口径 1.8 器高 6.3	完形品。無色ガラス。底径2.3cm。ガラス内に気泡見え型跡残る	近代	第128図	PL80
21	90-000006	ガラス瓶	底径 1.7 残高 5.0	口端部欠損。とっくり形の無色ガラス製品。ガラス内に気泡残り、裏面に丸「ク」の刻印。型跡残る	近代	第128図	PL80
22	90-000007	ガラス瓶	口径 2.7 器高 1.7	完形品。非透過白ガラス。口縁にネジ目。内面丸く、器面滑らか	近・現代、クリーム容器	第128図	PL80
23	90-000008	いしけり	径 4.4×4.3 厚 0.8	完形品。濃緑色ガラス。ガラス内に大小の気泡多く、裏面ざらつき、直線的型跡残り、表面に引き離し痕残る	近代か	第128図	PL80
24	20-000046	砥石	残長 3.4 幅 2.9 厚 1.2	板状の加工品。破片。表裏・左右の4面に研磨痕、及び一部削痕残る		第128図	PL80
25	20-000047	砥石	残長 6.7 幅 2.6 厚 2.3	各柱状の加工品。上下欠損。左右側・裏面に加工の削り痕残り、表面に研磨痕、削痕残る		第128図	PL81
26	20-000048	砥石	長 21.1 幅 5.7 厚 2.9	板状の加工品。表裏・左右側の4面に研磨痕。表裏中央窪む	近・現代	第128図	PL80
27	20-000049	砥石	残長 6.5 幅 2.8 厚 2.6	各柱状の加工品。端部片。左右側・表裏の4面に研磨痕		第128図	PL81
28	20-000050	砥石	残長 3.2 幅 3.7 厚 1.6	板状加工品の先端片。表裏・一側面に研磨痕。一側面に加工削痕残る		第129図	PL80
29	20-000051	石板	残存 10.9×3.8 厚 0.4	破片。表裏面に数字、縦横線刻まれる	近代	第129図	PL81
30	20-000052	石板	残存 7.7×3.7 厚 0.4	破片。表面に数字と縦横線、裏面に縦横線刻まれる	近代	第129図	PL81
31	20-000053	石板	残存 3.5×2.6 厚 0.4	破片。石材の剝離痕残る	近代	第129図	PL81
32	20-000054	七輪	径 23程度	破片断片あり。珪藻土。上位に1.3cmの穿孔。整形の削痕残る	近代	第129図	PL83
33	30-000026	桶蓋	径 12.3 厚 1.1	1/3。板目材使用。偏った位置に径2.5cmの孔が穿たれる	スギ	第129図	PL81
34	30-000027	曲物底板	径 11.2×10.8 厚 0.7	一部欠損。板目材使用。側面にホソ穴あり、木釘詰まる	マツ属か	第129図	PL81
35	30-000028	曲物底板	残存 13.0×3.6 厚 0.5	破片。板目材使用。縁辺若干盛り上がる	樹種不特定	第129図	PL81
36	30-000029	漆碗	径 10.8 器高 3.2	1/3。内外面黒漆塗布後、内面赤漆塗布	樹種不特定	第130図	PL82
37	30-000030	漆碗	径 10.8 器高 3.2	口縁部・高台欠損。内外面黒漆塗布後、内面赤漆塗布	ブナ属か	第130図	PL82
38	30-000031	漆碗	残存 10.1 残高 2.5	口縁部欠損。内外面黒漆塗布後、内面赤漆塗布。底面に赤漆で山「万」	ブナ属	第130図	PL82
39	30-000032	漆碗	残存 8.5 残高 3.5	腰部～高台1/2。内外面黒漆塗布	ブナ属か	第130図	PL82
40	30-000033	漆碗	残存 8.9 残高 6.4	胴～腰部片。外面黒漆塗布後、種漆で丸に枝片喰紋か	ブナ属か	第130図	PL82
41	30-000034	漆碗	残 10.0×4.5	腰部片。内面赤漆塗布、外面黒漆塗布後赤漆で紅葉等描く	ブナ属	第130図	PL82
42	30-000035	漆碗	残 8.3×3.2	腰部片。内外面赤漆塗	樹種不特定	第130図	PL82
43	30-000036	杭	径 3.8×3.7 残長 26.0	芯持材使用。下端を削り先端を作り出す	コナラ属コナラ節	第130図	PL83
44	30-000037	杭	残 6.0×4.3 残長 30.5	尖端部欠損。芯持材使用。上端部切筋。側面は刃傷散見	ハンノキ属ハンノキ節	第131図	PL83

第35表 3 区 1 面の出土遺物一覧 (その1)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
45	30-00038	用途不明木製品	残長 39.9 幅 7.6 厚 2.0	両側端部欠損。柱目材使用。片側側縁に3.0cm×8mm以下の 抉れ、中央やや反対側縁寄りに径3×2.5cmの楕円形孔が6 ～6.5cm間隔で作られる	ヒノキ	第131図	PL84
46	40-00003	寛永通寶	径 2.12×2.12 厚 0.12	新寛永1文銭。背無文		第131図	PL85
47	40-00004	寛永通寶	径 2.82×2.82 厚 0.15	新寛永4文銭。背十一波。		第131図	PL86
48	40-00005	釘	径 0.7×0.6 残長 15.7	角釘片。頭側欠損か		第131図	PL83

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
49	11-000852	土師器壺口縁部	1	13	奈良・平安時代頃	75	11-001089	陶器か	1	231	
50	11-000900	土師器杯口縁部	1	6	奈良・平安時代頃	76	11-001090	施釉陶器口縁部	1	17	在地、近代
51	11-000901	土師器碗体～底部	1	11	奈良・平安時代頃	77	11-001091	施釉陶器鉢体部	1	44	在地、近代
52	11-000902	軟質陶器	3	24	在地	78	11-001092	陶器碗口縁部	4	39	肥前、近世以降
53	11-000903	陶器	4	49		79	11-001093	陶器碗体部	3	34	肥前、近世以降
54	11-001068	瓦	8	1565	近・現代	80	11-001094	陶器碗体部	1	23	瀬戸美濃近世以降
55	11-001069	スレート瓦	1	88	近・現代	81	11-001095	陶器皿底部	2	68	瀬戸美濃近世以降
56	11-001070	軟質陶器壺口縁部	2	733	在地近代	82	11-001096	陶器袋物か筒底部	1	49	瀬戸美濃近世以降
57	11-001071	軟質陶器壺体部	1	93	在地近代	83	11-001097	ひょう燭底部	1	57	瀬戸美濃近世以降
58	11-001072	軟質陶器壺底部	1	19	常滑	84	11-001098	焼締陶器壺体部	13	898	常滑
59	11-001073	軟質陶器焙烙体部	11	179	在地、近代	85	11-001099	焼締陶器体部	1	19	渥美か
60	11-001074	軟質陶器焙烙口縁部	13	497	在地、近代	86	11-001100	陶器碗口縁部	2	34	地不明、近代
61	11-001075	軟質陶器焙烙底部	6	196	在地、近代	87	11-001101	陶器碗体部	1	9	地不明、近代
62	11-001076	軟質陶器釜輪口縁部	1	63	在地、近代	88	11-001102	陶器鉢体部	1	19	地不明、近代
63	11-001077	軟質陶器香炉口～底部	1	73	在地、近代	89	11-001103	磁器碗口縁部	2	19	肥前、近世以降
64	11-001078	軟質陶器火鉢台	1	116	中世	90	11-001104	磁器碗体部	1	9	肥前、近世以降
65	11-001079	軟質陶器火鉢口縁部	1	30	在地、近代	91	11-001105	磁器碗底部	5	81	肥前、近世以降
66	11-001080	軟質陶器火鉢体部	3	391	在地、近代	92	11-001106	磁器鉢口縁部	2	23	肥前、近世以降
67	11-001081	軟質陶器摺り鉢体部	2	65	在地、近代	93	11-001107	磁器碗口～底部	6	163	地不明、近代
68	11-001082	軟質陶器摺り鉢体部	1	177	常滑	94	11-001108	磁器碗体部	1	3	地不明、近代
69	11-001083	軟質陶器摺り鉢体部	1	46	益子	95	11-001109	須恵器壺口縁部	2	193	奈良・平安時代中心
70	11-001084	軟質陶器手あぶり口縁部	2	314	在地、近代	96	11-001110	須恵器壺体部	10	539	奈良・平安時代中心
71	11-001085	軟質陶器手あぶり体部	1	170	在地、近代	97	11-001111	磁器碗口縁部	4	31	肥前、近世以降
72	11-001086	軟質陶器壺口縁部	8	1333	在地、近代	98	11-001112	磁器碗体部	6	31	肥前、近世以降
73	11-001087	軟質陶器壺体部	5	709	在地、近代	99	11-001113	磁器蓋口縁部	1	3	肥前、近世以降
74	11-001088	軟質陶器茶器体部	1	25	地不明近代						

3-1-池

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000160	磁器碗	口径 10.7 器高 5.0	2/3。底径3.9cm。印判の染付けで鶴亀、花等描く	瀬戸美濃、近代	第132図	PL84
2	10-000161	磁器碗	口径 10.8 残高 5.0	1/2。内外面軸掛かり、染付けですすき(か)等描く	瀬戸美濃、19世紀 中葉～後葉	第132図	PL84
3	10-000162	磁器碗	底径 4.6 残高 3.7	口縁から腰部片。内外面軸掛かり、外面に染付けで松等描く	長崎、波佐見、18 世紀前葉～中葉	第132図	PL84
4	10-000163	陶器碗	底径 5.4 残高 4.8	体部～高台1/2。浅黄色。高台除き施釉。釉に貫入	肥前、17世紀後葉 ～18世紀初頭	第132図	PL85
5	10-000164	磁器碗	底径 4.2 残高 4.5	体部～高台片。外面染付けで牡丹(か)等描く	長崎、波佐見、18 世紀前葉～中葉	第132図	PL84
6	10-000165	陶器碗	口径 7.6 器高 4.6	口縁一部欠損。内面～外面口縁緑灰色、体部～高台外面、 縮様の鉄釉	地不明、近・現代	第132図	PL84
7	10-000166	磁器碗	底径 3.3 残高 3.3	体部から高台部。腰～底部・高台外面を除き無色施釉	瀬戸美濃、18世紀 後葉	第132図	PL84
8	10-000167	磁器そばちょこ	口径 6.2 残高 4.5	口縁～腰部片。外面に染付けで施文	瀬戸美濃、19世紀 前葉～中葉	第132図	PL85
9	10-000168	磁器蓋	口径 10.1 器高 2.4	1/3。外面全体に野ぶどう(か)の葉が染付けで描かれる	肥前、18世紀末～ 19世紀前葉	第132図	PL85
10	10-000169	磁器皿	口径 9.0 器高 2.4	1/2。内面のはぜ等、内外面に染め付け	肥前、18世紀中葉	第132図	PL85
11	10-000170	磁器皿	底径 5.4 残高 2.0	腰～底部片。内面に染付け。焼き継ぎあり、高台内焼き継 ぎ時の記号。	肥前、18世紀後葉	第132図	PL85
12	10-000171	陶器皿	口径 10.2 残高 2.2	口縁～底部破片。内面のみ施釉。オリーブ灰色	地不明、19世紀	第132図	PL85
13	10-000172	陶器摺鉢	底径 11.4 残高 9.0	腰～底部片。使用痕残る。内面灰色で全体に卸し目、外面 赤褐色	信楽?、江戸	第132図	PL85
14	10-000173	陶器摺鉢	口径 38.8 底径 14.8 器高 13.1	1/4。口縁撫で。体部外面下半指押え。体部内面卸し目充墳。 低部内面同心円上及び一方への卸し目。底面磨削り。	丹波、18世紀前葉 ～中葉	第132図	PL85
15	10-000174	陶器鉢	残存径 5.9×4.1 厚 0.9	口縁破片。釉無し。撫で調整	知多、13世紀	第132図	PL85

第36表 3区1面の出土遺物一覧(その2)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
16	10-000175	陶器鉢	残存径 7.2×5.5 厚 1.7	腰部破片。撫で調整。内面研磨痕	渥美、12世紀	第132図	PL85
17	10-000176	陶器鉢	残存径 6.9×4.4 厚 1.1	体部破片。撫で調整。内面研磨痕	渥美、12世紀	第132図	PL85
18	10-000177	陶器鉢	残存径 7.2×4.5 厚 1.6	腰部破片。撫で調整。内面研磨痕	知多窯、13世紀	第133図	PL85
19	10-000178	焼締陶器甕	残存 10.6×6.6 厚 1.4	腰部破片。撫で調整。内面指頭痕残る	知多?、12~13世紀	第133図	PL85
20	10-000179	陶器甕	残存 9.0×12.0 厚 1.0	型部破片。酸化焰焼成。内面撫で調整。外面同心円・格子押印残る	地不明、近・現代	第133図	PL85
21	10-000180	甕	残存 20.5×9.3 厚 1.7	上縁部破片。酸化焰焼成。内面~上縁吸炭。撫で調整	地不明、近・現代	第133図	PL86
22	10-000181	ほうろく鍋	残存幅 13.8 残高 1.3	口縁~底部破片。丸底型だが底面平坦。酸化焰焼成	在地、近・現代	第133図	PL86
23	10-000182	陶器大とっくり	口径 4.4 残高 9.4	口縁~肩部。口縁外面~内面上位鉄釉、外面肩部灰釉	地不明、近代	第133図	PL85
24	90-000009	ガラス瓶	口径 2.0 器高 5.9	完形品。無色ガラス。口縁ネジ。外面に隆線の「みづほ染料」と目盛り線	近・現代	第133図	PL86
25	90-000010	ガラス瓶	口径 1.8 器高 5.9	完形品。無色ガラス。口縁ネジ。外面に隆線の「みづほ染料」と目盛り線	近・現代	第133図	PL86
26	90-000011	ガラス瓶	口径 1.3 器高 6.4	完形品。丸ピン。気泡の覆い緑色透過ガラス使用。型跡残す	近代	第133図	PL86
27	90-000012	ガラス瓶	口径 1.5 器高 6.2	完形品。丸ピン。透明ガラス。若干の気泡入る。型跡残る	近代	第133図	PL86
28	90-000013	ガラス瓶	口径 2.7 器高 1.7	完形品。一縁欠く透明方形ピン。表面に「コカイ 赤」、底面に「一」の隆線	近代	第133図	PL86
29	90-000014	おはじき	径 1.7×1.65 厚 0.2	完形品。不透明の白色・空色ガラス使用。裏面に隆線で「ヨキの手」	近・現代	第133図	PL86
30	90-000015	ビー玉	径1.56×1.62×1.68	完形品。気泡入る濃青緑色透過ガラス使用。上下に引かれる	近代	第133図	PL86
31	40-000006	鎌	長 14.6 幅 2.7 厚 0.2	完形に近い。刃直線的で先端曲がる。柄U字形をなす		第133図	PL86
32	40-000007	すのこ	残存 7.3×5.4 厚 0.9	破片。径9~1.3cmの円孔が不規則に多数穿たれる	近代か	第133図	PL86
33	40-000008	きせる	長 20.9 径 1.0×1.0	雁首・らう・吸口が一体の鉄製品。全体に直線的	18世紀後半	第134図	PL86
34	40-000009	きせる(吸口)	長 7.2 径 1.05×1.06	吸口のみ。補強帯無し	18世紀後半	第134図	PL87
35	40-000010	きせる(吸口)	長 6.6 径 0.8×0.8	吸口のみ。補強帯無し	18世紀後半	第134図	PL87
36	40-000011	用途不明鉄製品	残長 9.8 幅 1.4 厚 0.5	湾曲する幅狭の薄板。鎌の可能性有り		第134図	PL86
37	40-000012	蹄鉄	長 10.0 幅 10.0 厚 0.4	馬蹄形を呈し、左右に4箇所づつの釘穴が穿たれる	近代か	第134図	PL86

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
38	11-001025	軟質陶器甕口縁部	9	1441	在地、近代
39	11-001026	軟質陶器甕体部	1	69	在地、近代
40	11-001027	軟質陶器焙烙口縁部	13	536	在地、近代
41	11-001028	軟質陶器焙烙体部	8	207	在地、近代
42	11-001024	軟質陶器焙烙底部	6	255	在地、近代
43	11-001025	軟質陶器火鉢口縁部	3	169	在地、近代
44	11-001026	軟質陶器火鉢体部	8	711	在地、近代
45	11-001027	軟質陶器火鉢底部	1	29	在地、近代
46	11-001028	軟質陶器火桶口縁部	4	183	在地、近代
47	11-001029	軟質陶器火桶体部	3	79	在地、近代
48	11-001030	軟質陶器甕口縁部	1	89	在地、近代
49	11-001031	軟質陶器甕底部	2	79	在地、近代
50	11-001032	軟質陶器鉢口縁部	1	35	在地、近代
51	11-001033	軟質陶器摺り鉢体部	1	58	在地、近代
52	11-001034	軟質陶器香炉底部	1	32	在地、近代
53	11-001035	軟質陶器コンロ	3	194	在地、近代
54	11-001036	軟質陶器土管体部	2	71	在地、近代
55	11-001037	軟質陶器瓦	1	758	在地、近代
56	11-001038	石盤か	1	7	近代
57	11-001039	施釉陶器甕体部	1	40	在地、近代
58	11-001040	軟質陶器摺り鉢口縁部	1	72	丹波
59	11-001041	軟質陶器摺り鉢体部	1	29	丹波
60	11-001042	施釉陶器体部	2	135	常滑、中世
61	11-001043	焼締陶器体~底部	1	164	常滑
62	11-001044	焼締陶器体部	2	26	常滑
63	11-001045	焼締陶器摺り鉢体部	1	45	常滑、中世

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
64	11-001046	焼締陶器摺り鉢底部	1	135	常滑、中世
65	11-001047	焼締陶器甕体部	12	1021	常滑、中世
66	11-001048	陶器碗口縁部	3	31	瀬戸美濃
67	11-001049	陶器碗底部	5	318	瀬戸美濃
68	11-001050	陶器摺り鉢口縁部	1	66	瀬戸美濃
69	11-001051	陶器摺り鉢底部	1	119	瀬戸美濃
70	11-001052	陶器香炉底部	1	21	瀬戸美濃
71	11-001053	陶器体部	1	15	瀬戸美濃
72	11-001054	陶器皿体部	2	33	地不明、近代
73	11-001055	陶器急須蓋	1	6	地不明、近代
74	11-001056	陶器急須体部	3	43	地不明、近代
75	11-001057	磁器碗口縁部	3	19	肥前
76	11-001058	磁器碗体部	3	40	肥前
77	11-001059	磁器碗底部	13	530	肥前
78	11-001060	磁器蕎麦猪口底部	1	14	肥前
79	11-001061	磁器碗口縁部	10	131	地不明、近代
80	11-001062	磁器碗体部	7	63	地不明、近代
81	11-001063	磁器碗底部	4	59	地不明、近代
82	11-001064	磁器人形	3	35	破片
83	11-001065	須恵器甕体部	5	258	
84	11-001066	須恵器高台付碗底部	1	80	
85	11-001067	須恵器瓶体部か	3	46	
86	11-001382	陶器碗底部	1	61	瀬戸美濃
87	11-001383	磁器碗口縁部	1	7	瀬戸美濃
88	21-000011	七輪	3	410	1号溝 20-000054参照
89	31-000006	炭化物	少量		細片4点以上

第37表 3区1面の出土遺物一覧(その3)

遺物一覧

3-1-2号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-00183	焼締陶器甕	残存 19.6×15.7 厚 1.3	肩部片。外面自然軸掛かり、格子目叩き、内面輪積み痕残り寛撫で	知多、12～13世紀	第134図	PL87
2	10-00184	焼締陶器甕	残存 4.5×3.1 厚 1.1		知多、13世紀前葉～中葉	第134図	PL87
3	10-00185	焼締陶器甕	残存 7.9×10.5 厚 0.9	口縁部破片。内傾して外に引き出され、口端部上下に引き出される	知多、13世紀中葉～後葉	第134図	PL87
4	20-00055	打製石斧	残長 14.2 幅 7.5 厚 2.3	分銅型。上部部欠損。裏面に自然面残し、手に裏面から剥離調整		第134図	PL87
5	20-00109	敲石	残存 7.9×6.9 厚 2.9	1/2。河床礫を用いる。内湾した側縁に敲打痕残る	時期不明	第134図	PL87
6	20-00110	スクレーパー	長 5.3 幅 10.3 厚 1.2	1/2。河床礫を用いる。内湾した側縁に敲打痕残る	時期不明	第134図	PL87

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-001202	焼締陶器甕体部	7	493	常滑
8	11-001203	焼締陶器甕体部	4	242	渥美
9	11-001204	焼締陶器甕体部	4	86	
10	11-001205	焼締陶器搦り鉢体部	1	77	常滑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
11	11-001206	土器か	1	53	
12	11-000847	土器器台付甕口縁部	1	8	古墳時代前期
13	11-001361	焼締陶器甕体部	1	23	在地
14	11-001302	軟質陶器	1	128	在地

3-1-3号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000186	陶器皿	残存 6.0×2.8 厚 0.6	口縁～体部破片。口端から口縁内面に灰軸掛かる	大塚、14世紀末葉～15世紀前葉	第135図	PL87
2	10-000187	陶器瓶子	残幅 5.5 残高 4.4	腰～底部片。回転輻輪整形。体部軸掛かり、底面糸切り痕跡	古瀬戸、13～14世紀	第135図	PL87
3	10-000188	陶器鉢	残存 9.3×4.3 厚 0.7	口縁破片。内外面鉄軸掛かり、内面刻印	肥前、18世紀	第135図	PL87
4	10-000189	陶器香炉	口径 11.4 器高 6.0	口縁部～脚片。口縁～体部外面灰軸。短い脚が付き、底面回転調整	瀬戸美濃、黄色、18世紀中葉～後葉	第135図	PL87
5	10-000190	陶器搦鉢	残存 7.0×4.1 厚 0.8	口縁破片。焼成甘く、内外面鉄軸	瀬戸美濃?	第135図	PL87
6	10-000191	陶器碗	底径 3.5 残高 2.3	腰部～高台片。底部外面～高台除き内外面灰軸施軸	産地不明、江戸時代	第135図	PL87
7	40-000013	鉄製品	長 5.7 幅 1.4 厚 0.4	スクレーパー様の工具の刃か	用途不明	第135図	PL87
8	20-000056	石鏃	長 3.9 幅 1.9 厚 0.5	細長の有茎鏃。基部三角を呈し、身は二等辺三角形を呈する	黒色頁岩	第135図	PL87

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-001367	白磁碗口縁部	1	2	
3-1溝					
10	11-000857	土師器坏底部	3	7	奈良・平安時代中心
11	11-000858	土師器坏体部	1	5	奈良・平安時代頃
12	11-000910	須恵器甕体部	1	13	奈良・平安時代頃
13	11-000911	陶器口縁部	1	5	
3-2溝					
14	11-001236	陶器鉢底部	1	42	瀬戸美濃
15	11-001237	陶器碗口縁部	2	12	瀬戸美濃
16	11-001238	陶器碗体部	1	5	瀬戸美濃
17	11-000859	土師器甕体部	3	6	奈良・平安時代中心
18	11-000860	土師器坏底部	4	28	奈良・平安時代中心
19	11-000861	土師器高坏脚部	1	23	奈良・平安時代頃
20	11-000912	須恵器甕口縁部	2	41	奈良・平安時代中心
21	11-000913	須恵器甕体部	12	165	奈良・平安時代中心
22	11-000914	須恵器碗口縁部	2	21	奈良・平安時代中心
23	11-000915	須恵器高台付碗体部	1	7	平安時代
24	11-000916	須恵器高台付碗底部	3	28	平安時代
25	11-000917	常滑	1	6	常滑
26	11-000918	内耳鍋	5	86	在地、中世
27	11-000919	灰軸陶器	2	12	美濃か
28	11-000920	軟質陶器	4	34	在地、中世
29	21-000012	石盤	1	4	近代
30	11-001165	陶器碗底部	1	27	瀬戸美濃
31	11-001166	陶器搦り鉢口縁部	1	36	瀬戸美濃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3-2溝					
32	11-001167	陶器甕	1	4	近代
33	11-001168	磁器碗体部	1	6	肥前
3-3溝					
34	11-000862	土師器甕体部	8	18	奈良・平安時代中心
35	11-000863	土師器坏底部	5	14	奈良・平安時代中心
36	11-000922	須恵器甕体部	3	29	奈良・平安時代中心
37	11-000923	須恵器碗体部	5	15	平安時代
38	11-000924	須恵器碗底部	1	6	平安時代
39	11-000925	須恵器高台付碗体～底部	5	46	平安時代
40	11-000926	陶器甕体部	1	19	
41	11-001169	磁器碗口縁部	1	7	肥前、近世～近代
42	11-001170	軟質陶器焙烙体部	1	25	知多半島、中世
43	11-001171	軟質陶器搦り鉢体部	1	31	丹波
44	11-001207	軟質陶器焙烙体～底部	17	281	在地、近代
45	11-001208	焼締陶器甕口縁部	1	35	常滑
46	11-001209	瓦	3	116	在地近代
47	11-001210	軟質陶器搦り鉢体部	1	9	在地近代
48	11-001211	陶器皿底部	3	59	在地近代
49	11-001212	焼締陶器甕体部	1	32	常滑
50	11-001213	軟質陶器搦り鉢底部?	1	33	在地、近代
51	11-001214	陶器香炉口縁部	1	10	瀬戸美濃
52	11-001215	陶器碗口縁部	3	19	瀬戸美濃
53	11-001216	陶器水差し口縁部	2	48	瀬戸美濃
54	11-001217	陶器香炉底部	1	23	瀬戸美濃

第38表 3区1面の出土遺物一覧 (その4)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3-3溝					
55	11-001218	陶器碗体～底部	2	71	肥前、近世～近代
56	11-001219	陶器皿口縁部	7	47	瀬戸美濃
57	11-001220	焼締陶器壺体部	3	68	美濃または常滑か
58	11-001221	須恵器壺体部	6	76	奈良・平安時代中心
59	11-001222	軟質陶器焙烙口縁部	1	41	在地、中世
60	11-001223	軟質陶器焙烙体～底部	6	62	在地、中世
61	11-001224	磁器碗口縁部	2	14	在地、近代
62	11-001225	磁器?	1	4	近代
63	11-001226	焼締陶器壺体部	1	18	渥美
64	11-001227	須恵器壺体部	2	140	奈良・平安時代中心
65	11-001228	軟質陶器播り鉢口縁部	1	43	丹波
66	11-001229	磁器碗体部	1	7	肥前
67	11-001230	軟質陶器鉢体部	1	87	在地、中世
68	11-001231	焼締陶器壺体部	1	83	常滑
69	11-001232	陶器播り鉢口縁部	1	15	瀬戸美濃
70	11-001233	陶器和禿皿口～体部	5	31	肥前、近世～近代

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3-3溝					
71	11-001234	軟質陶器鉢口縁部	1	39	在地、中世
72	11-001235	軟質陶器焙烙口縁部	7	208	在地、中世
73	11-000848	土師器壺体部	1	47	古墳時代前・中期
74	11-000853	土師器碗体～底部	1	4	奈良・平安時代頃
75	11-000854	土師器坏底部	13	22	奈良・平安時代中心
76	11-000855	土師器壺口縁部	2	10	奈良・平安時代中心
77	11-000856	土師器壺体部	30	56	奈良・平安時代中心
78	11-000904	須恵器碗口縁部	5	19	平安時代
79	11-000905	須恵器碗体部	10	37	平安時代
80	11-000906	須恵器碗底部	1	14	平安時代
81	11-000907	須恵器坏口縁部	1	3	奈良・平安時代中心
82	11-000908	軟質陶器	2	9	在地、中世
83	11-000909	陶器	1	3	
84	11-000849	土師器壺体部	1	5	
85	51-000002	馬歯	少量		細片2点

3-1-4号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000192	青磁碗	残存厚 3.4×3.9 0.6	口縁破片。外面蓮弁文、ややだれる	龍泉窯系、13世紀中葉～後葉	第142図	PL88
2	10-000193	焼締陶器壺	残存厚 10.9×6.8 1.1	体部破片。外面叩き痕、内面輪積痕残り撫で調整	渥美、12世紀	第142図	PL88
3	10-000194	焼締陶器壺	残存厚 8.6×6.3 1.0	体部破片。外面自然袖掛かり縄圧痕。内面撫で	渥美、12世紀	第142図	PL88
4	10-000195	軟質陶器播鉢	底径 15.6 残高 5.0	腰～底部片。右回転轆轤整形。内面研磨痕顕著。底面回転系切り痕	在地、中世、15世紀	第142図	PL88
5	10-000196	軟質陶器播鉢	残存厚 9.7×9.0 1.4	底面破片。寛調整	在地、中世	第142図	PL88
6	10-000197	土師器坏	口径 14.0 器高 3.4	底部やや丸底、口縁外傾し、口端内碗。口縁横撫で、体～底部内面艶なで、外面艶削り	8世紀後半	第142図	PL88
7	40-000014	包丁	残長 8.3 幅 3.8 厚 0.3	柄を中心とした破片		第142図	PL88
8	40-000015	銅銭	径 2.28×2.31 厚 0.17	腐食、粗造化進み、銘判読不能。ビタ銭	模鑄銭	第142図	PL88

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-001239	磁器碗体部	1	3	産地不明、近代
10	11-001240	須恵器壺体部	1	129	奈良・平安時代頃
11	11-001241	施釉陶器播り鉢口縁部	1	34	産地不明、近代
12	11-001242	軟質陶器鉢体部	1	18	奈良・平安時代頃
13	11-001243	磁器碗口縁部	1	6	産地不明、近代
14	11-001244	磁器皿底部	1	8	肥前
15	11-001246	陶器碗口縁部	1	6	瀬戸美濃
16	11-001247	焼締陶器播り鉢体部	1	124	常滑
17	11-001248	須恵器壺口縁部	1	37	奈良・平安時代頃
18	11-001249	焼締陶器壺体部	14	1189	常滑
19	11-000864	土師器壺体部	1	5	奈良・平安時代頃

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
20	11-000865	土師器坏口縁部	1	8	奈良・平安時代頃
21	11-000866	土師器坏底部	4	9	奈良・平安時代中心
22	11-000867	土師器碗口縁部	1	11	奈良・平安時代頃
23	11-000927	須恵器壺口縁部	1	13	奈良・平安時代頃
24	11-000928	須恵器壺口縁部	1	19	奈良・平安時代中心
25	11-000929	須恵器碗口縁部	3	33	平安時代
26	11-000930	須恵器碗底部	2	53	平安時代
27	11-000931	灰軸陶器口縁部	2	18	平安時代
28	11-000932	土器か	1	3	
29	11-001245	施釉陶器碗口縁部	1	5	産地不明、近代
30	11-001255	焼締陶器壺	2	80	在地、口縁部・体部片

3-1-5号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000198	青磁碗	残存厚 6.9×6.1 0.55	口縁～体部破片。外面蓮弁文、比較的明瞭	龍泉窯系、13世紀中葉～後葉	第142図	PL88
2	10-000199	青磁碗	残存厚 2.8×3.3 0.5	口縁破片。外面蓮弁文、ややだれる	龍泉窯系、14世紀	第142図	PL88
3	10-000200	青磁碗	残存厚 2.6×2.9 0.47	口縁破片。外面蓮弁文、ややだれる	龍泉窯系、13世紀中葉～後葉	第142図	PL88

第39表 3区1面の出土遺物一覧(その5)

遺物一覧

3-1-7号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000201	焼締陶器甕	残存 8.6×5.2 厚 1.3	口縁部破片。N字口縁。端部上下に引き出される	産地不明、13世紀 前葉～中葉	第144図	PL89
2	10-000202	焼締陶器甕	残存 9.5×6.3 厚 1.3	体部破片。内面匏調整、外面叩き痕	知多窯?、12～13 世紀	第144図	PL89
3	40-000016	銅銭	径 2.34×2.24 厚 0.15	腐食、粗造化進み、銘判読不能	模铸銭	第144図	PL89

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001250	焼締陶器甕体部	4	289	常滑
5	11-001251	軟質陶器鉢体部	4	43	在地、近代
6	11-001363	青磁碗体～底部	1	3	龍泉窯系

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	51-000003	長骨片	少量		小片6点以上
8	51-000013	骨端海綿体等破片	少量		小片1点、細片5点以上

3-1-8号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000203	焼締陶器甕	残 13.4×13.7 厚 1.2	方部破片。内面匏調整。外面自然軸掛かる	知多、13～14世紀	第155図	PL93
2	10-000204	焼締陶器甕	残存 9.5×6.3 厚 1.3	体部破片。内面匏調整、外面叩き痕残り軸掛かる	知多、13～14世紀。 147図-4と同一個 体か?	第155図	PL93
3	10-000205	焼締陶器播鉢	残存 4.3×6.1 厚 1.0	口縁部破片。酸化焙。内面研磨痕残る	知多窯、13世紀	第155図	PL93
4	10-000206	焼締陶器播鉢	残存 9×11.0 厚 1.1	口縁～体部破片。酸化焙。内面研磨痕残る	在地、14世紀後葉 ～15世紀前葉	第155図	PL93

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-001251	磁器碗体部	1	10	産地不明、近代
6	11-001252	軟質陶器焙烙体部	1	14	在地
7	11-001253	焼締陶器甕体部	2	54	常滑、中世
8	11-001254	焼締陶器甕体部	3	225	常滑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-001255	焼締陶器甕体部	3	305	渥美
10	11-000868	土師器甕底部	1	129	奈良・平安時代頃
11	11-001364	青磁碗口縁部	1	4	龍泉窯系

3-1-10号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001257	軟質陶器焙烙体部	1	9	在地、近代

3-1-11号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000207	青磁碗	底径 5.8 残高 2.2	底部～高台片。底面除き軸掛かる	龍泉窯系、13～14 世紀	第143図	PL88
2	10-000208	焼締陶器甕	残存 10.8×7.7 厚 1.1	体部破片。内面匏調整、外面叩き痕残り、軸掛かる	渥美、12世紀	第143図	PL88
3	10-000209	焼締陶器甕	残存 5.1×9.7 厚 1.6	肩部破片。内面撫で調整、外面叩き痕残る	渥美、12世紀	第143図	PL88

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000933	軟質陶器	1	15	在地
5	11-001258	焼締陶器	1	277	常滑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-001259	須恵器甕体部	2	51	
7	11-000010	台石	1	238	破片

3-1-13号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001260	焼締陶器甕体部	3	281	常滑

3-1-15号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000869	土師器甕体部	1	6	奈良・平安時代頃

3-1-14号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000210	青磁碗	残存 3.3×3.4 厚 0.5	口縁部破片。外面蓮弁文、ややだれる	龍泉窯系、13世紀 中葉～後葉	第152図	PL92
2	10-000211	青磁碗	残存 4.8×3.5 厚 0.5	口縁部破片。外面蓮弁文、ややだれる	龍泉窯系、13世紀 中葉～後葉	第152図	PL92
3	10-000212	青磁碗	残存 3.0×3.1 厚 0.7	体部破片。外面蓮弁文、ややだれる	龍泉窯系、13世紀 中葉～後葉	第152図	PL92
4	10-000213	焼締陶器甕	残存 8.4×6.2 厚 1.3	体部破片。内面匏調整、外面叩き痕残り、軸掛かる	渥美、12世紀	第152図	PL92

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
5	11-001231	焼締陶器甕体部	5	300	常滑
6	11-001365	青磁碗底部	1	9	龍泉窯系統

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	51-000004	馬歯	少量		小片14点、細片8点以上

3-1-25号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000214	軟質陶器播鉢	残 14.3×13.6 厚 1.5	体部片。外面撫で調整、内面研磨痕残る	在地、15～16世紀	第159図	PL93

第40表 3区1面の出土遺物一覧 (その6)

3-1-26号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000215	青磁碗	底径 5.4 残高 2.5	腰部一高台片。底面除き施釉。釉の色調濃い	龍泉窯系、13世紀中葉～後葉	第146図	PL89
2	10-000216	青磁碗	残 3.2×2.7 厚 0.5	体部片。外面蓮弁文、ややだれる	龍泉窯系、14世紀	第146図	PL89
3	10-000217	焼締陶器甕	残 13.0×6.4 厚 1.3	口縁外反。内外面軸掛かる	渥美、12世紀	第146図	PL89
4	10-000218	焼締陶器甕	残 11.4×5.7 厚 1.5	口縁外反。内外面軸掛かる	渥美、12世紀	第146図	PL89
5	10-000219	焼締陶器甕	残 15.0×15.9 厚 0.95	体部片。内外面撫で調整	知多窯、12～13世紀	第146図	PL89
6	10-000220	焼締陶器甕	残 9.8×7.1 厚 1.2	口縁破片。N字状口縁。口端部上下に引く。部分的に自然軸	知多、14世紀中葉～後葉	第146図	PL89
7	10-000221	焼締陶器甕	残 11.9×9.0 厚 1.5	口縁部破片。N字状口縁。内外面軸掛かるがカセる。内外面撫で調整	知多、13世紀中葉～後葉。147図-6と同一個体か?	第146図	PL89
8	10-000222	焼締陶器甕	残 8.3×4.4 厚 1.2	口縁部破片。N字状口縁。内外面軸掛かる	知多窯系、13世紀	第146図	PL89
9	10-000223	焼締陶器甕	残 5.8×3.9 厚 1.1	体部破片。外面押印文残り、内面撫で	知多窯、12～13世紀	第146図	PL89
10	10-000224	焼締陶器甕	残 4.1×4.7 厚 1.3	体部破片。外面押印文残り、内面撫で	知多窯? 12～13世紀	第146図	PL89
11	10-000225	焼締陶器擂鉢	残 7.8×7.6 厚 1.0	体部破片。外面撫で、内面研磨痕残り	渥美、12世紀	第146図	PL89
12	10-000226	焼締陶器擂鉢	残 21.8×8.5 厚 0.9	体部破片。外面上位撫で、下位篋削り。内面研磨痕残り	知多窯、13世紀	第146図	PL89
13	10-000227	焼締陶器擂鉢	残 10.7×6.7 厚 0.9	口縁部破片。口縁内湾。外面撫で、内面撫で後下位に研磨痕残り	在地、15世紀	第146図	PL89
14	20-000057	砥石	残長 16.4 幅 4.8 厚 2.8	上端及び下位欠損。上下・左右側面に研磨痕残り、表面の磨耗顕著。左側面に削痕残り	粗粒輝石安山岩	第147図	PL91
15	20-000058	礎石	長 12.8 幅 10.1 厚 2.9	扁平な河床礫使用。表面に径7.3×7.8cmの角柱の当たり痕残り	流紋岩	第147図	PL89
16	20-000059	礎石	長 18.2 幅 15.0 厚 4.7	扁平な河床礫使用。表面に経文若しくは願文が墨書され、中央に径6.8×5.4cmの角柱の当たり痕残り	石英閃緑岩	第147図	

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
17	11-000870	土師器甕体部	8	60	奈良・平安時代中心
18	11-000871	土師器坏底部	3	12	奈良・平安時代中心
19	11-000934	須恵器碗体部	1	3	平安時代
20	11-000935	須恵器碗底部	2	16	平安時代

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
21	11-001264	焼締陶器甕体部	10	509	常滑
22	11-001262	焼締陶器擂り鉢体部	2	59	
23	11-001263	陶器碗底部	1	9	瀬戸美濃

3-1-27号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000228	施釉陶器甕	残 5.6×4.9 厚 1.4	口縁部破片。N字状口縁で端部上下に引かれる。内外面軸掛かる	知多、14世紀前葉	第147図	PL90
2	10-000229	焼締陶器甕	残 12.3×8.3 厚 1.3	口縁部破片。N字状口縁。端部上下に引く。口縁内面自然軸掛かる	知多窯、13世紀中葉～後葉	第147図	PL90
3	10-000230	焼締陶器甕	残 6.5×6.6 厚 1.3	口縁部破片。N字状口縁。外面軸掛かる	知多、13世紀中葉～後葉	第147図	PL90
4	10-000231	焼締陶器甕	残 11.4×9.1 厚 1.6	口縁部破片。N字状口縁。外面軸掛かる	知多、13世紀中葉～後葉。155図-2と同一個体か?	第147図	PL90
5	10-000232	焼締陶器甕	残 13.2×8.9 厚 1.2	体部破片。内面撫で、外面自然軸掛かり、叩き痕残り	渥美、12世紀	第147図	PL90
6	10-000233	焼締陶器甕	残 16.1×13.0 厚 1.3	体部破片。内面輪積痕残り、外面自然軸掛かり、叩き痕残り	知多、13～14世紀。146図-7と同一個体か?	第147図	PL90
7	10-000234	焼締陶器甕	残 7.4×6.0 厚 1.3	体部破片。内面篋撫での痕跡残り、外面軸に掛かる	渥美、12世紀	第147図	PL90
8	10-000235	焼締陶器甕	残 6.5×4.2 厚 1.1	体部破片。外面吸炭。内外面撫で調整	渥美、12世紀	第148図	PL90
9	10-000236	焼締陶器甕	残 5.4×5.7 厚 1.0	体部破片。外面に叩き痕残り	渥美、12世紀	第148図	PL90
10	10-000237	焼締陶器甕	残 10.5×16.8 厚 1.3	体部破片。外面押印文残り、内面輪積痕残り篋調整、赤灰色	知多窯?、12～13世紀	第148図	PL90
11	10-000238	焼締陶器甕	残 9.7×17.0 厚 1.3	体部破片。外面押印文残り、内面篋調整、赤灰色	知多窯?、12～13世紀	第148図	PL90
12	10-000239	焼締陶器甕	残 7.2×10.7 厚 1.2	体部破片。外面押印文残り、内面篋調整	産地不明、12～14世紀	第148図	PL90
13	20-000060	砥石	残長 6.5 径 3.3×2.5	中位破片。表裏・左右側面に研磨痕跡残り、表面の磨耗進む		第148図	PL90
14	20-000061	打製石斧	残長 10.3 幅 7.2 厚 1.7	分銅形。裏面に自然面残す剥片を使用。側縁は両面から、先端は裏面から剝離調整を施す。		第148図	PL90
15	20-000062	礎石	長 18.3 幅 13.5 厚 5.6	扁平な河床礫使用。表面中央に径8.1×6cm以上の角柱の当たり痕残り	粗粒輝石安山岩	第148図	PL91
16	20-000063	礎石	長 19.5 幅 16.4 厚 4.9	扁平な河床礫使用。表面中央に径10.2×8.5cmの角柱の当たり痕残り	粗粒輝石安山岩	第148図	PL91
17	20-000064	礎石	長 16.9 幅 15.1 厚 4.8	扁平な河床礫使用。表面中央に径7.5×8.3cmの角柱の当たり痕残り	粗粒輝石安山岩	第149図	PL91
18	20-000065	礎石	長 18.5 幅 14.7 厚 5.5	扁平な河床礫使用。表面中央に径7.6×7.3cmの円柱の当たり痕残り	粗粒輝石安山岩	第149図	PL91
19	20-000066	礎石	長 22.0 幅 15.6 厚 3.9	扁平な河床礫使用。表面中央に径7.2×7.3cmの角柱の当たり痕残り	粗粒輝石安山岩	第149図	PL91
20	20-000067	礎石	長 22.8 幅 19.8 厚 5.5	扁平な河床礫使用。表面中央に径9.0×7.4cmの角柱の当たり痕残り	石英閃緑岩	第149図	PL91
21	20-000068	礎石	長 21.3 幅 17.6 厚 5.0	扁平な河床礫使用。表面中央に径8.5×10.3cmの角柱の当たり痕残り	粗粒輝石安山岩	第149図	PL91
22	20-000069	礎石	残長 17.8 残幅 13.1 厚 10.3	箱状の河床礫使用。一部欠損。表面に径7.7×7.7cm以上の角柱の当たり痕残り	粗粒輝石安山岩	第149図	PL91

第41表 3区1面の出土遺物一覧(その7)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
23	20-00070	磨石	径 11.4×10.7 厚 4.0	扁平な河床礫を用いる。表面に研磨痕残る	石英閃緑岩	第150図	PL91
24	20-00071	凹石	残長 10.9 幅 9.4 厚 4.6	河床礫を使用。表裏面に敲打による窪み、敲打痕残る	石英閃緑岩	第150図	PL92
25	20-00072	台石	径 25.4×21.9 厚 10.7	河床礫を使用。表面に敲打痕残り、下縁吸炭		第150図	PL90

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
26	11-000873	土師器坏底部	2	8	奈良・平安時代中心
27	11-000872	土師器甕体部	4	18	奈良・平安時代中心
28	11-000936	灰釉陶器碗口縁部	1	8	平安時代
29	11-000937	陶器甕	1	51	常滑
30	11-001265	焼締陶器甕底部	1	62	常滑
31	11-001266	須恵器碗体部	1	10	平安時代
32	11-001267	焼締陶器播り鉢体部	1	16	

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
33	11-001268	須恵器甕体部	3	168	奈良・平安時代中心
34	11-001269	軟質陶器播り鉢体部	1	91	
35	11-001270	焼締陶器甕体部	31	1886	常滑
36	51-000010	長骨・扁平骨片	少量		破片4点、細片2点以上
37	51-000011	長骨・扁平骨片	少量		破片5点、細片5点以上
38	51-000012	長骨・扁平骨片	少量		破片2点、細片5点以上

3-1-29号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000073	磨石	径 17.5×9.4 厚 3.8	扁平な河床礫使用。表面に研磨痕残る	ひん岩	第150図	PL93

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001172	陶器碗体部	1	21	瀬戸美濃

3-1-32号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000240	青磁碗	残 5.3×5.3 厚 1.0	体部破片。外面蓮弁文、ややだれる	龍泉窯系、14世紀	第150図	PL92
2	10-000241	焼締陶器播鉢	底径 14.8 残高 5.1	腰部～高台部破片。やや軟質。付け高台。腰部内面研磨痕残る	知多窯、13世紀	第150図	PL92
3	10-000242	焼締陶器播鉢	底径 18.6 残高 7.0	腰部～高台部破片。底面粗粒。腰部内面研磨痕残る	知多窯、13～14世紀	第150図	PL92

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001173	軟質陶器播鉢体部	1	89	在地、近代
5	11-001174	焼締陶器甕体部	2	148	常滑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
6	11-001175	軟質陶器鉢体部	1	26	在地、近代
7	11-001176	須恵器甕体部	1	43	奈良・平安時代頃

3-1-33号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000243	施釉陶器甕	口縁 34.3 残高 15.4	口縁～肩部片。N字状口縁。外面施釉。内面撫で調整。緑色	知多、13世紀中葉～後葉	第152図	PL92
2	10-000244	焼締陶器甕	残 7.1×4.4 厚 1.1	口縁部破片。口縁外反	在地、軟質陶器、中世	第153図	PL92
3	10-000245	焼締陶器播鉢	残 5.8×5.0 厚 1.3	口縁部破片。口端鈍角に尖る	在地、14世紀後葉～15世紀前葉	第153図	PL92
4	20-000074	砥石	残長 12.9 幅 6.7 厚 4.5	両端側欠損し、鉄分付着。大型の砥石。表裏・左右側面に研磨痕見られ、側面に削痕も見られる。表裏面に磨耗	デイサイト	第153図	PL92
5	20-000075	磨石	径 16.3×13.8 厚 4.1	扁平な河床礫使用。表面に研磨痕残る	粗粒輝石安山岩	第153図	PL93
6	20-000076	磨石	径 16.3×13.8 厚 4.1	厚みのある河床礫使用。表面に研磨痕残り、縁辺に酸化マンガンを付着	粗粒輝石安山岩	第153図	PL92
7	20-000077	こもあみ石	長 11.6 幅 5.2 厚 3.0	棒状の河床礫使用。中位に磨耗痕廻る	砂質頁岩	第153図	PL92
8	20-000078	磨石	長 21.0 幅 7.3 厚 5.5	棒状の河床礫使用。表面に研磨面複雑に形成される	溶結凝結岩	第153図	PL93
9	20-000079	敲石	長 19.6 幅 6.7 厚 4.7	棒状の河床礫使用。表裏面に研磨痕、上下量端に敲打痕残る	ひん岩	第153図	PL93

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
10	11-001177	焼締陶器甕体部	5	261	常滑

3-1-36号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000874	土師器坏底部	1	8	奈良・平安時代頃

3-1-37号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000246	焼締陶器甕	残 4.8×4.1 厚 1.2	口縁部破片。N字状口縁。端部上下に引く	知多窯、13世紀中葉～後葉	第150図	PL92

第42表 3区1面の出土遺物一覧 (その8)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000875	土師器甕体部	2	6	奈良・平安時代中心
3	11-000876	土師器碗体部	1	5	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001179	焼締陶器甕体部	1	44	常滑

3-1-39号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000247	磁器碗	口径 14.3 残高 4.9	口縁～体部破片。口縁に沈線廻る。内外面に染付けで施紋	肥前磁器(波佐見)、18世紀中葉～19世紀中葉	第137図	PL88
2	10-000248	磁器碗	底径 2.6 残高 2.4	腰部～高台破片。内外面に染付け	瀬戸美濃磁器、19世紀中葉～後葉	第137図	PL88
3	10-000249	陶器碗	口径 13.4 器高 3.8	口縁～高台部破片。内の鶴等内外面に染付けで施紋	瀬戸美濃陶器、19世紀前葉～中葉	第137図	PL88
4	10-000250	施陶器碗	底径 4.5 残高 0.8	底部片。内面鉄軸施軸。とちん跡残る	瀬戸美濃陶器、18世紀後葉～19世紀中葉	第137図	PL88
5	10-000251	焼締陶器搨鉢	残 7.0×5.9 厚 1.1	体部破片。内面研磨痕残る	渥美、12世紀	第137図	PL88
6	20-000080	石板	残 7.2×6.2 厚 0.2	角部破片。表裏面に線書き残る	近代	第137図	PL88

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
7	11-000877	土師器甕体部	4	19	奈良・平安時代中心
8	11-000878	土師器坏底部	2	8	奈良・平安時代中心
9	11-000938	須恵器碗体～底部	1	4	平安時代
10	11-001181	陶器搨鉢口縁部	3	139	
11	11-001182	陶器口～体・底部	2	39	産地不明、近代
12	11-001183	埴輪	1	101	
13	11-001184	軟質陶器搨鉢体部	1	71	堺
14	11-001185	軟質陶器	3	44	在地、近代
15	11-001186	軟質陶器培烙底部	1	7	在地、近代

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
16	11-001187	陶器菊皿体部	1	6	瀬戸美濃
17	11-001190	磁器碗口縁部	5	39	肥前
18	11-001191	磁器碗体部	2	5	産地不明、近代
19	11-001162	磁器碗口縁部	2	15	産地不明、近代
20	21-000009	砥石	1	14	
21	11-001180	瓦	2	245	
22	11-001188	陶器碗体部	1	2	瀬戸美濃
23	11-001189	磁器碗底部	1	15	肥前
24	11-001366	磁器碗口縁部	1	4	瀬戸美濃

3-1-40号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001193	陶器碗体部	1	6	瀬戸美濃

3-1-1号竪穴建物

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	40-000017	銅製飾金具	径 2.4×1.9 厚 0.9	菊花をモチーフとする飾金具。双脚を有する		第160図	PL93

3-1-2号竪穴建物

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000252	内耳鍋	口径 38.8 残高 16.2	口縁～腰部片。口縁短く外傾。腰部丸みを有する	在地、14世紀後葉～15世紀前葉	第162図	PL93
2	20-000081	スクレーパー	長 5.9 幅 6.1 厚 1.1	剥片を用いる。刃部は裏面から剝離調整を施す	黒色頁岩	第162図	PL93

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-001196	軟質陶器培烙口縁部	1	4	近世、上位面から混入か

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-001368	焼締陶器甕体部	2	175	在地

3-1-6号土坑

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000253	焼締陶器搨鉢	残存 5.2×4.6 厚 1.0	体部破片。下端輪積位置で剝離。内面下端付近に研磨痕残る	渥美、12世紀	第165図	PL93

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001369	焼締陶器甕体部	2	82	知多

3-1-10号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000879	土師器坏口縁部	1	4	奈良・平安時代頃

3-1-29号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001371	焼締陶器甕体部	1	48	知多

3-1-30号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	41-000003	焼夷弾	一括		M19型またはM47型

3-1-27号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001303	焼締陶器搨鉢底～体部	1	80	

第43表 3区1面の出土遺物一覧(その9)

遺物一覧

3-1-1号井戸

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	30-00039	下駄	長 15.6 幅 8.4 厚 2.4	芯去材使用。底面に幅6.1、長さ6.6cmの方形の窪みを掘り込み、先型斜めに削る。先端と後ろ側の上面と側面の径2箇所に径1~2cmの項を穿つ	針葉樹	第170図	PL94

3-1-3号井戸

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000254	青磁碗	残存 2.1×3.0 厚 0.45	口縁部破片。外面蓮弁文、ややだれる	龍泉窯系、13世紀	第171図	PL94

3-1-4号井戸

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	30-000040	漆碗	残存 7.2×6.1	体部~高台片。高台擦り切れる。体部内外面と底面に黒漆塗布	ケヤキ	第172図	PL94

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001370	焼締陶器甕体部	2	62	知多、在地

3-1-6号井戸

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	40-000018	きせる雁首	長 7.0 高 2.6 径 1.1	油返しの湾曲少ないが、火皿には張りが見られる	18世紀後半	第140図	PL88

3-1-9号井戸

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000299	焼締陶器甕	残存 7.2×5.7 厚 1.3	口縁部破片。外反し、端部に沈線廻る	知多窯系、13世紀	第174図	PL94
2	10-000300	青磁碗	口径 16.0 残高 4.6	口縁~体部片。口縁外傾。外面蓮弁文、ややだれる	龍泉窯系、13世紀 中葉~後葉	第174図	PL94
3	10-000256	青磁碗	残存 7.2×5.7 厚 1.3	体部破片。外面蓮弁文、ややだれる	龍泉窯系、13世紀 中葉~後葉	第174図	PL94
4	30-000041	曲物側板	径 20.0 器高 4.5	厚さ8mm。端部狭くし、板皮で留める	ヒノキ	第174図	PL95

(他に、薬加工品・馬頭骨あり)

3-1-10号井戸

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000255	焼締陶器甕	残存 14.3×9.4 厚 1.2	体部破片。内面輪積み痕残り撫で、外面叩き痕残り吸炭	渥美、12世紀	第176図	PL94
2	20-000082	礎石	径 22.5×19.5 厚 6.0	扁平な河床石使用。表面に径10.8×10.6cmの角柱の当たり痕残る	粗粒輝石安山岩	第176図	PL94
3	30-000042	曲物底板	径 12.9×16.3 厚 0.9	疋目材使用。四方側縁に径4mm以下の釘穴開き、底面に刃傷多数あり	ヒノキ	第176図	PL95
4	30-000043	曲物側板	径 22.0×15.0 器高 11.7以上	側板欠損品。厚さ2.5mm以下。楕円形を呈すると判断される。接着部2箇所あり、それぞれ板皮で留める	ヒノキ属	第177図	PL96
5	30-000044	竹	長 20.0 径 5.0×4.3	上下両端切断。節を抜く	廃棄祭祀に伴うか	第177図	PL95
6	30-000045	曲物底板	残存 11.8×1.8 厚 0.7	破片。板目材使用	ブナ属か	第177図	PL94

3-1-11号井戸

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	30-000046	曲物底板	径 8.7 厚 0.45	3/5。板目材使用。小型の曲物の底板。	ブナ属	第178図	PL95

3-1-ピット群

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
2279号ピット							
1	10-000257	焼締陶器播鉢	底径 14.0 残高 8.6	体~底部破片。高台欠損。焼成良好。体部内面自然軸掛かり、体部下位~底部内面磨耗痕残る。体部外面撫で、下位~底面磨削り	知多窯系、13世紀	第180図	PL95
2552号ピット							
2	10-000258	焼締陶器播鉢	残存 5.8×4.4 厚 1.2	口縁破片。N字状口縁。端部上下にやや引かれる	知多窯系、13世紀	第180図	PL97
2316号ピット							
3	10-000259	土壁	残存 7.7×6.4 残厚 6.2	小片と細片。土質質に焼成。ササ混入の痕跡。表面に蕨状繊維痕残る	使途不明	第180図	PL95
2081号ピット							
4	40-000019	槍鉋状鉄製工具	長 13.6 径 2.8 刃部幅 1.6	二折、ほぼ完形。ソケットに木柄が錆となって残る。刃部弱く屈曲し、先端ノミ状をなす	大工道具か	第181図	PL96
1595号ピット							
5	10-000260	焼締陶器播鉢	残存 12.6×8.9 厚 1.0	口縁部破片。内外面撫で調整。内面下位に研磨痕残る	知多、13世紀	第181図	PL97
2161号ピット							
6	10-000261	かわらけ	底径 6.0 残高 1.0	底部破片。右回転轆轤整形。底面回転糸切り痕残る	在地、江戸時代	第181図	PL95

第44表 3区1面の出土遺物一覧 (その10)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1614号ビット							
7	10-000262	青磁碗	残存 3.8×2.0 厚 1.0	体部破片。外面蓮弁文、ややだれる	龍泉窯系、13世紀 中葉～後葉	第181図	PL96
920号ビット							
8	40-000020	銅銭	残存 2.1×1.1 厚 0.14	破片。腐食、粗造化進行し、銘判読不能	模鑄銭	第182図	PL96
948号ビット							
9	40-000021	鉄製磬	径 12.0×6.0 厚 0.4	腐食進行し、袖欠けるがほぼ完形。片面式。上・側縁弧を描き、下縁線形意図。縁辺折返しの縁取り。鐘座枝紋様の紋様で中心損耗か		第182図	PL96
972号ビット							
10	10-000263	焼締陶器擂鉢	残存 5.0×6.3 厚 1.0	体部破片。内面研磨痕残る	渥美、12世紀	第182図	PL97
995号ビット							
11	10-000264	焼締陶器擂鉢	残存 11.2×6.6 厚 1.0	体部破片。内外面撫で調整	渥美、12世紀	第182図	PL97
12	10-000265	焼締陶器擂鉢	残存 6.0×4.2 厚 0.9	体部破片。内面に研磨痕残る	渥美、12世紀	第182図	PL97
601号ビット							
13	10-000266	白磁皿	底径 5.2 残高 0.8	底部破片。底面回転調整。内外面施釉	中国白磁皿、14世紀	第183図	PL96
699号ビット							
14	10-000267	青磁碗	残存 5.1×2.8 厚 0.4	口縁部破片。黄緑色。外面蓮弁文。だれる	龍泉窯系、13世紀 中葉～後葉	第183図	PL96
353号ビット							
15	10-000268	青磁碗四耳壺	残存 4.6×5.8 厚 0.6	頸～肩部破片。内外面1mm厚程の釉が掛かる	龍泉窯系、13～14 世紀?	第184図	PL96
340号ビット							
16	10-000269	焼締陶器甕	残存 17.6×7.4 厚 1.2	口縁部破片。N字状口縁。端部上方に引く	知多、13世紀前葉 ～中葉	第185図	PL97
122号ビット							
17	40-000029	釘	残長 4.2 径 0.6×0.6	欠損品。横断面方形をなす		第191図	PL95
屋敷遺構内東部所在ビット(旧2755号ビット)							
18	10-000270	焼締陶器甕	残存 10.9×11.7 厚 1.0	体部破片。外面押印文残り、内面輪積痕残り指撫で	渥美、12世紀	第192図	PL97
屋敷遺構内東部所在ビット(旧2763号ビット)							
19	20-000083	礎石	径 17.4×16.2 厚 5.2	扁平な河床石使用。表面に径7.8×8.4cmの角柱の当たり痕残る	粗粒輝石安山岩	第192図	PL99
3004号ビット							
20	20-000084	礎石	残径 16.3×10.7 厚 7.2	扁平な河床石使用。表面に径7.2cm×6.0cm以上の角柱の当たり痕残る	粗粒輝石安山岩	第192図	PL99
屋敷遺構内東部所在ビット(旧2756号ビット)							
21	20-000085	礎石	残径 13.1×11.6× 13.6	箱形の河床石使用。表面に径8.2cm×8.7cm以上の角柱の当たり痕残る	粗粒輝石安山岩	第192図	PL99
屋敷遺構内東部所在ビット(旧2793号ビット)							
22	20-000086	磨石	径 7.8×7.1 厚 4.9	楕円球形の河床石使用。表面に研磨痕残る	石英閃緑岩	第192図	PL96
屋敷遺構内東部所在ビット(旧2897号ビット)							
23	20-000087	礎石	径 14.0×11.3 厚 3.7	扁平な河床石使用。表面に径9.0×6.7cmの角柱の当たり痕残る	石英閃緑岩	第192図	PL99
2978号ビット							
24	20-000088	礎石	径 17.8×14.1 厚 4.6	扁平な河床石使用。表面に径9.0×9.1cmの角柱の当たり痕残る	粗粒輝石安山岩	第192図	PL99

ビット出土資料で写真のみ掲載したもの

No.	資料番号	資料名称	備考	図面番号	図版番号
30・31・34	20-000095・96・99	礎石	周縁に酸化マンガン付着	—	PL97
25～29・32	20-000089～93・97	礎石	28・29は周縁に酸化マンガン付着	—	PL98
33	20-000098	磨石	欠損品	—	PL98

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
246号ビット					
25	31-000008	炭化物	少量		小片3点、細片2点以上
251号ビット					
26	31-000009	炭化物	少量		細片5点以上
258号ビット					
27	31-000010	炭化物	少量		細片
446号ビット					
28	31-000012	炭化物	少量		小片4点、細片2点以上

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
582号ビット					
29	51-000005	馬歯	少量		小片6点、細片12点以上
600号ビット					
30	31-000013	炭化物	少量		細片5点以上
609号ビット					
31	11-0011376	須恵器碗体部	1	4	平安時代
615号ビット					
32	31-000014	炭化物	少量		小片2点、細片8点以上

第45表 3区1面の出土遺物一覧(その11)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
659号ビット					
33	11-001372	焼締陶器甕体部	1	64	知多
662号ビット					
34	11-000939	須恵器碗体部	1	10	平安時代
666号ビット					
35	11-001373	焼締陶器甕体部	2	144	知多
785号ビット					
36	11-000880	土師器坏底部	1	6	奈良・平安期中心
924号ビット					
37	31-000015	炭化物	少量		小片7点、細片6点以上
948号ビット					
38	41-000001	鉄	少量		小片3点、細片8点以上
952号ビット					
39	31-000016	炭化物	少量		小片2点、細片3点以上
972号ビット					
40	11-000940	須恵器碗底部(糸切)	1	5	平安時代、糸切り痕残る
975号ビット					
41	11-001374	焼締陶器甕体部	1	23	知多
980号ビット					
42	91-000001	スラグ	2		
983号ビット					
43	11-001375	焼締陶器甕体部	1	68	知多
984号ビット					
44	11-000941	剥片	1	27	黒色頁岩か
995号ビット					
45	11-000881	土師器坏底部	1	3	奈良・平安時代頃
46	11-000942	須恵器碗体部	1	4	奈良・平安時代頃
47	11-001377	焼締陶器甕体部	1	169	知多
1243号ビット					
48	11-001195	軟質陶器焙烙体部	1	38	在地近代

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1286号ビット					
49	11-001194	須恵器甕体部	1	51	奈良・平安時代頃
1378号ビット					
50	31-000007	炭化物	少量		小片2点、細片5点以上
2025号ビット					
51	31-000017	炭化物	少量		小片8点、細片5点以上
2081号ビット					
52	41-000002	鉄	1		
2237号ビット					
53	11-001378	焼締陶器甕口縁部	1	20	知多
54	11-001379	焼締陶器甕体部	2	107	知多
2295号ビット					
55	11-000882	土師器甕体部	1	8	奈良・平安時代頃
56	11-000883	土師器坏底部	1	6	奈良・平安時代頃
2470号ビット					
57	11-001380	焼締陶器甕体部	1	94	知多
2590号ビット					
58	31-000005	炭化物	少量		細片10点以上
屋敷遺構内東部所在ビット(旧2716号ビット)					
59	31-000011	炭化物	少量		小片6点、細片2点以上
屋敷遺構内東部所在ビット(旧2768号ビット)					
60	11-000884	土師器甕体部	1	3	奈良・平安時代頃
屋敷遺構内東部所在ビット(旧2970号ビット)					
61	11-001381	焼締陶器甕体部	1	54	知多
2128号					
62	11-001304	焼締陶器甕体部	1	114	
位置不特定					
63	11-001178	青磁碗体部	1	7	龍泉窯系

3-1-遺構外の遺物

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000271	青磁碗	残存 4.8×5.0 厚 0.6	口縁~体部破片。外面蓮弁文、だれる	龍泉窯系、13世紀中葉~後葉	第196図	PL99
2	10-000272	青磁碗	残存 4.7×6.5 厚 0.6	口縁~体部破片。外面蓮弁文、だれる	龍泉窯系、13世紀中葉~後葉	第196図	PL99
3	10-000273	青磁碗	残存 6.0×4.2 厚 0.85	体部破片。外面蓮弁文。濃緑色	龍泉窯系、13世紀中葉~後葉	第196図	PL99
4	10-000274	青磁碗	残存 4.0×3.1 厚 0.4	口縁~体部破片。外面蓮弁文、だれる	龍泉窯系、13世紀中葉~後葉	第196図	PL99
5	10-000275	陶器碗	残存 4.0×3.9 厚 0.8	体部破片。軸若干掛かる。外面蓮弁文か	龍泉窯系青磁、13世紀中葉~後葉	第196図	PL99
6	10-000276	青磁碗	底径 2.7 残高 1.3	底部~高台破片。高台端部を除き厚1mm以上の施釉	龍泉窯系、13世紀	第196図	PL99
7	10-000277	青磁碗	残存 2.8×3.9 厚 0.5	口縁~体部破片。外面蓮弁文、ややだれる	龍泉窯系、中世、13世紀中葉~後葉	第196図	PL99
8	10-000278	青磁碗	残存 1.7×2.4 厚 0.5	口縁破片。内面草花文か	龍泉窯系、中国白磁、中世	第196図	PL99
9	10-000279	磁器碗	口径 10.2 器高 5.1	1/2。高台端部を除き施釉。外面に染付けて草花文	肥前磁器(波佐見)、19世紀前葉~中葉	第197図	PL99
10	10-000280	磁器碗	残存 5.3×5.6 厚 0.7	口縁~体部片。外面染付けて花鳥文	肥前陶器、陶胎染付、18世紀	第197図	PL99
11	10-000281	施釉陶器碗	残存 2.7×4.4 厚 0.6	口縁~体部片。灰釉。半ば釉剥落。	古瀬戸、15世紀	第197図	PL99
12	10-000282	施釉陶器碗	底径 6.4 残高 1.0	底部~高台破片。高台端部削られる。灰釉。	大窯、16世紀	第197図	PL99
13	10-000283	陶器碗	底径 6.3 残高 2.0	底部~高台破片。高台過半欠損。焼成甘い。灰釉掛け、内面鉄釉で施文	瀬戸美濃陶器、17世紀	第197図	PL100
14	10-000284	磁器碗	口径 7.5 器高 4.6	1/4。花緑色、枝黒色で施文。底部内面にペロ藍で小林酒店印	瀬戸美濃磁器、昭和	第197図	PL99
15	10-000285	磁器蓋	径 1.9 器高 3.1	蓋完形。上面中央盛り上がり周囲に雷文、鉄釉施釉。	産地不明、近・現代	第197図	PL99
16	10-000286	焼締陶器甕	残存 5.4×6.7 厚 1.4	口縁破片。N字状口縁。端部上下に引かれ、側縁剥離。外面に自然釉	知多、13世紀中葉~後葉	第197図	PL100
17	10-000287	焼締陶器播鉢	残存 6.1×8.1 厚 1.1	腰部~高台破片。腰部下位鋭削り。内面顕著な研磨痕残る	知多窯、13世紀	第197図	PL100

第46表 3区1面の出土遺物一覧(その12)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
18	10-000288	焼締陶器甕	残存 4.6×5.5 厚 1.2	体部破片。外面叩き痕残る	知多窯、12~13世紀	第197図	PL100
19	10-000289	軟質陶器播鉢	残存 7.5×6.0 厚 1.4	口縁~体部破片。外面カセる。体部内面研磨痕残る	在地、15世紀	第197図	PL100
20	10-000290	焼締陶器播鉢	口径 33.0 器高 11.4	1/3。内面自然掛かる。平底だが僅かに中央上がる。腰~底部内面研磨痕残る。底面荒れ、中央付近指頭痕残る	知多窯、屋敷遺構東部旧2850号ピット。14世紀前半~中葉	第198図	PL100
21	10-000291	土錘	長 4.1 径 1.3×1.1	完形。表面荒れる。外面撫で。径3mmの孔縦位に穿たれる	土師質	第198図	PL100
22	10-000292	陶器箸	残長 8.6 径 0.55	下位欠損。横断面形正方形。緑白色樹脂コーティングで、上位剥ける		第198図	PL99
23	40-000022	銅銭	径 2.45×2.45 厚 0.13	腐食・粗造化進み銘不詳。「□□元寶」	模鑄銭か	第198図	PL100
24	40-000023	淳化元寶	残径 2.4×2.3 厚 0.14	縁部一部欠損。若干粗造化見られる	模鑄銭か	第198図	PL100
25	40-000024	鉄砲玉	径 1.2×1.2×1.0	ほぼ完形。鉛。バリ残る	射撃痕無し	第198図	PL100
26	40-000025	キセル吸い口	長 7.2 径 0.9×0.95	吸い口完形。横断面形ラウ側方形、吸い口先端側円形	18世紀	第198図	PL100
27	40-000026	キセル吸い口	長 7.0 径 0.85×0.85	吸い口完形。横断面形円形。1束5条の細線4束一周する	18世紀	第199図	PL100
28	40-000027	キセル吸い口	長 7.0 径 0.9×0.77	圧平され、折れる。吸い口全体が残る。横断面形円形	18世紀	第199図	PL100
29	20-000100	台石	径 12.3×11.2 厚 3.1	扁平な河床石使用。表面に研磨痕残る		第199図	PL100
30	20-000101	台石	径 11.4×11.0 厚 4.0	扁平な河床石使用。表面に研磨痕残る		第199図	PL92
31	90-000016	ビー玉	径 1.7×1.7×1.73	完形品。気泡入る淡緑色透明ガラス使用	昭和	第199図	PL100
32	90-000017	ビー玉	径 1.79 × 1.76 × 1.76	一部欠損。不透過の赤色・白色ガラス使用	昭和	第199図	PL100
33	90-000018	ビー玉	径 1.23 × 1.225 × 1.24	完形品。透明ガラスの中に不透過黄色ガラスで4弁の花ビラ造形	昭和	第199図	PL100
34	40-	鉄滓	経 5.1×4.9 厚 1.5			-	PL100

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
東半部					
34	51-000007	馬歯	少量		細片
35	91-000002	樹皮	7		
3区全域					
36	51-000008	馬歯	少量		小片4点、細片3点以上
37	11-000851	土師器甕体部	1	11	古墳時代前・中期
38	11-001114	陶器碗口縁部	11	64	瀬戸美濃
39	11-001115	陶器碗底部	3	60	瀬戸美濃
40	11-001116	陶器片口注口	1	23	瀬戸美濃
41	11-001117	陶器口縁部	1	25	瀬戸美濃
42	11-001118	貧乏徳利体部	1	12	瀬戸美濃
43	11-001119	貧乏徳利口縁部	1	41	瀬戸美濃
44	11-001120	磁器碗底部	4	61	産地不明近代
45	11-001121	磁器皿口縁部	2	14	産地不明近代
46	11-001122	磁器碗体部	5	13	産地不明近代
47	11-001123	磁器碗底部	4	66	肥前
48	11-001124	陶器碗体部	1	18	肥前江戸近代
49	11-001125	磁器碗口縁部	6	37	産地不明近代
50	11-001126	青磁碗口縁部	1	4	中国龍泉窯系
51	11-001127	青磁碗体部	3	13	中国龍泉窯系
52	11-001128	口縁部?	1	11	産地不明
53	11-001129	磁器碗体部	1	2	産地不明
54	11-001130	陶器徳利体部	1	11	産地不明、近代
55	11-001131	マージャンバイ	1	12	産地不明
56	11-001132	陶器か	1	3	産地不明
57	11-001133	陶器鉢体部	1	25	産地不明
58	11-001134	陶器碗底部	1	17	産地不明
59	11-001135	陶器小鉢口縁部	1	9	産地不明
60	11-001136	陶器皿口縁部	5	15	産地不明
61	11-001137	軟質陶器播鉢口縁部	1	74	丹波

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3区全域					
62	11-001138	軟質陶器播鉢口縁部	1	31	堺
63	11-001139	軟質陶器焙烙体部	20	237	在地
64	11-001140	軟質陶器焙烙口縁部	9	179	在地
65	11-001141	軟質陶器火鉢体部	1	13	在地
66	11-001142	かわらけ体部	13	88	中世
67	11-001143	かわらけ口縁部	2	17	中世
68	11-001144	かわらけ底部	7	88	中世
69	11-001145	須恵器坏体部	1	2	奈良・平安時代頃
70	11-001146	須恵器甕口縁部	1	4	奈良・平安時代頃
71	11-001147	焼締陶器甕体部	3	61	常滑
72	11-001148	土師器甕底部	1	24	奈良・平安時代頃
73	11-001149	軟質陶器播鉢体部	4	39	在地
74	11-001150	土師器甕口縁部	3	83	奈良・平安時代中心
75	11-001151	瓦	5	233	中世以降
76	11-001152	軟質陶器火鉢か?	1	133	中世、板状
77	11-001153	土師器高坏体部	1	36	古墳時代
78	11-001154	陶器碗体部	6	38	瀬戸美濃
79	11-001155	軟質陶器播鉢体部	2	71	在地
80	11-001156	土管	1	21	近
81	11-001157	土師器甕体部	10	161	近現代
82	11-001158	土師器羽釜体部	1	27	平安時代
83	11-001159	須恵器甕体部	10	173	奈良・平安時代中心
84	11-001160	軟質陶器鉢体部	11	345	在地
85	11-001161	軟質陶器鉢口縁部	1	32	在地
86	11-001162	軟質陶器火鉢類口縁部	2	205	在地
87	11-001163	焼締陶器甕体部	3	227	常滑
88	11-001164	軟質陶器焙烙底部	9	93	在地
89	21-000001	礫	2		
90	21-000008	砥石	1	26	

第47表 3区1面の出土遺物一覧 (その13)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3区全域					
91	11-001274	焼締陶器甕口縁	1	3	知多
92	11-001275	焼締陶器甕体部	45	1954	知多
93	11-001276	焼締陶器甕体部	1	153	知多
94	11-000885	土師器甕口縁部	14	96	奈良・平安時代中心
95	11-000886	土師器甕体部	132	291	奈良・平安時代中心
96	11-000887	土師器坏口縁部	19	56	奈良・平安時代中心
97	11-000888	土師器坏底部	2	4	奈良・平安時代中心
98	11-000889	土師器碗口縁部	1	26	平安時代
99	11-000890	土師器坏体～底部	97	258	奈良・平安時代中心
100	11-000943	須恵器甕口縁部	1	9	奈良・平安時代頃
101	11-000944	須恵器甕体部	27	156	奈良・平安時代中心
102	11-000945	須恵器碗口縁部	12	43	奈良・平安時代中心
103	11-000946	須恵器碗体部	28	103	奈良・平安時代中心
104	11-000947	須恵器高台付碗体部	27	83	奈良・平安時代中心
105	11-000948	須恵器高台付碗底部	25	198	奈良・平安時代中心
106	11-000949	須恵器ハソウ体部	1	13	古墳時代後期
107	11-000950	須恵器瓶頸部	3	48	平安時代

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3区全域					
108	11-000951	須恵器蓋	1	6	奈良・平安時代中心
109	11-000952	灰釉陶器高台	1	4	平安時代
110	11-000953	軟質陶器	5	23	中世
111	11-001200	磁器碗口縁部	1	3	近代
112	11-001201	磁器碗体～底部	4	13	瀬戸美濃
113	11-001111	磁器碗口縁部	4	31	肥前
114	11-001305	磁器碗口縁部	1	5	瀬戸美濃
115	11-001306	磁器碗底部	1	15	不明
116	11-001307	磁器碗口～体部	4	21	
117	11-001197	磁器碗口縁部	1	8	肥前
118	11-001198	陶器碗口縁部	1	4	近代
119	11-001199	磁器碗体～底部	5	13	近代
120	11-001308	陶器体部	2	27	古瀬戸
121	11-001309	不明	1	6	
122	41-000004	破片	1	6	
123	41-000005	鉄さい	4	28	

3-2 3区2面の出土遺物

3-2面の出土遺物

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000102	砥石	長 5.1 幅 3.5 厚 1.8	上方及び下端欠損。表に3面、裏・左右側面に1面づつの研磨面残る		第200図	PL100

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000891	土師器甕口縁部	3	38	奈良・平安時代中心
3	11-000892	土師器甕体部	27	129	奈良・平安時代中心
4	11-000893	土師器坏口縁部	5	17	奈良・平安時代中心
5	11-000894	土師器坏底部	16	36	奈良・平安時代中心
6	11-000895	土師器高坏脚部	1	45	古墳時代頃
7	11-000896	土師器碗口縁部	1	35	平安時代
8	11-000954	須恵器甕体部	8	204	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
9	11-000955	須恵器碗口縁部	3	9	平安時代
10	11-000956	須恵器碗体部	15	50	平安時代
11	11-000957	須恵器高台付碗底部	2	57	平安時代
12	11-000958	須恵器壺口縁部	1	11	平安時代頃
13	11-000959	磁器	1	3	
14	11-001277	陶磁器	6	125	

3-3 3区3面の出土遺物

3-3-耕作溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000294	土師器壺体部	1		古墳時代前・中期

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000850	土師器甕体部	2	17	古墳時代前・中期

3-3面の出土遺物

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000103	石鏃	残長 2.48 幅 1.24 厚 0.46	先端欠損。やや細長の有茎鏃。菱形を呈する。表裏面より細かい刻離調整施される	黒色頁岩	第201図	PL100

第48表 3区1面の出土遺物一覧 (その14)
3区2面の出土遺物一覧
3区3面の出土遺物一覧

3-4 調査面に拘らない遺物

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
試掘グリッド					
1	11-000897	土師器坏体部	5	9	奈良・平安時代中心
2	11-000898	土師器坏底部	3	6	奈良・平安時代中心
3	11-000899	縄文土器	1	9	時期不明
4	11-000960	須恵器碗体部	2	8	平安時代

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3区全域					
5	51-000009	馬歯	少量		小片3点
6	11-001385	青磁碗体部	1	4	龍泉窯系
7	11-001386	青磁碗底部	2		龍泉窯系

3-1-23号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値(cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000301	青磁碗	残存 3.1×3.0 厚 0.46	口縁部破片。外面蓮弁文、だれる	龍泉窯系、13世紀 中葉～後葉	第158図	PL93

第49表 3区の調査面に拘らない出土遺物

遺物一覧

4区の出土遺物

4-1 1区1面の出土遺物

4-1-2号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000295	青磁碗	残存 2.8×5.2 厚 0.7	体～腰部破片。回転軸整形痕残る。濃緑色	龍泉窯系?	第205図	PL106

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-000961	土師器坏底部	1	8	奈良・平安時代頃	5	11-001394	焼締陶器甕	1	12	知多
3	11-000985	須恵器甕体部	2	104	奈良・平安時代中心	4-1面					
4	11-000986	須恵器甕底部	1	44	奈良・平安時代頃	1	11-001310	陶器	1	7	瀬戸美濃

4-1-3号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	20-000104	砥石	幅 2.1 残存 7.9×4.3	上方欠損、裏面剥離欠損、表面剥離部分有り。上・左右側面に研磨痕と削痕残る		第202図	PL106
2	90-000019	ガラス瓶	底径 1.7 残高 3.6	口縁欠損。気泡多い透明ガラス使用。表面に「萬泉堂」の隆線の印刻	近代	第202図	PL106

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000963	土師器甕底部	2	6	奈良・平安時代頃	10	11-001397	陶器碗体部	3		瀬戸美濃
4	11-000964	土師器坏底部	1	6	奈良・平安時代頃	11	11-001398	陶器碗底部	1		瀬戸美濃
5	11-000965	土師器坏体～底部	1	3	奈良・平安時代頃	12	11-001399	陶器播鉢体部	1	84	境
6	11-000987	須恵器碗口縁部	1	3	平安時代	13	11-001400	磁器碗底部	5	72	肥前
7	11-000988	須恵器碗体～底部	1	3	平安時代	14	11-001401	磁器碗体部	1		肥前
8	11-001395	磁器碗口縁部	1	9	瀬戸美濃	15	11-001402	軟質陶器鉢口縁	1		在地、中世
9	11-001396	磁器碗口縁部	1	9	産地不明、近代	16	11-001403	軟質陶器鉢体部	6	131	在地、中世

4-1-4号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000966	土師器甕体部	2	5	奈良・平安時代中心

4-1-7号溝

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000989	須恵器甕体部	1	12	奈良・平安時代頃

4-1-5号溝

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)	形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	10-000296	青磁碗	残存 3.2×2.9 厚 0.4	口縁破片。外面蓮弁文、だれる	龍泉窯系、13世紀中葉～後葉	第205図	PL106

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001404	焼締陶器播鉢体部	1	15	知多

4-1-水田面

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000967	土師器甕体部	3	5	奈良・平安時代中心	2	11-000962	土師器甕底部	1	4	平安時代、7号溝東ピット

4-1-1号土坑

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-001291	焼締陶器甕体部	1	19	知多

4-1-1面遺構外の遺物

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000968	土師器甕体部	10	19	奈良・平安時代中心	7	11-000974	土師器高坏脚部	1	6	古墳時代
2	11-000969	土師器碗口縁部	1	10	平安時代	8	11-000990	須恵器甕体部	1	36	奈良・平安時代中心
3	11-000970	土師器碗体～底部	2	37	平安時代	9	11-000991	須恵器碗口縁部	4	12	平安時代
4	11-000971	土師器坏口縁部	11	20	奈良・平安時代中心	10	11-000992	須恵器高台付碗	2	11	平安時代
5	11-000972	土師器坏体～底部	11	25	奈良・平安時代中心	11	11-000993	須恵器碗体部	4	28	平安時代
6	11-000973	土師器坏底部	3	4	奈良・平安時代中心	12	11-001406	陶器碗	2	21	瀬戸美濃

第50表の1 4区1面の出土遺物一覧(その1)

遺物一覧

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
13	11-001407	磁器碗	1	10	肥前
14	11-001408	焼締陶器甕体部	1	29	在地
15	11-001409	磁器碗	1		産地不明、近代
16	11-001410	磁器碗	4		肥前
17	11-001411	磁器碗	1		肥前

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
18	11-001412	磁器碗	2	11	産地不明、近代
19	11-001413	焼締陶器甕	4	200	知多
東部圃場整備掘り込み					
20	11-000994	須恵器坏体～底部	1	4	奈良・平安時代頃
21	11-000995	磁器碗	1	5	産地不明

第50表の2 4区1面の出土遺物一覧(その2)

4-1 4区2・3面の出土遺物

4-2・3-1号トレンチ

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000975	土師器甕口縁部	4	25	奈良・平安時代中心
2	11-000976	土師器甕体部	7	19	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
3	11-000977	土師器坏底部	12	47	奈良・平安時代中心
4	11-000996	須恵器碗体～底部	4	29	平安時代

4-2・3-2号トレンチ

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000997	須恵器碗口縁部	1	5	平安時代
2	11-000998	須恵器高台付碗	3	65	平安時代
3	11-000978	土師器甕体部	4	8	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000979	土師器坏口縁部	2	8	奈良・平安時代中心
5	11-000980	土師器坏体～底部	3	9	奈良・平安時代中心

4-2-3-2号トレンチ

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
1	11-000999	須恵器碗口縁部	3	12	平安時代
2	11-001000	須恵器碗体～底部	2	5	平安時代
3	11-000981	土師器甕口縁部	2	16	奈良・平安時代中心

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
4	11-000982	土師器甕体部	17	26	奈良・平安時代中心
5	11-000983	土師器坏口縁部	4	16	奈良・平安時代中心
6	11-000984	土師器坏体～底部	8	8	奈良・平安時代中心

第51表 4区2～3面の出土遺物

遺物一覧

1～4区全域の出土遺物

No.	資料番号	資料名称	測定値 (cm)		形状・整形・調整等の特徴	備考	図面番号	図版番号
1	40-000028	キセル火皿	径 1.8×1.8	残高 1.0	火皿破片	時期不詳	—	PL106

No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考	No.	資料番号	資料名称	数量	重量(g)	備考
2	11-001001	土師器甕体部	21	19	古墳時代以降	18	11-001017	土師器坏底部	15	25	奈良・平安時代中心
3	11-001002	土師器碗口縁部	1	4	古墳時代以降	19	11-001018	陶器甕体部	1	33	
4	11-001003	土師器碗体部	6	6	古墳時代以降	20	11-001019	須恵器碗口縁部	4	8	平安時代
5	11-001004	土師器坏底部	14	13	奈良・平安時代中心	21	11-001020	須恵器碗体部	5	12	平安時代
6	11-001005	灰軸陶器	1	4	平安時代	22	11-001021	須恵器高台付碗体～底部	3	7	平安時代
7	11-001006	陶器	2	5		23	11-001022	須恵器瓶体部	3	18	平安時代
8	11-001007	古式土師器台坏甕口縁部	1	8	古墳時代前期	24	11-001023	陶器	1	14	
9	11-001008	古式土師器甕体部	26	93	古墳時代前・中期	25	11-001024	磁器口縁～底部	1	6	
10	11-001009	古式土師器台付甕体部	22	67	古墳時代前期	26	11-001387	磁器碗口縁部	1	11	産地不明
11	11-001010	古式土師器高坏脚部	2	12	古墳時代前・中期	27	11-001388	陶器碗口縁部	1		産地不明
12	11-001011	古式土師器壺体部	14	80	古墳時代前・中期	28	11-001389	陶器碗体～底部	5		産地不明
13	11-001012	土師器甕口縁部	9	22	奈良・平安時代中心	29	11-001390	磁器碗口縁部	1	13	肥前
14	11-001013	土師器甕体部	78	136	奈良・平安時代中心	30	11-001391	陶器碗体～底部	4	89	瀬戸美濃
15	11-001014	土師器甕底部	1	8	奈良・平安時代中心	31	11-001392	青磁碗体部	1		龍泉窯系
16	11-001015	土師器坏口縁部	13	17	奈良・平安時代中心	32	11-001393	陶器碗底部	1		
17	11-001016	土師器坏体部	34	38	奈良・平安時代中心	33	51-000015	骨片	少量		細片

第52表 1～4区全域の出土遺物

3区1面屋敷遺構内所在ピット一覽

No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域						
	径EW	径NS	深さ					径EW	径NS	深さ					径EW	径NS	深さ									
14	16	×	18	×	7	□		南西域	69	29	×	34	×	46	○		南西域	123	33	×	37	×	46	□		南西域
15	31	×	(32)	×	23	□		南西域	70	32	×	39	×	47	□		南西域	124	30	×	27	×	8	□		南西域
16	28	×	(32)	×	4	□	○	南西域	71	21	×	25	×	31	□	○	南西域	125	25	×	27	×	37	□	○	南西域
17	16	×	21	×	18	○		南西域	72	28	×	34	×	2	○		南西域	126	28	×	23	×	20	□		南西域
18	17	×	25	×	6	□		南西域	73	20	×	33	×	19	○		南西域	127	20	×	23	×	9	○		南西域
19	(16)	×	28	×	25	□		南西域	75A	20	×	24	×	16	○		南西域	128	23	×	25	×	32	○		南西域
20	(14)	×	(26)	×	60	○		南西域	75B	14	×	23	×	15	○		南西域	129	22	×	26	×	34	○		南西域
21	24	×	28	×	8	□	○	南西域	76	(23)	×	(28)	×	16	□		南西域	130	25	×	40	×	39	□	○	南西域
22	26	×	36	×	38	□		南西域	77	27	×	(23)	×	18	□		南西域	131	19	×	20	×	32	□		南西域
23	30	×	39	×	60	□		南西域	78	20	×	25	×	13	□		南西域	132	25	×	28	×	39	○		南西域
24	27	×	23	×	7	○		南西域	79	10	×	13	×	14	○		南西域	133	22	×	25	×	36	□		南西域
25	22	×	23	×	30	□		南西域	80	24	×	31	×	9	□		南西域	134	30	×	30	×	48	□	○	南西域
26	26	×	(21)	×	5	○		南西域	81	16	×	26	×	15	○		南西域	135	30	×	48	×	40	□		南西域
27	15	×	21	×	21	□		南西域	82	28	×	34	×	46	□		南西域	136	30	×	41	×	48	□		南西域
28	(23)	×	30	×	27	○		南西域	83	25	×	28	×	19	□		南西域	137	(17)	×	25	×	8	□		南西域
29	36	×	47	×	32	○	○	南西域	84	20	×	22	×	21	□		南西域	138	33	×	40	×	49	○		南西域
30	25	×	25	×	43	○		南西域	85	23	×	23	×	32	□		南西域	139	(25)	×	34	×	32	○	○	南西域
31	18	×	21	×	17	○		南西域	86	25	×	34	×	43	□	○	南西域	140	23	×	25	×	36	□	○	南西域
32	29	×	31	×	17	○		南西域	87	22	×	52	×	36	□	○	南西域	141	21	×	28	×	9	○		南西域
33	33	×	35	×	18	○		南西域	88	15	×	17	×	22	□		南西域	142	17	×	25	×	22	□		南西域
34	31	×	30	×	54	○		南西域	89	22	×	21	×	15	○		南西域	143	15	×	19	×	17	□		南西域
35	21	×	24	×	50	□		南西域	90	20	×	(30)	×	48	□		南西域	144	28	×	30	×	34	○		南西域
36	34	×	35	×	60	○		南西域	91	26	×	34	×	56	○		南西域	145	24	×	(30)	×	46	□		南西域
37	32	×	33	×	20	□		南西域	92	17	×	30	×	23	□		南西域	146	33	×	35	×	58	○		南西域
38	27	×	30	×	50	□		南西域	93	22	×	(31)	×	14	□	○	南西域	147	26	×	27	×	22	□		南西域
39	23	×	32	×	28	□		南西域	94	25	×	33	×	44	□		南西域	148	(8)	×	16	×	10	□		南西域
40	30	×	31	×	36	○		南西域	95	36	×	48	×	39	○		南西域	149	34	×	35	×	43	○		南西域
41	14	×	18	×	15	□		南西域	96	36	×	44	×	38	□	○	南西域	150	(7)	×	31	×	17	○		南西域
42	24	×	34	×	35	□		南西域	97	(25)	×	31	×	28	○	○	南西域	151	18	×	21	×	19	□		南西域
43	30	×	37	×	41	□		南西域	98	31	×	41	×	31	○	○	南西域	152	19	×	25	×	35	○		南西域
44	20	×	23	×	25	□		南西域	99	23	×	28	×	7	○		南西域	153	30	×	41	×	18	○		南西域
45	13	×	15	×	14	□		南西域	100	28	×	35	×	35	○		南西域	154	29	×	29	×	41	□		南西域
46	27	×	30	×	41	○		南西域	101	30	×	(51)	×	21	□		南西域	155	32	×	(31)	×	9	□		南西域
47	20	×	28	×	20	□	○	南西域	102	30	×	(46)	×	19	□		南西域	156	24	×	37	×	19	□		南西域
48	13	×	18	×	19	□		南西域	103	(16)	×	26	×	7	□		南西域	157	23	×	42	×	26	□		南西域
49	22	×	24	×	31	○		南西域	104	33	×	35	×	45	○		南西域	158	15	×	17	×	20	□		南西域
50	23	×	25	×	15	○		南西域	105	(32)	×	43	×	51	□		南西域	159	20	×	32	×	13	□		南西域
51	25	×	28	×	29	○		南西域	106	(27)	×	30	×	45	○		南西域	161	36	×	42	×	27	○	○	南西域
52	31	×	33	×	35	○		南西域	107	23	×	27	×	35	□		南西域	162	30	×	35	×	35	○		南西域
53	21	×	23	×	18	○		南西域	108	28	×	40	×	16	□		南西域	163	(32)	×	39	×	9	○		南西域
54	20	×	24	×	27	○		南西域	109	20	×	(20)	×	10	□		南西域	164	16	×	19	×	4	○		南西域
55	63	×	54	×	32	○		南西域	110	16	×	15	×	18	□		南西域	165	16	×	20	×	12	○		南西域
56	21	×	21	×	15	□		南西域	111	22	×	27	×	51	□		南西域	166	34	×	34	×	13	○		南西域
57	18	×	20	×	33	□		南西域	112	24	×	23	×	45	□		南西域	167	34	×	46	×	20	○		南西域
58	18	×	19	×	25	□		南西域	113	17	×	20	×	26	□		南西域	168	15	×	23	×	9	□		南西域
59	24	×	22	×	20	○		南西域	114	26	×	33	×	33	○		南西域	169	20	×	25	×	59	□		南西域
60	24	×	22	×	37	□		南西域	115	33	×	(43)	×	16	□		南西域	170	22	×	30	×	1	○		南西域
61	33	×	(35)	×	55	□		南西域	116	22	×	27	×	21	○		南西域	171	24	×	30	×	9	□		南西域
62	36	×	(37)	×	34	□		南西域	117	(10)	×	17	×	13	□		南西域	172	37	×	50	×	40	□		南西域
63	20	×	24	×	26	○		南西域	118	43	×	40	×	39	□		南西域	173	22	×	22	×	23	□		南西域
64	20	×	22	×	24	□		南西域	119A	20	×	22	×	32	□		南西域	174	17	×	24	×	14	○		南西域
65	21	×	23	×	41	□		南西域	119B	(15)	×	24	×	33	○		南西域	175	24	×	27	×	10	○	○	南西域
66	22	×	25	×	34	□		南西域	120	15	×	15	×	21	□		南西域	176	33	×	37	×	39	□		南西域
67	23	×	25	×	57	○		南西域	121	19	×	24	×	5	○		南西域	177	23	×	27	×	38	○		南西域
68	28	×	37	×	26	○		南西域	122	33	×	42	×	45	□		南西域	178	25	×	24	×	47	□		南西域

第53表 3区1面屋敷遺構内ピット一覽 (その1)

遺構一覧

No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域
	径EW	径NS	深さ					径EW	径NS	深さ					径EW	径NS	深さ			
179	25	33	33	□		南西域	237	18	17	6	□		南西域	285	10	15	3	□		南西域
180	20	19	8	□		南西域	238	22	24	36	□		南西域	286	21	24	20	○		南西域
181	23	25	20	□		南西域	239	19	44	36	□		南西域	287	17	26	5	○		南西域
182	30	40	51	○		南西域	240	15	15	24	○		南西域	288	27	27	12	○		南西域
183	24	27	10	□		南西域	241	21	28	1	○		南西域	289	16	21	13	○		南西域
184	(46)	49	40	○		南西域	242	13	17	24	○		南西域	290	17	16	4	□		南西域
185	(25)	(25)	2	□	○	南西域	243	13	16	17	□		南西域	291	18	14	13	○		南西域
186	(18)	(20)		○		南西域	244	33	40	56	○		南西域	292	21	22		○		南西域
187	14	18	40	○		南西域	245A	14	16	26	□		南西域	294	15	15	26	○		南西域
188	20	22	48	□		南西域	245B	34	50	63	○		南西域	295A	19	15	24	○		南西域
189	19	22	22	□		南西域	246A	25	30	40	○		南西域	295B	18	22	13	○		南西域
190	18	21	13	○		南西域	246B	26	21	16	□		南西域	296	22	26	16	○		南西域
191	28	(43)	14	□		南西域	247A	22	26	37	□		南西域	297	18	23	15	○		南西域
192	(20)	(25)		□	○	南西域	247B	14	17	14	□		南西域	298	14	15	15	□		南西域
193	22	28	14	○	○	南西域	248A	25	25	20	□		南西域	299	27	20	5	○		南西域
194	21	27	8	○		南西域	248B	19	20	13	○		南西域	303	21	19	13	○		南東城南部
195	26	38	48	○		南西域	249A	23	35	36	□		南西域	304	20	32	22	○		南東城南部
196	29	30	39	○		南西域	249B	37	47	30	○		南西域	305	41	31	23	○		南東城南部
197	44	33	22	□		南西域	250A	21	25	24	○		南西域	307	28	22	1	○		南東城南部
198	25	31	38	□		南西域	250B	15	19	12	○		南西域	308	53	60	44	○		南東城南部
199	20	22	32	□		南西域	251A	27	27	36	○		南西域	309	15	9	16	○		南東城南部
200	19	20	16	○		南西域	251B	23	29	11	□		南西域	310	37	36	34	□		南東城南部
201	35	42	42	□		南西域	252A	11	16	4	○		南西域	311	16	24	4	○		南東城南部
202	20	37	40	□	○	南西域	252B	17	23	34	□		南西域	312	40	33	76	○		南東城南部
203	15	20	5	○		南西域	253A	13	16	16	○		南西域	313	(47) × (17)	52	○		南東城南部	
204	16	20	9	□		南西域	253B	15	30	45	○		南西域	314	(35) × (33)	32	○		南東城南部	
205	18	21	5	□		南西域	254	17	20	6	○		南西域	315	18	22	10	□		南東城南部
206	17	(19)	6	□		南西域	255	27	26	17	○		南西域	316	30	34	67	○		南東城南部
207	(25)	(18)	40	□		南西域	256B	27	26	17	○		南西域	317	67	50	46	□		南東城南部
208	(27)	(36)	42	□	○	南西域	256	33	44	39	○		南西域	318	15	18	27	□		南東城南部
209	27	(19)	41	○		南西域	257	35	26	42	□		南西域	319	20	19	10	○		南東城南部
210	25	36	46	□	○	南西域	258	38	40	49	□		南西域	320	54	19	3	○		南東城南部
211	18	22	21	□		南西域	259	30	45	73	□		南西域	321	20	23	20	○		南東城南部
212	14	18	12	□		南西域	260	30	35	30	○		南西域	322	26	26	18	□		南東城南部
213	22	21	28	□		南西域	261	19	28	8	○		南西域	323	35	32	24	○		南東城南部
214	36	41	40	□		南西域	262	31	26	29	□		南西域	324	(38) × (37)	8	○		南東城南部	
215	18	19	42	□	○	南西域	263	27	30	43	□		南西域	325	27	30	34	○		南東城南部
216	49	(45)	52	○	○	南西域	264	25	27	36	□		南西域	326	26	28	21	□		南東城南部
217	17	18	10	□		南西域	265	25	21	13	□		南西域	328	28	26	20	□		南東城南部
218	14	17	9	□		南西域	266	25	33	29	□		南西域	329A	10	9	2	○		南東城南部
219	17	20	13	○		南西域	267	38	37	21	○		南西域	329B	25	23	4	□		南東城南部
220	(20)	(41)	25	□		南西域	268	28	37	24	□		南西域	330	14	11	4	○		南東城南部
221	53	53	54	○		南西域	269	17	26	2	□		南西域	331	11	16	3	□		南東城南部
222	30	29	11	○	○	南西域	270	15	17	10	○	○	南西域	332	18	25	32	□		南東城南部
223	12	14	2	○		南西域	271	31	35	15	□		南西域	333	33	35	28	○		南東城南部
224	31	27	32	○		南西域	272	16	18	32	□		南西域	334	26	18	14	○		南東城南部
225	28	33	50	□		南西域	273	22	27	32	○		南西域	335	25	16	2	○		南東城南部
226	27	(25)	21	○		南西域	274	17	15	13	○		南西域	336	20	25	10	○		南東城南部
227	15	17	6	□		南西域	275	37	42	29	○		南西域	337	21	21	4	○		南東城南部
228	52	41	12	□		南西域	276	45	30	23	○	○	南西域	338	23	41	2	○		南東城南部
229	23	29	22	□		南西域	277	15	17	27	○		南西域	339	20	19	13	○		南東城南部
230	40	38	65	○		南西域	278	23	23	11	○		南西域	340	26	32	15	○		南東城南部
231	33	41	71	□		南西域	279	26	(31)	44	□		南西域	341	(14) × 22		○			南東城南部
232	59	43	54	○		南西域	280	(18) × (23)	38	□			南西域	342	(20) × (32)	15	□			南東城南部
233	36	33	50	□		南西域	281	(17) × (18)	40	□			南西域	343	(18) × (15)		□			南東城南部
234	24	26	43	○		南西域	282	12	18	13	○		南西域	344	18	× (23)	8	□		南東城南部
235	28	28	40	□		南西域	283	33	34	9	○		南西域	345	26	26	29	○		南東城南部
236	15	(11)	10	□		南西域	284	(20) × (16)	12	□			南西域	346	45	30	45	○		南東城南部

第54表 3区1面屋敷遺構内ピット一覧(その2)

遺構一覽

No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域				
	径EW	径NS	深さ					径EW	径NS	深さ					径EW	径NS	深さ							
347	35	×	33	×	○	南東城南部	406	19	×	19	×	20	□	南東城北部	464	20	×	23	×	47	□	南東城北部		
348	29	×	32	×	17	○	南東城南部	407	27	×	23	×	18	□	南東城北部	465	21	×	16	×	15	○	南東城北部	
349	32	×	34	×	18	○	南東城北部	408	38	×	27	×	33	○	南東城北部	466	23	×	18	×	51	□	南東城北部	
350	19	×	20	×	23	□	南東城北部	409	23	×	29	×	32	□	南東城北部	467	34	×	28	×	13	○	南東城北部	
351	23	×	24	×	25	□	南東城北部	410	(18)	×	16	×	32	□	南東城北部	468	17	×	19	×	57	□	南東城北部	
352	11	×	14	×	6	○	南東城北部	411	34	×	40	×	10	○	南東城北部	469	15	×	18	×	17	□	南東城北部	
353	18	×	23	×	20	○	南東城北部	412	(16)	×	13	×	15	□	南東城北部	470	39	×	28	×	2	○	南東城北部	
354	18	×	20	×	29	○	南東城北部	413	23	×	30	×	36	□	南東城北部	471	26	×	22	×	3	□	南東城北部	
355	23	×	20	×	21	○	南東城北部	414	23	×	25	×	29	○	南東城北部	472	20	×	27	×	5	○	南東城北部	
356	24	×	21	×	21	□	南東城北部	415	19	×	25	×	21	○	南東城北部	473	35	×	47	×	6	○	南東城北部	
357	(26)	×	26	×	27	□	南東城北部	416	20	×	20	×	1	○	南東城北部	474	10	×	13	×	20	□	南東城北部	
358	42	×	32	×	21	○	○	南東城北部	417	18	×	18	×	32	○	南東城北部	475	18	×	17	×	24	□	南東城北部
359	20	×	30	×	23	○	南東城北部	418	20	×	21	×	23	□	南東城北部	476	19	×	22	×	39	□	南東城北部	
360	20	×	15	×	3	○	南東城北部	419	30	×	33	×	32	□	南東城北部	477	19	×	16	×	38	□	南東城北部	
361	28	×	22	×	9	○	○	南東城北部	420	21	×	23	×	37	□	南東城北部	478	20	×	23	×	12	○	南東城北部
362	31	×	37	×	14	○	南東城北部	421	27	×	36	×	33	○	南東城北部	479	25	×	28	×	6	○	南東城北部	
363	13	×	17	×	9	○	南東城北部	422	20	×	28	×	○	南東城北部	480	20	×	27	×	4	□	南東城北部		
364	21	×	31	×	30	□	南東城北部	423	23	×	32	×	6	○	南東城北部	481	14	×	16	×	1	□	南東城北部	
365	33	×	30	×	30	○	南東城北部	424	9	×	9	×	2	○	南東城北部	482	30	×	32	×	17	○	南東城北部	
366	33	×	35	×	38	○	南東城北部	425	22	×	30	×	22	□	南東城北部	483	17	×	25	×	7	○	南東城北部	
367	25	×	27	×	32	□	南東城北部	426	50	×	47	×	42	○	○	南東城北部	484	14	×	16	×	7	□	南東城北部
368	21	×	30	×	24	○	南東城北部	427	32	×	32	×	43	□	南東城北部	485	22	×	24	×	7	○	南東城北部	
369	16	×	18	×	6	□	南東城北部	428	16	×	18	×	9	○	南東城北部	486	27	×	38	×	49	○	南東城北部	
370	18	×	(25)	×	23	○	南東城北部	429	20	×	27	×	20	○	南東城北部	487	29	×	25	×	33	□	南東城北部	
371	17	×	(15)	×	6	□	南東城北部	430	17	×	30	×	25	○	南東城北部	488	(25)	×	30	×	41	□	南東城北部	
372	15	×	12	×	4	□	南東城北部	431	44	×	43	×	30	○	南東城北部	489	28	×	24	×	19	○	南東城北部	
373	16	×	13	×	13	○	南東城北部	432	20	×	25	×	30	○	○	南東城北部	490	17	×	16	×	21	□	中域中南部
374	11	×	15	×	7	□	南東城北部	433	20	×	28	×	25	○	南東城北部	491	22	×	23	×	11	□	南東城北部	
375	22	×	17	×	6	□	南東城北部	434	20	×	20	×	21	□	南東城北部	492	22	×	24	×	23	□	中域中南部	
376	20	×	20	×	31	□	南東城北部	435	22	×	20	×	19	○	南東城北部	493	24	×	30	×	43	□	中域中南部	
377	(15)	×	14	×	6	○	南東城北部	436	28	×	28	×	66	□	南東城北部	494	17	×	16	×	24	□	南東城北部	
378	23	×	27	×	45	□	南東城北部	437	38	×	42	×	24	○	○	南東城北部	495	7	×	9	×	22	○	南東城北部
379	27	×	22	×	28	□	南東城北部	438	-11	×	-17	×	○	南東城北部	496	15	×	17	×	30	□	南東城北部		
380	15	×	22	×	6	□	南東城北部	439	(21)	×	37	×	24	□	南東城北部	497	21	×	25	×	61	□	南東城北部	
381	28	×	32	×	49	○	南東城北部	440	18	×	26	×	17	□	南東城北部	498	20	×	17	×	42	○	南東城北部	
382	10	×	13	×	6	○	南東城北部	441	25	×	22	×	19	□	南東城北部	499	23	×	26	×	28	□	南東城北部	
383	17	×	20	×	5	○	南東城北部	442	29	×	20	×	5	○	南東城北部	500	21	×	17	×	4	□	中域中南部	
384	25	×	26	×	26	□	南東城北部	443	20	×	24	×	15	□	南東城北部	501	31	×	26	×	8	○	中域中南部	
385	27	×	31	×	18	○	南東城北部	444	25	×	41	×	22	○	南東城北部	502	32	×	37	×	11	○	中域中南部	
386	28	×	33	×	24	□	南東城北部	445	19	×	(15)	×	47	□	南東城北部	503	34	×	36	×	11	○	中域中南部	
387	25	×	22	×	33	○	南東城北部	446	36	×	50	×	47	○	南東城北部	504	19	×	(18)	×	4	□	南東城北部	
389	16	×	21	×	30	○	南東城北部	447	17	×	(10)	×	52	□	南東城北部	505	30	×	27	×	18	□	南東城北部	
390	25	×	23	×	35	□	南東城北部	448	43	×	35	×	35	□	○	南東城北部	506	23	×	21	×	22	□	中域中南部
391	15	×	13	×	124	○	南東城北部	449	16	×	10	×	16	□	南東城北部	507	24	×	23	×	58	□	中域中南部	
392	30	×	31	×	11	□	南東城北部	450	23	×	27	×	60	□	南東城北部	508	32	×	24	×	19	□	南東城北部	
393	19	×	25	×	14	○	南東城北部	451	23	×	23	×	34	□	南東城北部	509	17	×	16	×	32	○	中域中南部	
394	27	×	33	×	37	○	南東城北部	452	28	×	26	×	13	□	南東城北部	510	20	×	24	×	18	○	南東城北部	
395	23	×	27	×	47	□	南東城北部	453	21	×	27	×	25	□	南東城北部	511	28	×	30	×	20	□	中域中南部	
396	9	×	11	×	13	○	南東城北部	454	(6)	×	14	×	2	□	南東城北部	512	11	×	14	×	7	□	中域中南部	
397	30	×	28	×	42	□	南東城北部	455	17	×	20	×	8	□	南東城北部	513	16	×	17	×	12	□	中域中南部	
398	19	×	20	×	9	□	南東城北部	456	18	×	22	×	24	□	南東城北部	514	15	×	21	×	2	□	中域中南部	
399	25	×	30	×	37	○	南東城北部	457	26	×	17	×	7	○	南東城北部	515	15	×	16	×	2	□	中域中南部	
400	26	×	30	×	31	○	南東城北部	458	17	×	16	×	45	□	南東城北部	516	25	×	18	×	10	□	中域中南部	
401	(10)	×	15	×	31	□	南東城北部	459	23	×	24	×	17	□	南東城北部	517	33	×	32	×	6	○	中域中南部	
402	24	×	23	×	16	□	南東城北部	460	18	×	27	×	52	○	南東城北部	518	48	×	35	×	11	○	中域中南部	
403	13	×	(16)	×	20	○	南東城北部	461	22	×	28	×	□	○	南東城北部	519	36	×	30	×	10	○	中域中南部	
404	21	×	24	×	36	□	○	南東城北部	462	31	×	22	×	31	○	南東城北部	520	40	×	28	×	19	○	中域中南部
405	21	×	18	×	32	□	南東城北部	463	(8)	×	17	×	15	○	南東城北部	521	21	×	18	×	12	○	中域中南部	

第55表 3区1面屋敷遺構内ピット一覽 (その3)

遺構一覧

No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域
	径EW × 径NS × 深さ							径EW × 径NS × 深さ							径EW × 径NS × 深さ					
522	14 × 15 × 5			○		中域中南部	582	31 × 31 × 50		□		中域中南部	639	21 × 24 × 25		○		中域中南部		
523	(19) × 24 × 14			□		中域中南部	583	40 × (29) × 31		□		中域中南部	640	12 × 12 × 19		○		中域中南部		
524	32 × 26 × 17			□		中域中南部	584	30 × 35 × 54		□		中域中南部	641	--- × --- × ---				中域中南部		
526	24 × 37 × 8			○		中域中南部	585	25 × (31) × 17		○		中域中南部	642	41 × 37 × 48		□	○	中域中南部		
527	34 × 28 × 47			□		中域中南部	586	22 × 39 × 41		□		中域中南部	643	22 × (17) × 7		□		中域中南部		
528	27 × 24 × 7			○		中域中南部	587	32 × 54 × 46		○	○	中域中南部	644	18 × 15 × 4		○		中域中南部		
529	16 × 17 × 6			○		中域中南部	588	(18) × 18 × 10		□		中域中南部	645	17 × 30 × 10		□		中域中南部		
530	24 × 24 × 43			○		中域中南部	589	29 × 29 × 20		□		中域中南部	646	(20) × 26 × 43		○		中域中南部		
531	36 × 40 × 7			○		中域中南部	590	26 × 28 × 36		□		中域中南部	647	36 × 35 × 51		□		中域中南部		
532	20 × 16 × 12			□		中域中南部	591	27 × 31 × 31		○		中域中南部	648	18 × 18 × 7		○		中域中南部		
533	16 × 15 × 7			□		中域中南部	592	23 × 19 × 20		□		中域中南部	649	15 × 13 × 43		○		中域中南部		
534	17 × 21 × 15			□		中域中南部	593	31 × 28 × 36		○		中域中南部	650	(30) × 47 × 29		□		中域中南部		
535	45 × 23 × 19			□		中域中南部	594	38 × 43 × 44		□		中域中南部	651	42 × 45 × 55		□		中域中南部		
536	31 × 17 × 6			○		中域中南部	595	32 × (20) × 28		○		中域中南部	652	(33) × 57 × 49		□		中域中南部		
537	28 × 32 × 12			○		中域中南部	596	29 × 31 × 47		□		中域中南部	653	29 × 38 × 36		□		中域中南部		
538	35 × 46 × 52			○		中域西部	597	18 × 18 × 11		○		中域中南部	654	(39) × (34) ×		□		中域中南部		
539	(39) × 52 × 9			○		中域西部	598	25 × 18 × 19		□		中域中南部	656	36 × (24) × 66		○	○	中域中南部		
540	23 × 20 × 26			□		中域西部	599	18 × 18 × 22		○		中域中南部	657	45 × 63 × 44		□		中域中南部		
541	28 × 28 × 27			○		中域西部	600	(50) × 38 × 33		○	○	中域中南部	658	32 × 27 × 23		□		中域中南部		
542	20 × 25 × 31			□		中域西部	601	30 × 44 × 38		□		中域中南部	659	(34) × 26 × 50		□		中域中南部		
543	18 × 23 × 19			□		中域西部	602	53 × (67) × 30		○		中域中南部	660	33 × 30 × 49		□		中域中南部		
544	26 × 20 × 25			○		中域西部	603	41 × 38 × 36		□		中域中南部	661	17 × (14) × 27		□		中域中南部		
545	17 × 18 × 14			□		中域西部	604	(40) × (18) × 31		○		中域中南部	662	44 × 53 × 14		□		中域中南部		
546	22 × 23 × 27			□		中域西部	605	37 × 50 × 23		□		中域中南部	663	18 × 23 × 25		○		中域中南部		
547	19 × 18 × 6			□		中域西部	606	28 × 41 × 21		□	○	中域中南部	664	20 × 20 × 43		□		中域中南部		
548	22 × 17 × 26			□		中域西部	607	35 × 23 ×		○		中域中南部	665	7 × 10 × 13		□		中域中南部		
549	25 × 26 × 22			○		中域西部	608	45 × 35 ×		○	○	中域中南部	666	(8) × (40) ×		□		中域中南部		
550	27 × 30 × 30			□		中域西部	609	23 × 32 × 34		□		中域中南部	667	43 × --- ×		○		中域中南部		
551	30 × (33) × 44			□		中域西部	610	19 × 30 × 34		□		中域中南部	668	20 × 24 × 20		○		中域中南部		
552	22 × 25 × 12			□		中域西部	611	39 × 36 × 18		○	○	中域中南部	669	33 × 38 × 13		○		中域中南部		
553	20 × 19 × 13			○		中域西部	612	35 × 42 × 52		○		中域中南部	670	38 × 42 × 21		○	○	中域中南部		
554	25 × 32 × 63			○		中域中南部	613	18 × 23 × 10		□		中域中南部	671	47 × 43 × 27		□		中域中南部		
555	(30) × 29 × 57			□		中域中南部	614	25 × 27 × 39		□		中域中南部	672	21 × 17 × 21		□		中域中南部		
556	12 × 17 × 7			○		中域中南部	615	37 × 40 × 47		□		中域中南部	673	29 × 30 × 24		□		中域中南部		
557	30 × 44 × 35			□		中域中南部	616	33 × 25 × 21		□		中域中南部	674	28 × 34 × 19		○		中域中南部		
558	25 × (40) × 30			□		中域中南部	617	30 × 30 × 63		□		中域中南部	675	37 × 38 × 61		□	○	中域中南部		
559	51 × 32 × 47			□		中域中南部	618	45 × 42 × 43		□		中域中南部	677	24 × (30) × 27		□		中域中南部		
560	16 × (30) × 25			□	○	中域中南部	619	27 × 21 × 46		□		中域中南部	678	48 × 27 × 26		□		中域中南部		
561	(23) × (14) × 19			○		中域中南部	620	(25) × (42) × 33		□		中域中南部	679	11 × 13 × 4		□		中域中南部		
562	36 × (30) × 62			□		中域中南部	621	(18) × 18 × 10		□		中域中南部	680	30 × 25 × 35		○		中域中南部		
563	(25) × 33 × 16			□		中域中南部	622	(11) × 13 × 8		□		中域中南部	681	31 × (25) × 23		□		中域中南部		
564	43 × 37 × 34			□		中域中南部	623	19 × (13) × 13		□		中域中南部	682	13 × 16 × 4		□		中域中南部		
565	29 × 33 × 15			□		中域中南部	624	(35) × 33 × 36		□		中域中南部	683	8 × 7 × 11		□		中域中南部		
567	(27) × 31 × 40			○		中域中南部	625	(14) × 17 × 11		□		中域中南部	684	45 × 38 × 37		○		中域中南部		
568	(28) × 31 × 33			○		中域中南部	626	27 × 17 × 30		□		中域中南部	685	30 × 29 × 48		□		中域中南部		
569	20 × 22 × 13			□		中域中南部	627A	34 × (26) × 49		○		中域中南部	686	(21) × 24 × 45		□	○	中域中南部		
570	47 × 40 ×			□		中域中南部	627B	36 × (28) × 44		○	○	中域中南部	687	25 × 26 × 43		□		中域中南部		
571	(19) × 31 × 26			○		中域中南部	628	21 × 22 × 9		□		中域中南部	688	30 × 30 × 35		□		中域中南部		
572	25 × (37) × 25			□		中域中南部	629	13 × 12 × 5		□		中域中南部	689	25 × 18 × 47		□		中域中南部		
573	20 × 21 × 19			□		中域中南部	630	12 × 13 × 2		○		中域中南部	690	43 × 50 × 34		○		中域中南部		
574	24 × 22 × 15			○		中域西部	631	37 × 35 × 39		□		中域中南部	691	(40) × 35 × 49		□		中域中南部		
575	23 × 26 × 46			□		中域中南部	632	19 × 18 × 25		○		中域中南部	692	41 × 30 × 24		□		中域中南部		
576	26 × 26 × 6			○		南東域北部	633	23 × 15 × 18		○		中域中南部	693	(28) × 31 × 33		□	○	中域中南部		
577	(12) × 22 ×			□		中域中南部	634	17 × 15 × 15		□		中域中南部	694	33 × 40 × 49		□		中域中南部		
578	33 × 43 × 33			○		中域中南部	635	(17) × 25 × 37		□		中域中南部	695	(30) × 20 × 19		□		中域中南部		
579	(20) × 19 × 10			□		中域中南部	636	30 × 53 × 52		□		中域中南部	696	38 × 26 × 32		□		中域中南部		
580	30 × 38 × 57			□		中域中南部	637	(20) × 24 × 30		□		中域中南部	697	34 × (28) × 31		○		中域中南部		
581	(12) × 18 × 20			□		中域中南部	638	30 × 24 × 52		□		中域中南部	698	41 × 37 × 46		□		中域中南部		

第56表 3区1面屋敷遺構内ピット一覧(その4)

遺構一覽

No	柱 穴		形態	礎石	概略区域	No	柱 穴		形態	礎石	概略区域	No	柱 穴		形態	礎石	概略区域
	径EW × 径NS × 深さ						径EW × 径NS × 深さ						径EW × 径NS × 深さ				
699	32 × 42 × 36		□		中域中南部	758	30 × (10) × 13	□		中域西部	818	17 × 17 × 11	□		中域西部		
700	13 × 18 × 40		□		中域中南部	759	48 × (56) × 39	○		中域西部	819	11 × 25 × 3	□		中域西部		
701	19 × 22 × 16		□		中域中南部	760	(19) × 30 × 39	○		中域西部	820	27 × 35 × 13	□	○	中域西部		
702	(16) × 20 × 23		□		中域中南部	761	(20) × 26 × 39	□		中域西部	821	31 × 44 × 35	○		中域西部		
703	26 × 42 × 33		□		中域中南部	762	20 × 27 × 29	○		中域西部	822	16 × 20 × 35	○		中域西部		
704	20 × 16 × 12		□		中域中南部	763	38 × 60 × 11	□	○	中域中南部	823	23 × 30 × 23	□		中域西部		
705	18 × 22 × 17		□		中域中南部	764	21 × 17 × 46	□		中域中南部	824	25 × (40) × 19	□		中域西部		
706	29 × 34 × 23		○		中域中南部	766	9 × 8 × 16	○		中域中央部	825	23 × 26 × 27	○		中域西部		
707	20 × 20 × 26		□		中域中南部	767	20 × 20 × 7	□		中域中央部	826	25 × 31 × 7	□		中域西部		
708	18 × 20 × 18		○	○	中域中南部	768	(16) × 15 × 29	○		中域中央部	827	20 × 20 × 6	○		中域西部		
709	32 × (23) × 19		□	○	中域中南部	769	18 × 18 × 29	□		中域中央部	828	22 × 25 × 4	□		中域西部		
710	31 × 31 × 25		□		中域中南部	770	21 × 21 × 29	□		中域中央部	829	(16) × 19 × 26	□		中域西部		
711	39 × 56 × 50		○		中域中南部	771	16 × 15 × 16	○		中域中央部	830	29 × (30) × 25	□		中域西部		
712	47 × 54 × 35		○		中域中南部	772	17 × 15 × 10	□		中域中南部	831	14 × (21) × 31	○		中域西部		
713	13 × 23 × 17		○		中域中南部	773	22 × 35 × 41	□		中域中南部	832	23 × 23 × 38	□		中域西部		
714	(25) × 24 × 14		○		中域中南部	774	22 × 33 × 14	□		中域中南部	833	20 × 18 × 4	○		中域西部		
715	34 × 52 × 9		○	○	中域中南部	775	35 × 42 × 44	□		中域中南部	834	20 × 38 × 38	□		中域西部		
716	47 × 45 × 36		□		中域中南部	776	23 × (20) × 10	□		中域中南部	835	18 × 34 × 16	□		中域西部		
717	31 × 30 × 43		○		中域中南部	777	16 × 11 × 12	□		中域中南部	836	29 × 34 × 35	○		中域西部		
718	31 × 30 × 68		○		中域中南部	778	12 × 17 × 10	□		中域中央部	838	35 × 35 × 29	○		中域西部		
719	28 × 31 × 37		□		中域中南部	779	18 × 15 × 8	□		中域中央部	839	25 × 31 × 10	○		中域西部		
720	23 × (25) × 9		□		中域中南部	780	19 × 21 × 27	□		中域中央部	840	(20) × (11) ×	○		中域中南部		
721	43 × (40) × 8		□		中域中南部	781	31 × 22 × 10	□		中域中央部	841	34 × 43 × 26	□		中域西部		
722	45 × 60 × 14		□		中域中南部	782	16 × (20) ×	□		中域中央部	842	26 × 28 × 16	□	○	中域西部		
723	12 × (12) × 5		○		中域中南部	783	22 × 26 × 27	□		中域中央部	843	(35) × 27 × 24	○		中域西部		
724	19 × (14) × 5		○		中域中南部	784	22 × 23 × 17	○		中域中央部	844	25 × 25 × 35	○		中域西部		
726	(22) × 29 × 14		□		中域中南部	785	(28) × 26 × 25	□		中域中南部	845	15 × 15 × 18	○		中域西部		
727	28 × 33 × 24		□		中域中南部	786	(26) × 20 × 26	○		中域中南部	846	30 × 27 × 6	□		中域西部		
728	42 × 35 × 50		□		中域中南部	787	(33) × 27 × 26	○		中域中南部	847	31 × 36 × 40	○		中域西部		
729	37 × 40 × 32		□		中域中南部	788	35 × 44 × 23	□		中域中央部	849	19 × 20 × 24	□		中域西部		
730	(32) × 31 × 19		□		中域中南部	789	32 × 45 × 22	□		中域中央部	850	22 × 22 × 31	□		中域西部		
731	30 × 25 × 27		○		中域中南部	790	20 × 23 × 28	□		中域中央部	851	(25) × 25 × 20	○		中域西部		
732	27 × (25) × 21		□		中域中南部	791	16 × 15 × 13	○		中域中南部	852	34 × (35) × 31	○		中域西部		
733	20 × 25 × 20		○		中域中南部	792	12 × 14 × 18	□		中域中央部	853	37 × (27) × 33	○	○	中域西部		
734	23 × 22 × 18		○		中域中南部	793	26 × 28 × 24	○		中域中央部	854	23 × (46) × 25	□		中域西部		
735	32 × (19) × 35		□		中域中南部	794	21 × 11 × 15	○		中域中央部	855	32 × 27 × 49	○		中域西部		
736	40 × 37 × 52		□		中域中南部	795	33 × 26 × 19	□		中域中央部	856	20 × 23 × 20	○		中域西部		
737	37 × (24) ×		○	○	中域中南部	796	29 × 19 × 30	□		中域中央部	857	26 × 25 × 26	○	○	中域西部		
738	(60) × 43 × 39		□		中域中南部	797	28 × (23) × 31	□		中域中央部	858	23 × (31) × 35	○		中域西部		
739	25 × 25 × 19		○	○	中域西部	798	(10) × 24 × 22	□		中域中央部	859	22 × 20 ×	□		中域西部		
740	27 × 27 × 13		○		中域西部	799	36 × 13 × 25	□		中域中央部	860	(25) × (23) ×	□		中域西部		
741	25 × 22 × 9		○		中域西部	800	30 × (17) × 26	□		中域中央部	861	40 × 44 × 21	○		中域西部		
742	14 × 21 × 14		□		中域西部	801	30 × (15) × 26	□		中域中央部	863	18 × 17 × 29	○		中域西部		
743	17 × (23) × 12		○		中域西部	802	24 × 14 × 14	□		中域中央部	864	17 × 45 × 17	□		中域西部		
744	20 × 19 × 27		□		中域西部	803	30 × 26 × 29	□		中域中南部	865	21 × 36 × 14	□	○	中域西部		
745	27 × 23 × 15		□		中域西部	804	26 × 42 × 8	○		中域中南部	866	17 × 19 × 23	○		中域西部		
746	18 × 19 × 13		□		中域西部	805	28 × (23) × 35	□		中域中央部	867	22 × 25 × 22	○		中域西部		
747	22 × 25 × 44		○		中域西部	806	(24) × (48) × 39	□		中域中央部	868	13 × 19 × 32	□		中域西部		
748	(28) × (50) × 18		□		中域西部	807	(50) × 45 × 66	○		中域中央部	869	21 × 31 × 27	□		中域西部		
749	32 × 31 × 40		○	○	中域西部	808	30 × 39 × 18	□		中域西部	870	(23) × 28 × 27	○		中域西部		
750	(40) × (39) × 28		□		中域西部	810	22 × 23 × 26	○		中域西部	871	33 × 31 × 31	□		中域西部		
751	22 × 24 × 20		□		中域西部	811	18 × 21 × 27	□		中域西部	872	25 × 37 × 36	□	○	中域西部		
752	25 × 25 × 46		□		中域西部	812	35 × (36) × 35	○		中域西部	873	(23) × 22 × 32	□		中域西部		
753	18 × 23 × 21		○		中域西部	813	23 × 23 × 11	□		中域西部	874	20 × 21 × 36	○		中域西部		
754	(23) × 23 × 21		□		中域西部	814	22 × 25 × 29	○		中域西部	875	33 × 36 × 37	□		中域西部		
755	21 × 22 × 40		□		中域西部	815	20 × 26 × 15	○		中域西部	876	32 × 24 × 37	□		中域西部		
756	19 × (23) × 12		□		中域西部	816	(25) × 25 × 20	○		中域西部	877	32 × (30) × 15	□		中域西部		
757	10 × 11 × 3		□		中域西部	817	(12) × 18 × 20	□		中域西部	878	21 × (11) × 10	□		中域西部		

第57表 3区1面屋敷遺構内ピット一覽(その5)

遺構一覧

No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域
	径EW × 径NS × 深さ							径EW × 径NS × 深さ							径EW × 径NS × 深さ					
879	31 × 29 × 28	□		中域西部	937	(50) × 36 × 51	○	○	中域中央部	995	25 × 25 × 26	○		中域中央部						
880	15 × 17 × 5	○		中域西部	938	36 × 42 × 23	○	○	中域中央部	996	(35) × (20) × 12	□		中域中央部						
881	31 × 29 × 50	□		中域中央部	939	(39) × (31) × 20	□		中域中央部	997	36 × 52 × 60	○		中域中央部						
882	45 × 42 × 45	□		中域中央部	940	(22) × 28 × 31	□		中域中央部	998	(25) × (16) × 41	□		中域中央部						
883	28 × 30 × 69	□		中域中央部	941	54 × 28 × 21	□		中域中央部	999	(10) × 38 ×	□		中域中央部						
884	30 × 31 × 42	□	○	中域中央部	942	(28) × (14) × 4	□	○	中域中央部	1000	37 × 32 × 42	□		中域中央部						
885	24 × 24 × 32	□		中域中央部	943	31 × 28 × 38	□	○	中域中央部	1001	(23) × (18) × 1	○		中域中央部						
886	21 × 20 × 35	□		中域中央部	944	18 × 29 × 30	○		中域中央部	1002	15 × 7 × 6	□		中域中央部						
887	22 × 20 × 21	□		中域中央部	945	(34) × 38 × 32	□		中域中央部	1003	24 × 20 × 8	□		中域中央部						
888	53 × 43 × 25	□		中域中央部	946	15 × 24 × 19	○		中域中央部	1004	19 × 17 ×	○		中域中央部						
889	39 × 22 × 46	□	○	中域中央部	947	32 × 38 × 14	□		中域中央部	1005	41 × 33 × 28	□		中域中央部						
890	37 × 33 × 41	○		中域中央部	948	(28) × 40 × 16	□		中域中央部	1006	16 × 20 × 22	□		中域中央部						
891	41 × 37 × 41	□		中域中央部	949	30 × (35) × 32	□		中域中央部	1007	(15) × (23) × 24	□		中域中央部						
892	(28) × 28 × 24	□		中域中央部	950	(38) × 39 × 45	□		中域中央部	1008	51 × 50 × 17	□		中域中央部						
893	45 × 52 × 36	□	○	中域中央部	951	35 × 41 × 53	○		中域中央部	1009	19 × 28 × 12	□		中域中央部						
894	37 × 36 × 11	□	○	中域中央部	952	33 × 29 × 27	□		中域中央部	1010	29 × 34 × 38	○		中域中央部						
895	28 × (20) × 6	□	○	中域中央部	953	18 × 11 × 6	○		中域中央部	1011	16 × 18 × 21	○		中域中央部						
896	17 × 25 × 19	○	○	中域中央部	954	19 × 18 × 27	□		中域中央部	1012	(42) × (30) × 49	○		中域中央部						
897	(27) × 32 × 12	□		中域中央部	955	27 × 27 × 35	○		中域中央部	1013	34 × (25) × 14	□		中域中央部						
898	(22) × 34 × 37	□		中域中央部	956	23 × 27 × 22	○		中域中央部	1014	33 × 45 × 52	○		中域中央部						
899	33 × 35 × 34	□	○	中域中央部	957	29 × 44 × 44	○		中域中央部	1015	17 × (24) × 6	□		中域中央部						
900	29 × 33 × 18	□	○	中域中央部	958	(20) × (28) × 14	○		中域中央部	1016	16 × 19 × 10	□		中域中央部						
901	26 × 26 × 15	○		中域中央部	959	25 × (34) × 42	□		中域中央部	1017	(20) × 17 × 12	□		中域中央部						
902	20 × 23 × 26	○		中域中央部	960	50 × 68 × 61	○		中域中央部	1018	52 × 54 × 19	□		中域中央部						
903	(42) × (17) × 22	○		中域中央部	961	(12) × 20 × 28	○		中域中央部	1019	(18) × 23 × 6	□		中域中央部						
904	--- × --- × ---		○	中域中央部	962	(29) × 41 ×	○		中域中央部	1020	33 × 41 × 52	□	○	中域中央部						
905	(20) × --- × ---		○	中域中央部	963	34 × (41) × 19	○	○	中域中央部	1021	35 × 32 × 31	○		中域中央部						
906	41 × 45 × 37	□	○	中域中央部	964	(14) × 29 × 17	○	○	中域中央部	1022	13 × 13 × 22	○		中域中央部						
907	(20) × (32) × 56	□	○	中域中央部	965	(18) × (15) ×	□		中域中央部	1023	27 × 21 × 26	□		中域中央部						
908	(18) × 18 × 26	○	○	中域中央部	966	53 × 27 × 36	□		中域中央部	1024	33 × 36 × 37	○		中域中央部						
909	(30) × (22) × 13	○		中域中央部	967	(32) × (26) × 25	○		中域中央部	1025	(22) × (30) × 69	□		中域中央部						
910	23 × 33 × 11	□		中域中央部	968	44 × (50) × 28	○		中域中央部	1026	(34) × 35 × 34	○		中域中央部						
911	21 × (6) × 11	□		中域中央部	969	34 × 37 × 25	○	○	中域中央部	1027	(20) × 44 × 34	□		中域中央部						
912	25 × 24 × 38	○		中域中央部	970	(24) × (41) × 17	○		中域中央部	1028	(37) × (37) × 42	○		中域中央部						
913	(20) × 15 × 4	○		中域中央部	971	35 × 30 × 39	□		中域中南部	1029	(38) × (30) × 42	□		中域中央部						
914	26 × (16) × 62	□		中域中央部	972	25 × 27 × 41	□		中域中央部	1030	(12) × (22) ×	□		中域中央部						
915	26 × (14) × 57	□		中域中央部	973	48 × 69 × 35	□		中域中央部	1031	(25) × 25 × 58	○		中域中央部						
916	17 × 16 × 14	○		中域中央部	974	36 × 24 × 53	□		中域中南部	1032	(25) × (20) × 17	○		中域中央部						
917	14 × 18 × 13	□		中域中央部	975	21 × 18 × 33	□		中域中央部	1033	20 × (25) × 9	□		中域中央部						
918	38 × (30) × 14	○		中域中央部	976	(21) × 23 × 18	□		中域中央部	1034	20 × 11 × 10	□		中域中央部						
919	52 × 37 × 57	○		中域中央部	977	30 × 33 × 25	○		中域中央部	1035A	(35) × 35 × 14	○	○	中域中央部						
920	32 × 29 × 31	□		中域中央部	978	33 × 27 × 23	○	○	中域中央部	1035B	(40) × 33 × 36	□	○	中域中央部						
921	40 × (55) × 44	□	○	中域中央部	979	18 × 31 ×	□		中域中央部	1036	(36) × (47) × 36	□		中域中央部						
922	(13) × (15) × 10	□		中域中央部	980	41 × 45 × 38	□		中域中央部	1037	20 × 30 × 36	○		中域中央部						
923	(14) × (11) × 22	□		中域中央部	981	25 × 19 × 13	□		中域中央部	1038	(27) × (48) × 36	□		中域中央部						
924	28 × 28 × 38	□		中域中央部	982	17 × 20 × 25	○		中域中央部	1039	12 × 15 × 17	○		中域中央部						
925	18 × 15 × 10	○		中域中央部	983	33 × 20 × 16	□		中域中央部	1040	(12) × (32) × 5	□		中域中央部						
926	12 × 19 × 17	□		中域中央部	984	(38) × 44 × 38	○	○	中域中央部	1041	23 × (18) × 5	□		中域中央部						
927	25 × 29 × 10	○		中域中央部	985	43 × 33 × 57	□	○	中域中央部	1042	30 × 38 × 40	○		中域中央部						
928	36 × 32 × 41	□		中域中央部	986	(20) × (18) ×	○	○	中域中央部	1043	(34) × 65 × 15	□		中域中央部						
929	21 × 27 × 40	○		中域中央部	987	53 × 37 × 24	□	○	中域中央部	1044	(12) × (2) ×	□		中域中央部						
930	23 × 30 × 6	○		中域中央部	988	39 × 20 × 45	□		中域中央部	1045	37 × 37 × 45	○		中域中央部						
931	13 × 15 × 17	○		中域中央部	989	20 × 29 × 34	□		中域中央部	1046	38 × 45 × 45	○		中域中央部						
932	33 × 24 × 34	○		中域中央部	990	25 × 26 × 24	□		中域中央部	1047	17 × 27 × 6	□		中域中央部						
933	19 × 18 × 17	□		中域中央部	991	21 × 20 × 22	□		中域中央部	1048	12 × (38) × 19	□		中域中央部						
934	22 × 26 × 18	○		中域中央部	992	33 × 25 × 13	○		中域中南部	1049	23 × 26 × 12	○		中域中央部						
935	24 × (24) × 16	□		中域中央部	993	13 × 17 × 8	□		中域中央部	1050	29 × 22 × 7	○		中域中央部						
936	42 × (27) × 29	○	○	中域中央部	994	13 × 16 × 6	○	○	中域中央部	1051	19 × 25 ×	□		中域中央部						

第58表 3区1面屋敷遺構内ピット一覧(その6)

遺構一覧

No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域
	径EW	径NS	深さ					径EW	径NS	深さ					径EW	径NS	深さ			
1052	33	40	47	○		中城中央部	1111	33	25	31	○		中城中央部	1172	(11)	(17)	15	□		中城西部
1053	18	30	14	□		中城中央部	1112	14	20	37	□		中城中央部	1173	(26)	(21)	18	○		中城西部
1054	(20)	(45)	×	○		中城中央部	1113	(28)	(34)	29	□		中城中央部	1174	(25)	(19)	24	○		中城西部
1055	(30)	37	25	□		中城中央部	1114	(17)	(30)	34	□		中城中央部	1175	(31)	(20)	15	□		中城西部
1056	43	33	56	□		中城中央部	1115	30	32	34	□		中城中央部	1176	(14)	(10)	26	□		中城西部
1057	(13)	37	26	□		中城中央部	1116	25	(24)	29	○		中城中央部	1177	(30)	(24)	28	□		中城西部
1058	(20)	(40)	×	○		中城中央部	1117	21	21	40	□		中城中央部	1178	17	19	32	○		中城西部
1059	17	25	24	○		中城中央部	1118	(36)	(14)	21	○		中城中央部	1179	18	19	20	□		中城西部
1060	12	15	3	○		中城西部	1119	19	18	40	○		中城中央部	1180	19	17	34	○		中城西部
1061	13	16	13	○		中城西部	1120	14	17	22	○		中城中央部	1181	15	14	19	○		中城西部
1062	28	32	25	○		中城西部	1121	(8)	18	8	○		中城中央部	1182	22	27	41	□		中城西部
1063	17	16	21	□		中城西部	1122	(20)	19	21	□		中城中央部	1183	20	23	14	○		中城西部
1064	40	51	31	○		中城西部	1123	41	40	42	○	○	中城中央部	1184	23	21	59	□		中城西部
1065	24	27	10	○		中城西部	1125	28	22	28	□		中城中央部	1185	34	31	58	○		中城西部
1066	38	32	48	□		中城西部	1127	24	(22)	22	○		中城中央部	1186	31	27	74	○		中城西部
1067	33	40	27	□		中城西部	1129	14	17	23	○		中城中央部	1187	33	29	31	○		中城西部
1068	32	42	38	□		中城西部	1130	11	14	23	○		中城中央部	1188	27	(15)	×	○	○	中城西部
1069	(22)	25	48	○		中城西部	1131	18	26	26	○		中城西部	1189	34	(13)	19	○	○	中城西部
1070	(16)	26	34	○		中城西部	1132	(15)	(25)	15	□		中城西部	1190	38	23	48	○		中城西部
1071	(20)	26	27	○		中城西部	1133	21	21	23	□		中城西部	1191	25	24	36	○		中城西部
1073	38	44	51	□		中城西部	1134	48	32	14	□		中城西部	1192	25	(24)	15	□		中城北北部
1074	15	22	21	□		中城西部	1135	36	39	34	○		中城西部	1193	41	41	47	○		中城北北部
1075	21	22	22	○		中城西部	1136	15	19	28	○		中城西部	1194	38	48	24	○		中城北北部
1076	26	29	22	□		中城西部	1137	33	35	33	○	○	中城西部	1195	(42)	(31)	15	○	○	中城北北部
1077	25	(28)	17	□		中城西部	1138	30	38	50	□		中城西部	1196	14	22	34	○		中城北北部
1078	25	35	27	○		中城西部	1139	15	25	40	○		中城中央部	1197	33	(40)	10	□	○	中城北北部
1079	(25)	45	34	○		中城西部	1140	34	(36)	27	○		中城西部	1198	(33)	(30)	12	□		中城北北部
1080	(11)	22	21	□		中城西部	1141	(23)	34	20	○		中城西部	1199	32	(33)	32	□		中城北北部
1081	16	30	34	□		中城西部	1142	34	26	32	○		中城西部	1200	28	45	48	□		中城北北部
1082	17	22	32	□		中城西部	1143	28	20	21	○		中城西部	1201	25	(24)	25	○		中城北北部
1083	29	30	34	○		中城西部	1144	24	18	14	○		中城西部	1202	30	(28)	26	□		中城北北部
1084	(25)	25	34	○		中城西部	1145	28	28	32	○		中城西部	1203	36	40	30	□	○	中城北北部
1085	25	28	32	□		中城西部	1146	22	21	38	□		中城西部	1204	(60)	(35)	16	□		中城北北部
1086	30	34	31	○		中城西部	1147	21	23	25	□		中城西部	1205	25	25	26	□		中城北北部
1087	(25)	31	41	○		中城西部	1148	34	29	47	○		中城西部	1206	(27)	(30)	34	□		中城北北部
1088	25	25	45	○		中城西部	1149	15	25	9	○		中城西部	1207	(17)	(18)	33	□		中城北北部
1089	33	34	15	○	○	中城西部	1150	32	34	35	□		中城西部	1208	(32)	(18)	27	□		中城北北部
1090	14	19	15	□		中城西部	1151	(16)	18	8	□		中城西部	1209	(20)	(22)	16	○		中城北北部
1091	18	23	15	□		中城西部	1152	35	30	57	□		中城西部	1210	(33)	(34)	20	□		中城北北部
1092	20	28	11	□		中城西部	1153	(26)	(35)	40	○		中城西部	1211	(25)	(31)	45	□		中城北北部
1093	19	24	27	□		中城西部	1154	33	26	42	□		中城西部	1212	(15)	(23)	27	○		中城北北部
1094	45	41	10	□		中城西部	1155	13	18	38	○		中城西部	1213	12	15	4	□		中城北北部
1095	15	19	7	□		中城西部	1156	31	23	31	□		中城西部	1214	29	23	22	□		中城北北部
1096	13	12	8	○		中城西部	1157	13	19	15	○		中城西部	1215	15	16	20	○		中城北北部
1097	15	20	11	□		中城西部	1158	36	28	50	○		中城西部	1216	20	15	18	○		中城北北部
1098	14	19	23	□		中城西部	1159	(31)	57	28	□		中城西部	1217	18	25	33	○		中城西部
1099	18	17	31	□		中城西部	1160	23	28	43	○		中城西部	1218	(45)	23	15	□		中城西部
1100	25	25	33	○		中城西部	1161	19	19	30	□		中城西部	1219	30	21	42	□		中城北北部
1101	16	20	12	○		中城西部	1162	28	26	33	□		中城西部	1220	12	14	22	○		中城西部
1102	(19)	16	17	□		中城西部	1163	(20)	21	20	○		中城西部	1221	17	21	25	□		中城西部
1103	(17)	19	×	□		中城西部	1164	19	21	42	□		中城西部	1222	27	29	34	□		中城北北部
1104	23	24	17	○		中城西部	1165	21	21	14	○		中城西部	1223	22	22	17	○		中城北北部
1105	18	18	24	○		中城西部	1166	24	(24)	31	○		中城西部	1224	(7)	(7)	36	○		中城北北部
1106	37	34	47	○		中城西部	1167	18	18	25	○		中城西部	1225	31	35	22	○		中城北北部
1107	20	18	20	□		中城西部	1168	16	15	33	□		中城西部	1226	(24)	(20)	20	□		中城北北部
1108	19	25	26	○		中城西部	1169	28	35	35	□		中城西部	1227	25	27	34	□		中城北北部
1109	(18)	20	19	○		中城西部	1170	25	33	42	○		中城西部	1228	33	(25)	16	□		中城北北部
1110	19	19	32	□		中城西部	1171	20	(25)	16	○		中城西部	1229	(27)	27	39	□		中城北北部

第59表 3区1面屋敷遺構内ピット一覧(その7)

遺構一覽

No	柱 穴			概略区域	No	柱 穴			概略区域	No	柱 穴			概略区域
	径EW × 径NS × 深さ	形態	礎石			径EW × 径NS × 深さ	形態	礎石			径EW × 径NS × 深さ	形態	礎石	
1230	26 × 22 × 51	○		中域中北部	1288	42 × (22) × 67	○		中域西部	1346	22 × (24) × 28	○		北域西部
1231	32 × 33 × 24	□		中域中北部	1289	(43) × (22) × 67	○		中域西部	1347	30 × 39 × 16	○		北域西部
1232	29 × 31 × 31	□		中域中北部	1290	29 × 35 × 61	○		中域西部	1348	17 × 18 × 24	○		北域西部
1233	29 × 18 × 31	□		中域中北部	1291	13 × (15) × 16	○		北域東部	1349	19 × 20 × 13	□		北域西部
1234	(8) × (23) ×	□		中域中北部	1292	9 × --- ×	○		中域西部	1350	20 × 29 × 3			北域西部
1235	28 × (18) × 26	□		中域中北部	1293	(25) × 28 × 24	○		中域西部	1351	11 × 11 × 3	○		北域西部
1236	30 × 25 × 25	□	○	中域中北部	1294	23 × 18 × 16	□		北域東部	1352	40 × 49 × 44	□		北域西部
1237	(35) × (20) × 28	○	○	中域中北部	1295	16 × 14 × 31	○		中域西部	1353	29 × 35 × 52	○		北域西部
1238	(18) × (38) × 8	○		中域中北部	1296	23 × 29 × 33	○		北域中部	1354	28 × (28) × 18	□		北域西部
1239	(26) × 22 × 17	□		中域中北部	1297	42 × 48 × 23	□		中域西部	1355	26 × (25) × 37	□		北域西部
1240	22 × 32 × 39	□	○	中域中北部	1298	17 × 20 × 4	□		中域西部	1357	(49) × (90) × 19	□		北域西部
1241	11 × 8 × 6	○		中域中北部	1299	11 × 12 × 12	○		中域西部	1358	(23) × (38) × 9	○		北域西部
1242	17 × 12 × 15	□		中域中北部	1301	45 × (45) × 37	□		中域西部	1359	43 × 35 × 32	○		北域西部
1243	31 × 32 × 7	□		中域中北部	1302	36 × 34 × 57	□		中域西部	1360	24 × 23 × 27	□		北域西部
1244	16 × 22 × 15	○		中域中北部	1303	(21) × (30) × 13	○		中域西部	1361	15 × (16) × 4	○		北域西部
1245	10 × 11 × 9	○		中域中北部	1304	19 × 17 × 16	○		中域西部	1362	17 × 20 × 17	○		北域西部
1246	35 × 26 × 31	○		中域中北部	1305	12 × 15 × 11	○		中域西部	1363	18 × 15 × 10	□		北域西部
1247	14 × 29 × 14	□		中域中央部	1306	17 × 16 × 16	□		中域西部	1364	19 × 19 × 19	□		北域西部
1248	30 × 55 × 38	○		中域中央部	1307	22 × 17 × 15	□		北域西部	1365	22 × (13) × 18	□	○	北域西部
1249	15 × (18) × 9	○		中域中北部	1308	19 × 23 × 25	○		北域西部	1366	23 × (31) × 59	□		北域西部
1250	23 × 17 × 8	□		中域中北部	1309	21 × 26 × 18	○		北域西部	1367	25 × 21 × 9	○		北域西部
1251	17 × 22 × 14	○		中域中央部	1310	(6) × 11 × 7	○		北域西部	1368	14 × 21 × 11	□		北域西部
1252	22 × 24 × 20	○		中域中央部	1311	25 × 32 × 46	□		北域西部	1369	29 × 27 × 16	□		北域西部
1253	10 × (14) × 16	○		中域中央部	1312	25 × 23 × 48	○		北域西部	1370	(10) × (19) × 16	○		北域西部
1254	12 × 14 × 9	○		中域中央部	1313	18 × 23 × 19	○		北域西部	1371	(15) × (15) × 37	□		北域西部
1255	10 × 10 × 12	○		中域中央部	1314	(19) × 34 × 28	□		北域西部	1372	(15) × (16) × 32	□		北域西部
1256	28 × 22 × 22	□		中域中央部	1315	(23) × (27) × 27	□		北域西部	1373	(20) × (31) × 30	○		北域西部
1257	24 × 18 × 25	□		中域中央部	1316	38 × 40 × 49	□		北域西部	1374	26 × 25 × 40	□		北域西部
1258	21 × 22 × 22	□		中域中央部	1317	41 × (48) × 9	○		北域西部	1375	25 × (34) × 30	□		北域西部
1259	25 × 27 × 22	○		中域中央部	1318	20 × 20 × 29	○		北域西部	1376	25 × (36) × 32	□		北域中部
1260	27 × 23 × 28	○		中域中央部	1319	29 × 44 × 79	□		北域西部	1378	(11) × (14) ×	○		北域西部
1261	27 × 21 × 29	○		中域中央部	1320	(26) × (30) × 46	□		北域西部	1379	40 × 47 × 50	□	○	北域西部
1262	20 × 23 × 14	□		中域中央部	1321	15 × 16 × 4	○		北域西部	1380	27 × 21 × 18	□		北域西部
1263	23 × 26 × 51	○		中域中央部	1322	28 × 26 × 28	□		北域西部	1381	26 × 34 × 10	○		北域西部
1264	(23) × 23 × 47	○		中域中央部	1323	27 × (24) × 16	○		北域西部	1382	21 × 20 × 6	○		北域西部
1265	(29) × (32) × 39	○		中域中央部	1324	25 × 32 × 57	□		北域西部	1383	33 × 40 × 76	○		北域西部
1266	16 × 12 × 17	□		中域中央部	1325	15 × 19 × 15	□		北域中部	1384	19 × 28 × 10	○		北域西部
1267	(31) × 30 × 11	□		中域中央部	1326	30 × 32 × 52	○		北域西部	1385	14 × 16 × 6	○		北域西部
1268	(31) × 30 × 11	□		中域中央部	1327	25 × 25 × 17	□		北域西部	1386	28 × 37 × 60	○		北域西部
1269	27 × 25 × 35	□		中域中央部	1328A	33 × 29 × 32	□		北域西部	1387	13 × 13 × 23	□		北域西部
1270	18 × 21 × 27	□	○	中域中央部	1328B	32 × 34 × 61	□		北域西部	1388	13 × 13 × 17	○		北域西部
1271	64 × 56 × 39	○	○	中域中央部	1329	34 × 38 × 72	□		北域西部	1389	27 × 25 × 20	□		北域西部
1272	39 × 24 × 30	○	○	中域中央部	1330	25 × 29 × 34	○		北域西部	1390	(31) × (28) × 13	□		中域西部
1273	42 × (22) × 22	□		中域中央部	1331	28 × 28 × 26	○		北域西部	1391	31 × 37 × 59	○		中域西部
1274	(12) × 20 × 7	□	○	中域中央部	1332	22 × 23 × 24	○		北域西部	1392	23 × 19 × 8	○		中域西部
1275	(25) × 32 × 40	□	○	中域中央部	1333	26 × 31 × 36	○		北域西部	1393	30 × 25 × 29	□		中域西部
1276	23 × 18 × 57	○		中域中央部	1334	(24) × (12) ×	○		北域西部	1394	37 × (26) × 52	□		北域西部
1277	20 × 20 ×	○	○	中域中央部	1335	33 × (27) × 46	○		北域西部	1395	40 × (26) × 54	□		北域西部
1278	32 × 45 × 27	□	○	中域中央部	1336	33 × (28) × 39	□		北域西部	1396	48 × 36 × 48	□		中域西部
1279	20 × 28 ×	○		中域中央部	1337	(24) × (25) ×	□		中域中央部	1397	22 × 24 × 71	○		中域西部
1280	(19) × (58) ×	○	○	中域中央部	1338	44 × 32 × 51	○		北域西部	1398	39 × 40 × 24	□		北域西部
1281	29 × (18) × 8	□		中域西部	1339	22 × 18 × 32	□		北域西部	1399	14 × 13 × 3	○		北域西部
1282	30 × 43 × 51	○		中域西部	1340	20 × 18 × 11	□		北域西部	1400	15 × 22 × 22	□		北域西部
1283	(23) × 28 ×	□		中域西部	1341	21 × 22 × 12	□		北域西部	1401	31 × 34 × 34	□		北域西部
1284	28 × 32 × 75	○		中域西部	1342	44 × 43 × 17	○		北域中部	1402	23 × 25 × 61	□		北域中部
1285	37 × 31 × 54	□		中域西部	1343	(21) × 25 × 25	○		北域西部	1403	30 × 29 × 30	○		北域西部
1286	(23) × (26) × 21	□		中域西部	1344	17 × 19 × 19	□		北域西部	1404	(23) × (24) × 20	○		北域西部
1287	30 × 37 × 46	□		中域西部	1345	20 × (21) × 18	○		北域西部	1405	35 × 25 × 46	○		北域西部

第60表 3区1面屋敷遺構内ピット一覽(その8)

遺構一覽

No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域
	径EW	径NS	深さ					径EW	径NS	深さ					径EW	径NS	深さ			
1406	18	23	12	○		北城西部	1467	19	21	7	□		中城中部	1539	23	22	47	□		北城西部
1407	16	19	10	□		北城西部	1468	25	30	42	○		中城中部	1540	15	25	19	□		北城中部
1408	30	34	10	□		北城中部	1469	(34)	39	10	□	○	中城中部	1541	27	24	24	○		北城西部
1410	48	42	28	○	○	北城西部	1470	17	21	18	○		中城中部	1542	35	33	14	□		北城西部
1411	18	18	28	○		北城西部	1471	18	28	25	□		中城中部	1543	11	9	6	□		北城西部
1412	14	13	34	□		北城西部	1465	(18)	16	11	□		中城中部	1544	16	16	2	○		北城西部
1413	18	19	40	○		北城西部	1466	22	28	36	□		中城中部	1545	37	30	44	○		北城西部
1414	21	34	52	○		中城西部	1467	19	21	7	□		中城中部	1546	15	14	25	○		北城西部
1415	(20)	(24)	12	○		中城西部	1468	25	30	42	○		中城中部	1547	19	22	7	○		北城西部
1416	27	30	62	□		北城西部	1469	(34)	39	10	□	○	中城中部	1548	22	27	17	○		北城西部
1417	16	17	7	○		北城西部	1470	17	21	18	○		中城中部	1549	40	50	7	□		北城西部
1418	31	25	52	○	○	北城西部	1471	18	28	25	□		中城中部	1550	10	13	12	○		北城中部
1419	32	31	13	○		北城西部	1472	27	25	43	□		中城中部	1551A	(12)	18	30	○		北城中部
1420	33	28	55	□		北城西部	1473	23	29	67	○		中城中部	1551B	19	13	14	□		中城中部
1421	24	27	6	○		北城西部	1474	20	31	39	□		中城中部	1552A	26	37	16	□		北城中部
1422	32	20	57	○		北城西部	1475	(27)	23	11	□		中城中部	1552B	30	(26)	18	○		中城中部
1423	21	21	4	□		北城西部	1476	12	20	18	○		中城中部	1553	13	21	30	○		中城中部
1424	55	24	9	○		北城西部	1477	27	24	21	□	○	中城中部	1554	(10)	(16)	25	○		中城中部
1425	26	27	71	○		中城西部	1478	(13)	25	32	○	○	中城中部	1555	10	(10)	17	○		中城中部
1426	42	32	15	○		中城西部	1479	(37)	42	38	□		中城中部	1556	22	22	25	□		中城中部
1427	20	15	22	○		中城西部	1480	28	28	38	○		中城中部	1557	11	11	10	○		中城中部
1428	26	23	53	○		中城西部	1481	40	35	67	□		中城中部	1558	34	26	40	○		中城中部
1429	28	18	28	○		中城西部	1482	-48	-30	50	○		中城中部	1559	(21)	(20)		□		中城中部
1430	49	27	21	○		北城西部	1483	(15)	(24)	42	○		中城中部	1560	32	38	29	○		中城中部
1432	29	35	19	○		中城西部	1484	(33)	(30)	38	□		中城中部	1561	20	22	29	□		中城中部
1433	63	39	20	○		中城西部	1485	(27)	(18)	32	○		中城中部	1562	20	21	24	□		中城中部
1434	(58)	(45)	11	□		中城西部	1486	(27)	(22)	32	□		中城中部	1563	30	33	47	□		中城中部
1436	18	19	23	○		中城中部	1487	19	24	9	□		中城中部	1564	40	39	26	□		中城中部
1437	20	18	32	○		中城中部	1488	29	34	40	○	○	中城中部	1565	18	21	16	□		中城中部
1438	25	26	40	○		中城中部	1490	20	24	18	□		中城中部	1566	10	8	9	○		中城中部
1440	(25)	31	30	□		中城中部	1491	15	14	17	○		中城中部	1567	24	21	9	○		中城中部
1443	26	34	29	□		中城中部	1492	23	28	31	○		中城中部	1580	24	22	10	□		中城中部
1444	37	30	22	○		北城西部	1500	23	30	54	○		北城中部	1581	22	16	16	○		中城中部
1445	25	30	54	□		北城中部	1503	(12)	18	25	○		北城中部	1582	8	10	8	○		中城中部
1446	15	17	22	○		北城中部	1504	12	14	29	○		中城中部	1583	20	27	28	□		中城中部
1447A	12	11	12	○		中城中部	1507	15	19	25	○		中城中部	1584	(16)	(16)		□		中城中部
1447B	18	18	10	□		中城中部	1508	11	11	22	○		中城中部	1585	17	15	13	□		中城中部
1448A	12	13	13	○		北城中部	1509	5	5	23	○		中城中部	1586	(23)	(22)	20	○		中城中部
1448B	18	23	36	○		中城中部	1510	24	21	41	○		中城中部	1587	23	24	45	□		中城中部
1449A	9	13	8	○		北城中部	1511	(13)	(18)	33	○		中城中部	1588	23	(12)	27	○		中城中部
1449B	29	25	50	□		中城中部	1513	9	8	20	○		中城中部	1589	(13)	(27)	17	○		中城中部
1450	27	19	26	□		中城中部	1514	7	6	20	○		中城中部	1590	24	(22)	25	○		中城中部
1451	19	17	12	□		中城中部	1516	30	28	38	○		中城中部	1591	(11)	17	27	□		中城中部
1452	23	27	21	○		中城中部	1517	24	(27)	55	○		中城中部	1592	13	14	12	○		中城中部
1453	(24)	(28)		○		中城中部	1518	32	19	34	○		中城中部	1593	18	22	7	○		中城中部
1454	38	(41)	32	□		中城中部	1521	(22)	30	11	○		中城中部	1594	(33)	28	24	□	○	中城中部
1455	18	21	12	○		中城中部	1522	25	27	32	○		中城中部	1595	(38)	44	27	○		中城中部
1456	11	42	49	○		中城中部	1523	28	24	22	○		中城中部	1596	34	37	50	○		中城中部
1457	(23)	(42)	46	□		中城中部	1524	(22)	(28)		□		中城中部	1597	(47)	73	20	○		中城中部
1458	(22)	(28)	12	□		中城中部	1525	(24)	26	14	□		中城中部	1598	(27)	38	36	□		中城中部
1459	20	22	53	○		中城中部	1526	24	26	14	□		中城中部	1599	22	23	46	□		中城中部
1460	33	35	49	○		中城中部	1532	28	25	30	□		北城西部	1600	20	20	25	□		中城中部
1461	22	28	28	○		中城中部	1533	27	28	51	□		北城西部	1601	20	22	20	□		中城中部
1462	(34)	(28)	18	□		中城中部	1534	50	51	18	○	○	北城西部	1602	7	8	19	○		中城中部
1463	25	32	46	□		中城中部	1535	(24)	(51)	25	○		北城西部	1603	21	25	35	○		中城中部
1464	25	18	39	○		中城中部	1536	31	31	52	○		北城西部	1604	27	33	54	□		中城中部
1465	(18)	16	11	□		中城中部	1537	28	26	49	□		北城西部	1605	24	27	42	□		中城中部
1466	22	28	36	□		中城中部	1538	23	18	19	□		北城中部	1607	14	32	31	○		中城中部

第61表 3区1面屋敷遺構内ピット一覽(その9)

遺構一覧

No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域
	径EW × 径NS × 深さ							径EW × 径NS × 深さ							径EW × 径NS × 深さ					
1608	24 × 22 × 21			□		中域中北部	2010	20 × 28 × 15		○		中域中北部	2072	(18) × (18) × 47		□		北域中部		
1609	(29) × (11) × 46			○		中域中北部	2012	14 × 32 × 37		○		中域中北部	2073	41 × 30 × 47		○		北域中部		
1610	31 × 47 × 8			□		中域中北部	2013	16 × 20 × 15		□		中域中北部	2074	19 × 16 × 12		○		北域中部		
1611	11 × 11 × 12			○		中域中北部	2014	24 × 25 × 26		○		北域中部	2075	41 × 31 × 41		○		北域中部		
1612	15 × 11 × 10			○		中域中北部	2015	(29) × 34 × 47		□		中域中北部	2076	17 × 20 × 12		□		北域中部		
1613	22 × 21 × 23			□		中域中北部	2016	(30) × 33 × 41		○		中域中北部	2077	25 × 27 × 23		□		北域中部		
1614	28 × 30 × 55			□		中域中北部	2017	18 × 20 × 25		□		北域中部	2080	15 × 19 × 11		○		北域中部		
1615	(27) × 22 × 31		○	□		中域中北部	2018	12 × 7 ×		□		中域中北部	2081	27 × 19 × 40		□		北域中部		
1616	(21) × (24) × 42			□		中域中北部	2019	38 × 30 × 32		○		中域中北部	2082	30 × 28 × 41		□	○	北域中部		
1617	(36) × (40) × 42			○		中域中北部	2020	(20) × (36) × 26		○		中域中北部	2083	38 × 25 × 55		□		北域中部		
1618	35 × 32 × 57			□		中域中北部	2021	30 × (15) × 17		□		中域中北部	2084	28 × 30 × 56		□		北域中部		
1619	(32) × (32) × 11			○		中域中北部	2022	25 × 22 × 40		○		中域中北部	2085	23 × 23 × 22		□		北域中部		
1620	25 × 34 × 46			□		中域中北部	2023	32 × 46 × 32		○		中域中北部	2087	12 × 20 × 24		○		北域中部		
1621	(10) × (20) × 19			□		中域中北部	2024	26 × 26 × 25		□		中域中北部	2088A	20 × 21 × 17		□		北域中部		
1622	(23) × (21) × 19			□		中域中北部	2025	20 × 17 × 41		□		中域中北部	2088B	(10) × 20 × 19		□		北域中部		
1623	21 × 21 × 22			□		中域中北部	2026	20 × 12 × 12		□		中域中北部	2089	25 × 30 × 35		○		北域中部		
1624	24 × 26 × 26			□		中域中北部	2027	34 × 32 × 18		○		中域中北部	2090	58 × 45 × 16		○		北域中部		
1625	19 × 14 × 17			□		中域中北部	2028	47 × 44 × 29		○		中域中北部	2091A	20 × 32 × 9		□		北域中部		
1626	(10) × (14) × 40			○		中域中北部	2029	(17) × 18 × 22		○		中域中北部	2091B	11 × 10 ×		□		北域中部		
1627A	34 × (43) × 31			□		北域中部	2030	24 × 26 × 12		□		中域中北部	2092	25 × 22 × 29		□		北域中部		
1627B	35 × 26 × 30			□		中域中北部	2031	17 × 19 × 27		□		中域中北部	2093	13 × 10 × 8		○		北域中部		
1628	(6) × (10) × 34			□		中域中北部	2032	12 × 20 × 26		○		中域中北部	2094	28 × (12) × 8		○		北域中部		
1629A	20 × 29 × 40			○		北域中部	2035	18 × 23 × 11		□		中域中北部	2095	22 × (22) × 36		○		北域中部		
1629B	22 × 32 × 16		○	○		中域中北部	2036	17 × 15 × 18		○		中域中北部	2096	(13) × (21) × 36		○		北域中部		
1631	25 × 26 × 26		○	□		中域中北部	2037	27 × 27 × 44		○		中域中北部	2097	(9) × (24) × 18		○		北域中部		
1632	(13) × 31 × 53			○		中域中北部	2038	(24) × (18) ×		□		中域中北部	2099	15 × 14 × 20		○		北域中部		
1633	21 × 22 × 39			□		中域中北部	2039	26 × 22 × 24		□	○	中域中北部	2100	18 × (13) × 13		○		北域中部		
1634	20 × (22) × 16			○		中域中北部	2040	(34) × (20) ×		○	○	中域中北部	2101	20 × 27 × 38		□		北域中部		
1635	(21) × (18) × 23			□		中域中北部	2041	34 × 32 × 18		○		中域中北部	2102	38 × 31 × 52		□		北域中部		
1636	24 × 31 ×			□	○	中域中北部	2042	(13) × 32 × 21		○	○	中域中北部	2103	26 × 22 × 32		□		北域中部		
1637	(28) × 22 × 46			□		中域中北部	2043	24 × 30 × 28		○	○	中域中北部	2104	20 × 19 × 26		□		北域中部		
1638	18 × 17 × 57			□		中域中北部	2044	17 × 17 × 8		□		中域中北部	2105	30 × 25 × 41		○		北域中部		
1639	15 × 28 × 42			○		中域中北部	2045	20 × 13 × 13		□		中域中北部	2106	23 × 15 × 44		○		北域中部		
1640	41 × 47 × 47			○		中域中北部	2046	35 × (34) × 18		○		中域中北部	2107	35 × 40 × 16		○		北域中部		
1641	18 × 22 × 20			□		中域中北部	2047	34 × 37 × 49		○	○	中域中北部	2108	22 × 27 × 59		□		北域中部		
1642	26 × 38 × 16			○		中域中北部	2048	9 × 13 × 9		□		中域中北部	2109	20 × 22 × 23		□		北域中部		
1643	(20) × (14) × 50			○		中域中北部	2049	29 × 17 × 30		□		中域中北部	2110	33 × 24 × 21		□	○	北域中部		
1644	32 × 25 × 40			○		中域中北部	2050	43 × 40 × 30		□	○	中域中北部	2111	31 × 30 × 16		○		北域中部		
1645	22 × 16 × 22			□		中域中北部	2051	(15) × 18 × 10		□		中域中北部	2112	23 × 22 × 23		□		北域中部		
1646	15 × 17 × 19			□		中域中北部	2052	30 × 32 × 26		□		中域中北部	2113	19 × 13 × 36		□		北域中部		
1993	16 × (20) × 11			○		中域中北部	2053	20 × 20 × 33		○		中域中北部	2115	28 × (26) × 13		□		北域中部		
1994	21 × 12 × 34			○		中域中北部	2054	26 × 29 × 14		□		中域中北部	2116	33 × 40 × 64		○		北域中部		
1995	15 × 22 × 19			○		中域中北部	2055	37 × 28 × 37		□		中域中北部	2117	24 × 28 × 48		□	○	北域中部		
1996	10 × 13 × 10			○		中域中北部	2056	33 × (28) × 30		□		中域中北部	2119	32 × 27 × 32		○	○	北域中部		
1997	23 × 24 × 12			○		中域中北部	2057	(30) × (23) × 27		○		中域中北部	2120	18 × 20 × 45		○		北域中部		
1998	26 × 35 × 46			□		中域中北部	2058	30 × 37 × 41		□		中域中北部	2121	22 × 24 × 29		□		北域中部		
1999	23 × 23 × 12			○		中域中北部	2059	44 × 36 × 24		□		中域中北部	2122	22 × 23 × 45		○		北域中部		
2000	24 × 15 × 45			□		中域中北部	2060	30 × (35) × 47		○		中域中北部	2123	16 × 13 × 10		□		北域中部		
2001	25 × (23) × 35			○		中域中北部	2061	17 × 15 × 9		○		北域西部	2124	21 × 17 × 58		○		北域中部		
2002	25 × 25 ×			□	○	中域中北部	2062	23 × 28 × 39		○		北域西部	2125	20 × 17 × 46		□		北域中部		
2003	23 × 16 × 20			□		中域中北部	2063	20 × 19 × 33		□		北域西部	2126	20 × 27 × 42		□		北域中部		
2004	11 × (7) × 10			□		中域中北部	2064	29 × 20 × 62		□		北域西部	2127	25 × 35 × 55		□		北域中部		
2005	25 × (23) × 37			○		中域中北部	2065	37 × 28 × 55		○		北域中部	2128	22 × 18 × 9		○		北域中部		
2006A	25 × 28 × 39			○		中域中北部	2066	16 × 10 × 17		○		中域中南部	2129	27 × 19 × 21		□		北域中部		
2006B	26 × (43) × 1			○		中域中北部	2067	22 × 24 × 36		□		北域中部	2130	(17) × (11) × 7		○		北域中部		
2007	20 × 28 × 26			□		中域中北部	2068	25 × 24 × 35		□		北域中部	2131	25 × 20 × 24		□		北域中部		
2008	35 × 41 × 68			○		中域中北部	2069	21 × 21 × 34		□		北域中部	2132A	18 × 26 × 25		□		北域中部		
2009	20 × 21 × 33			○		中域中北部	2070	24 × 22 × 25		○		北域中部	2132B	14 × 9 × 32		○		北域中部		

第62表 3区1面屋敷遺構内ピット一覧 (その10)

遺構一覧

No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域
	径EW	径NS	深さ					径EW	径NS	深さ					径EW	径NS	深さ			
2133	22	21	29	□		北域中部	2193	17	22	5	○		中域中北部	2249	34	27	54	○		北域中部
2134	22	20	13	□		北域中部	2194	(4)	9	7	□		中域中北部	2250	22	25	47	□		北域中部
2135	32	22	9	□		北域中部	2195	10	10	24	○		中域中北部	2251	26	26	39	○	○	北域西部
2136	22	24	29	□		北域中部	2196	19	19	31	□		中域中北部	2252	22	26	14	○		北域西部
2137	30	21	36	○		北域中部	2197	(8)	(22)	22	○		北域中部	2253	50	41	28	○		北域西部
2138	22	19	16	□		北域中部	2198A	28	30	34	□		北域中部	2254	28	29	36	○		北域西部
2139	(10)	(11)	2	○		北域中部	2198B	13	(13)	25	○		北域中部	2255	15	31	66	□		北域西部
2140	29	21	44	□		北域中部	2198C	35	28	55	□		北域中部	2256	18	31	40	○		北域西部
2141	18	20	19	□		北域中部	2199A	33	24	57	□		北域中部	2257	12	15	3	○		北域西部
2142	28	(24)		□		北域中部	2199B	23	23	18	□		中域中北部	2258	23	21	56	□		北域西部
2143	10	9	22	○		北域中部	2200	16	18	20	○		中域中北部	2259	32	29	30	□		北域西部
2144	17	18	12	□		北域中部	2201	13	21	21	○		中域中北部	2260	(22)	(29)	23	○		北域西部
2145	20	22	26	□		北域中部	2202	18	14	17	□		中域中北部	2261	23	21	13	□		北域西部
2146	17	24	36	○		北域中部	2203	26	18	20	○		中域中北部	2262	17	23	11	□		北域西部
2147	23	20	42	□		北域中部	2204	30	26	31	□		中域中北部	2263	25	20	13	□		北域西部
2148	21	24	27	□		北域中部	2205	19	16	1	□		中域中北部	2264	(13)	(18)	5	□		北域西部
2149	(12)	18	55	□		北域中部	2206	45	58	31	○	○	北域中部	2265	29	29	25	□		北域西部
2150	18	17	12	○		北域中部	2207	27	38		○		北域中部	2266	23	(25)	21	□		北域中部
2151	(21)	27	21	□		北域中部	2208	16	18	15	□		北域中部	2267	23	28	25	○		北域中部
2152	28	22	21	□		北域中部	2209	14	21	35	□		北域中部	2268	23	26	14	○		北域中部
2153	(27)	(23)	17	□		北域中部	2210	18	20	10	□		中域中北部	2269	30	27	54	○		北域中部
2154	(18)	19	18	□		北域中部	2211	34	(36)	15	□		北域中部	2270	29	30	50	○		中域中央部
2155	(24)	(28)		○	○	北域中部	2212	22	28	64	○		北域中部	2271	31	37	30	○		中域中央部
2156	33	(22)	34	□	○	北域中部	2213	24	27	20	○		北域中部	2272	38	43	20	○	○	中域中央部
2157	26	35	39	○		北域中部	2214	13	12	15	○		北域中部	2273	40	47	39	○		北域西部
2158	26	19	37	□		北域中部	2215	22	21	12	○		北域中部	2274	51	46	36	○		北域西部
2159	(24)	18	17	○		北域中部	2216	(25)	25	9	□		北域中部	2275	37	32	36	□	○	北域西部
2160	22	22	23	□		北域中部	2217	(18)	27	7	○		北域中部	2276	27	21	15	□		北域西部
2161	22	(33)	23	□		北域中部	2218	25	21	30	□		北域中部	2277	23	23	18	○		北域西部
2162	25	21	44	□		北域中部	2219	36	22	37	□		北域中部	2278	15	22	17	□		北域西部
2163	21	23	22	□		北域中部	2220	23	20	11	□		中域中北部	2279	25	21	12	□	○	北域西部
2164	(7)	(8)	22	□		中域中北部	2221	14	13	11	□		中域中北部	2280	17	18	6	□		北域西部
2165	18	21	14	□		中域中北部	2222	8	9	20	○		中域中北部	2281	25	33	35	○		北域西部
2166	13	27	46	○		中域中北部	2223	29	(18)		○		中域中北部	2282	22	19	20	□		北域西部
2167	28	33	46	○		中域中北部	2224	32	42	59	□		中域中北部	2283	16	16	29	□		北域西部
2168	21	24	46	○		中域中北部	2225	16	18	4	○		中域中北部	2284	25	30	16	□		北域中部
2169	20	19	9	□		中域中北部	2227	25	27	28	□		北域東部	2285	(16)	(13)	10	□		北域中部
2170	26	26	51	□		中域中北部	2228	-17	-17	7	□		北域東部	2286	32	26	11	○		北域中部
2171	12	16	51	○		中域中北部	2229	26	30	66	○		北域東部	2287	24	25	19	○		北域中部
2174	30	28	42	□		北域中部	2230	27	22	24	□		北域東部	2288	30	(20)	18	○		北域中部
2175	22	22	43	□		北域中部	2231	9	10	34	□		北域東部	2289	33	(18)	38	○		北域中部
2176	24	28	47	□		北域中部	2232	21	18	17	□		北域東部	2290	34	(28)	22	○		北域中部
2177	34	39	53	○		北域中部	2233	19	18	7	□		北域東部	2291	27	28	16	○	○	北域中部
2178	17	20	13	□		北域中部	2234	-17	-17	12	○		北域東部	2292	40	36	27	○		北域中部
2179	(24)	(11)	5	□	○	南東域北部	2235	18	13	16	○		北域東部	2293	(24)	(25)	31	□		北域中部
2180	17	(16)	6	□		北域中部	2236	12	15	7	□		北域東部	2294	(18)	24	1	○		北域中部
2181	25	17		○		北域中部	2237	31	40	38	○		北域西部	2295	20	16	42	□		北域中部
2182	25	33	8	□		北域中部	2238	20	26	30	○		北域中部	2296	15	18	19	○		北域中部
2183	29	29	9	□		北域中部	2239	(23)	37	38	□		北域西部	2297	16	15	13	○		北域中部
2184	30	40	47	○		北域中部	2240	(22)	37	38	□		北域西部	2298	18	22	52	□		北域中部
2185	30	18	59	□		北域中部	2241	40	32	25	○		北域西部	2299	19	21	34	□	○	北域中部
2186	23	27	23	□		北域中部	2242A	25	28	35	○		北域西部	2300	28	(28)	43	○		北域中部
2187	18	22	7	○		北域中部	2242B	35	29	30	○		北域西部	2301	25	(20)	32	○		北域中部
2188	(8)	26	17	○		北域中部	2243	25	17	16	□		北域西部	2302	(15)	16	23	□		北域中部
2189	20	26	25	○		北域中部	2245	35	47	30	○	○	北域中部	2303	(32)	(20)	16	□		北域中部
2190	(21)	(29)	30	○		中域中北部	2246	17	25	44	□		北域西部	2304	24	21	20	○		北域中部
2191	(18)	33	34	□		中域中北部	2247	21	23	54	□		北域中部	2305	60	68	23	○		北域中部
2192	32	31	35	○		中域中北部	2248	27	29	36	○		北域西部	2306	(22)	(28)	11	□		北域中部

第63表 3区1面屋敷遺構内ピット一覧(その11)

遺構一覧

No	柱 穴			形 態	礎 石	概略区域	No	柱 穴			形 態	礎 石	概略区域	No	柱 穴			形 態	礎 石	概略区域
	径EW × 径NS × 深さ							径EW × 径NS × 深さ							径EW × 径NS × 深さ					
2307	50 × 77 × 59	□	○			北域中部	2363	31 × 33 × 23	○			北域中部	2421	22 × 22 × 40	□				北域中部	
2308	6 × 8 × 6	□				北域東部	2364	25 × 27 × 32	○			北域中部	2422	(26) × 29 × 35	○				北域中部	
2309	19 × 15 × 22	□				北域中部	2365	16 × 24 × 62	□			北域中部	2423	44 × (38) × 30	○				北域中部	
2310	15 × 24 × 18	○				北域中部	2366A	45 × (30) × 19	○			北域中部	2424	31 × (19) × 21	□				北域中部	
2311	13 × 17 × 16	□				北域中部	2366B	25 × 35 × 33	□			北域中部	2425	18 × 21 × 19	□				北域西部	
2312	55 × 50 × 5	○	○			北域東部	2367	20 × 20 × 38	□			北域中部	2426	(23) × 30 × 54	○				北域西部	
2313	28 × 20 × 25	□				北域中部	2368	22 × 24 × 40	□			北域中部	2427	34 × 30 × 40	□				北域西部	
2314	34 × 31 × 15	○				北域中部	2370	20 × 28 × 46	□			北域中部	2428	29 × 39 ×	□				北域西部	
2315	26 × (37) × 59	□				北域中部	2371	20 × 24 × 41	□			北域中部	2429	(22) × 27 × 41	○				北域西部	
2316	18 × (5) × 7	□				北域中部	2372	20 × 31 × 21	○			北域中部	2430	(13) × (24) ×	○				北域西部	
2317	28 × 30 × 8	□				北域中部	2373	24 × 24 × 47	○			北域中部	2431	34 × 28 × 61	□				北域西部	
2318	16 × 18 × 17	○				北域中部	2374	21 × 24 × 23	○			北域中部	2432	34 × 36 × 50	□				北域西部	
2319	48 × 70 × 25	○				北域中部	2375	(28) × (28) × 53	○			北域中部	2433	32 × 34 × 45	□				北域西部	
2320	22 × (18) × 4	○				北域中部	2376	20 × (26) × 13	○			北域中部	2434	(29) × (25) × 32	□				北域西部	
2321	22 × 24 × 7	□				北域中部	2377	11 × 15 × 19	□			北域中部	2435	42 × (25) × 46	□				北域西部	
2322	16 × 15 × 8	○				北域中部	2378	(18) × (22) × 5	○			北域中部	2436	(28) × (33) × 33	□				北域西部	
2323	20 × 27 × 8	□				北域中部	2379	56 × 60 × 61	○			北域中部	2437	42 × 31 × 66	○				北域西部	
2324	25 × 30 × 31	□				北域中部	2380	62 × 59 × 64	○			北域中部	2438	16 × 11 × 2	○				北域西部	
2325	17 × 17 × 17	□				北域中部	2381	29 × 32 × 31	○			北域中部	2439	26 × 29 × 32	○				北域西部	
2326	41 × 57 × 40	□	○			北域中部	2382	18 × 31 × 25	○			北域中部	2440	29 × (30) × 15	□				北域西部	
2327	(14) × 34 × 14	○				北域中部	2383	33 × 36 × 11	○			北域中部	2441	24 × (20) × 15	□				北域西部	
2328	28 × 45 × 60	○				北域中部	2384	22 × 27 × 9	□			北域中部	2442	(18) × (27) × 16	□				北域西部	
2329	17 × 22 × 33	○				北域中部	2385	24 × 25 × 52	○			北域中部	2443	(30) × (26) × 19	□				北域西部	
2330	(14) × (20) × 35	○				北域中部	2386	23 × (13) × 23	○			北域中部	2444	29 × (26) × 38	○				北域西部	
2331	(22) × 30 × 29	○				北域中部	2388A	17 × 16 × 16	□			北域中部	2445	33 × 25 × 27	□				北域西部	
2332	(17) × (25) × 30	○				北域中部	2388B	22 × 21 × 22	□			北域中部	2446	28 × 27 × 47	○				北域西部	
2333	18 × 22 × 25	○				北域中部	2389	25 × 26 × 17	○			北域中部	2447	28 × (30) × 42	○				北域西部	
2334	22 × 19 × 11	○				北域中部	2390	30 × 28 × 49	□			北域中部	2448	(29) × (25) × 8	○				北域西部	
2335	22 × 26 × 39	○	○			北域中部	2391	26 × 28 × 26	○			北域中部	2449	31 × 31 × 50	□				北域西部	
2336	18 × 25 × 23	○	○			北域中部	2392	38 × 32 × 63	○			北域中部	2450	37 × 33 × 11	○				北域西部	
2337A	52 × 54 × 33	○	○			北域西部	2393	(17) × 18 × 27	□			北域中部	2451	45 × 37 × 27	○				北域西部	
2337B	43 × 26 × 63	○				北域中部	2394	29 × 28 × 33	○			北域中部	2452	12 × (23) × 9	□				北域西部	
2338	25 × 24 × 61	○				北域中部	2395	15 × 16 × 19	○			北域中部	2453	11 × 23 × 32	○				北域西部	
2339	18 × 20 × 4	□				北域中部	2396	21 × 21 × 35	□			北域中部	2455	12 × 15 × 6	○				北域西部	
2340	22 × 24 × 39	□				北域中部	2397	-16 × 13 ×	□			北域中部	2456	20 × 21 × 3	○				北域西部	
2341	37 × 40 × 8	○	○			北域中部	2398	36 × 40 ×	○			北域中部	2457	58 × 41 × 23	○	○			北域西部	
2342	32 × 45 × 46	○				北域中部	2399	(10) × 8 ×	○			北域中部	2458	22 × 20 × 49	○				北域西部	
2343A	(27) × 24 × 21	○				北域中部	2400	29 × 25 × 47	□			北域中部	2459	(18) × (15) × 12	□				北域西部	
2343B	38 × 27 × 28	□				北域中部	2401	20 × 22 × 50	□			北域中部	2460	(30) × (32) × 13	○				北域西部	
2344	26 × 28 × 28	□				北域中部	2402	33 × 43 × 58	○			北域中部	2461	25 × 23 × 47	○				北域西部	
2345	42 × 28 × 50	□				北域中部	2403	15 × 18 × 29	○			北域中部	2462	30 × (30) × 27	□				北域西部	
2346	(27) × (22) × 24	○				北域中部	2404	29 × 27 × 26	○			北域東部	2463	18 × 23 ×	○	○			北域西部	
2347	23 × 28 × 25	□				北域中部	2405	18 × 16 × 22	□			北域東部	2464	(22) × (22) × 8	○				北域西部	
2348	31 × 40 × 36	○				北域中部	2406	29 × 29 × 29	□			北域東部	2465	24 × 29 × 25	○				北域西部	
2349	33 × 22 × 22	□				北域中部	2407	38 × 24 × 19	○			北域東部	2466	20 × 20 × 26	□				北域西部	
2350	20 × 22 × 7	○				北域中部	2408	23 × 26 × 14	□			北域東部	2467	22 × 21 × 40	○				北域西部	
2351	26 × (18) × 20	□				北域中部	2409	(20) × 26 × 10	□			北域東部	2468	43 × (38) × 44	○	○			北域西部	
2352	26 × 20 × 50	□				北域中部	2410	27 × 36 × 17	○			北域東部	2469	34 × (25) × 33	○	○			北域西部	
2353	25 × 39 × 12	□				北域中部	2411	21 × 19 × 31	□			北域東部	2470	(20) × 22 × 28	□	○			北域西部	
2354	31 × 26 × 41	□				北域中部	2412	28 × 19 × 36	□			北域東部	2471	28 × 22 × 14	□				北域西部	
2355	33 × (22) × 67	□				北域中部	2413	22 × 18 × 26	□			北域東部	2472	22 × 20 × 27	□				北域西部	
2356	43 × (21) × 47	○				北域中部	2414	30 × 40 × 46	□			北域東部	2473	24 × 24 × 42	○				北域西部	
2357	41 × 26 × 47	○				北域中部	2415	42 × 30 × 43	□			北域東部	2474	18 × 18 × 10	○				北域西部	
2358	40 × 16 × 41	○				北域中部	2416	(27) × (21) × 8	□			北域東部	2475	44 × (38) × 38	○	○			北域西部	
2359	37 × 40 × 37	○				北域中部	2417	22 × 28 × 26	○			北域東部	2476	33 × 43 × 55	○				北域西部	
2360	23 × 20 × 22	○				北域中部	2418	18 × 23 × 11	○			北域東部	2477	(26) × (15) × 29	□				北域西部	
2361	40 × 29 × 46	○				北域中部	2419	28 × 32 × 32	□			北域東部	2478	(23) × (20) × 39	○				北域西部	
2362	24 × 37 × 49	○				北域中部	2420	20 × 19 × 14	○			北域東部	2479	(32) × (27) × 32	□				北域西部	

第64表 3区1面屋敷遺構内ピット一覧 (その12)

遺構一覧

No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域						
	径EW	径NS	深さ					径EW	径NS	深さ					径EW	径NS	深さ									
2480A	34	×	46	×	44	□		北城西部	2538	52	×	36	×	18	□		北城西部	2600	25	×	24	×	49	○		中城南東部
2480B	33	×	22	×	14	□		北城西部	2539	(19)	×	25	×	35	□		北城西部	2601	(27)	×	39	×	30	○		中城
2481	(18)	×	19	×	36	○		北城西部	2540	24	×	20	×	43	○		北城中部	2924	21	×	30	×	20	□		南東城北部
2482	(29)	×	31	×	13	○		北城西部	2541	35	×	(26)	×	35	○	○	北城中部	2925	27	×	34	×	33	□		南東城北部
2483	25	×	29	×	63	○	○	北城西部	2542	16	×	25	×	39	○		北城中部	2953	16	×	15	×	19	□		南東城南部
2485	22	×	36	×	32	□		北城西部	2543	25	×	24	×	28	○		北城中部	2954	16	×	12	×		○		南東城南部
2486	25	×	30	×	31	○		北城西部	2544	27	×	20	×	53	○		北城中部	2955	15	×	10	×		○		南東城南部
2487A	21	×	(17)	×	9	□		北城西部	2545	60	×	65	×	44	□	○	北城中部	2956	15	×	10	×		○		南東城南部
2487B	30	×	38	×	25	○		北城西部	2546	17	×	31	×	32	○		北城中部	2982	37	×	42	×	28	□		南東城南部
2488A	22	×	31	×	18	○		北城西部	2547	45	×	25	×	14	□		北城中部	2983	37	×	30	×	55	○		南東城南部
2488B	28	×	32	×	37	○		北城西部	2548	26	×	28	×	42	○		北城中部	2984	19	×	29	×	30	○		南東城南部
2489	29	×	(21)	×	22	○		北城西部	2549	28	×	35	×	29	○		北城中部	2985	(18)	×	31	×	34	○		南東城南部
2491	13	×	15	×	48	○		北城西部	2550	31	×	40	×	13	□	○	北城中部	2986	43	×	34	×	14	□	○	南東城南部
2492	25	×	54	×	18	□		北城西部	2551	25	×	24	×	23	□	○	北城中部	2987	15	×	15	×	14	□		南東城南部
2493	30	×	34	×	15	□		北城西部	2552	41	×	41	×	41	○		北城中部	2988	21	×	17	×	18	□		南東城南部
2494	20	×	35	×	42	□		北城西部	2553	24	×	35	×	20	○		北城中部	2989	23	×	23	×	23	□		南東城南部
2495	21	×	18	×	7	□		北城西部	2554	33	×	40	×	50	○		北城中部	2990	22	×	20	×	23	○		南東城南部
2496	15	×	19	×	19	○		北城西部	2555	24	×	38	×	34	○		北城中部	2991	22	×	21	×	31	□		南東城南部
2497	61	×	(18)	×	21	○		北城西部	2556	33	×	27	×	37	○		北城中部	2992	35	×	38	×	37	○		南東城南部
2498	24	×	18	×	9	○		北城西部	2557	36	×	40	×	63	○		北城中部	2993	35	×	35	×	41	○		南東城南部
2499	23	×	21	×	38	○		北城西部	2558	38	×	44	×	45	○		北城中部	2994	26	×	28	×	32	○		南東城南部
2500	15	×	16	×	5	□		北城西部	2559	27	×	(24)	×	32	○		北城中部	2995	23	×	28	×	45	○		南東城南部
2501	47	×	33	×	39	○		北城西部	2560	44	×	33	×	20	○	○	北城中部	3002	15	×	(15)	×	29	○		北城西部
2502	28	×	41	×	61	○	○	北城西部	2561	(17)	×	30	×	10	□		北城中部	3003	20	×	19	×	11	○		北城西部
2503	35	×	24	×	25	○		北城西部	2562	18	×	25	×	10	□		北城中部	3004	(20)	×	20	×	28	□		北城西部
2504	13	×	(23)	×	24	○		北城西部	2563	31	×	25	×	16	□		北城中部	3005	(18)	×	(25)	×	7	□		北城西部
2505	51	×	43	×	39	○		北城西部	2564	10	×	(10)	×	9	○		北城中部	3006	20	×	(11)	×	16	□		北城西部
2506	23	×	23	×	23	□		北城西部	2565	29	×	42	×	47	○		北城中部	3007	25	×	27	×	35	○		北城中部
2507	31	×	38	×	58	○		北城西部	2566	(25)	×	37	×	11	○		北城中部	3008	(30)	×	25	×	23	○		北城中部
2508	30	×	25	×	20	○	○	北城西部	2567	23	×	21	×	20	○		北城中部	3009	(50)	×	50	×	7	○		北城中部
2509	(20)	×	21	×	17	○		北城西部	2568	13	×	18	×	14	○		北城中部	3010	(45)	×	30	×	16	○		北城中部
2510	(34)	×	25	×	32	○		北城西部	2569	12	×	12	×		○		北城中部	3011	58	×	37	×	49	○		北城東部
2511	28	×	30	×	6	□		北城西部	2570	20	×	(13)	×	16	○		北城中部	3012	61	×	43	×	12	○		北城東部
2512	27	×	30	×	40	□		北城西部	2571	17	×	16	×	17	○		北城中部	3013	(40)	×	45	×	6	□		北城西部
2513A	(5)	×	10	×	17	□		北城西部	2572	30	×	20	×	19	○		北城中部	3014	35	×	(30)	×	9	□		北城西部
2513B	12	×	12	×	14	○		中城南南部	2574	12	×	13	×	24	□		北城中部	3015	31	×	35	×	7	□		北城西部
2514	20	×	28	×	22	○		北城西部	2575	15	×	16	×	26	○		北城中部	3016	55	×	55	×	15	○		北城西部
2515	13	×	13	×	26	□		北城西部	2576	22	×	25	×	14	□		北城中部	3017	(15)	×	18	×	13	○		北城中部
2516	29	×	26	×	31	□	○	北城西部	2577	48	×	38	×	19	○	○	北城中部	3018	23	×	(15)	×	14	□		北城西部
2517	21	×	20	×	15	□		北城西部	2578	36	×	(15)	×	17	○		北城中部	3019	30	×	32	×	52	□		北城西部
2518	15	×	25	×	23	□		北城西部	2579	19	×	10	×	21	○		北城中部	3020	(40)	×	(40)	×	12	□		北城西部
2519	21	×	24	×	29	□		北城西部	2580	37	×	34	×	41	○		北城中部	3021	32	×	23	×	7	○		北城中部
2520	(15)	×	25	×	24	□		北城西部	2581	43	×	46	×	22	□		北城中部	3022	18	×	20	×	23	○		中城北北部
2521	(21)	×	21	×	42	□		北城西部	2582	33	×	38	×	40	□		北城中部	3023	(32)	×	(7)	×		○	○	中城中央部
2522	24	×	23	×	43	○		北城西部	2583	23	×	29	×	18	○		北城中部	3025	26	×	29	×	25	□		中城北北部
2525	(20)	×	25	×	10	□		北城西部	2584	36	×	22	×	33	○		北城中部	3026	23	×	24	×	26	□		中城北北部
2526	17	×	34	×	1	○		北城西部	2585	57	×	22	×	29	○		北城中部	3027	21	×	19	×	22	□		中城北北部
2527	66	×	64	×	48	○		北城西部	2587	18	×	22	×	22	□		北城西部	3028	18	×	22	×	16	□		中城北北部
2528	31	×	39	×	53	□		北城中部	2588	19	×	16	×	13	□		北城中部	3029	16	×	16	×	45	○		中城北北部
2529	35	×	30	×	54	□		北城中部	2589	26	×	26	×	35	□		北城中部	3030	15	×	21	×	10	○		中城中央部
2530	14	×	21	×	30	○		北城西部	2590	20	×	20	×	24	□		中城南南部	3031	21	×	26	×	9	○		中城中央部
2531	19	×	15	×	27	○		北城西部	2591	8	×	7	×	11	□		中城南南部	3032	30	×	30	×	4	□		中城中央部
2532	26	×	35	×	55	□		北城西部	2593	26	×	21	×	11	□		南西域	3033	32	×	31	×	32	○		中城西部
2533A	15	×	12	×	14	○		北城西部	2594	26	×	18	×	13	○		南西域	3034	20	×	17	×		○	○	中城西部
2533B	31	×	40	×	29	○	○	北城西部	2595	20	×	(10)	×	8	□		中城西部	3035	11	×	13	×	11	○		南西域
2534	32	×	25	×	23	□		北城西部	2596	27	×	30	×	8	□		南西域	3036	16	×	(14)	×	15	□		中城南南部
2535	25	×	(15)	×	18	○		北城西部	2598	35	×	33	×	33	□		北城東部	3037	11	×	(13)	×				中城南南部
2536	21	×	23	×	28	□		北城西部	2599	28	×	16	×	58	○		中城	3038	(40)	×	(28)	×	8	□		中城南南部

第65表 3区1面屋敷遺構内ピット一覧(その13)

遺構一覧

No	柱 穴			形 態	礎 石	概略区域	No	柱 穴			形 態	礎 石	概略区域	No	柱 穴			形 態	礎 石	概略区域
	径EW × 径NS × 深さ							径EW × 径NS × 深さ							径EW × 径NS × 深さ					
3039	60 × 45 × 15			□		中域中南部	3103	16 × 34 × 15			□		北域東部	3160	18 × 18 × 25			□		中域中東部
3040	29 × (25) ×			○		中域西部	3104	7 × 11 × 5			○		北域東部	3161	31 × 25 × 22			○		中域中東部
3041	38 × (33) ×			○		中域中南部	3105	7 × 8 × 8			○		北域東部	3162	43 × (19) × 48			○		中域中東部
3043	11 × (12) ×			○		中域中南部	3106	10 × 10 × 6			○		北域東部	3163	58 × 46 × 26			○	○	中域中東部
3044	19 × (22) × 21			□		南東域北部	3107	24 × 20 × 13			○		北域東部	3164	21 × 21 × 24			□		中域中東部
3045	25 × 33 × 8			○		南東域北部	3108	28 × 37 × 11			○		北域東部	3165	28 × 28 × 6			□		中域中東部
3046	12 × 16 × 19			□		南東域北部	3109A	13 × 11 × 7			○		北域東部	3166	42 × (46) × 27			○		中域中東部
3047	10 × (7) × 9			□		南東域北部	3109B	13 × 11 × 7			○		北域東部	3167	35 × (37) × 44			○		中域中東部
3048	27 × 27 × 19			□		南東域北部	3110	19 × 15 × 19			○		北域東部	3168	(14) × 13 × 17			□		中域中東部
3049	20 × 36 × 3			□		南東域北部	3111	21 × 22 × 6			○		北域東部	3169	(30) × 35 × 17			○	○	中域中東部
3051A	15 × 15 × 24			○		南西域	3112	18 × 11 × 24			○		北域東部	3170	(46) × 35 × 34			○		中域中東部
3051B	10 × 14 × 11			○		南西域	3113	48 × 55 × 26			○		北域東部	3171	25 × 23 × 41			□		中域中東部
3052	11 × 11 × 5			○		南西域	3114	20 × 15 × 29			○		北域東部	3172	22 × 22 × 48			○		中域中東部
3054	16 × 22 ×			○		南東域北部	3115	22 × 37 × 21			○		北域東部	3173	36 × 33 × 8			□		中域中東部
3056	18 × 15 × 5			○		南西域	3116	39 × 36 × 24			○		北域東部	3174	52 × 45 × 52			□		中域中東部
3057	44 × 44 × 16			○		南西域	3117	43 × 18 × 31			○		北域東部	3175	13 × 12 × 5			○		中域中東部
3059	15 × 11 × 8			○		北域東部	3118	20 × 20 × 30			○		北域東部	3176	22 × 14 × 6			○		中域中東部
3060	14 × 14 × 16			○		北域東部	3119	(44) × (34) × 52			○		北域東部	3177	22 × 17 × 15			○		中域中東部
3061	29 × 23 × 16			○		北域東部	3120	(50) × (26) × 13			□		北域東部	3178	44 × 52 × 45			○	○	中域中東部
3062	27 × 26 × 14			○		北域東部	3121	(19) × (31) × 7			□		北域東部	3179	(63) × 46 × 37			○		中域中東部
3063	18 × 19 × 18			○		北域東部	3122	(20) × (10) × 6			○		北域東部	3180	(23) × (25) × 29			○		中域中東部
3064	30 × 27 × 22			○		北域東部	3123	(24) × (18) ×			○		北域東部	3181	48 × 36 ×			○		中域中東部
3065	15 × 16 × 11			□		北域東部	3124	37 × 31 × 28			○		北域東部	3182	27 × 29 × 3			○		中域中東部
3066	16 × 22 × 12			○		北域東部	3125	24 × 29 × 39			□		北域東部	3183	29 × 31 × 49			□		中域中東部
3067	12 × 9 × 7			○		北域東部	3126	20 × 26 × 11			○		北域東部	3184	25 × 23 × 7			□		中域中東部
3068	13 × 15 × 15			○		北域東部	3127	27 × 25 × 33			□		北域東部	3185	49 × 50 × 47			○		中域中東部
3069	20 × (15) × 11			○		北域東部	3128	(19) × 33 ×			○		北域東部	3186	(48) × 49 × 57			○		中域中東部
3070	24 × 22 × 11			○		北域東部	3129	34 × 41 × 40			○		北域東部	3187	(23) × 32 × 35					中域中東部
3071	25 × 28 × 16			□		北域東部	3130	18 × 24 × 41			○		北域東部	3188	(34) × 46 × 12			□		中域中東部
3072	25 × 17 × 9			○		北域東部	3131	38 × 34 × 26			□		北域東部	3189	31 × 33 × 15			○		中域中東部
3073	44 × 45 × 11			○		北域東部	3132	(23) × 36 × 13			○		北域東部	3190	17 × 17 × 19			○		中域中東部
3074	23 × (13) × 7			○		北域東部	3133	23 × 23 × 24			□		北域東部	3191	22 × 27 × 23			□		中域中東部
3075	14 × 12 × 5			○		北域東部	3134	23 × (21) × 28			○		北域東部	3192	25 × 33 × 43			○		中域中東部
3076	9 × 13 × 3			○		北域東部	3135	28 × 36 × 47			○		北域東部	3193	18 × 14 × 7			○		中域中東部
3077	10 × 9 × 2			○		北域東部	3136	(32) × (24) × 18			○		北域東部	3194	40 × 53 × 16			○		中域中東部
3078	22 × 24 × 18			○		北域東部	3137	(20) × 44 × 14			○		北域東部	3195	13 × 21 × 32			○		中域中東部
3079	15 × 26 × 26			○		北域東部	3138	23 × (32) × 19			○		北域東部	3196	(22) × 34 × 10			○		中域中東部
3080	11 × 12 × 10			○		北域東部	3139	24 × 32 × 9			□		北域東部	3197	26 × (25) × 20			○		中域中東部
3081	(24) × (18) × 9			○		北域東部	3140	29 × 31 × 15			○		北域東部	3198	(32) × 29 × 9			○		中域中東部
3082	17 × 22 × 5			□		北域東部	3141	46 × 54 × 48			□		北域東部	3199	26 × 22 × 34			□		中域中東部
3084	12 × 13 × 9			○		北域東部	3142	(30) × (9) × 13			○		北域東部	3200	20 × 22 × 17			○		中域中東部
3085	8 × 15 × 7			○		北域東部	3143	(22) × (28) × 15			○		北域東部	3201	38 × 35 × 49			□		中域中東部
3086	21 × 25 × 8			○		北域東部	3144	30 × 26 × 15			□		中域北東部	3202	25 × 31 × 15			○		中域南東部
3087	26 × 27 × 13			□		北域東部	3145	16 × 15 × 22			□		中域北東部	3203	30 × 46 × 81			○	□	中域南東部
3088	14 × 14 × 18			○		北域東部	3146	50 × (45) × 59			□		中域北東部	3204	(33) × (48) × 72			○		中域南東部
3089	14 × 19 × 13			○		北域東部	3147	59 × (59) × 17			○	○	中域北東部	3205	31 × 28 × 37			○		中域南東部
3090	30 × 25 × 14			○		北域東部	3148	(7) × (20) ×			○		中域北東部	3206	30 × 20 × 12			○		中域南東部
3091	24 × 30 × 14			○		北域東部	3149	33 × 33 × 37			□		中域北東部	3207	55 × 65 × 11			□		中域南東部
3092	39 × 40 × 4			○		北域東部	3150	21 × (17) × 27			○		中域北東部	3208	(30) × (60) × 8			○		中域南東部
3093	16 × 13 × 9			○		北域東部	3151	30 × 27 × 29			○		中域北東部	3210	33 × 23 × 20			□		中域南東部
3094	11 × 13 × 4			○		北域東部	3152	29 × (26) × 15			○		中域北東部	3211	24 × 28 × 22			○		中域南東部
3095	(26) × 18 × 33			□		中域北東部	3153	22 × 22 × 10			○		中域中東部	3212	20 × 26 × 17			○		中域南東部
3096	13 × 14 × 20			○		中域北東部	3154	16 × 17 × 62			○		中域中東部	3213	33 × 22 × 55			○	○	中域南東部
3097	49 × 30 × 40			□		中域北東部	3155	36 × 25 × 22			○		中域中東部	3214	51 × 44 × 49			○		中域南東部
3098	45 × 32 × 22			○		中域北東部	3156	25 × 22 × 12			○		中域中東部	3215	24 × 35 × 17			○	○	中域南東部
3099	23 × 23 × 18			○		中域北東部	3157	44 × 32 × 23			○		中域中東部	3216	22 × 24 × 26			○		中域南東部
3100	24 × 19 × 23			○		中域北東部	3158	(42) × 32 × 18			○		中域中東部	3217	22 × 24 × 32			□		中域南東部
3101	12 × 15 × 14			○		中域北東部	3159	7 × 11 × 6			○		中域中東部	3218	40 × 36 × 64			○		中域南東部

第66表 3区1面屋敷遺構内ピット一覧 (その14)

遺構一覽

No	柱 穴		形態	礎石	概略区域	No	柱 穴		形態	礎石	概略区域	No	柱 穴		形態	礎石	概略区域
	径EW × 径NS × 深さ						径EW × 径NS × 深さ						径EW × 径NS × 深さ				
3219	(22) × (30) × 11		□		中城南東部	3277	20 × 29 × 6	○		南東城北部	3335	23 × 27 × 37	□		南東城北部		
3220	20 × 32 × 18		○		中城南東部	3278	11 × 9 × 19	○		南東城北部	3336	26 × 30 × 40	○		南東城北部		
3221	16 × (20) × 5		○		中城南東部	3279	22 × 26 × 41	○		南東城北部	3337	(17) × 49 × 11	○		南東城北部		
3222	37 × (22) × 54		○		中城南東部	3280	25 × 50 × 14	○		南東城北部	3338	24 × 30 × 29	○		南東城北部		
3223	32 × (34) × 56		○		中城南東部	3281	30 × 35 × 61	○		南東城北部	3339	17 × 19 × 12	○		南東城北部		
3224	(8) × 17 × 7		□		中城南東部	3282	17 × 20 × 26	○		南東城北部	3342	20 × 20 × 17	○		南東城北部		
3225	23 × 20 × 53		○		中城南東部	3283	25 × 38 ×	○		南東城北部	3343	16 × 20 × 12	○		南東城北部		
3226	(26) × (20) × 37		○		中城南東部	3284	12 × (12) × 17	○		南東城北部	3344	4 × 8 × 5	□		南東城北部		
3227	37 × 44 × 41		□	○	中城南東部	3285	21 × 34 × 32	□		南東城北部	3345	17 × 25 × 6	○		南東城北部		
3228	30 × 31 × 10		□		中城南東部	3286	30 × (15) × 46	○		南東城北部	3346	15 × 17 × 8	○		南東城北部		
3229	24 × 36 × 18		○		中城南東部	3287	(32) × 26 × 46	□		南東城北部	3351	16 × 17 × 21	○		南東城北部		
3230	22 × 28 × 43		○		中城南東部	3288	(35) × 35 × 50	○		南東城北部	3352	27 × 30 × 37	□		南東城北部		
3231	28 × (30) × 23		○		中城南東部	3289	(29) × (20) × 7	○		南東城北部	3353	25 × 33 × 27	○		南東城北部		
3232	13 × 17 × 12		○		中城南東部	3290	36 × 46 × 53	□	○	南東城北部	3354	12 × 24 × 18	○		南東城北部		
3233	18 × 17 × 24		○		中城南東部	3291	19 × 23 × 38	□		南東城北部	3355	9 × 10 × 2	○		南東城北部		
3234	26 × 20 × 32		○		中城南東部	3292	19 × 22 × 27	□		南東城北部	3356	8 × 12 × 6	○		南東城北部		
3235	30 × 46 × 44		○		中城南東部	3293	21 × 21 × 41	□		南東城北部	3357	28 × 31 × 21	○		南東城北部		
3236	38 × 22 × 6		○		中城南東部	3294	33 × (37) × 23	○	○	南東城北部	3358	8 × 10 × 6	○		南東城北部		
3237	24 × 27 × 37		○		中城南東部	3295	15 × 18 × 54	□		南東城北部	3359	9 × 20 × 5	○		南東城北部		
3238	43 × (31) × 33		○	○	中城南東部	3296	(26) × (13) × 14	○		南東城北部	3360	17 × 17 × 17	○		南東城北部		
3239	13 × 19 × 8		○		中城南東部	3297	21 × 27 × 49	○		南東城北部	3361	11 × 20 × 9	○		南東城北部		
3240	(16) × 32 × 10		○		中城南東部	3298	22 × (23) × 25	○		南東城北部	3362	25 × 25 × 34	○		南東城北部		
3241	22 × 21 × 16		○		中城南東部	3299	13 × 15 × 20	□		南東城北部	3363	20 × (11) × 13	○		南東城北部		
3242	28 × 26 × 36		□		中城南東部	3300	21 × 21 × 20	□		南東城北部	3364	(7) × 13 × 11	○		南東城北部		
3243	(15) × (21) × 16		○		中城南東部	3301	29 × 30 × 75	○		南東城北部	3365	29 × 28 × 27	○	○	南東城北部		
3244	27 × (29) × 18		○		中城南東部	3302	30 × 27 × 22	○		南東城北部	3366	20 × 26 × 18	○		南東城北部		
3245	40 × (44) × 34		□	□	中城南東部	3303	38 × 34 × 63	○		南東城北部	3367	15 × 18 × 7	○		南東城北部		
3246	37 × 37 × 51		○		中城南東部	3304	25 × 28 × 17	□		南東城北部	3368	11 × 11 × 2	○		南東城北部		
3247	27 × 31 × 52		○		中城南東部	3305	16 × 10 × 11	○		南東城北部	3369	23 × 27 × 18	○		南東城北部		
3248	25 × (30) × 5		□		中城南東部	3306	11 × 5 × 5	○		南東城北部	3370	17 × 25 × 7	○		南東城北部		
3249	35 × 42 × 33		○		中城南東部	3307	17 × 12 × 16	○		南東城北部	3371	(18) × 20 × 41	○		南東城北部		
3250	44 × 42 × 63		○		中城南東部	3308	23 × 18 × 14	○		南東城北部	3372	19 × (10) × 7	○		南東城北部		
3251	21 × 29 × 7		○		中城南東部	3309	20 × 25 × 7	○		南東城北部	3373	30 × 26 × 18	□		南東城北部		
3252	21 × 24 × 16		○		中城南東部	3310	16 × 8 × 8	○		南東城北部	3374	28 × 33 × 45	○		南東城北部		
3253	21 × 21 ×		□		南東城北部	3311	22 × 23 × 21	□		南東城北部	3375	10 × 17 × 4	○		南東城北部		
3254	33 × 29 × 43		○		中城南東部	3312	36 × 52 × 61	○		南東城北部	3376	23 × (25) × 4	○		南東城北部		
3255	30 × 39 × 55		○		中城南東部	3313	20 × 20 × 19	□		南東城北部	3377	25 × (26) × 6	○	○	南東城北部		
3256	12 × 20 × 4		○		中城南東部	3314	30 × 34 × 11	○		南東城北部	3378	25 × 25 × 38	○		南東城北部		
3257	17 × (25) × 3		○		中城南東部	3315	26 × 33 × 10	○		南東城北部	3379	(25) × 21 × 27	□		南東城北部		
3258	(4) × 8 × 2		○		中城南東部	3316	56 × 29 × 61	○		南東城北部	3380	22 × 22 × 30	○		南東城北部		
3259	7 × 11 × 1		○		中城南東部	3317	(44) × 30 × 9	○		南東城北部	3381	26 × 34 × 34	○		南東城北部		
3260	21 × 21 × 14		○		中城南東部	3318	17 × 18 × 14	□		南東城北部	3382	12 × 14 × 12	○		南東城北部		
3261	24 × 23 × 39		○		中城南東部	3319	18 × 15 × 16	□		南東城北部	3383	7 × 10 × 10	○		南東城北部		
3262	(22) × 29 ×		○		中城南東部	3320	33 × 43 × 60	□		南東城北部	3384	28 × 25 × 22	○		南東城北部		
3263	(24) × 20 × 2		□		中城南東部	3321	19 × 18 × 10	○		南東城北部	3385	28 × 31 × 35	□		南東城北部		
3264	42 × 57 × 5		○	○	中城南東部	3322	14 × 18 × 14	○		南東城北部	3386	18 × 23 × 24	○		南東城北部		
3265	27 × 30 × 46		□		中城南東部	3323	15 × 22 × 8	○		南東城北部	3387	10 × (12) × 13	○		南東城北部		
3266	26 × 36 × 4		○		中城南東部	3324	38 × 32 × 35	○		南東城北部	3388	30 × 30 × 27	○		南東城北部		
3267	22 × 27 × 21		○		中城南東部	3325	13 × 15 × 8	○		南東城北部	3389	17 × 27 × 24	○		南東城北部		
3268	14 × 18 × 12		○		中城南東部	3326	(15) × (13) × 16	○		南東城北部	3390	14 × 20 × 27	○		南東城北部		
3269	28 × 29 × 23		○		中城南東部	3327	28 × 24 × 28	○		南東城北部	3391	25 × 37 × 10	○		南東城北部		
3270	13 × 17 × 3		○		南東城北部	3328	25 × 25 × 54	○		南東城北部	3392	35 × 34 × 26	○		南東城北部		
3271	20 × 25 × 12		○		南東城北部	3329	25 × 27 × 34	○		南東城北部	3393	25 × 25 × 35	□		南東城北部		
3272	16 × 30 × 5		○		南東城北部	3330	10 × 11 × 5	○		南東城北部	3394	30 × 36 × 17	○		南東城北部		
3273	20 × 18 × 46		□		南東城北部	3331	11 × 14 × 3	○		南東城北部	3395	20 × (31) × 18	○		南東城北部		
3274	17 × (18) × 17		○		南東城北部	3332	17 × 23 × 21	○		南東城北部	3396	(27) × 28 × 4	○		南東城北部		
3275	20 × 20 ×		○		南東城北部	3333	33 × 30 × 29	○		南東城北部	3397	25 × 22 × 50	□		南東城北部		
3276	13 × 15 × 23		○		南東城北部	3334	28 × 30 × 43	○		南東城北部	3398	20 × 28 × 37	○		南東城北部		

第67表 3区1面屋敷遺構内ピット一覽 (その15)

遺構一覧

No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域						
	径EW × 径NS × 深さ							径EW × 径NS × 深さ							径EW × 径NS × 深さ											
3399	33	×	31	×	27	□		南東域北部	3442	15	×	14	×	3	○		南東域南部	3484	38	×	42	×	28	□		南東域南部
3400	27	×	35	×	23	○		南東域北部	3443	36	×	23	×	6	○		南東域南部	3485	20	×	20	×	36	○		南東域南部
3401	40	×	37	×	33	○		南東域北部	3444	12	×	10	×	4	□		南東域南部	3486	19	×	11	×	4	○		南東域南部
3402	27	×	(13)	×	9	○		南東域北部	3445	36	×	20	×	40	○		南東域南部	3487	21	×	16	×	5	○		南東域南部
3403	75	×	35	×	25	○		南東域南部	3446	8	×	22	×	2	○		南東域南部	3488	30	×	(9)	×	10	○		南東域南部
3404	25	×	24	×	7	○		南東域南部	3447	27	×	22	×	14	○		南東域南部	3489	33	×	27	×	27	○		南東域南部
3405	13	×	13	×	8	□		南東域南部	3448	17	×	13	×	9	○		南東域南部	3491	34	×	26	×	27	□		南東域南部
3406	13	×	18	×	5	○		南東域南部	3449	20	×	(18)	×	13	□		北域東部	3492	25	×	16	×	30	□		南東域南部
3407	(12)	×	(7)	×	5	○		南東域南部	3450	25	×	34	×	34	□		南東域南部	3494	12	×	12	×	42	□		南東域南部
3408	(6)	×	(9)	×	6	○		南東域南部	3451	20	×	25	×	24	○		南東域南部	3495	37	×	31	×	41	□		南東域南部
3409	(21)	×	(21)	×	5	○		南東域南部	3452	10	×	12	×	7	○		南東域南部	3497	12	×	11	×	5	□		南東域南部
3410	36	×	33	×	37	□		南東域南部	3453	(17)	×	16	×	9	○		北域東部	3498	25	×	26	×	6	□		南東域南部
3412	34	×	33	×	20	○		南東域南部	3454	(10)	×	31	×	47	□		南東域南部	3499	18	×	12	×	4	□		南東域南部
3413	21	×	12	×	4	○		南東域南部	3455	(8)	×	31	×	40	□		南東域南部	3500	11	×	10	×	8	□		南東域南部
3414	35	×	35	×	39	○		南東域南部	3456	(20)	×	31	×	36	□		南東域南部	3501	33	×	(32)	×	22	○	○	北域東部
3415	(8)	×	(7)	×	21	○		南東域南部	3457	29	×	32	×	9	○		南東域南部	3502	37	×	50	×	34	□		南東域南部
3416	25	×	42	×	42	□		南東域南部	3458	40	×	30	×	44	○		南東域南部	3503	32	×	33	×	25	□		南東域南部
3417	18	×	(29)	×	11	○		南東域南部	3459	54	×	(34)	×	60	○		南東域南部	3504	32	×	30	×	23	□		南東域南部
3418	12	×	11	×	16	○		南東域南部	3460	19	×	(22)	×	30	○		南東域南部	3505	(42)	×	34	×	31	○		北域東部
3419	20	×	(14)	×	13	□		南東域南部	3461	29	×	34	×	32	○		南東域南部	3506	(22)	×	(19)	×	15	○		北域東部
3420	16	×	14	×	24	○		南東域南部	3462	23	×	15	×	8	○		南東域南部	3507	27	×	24	×	21	○		北域東部
3421	29	×	31	×	36	○		南東域南部	3463	25	×	24	×	11	○		南東域南部	3508	15	×	21	×	12	○		南東域南部
3422	24	×	21	×	18	○		南東域南部	3464	33	×	30	×	1	○		南東域南部	3509	23	×	(30)	×	4	○		南東域南部
3423	20	×	16	×	22	□		南東域南部	3465	33	×	17	×	4	○		南東域南部	3510	54	×	(42)	×	37	□		中域中東部
3424	29	×	30	×	28	○		南東域南部	3466	20	×	13	×	2	○		南東域南部	3511	(26)	×	(24)	×	31	□		中域中東部
3425	21	×	23	×	15	□		北域東部	3467	25	×	11	×	4	○		南東域南部	3512	(39)	×	(38)	×	20	○		中域中東部
3426	15	×	12	×	13	○		南東域南部	3468	34	×	27	×	3	□		南東域南部	3513	45	×	40	×	42	□		南東域南部
3427	29	×	48	×	47	○		南東域南部	3469	22	×	24	×	29	□		南東域南部	3514	50	×	54	×	17	□		南東域南部
3428	17	×	24	×	40	○		南東域南部	3470	9	×	9	×	10	□		南東域南部	3515	27	×	31	×	50	□		北域東部
3429	22	×	24	×	8	□		南東域南部	3471	33	×	(32)	×	5	○		南東域南部	3516	10	×	10	×	6	○		南東域南部
3430	(8)	×	(19)	×	4	○		南東域南部	3472	15	×	(7)	×	2	□		南東域南部	3517	(60)	×	33	×	27	○		南東域南部
3431	(22)	×	(21)	×	16	□		中域中央部	3473	40	×	38	×	5	□		南東域南部	3518	31	×	39	×	14	□	○	南西域
3432	27	×	25	×	46	○		南東域南部	3474	19	×	19	×	4	□		南東域南部	3519	(9)	×	(24)	×	17	○		北域中部
3433	14	×	13	×	9	○		南東域南部	3475	18	×	20	×	4	□		南東域南部	3520	(27)	×	23	×		□	□	中域中央部
3434	22	×	16	×	20	○		南東域南部	3476	41	×	42	×	32	□		南東域南部	3521	32	×	(25)	×	14	○		中域中央部
3435	25	×	19	×	25	○		南東域南部	3477	35	×	18	×	29	□		南東域南部	1126	25	×	(37)	×	24	○		中域中央部
3436	14	×	11	×	13	○		南東域南部	3478	34	×	31	×	29	□		南東域南部	3522	(20)	×	22	×	20	○		北域中部
3437	25	×	22	×	3	○		南東域南部	3479	18	×	25	×	23	○		南東域南部	3523	18	×	13	×	26	○		北域中部
3438	(21)	×	26	×	3	○		南東域南部	3480	16	×	24	×	11	○		南東域南部	3524	15	×	16	×	27	○		北域中部
3439	10	×	16	×	5	○		南東域南部	3481	11	×	11	×	7	○		南東域南部	3525	17	×	26	×	10	○		北域中部
3440	23	×	19	×	5	○		南東域南部	3482	10	×	22	×	7	□		南東域南部	3526	26	×	24	×	6	□		南東域南部
3441	10	×	13	×	4	○		南東域南部	3483	14	×	(5)	×	12	○		南東域南部		×	×						

第68表 3区1面屋敷遺構内ピット一覧(その16)

3区1面屋敷外南西部所在ピット一覧

No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域	No	柱 穴			形態	礎石	概略区域						
	径EW × 径NS × 深さ							径EW × 径NS × 深さ							径EW × 径NS × 深さ											
1	24	×	27	×	35	□		3区南西部	6	22	×	22	×	22	○		3区南西部	11	13	×	17	×	6	□		3区南西部
2	27	×	27	×	29	○		3区南西部	7	12	×	14	×	9	□		3区南西部	12	33	×	42	×	9	○		3区南西部
3	30	×	41	×	15	○		3区南西部	8	16	×	18	×	10	□		3区南西部	13	12	×	14	×	13	□		3区南西部
4	36	×	35	×	15	□		3区南西部	9	22	×	17	×	8	□		3区南西部		×	×						
5	20	×	28	×	23	○		3区南西部	10	43	×	50	×	15	○		3区南西部		×	×						

第69表 3区1面外所在ピット一覧

写 真 图 版



1区1面 (西より) 04-000401-03



1区2面 04-000403-04

PL 2



1-1-3号溝全景（北より）04-980182-02



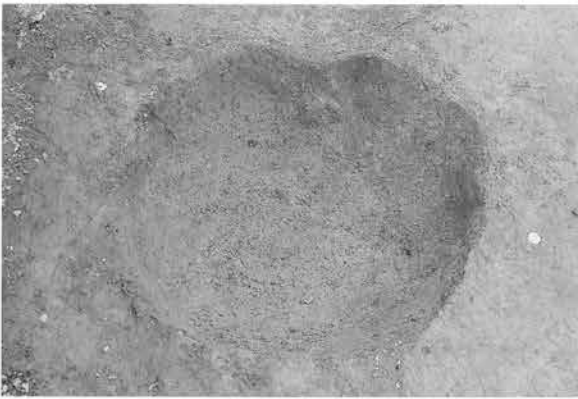
1-1-13号溝全景（北より）04-980212-09



1-1-13号溝全景（北より）04-980212-06



1-1-18号溝全景（南より）04-980193-09



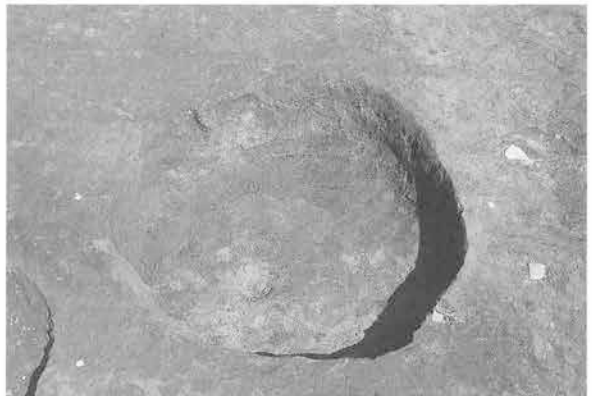
1-1-15号土坑全景（南より）04-980171-07



1-1-16号土坑全景（南より）04-970171-10



1-1-17号土坑全景（南より）04-980172-04



1-1-18号土坑全景（南より）04-980193-04



1-1-19号土坑全景（南より）04-980187-09



1-1-20号土坑全景（南より）04-980184-03



1-1-21号土坑全景（南より）04-980182-05



1-1-22号土坑全景（南より）04-980184-06



1-1-24号土坑全景（南より）04-980191-09



1-1-25号土坑全景（南より）04-980190-03



1-1-26号土坑全景（南より）04-980186-02



1-1-27号土坑全景（南より）04-980184-09

PL 4



1-1-28号土坑全景（南より）04-980182-08



1-1-29号土坑全景（南より）04-980185-02



1-1-30号土坑全景（南より）04-980190-09



1-1-31～33号土坑全景（南より）04-980187-03



1-1-34号土坑全景（南より）04-980187-06



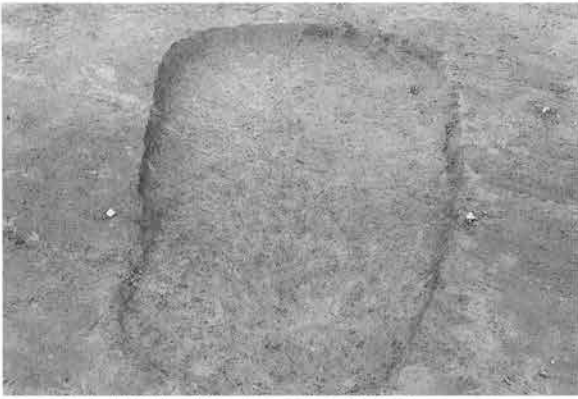
1-1-35号土坑全景（北より）04-980181-06



1-1-36号土坑全景（南より）04-980189-10



1-1-37号土坑全景（南より）04-980190-06



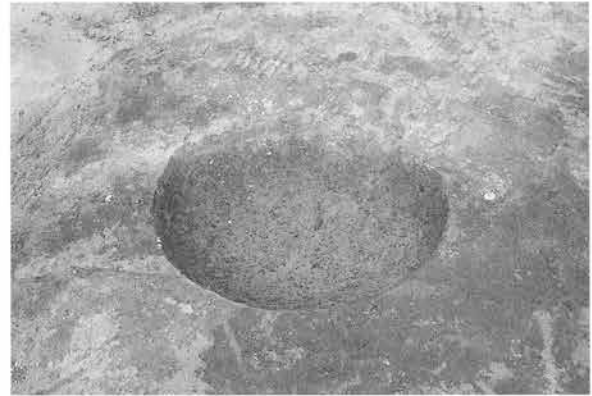
1-1-38号土坑全景（南より）04-980181-03



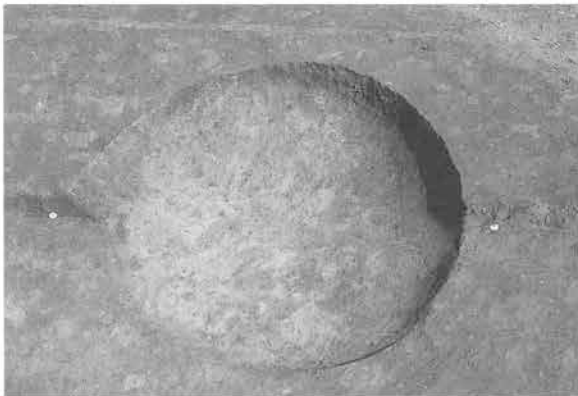
1-1-39号土坑全景（南より）04-980186-05



1-1-40号土坑全景（南より）04-980191-03



1-1-42号土坑全景（南より）04-980185-06



1-1-43号土坑全景（南より）04-980186-09



1-1-60~62号土坑全景（東より）04-980218-01



1-1-63号土坑全景（西より）04-980194-07



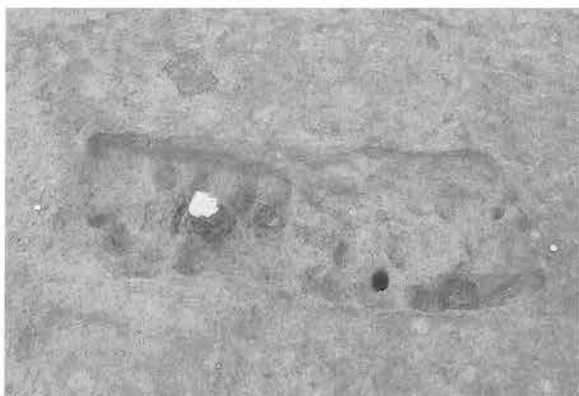
1-1-107号土坑全景 04-980211-03



1-1-108号土坑全景 04-980211-06



1-1-113号土坑全景（南より）04-980217-03



1-1-114号土坑全景（南より）04-980216-09



1-1-1号井戸全景（南より）04-980172-09



1-1-2号井戸全景（南より）04-980173-04



1-1-3号井戸全景（南より）04-980206-03



1-2-21号ピットセクション01-980238-33



1-2-22号ピットセクション01-980238-36



1-3-1号住居遺物出土状況（南より）04-980215-03



1-3-1号住居灰層確認状況（南より）04-980214-06



1-3-1号住居全景（西より）04-980221-06



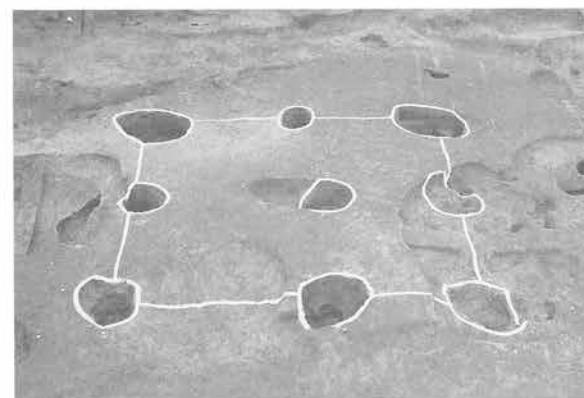
1-3-1号住居掘り方全景（西より）04-980231-10



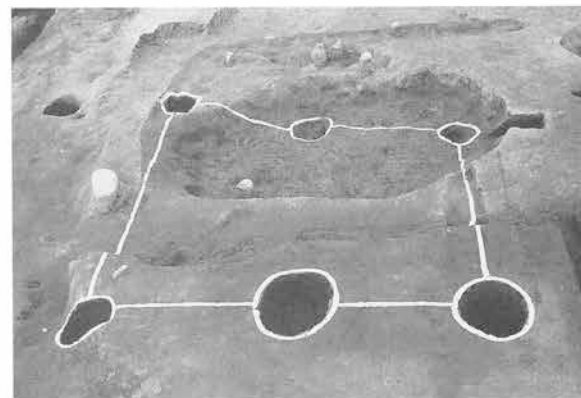
1-3-1号住居貯蔵穴遺物出土状況（西より）04-980220-09



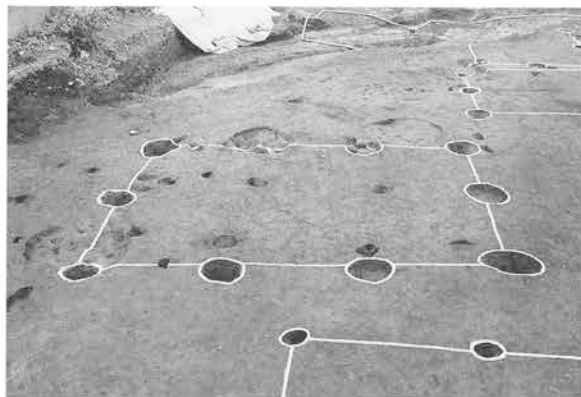
1-3-1号住居貯蔵穴全景（西より）04-980224-09



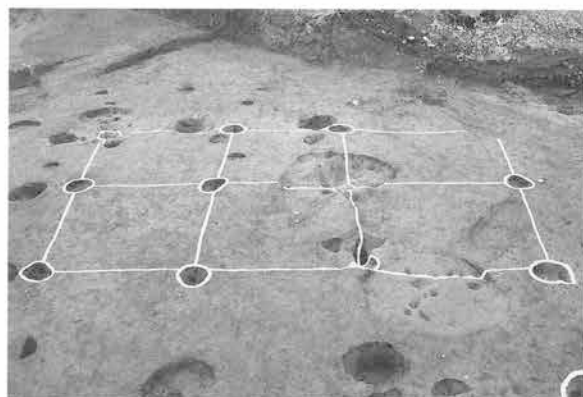
1-3-3号掘立柱建物全景（東より）04-980211-09



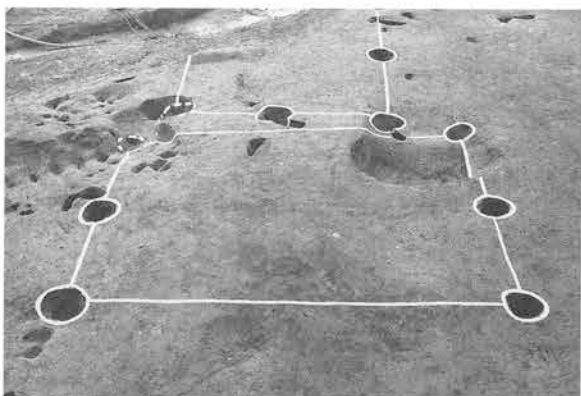
1-3-4号掘立柱建物全景（南より）04-980210-09



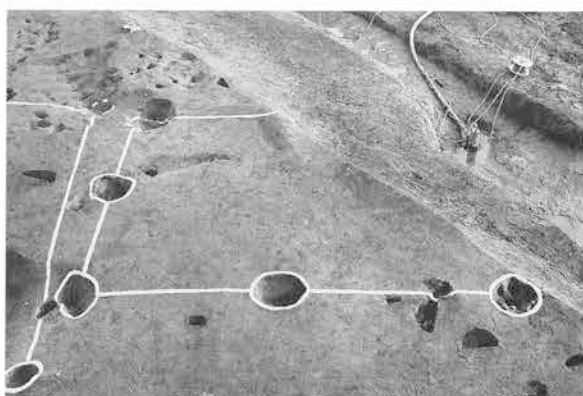
1-3-5号掘立柱建物全景 04-980224-03



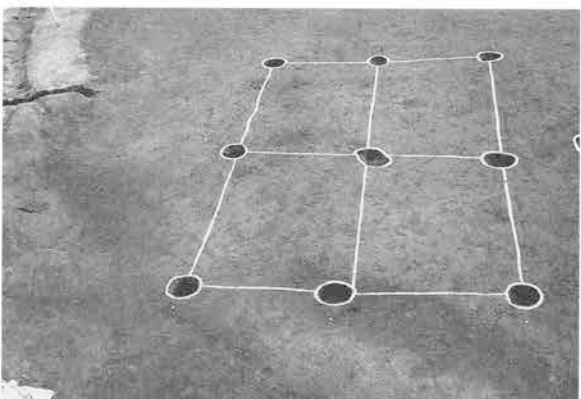
1-3-6号掘立柱建物全景 04-980222-10



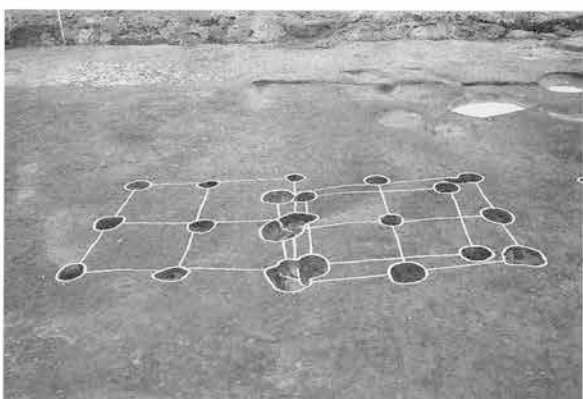
1-3-7号掘立柱建物全景 04-980223-10



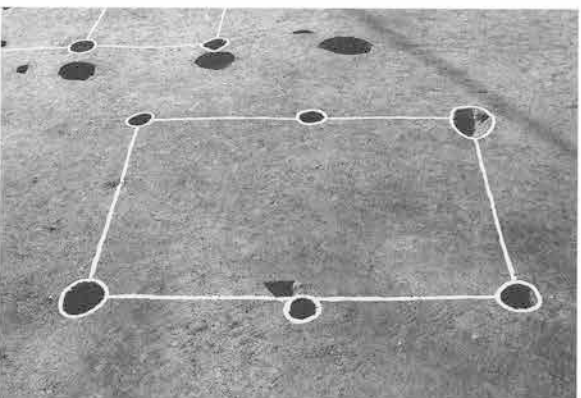
1-3-8号掘立柱建物全景（北より）04-980223-06



1-3-9号掘立柱建物全景（北より）04-980213-06



1-3-10~12号掘立柱建物全景（南より）04-980214-03



1-3-13号掘立柱建物全景 04-980221-10



1-3-3号柱穴列柱穴1 セクション（南より）01-980223-02



1-3-3号柱穴列柱穴2 セクション (南より) 01-980223-05



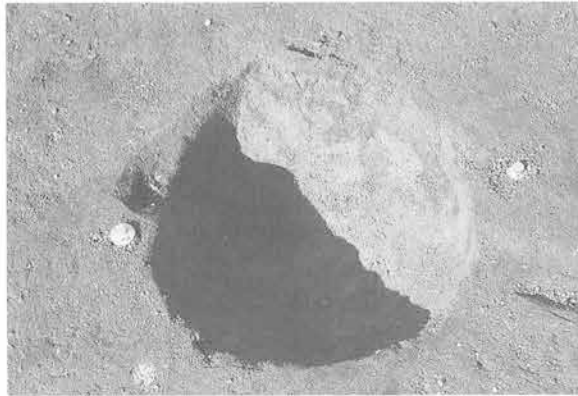
1-3-5号柱穴列柱穴1 セクション 01-980224-22



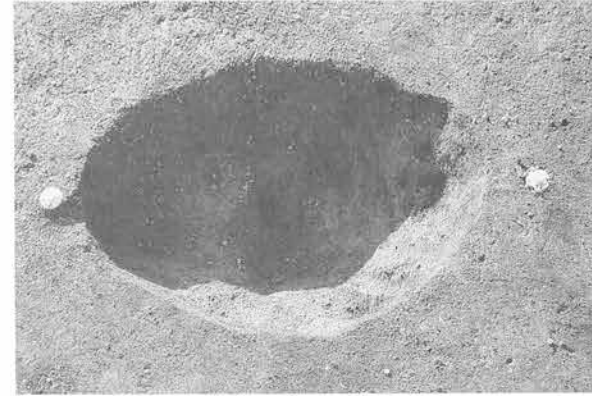
1-3-5号柱穴列柱穴2 セクション 01-980224-25



1-3-1号ピット全景 01-980231-03



1-3-2号ピット全景 01-980231-07



1-3-13号ピット全景 01-980231-35



1-3-14号ピット全景 01-980230-11



1-3-15号ピット全景 01-980230-15



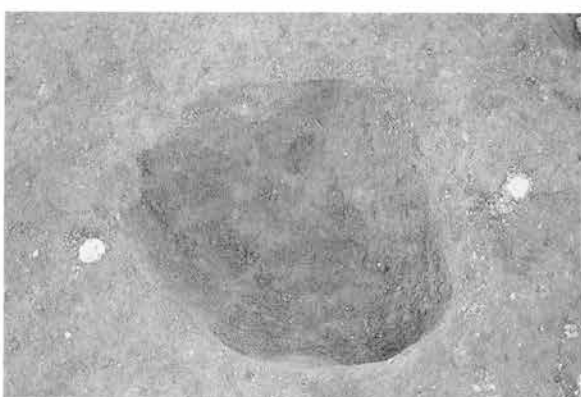
1-3-16号ピット全景 01-980230-19



1-3-17・18号ピット全景 01-980230-23



1-3-18号ピットセクション（東より）01-980226-15



1-3-19号ピット全景 04-980230-27



1-3-23号溝遺物出土状況 04-980199-09



1-3-23号溝全景 04-980199-06



1-3-24号溝遺物出土状況 04-980195-06



1-3-24号溝遺物出土状況 04-980197-06



1-3-24号溝遺物出土状況 04-980197-10



1-3-24号溝遺物出土状況 04-980197-04



1-3-25号溝遺物出土状況 04-980200-06



1-3-25号溝遺物出土状況 04-980196-06



1-3-25号溝遺物出土状況 04-980198-06



1-3-25号溝遺物出土状況 04-980198-09



1-3-35号溝遺物出土状況 04-980228-04



1-3-35号溝遺物出土状況 04-980227-10



1-3-35号溝遺物出土状況（南より） 04-980210-06



1-3-35号溝全景（南より） 04-980209-03



1-3-36号溝全景 04-980226-10



1-3-51号土坑全景（南より） 04-980219-02



1-3-52号土坑全景（南より） 04-980219-06



1-3-66号土坑全景（南より） 04-980219-08



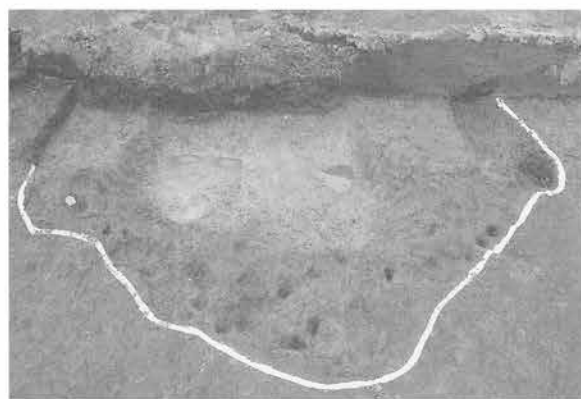
1-3-73号土坑全景 04-980226-07



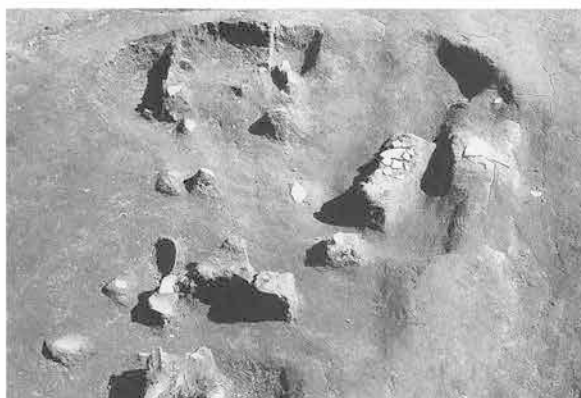
1-3-90号土坑遺物出土状況 04-980220-06



1-3-121号土坑遺物出土状況（南より）01-980222-17



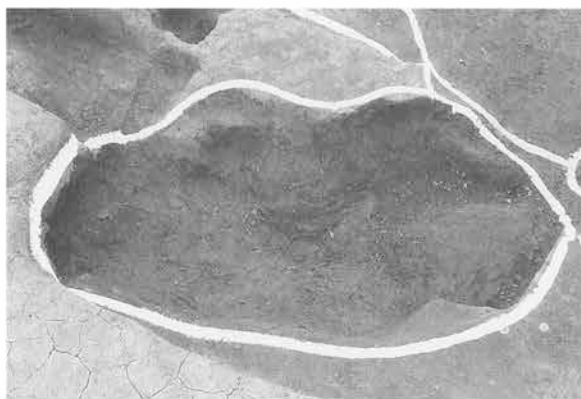
1-3-121号土坑全景（南より）01-980222-14



1-3-122号土坑遺物出土状況（西より）04-980225-07



1-3-122号土坑全景 01-980228-11



1-3-123号土坑全景（東より）01-980222-02



1-3-124号土坑灰出土状況 01-980227-23



1-3-124号土坑全景 01-980230-34



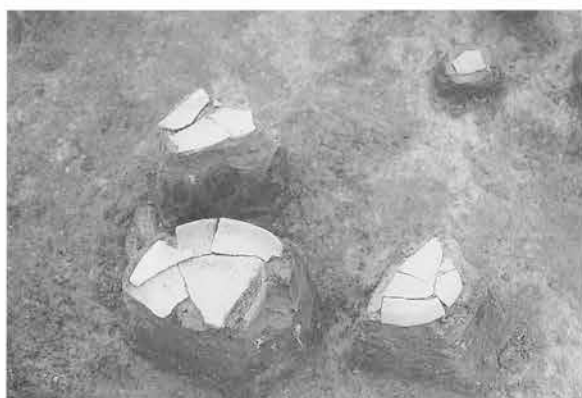
1-3-126号土坑全景（西より）01-980235-22



1-3-126・127号土坑セクション 01-980227-15



1-3-127号土坑遺物出土状況 04-980239-03



1-3-127号土坑遺物出土状況 (東より) 04-980239-06



1-3-128号土坑遺物出土状況 04-980232-03



1-3-128号土坑セクション (北より) 01-980233-22



1-3-130号土坑遺物出土状況 01-980238-16



1-3-130号土坑遺物出土状況 01-980238-12



1-3-131号土坑全景 01-980243-34



1-3-遺物包含層遺物出土状況 01-980243-25



1-3-遺物包含層遺物出土状況（西より）04-980241-02



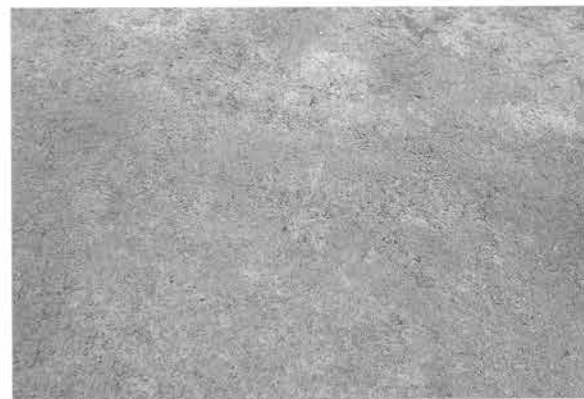
1-3-遺物包含層下面表出状況（西より）01-980257-02



1-3-旧河道全景（北西より）04-980229-02



1-3-旧河道全景（北西より）04-980229-04



1-3-風倒木痕確認面（西より）04-980217-06



1区土層断面（南壁）01-980257-07



1区深堀トレンチ土層断面 01-980233-16



1-1-16溝-1



1-1-16溝-2



1-1-71土坑-1



1-1-17溝-1



1-1-60土坑-1



1-1-63土坑-1



1-1-37土坑-1

1-1-17土坑-1



1-1-71土坑-2



1-1-36土坑-1



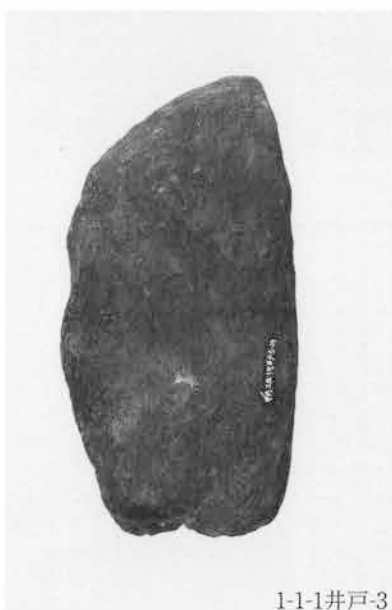
1-1-114土坑-1



1-1-12土坑-1



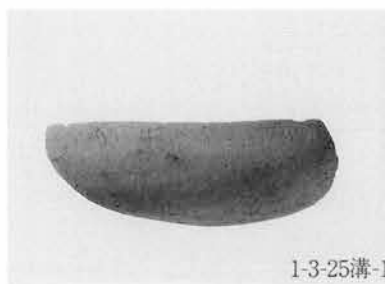
1-1-1井戸-1

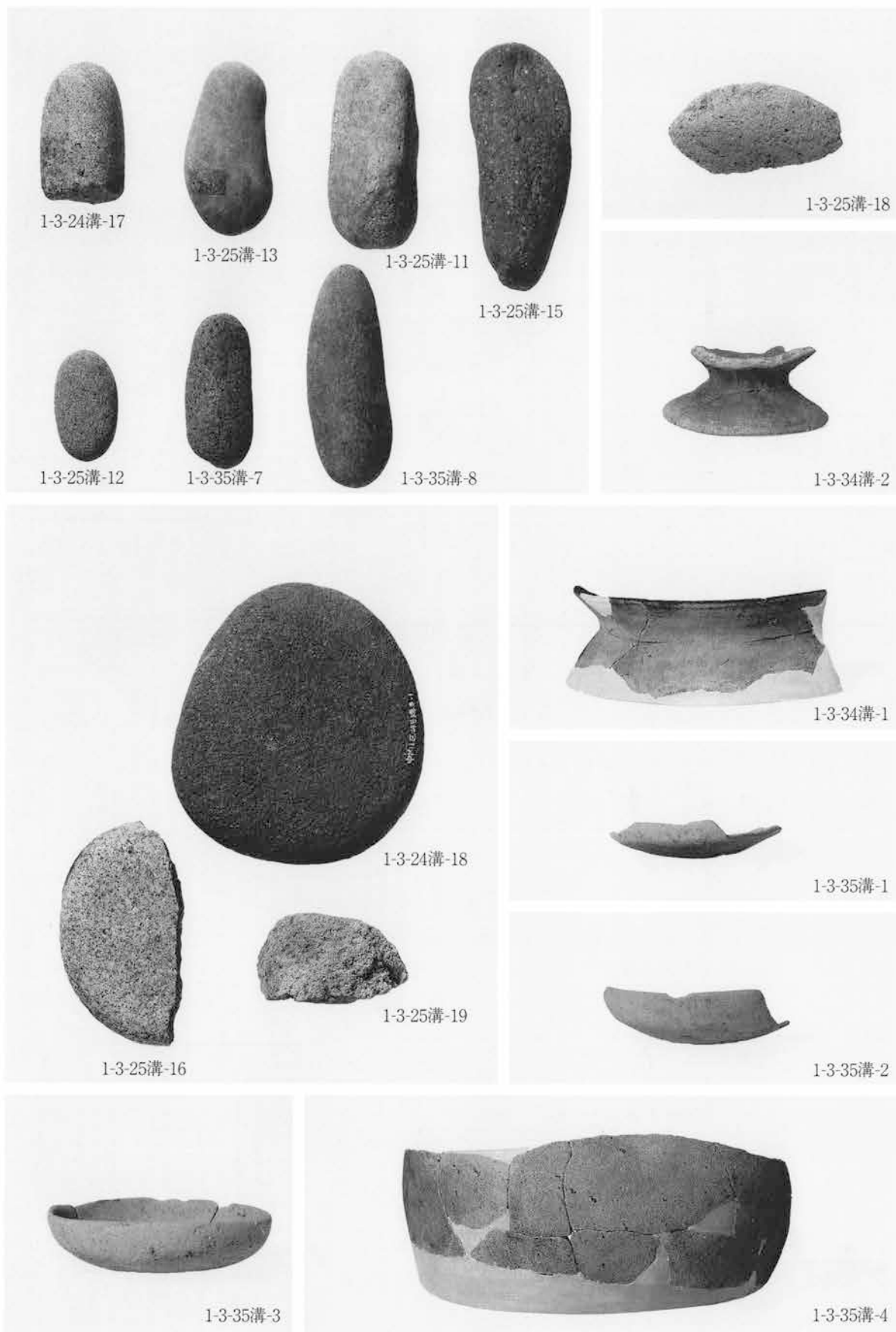


1-1-1井戸-3











1-3-35溝-5



1-3-109土坑-2



1-3-109土坑-1



1-3-8土坑-1



1-3-121土坑-1



1-3-75土坑-2



1-3-69土坑-1



1-3-73土坑-2



1-3-73土坑-1



1-3-77土坑-1



1-3-74土坑-1



1-3-75土坑-1



1-3-79土坑-1



1-3-79土坑-2



1-3-55土坑-1



1-3-68土坑-1



1-3-90土坑-1



1-3-116土坑-1



1-3-55土坑-2



1-3-116土坑-2



1-3-127土坑-3



1-3-127土坑-2



1-3-126土坑-1



1-3-127土坑-1



1-3-126土坑-2



1-3-130土坑-1



1-3-130土坑-2



1-3-旧河道-3



1-3-旧河道-2



1-3-旧河道-1



1-Q14グリッド-1



1-0-15グリッド-2



1-試掘-3



1-表採-6



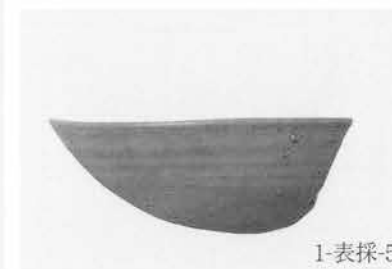
1-表採-4



1-表採-12



1-Q17グリッド-7



1-表採-5





2区1面 西部 04-000260-04



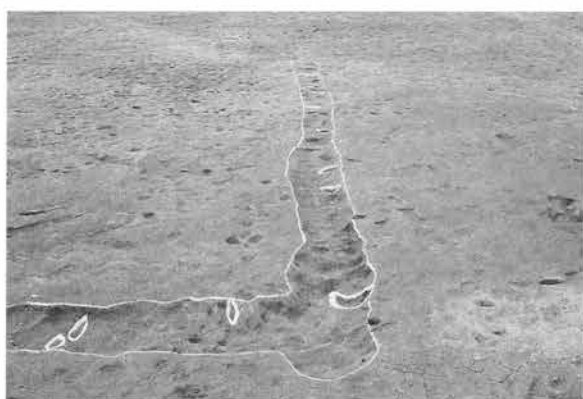
2区1面中・東部 04-000251-05



2-1-1号溝全景（北より）04-00036-08



2-1-2号溝全景（北より）04-00031-01



2-1-3号溝全景（東より）01-00029-15



2-1-3号溝鋤先痕 01-00029-28



2-1-4号溝全景 04-00040-08



2-1-5～7号溝全景（東より）01-00044-03



2-1-6・7号溝全景（西より）01-00030-23



2-1-8・9号溝全景（南東より）04-00040-05



2-1-9・10号溝全景（西より）01-00044-08



2-1-10号溝全景 04-00029-04



2-1-10号溝全景（南東より）04-00119-04



2-1-10・17号溝全景（南東より）04-00034-09



2-1-11号溝全景（西より）04-00024-01



2-1-12号溝全景 04-00043-02



2-1-15号溝全景（東より）04-00042-08



2-1-15号溝鋤先痕（東より）04-00119-07



2-1-15・16号溝全景（西より）04-00029-01



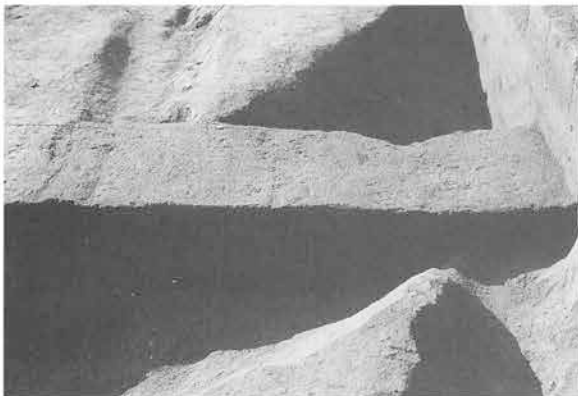
2-1-17号溝全景（北東より）04-00034-03



2-1-17号溝全景（西より）04-00034-10



2-1-18・19号溝全景 04-00034-06



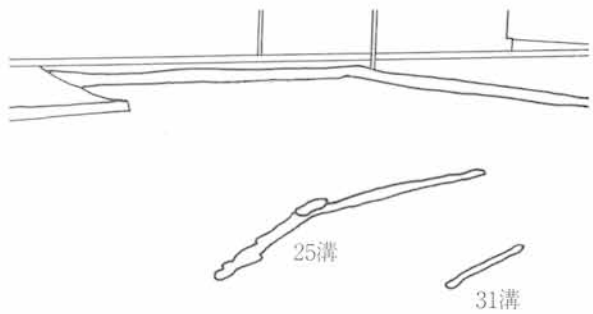
2-1-10・15・21号溝セクション（南西より）01-00112-14

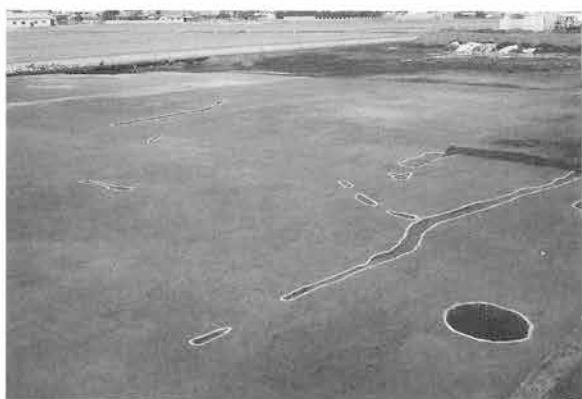


2-1-22号溝全景（南東より）04-00121-07

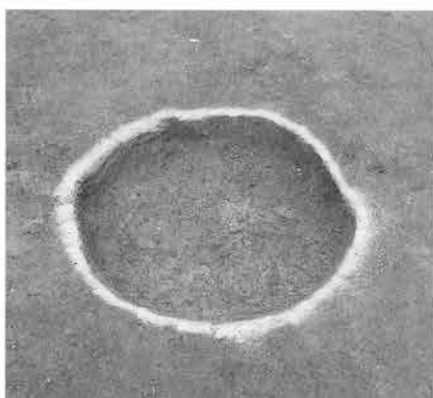
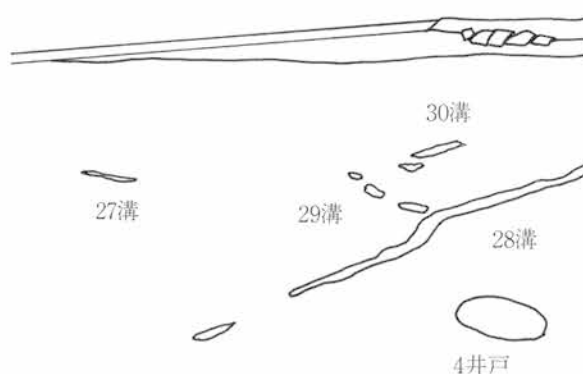


2-1-25・31号溝全景（北東より）04-00121-01

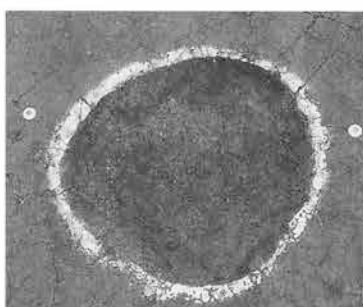




2-1-27~30号溝全景 (南西より) 04-00123-01



2-1-1号土坑全景 (南より) 04-00122-04



2-1-1号ピット全景 (南より)
01-00051-26



2-1-2号ピット全景 (南より)
01-00051-23



2-1-1・2号井戸全景 (南より) 04-00040-01



2-1-3号井戸全景 (東より) 04-00040-02



2-1-3号井戸全景 (南東より) 01-00059-02



2-1-4号井戸全景 (南より) 04-00122-07



2-1-As-B下水田水田面東端部（北より）04-00048-06



2-1-As-B下水田水田面東部（北より）04-00048-07



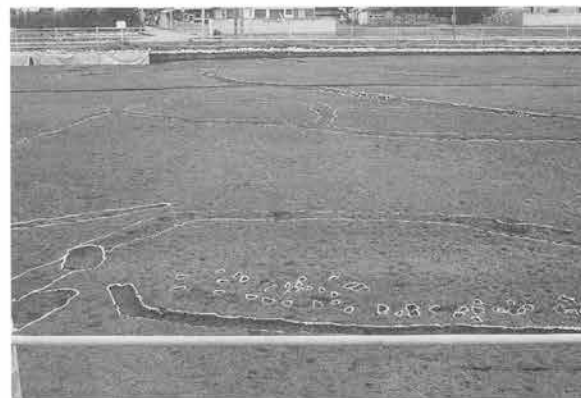
2-1-As-B下水田水田面中東部（北より）04-00048-08



2-1-As-B下水田水田面中部東（北より）04-00048-09



2-1-As-B下水田水田面中部西（北より）04-00048-10



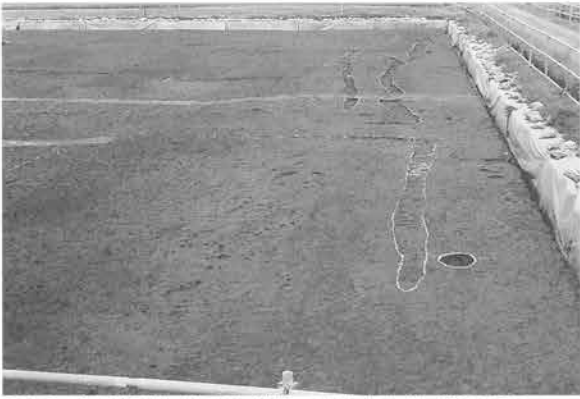
2-1-As-B下水田水田面中西部（北より）04-00049-01



2-1-As-B下水田水田面西部（北より）04-00049-02



2-1-As-B下水田水田面西端部（北より）04-00049-03



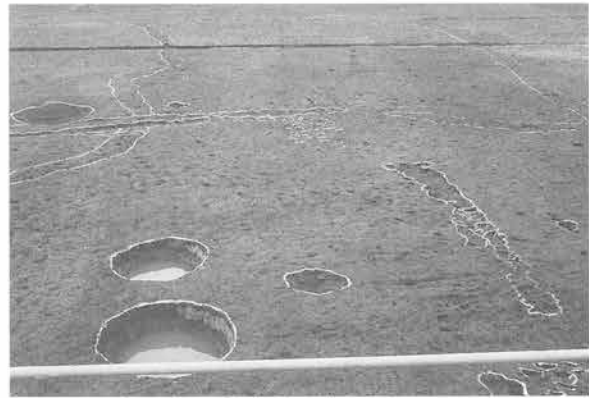
2-1-As-B下水田水田面北端部（南より）04-00047-07



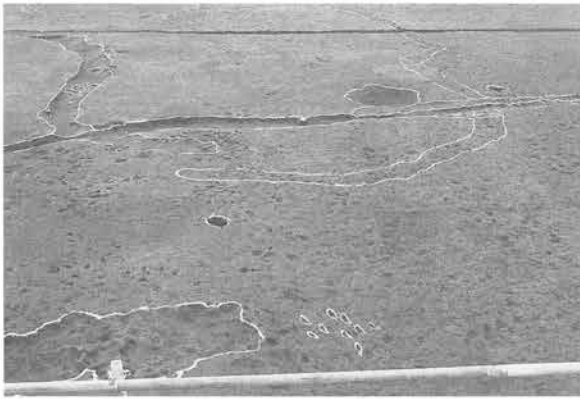
2-1-As-B下水田水田面北部（南より）04-00047-09



2-1-As-B下水田水田面中北部（南より）04-00047-08



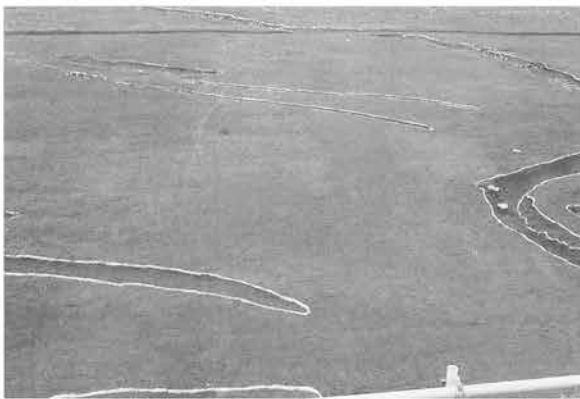
2-1-As-B下水田水田面中部北（南より）04-00047-10



2-1-As-B下水田水田面中部南（南より）04-00048-01



2-1-As-B下水田水田面中南部（南より）04-00048-02



2-1-As-B下水田水田面南部（南より）04-00048-03



2-1-As-B下水田水田面北東部（北東より）04-00033-10



2-1-As-B中東部東畦 (東より) 04-00026-03



2-1-As-B中東部東畦 04-00030-01



2-1-As-B中東部東畦 (東より) 04-00033-04



2-1-As-B中東部中央畦 (西より) 04-00026-01



2-1-As-B中東部中央畦 (南より) 04-00027-08



2-1-As-B中東部中央畦 (南より) 04-00026-09



2-1-As-B中東部中央畦 (北より) 04-00027-05



2-1-As-B中東部中央畦 (南より) 04-00032-04



2-1-As-B中東部畦（東より）04-00033-01



2-1-As-B中東部南東畦（北より）04-00050-04



-1-As-B中東部中畦南畦（東より）04-00039-09



2-1-As-B中東部北西畦（南東より）04-00035-01



2-1-As-B中東部北西畦（南より）04-00036-06



2-1-As-B中東部北西畦 04-00008-01



2-1-As-B中東部水口（南より）04-00031-04



2-1-As-B中東部北西水口（北より）04-0036-02



2-1-中東部中北鋤先痕 04-00042-04



2-1-中東部中南鋤先痕 04-00043-05



2-1-中東部中南鋤先痕 04-00044-07



2-1-中東部中南鋤先痕 04-00044-01



2区土層断面(北壁) 04-00101-01



2区土層断面(南壁) 04-00100-08



2区2面 西部 04-000263-05



2区2面 中・東部 04-000252-05



2-2-南部全景（西より）01-00076-08



2-2-中部全景（西より）04-00069-08



2-2-北部全景（西より）04-00069-01



2-2-北西部全景（東より）04-00070-01



2-2-中部全景（南より）04-00067-03



2-2-Hr-FA水田全景 04-00128-09



2-2-西部全景（南より）04-00127-07



2-2-中西部全景（南より）04-00127-10



2-2-1号溝全景（南より）04-00070-05



2-2-2号溝全景（南東より）04-00070-04



2-2-3号溝全景（南より）04-00070-07



2-2-4号溝全景（北東より）01-00078-17



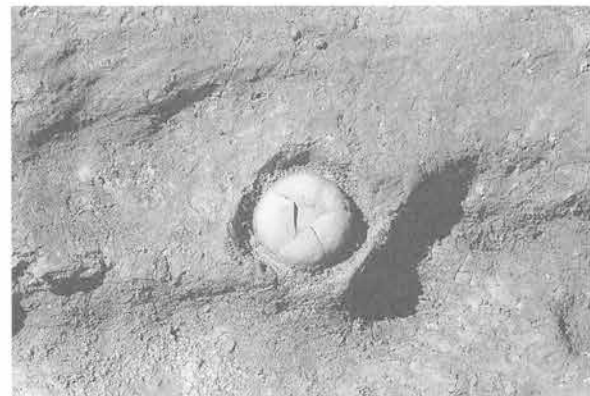
2-2-4号溝全景（南より）04-00070-09



2-2-5溝全景（南より）01-00078-22



2-2-5溝全景（北西より）04-00073-02



2-2-6号溝遺物出土状況 01-00073-01



2-2-6・7号溝全景（北より）01-00078-12



2-2-6・7号溝全景（南より）04-00071-01



2-2-6・7号溝セクション（南より）01-00068-34



2-2-7号溝全景（北西より）04-00068-04



2-2-7・8号溝全景（西より）04-00068-07



2-2-8号溝全景（西より）01-00076-27



2-2-9号溝全景（西より）04-00068-01



2-2-10号溝全景 04-00071-04



2-2-11号溝全景 (西より) 01-00077-32



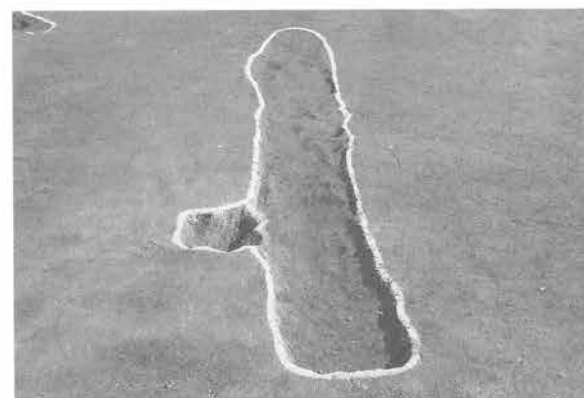
2-2-12号溝全景 (北より) 04-00129-02



2-2-12号溝全景 (南より) 04-00128-01



2-2-12~14号溝セクション (南より) 01-00118-13



2-2-15号溝全景 (西より) 04-00129-08



2-2-16~18号溝全景 (西より) 04-00129-05



2-2-16~18号溝全景 (東より) 04-00128-06



2-2-19・20号溝全景 (東より) 04-00128-03



2-2-全景（西より）04-00069-10



2-2-中部畦全景（南より）04-00066-06



2-2-中西部畦全景（東より）04-00067-04



2-2-北東部畦全景（南より）04-00067-07



2-2-南西部畦全景（西より）04-00067-01



2-2-中西部畦全景（西より）04-00066-08



2-2-中東部畦全景（西より）04-00066-09



2-2-Hr-FA下水田全景（東より）04-00066-01



2-2-6号土坑セクション（南より）01-00118-17



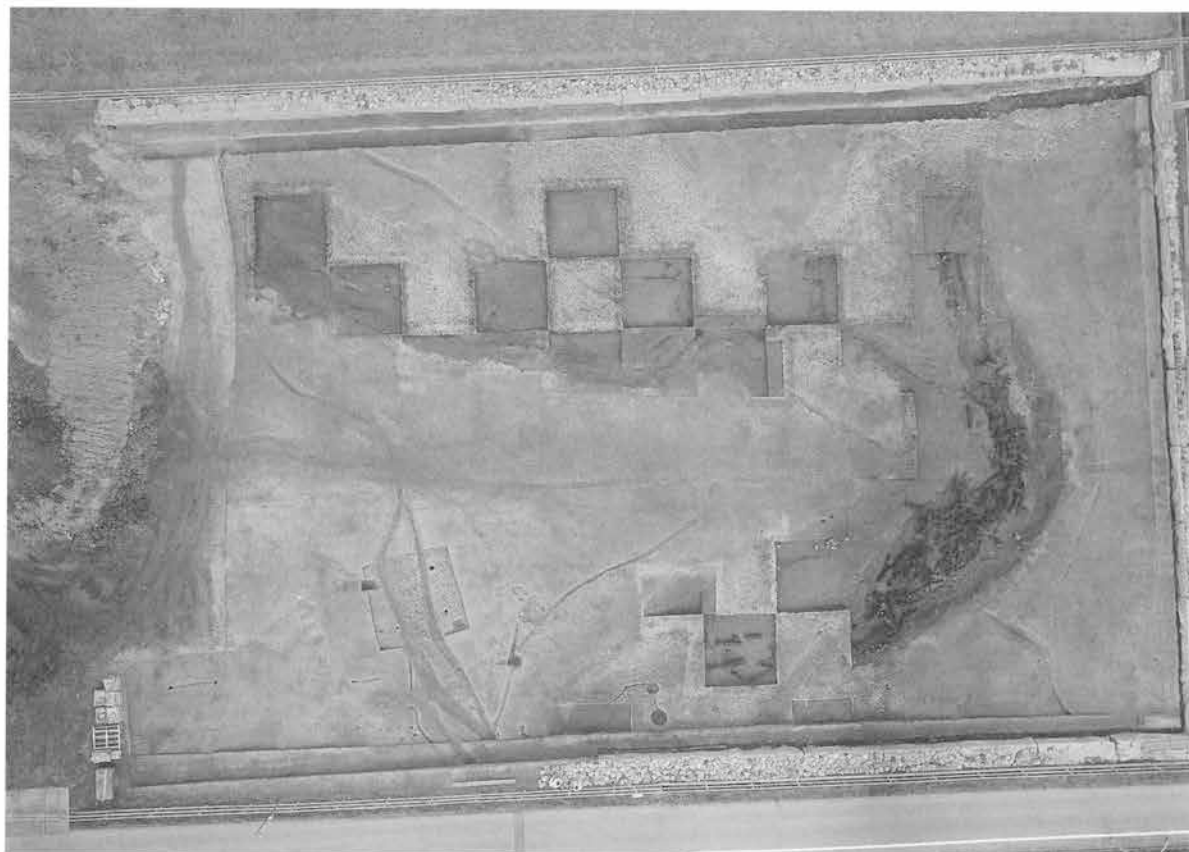
2-2-落ち込み遺物出土状況（東より）01-00070-06



2-2-調査風景01-00068-05



2-2-調査風景01-00068-06



2区3面04-000254-09



2区3面(東より) 04-000258-03



2-3-1号住居全景（南より）01-00072-04



2-3-1号住居灰出土状況（南より）01-00080-10



2-3-1号住居遺物出土状況01-00072-23



2-3-1号住居焼土出土状況（西より）01-00074-06



2-3-1号住居周溝西部（北より）04-00073-04



2-3-1号住居北東柱穴全景01-00065-04



2-3-1号住居掘り方全景（南より）01-00090-06



2-3-1号住居床下土坑全景（南より）01-00093-02



2-3-旧河道全景（西より）04-00092-07



2-3-旧河道東部セクション（南より）04-00092-01



2-3-旧河道北西部試掘グリッド（南東より）04-00086-09



2-3-旧河道南部試掘グリッド（東より）04-00084-08



2-3-旧河道東部（南より）04-00094-01



2-3-旧河道東部（南より）04-00093-01



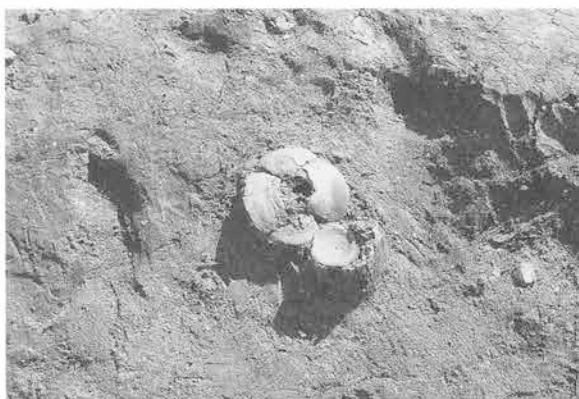
2-3-旧河道東部（南西より）04-00095-04



2-3-旧河道東部遺物出土状況04-00095-10



2-3-C-03グリット遺物出土状況04-00080-02



2-3-C-03グリット遺物出土状況04-00080-05



2-3-D-02グリット遺物出土状況04-00081-01



2-3-H-03グリット遺物出土状況04-00078-09



2-3-H-03グリット遺物出土状況01-00084-12



2-3-H-12グリット遺物出土状況04-00075-10



2-3-旧河道東部（南より）04-00099-04



2-3-旧河道東部（南より）04-00099-01



2-1-4溝-1



2-1-1井戸-3



2-1-23溝-1



2-1-1井戸-1



2-1-1井戸-2



2-1-2井戸-1



2-1-3井戸-1



2-1-1



2-1-3



2-1-4



2-1-2



2-2-17溝-1



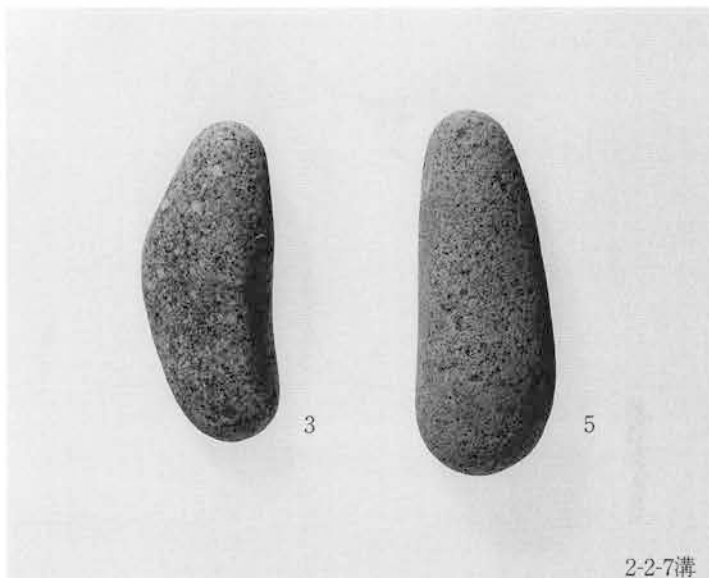
2-2-6溝-1



2-2-7溝-1



2-2-7溝-4



3

5

2-2-7溝



2-2-7溝-2



2-2-12溝-1



2-2-落ち込み-1



2-2-落ち込み-2





2-3-6



2-3-5



2-3-3



2-3-2



2-3-7



2-3-4



2-3-11



2-3-8



2-3-9



2-3-12



2-3-10



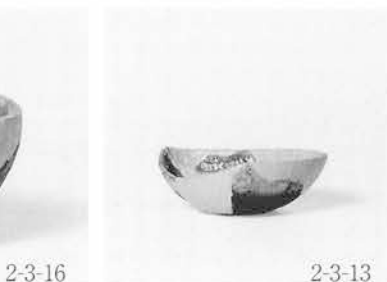
2-3-19



2-3-14



2-3-16



2-3-13



2-3-25



2-3-22



2-3-18



2-3-20



2-3-15



2-3-21



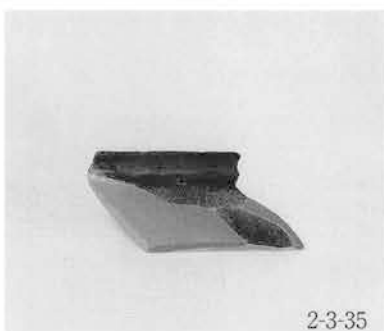
2-3-23



2-3-24



2-3-17







2-3-43



2-3-44



2-3-45



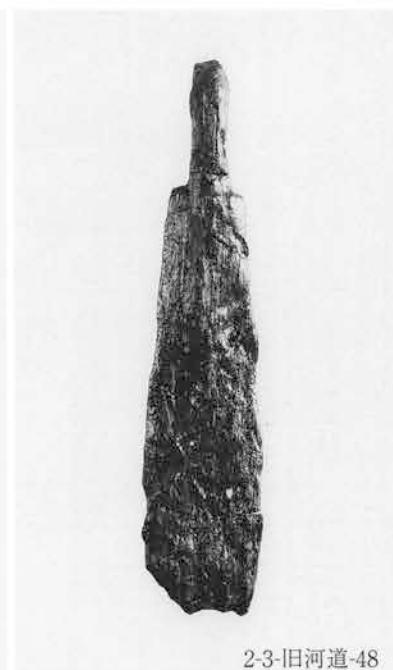
2-3-46

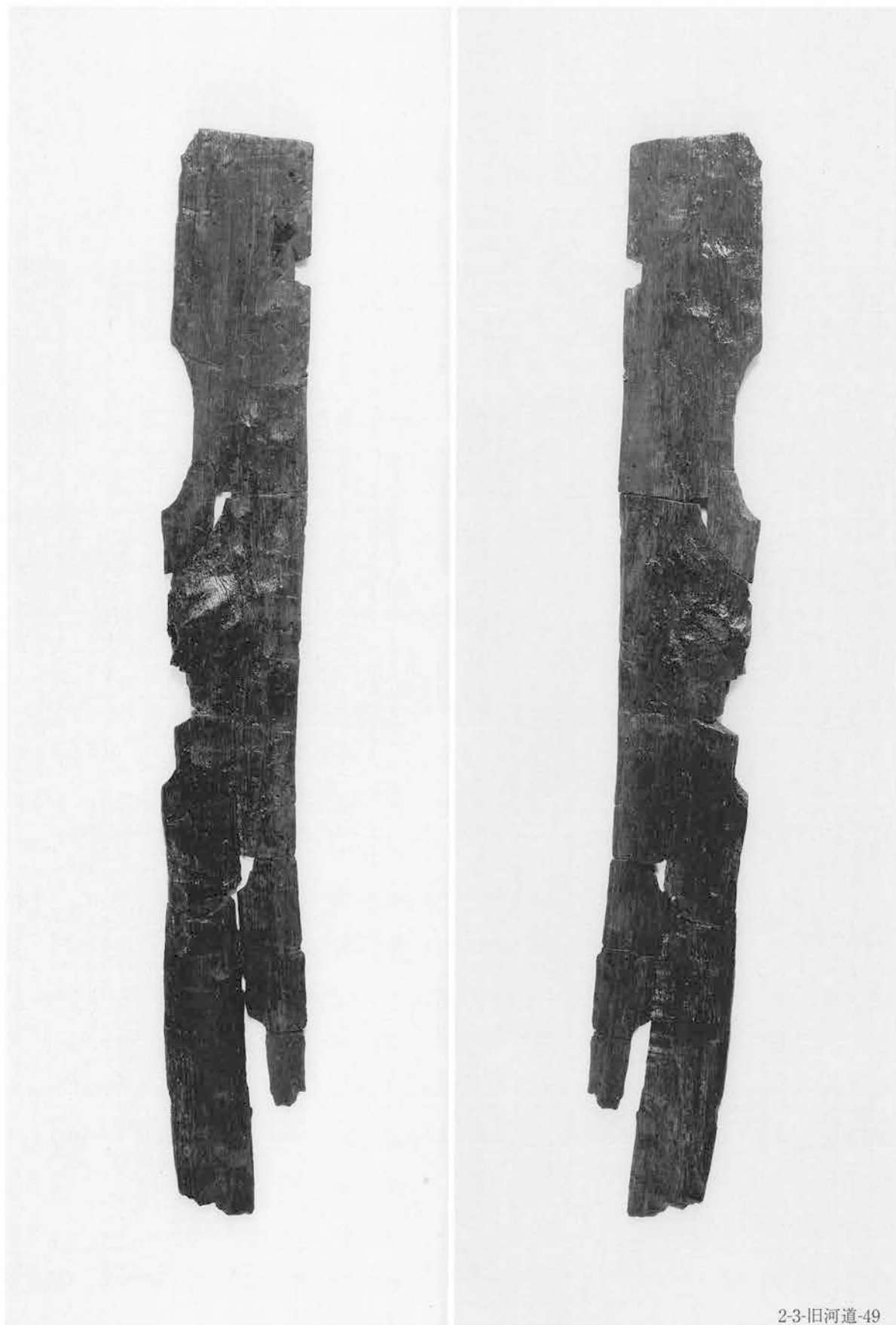


2-3-旧河道-50



2-3-旧河道-48







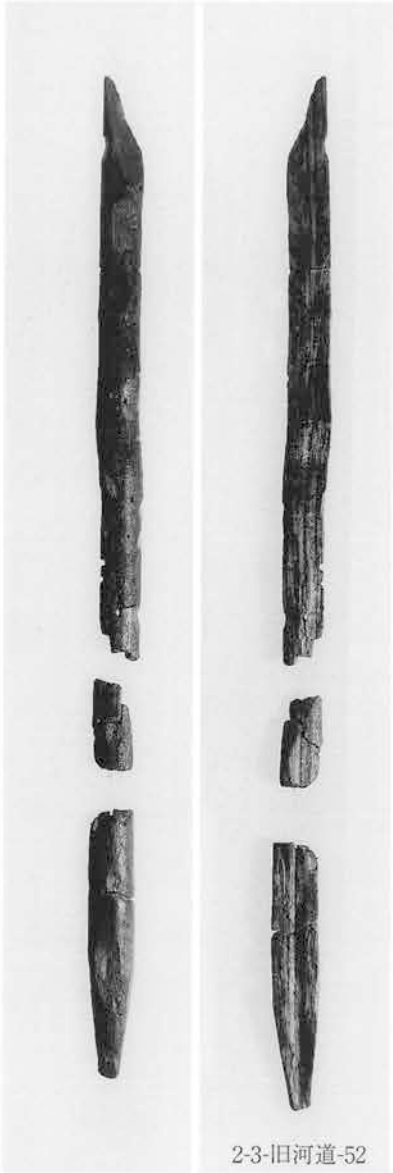
2-3-旧河道-47



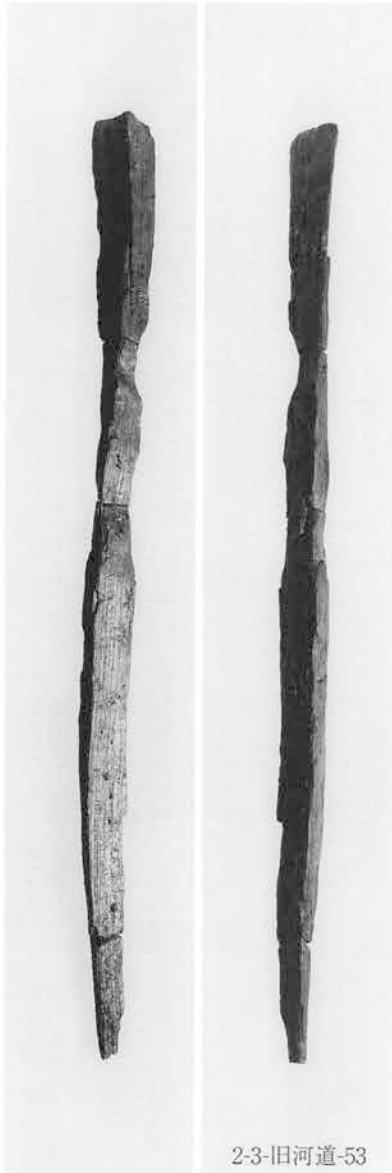
2-3-旧河道-61



2-3-旧河道-51



2-3-旧河道-52



2-3-旧河道-53



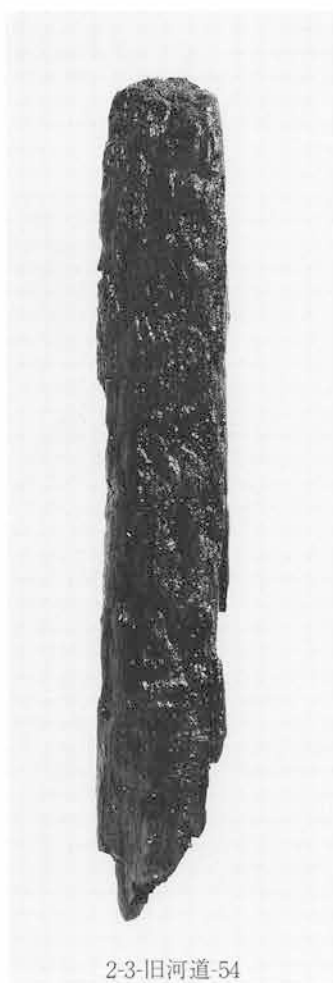
2-3-旧河道-56



2-3-旧河道-58



2-3-旧河道-62



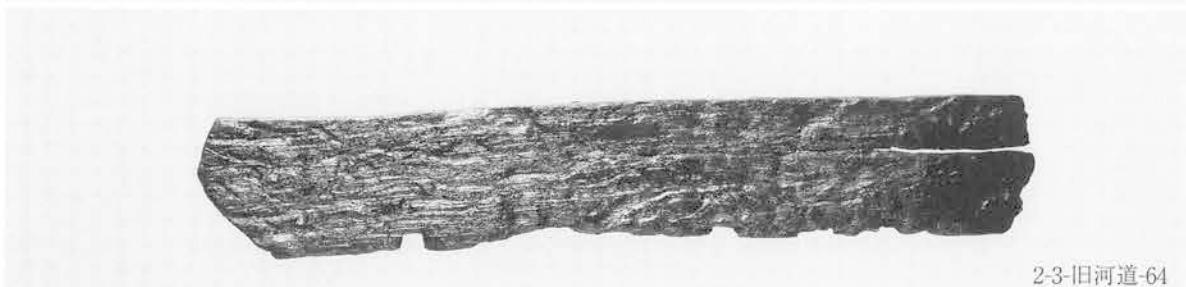
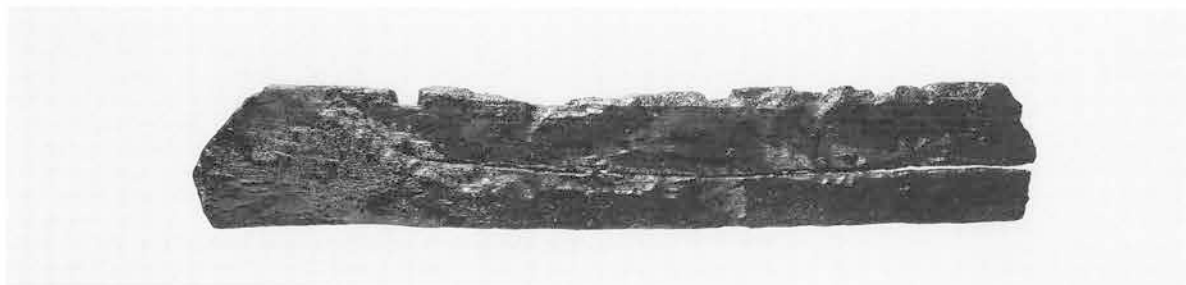
2-3-旧河道-54



2-3-旧河道-57



2-3-旧河道-59



2-3-旧河道-64



2-3-旧河道-65



2-3-旧河道-66



2-3-旧河道-55



2-3-旧河道-67



2-3-旧河道-60



2-3-旧河道-63



2-3-旧河道-69



2-3-73



2-3-グリッド-70



2-3-旧河道-68



2-3-旧河道-71

PL 60

